

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第6953371号

(P6953371)

(45) 発行日 令和3年10月27日 (2021. 10. 27)

(24) 登録日 令和3年10月1日 (2021. 10. 1)

(51) Int. Cl.

A 6 3 F 7/02 (2006. 01)

F 1

A 6 3 F 7/02 3 2 0

請求項の数 1 (全 364 頁)

(21) 出願番号 特願2018-154734 (P2018-154734)
 (22) 出願日 平成30年8月21日 (2018. 8. 21)
 (65) 公開番号 特開2020-28382 (P2020-28382A)
 (43) 公開日 令和2年2月27日 (2020. 2. 27)
 審査請求日 令和1年9月20日 (2019. 9. 20)

(73) 特許権者 000144153
 株式会社三共
 東京都渋谷区渋谷三丁目2 9 番 1 4 号
 (72) 発明者 小倉 敏男
 東京都渋谷区渋谷三丁目2 9 番 1 4 号 株
 式会社三共内

審査官 中村 祐一

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 遊技機

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

第1識別情報の可変表示および第2識別情報の可変表示を行うことが可能であり、遊技者にとって有利な有利状態と該有利状態とは異なる特殊状態とに制御可能な遊技機であって、

第1識別情報の可変表示と第2識別情報の可変表示とを並行して実行可能であるとともに、可変表示の表示結果を導出表示可能な可変表示実行手段と、

可変表示の表示結果として、前記有利状態に制御されることを示唆する特定表示結果が導出表示された後、特定領域を遊技媒体が通過したことにもとづいて、前記有利状態に制御可能な有利状態制御手段と、

前記特殊状態に制御可能な特殊状態制御手段と、

非特別状態よりも前記特殊状態による遊技価値が付与されやすい特別状態に制御可能な特別状態制御手段と、

特定信号を出力可能な特定信号出力手段と、

前記特定領域を遊技媒体が通過したことにもとづいて演出を実行可能な演出実行手段と

、

前記有利状態の種類を報知可能な特別表示手段と、

第1識別情報の可変表示または第2識別情報の可変表示に対応して演出識別情報の可変表示を実行可能であるとともに、前記可変表示実行手段により前記特定表示結果が導出表示されることに対応して演出特定表示結果を導出表示可能な演出可変表示実行手段と、を

備え、

前記有利状態の種類は、第1有利状態と、該第1有利状態よりも有利な第2有利状態と、を含み、

前記演出特定表示結果は、前記第1有利状態に制御されることを示唆する第1演出特定表示結果と、前記第2有利状態に制御されることを示唆する第2演出特定表示結果と、を含み、

前記特定信号出力手段は、

非特別状態において第1識別情報の可変表示の表示結果として前記特定表示結果が導出表示されたことにもとづいて前記特定信号を出力可能であり、

非特別状態において第2識別情報の可変表示の表示結果として前記特定表示結果が導出表示されたことにもとづいて前記特定信号を出力せず、

前記演出可変表示実行手段は、前記第2有利状態に制御される場合であっても演出識別情報の可変表示の表示結果として前記第1演出特定表示結果を導出表示可能であり、

前記演出実行手段は、前記第2有利状態に制御される場合において前記第1演出特定表示結果が導出表示された後、前記特定領域を遊技媒体が通過したことにもとづいて前記第2有利状態に制御されることを報知する所定報知演出を実行可能であり、

前記特別表示手段は、前記第2有利状態に制御される場合において、前記第1演出特定表示結果が導出表示されたとき前記有利状態の種類を報知せず、前記特定領域を遊技媒体が通過したことにもとづいて前記有利状態の種類を報知可能であり、

前記有利状態に制御される確率に関する設定値に応じた特定制御を実行可能な特定制御手段と、

前記設定値を設定可能な設定可能状態に制御可能な設定可能状態制御手段と、

をさらに備えることを特徴とする遊技機。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、遊技を行うことが可能なパチンコ遊技機等の遊技機に関する。

【背景技術】

【0002】

遊技機として、遊技媒体である遊技球を発射装置によって遊技領域に発射し、遊技領域に設けられている入賞口などの入賞領域に遊技球が入賞すると、所定の入賞価値を遊技者に与えるように構成されたものがある。さらに、識別情報を可変表示（「変動」ともいう。）可能な可変表示手段が設けられ、可変表示手段において識別情報の可変表示の表示結果が特定表示結果となった場合に、所定の遊技価値を遊技者に与えるように構成されたものがある（いわゆるパチンコ機）。

【0003】

なお、入賞価値とは、入賞領域への遊技球の入賞に応じて賞球を払い出したり得点や景品を付与したりすることである。また、遊技価値とは、特定表示結果となった場合に遊技機の遊技領域に設けられた可変入賞球装置の状態が打球が入賞しやすい遊技者にとって有利な状態になることや、遊技者にとって有利な状態になるための権利を発生させたりすることや、賞球払出の条件が成立しやすくなる状態になることである。

【0004】

パチンコ遊技機では、始動入賞口に遊技球が入賞したことにもとづいて可変表示手段において開始される特別図柄（識別情報）の可変表示の表示結果として、あらかじめ定められた特定の表示態様が導出表示された場合に、「大当たり（有利状態）」が発生する。なお、導出表示とは、図柄を停止表示させることである。大当たりが発生すると、例えば、大入賞口が所定回数開放して打球が入賞しやすい大当たり遊技状態に移行する。そして、各開放期間において、所定個（例えば10個）の大入賞口への入賞があると大入賞口は閉成する。そして、大入賞口の開放回数は、所定回数（例えば16ラウンド）に固定されている。なお、各開放について開放時間（例えば29秒）が決められ、入賞数が所定個に達しなく

ても開放時間が経過すると大入賞口は閉成する。以下、各々の大入賞口の開放期間をラウンドということがある。

【０００５】

そのような遊技機において、特定信号を出力可能に構成されたものがある。例えば、特許文献１には、全ての大当たり状態中に大当たり信号（特定信号）を外部出力端子から出力することが記載されている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【０００６】

【特許文献１】特開２０１４－２００５０６号公報（段落００６４）

10

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【０００７】

しかしながら、特許文献１に記載された遊技機では、通常状態であるか特別状態であるかや、第１識別情報の可変表示により所定条件が成立する場合であるか第２識別情報の可変表示により所定条件が成立する場合であるかについては何ら考慮されていない。従って、通常状態において第２識別情報の可変表示により所定条件が成立する場合に適切に信号を出力できるようにする必要がある。

【０００８】

そこで、本発明は、第２識別情報の可変表示により所定条件が成立する場合に適切に信号を出力できる遊技機を提供することを目的とする。

20

【課題を解決するための手段】

【０００９】

（手段０）本発明による遊技機は、第１識別情報（例えば、第１特別図柄）の可変表示および第２識別情報（例えば、第２特別図柄）の可変表示を行うことが可能であり、遊技者にとって有利な有利状態（例えば、大当たり遊技状態）と該有利状態とは異なる特殊状態（例えば、小当たり遊技状態）とに制御可能な遊技機であって、第１識別情報の可変表示と第２識別情報の可変表示とを並行して実行可能であるとともに、可変表示の表示結果を導出表示可能な可変表示実行手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ１００における第１特別図柄プロセス処理（ステップＳ２５Ａ）のステップＳ１１０Ａ～Ｓ１１３Ａを実行する部分、第２特別図柄プロセス処理（ステップＳ２５Ｂ）でステップＳ１１０Ａ～Ｓ１１３Ａと同様の処理を実行する部分）と、可変表示の表示結果として、有利状態に制御されることを示唆する特定表示結果が導出表示された後、特定領域（例えば、通過ゲート４１）を遊技媒体（例えば、遊技球）が通過したことにもとづいて、有利状態に制御可能な有利状態制御手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ１００における第１特別図柄プロセス処理（ステップＳ２５Ａ）のステップＳ１１５Ａ～Ｓ１１８Ａを実行する部分、第２特別図柄プロセス処理（ステップＳ２５Ｂ）でステップＳ１１５Ａ～Ｓ１１８Ａと同様の処理を実行する部分）と、特殊状態に制御可能な特殊状態制御手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ１００における第１特別図柄プロセス処理（ステップＳ２５Ａ）のステップＳ１１９Ａ～Ｓ１２１Ａを実行する部分、第２特別図柄プロセス処理（ステップＳ２５Ｂ）でステップＳ１１９Ａ～Ｓ１２１Ａと同様の処理を実行する部分）と、非特別状態よりも特殊状態による遊技価値が付与されやすい特別状態（例えば、ＫＴ状態）に制御可能な特別状態制御手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ１００におけるステップ１３８ＩＷＳ２２０８Ａ，Ｓ２２１３Ａ，Ｓ２２１４Ａ，Ｓ２２１９Ａ，Ｓ２２２０Ａ，Ｓ２２０８Ｂ，Ｓ２２１３Ｂ，Ｓ２２１４Ｂ，Ｓ２２１９Ｂ，Ｓ２２２０Ｂを実行する部分）と、特定信号（例えば、大当たり信号１）を出力可能な特定信号出力手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ１００におけるステップＳ２３およびステップ１３８ＩＷＳ２０２２Ａ，Ｓ２０２２Ｂ，Ｓ２５０３Ｂを実行する部分）と、特定領域を遊技媒体が通過したことにもとづいて演出を実行可能な演出実行手段と、有利状態の種類を報知可能な特別表示手段と、第１識別情報の可変表示または第２識別情報の可変表

30

40

50

示に対応して演出識別情報の可変表示を実行可能であるとともに、可変表示実行手段により特定表示結果が導出表示されることに対応して演出特定表示結果を導出表示可能な演出可変表示実行手段と、を備え、有利状態の種類は、第1有利状態と、該第1有利状態よりも有利な第2有利状態と、を含み、演出特定表示結果は、第1有利状態に制御されることを示唆する第1演出特定表示結果と、第2有利状態に制御されることを示唆する第2演出特定表示結果と、を含み、特定信号出力手段は、非特別状態において第1識別情報の可変表示の表示結果として特定表示結果が導出表示されたことにもとづいて特定信号を出力可能であり（例えば、図8-22（1）に示すように、通常状態では、第1特別図柄で大当り図柄を導出表示したことにもとづいて大当り信号1の外部出力を開始する）、非特別状態において第2識別情報の可変表示の表示結果として特定表示結果が導出表示されたことにもとづいて特定信号を出力せず（例えば、図8-22（1）に示すように、通常状態では、第2特別図柄で大当り図柄を導出表示しても大当り信号1の外部出力を開始しない）、演出可変表示実行手段は、第2有利状態に制御される場合であっても演出識別情報の可変表示の表示結果として第1演出特定表示結果を導出表示可能であり、演出実行手段は、第2有利状態に制御される場合において第1演出特定表示結果が導出表示された後、特定領域を遊技媒体が通過したことにもとづいて第2有利状態に制御されることを報知する所定報知演出を実行可能であり、特別表示手段は、第2有利状態に制御される場合において、第1演出特定表示結果が導出表示されたとき有利状態の種類を報知せず、特定領域を遊技媒体が通過したことにもとづいて有利状態の種類を報知可能であり、有利状態に制御される確率に関する設定値（大当り判定用乱数の範囲が異なる設定値1～6）に応じた特定

（手段1）本願の他の遊技機は、第1識別情報（例えば、第1特別図柄）の可変表示および第2識別情報（例えば、第2特別図柄）の可変表示を行うことが可能であり、遊技者にとって有利な有利状態（例えば、大当り遊技状態）と該有利状態とは異なる特殊状態（例えば、小当り遊技状態）とに制御可能な遊技機であって、第1識別情報の可変表示と第2識別情報の可変表示とを並行して実行可能な可変表示実行手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100における第1特別図柄プロセス処理（ステップS25A）のステップS110A～S113Aを実行する部分、第2特別図柄プロセス処理（ステップS25B）でステップS110A～S113Aと同様の処理を実行する部分）と、所定条件（例えば、大当り図柄を導出表示）が成立した後、特定領域（例えば、通過ゲート41）を遊技媒体（例えば、遊技球）が通過したことにもとづいて、有利状態に制御可能な有利状態制御手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100における第1特別図柄プロセス処理（ステップS25A）のステップS115A～S118Aを実行する部分、第2特別図柄プロセス処理（ステップS25B）でステップS115A～S118Aと同様の処理を実行する部分）と、特殊状態に制御可能な特殊状態制御手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100における第1特別図柄プロセス処理（ステップS25A）のステップS119A～S121Aを実行する部分、第2特別図柄プロセス処理（ステップS25B）でステップS119A～S121Aと同様の処理を実行する部分）と、通常状態よりも特殊状態による遊技価値が付与されやすい特別状態（例えば、KT状態）に制御可能な特別状態制御手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100におけるステップ138 IWS2208A, S2213A, S2214A, S2219A, S2220A, S2208B, S2213B, S2214B, S2219B, S2220Bを実行する部分）と、特定信号（例えば、大当り信号1）を出力可能な特定信号出力手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100におけるステップS23およびステップ138 IWS2022A, S2022B, S2503Bを実行する部分）とを備え、特定信号出力手段は、通常状態において第1識別情報の可変表示により所定条件が成立したことにも

10

20

30

40

50

とづいて特定信号を出力可能であり（例えば、図８－２２（１）に示すように、通常状態では、第１特別図柄で大当たり図柄を導出表示したことにもとづいて大当たり信号１の外部出力を開始する）、通常状態において第２識別情報の可変表示により所定条件が成立したことにもとづいて特定信号を出力しない（例えば、図８－２２（１）に示すように、通常状態では、第２特別図柄で大当たり図柄を導出表示しても大当たり信号１の外部出力を開始しない）ことを特徴とする。そのような構成によれば、第２識別情報の可変表示により所定条件が成立する場合に適切に信号を出力することができる。さらに、前記有利状態に制御されることを示唆する示唆演出（例えばリーチ演出）を実行可能な示唆演出実行手段（例えば演出制御用ＣＰＵ１２０）と、前記示唆演出に対応したタイトルを報知可能なタイトル報知手段（例えば演出制御用ＣＰＵ１２０）と、を備え、前記タイトル報知手段は、前記示唆演出の開始から所定期間経過したときに当該示唆演出に対応したタイトルを報知可能である（例えば図９－２（Ｄ）、（Ｆ））。このような構成によれば、演出効果を高めることができる。

10

【００１０】

（手段２）手段１において、特定信号は、有利状態への制御を特定可能な信号（例えば、大当たり信号１）であり、特定信号出力手段は、通常状態において第２識別情報の可変表示により所定条件が成立した場合に、特定領域を遊技媒体が通過したことにもとづいて特定信号を出力可能である（例えば、図８－２２（１）に示すように、通常状態では、第２特別図柄で大当たり図柄を導出表示した場合、通過ゲート４１の遊技球の通過にもとづいて大当たり信号１の外部出力を開始する）ように構成されていてもよい。そのような構成によれば、遊技機の外部において有利状態に制御されていることを特定することができる。

20

【００１１】

（手段３）手段１または手段２において、特別状態および有利状態に対応する特別信号（例えば、大当たり信号２）を出力可能な特別信号出力手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ１００におけるステップＳ２３およびステップ１３８ＩＷＳ２０２２Ａ，Ｓ２５０３Ｂを実行する部分）を備え、特別信号出力手段は、特定信号とは異なる出力端子を用いて特別信号を出力可能であり（例えば、図８－２１に示すように、大当たり信号１は端子番号「０５」の出力端子から外部出力し、大当たり信号２は端子番号「０６」の出力端子から外部出力する）、特定信号の出力開始のタイミングと共通のタイミングにおいて特別信号の出力を開始する（例えば、図８－２２に示すように、通常状態において、大当たり信号１と同様に、第１特別図柄で大当たり図柄を導出表示したことにもとづいて大当たり信号２の外部出力を開始し、第２特別図柄で大当たり図柄を導出表示した場合には、通過ゲート４１の遊技球の通過にもとづいて大当たり信号２の外部出力を開始する）ように構成されていてもよい。そのような構成によれば、適切に特別信号を出力することができる。

30

【００１２】

（手段４）手段１から手段３のうちのいずれかにおいて、有利状態において遊技媒体が進入可能な第１領域（例えば、大入賞口）と、特殊状態において遊技媒体が進入可能な第２領域（例えば、特殊入賞口）と、第２領域に遊技媒体が進入したことに対応する特殊信号（例えば、特殊入賞口入賞信号）を出力可能な特殊信号出力手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ１００におけるステップＳ２３を実行する部分）とを備え、特殊信号出力手段は、特定信号とは異なる出力端子を用いて特殊信号を出力可能である（例えば、図８－２１に示すように、大当たり信号１は端子番号「０５」の出力端子から外部出力し、特殊入賞口入賞信号は端子番号「０７」の出力端子から外部出力する）ように構成されていてもよい。そのような構成によれば、第２領域への遊技媒体の進入状況を外部で監視することができる。

40

【００１３】

（手段５）手段１から手段４のうちのいずれかにおいて、特定信号出力手段は、第１識別情報の可変表示により所定条件が成立した場合、および特別状態において第２識別情報の可変表示により所定条件が成立した場合に、特定領域を遊技媒体が通過したか否かにかかわらず、特定信号を出力可能である（例えば、図８－２２（１），（２）に示すように、

50

第1特別図柄で大当たり図柄が導出表示された場合には、その大当たり図柄が導出表示されたタイミングで大当たり信号1の外部出力を開始し、図8-22(2)に示すように、KT状態において第2特別図柄で大当たり図柄が導出表示された場合には、その大当たり図柄が導出表示されたタイミングで大当たり信号1の外部出力を開始する)ように構成されていてもよい。そのような構成によれば、遊技中の状態に対応した信号出力を行うことができる。

【0014】

また、後述する発明を実施するための形態には、以下の手段に係る発明が含まれる。従来より遊技機において特開2016-101428号公報に示されているような、リーチ演出の開始時に、リーチ演出の種類を報知するタイトル表示を行う遊技機が提案されている。しかし、演出効果を高めることが望まれる。

10

【0015】

上記目的を達成するため、別態様による手段J1に係る遊技機は、

遊技者にとって有利な有利状態(例えば大当たり遊技状態)に制御可能な遊技機(例えばパチンコ遊技機1)であって、

前記有利状態に制御されることを示唆する示唆演出(例えばリーチ演出)を実行可能な示唆演出実行手段(例えば演出制御用CPU120)と、

前記示唆演出に対応したタイトルを報知可能なタイトル報知手段(例えば演出制御用CPU120)と、を備え、

前記タイトル報知手段は、前記示唆演出の開始から所定期間経過したときに当該示唆演出に対応したタイトルを報知可能である(例えば図8-2(D)、(F))。

20

このような構成によれば、演出効果を高めることができる。

【0016】

手段J2の遊技機は、手段J1の遊技機において、

前記示唆演出実行手段は、複数種類の前記示唆演出を実行可能であって、

複数種類の前記示唆演出において、前記所定期間内の演出の少なくとも一部は共通の態様で実行可能であるようにしてもよい(例えば図8-2(C))。

このような構成によれば、いずれの示唆演出が実行されるかに注目させることができ、興味が向上する。

【0017】

手段J3の遊技機は、手段J1または手段J2の遊技機において、

30

前記示唆演出実行中の複数の実行タイミングにおいて、前記有利状態に制御されることを示唆する特定演出(例えば発展演出や予告演出)を実行可能であり、

前記所定期間中には前記特定演出の実行タイミングが設けられないようにしてもよい。

このような構成によれば、タイトルの報知後も遊技者の期待感を維持することができる。

【0018】

手段J4の遊技機は、手段J1から手段J3のいずれかの遊技機において、

前記示唆演出実行手段は、前記示唆演出として少なくとも第1示唆演出(例えばスーパーリーチAやスーパーリーチBのリーチ演出)と第2示唆演出(例えばスーパーリーチDやスーパーリーチEのリーチ演出)とを実行可能であり、

40

前記タイトル報知手段は、前記第2示唆演出では、当該第2示唆演出の開始時から当該第2示唆演出に対応したタイトルを報知するようにしてもよい。

このような構成によれば、示唆演出に応じたタイトルの報知を実行できるので演出効果が向上する。

【0019】

手段J5の遊技機は、手段J4の遊技機において、

前記第2示唆演出が実行された場合よりも前記第1示唆演出が実行された場合の方が前記有利状態に制御される割合が高いようにしてもよい。

このような構成によれば、演出効果が向上する。

【0020】

50

手段 J 6 の遊技機は、手段 J 1 から手段 J 5 のいずれかの遊技機において、
前記示唆演出実行手段は、前記所定期間において報知されるタイトルに関連する演出態
様で前記示唆演出を実行可能であるようにしてもよい。

このような構成によれば、演出効果が向上する。

【0021】

手段 J 7 の遊技機は、手段 J 1 から手段 J 6 のいずれかの遊技機において、
遊技者の動作を検出可能な検出手段（例えばスティックコントローラ 3 1 A やプッシュ
ボタン 3 1 B）と、

前記検出手段に対応した特定表示（例えば小ボタン画像 3 1 A K 0 4 3、大ボタン画像
3 1 A K 0 4 7、スティック画像 3 1 A K 0 5 1）を行う特定表示実行手段（例えば演出
制御用 CPU 1 2 0）と、をさらに備え、

前記特定表示実行手段は、

前記特定表示として、第 1 特定表示（例えば小ボタン画像 3 1 A K 0 4 3）と、前記第
1 特定表示よりも遊技者にとって有利度が高い第 2 特定表示（例えば、大ボタン画像 3 1
A K 0 4 7、スティック画像 3 1 A K 0 5 1）を表示可能であり、

前記検出手段による検出の有効期間において、前記第 1 特定表示を表示した後に当該
第 1 特定表示を前記第 2 特定表示に変化させ（例えば図 8 - 1 0（E）、図 8 - 1 1（I））、

前記検出手段による検出の有効期間において、変化後の前記第 2 特定表示を用いた動作
演出が実行されるようにしてもよい（例えば図 8 - 1 1（J）、（K））。

このような構成によれば、演出効果が向上する。

【0022】

手段 J 8 の遊技機は、手段 J 1 から手段 J 7 のいずれかの遊技機において、

前記有利状態への制御の期待度を示唆する示唆表示として、表示サイズが第 1 サイズで
ある第 1 示唆表示（図 8 - 1 2（a）に示すシャッター演出時に表示する第 1 サイズのシャ
ッター画像 3 1 A K 0 6 1 による表示等）と、表示サイズが第 2 サイズである第 2 示唆
表示（図 8 - 1 2（d）に示すリーチタイトル演出時に表示する第 2 サイズのリーチタイ
トル画像 3 1 A K 0 6 2 等）とを表示可能な表示手段（例えば画像表示装置 5、演出制御
用 CPU 1 2 0）をさらに備え、

前記表示手段は、

態様の異なる複数種類の要素（図 8 - 1 2（a）、（d）に示す要素 E 1（バナナ）、
要素 E 2（メロン）、要素 E 3（リンゴ）、要素 E 4（スイカ）、要素 E 5（イチゴ）等
）を含んで構成された特定画像（図 8 - 1 2（a）、（d）に示すフルーツ柄等）を表示
可能であり、

前記特定画像を含むパターンにて前記第 1 示唆表示および前記第 2 示唆表示のいずれを
表示するときにも、複数種類の要素が前記第 1 示唆表示および前記第 2 示唆表示のいずれ
にも含まれるように表示する（図 8 - 1 2（a）、（d）に示すシャッター画像 3 1 A K
0 6 1、リーチタイトル画像 3 1 A K 0 6 2 のいずれにも要素 E 1～E 5 が含まれるよう
に表示する等）ようにしてもよい。

このような構成によれば、示唆表示の表示サイズに関わらず特定画像を好適に表示する
ことができる。これにより、特定画像が表示されたことを正確に伝えることができる。

【0023】

また、特開 2 0 1 0 - 2 0 0 9 0 2 号公報（段落 0 0 0 7）に示すように、複数段階の
設定値を外部からの設定変更操作に基づいて変更する設定変更手段を備える遊技機が提案
されている。特開 2 0 1 0 - 2 0 0 9 0 2 号公報（段落 0 0 0 7）に記載されたような遊
技機では、設定値を変更するとき、遊技媒体の付与に関する制御を適切に実行する必要
がある。手段 A 1～手段 A 9 に係る発明は、上記の実状に鑑みてなされたものであり、遊
技媒体の付与に関する制御を適切に実行する遊技機を提供することにある。

【0024】

手段 A 1 の遊技機は、

有価価値（プリペイド残額、持玉、貯玉等）に関する処理（プリペイド残額を消費する球貸、持玉を消費する球貸、貯玉を消費する球貸等に関連した処理）を実行可能な遊技用装置（カードユニット21TM050）から出力される信号（VL信号、BRDY信号、BRQ信号等）を受信可能な遊技機（パチンコ遊技機1）であって、

前記遊技用装置から出力される信号に基づいて遊技媒体を付与する付与手段（払出モータ21TM289を制御する払出制御用マイクロコンピュータ21TM370）と、

設定値（大当たり判定用乱数の範囲が異なる設定値1～6）に応じた特定制御（特別図柄プロセス処理における大当たり判定処理等）を実行可能な特定制御手段（ステップS21TM1690等の処理を実行する遊技制御用マイクロコンピュータ100）と、

前記設定値を変更可能な設定変更モードに制御可能な設定変更モード制御手段（ステップS21TM1130～ステップS21TM1200を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ100）と、

を備え、

前記設定変更モードに制御されているときに、前記遊技用装置から出力される信号に基づく遊技媒体の付与が制限される（1．設定変更モードに制御されているときに遊技制御用マイクロコンピュータ100が接続確認信号をオンとしない（払出制御基板21TM037に出力しない）、2．設定変更モードに制御されているときに遊技制御用マイクロコンピュータ100が接続確認コマンドを送信しないことにより、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370がPRDY信号をオンとしない、3．遊技機枠開放センサにより遊技機用枠3が開放状態となっていることを検出しているときには、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370がPRDY信号をオンとしない、4．設定変更モードに制御されているときに遊技制御用マイクロコンピュータ100が接続確認コマンドを送信しないことにより（払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が接続確認コマンドを受信しないことにより）、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370がBRQ信号のオンを検出しても、EXS信号をオンとしない。）

ことを特徴とする。

これによれば、設定変更モードに制御されているときに、遊技媒体の付与に関して適切な制御を実行可能である。

例えば、図11-12及び図11-13に示すように、電源スイッチ21TM055が操作されて動作電圧が主基板11に供給されたときに、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、錠スイッチ21TM051がON状態であり、且つ、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052がON状態であることに基づいて、設定値を変更可能な設定変更モードに制御する。設定変更モードに制御されている期間は、ステップS21TM1480のシリアル通信回路設定処理が実行されていないことにより、接続確認信号が払出制御基板21TM037に出力されておらず、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、球貸を実行しない。

【0025】

手段A2の遊技機は、

手段A1の遊技機であって、

前記特定制御手段と前記設定変更モード制御手段とを有し、前記遊技機における遊技の進行を制御する遊技制御手段（遊技制御用タイマ割込処理を実行する遊技制御用マイクロコンピュータ100）を備え、

前記遊技制御手段は、前記設定値を確認可能な設定確認モードに制御可能な設定確認モード制御手段（ステップS21TM1210～ステップS21TM1240を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ100）を有し、

前記付与手段（払出制御用マイクロコンピュータ21TM370）は、前記遊技制御手段から特別信号（接続確認信号）が入力されたときに遊技媒体の付与が可能であり、

前記遊技制御手段は、前記設定変更モード及び前記設定確認モードの何れかに制御されているときには、前記特別信号を出力しない（接続確認信号を出力するステップS21TM1480のシリアル通信回路設定処理は、設定変更モードの終了後、設定確認モードの

10

20

30

40

50

終了後、に実行される)、
ことを特徴とする。

これによれば、設定変更モード及び設定確認モードの何れかに制御されているときに、遊技媒体を付与しないようにすることができる。

【0026】

手段A3の遊技機は、

手段A1の遊技機であって、

前記設定値を確認可能な設定確認モードに制御可能な設定確認モード制御手段（ステップS21TM1210～ステップS21TM1240を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ100）を備え、

10

前記付与手段（払出制御用マイクロコンピュータ21TM370）は、前記遊技用装置に対して第1所定信号（PRDY信号）を出力し、前記第1所定信号が入力されていることに基づいて前記遊技用装置から出力される第2所定信号（BRDY信号）が入力されたことに基づいて遊技媒体の付与が可能であり、

前記設定変更モード及び前記設定確認モードの何れかに制御されているときには、前記第1所定信号を出力しない（1．接続確認信号が入力されていないときにはPRDY信号をオンとしない、2．接続確認コマンドを受信していないときにはPRDY信号をオンとしない）、

ことを特徴とする。

これによれば、設定変更モード及び設定確認モードの何れかに制御されているときに、遊技媒体を付与しないようにすることができる。

20

【0027】

手段A4の遊技機は、

手段A1の遊技機であって、

前記特定制御手段と前記設定変更モード制御手段とを有し、前記遊技機における遊技の進行を制御する遊技制御手段（遊技制御用タイマ割込処理を実行する遊技制御用マイクロコンピュータ100）を備え、

前記遊技制御手段及び前記付与手段の少なくとも一方（例えば、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370）には、当該遊技機に対応した遊技機枠又は扉枠が開放された開放状態を検出する開放状態検出手段（遊技機用枠3が開放状態となっていることを検出可能な遊技機枠開放センサ、ガラス扉枠3aが開放状態となっていることを検出可能な扉枠開放センサを備えた遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300）が設けられ、

30

前記設定変更モードに制御されているか否かによらず、前記開放状態が検出されているときには遊技媒体の付与を制限する（遊技機用枠3が開放状態となっているとき、ガラス扉枠3aが開放状態となっているときにはPRDY信号をオンとしない）、

ことを特徴とする。

これによれば、設定変更モードに制御させるために遊技機枠又は扉枠を開放させる場合に、遊技媒体の付与を制限することができる。

【0028】

手段A5の遊技機は、

40

手段A1～手段A4から選択される何れかの遊技機であって、

前記設定値を確認可能な設定確認モードに制御可能な設定確認モード制御手段（ステップS21TM1210～ステップS21TM1240を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ100）を備え、

前記付与手段は、前記遊技用装置から付与要求信号が入力されたこと（BRQ信号がオンとされたこと）に応じて付与準備信号を出力し（EXS信号をオンとし）、前記付与準備信号の入力に応じて前記遊技用装置から出力される付与指令信号が入力されたとき（EXS信号のオンを検出したカードユニット21TM050がBRQ信号をオフとしたとき）に遊技媒体を付与し、

前記設定変更モード及び前記設定確認モードの何れかに制御されているときには、前記

50

付与要求信号が入力されても前記付与準備信号を出力しない（B R Q 信号のオンを検出し、
ても E X S 信号をオンとしない）、

ことを特徴とする。

これによれば、設定変更モード及び設定確認モードの何れかに制御されているときに、
遊技媒体を付与しないようにすることができる。

【0029】

手段 A 6 の遊技機は、

手段 A 1 ～手段 A 5 から選択される何れかの遊技機であって、

前記設定値を確認可能な設定確認モードに制御可能な設定確認モード制御手段（ステッ
プ S 2 1 T M 1 2 1 0 ～ステップ S 2 1 T M 1 2 4 0 を実行可能な遊技制御用マイクロコ
ンピュータ 1 0 0 ）を備え、

10

前記設定変更モード制御手段は、当該遊技機への電力供給が開始されたときに設定変更
条件が成立している場合（電源投入時に錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 がオンであり、且つ、
クリアスイッチ（設定切替スイッチ） 2 1 T M 0 5 2 がオンである場合）に、前記設定変
更モードに制御し、

前記設定確認モード制御手段は、当該遊技機への電力供給が開始されたときに設定確認
条件が成立している場合（電源投入時に錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 がオンであり、且つ、
クリアスイッチ（設定切替スイッチ） 2 1 T M 0 5 2 がオフである場合）に、前記設定確
認モードに制御する、

ことを特徴とする。

20

これによれば、遊技機への電力供給が開始されたときに設定変更モード又は設定確認モ
ードに制御可能である。

【0030】

手段 A 7 の遊技機は、

手段 A 1 ～手段 A 6 から選択される何れかの遊技機であって、

前記設定変更モードに制御されたときには、遊技状態が初期化され（ステップ S 2 1 T
M 1 4 1 0 の R A M クリアが実行され）、

前記設定変更モードの制御の終了に基づいて、前記設定変更モードの制御の終了に対応
する報知を実行した後に（表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 に設定値を点滅表示させた後に）、
遊技状態が初期化されたことを報知する（表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 に「C」の文字を表
示させる）、

30

ことを特徴とする。

これによれば、遊技場の店員等が、設定変更モードの制御が終了して遊技状態が初期化
されたことを把握することができる。

【0031】

手段 A 8 の遊技機は、

手段 A 1 ～手段 A 7 から選択される何れかの遊技機であって、

前記特定制御手段と前記設定変更モード制御手段とを有し、前記遊技機における遊技の
進行を制御する遊技制御手段（遊技制御用タイマ割込処理を実行する遊技制御用マイクロ
コンピュータ 1 0 0 ）と、

40

演出の実行を制御する演出制御手段（演出制御用 C P U 1 2 0 ）と、を備え、

前記遊技制御手段は、前記設定値を確認可能な設定確認モードに制御可能な設定確認モ
ード制御手段（ステップ S 2 1 T M 1 2 1 0 ～ステップ S 2 1 T M 1 2 4 0 を実行可能な
遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 ）を更に有し、

前記遊技制御手段は、前記設定変更モード又は前記設定確認モードの何れかに制御され
ることに伴い、前記演出制御手段に対してコマンド（設定変更モードコマンド、設定確認
モードコマンド）を出力し、

前記演出制御手段は、前記コマンドに応じた報知に関する制御を実行する（設定変更モ
ードコマンドを受信したときに画像表示装置 5 に「設定変更中」と表示する、設定確認モ
ードコマンドを受信したときに画像表示装置 5 に「設定確認中」と表示する）、

50

ことを特徴とする。

これによれば、遊技場の店員等が、設定変更モード又は設定確認モードに制御されたことを把握することができる。

【0032】

手段A9の遊技機は、

手段A1～手段A8から選択される何れかの遊技機であって、

前記設定値を確認可能な設定確認モードに制御可能な設定確認モード制御手段（ステップS21TM1210～ステップS21TM1240を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ100）を備え、

前記設定変更モード制御手段は、移行操作（電源投入時に錠スイッチ21TM051をONとする操作）及び初期化操作（電源投入時にクリアスイッチ21TM052をONとする操作）に基づいて前記設定変更モードに制御し、

前記設定確認モード制御手段は、前記移行操作（電源投入時に錠スイッチ21TM051をONとする操作）に基づいて前記設定確認モードに制御し、

前記設定変更モードに制御されることに伴い、当該遊技機の遊技状態が初期化され（設定変更モードに制御された場合には、ステップS21TM1410のRAMクリア処理が実行され）、前記設定確認モードに制御されることに伴い、当該遊技機の遊技状態が初期化されない（設定確認モードに制御された場合には、ステップS21TM1320又はステップS21TM1330でNOと判定された場合にのみ、ステップS21TM1410のRAMクリア処理が実行される）、

ことを特徴とする。

これによれば、遊技場の店員等が、設定変更モード及び設定確認モードの何れに制御させるかを選択可能であると共に、遊技状態を初期化させるか否かも選択可能となる。

【0033】

また、特開2010-200902号公報（段落0007）に示すように、複数段階の設定値を外部からの設定変更操作に基づいて変更する設定変更手段を備える遊技機が提案されている。特開2010-200902号公報（段落0007）に記載されたような遊技機では、設定値を変更するときに、遊技用装置から出力される信号に基づく制御を適切に実行する必要がある。手段B1～手段B7に係る発明は、上記の実状に鑑みてなされたものであり、遊技用装置から出力される信号に基づく制御を適切に実行する遊技機を提供することにある。

【0034】

手段B1の遊技機は、

有価価値（プリペイド残額、持玉、貯玉等）に関する処理（プリペイド残額を消費する球貸、持玉を消費する球貸、貯玉を消費する球貸等に関連した処理）を実行可能な遊技用装置（カードユニット21TM050）から出力される信号（VL信号、BRDY信号、BRQ信号等）を受信可能な遊技機（パチンコ遊技機1）であって、

前記遊技用装置から出力される信号に基づいて所定制御（球貸）を実行する所定制御手段（払出モータ21TM289を制御する払出制御用マイクロコンピュータ21TM370）と、

設定値（大当たり判定用乱数の範囲が異なる設定値1～6）に応じた特定制御（特別図柄プロセス処理における大当たり判定処理等）を実行可能な特定制御手段（ステップS21TM1690等の処理を実行する遊技制御用マイクロコンピュータ100）と、

前記設定値を変更可能な設定変更モードに制御可能な設定変更モード制御手段（ステップS21TM1130～ステップS21TM1200を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ100）と、を備え、

前記設定変更モードに制御されているか否かにかかわらず、前記遊技用装置から出力される信号に基づく所定制御を実行可能である（遊技制御用マイクロコンピュータ100は、設定変更モードに制御されている期間であっても、接続確認信号をON状態とし、接続確認コマンド及び賞球個数コマンドを送信可能であり、接続確認信号のON状態で、接続

10

20

30

40

50

確認コマンド及び賞球個数コマンドを受信した払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、設定変更モードに制御されている期間であるか否かにかかわらず球貸を実行可能である）、

ことを特徴とする。

これによれば、遊技用装置から出力される信号に基づく所定制御を適切に実行可能であり、設定変更モードに制御されているときに所定制御を実行しない場合の制御負担を回避することができる。

【0035】

手段 B 2 の遊技機は、

手段 B 1 の遊技機であって、

前記設定値を確認可能な設定確認モードに制御可能な設定確認モード制御手段（ステップ S 2 1 T M 1 2 1 0 ～ステップ S 2 1 T M 1 2 4 0 を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0）を備え、

前記所定制御を実行しているときに所定事象（電源断等）が発生したことに基いて当該所定制御を中断し、その後に前記設定変更モード又は前記設定確認モードに制御されたときには、前記設定変更モード又は前記設定確認モードの終了後に、当該所定制御を再開する（払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、球貸の実行途中で電源断が発生した場合には球貸を中断し、電力供給再開後に遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 が設定変更モード又は設定確認モードに移行した場合には、直ちに球貸を再開することなく当該設定変更モード又は当該設定確認モードの終了後に球貸を再開する）、

ことを特徴とする。

これによれば、所定事象が発生した後に設定変更モード又は設定確認モードに制御されたときにも、所定制御を適切に実行可能である。

【0036】

手段 B 3 の遊技機は、

手段 B 1 の遊技機であって、

前記設定値を確認可能な設定確認モードに制御可能な設定確認モード制御手段（ステップ S 2 1 T M 1 2 1 0 ～ステップ S 2 1 T M 1 2 4 0 を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0）を備え、

前記所定制御を実行しているときに、前記設定変更モード又は前記設定確認モードに制御されたときには、当該所定制御を終了させる（払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、球貸の実行中に電源断が発生したときには、当該球貸を強制終了させ（中止し）、その後の電源復旧時に遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 が設定変更モード又は設定確認モードに制御されたときに球貸は再開されず、設定変更モード又は設定確認モードの終了後も球貸は再開されない）、

ことを特徴とする。

これによれば、設定変更モード又は設定確認モードの終了後に所定制御を再開させる制御が不要となり、所定制御を簡略化することができる。

【0037】

手段 B 4 の遊技機は、

手段 B 1 ～手段 B 3 から選択される何れかの遊技機であって、

前記設定値を確認可能な設定確認モードに制御可能な設定確認モード制御手段（ステップ S 2 1 T M 1 2 1 0 ～ステップ S 2 1 T M 1 2 4 0 を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0）を備え、

前記設定変更モード制御手段は、当該遊技機への電力供給が開始されたときに設定変更条件が成立している場合（錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 が ON 状態であり、且つ、クリアスイッチ 2 1 T M 0 5 2 も ON 状態である場合）に、前記設定変更モードに制御し、

前記設定確認モード制御手段は、当該遊技機への電力供給が開始されたときに設定確認条件が成立している場合（錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 が ON 状態であり、且つ、クリアスイッチ 2 1 T M 0 5 2 は OFF 状態である場合）に、前記設定確認モードに制御する、

ことを特徴とする。

これによれば、遊技機への電力供給が開始されたときに成立している条件に応じて、設定変更モード又は設定確認モードに制御することができる。

【0038】

手段B5の遊技機は、

手段B1～手段B4から選択される何れかの遊技機であって、

前記設定変更モードに制御されたときには、遊技情報が初期化され（設定変更モードに制御されたときには、ステップS21TM1410のRAMクリアが実行され）、

前記設定変更モードにおいて前記設定値が変更されたときには、設定値の変更を報知した後に（表示モニタ21TM029に設定値を点滅表示させた後に）、遊技状態が初期化されたことを報知する（表示モニタ21TM029に「C」の文字を表示させる）、

ことを特徴とする。

これによれば、遊技場の店員等が、設定変更モードの制御が終了して遊技状態が初期化されたことを把握することができる。

【0039】

手段B6の遊技機は、

手段B1～手段B5から選択される何れかの遊技機であって、

前記特定制御手段と前記設定変更モード制御手段とを有し、前記遊技機における遊技の進行を制御する遊技制御手段（遊技制御用タイマ割込処理を実行する遊技制御用マイクロコンピュータ100）と、

演出の実行を制御する演出制御手段（演出制御用CPU120）と、を備え、

前記遊技制御手段は、前記設定値を確認可能な設定確認モードに制御可能な設定確認モード制御手段（ステップS21TM1210～ステップS21TM1240を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ100）を更に有し、

前記遊技制御手段は、前記設定変更モード又は前記設定確認モードの何れかに制御されることに伴い、前記演出制御手段に対してコマンド（設定変更モードコマンド、設定確認モードコマンド）を出力し、

前記演出制御手段は、前記コマンドに応じた報知に関する制御を実行する（設定変更モードコマンドを受信したときに画像表示装置5に「設定変更中」と表示する、設定確認モードコマンドを受信したときに画像表示装置5に「設定確認中」と表示する）、

ことを特徴とする。

これによれば、遊技場の店員等が、設定変更モード又は設定確認モードに制御されたことを把握することができる。

【0040】

手段B7の遊技機は、

手段B1～手段B6から選択される何れかの遊技機であって、

前記設定値を確認可能な設定確認モードに制御可能な設定確認モード制御手段（ステップS21TM1210～ステップS21TM1240を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ100）を備え、

前記設定変更モード制御手段は、移行操作（電源投入時に錠スイッチ21TM051をONとする操作）及び初期化操作（電源投入時にクリアスイッチ21TM052をONとする操作）に基づいて前記設定変更モードに制御し、

前記設定確認モード制御手段は、前記移行操作（電源投入時に錠スイッチ21TM051をONとする操作）に基づいて前記設定確認モードに制御し、

前記設定変更モードに制御されることに伴い、当該遊技機の遊技状態が初期化され（設定変更モードに制御された場合には、ステップS21TM1410のRAMクリア処理が実行され）、前記設定確認モードに制御されることに伴い、当該遊技機の遊技状態が初期化されない（設定確認モードに制御された場合には、ステップS21TM1320又はステップS21TM1330でNOと判定された場合にのみ、ステップS21TM1410のRAMクリア処理が実行される）、

ことを特徴とする。

これによれば、遊技場の店員等が、設定変更モード及び設定確認モードの何れに制御させるかを選択可能であると共に、遊技状態を初期化させるか否かも選択可能となる。

【0041】

また、特開2010-200902号公報（段落0007）に示すように、複数段階の設定値を外部からの設定変更操作に基づいて変更する設定変更手段を備える遊技機が提案されている。特開2010-200902号公報（段落0007）に記載されたような遊技機では、設定値を変更するときに、遊技媒体が特定領域を通過した場合の制御を適切に実行する必要がある。手段C1～手段C6に係る発明は、上記の実状に鑑みてなされたものであり、遊技媒体が特定領域を通過した場合の制御を適切に実行する遊技機を提供することにある。

10

【0042】

手段C1の遊技機は、

遊技媒体が特定領域（第1始動入賞口、第2始動入賞口）を通過したことに基づいて、設定値（大当たり判定用乱数の範囲が異なる設定値1～6）に応じた特定制御（特別図柄プロセス処理における大当たり判定処理等）を実行可能な特定制御手段（ステップS21TM1690等の処理を実行する遊技制御用マイクロコンピュータ100）と、

前記設定値を変更可能な設定変更モードに制御可能な設定変更モード制御手段（ステップS21TM1130～ステップS21TM1200を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ100）と、を備え、

20

前記設定変更モードに制御されているときには、遊技媒体が前記特定領域を通過しても前記特定制御が実行されない（タイマ割込の設定（ステップS21TM1500）よりも前に設定変更モードに制御されることにより、設定変更モードに制御されている期間は、ステップS21TM1690の特別図柄プロセス処理（大当たり判定処理）が実行されない）、

ことを特徴とする。

これによれば、設定値が変更される可能性があるときに特定制御が実行されてしまうことを防止することができる。

【0043】

手段C2の遊技機は、

30

手段C1の遊技機であって、

前記設定値を確認可能な設定確認モードに制御可能な設定確認モード制御手段（ステップS21TM1210～ステップS21TM1240を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ100）を備え、

前記設定変更モード制御手段は、当該遊技機への電力供給が開始されたときに設定変更条件が成立している場合（錠スイッチ21TM051がON状態であり、且つ、クリアスイッチ21TM052もON状態である場合）に、前記設定変更モードに制御し、

前記設定確認モード制御手段は、当該遊技機への電力供給が開始されたときに設定確認条件が成立している場合（錠スイッチ21TM051がON状態であり、且つ、クリアスイッチ21TM052はOFF状態である場合）に、前記設定確認モードに制御する、

40

ことを特徴とする。

これによれば、遊技機への電力供給が開始されたときに成立している条件に応じて、設定変更モード又は設定確認モードに制御することができる。

【0044】

手段C3の遊技機は、

手段C1又は手段C2の遊技機であって、

前記設定変更モードに制御されたときには、遊技状態が初期化され（設定変更モードに制御されたときには、ステップS21TM1410のRAMクリアが実行され）、

前記設定変更モードの制御の終了に基づいて、前記設定変更モードの制御の終了に対応する報知を実行した後に（表示モニタ21TM029に設定値を点滅表示させた後に）、

50

遊技状態が初期化されたことを報知する（表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 に「C」の文字を表示させる）、

ことを特徴とする。

これによれば、遊技場の店員等が、設定変更モードの制御が終了して遊技状態が初期化されたことを把握することができる。

【0045】

手段 C 4 の遊技機は、

手段 C 1 ～手段 C 3 から選択される何れかの遊技機であって、

前記特定制御手段と前記設定変更モード制御手段とを有し、前記遊技機における遊技の進行を制御する遊技制御手段（遊技制御用タイマ割込処理を実行する遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0）と、

演出の実行を制御する演出制御手段（演出制御用 C P U 1 2 0）と、を備え、

前記遊技制御手段は、前記設定値を確認可能な設定確認モードに制御可能な設定確認モード制御手段（ステップ S 2 1 T M 1 2 1 0 ～ステップ S 2 1 T M 1 2 4 0 を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0）を更に有し、

前記遊技制御手段は、前記設定変更モード又は前記設定確認モードの何れかに制御されることに伴い、前記演出制御手段に対してコマンド（設定変更モードコマンド、設定確認モードコマンド）を出力し、

前記演出制御手段は、前記コマンドに応じた報知に関する制御を実行する（設定変更モードコマンドを受信したときに画像表示装置 5 に「設定変更中」と表示する、設定確認モードコマンドを受信したときに画像表示装置 5 に「設定確認中」と表示する）、

ことを特徴とする。

これによれば、遊技場の店員等が、設定変更モード又は設定確認モードに制御されたことを把握することができる。

【0046】

手段 C 5 の遊技機は、

手段 C 1 ～手段 C 4 から選択される何れかの遊技機であって、

前記設定値を確認可能な設定確認モードに制御可能な設定確認モード制御手段（ステップ S 2 1 T M 1 2 1 0 ～ステップ S 2 1 T M 1 2 4 0 を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0）を備え、

前記設定確認モードに制御されているときには、遊技媒体が前記特定領域を通過しても前記特定制御を実行しない（タイマ割込の設定（ステップ S 2 1 T M 1 5 0 0）よりも前に設定確認モードに制御されることにより、設定確認モードに制御されている期間は、ステップ S 2 1 T M 1 6 9 0 の特別図柄プロセス処理（大当たり判定処理）が実行されない）

ことを特徴とする。

これによれば、設定値が確認されているときに特定制御が実行されてしまうことを防止することができる。

【0047】

手段 C 6 の遊技機は、

手段 C 1 ～手段 C 5 から選択される何れかの遊技機であって、

前記設定値を確認可能な設定確認モードに制御可能な設定確認モード制御手段（ステップ S 2 1 T M 1 2 1 0 ～ステップ S 2 1 T M 1 2 4 0 を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0）を備え、

前記設定変更モード制御手段は、移行操作（電源投入時に錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 を ON とする操作）及び初期化操作（電源投入時にクリアスイッチ 2 1 T M 0 5 2 を ON とする操作）に基づいて前記設定変更モードに制御し、

前記設定確認モード制御手段は、前記移行操作（電源投入時に錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 を ON とする操作）に基づいて前記設定確認モードに制御し、

前記設定変更モードに制御されることに伴い、当該遊技機の遊技状態が初期化され（設

10

20

30

40

50

定変更モードに制御された場合には、ステップS 2 1 T M 1 4 1 0のRAMクリア処理が実行され)、前記設定確認モードに制御されることに伴い、当該遊技機の遊技状態が初期化されない(設定確認モードに制御された場合には、ステップS 2 1 T M 1 3 2 0又はステップS 2 1 T M 1 3 3 0でNOと判定された場合にのみ、ステップS 2 1 T M 1 4 1 0のRAMクリア処理が実行される)、

ことを特徴とする。

これによれば、遊技場の店員等が、設定変更モード及び設定確認モードの何れに制御させるかを選択可能であると共に、遊技状態を初期化させるか否かも選択可能となる。

【0048】

また、特開2010-200902号公報(段落0007)に示すように、複数段階の設定値を外部からの設定変更操作に基づいて変更する設定変更手段を備える遊技機が提案されている。特開2010-200902号公報(段落0007)に記載されたような遊技機では、設定値を変更するときに電力供給が停止された場合に、適切な処理を実行する必要がある。手段D1~手段D5に係る発明は、上記の実状に鑑みてなされたものであり、電力供給が停止された場合に適切な処理を実行する遊技機を提供することにある。

【0049】

手段D1の遊技機は、

設定値(大当たり判定用乱数の範囲が異なる設定値1~6)に応じた特定制御(特別図柄プロセス処理における大当たり判定処理等)を実行可能な特定制御手段(ステップS 2 1 T M 1 6 9 0等の処理を実行する遊技制御用マイクロコンピュータ100)と、

前記設定値を変更可能な設定変更モードに制御可能な設定変更モード制御手段(ステップS 2 1 T M 1 1 3 0~ステップS 2 1 T M 1 2 0 0を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ100)と、

前記設定値を確認可能に報知する設定確認モードに制御可能な設定確認モード制御手段(ステップS 2 1 T M 1 2 1 0~ステップS 2 1 T M 1 2 4 0を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ100)と、

設定値を記憶する設定値記憶手段(設定値が格納されるRAM102の設定値格納領域)と、を備え、

前記設定変更モード制御手段は、当該遊技機への電力供給が開始されたときに第1条件が成立し(錠スイッチ21TM051がON状態であり)且つ第2条件が成立している(クリアスイッチ(設定切替スイッチ)21TM052がON状態である)ことに基づいて前記設定変更モードに制御し、

前記設定確認モード制御手段は、当該遊技機への電力供給が開始されたときに前記第1条件が成立し(錠スイッチ21TM051がON状態であり)且つ前記第2条件が成立していない(クリアスイッチ(設定切替スイッチ)21TM052がOFF状態である)ことに基づいて前記設定確認モードに制御し、

前記設定変更モードにおける特定操作(錠スイッチ21TM051がON状態からOFF状態に切り換えられる操作)に基づいて前記設定値が決定され、

前記設定値記憶手段は、前記設定変更モードに制御されているときに当該設定変更モードに制御される前の設定値を記憶し(設定変更モードへの移行前からRAM102の設定値格納領域に記憶されている設定値を、設定変更モードへの移行に伴い変更することなく継続して記憶させておき)、

前記設定変更モードにおいて前記特定操作が行われることなく当該遊技機への電力供給が停止され(錠スイッチ21TM051がON状態からOFF状態に切り換えられる操作が行われることなく電源断が発生し)、その後当該遊技機への電力供給が再開されたときに前記設定確認モードに制御された場合には、前記設定値記憶手段に記憶されている設定値が報知される(電源投入後に設定確認モードに制御された場合には、設定確認モードへの移行前からRAM102の設定値格納領域に記憶されている設定値を、表示モニタ21TM029に表示させる)、

ことを特徴とする。

これによれば、遊技場の店員等が、設定変更モードに制御されているときに電力供給が停止された場合の設定値を適切に定めることができる。

【0050】

手段D2の遊技機は、

手段D1の遊技機であって、

前記設定変更モード制御手段は、当該遊技機への電力供給が開始されたときに移行操作（錠スイッチ21TM051をON状態とする操作）が行われ且つ初期化操作（クリアスイッチ21TM052をON状態とする操作）が行われた場合に前記設定変更モードに制御し、

前記設定確認モード制御手段は、当該遊技機への電力供給が開始されたときに前記移行操作が行われ且つ前記初期化操作が行われなかった場合に前記設定確認モードに制御する、

ことを特徴とする。

これによれば、遊技場の店員等が、設定変更モード及び設定確認モードの何れに制御させるかを選択可能である。

【0051】

手段D3の遊技機は、

手段D1又は手段D2の遊技機であって、

前記設定変更モードに制御されたときには、遊技状態が初期化され（ステップS21TM1410のRAMクリアが実行され）、

前記設定変更モードの制御の終了に基づいて、前記設定変更モードの制御の終了に対応する報知を実行する（表示モニタ21TM029に設定値を点滅表示させる）、

ことを特徴とする。

これによれば、遊技場の店員等が、設定変更モードの制御が終了したことを把握することができる。

【0052】

手段D4の遊技機は、

手段D1～手段D3から選択される何れかの遊技機であって、

前記特定制御手段と前記設定変更モード制御手段と前記設定確認モード制御手段を有し、前記遊技機における遊技の進行を制御する遊技制御手段（遊技制御用タイマ割込処理を実行する遊技制御用マイクロコンピュータ100）と、

演出の制御を実行する演出制御手段（演出制御用CPU120）と、を備え、

前記遊技制御手段は、前記設定変更モード又は前記設定確認モードの何れかに制御されることに伴い、前記演出制御手段に対してコマンド（設定変更モードコマンド、設定確認モードコマンド）を出力し、

前記演出制御手段は、前記コマンドに応じた報知を実行する（設定変更モードコマンドを受信したときに画像表示装置5に「設定変更中」と表示する、設定確認モードコマンドを受信したときに画像表示装置5に「設定確認中」と表示する）、

ことを特徴とする。

これによれば、遊技場の店員等が、設定変更モード又は設定確認モードに制御されたことを把握することができる。

【0053】

手段D5の遊技機は、

手段D1～手段D4から選択される何れかの遊技機であって、

当該遊技機への電力供給が開始された後のタイミング（設定変更モード又は設定確認モード終了後に、遊技制御用マイクロコンピュータ100が、遊技制御用タイマ割込処理を実行可能となった後のタイミング）で前記第1条件又は前記第2条件が成立した場合には、所定の報知を行う（演出制御用CPU120は、錠スイッチ21TM051が操作されたことを示す錠スイッチ操作コマンド、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052が操作されたことを示す設定切替スイッチ操作コマンドを遊技制御用マイクロコンピ

10

20

30

40

50

ュータ100から受信したときには、「錠スイッチの操作を検出しました。」、「設定切替スイッチの操作を検出しました。」という警告を画像表示装置5に表示させる)

ことを特徴とする。

これによれば、遊技場の店員等が、電力供給が開始された後のタイミングで、第1条件又は第2条件が成立したことを把握することができる。

【0054】

また、特開2010-200902号公報(段落0007)に示すように、複数段階の設定値を外部からの設定変更操作に基づいて変更する設定変更手段を備える遊技機が提案されている。また、特開2014-200506号公報(段落0102)に示すように、主制御基板の外部出力端子から、「大当たり信号」等が出力される遊技機が提案されている。特開2010-200902号公報(段落0007)に記載されたような遊技機に関しては、設定値の変更に関連する処理の状況を外部装置側で把握することが必要となる場合があるが、特開2014-200506号公報(段落0102)に記載されている従来の遊技機の信号出力技術を適用しても、外部装置側でこれを把握することが困難であるという課題がある。手段E1～手段E8に係る発明は、上記の実状に鑑みてなされたものであり、設定値の変更に関連する処理の状況を外部装置側で把握することが可能な遊技機を提供することにある。

【0055】

手段E1の遊技機は、

設定値(大当たり判定用乱数の範囲が異なる設定値1～6)に応じた特定制御(特別図柄プロセス処理における大当たり判定処理等)を実行可能な遊技機であって、

前記設定値は変更可能であり(設定変更モードにおける操作に基づいて変更可能であり)、

前記遊技機で発生した所定事象(異常入賞、スイッチ異常検出、磁気エラー、RAMクリア等)に対応して第1端子(第10端子)から特定信号(セキュリティ信号)を出力可能であり、

前記設定値の変更に関連する処理(設定変更モードへの移行、設定確認モードへの移行)に対応して第2端子(第7端子)から特別信号(設定変更対応信号)を出力可能である、

ことを特徴とする。

これによれば、所定事象の発生と、設定値の変更に関連する処理が実行されたことを、区別可能な態様で外部に通知できる。

【0056】

手段E2の遊技機は、

手段E1の遊技機であって、

当該遊技機への電力供給が開始されたことに伴って前記特定信号を出力可能であり(RAMクリアが実行された場合にはセキュリティ信号が出力され)、

当該遊技機への電力供給が開始されたときに前記設定値を変更可能な設定変更モードに制御可能な設定変更モード制御手段(ステップS21TM1130～ステップS21TM1200を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ100)を備え、

前記設定変更モードに制御されたときには、前記特定信号と前記特別信号の両方を出力可能である(セキュリティ信号と設定対応変更信号を同時に出力する)、

ことを特徴とする。

これによれば、特定信号によって、少なくとも設定変更モードに制御された可能性があることを外部に通知できるため、特別信号の入力を想定していない従来の外部装置においても、特定信号によって設定変更モードに制御された可能性があることを把握することができる。

【0057】

手段E3の遊技機は、

手段E2の遊技機であって、

前記設定変更モードに制御されたことに基づいて前記特定信号と前記特別信号の両方を出力したときに、前記特定信号の出力期間は前記特別信号の出力期間よりも長い（設定対応変更信号の出力が終了してから30秒間はセキュリティ信号を継続して出力させる）、ことを特徴とする。

これによれば、特定信号によって、少なくとも設定変更モードに制御されている可能性があることを外部に通知できるため、特別信号の入力を想定していない従来の外部装置においても、特定信号によって設定変更モードに制御されている可能性があることを把握することができる。

【0058】

手段E4の遊技機は、

手段E1～手段E3から選択される何れかの遊技機であって、

前記設定値を確認可能な設定確認モードに制御可能な設定確認モード制御手段（ステップS21TM1210～ステップS21TM1240を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ100）を備え、

前記設定確認モードに制御されたことに基づいて前記特別信号を出力可能である（設定確認モードに制御されている期間は設定対応変更信号を出力する）、ことを特徴とする。

これによれば、設定確認モードに制御された可能性があることを外部に通知できる。

【0059】

手段E5の遊技機は、

手段E4の遊技機であって、

当該遊技機への電力供給が開始されたときに前記設定確認モードに制御可能であり（電源投入時に、錠スイッチ21TM051がON状態であり、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052がOFF状態であったことに基づいて設定確認モードに制御される）、

前記設定確認モードに制御されたことに基づいて前記特定信号と前記特別信号の両方を出力可能である（セキュリティ信号と設定対応変更信号を同時に出力する）、

ことを特徴とする。

これによれば、特定信号によって、少なくとも設定確認モードに制御された可能性があることを外部に通知できるため、特別信号の入力を想定していない従来の外部装置においても、特定信号によって設定確認モードに制御された可能性があることを把握することができる。

【0060】

手段E6の遊技機は、

手段E1の遊技機であって、

当該遊技機への電力供給が開始されたときに前記設定値を変更可能な設定変更モードに制御可能な設定変更モード制御手段（ステップS21TM1130～ステップS21TM1200を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ100）を備え、

前記設定変更モードに制御されたときに前記特別信号を出力し（設定変更モードに制御されたときに設定変更対応信号を出力し）、前記設定変更モードが終了したときに前記特定信号を出力可能である（RAMクリアが実行された場合には、設定変更モードが終了したときにセキュリティ信号を出力する）、

ことを特徴とする。

これによれば、設定変更モードに制御された場合の信号出力処理を簡素化しつつ、所定事象の発生を外部に通知できる。

【0061】

手段E7の遊技機は、

手段E1又は手段E6の遊技機であって、

当該遊技機への電力供給が開始されたときに前記設定値を確認可能な設定確認モードに制御可能な設定確認モード制御手段（ステップS21TM1210～ステップS21TM

10

20

30

40

50

1240を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ100)を備え、

前記設定確認モードに制御されたときに前記特別信号を出力し(設定確認モードに制御されたときに設定変更対応信号を出力し)、前記設定確認モードが終了したときに前記特定信号を出力可能である(RAMクリアが実行された場合には、設定確認モードが終了したときにセキュリティ信号を出力する)、

ことを特徴とする。

これによれば、設定確認モードに制御された場合の信号出力処理を簡素化しつつ、所定事象の発生を外部に通知できる。

【0062】

手段E8の遊技機は、

手段E1～手段E7から選択される何れかの遊技機であって、

前記設定値を変更可能な設定変更モードに制御可能な設定変更モード制御手段(ステップS21TM1130～ステップS21TM1200を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ100)と、

前記設定値を確認可能な設定確認モードに制御可能な設定確認モード制御手段(ステップS21TM1210～ステップS21TM1240を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ100)と、を備え、

前記設定変更モードにおいて、設定変更操作に応じて前記設定値を変更可能であり(設定切替スイッチ(クリアスイッチ)21TM052の操作、及び、錠スイッチ21TM051の操作により設定値を変更可能であり)、

前記設定変更モード及び前記設定確認モードの何れにも制御されていないときに前記設定変更操作が行われた場合には、所定の報知を行う(演出制御用CPU120は、錠スイッチ21TM051が操作されたことを示す錠スイッチ操作コマンド、クリアスイッチ(設定切替スイッチ)21TM052が操作されたことを示す設定切替スイッチ操作コマンドを遊技制御用マイクロコンピュータ100から受信したときには、「錠スイッチの操作を検出しました。」、「設定切替スイッチの操作を検出しました。」という警告を画像表示装置5に表示させる)、

ことを特徴とする。

これによれば、遊技場の店員等が、不適切な設定変更操作が行われたことを把握することができる。

【0063】

また、特開2010-200902号公報(段落0007)に示すように、複数段階の設定値を外部からの設定変更操作に基づいて変更する設定変更手段を備える遊技機が提案されている。また、特開2014-200506号公報(段落0102)に示すように、主制御基板の外部出力端子から、「大当たり信号」等が出力される遊技機が提案されている。特開2010-200902号公報(段落0007)に記載されたような遊技機に関しては、設定値に関連する情報を外部装置側で把握することが必要となる場合があるが、特開2014-200506号公報(段落0102)に記載されている従来の遊技機の信号出力技術を適用しても、外部装置側でこれを把握することが困難であるという課題がある。手段F1～手段F11に係る発明は、上記の実状に鑑みてなされたものであり、設定値に関連する情報を外部装置側で把握することが可能な遊技機を提供することにある。

【0064】

手段F1の遊技機は、

設定値(大当たり判定用乱数の範囲が異なる設定値1～6)に応じた特定制御(特別図柄プロセス処理における大当たり判定処理等)を実行可能な遊技機であって、

前記設定値は複数の値のうちのいずれかの値に変更可能であり(設定変更モードにおける操作に基づいて変更可能であり)、

前記設定値の変更に関連する処理(設定変更モードへの移行、設定確認モードへの移行)に対応して特別信号(設定変更対応信号)を出力可能であり、

前記設定値を特定可能な特殊態様で前記特別信号を出力可能である(設定値に対応した

10

20

30

40

50

数のパルスを出力する)、
ことを特徴とする。

これによれば、遊技機の設定値を外部に通知することが可能となる。

【0065】

手段F2の遊技機は、

手段F1の遊技機であって、

前記設定値を変更可能な設定変更モードに制御可能な設定変更モード制御手段（ステップS21TM1130～ステップS21TM1200を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ100）を備え、

前記設定変更モードの終了に伴い前記特殊態様の前記特別信号を出力する（設定変更モードが終了したときに、確定した設定値に対応した数のパルスを出力する）、
ことを特徴とする。

10

これによれば、設定変更モードに制御されているか否かを通知する信号と、遊技機の設定値を通知する信号とを、共通の端子から出力可能となる。

【0066】

手段F3の遊技機は、

手段F2の遊技機であって、

前記設定変更モードに制御されているときに非特殊態様の特別信号（設定変更モードに制御されている期間中はON状態となる設定変更対応信号）を出力し、前記設定変更モードの終了に伴い一旦特別信号の出力を停止した後（設定変更モードの終了に伴い一旦設定変更対応信号をOFF状態とした後）、前記特殊態様の特別信号（確定した設定値に対応した数のパルス状の設定変更対応信号）を出力する、

20

ことを特徴とする。

これによれば、特別信号によって、設定変更モードに制御されているか否かを外部に通知することが可能であると共に、遊技機の設定値を外部に通知することも可能となる。

【0067】

手段F4の遊技機は、

手段F1～手段F3から選択される何れかの遊技機であって、

前記設定値を確認可能な設定確認モードに制御可能な設定確認モード制御手段（ステップS21TM1210～ステップS21TM1240を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ100）を備え、

30

前記設定確認モードの終了に伴い前記特殊態様の特別信号を出力する（設定確認モードが終了したときに、表示された設定値に対応した数のパルスを出力する）、

ことを特徴とする。

これによれば、設定確認モードに制御されているか否かを通知する信号と、遊技機の設定値を通知する信号とを、共通の端子から出力可能となる。

【0068】

手段F5の遊技機は、

手段F4の遊技機であって、

前記設定確認モードに制御されているときに非特殊態様の特別信号（設定確認モードに制御されている期間中はON状態となる設定変更対応信号）を出力し、前記設定確認モードの終了に伴い一旦特別信号の出力を停止した後（設定確認モードの終了に伴い一旦設定変更対応信号をOFF状態とした後）、前記特殊態様の特別信号（表示された設定値に対応した数のパルス状の設定変更対応信号）を出力する、

40

ことを特徴とする。

これによれば、特別信号によって、設定確認モードに制御されているか否かを外部に通知することが可能であると共に、遊技機の設定値を外部に通知することも可能となる。

【0069】

手段F6の遊技機は、

手段F1～手段F5から選択される何れかの遊技機であって、

50

前記特殊態様の特別信号において、前記設定値はパルス数により特定可能である（パルス状の設定変更対応信号の出力回数を設定値と同じ回数とすることにより、外部装置において設定値を特定可能である）、

ことを特徴とする。

これによれば、外部装置において設定値を容易に特定可能となる。

【0070】

手段F7の遊技機は、

手段F1～手段F6から選択される何れかの遊技機であって、

前記遊技機で発生した所定事象（異常入賞、スイッチ異常検出、磁気エラー、RAMクリア等）に対応して特定信号（セキュリティ信号）を出力可能である、

ことを特徴とする。

これによれば、所定事象の発生を外部に通知することができる。

【0071】

手段F8の遊技機は、

手段F7の遊技機であって、

前記特定信号（セキュリティ信号）と前記特別信号（設定変更対応信号）を、共通の端子から出力する（例えば第10端子から出力する）、

ことを特徴とする。

これによれば、簡素な構成により所定事象の発生と設定値とを外部に通知できる。

【0072】

手段F9の遊技機は、

手段F7の遊技機であって、

前記特定信号（セキュリティ信号）と前記特別信号（設定変更対応信号）を、異なる端子から出力する（例えばセキュリティ信号を第10端子から出力し、設定変更対応信号を第7端子から出力する）、

ことを特徴とする。

これによれば、所定事象の発生と設定値とを明確に区別可能な態様で外部に通知できる。

【0073】

手段F10の遊技機は、

手段F1～手段F9から選択される何れかの遊技機であって、

前記設定値を変更可能な設定変更モードに制御可能な設定変更モード制御手段（ステップS21TM1130～ステップS21TM1200を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ100）を備え、

前記設定変更モードにおいて、設定変更操作に応じて前記設定値を変更可能であり（設定切替スイッチ（クリアスイッチ）21TM052の操作に応じて設定値を変更可能であり）、

前記設定変更モードにおいて前記設定変更操作が行われたか否かにかかわらず、当該設定変更モードの終了に伴い前記特殊態様の特別信号を出力する（錠スイッチ21TM051がOFF状態とされたときに、それ以前に設定切替スイッチ（クリアスイッチ）21TM052の操作が行われたか否かにかかわらず、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値に対応した数のパルスを設定変更対応信号として出力する）、

ことを特徴とする。

これによれば、実際に設定変更操作が行われたか否かにかかわらず、共通の信号出力処理を実行することにより、信号出力処理の処理負担を軽減可能である。

【0074】

手段F11の遊技機は、

手段F1～手段F10から選択される何れかの遊技機であって、

前記設定値の変更に関連する処理の終了に伴い前記特殊態様の特別信号を出力し（設定変更モードの終了に伴いRAM102の設定値格納領域に格納されている設定値に対応し

10

20

30

40

50

た数のパルス状の設定変更対応信号を出力し、設定確認モードの終了に伴いRAM102の設定値格納領域に格納されている設定値に対応した数のパルス状の設定変更対応信号を出力し)、当該特別信号の出力が終了した後に、前記設定値の変更に関連する処理とは異なる所定契機(例えば、大当り遊技状態の終了等)により前記特殊態様の特別信号を出力する(RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値に対応した数のパルス状の設定変更対応信号を出力する)、

ことを特徴とする。

これによれば、所定契機により設定値を外部に通知することが可能となるため、外部装置において設定値を特定可能とする機会を増やすことができる。

【0075】

また、特開2010-200902号公報(段落0007)に示すように、複数段階の設定値を外部からの設定変更操作に基づいて変更する設定変更手段を備える遊技機が提案されている。特開2010-200902号公報(段落0007)に記載されたような遊技機では、設定値を変更するときに、遊技媒体の付与に関する制御を適切に実行する必要がある。手段G1～手段G10に係る発明は、上記の実状に鑑みてなされたものであり、遊技媒体の付与に関する制御を適切に実行する遊技機を提供することにある。

【0076】

手段G1の遊技機は、

遊技価値(パチンコ玉)を付与可能な付与手段(払出モータ21TM289を制御する払出制御用マイクロコンピュータ21TM370)を備える遊技機(パチンコ遊技機1)であって、

設定値(大当り判定用乱数の範囲が異なる設定値1～6)に応じた特定制御(特別図柄プロセス処理における大当り判定処理等)を実行可能な特定制御手段(ステップS21TM1690等の処理を実行する遊技制御用マイクロコンピュータ100)と、

設定値を変更可能な設定変更モードに制御可能な設定変更モード制御手段(ステップS21TM3540～ステップS21TM3600を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ100)と、

当該遊技機に対応した遊技機枠(遊技機用枠3)及び扉枠(ガラス扉枠3a)の少なくとも一方(例えば、遊技機用枠3)が開放された開放状態を検出可能な開放状態検出手段(遊技機用枠3が開放状態となっていることを検出可能な遊技機枠開放センサ、ガラス扉枠3aが開放状態となっていることを検出可能な扉枠開放センサ、を備えた遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300を有する払出制御用マイクロコンピュータ21TM370)と、を備え、

前記設定変更モードに制御されているか否かにかかわらず、前記開放状態が検出されたときには、遊技価値の付与が制限される(遊技機用枠3が開放状態となっているとき、ガラス扉枠3aが開放状態となっているときには、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が、払出モータ21TM289を駆動しないことにより、球貸処理及び賞球処理における遊技媒体の払出を実行しない)、

ことを特徴とする。

このような構成によれば、設定変更モードに制御されているときに、遊技価値の付与に関して適切な制御を実行することができる。

【0077】

手段G2の遊技機は、

手段G1の遊技機であって、

前記設定変更モード制御手段(ステップS21TM3540～ステップS21TM3600を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ100)は、前記開放状態検出手段(遊技機用枠3が開放状態となっていることを検出可能な遊技機枠開放センサ、ガラス扉枠3aが開放状態となっていることを検出可能な扉枠開放センサ、を備えた遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300を有する払出制御用マイクロコンピュータ21TM370)により前記開放状態(遊技機用枠3が開放されている状態)が検出されたときに、前記設定

変更モードに制御可能である（ステップS 2 1 T M 3 5 2 0でY E Sの場合、ステップS 2 1 T M 3 5 3 0以降の処理を実行する）、

ことを特徴とする。

このような構成によれば、遊技機枠又は扉枠の開放状態が検出されない状態で、設定変更モードに制御されることを防ぐことができる。

【0078】

手段G 3の遊技機は、

手段G 1又は手段G 2の遊技機であって、

前記設定変更モードに制御されたことを特定可能な特定情報（設定変更中フラグの値）を記憶する特定情報記憶手段（遊技制御用マイクロコンピュータ100におけるRAM 102）を有し、

10

前記特定情報記憶手段は、当該遊技機への電力供給が停止された後も、前記特定情報を記憶可能であり、

前記設定変更モード制御手段は、当該遊技機への電力供給が再開された後に、前記特定情報記憶手段に前記特定情報が記憶されているときに、遊技停止状態とすることが可能である（遊技制御用マイクロコンピュータ100は、電源投入後に、設定変更中フラグがセットされている場合、遊技機用枠3が開放状態であり、錠スイッチ21TM051がON状態であり、且つ、クリアスイッチ21TM052がON状態、であることを条件に、設定変更モードに移行させ、設定変更モードに移行させるための条件が成立していない場合には、通常遊技処理へ移行せず、電源断までループする）、

20

ことを特徴とする。

このような構成によれば、電力供給が再開された後に、特定情報記憶手段に特定情報が記憶されているときに、遊技停止状態とすることが可能となる。

【0079】

手段G 4の遊技機は、

手段G 3の遊技機であって、

前記設定変更モードの終了に対応して、前記特定情報（設定変更中フラグの値）を消去する（錠スイッチ21TM051をOFFとする操作に基づいて、ステップS 2 1 T M 3 5 3 0でY E Sと判定され、設定変更モードが終了し、ステップS 2 1 T M 3 7 1 0で設定変更中フラグがクリアされる）、

30

ことを特徴とする。

このような構成によれば、設定変更モードが終了した後に、通常遊技処理へ移行することが可能となる。

【0080】

手段G 5の遊技機は、

手段G 1～G 4から選択される何れかの遊技機であって、

遊技の進行を制御する遊技制御手段（遊技制御用タイマ割込処理を実行する遊技制御用マイクロコンピュータ100）を備え、

前記付与手段（払出モータ21TM289を制御する払出制御用マイクロコンピュータ21TM370）は、前記開放状態検出手段を有し、前記開放状態の検出に基づいて、遊技価値の付与を実行するか否かを判定する（払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が備える遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300が、遊技機用枠3、又は、ガラス扉枠3aの開放を検知しているとき、遊技媒体の払出を実行せず、遊技機用枠3、及び、ガラス扉枠3aの開放を何れも検知していないとき、遊技媒体の払出を実行する）、

40

ことを特徴とする。

このような構成によれば、遊技価値の付与を制御する付与手段が、開放状態検出手段を有するので、遊技価値の付与を実行するか否かの判定が容易であり、処理負担を軽減できる。

【0081】

手段G 6の遊技機は、

50

手段G5の遊技機であって、

前記付与手段（払出モータ21TM289を制御する払出制御用マイクロコンピュータ21TM370）は、

前記遊技制御手段（遊技制御用タイマ割込処理を実行する遊技制御用マイクロコンピュータ100）から遊技価値の付与に関する情報（払出個数）を受信したことに基づいて遊技価値の付与を実行し、

付与すべき遊技価値に関する付与情報（未払出個数）を記憶可能な記憶手段（払出制御用マイクロコンピュータ21TM370における、バックアップ領域に形成されている未払出個数格納バッファを有するRAM21TM302）を有し、

前記記憶手段は、当該遊技機への電力供給が停止された後も、前記付与情報を記憶可能であり、

前記付与手段は、当該遊技機への電力供給が再開された後に、前記記憶手段に記憶されている付与情報に応じて遊技価値の付与を実行する（遊技媒体の払出を実行中に電源断が発生した場合、遊技媒体の払出を中断し、電源投入後に中断されていた払出を再開し、未払出個数の遊技媒体を払い出す）、

ことを特徴とする。

このような構成によれば、当該遊技機への電力供給が停止された後に、付与すべき遊技価値に関する付与情報を記憶可能であり、当該遊技機への電力供給が再開された後に、記憶した付与情報に対応する遊技価値の付与が可能となるため、遊技者の不利益の発生を回避できる。

【0082】

手段G7の遊技機は、

手段G1～手段G6から選択される何れかの遊技機であって、

遊技用装置（カードユニット21TM050）と接続可能であり、

前記付与手段（払出モータ21TM289を制御する払出制御用マイクロコンピュータ21TM370）は、前記遊技用装置から出力される信号（VL信号、BRDY信号、BRQ信号等）に基づいて遊技価値の付与を実行し、

前記開放状態が検出されたときには、前記遊技用装置から出力される信号に基づく遊技価値の付与が制限される（払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が備える遊技機枠扉枠開放センサ21TM300が、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの開放を検知しているとき、球貸スイッチ21TM062が操作されても、カードユニット21TM050は払出制御用マイクロコンピュータ21TM370にBRDY信号を送信せず、遊技媒体の払出が実行されない）、

ことを特徴とする。

このような構成によれば、遊技機枠又は扉枠を開放中の遊技価値の付与が制限されることから、遊技機枠又は扉枠を開放中の付与動作に伴う不具合の発生を回避でき、遊技機枠又は扉枠を開放中のメンテナンス作業等を円滑に進めることが可能となる。

【0083】

手段G8の遊技機は、

手段G1～手段G7から選択される何れかの遊技機であって、

設定値を確認可能な設定確認モードに制御可能な設定確認モード制御手段（ステップS21TM3540～ステップS21TM3580を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ100）を備え、

前記設定変更モード制御手段は、移行操作（電源投入時に錠スイッチ21TM051をONとする操作）及び初期化操作（電源投入時にクリアスイッチ21TM052をONとする操作）に基づいて前記設定変更モードに制御し、

前記設定確認モード制御手段は、前記移行操作（電源投入時に錠スイッチ21TM051をONとする操作）に基づいて前記設定確認モードに制御し、

前記設定変更モードに制御されることに伴い、当該遊技機の遊技状態が初期化され、

前記設定確認モードに制御されることに伴い、当該遊技機の遊技状態が初期化されない

10

20

30

40

50

(設定変更モードに制御される場合には、クリアスイッチ21TM052がON状態であることに基づいて、ステップS21TM3040でYESと判定されることにより、ステップS21TM3050でRAMクリアが実行されるか、又は、ステップS21TM3140でYESと判定されることにより、ステップS21TM3150でRAMクリアが実行される。設定確認モードが実行される場合には、クリアスイッチ21TM052がOFF状態であることに基づいて、ステップS21TM3040でNOと判定されることにより、ステップS21TM3050には移行しないか、又は、ステップS21TM3140でNOと判定されることにより、ステップS21TM3150には移行しない)、
ことを特徴とする。

このような構成によれば、遊技場の店員等が、設定変更モード及び設定確認モードの何れに制御させるかを選択可能であると共に、遊技状態を初期化させるか否かも選択可能となる。

【0084】

手段G9の遊技機は、

手段G8の遊技機であって、

付与すべき遊技価値に関する付与情報(未払出個数のデータ)を記憶可能な記憶手段(払出制御用マイクロコンピュータ21TM370における、バックアップ領域に形成されている未払出個数格納バッファを有するRAM21TM302)を備え、

前記付与情報は、当該遊技機の遊技状態が初期化されることに伴い、初期化される(遊技制御用マイクロコンピュータ100におけるRAM102を初期化するステップS21TM3050又はステップS21TM3150のRAMクリアが実行されるに伴い、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370におけるRAM21TM302を初期化するステップS21TM1880のRAMクリアも実行されるので、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370におけるRAM21TM302内のバックアップ領域に形成されている未払出個数格納バッファの未払出個数のデータが初期化される)、

ことを特徴とする。

このような構成によれば、付与すべき遊技価値に関する付与情報を含めて当該遊技機の遊技状態が初期化されるため、遊技店における管理を容易にすることができる。

【0085】

手段G10の遊技機は、

手段G8の遊技機であって、

付与すべき遊技価値に関する付与情報(未払出個数のデータ)を記憶可能な記憶手段(払出制御用マイクロコンピュータ21TM370における、バックアップ領域に形成されている未払出個数格納バッファを有するRAM21TM302)を備え、

前記付与情報は、当該遊技機の遊技状態が初期化されたか否かにかかわらず、初期化されない(遊技制御用マイクロコンピュータ100におけるRAM102を初期化するステップS21TM3050又はステップS21TM3150のRAMクリアが実行されても、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370におけるRAM21TM302を初期化するステップS21TM1880のRAMクリアは実行されない)ので、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370におけるRAM21TM302内のバックアップ領域に形成されている未払出個数格納バッファの未払出個数のデータは初期化されない)、

ことを特徴とする。

このような構成によれば、当該遊技機の遊技状態が初期化された場合でも、付与情報は初期化されないため、付与すべき遊技価値に関する情報を適切に保護できる。

【0086】

また、特開2010-200902号公報(段落0007)に示すように、複数段階の設定値を外部からの設定変更操作に基づいて変更する設定変更手段を備える遊技機が提案されている。また、特開2014-200506号公報(段落0102)に示すように、主制御基板の外部出力端子から、「大当たり信号」等が出力される遊技機が提案されている。特開2010-200902号公報(段落0007)に記載されたような遊技機に関

10

20

30

40

50

しては、遊技機における所定事象の発生状況と、設定値の変更に関連する処理の実行状況とを、外部装置側で区別して認識することが必要となる場合があるが、特開 2014-200506 号公報（段落 0102）に記載されている従来の遊技機の信号出力技術を適用しても、外部装置側で両者を区別して認識することが困難であるという課題がある。手段 H1～H5 に係る発明は、上記の実状に鑑みてなされたものであり、遊技機における所定事象の発生状況と、設定値の変更に関連する処理の実行状況とを、外部装置側で区別して認識することが可能な遊技機を提供することにある。

【0087】

手段 H1 の遊技機は、

設定値（大当たり判定用乱数の範囲が異なる設定値 1～6）に応じた特定制御（特別図柄プロセス処理における大当たり判定処理等）を実行可能な遊技機（パチンコ遊技機 1）であって、

10

設定値を変更可能であり、

前記遊技機で発生した所定事象（RAM クリア、遊技機枠・扉枠開放検知等）に対応して特定信号（セキュリティ信号）を出力可能であると共に、設定値の変更に関連する処理（設定変更モード）に対応して特定信号を出力可能であり、

前記所定事象に対応する特定信号の出力期間と、設定値の変更に関連する処理に対応する特定信号の出力期間とが異なる（セキュリティ信号は、RAM クリアが実行されて設定変更モードに制御されなかった場合は、30 秒間出力され、RAM クリアが実行されて設定変更モードに制御された場合は、設定変更モードに制御された期間に 30 秒を加算した期間出力される）、

20

ことを特徴とする。

このような構成によれば、所定事象の発生と、設定値の変更に関連する処理が実行されたことを、区別可能な態様で外部に通知できる。

【0088】

手段 H2 の遊技機は、

手段 H1 の遊技機であって、

設定値を変更可能な設定変更モードに制御可能な設定変更モード制御手段（ステップ S21 TM3540～ステップ S21 TM3600 を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ 100）と、

30

設定値を確認可能な設定確認モードに制御可能な設定確認モード制御手段（ステップ S21 TM3540～ステップ S21 TM3580 を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ 100）と、を備え、

前記設定変更モードに制御された場合と、前記設定確認モードに制御された場合とで、特定信号の出力期間が異なる（セキュリティ信号は、設定変更モードに制御された場合は、設定変更モードに制御された期間に 30 秒を加算した期間出力され、設定確認モードに制御された場合は、設定確認モードに制御された期間に 50 ms を加算した期間出力される）、

ことを特徴とする。

このような構成によれば、設定変更モードに制御されたことと、設定確認モードに制御されたことを、外部で区別できる。

40

【0089】

手段 H3 の遊技機は、

手段 H1 又は手段 H2 の遊技機であって、

設定値を変更可能な設定変更モードに制御可能な設定変更モード制御手段（ステップ S21 TM3540～ステップ S21 TM3600 を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ 100）と、

設定値を確認可能な設定確認モードに制御可能な設定確認モード制御手段（ステップ S21 TM3540～ステップ S21 TM3580 を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ 100）と、を備え、

50

前記設定変更モード制御手段は、移行操作（電源投入時に錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 を ON とする操作）及び初期化操作（電源投入時にクリアスイッチ 2 1 T M 0 5 2 を ON とする操作）に基づいて前記設定変更モードに制御し、

前記設定確認モード制御手段は、前記移行操作（電源投入時に錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 を ON とする操作）に基づいて前記設定確認モードに制御し、

前記設定変更モード及び前記設定確認モードの何れにも制御されていないときに、前記移行操作及び前記初期化操作の少なくとも一方が行われた場合に、所定の報知を行う（演出制御用 CPU 1 2 0 は、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 が操作されたことを示す錠スイッチ操作コマンド、クリアスイッチ（設定切替スイッチ） 2 1 T M 0 5 2 が操作されたことを示す設定切替スイッチ操作コマンドを遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 から受信したときには、「錠スイッチの操作を検出しました。」、「設定切替スイッチの操作を検出しました。」という警告を画像表示装置 5 に表示させる）、

ことを特徴とする。

このような構成によれば、遊技場の店員等が、不適切な設定変更操作が行われたことを把握することができる。

【0090】

手段 H 4 の遊技機は、

手段 H 1 ～手段 H 3 から選択される何れかの遊技機であって、

設定値の変更に関連する処理（設定変更モード、設定確認モード）に対応して特別信号（設定変更対応信号）を出力可能であり、

前記特定信号（セキュリティ信号）と、前記特別信号（設定変更対応信号）は、異なる端子から出力される（例えば、セキュリティ信号を第 1 0 端子から出力し、設定変更対応信号を第 7 端子から出力する）、

ことを特徴とする。

このような構成によれば、所定事象の発生と、設定値の変更に関連する処理が実行されたことを、外部で区別可能であると共に、設定値の変更に関連する処理が実行されたことをより明確な態様で外部に通知できる。

【0091】

手段 H 5 の遊技機は、

手段 H 1 ～手段 H 4 から選択される何れかの遊技機であって、

設定値の変更に関連する処理（設定変更モード、設定確認モード）に対応して特別信号（設定変更対応信号）を出力可能であり、

設定値を特定可能な特殊態様で前記特別信号を出力可能である（設定値に対応した数のパルスを出力する）、

ことを特徴とする。

このような構成によれば、遊技機の設定値を外部に通知することが可能となる。

【0092】

特開 2 0 1 0 － 2 0 0 9 0 2 号公報（段落 0 0 0 7）に示すように、複数段階の設定値を外部からの設定変更操作に基づいて変更する設定変更手段を備える遊技機が提案されている。また、特開 2 0 1 4 － 2 0 0 5 0 6 号公報（段落 0 1 0 2）に示すように、主制御基板の外部出力端子から、「大当たり信号」等が出力される遊技機が提案されている。特開 2 0 1 0 － 2 0 0 9 0 2 号公報（段落 0 0 0 7）に記載されたような遊技機に関しては、設定値に関連する処理の実行状況を、外部装置側で把握することが必要となる場合があるが、特開 2 0 1 4 － 2 0 0 5 0 6 号公報（段落 0 1 0 2）に記載されている従来の遊技機の信号出力技術を適用しても、外部装置側でこれを把握することが困難であるという課題がある。手段 I 1 ～ I 6 に係る発明は、上記の実状に鑑みてなされたものであり、設定値に関連する処理の実行状況を、外部装置側で把握することが可能な遊技機を提供することにある。

【0093】

手段 I 1 の遊技機は、

設定値（大当たり判定用乱数の範囲が異なる設定値 1 ～ 6）に応じた特定制御（特別図柄プロセス処理における大当たり判定処理等）を実行可能な遊技機（パチンコ遊技機 1）であって、

設定値を変更可能であり、

設定値に関連する制御（設定変更モード、設定確認モード）の開始に対応して特定信号（セキュリティ信号）の出力を開始し、

設定値に関連する制御（設定変更モード、設定確認モード）の終了に対応して特定信号（セキュリティ信号）の出力を停止し、

設定値に関連する制御に対応した特定信号の出力期間は、所定期間より長い（設定変更モードに制御された場合、セキュリティ信号の出力期間は 30 秒以上であり、設定確認モードに制御された場合、セキュリティ信号の出力期間は 50 ms 以上である）、

ことを特徴とする。

このような構成によれば、設定値に関連する制御状態を、遊技機の外部に適切に通知できる。

【0094】

手段 I 2 の遊技機は、

手段 I 1 の遊技機であって、

前記遊技機で発生した所定事象（RAM クリア、遊技機枠・扉枠開放検知等）に対応して特定信号（セキュリティ信号）を出力可能であり、

前記所定事象に対応する特定信号の出力期間と、設定値に関連する制御（設定変更モード、設定確認モード）に対応する特定信号の出力期間とが異なる（セキュリティ信号は、RAM クリアが実行されて設定変更モードに制御されなかった場合は、30 秒間出力され、RAM クリアが実行されて設定変更モードに制御された場合は、設定変更モードに制御された期間に 30 秒を加算した期間出力される）、

ことを特徴とする。

このような構成によれば、所定事象の発生と、設定値の変更に関連する処理が実行されたことを、区別可能な態様で外部に通知できる。

【0095】

手段 I 3 の遊技機は、

手段 I 1 又は手段 I 2 の遊技機であって、

設定値を変更可能な設定変更モードに制御可能な設定変更モード制御手段（ステップ S 21 TM 3540 ～ステップ S 21 TM 3600 を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ 100）と、

設定値を確認可能な設定確認モードに制御可能な設定確認モード制御手段（ステップ S 21 TM 3540 ～ステップ S 21 TM 3580 を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ 100）と、を備え、

前記設定変更モードに制御された場合と、前記設定確認モードに制御された場合とで、特定信号の出力期間が異なる（セキュリティ信号は、設定変更モードに制御された場合は、設定変更モードに制御された期間に 30 秒を加算した期間出力され、設定確認モードに制御された場合は、設定確認モードに制御された期間に 50 ms を加算した期間出力される）、

ことを特徴とする。

このような構成によれば、設定変更モードに制御されたことと、設定確認モードに制御されたこととを、外部で区別できる。

【0096】

手段 I 4 の遊技機は、

手段 I 1 ～手段 I 3 から選択される何れかの遊技機であって、

設定値を変更可能な設定変更モードに制御可能な設定変更モード制御手段（ステップ S 21 TM 3540 ～ステップ S 21 TM 3600 を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ 100）と、

設定値を確認可能な設定確認モードに制御可能な設定確認モード制御手段（ステップ S 2 1 T M 3 5 4 0 ～ステップ S 2 1 T M 3 5 8 0 を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 ）と、を備え、

前記設定変更モード制御手段は、移行操作（電源投入時に錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 を ON とする操作）及び初期化操作（電源投入時にクリアスイッチ 2 1 T M 0 5 2 を ON とする操作）に基づいて前記設定変更モードに制御し、

前記設定確認モード制御手段は、前記移行操作（電源投入時に錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 を ON とする操作）に基づいて前記設定確認モードに制御し、

前記設定変更モード及び前記設定確認モードの何れにも制御されていないときに、前記移行操作及び前記初期化操作の少なくとも一方が行われた場合に、所定の報知を行う（演出制御用 CPU 1 2 0 は、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 が操作されたことを示す錠スイッチ操作コマンド、クリアスイッチ（設定切替スイッチ） 2 1 T M 0 5 2 が操作されたことを示す設定切替スイッチ操作コマンドを遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 から受信したときには、「錠スイッチの操作を検出しました。」、「設定切替スイッチの操作を検出しました。」という警告を画像表示装置 5 に表示させる）、

ことを特徴とする。

このような構成によれば、遊技場の店員等が、不適切な設定変更操作が行われたことを把握することができる。

【0097】

手段 I 5 の遊技機は、

手段 I 1 ～手段 I 4 から選択される何れかの遊技機であって、

設定値に関連する制御（設定変更モード、設定確認モード）に対応して特別信号（設定変更対応信号）を出力可能であり、

前記特定信号（セキュリティ信号）と、前記特別信号（設定変更対応信号）は、異なる端子から出力される（例えば、セキュリティ信号を第 1 0 端子から出力し、設定変更対応信号を第 7 端子から出力する）、

ことを特徴とする。

このような構成によれば、所定事象の発生と、設定値の変更に関連する処理が実行されたことを、外部で区別可能であると共に、設定値の変更に関連する処理が実行されたことをより明確な態様で外部に通知できる。

【0098】

手段 I 6 の遊技機は、

手段 I 1 ～手段 I 5 から選択される何れかの遊技機であって、

設定値に関連する制御（設定変更モード、設定確認モード）に対応して特別信号（設定変更対応信号）を出力可能であり、

設定値を特定可能な特殊態様で前記特別信号を出力可能である（設定値に対応した数のパルスを出力する）、

ことを特徴とする。

このような構成によれば、遊技機の設定値を外部に通知することが可能となる。

【0099】

特開 2 0 1 4 － 1 1 7 5 1 7 号公報（図 1 8 ）に示すように、可変表示に対応した情報として、保留アイコンを多様な表示態様で表示することができる遊技機が提案されている。特開 2 0 1 4 － 1 1 7 5 1 7 号公報（図 1 8 ）に記載されたような遊技機では、可変表示に対応した情報に関する興趣を向上させる余地がある。手段 K 1 ～手段 K 7 に係る発明は、上記の実状に鑑みてなされたものであり、可変表示に対応した情報に関する興趣を向上させる遊技機を提供することにある。

【0100】

手段 K 1 の遊技機は、

可変表示（特別図柄の変動表示、飾り図柄の変動表示）を実行可能な遊技機（パチンコ遊技機 1 ）であって、

可変表示に対応した情報（第1保留表示30TM001、第2保留表示30TM002、アクティブ表示30TM003、副保留表示30TM004、副アクティブ表示30TM005）の表示制御を実行する表示制御手段（演出制御用CPU120）を備え、

前記表示制御手段は、第1情報表示領域（第1保留表示領域30TM101、アクティブ表示領域30TM103）において、可変表示に対応した第1情報（第1保留表示30TM001、アクティブ表示30TM003）の表示制御を実行可能であると共に、前記第1情報表示領域とは異なる第2情報表示領域（副保留表示領域30TM104、副アクティブ表示領域30TM105）において、第1情報に対応した可変表示と共通の可変表示に対応した第2情報（副保留表示30TM004、副アクティブ表示30TM005）の表示制御を実行可能であり、

10

第1情報の態様が変化する割合と、第2情報の態様が変化する割合とが異なる（図13-3に示すように、アクティブ表示30TM003よりも副アクティブ表示30TM005の方が最終表示態様として通常態様とは異なる態様が選択される割合が低く、第1保留表示30TM001よりも副保留表示30TM004の方が表示態様が変化しにくい）

ことを特徴とする。

このような構成によれば、共通の可変表示に対応した情報として、第1情報及び第2情報という複数種類の情報を表示可能であることにより、可変表示に対応した情報に関する興趣を向上させることができるとともに、第1情報及び第2情報の態様に関心を持たせることができる。

20

【0101】

手段K2の遊技機は、

手段K1の遊技機であって、

変化後の第1情報の態様と、変化後の第2情報の態様とが異なる（図13-8（6）に示すように、青色態様の第1保留表示30TM001bは青色の丸形表示であり、青色態様の副保留表示30TM004bは青色の星形表示である）

ことを特徴とする。

このような構成によれば、第1情報と第2情報とで変化後の態様が異なるため、それぞれの情報を明確に区別して把握させることができる。

【0102】

手段K3の遊技機は、

手段K1又は手段K2の遊技機であって、

前記表示制御手段（演出制御用CPU120）は、第1情報（第1保留表示30TM001、アクティブ表示30TM003）と第2情報（副保留表示30TM004、副アクティブ表示）とを同時に表示させることが可能であり（図13-8（2）に示すように、第1保留表示30TM001及びアクティブ表示30TM003、並びに、副保留表示30TM004及び副アクティブ表示30TM005を同時に表示可能であり）、

30

変化後の第1情報の態様と、変化後の第2情報の態様とに応じて、遊技者にとって有利な有利状態に制御される割合が異なる（例えば、図13-3に示すように、アクティブ表示30TM003の最終表示態様が通常態様であり且つ副アクティブ表示30TM005の最終表示態様が通常態様である場合よりも、アクティブ表示30TM003の最終表示態様が金色態様であり且つ副アクティブ表示30TM005の最終表示態様が赤色態様である場合の方が大当たり期待度は高くなる）

40

ことを特徴とする。

このような構成によれば、第1情報の態様と第2情報の態様との組合せに注目させることができ、興趣を向上させることができる。

【0103】

手段K4の遊技機は、

手段K1～手段K3から選択される何れかの遊技機であって、

前記表示制御手段（演出制御用CPU120）は、

第1情報としての第1保留表示（第1保留表示30TM001）を前記第1情報表示領

50

域（第1保留表示領域30TM101）に表示するとともに、実行中の可変表示に対応した第1対応表示（アクティブ表示30TM003）を前記第1情報表示領域（アクティブ表示領域30TM103）に表示し、

第1保留表示に対応した可変表示を開始するときに、当該可変表示に対応した第1対応表示を、当該第1保留表示と共通の態様により表示させることが可能であり（図13-9（9）、（10）に示すように、赤色態様の第1保留表示30TM001c（赤色の丸形表示）がアクティブ表示領域30TM103にシフトすると、同じ表示色である赤色態様のアクティブ表示30TM003c（赤色の丸形表示）が表示され）、

第2情報としての第2保留表示（副保留表示30TM004）を前記第2情報表示領域（副保留表示領域30TM104、副アクティブ表示領域30TM105）に表示するとともに、実行中の可変表示に対応した第2対応表示（副アクティブ表示30TM005）を前記第2情報表示領域（副保留表示領域30TM104、副アクティブ表示領域30TM105）に表示し、

10

第2保留表示に対応した可変表示を開始するときに、当該可変表示に対応した第2対応表示を、当該第2保留表示と共通の態様により表示させることが可能である（図13-9（9）、（10）に示すように、赤色態様の副保留表示30TM004c（赤色の星形表示）が副アクティブ表示領域30TM105にシフトすると、同じ表示色である赤色態様の副アクティブ表示30TM005c（赤色の星形表示）が表示される）

ことを特徴とする。

このような構成によれば、実行中の可変表示に対応した情報として、第1対応情報及び第2対応情報という複数種類の情報を表示可能であることにより、可変表示に対応した情報に関する興趣を向上させることができるとともに、第1対応情報及び第2対応情報の態様に関心を持たせることができる。

20

【0104】

手段K5の遊技機は、

手段K1～手段K4から選択される何れかの遊技機であって、

遊技者にとって有利な有利状態（大当り遊技状態）に制御されるか否かを報知する報知演出（リーチ演出）を実行可能な報知演出実行手段（演出制御用CPU120）を備え、

前記第1情報表示領域（第1保留表示領域30TM101、アクティブ表示領域30TM103）の少なくとも一部は、前記報知演出が実行される領域に含まれ、

30

前記表示制御手段（演出制御用CPU120）は、前記報知演出が実行されることに伴い第1情報を非表示とすることが可能である一方、前記報知演出が実行されているときにも第2情報は視認可能とする（図13-9（11）に示すように、リーチ状態が成立すると、「リーチ！！」という文字が画面下部に表示されることに伴い、第1保留表示30TM001及びアクティブ表示30TM003が非表示になる一方、副保留表示30TM004及び副アクティブ表示30TM005は継続して表示される）

ことを特徴とする。

このような構成によれば、第1情報を非表示とすることで報知演出に対する注目を高めるとともに、第2情報を継続して表示することで、報知演出の実行中も可変表示に対する情報を確認可能とすることができる。

40

【0105】

手段K6の遊技機は、

手段K1～手段K5から選択される何れかの遊技機であって、

前記表示制御手段（演出制御用CPU120）は、実行中の可変表示に対応した第1対応表示（アクティブ表示30TM003）を前記第1情報表示領域（第1保留表示領域30TM101、アクティブ表示領域30TM103）に表示し、実行中の可変表示に対応した第2対応表示（副アクティブ表示30TM005）を前記第2情報表示領域（副保留表示領域30TM104、副アクティブ表示領域30TM105）に表示し、

第1対応表示の態様が変化するとき実行される第1作用演出と、第2対応表示の態様が変化するとき実行される第2作用演出とで、演出の態様が異なる（例えば、アクティ

50

ブ表示 3 0 T M 0 0 3 の表示態様を変化させるアクティブ作用演出は、キャラクタ A が出現してボールを投げるアクションを実行する態様であり、副アクティブ表示 3 0 T M 0 0 5 の表示態様を変化させる副アクティブ作用演出は、キャラクタ a が出現して風船を飛ばすアクションを実行する態様である)

ことを特徴とする。

このような構成によれば、第 1 作用演出と第 2 作用演出の態様が異なることにより、興趣を向上させることができる。

【0106】

手段 K 7 の遊技機は、

手段 K 1 ～手段 K 6 から選択される何れかの遊技機であって、

前記表示制御手段（演出制御用 C P U 1 2 0）は、第 1 情報としての第 1 保留表示（第 1 保留表示 3 0 T M 0 0 1）を前記第 1 情報表示領域（第 1 保留表示領域 3 0 T M 1 0 1）に表示し、第 2 情報としての第 2 保留表示（副保留表示 3 0 T M 0 0 4）を前記第 2 情報表示領域（副保留表示領域 3 0 T M 1 0 4）に表示し、

第 1 保留表示の態様が変化したときと、第 2 保留表示の態様が変化したときとで、遊技者にとって有利な有利状態に制御される割合が異なる（図 1 3 - 3 に示すように、アクティブ表示 3 0 T M 0 0 3 の表示態様が変化した場合よりも副アクティブ表示 3 0 T M 0 0 5 の表示態様が変化した場合の方が大当たり期待度は高く、第 1 保留表示 3 0 T M 0 0 1 の表示態様が変化した場合よりも副保留表示 3 0 T M 0 0 4 の表示態様が変化した場合の方が大当たり期待度は高くなる）

ことを特徴とする。

このような構成によれば、第 1 保留表示及び第 2 保留表示の何れの態様が変化したかに注目させることができる。

【0107】

特開 2 0 1 4 - 1 1 7 5 1 7 号公報（図 1 8）に示すように、可変表示に対応した情報として、保留アイコンを多様な表示態様で表示することができる遊技機が提案されている。特開 2 0 1 4 - 1 1 7 5 1 7 号公報（図 1 8）に記載されたような遊技機では、可変表示に対応した情報に関する興趣を向上させる余地がある。手段 L 1 ～手段 L 7 に係る発明は、上記の実状に鑑みてなされたものであり、可変表示に対応した情報に関する興趣を向上させる遊技機を提供することにある。

【0108】

手段 L 1 の遊技機は、

可変表示（特別図柄の変動表示、飾り図柄の変動表示）を実行可能な遊技機（パチンコ遊技機 1）であって、

可変表示に対応した情報（第 1 保留表示 3 0 T M 0 0 1、第 2 保留表示 3 0 T M 0 0 2、アクティブ表示 3 0 T M 0 0 3、副保留表示 3 0 T M 0 0 4、副アクティブ表示 3 0 T M 0 0 5）の表示制御を実行する表示制御手段（演出制御用 C P U 1 2 0）を備え、

前記表示制御手段は、第 1 情報表示領域（第 1 保留表示領域 3 0 T M 1 0 1、アクティブ表示領域 3 0 T M 1 0 3）において、可変表示に対応した第 1 情報（第 1 保留表示 3 0 T M 0 0 1、アクティブ表示 3 0 T M 0 0 3）の表示制御を実行可能であると共に、前記第 1 情報表示領域とは異なる第 2 情報表示領域（副保留表示領域 3 0 T M 1 0 4、副アクティブ表示領域 3 0 T M 1 0 5）において、第 1 情報に対応した可変表示と共通の可変表示に対応した第 2 情報（副保留表示 3 0 T M 0 0 4、副アクティブ表示 3 0 T M 0 0 5）の表示制御を実行可能であり、

第 1 情報の態様が変化したときに、前記第 1 情報表示領域とは異なる表示領域における予告演出の少なくとも一部を実行しない（図 1 3 - 1 1 に示すように、第 1 保留表示 3 0 T M 0 0 1 の態様が変化したときには、副保留表示領域 3 0 T M 1 0 4 に副保留表示 3 0 T M 0 0 4 が表示されず副アクティブ表示領域 3 0 T M 1 0 5 に副アクティブ表示 3 0 T M 0 0 5 が表示されない）

ことを特徴とする。

このような構成によれば、共通の可変表示に対応した情報として、第1情報及び第2情報という複数種類の情報を表示可能な遊技機において、演出の複雑化を抑制し、興趣を向上させることができる。

【0109】

手段L2の遊技機は、

手段L1の遊技機であって、

変化後の第1情報の態様と、変化後の第2情報の態様とが異なる（図13-8（6）に示すように、青色態様の第1保留表示30TM001bは青色の丸形表示であり、青色態様の副保留表示30TM004bは青色の星形表示である）

ことを特徴とする。

10

このような構成によれば、第1情報と第2情報とで変化後の態様が異なるため、それぞれの情報を明確に区別して把握させることができる。

【0110】

手段L3の遊技機は、

手段L1又は手段L2の遊技機であって、

前記表示制御手段（演出制御用CPU120）は、第1情報（第1保留表示30TM001、アクティブ表示30TM003）と第2情報（副保留表示30TM004、副アクティブ表示）とを同時に表示させることが可能であり（図13-8（2）に示すように、第1保留表示30TM001及びアクティブ表示30TM003、並びに、副保留表示30TM004及び副アクティブ表示30TM005を同時に表示可能であり）、

20

変化後の第1情報の態様と、変化後の第2情報の態様とに応じて、遊技者にとって有利な有利状態に制御される割合が異なる（例えば、図13-3に示すように、アクティブ表示30TM003の最終表示態様が通常態様であり且つ副アクティブ表示30TM005の最終表示態様が通常態様である場合よりも、アクティブ表示30TM003の最終表示態様が金色態様であり且つ副アクティブ表示30TM005の最終表示態様が赤色態様である場合の方が大当たり期待度は高くなる）

ことを特徴とする。

このような構成によれば、第1情報の態様と第2情報の態様との組合せに注目させることができ、興趣を向上させることができる。

【0111】

30

手段L4の遊技機は、

手段L1～手段L3から選択される何れかの遊技機であって、

前記表示制御手段（演出制御用CPU120）は、

第1情報としての第1保留表示（第1保留表示30TM001）を前記第1情報表示領域（第1保留表示領域30TM101）に表示するとともに、実行中の可変表示に対応した第1対応表示（アクティブ表示30TM003）を前記第1情報表示領域（アクティブ表示領域30TM103）に表示し、

第1保留表示に対応した可変表示を開始するときに、当該可変表示に対応した第1対応表示を、当該第1保留表示と共通の態様により表示させることが可能であり（図13-9（9）、（10）に示すように、赤色態様の第1保留表示30TM001c（赤色の丸形表示）がアクティブ表示領域30TM103にシフトすると、同じ表示色である赤色態様のアクティブ表示30TM003c（赤色の丸形表示）が表示され）、

40

第2情報としての第2保留表示（副保留表示30TM004）を前記第2情報表示領域（副保留表示領域30TM104、副アクティブ表示領域30TM105）に表示するとともに、実行中の可変表示に対応した第2対応表示（副アクティブ表示30TM005）を前記第2情報表示領域（副保留表示領域30TM104、副アクティブ表示領域30TM105）に表示し、

第2保留表示に対応した可変表示を開始するときに、当該可変表示に対応した第2対応表示を、当該第2保留表示と共通の態様により表示させることが可能である（図13-9（9）、（10）に示すように、赤色態様の副保留表示30TM004c（赤色の星形表

50

示)が副アクティブ表示領域30TM105にシフトすると、同じ表示色である赤色態様の副アクティブ表示30TM005c(赤色の星形表示)が表示される)

ことを特徴とする。

このような構成によれば、実行中の可変表示に対応した情報として、第1対応情報及び第2対応情報という複数種類の情報を表示可能であることにより、可変表示に対応した情報に関する興趣を向上させることができるとともに、第1対応情報及び第2対応情報の態様に関心を持たせることができる。

【0112】

手段L5の遊技機は、

手段L1～手段L4から選択される何れかの遊技機であって、

遊技者にとって有利な有利状態(大当り遊技状態)に制御されるか否かを報知する報知演出(リーチ演出)を実行可能な報知演出実行手段(演出制御用CPU120)を備え、

前記第1情報表示領域(第1保留表示領域30TM101、アクティブ表示領域30TM103)の少なくとも一部は、前記報知演出が実行される領域に含まれ、

前記表示制御手段(演出制御用CPU120)は、前記報知演出が実行されることに伴い第1情報を非表示とすることが可能である一方、前記報知演出が実行されているときにも第2情報は視認可能とする(図13-9(11)に示すように、リーチ状態が成立すると、「リーチ!!」という文字が画面下部に表示されることに伴い、第1保留表示30TM001及びアクティブ表示30TM003が非表示になる一方、副保留表示30TM004及び副アクティブ表示30TM005は継続して表示される)

ことを特徴とする。

このような構成によれば、第1情報を非表示とすることで報知演出に対する注目を高めるとともに、第2情報を継続して表示することで、報知演出の実行中も可変表示に対する情報を確認可能とすることができる。

【0113】

手段L6の遊技機は、

手段L1～手段L5から選択される何れかの遊技機であって、

前記表示制御手段(演出制御用CPU120)は、実行中の可変表示に対応した第1対応表示(アクティブ表示30TM003)を前記第1情報表示領域(第1保留表示領域30TM101、アクティブ表示領域30TM103)に表示し、実行中の可変表示に対応した第2対応表示(副アクティブ表示30TM005)を前記第2情報表示領域(副保留表示領域30TM104、副アクティブ表示領域30TM105)に表示し、

第1対応表示の態様が変化するとき実行される第1作用演出と、第2対応表示の態様が変化するとき実行される第2作用演出とで、演出の態様が異なる(例えば、アクティブ表示30TM003の表示態様を変化させるアクティブ作用演出は、キャラクタAが出現してボールを投げるアクションを実行する態様であり、副アクティブ表示30TM005の表示態様を変化させる副アクティブ作用演出は、キャラクタaが出現して風船を飛ばすアクションを実行する態様である)

ことを特徴とする。

このような構成によれば、第1作用演出と第2作用演出の態様が異なることにより、興趣を向上させることができる。

【0114】

手段L7の遊技機は、

手段L1～手段L6から選択される何れかの遊技機であって、

前記表示制御手段(演出制御用CPU120)は、第1情報としての第1保留表示(第1保留表示30TM001)を前記第1情報表示領域(第1保留表示領域30TM101)に表示し、第2情報としての第2保留表示(副保留表示30TM004)を前記第2情報表示領域(副保留表示領域30TM104)に表示し、

第1保留表示の態様が変化したときと、第2保留表示の態様が変化したときとで、遊技者にとって有利な有利状態に制御される割合が異なる(図13-3に示すように、アクテ

10

20

30

40

50

ィブ表示 3 0 T M 0 0 3 の表示態様が変化した場合よりも副アクティブ表示 3 0 T M 0 0 5 の表示態様が変化した場合の方が大当たり期待度は高く、第 1 保留表示 3 0 T M 0 0 1 の表示態様が変化した場合よりも副保留表示 3 0 T M 0 0 4 の表示態様が変化した場合の方が大当たり期待度は高くなる)

ことを特徴とする。

このような構成によれば、第 1 保留表示及び第 2 保留表示の何れの態様が変化したかに注目させることができる。

【0 1 1 5】

特開 2 0 1 6 - 1 4 4 5 8 3 号公報 (図 3 6) に示すように、可変表示に対応した情報としてアクティブ表示が表示され、擬似連変動が実行される毎にアクティブ表示の表示態様を変化させる遊技機が提案されている。特開 2 0 1 6 - 1 4 4 5 8 3 号公報 (図 3 6) に記載されたような遊技機では、可変表示に対応した情報に関する興趣を向上させる余地がある。手段 M 1 ~ M 6 に係る発明は、上記の実状に鑑みてなされたものであり、可変表示に対応した情報に関する興趣を向上させる遊技機を提供することにある。

【0 1 1 6】

手段 M 1 の遊技機は、

可変表示 (特別図柄の変動表示、飾り図柄の変動表示) を実行可能な遊技機 (パチンコ遊技機 1) であって、

可変表示に対応した対応表示 (アクティブ表示 3 0 T M 0 0 3) を表示可能な表示制御手段 (演出制御用 C P U 1 2 0) と、

対応表示の態様が変化することを示唆する変化示唆演出を実行可能な変化示唆演出実行手段 (演出制御用 C P U 1 2 0) と、を備え、

前記変化示唆演出実行手段は、変化示唆演出として、成功態様の変化示唆演出 (図 1 3 - 1 8 (1)、(2) に示すように、キャラクタが投げたボールがアクティブ表示 3 0 T M 0 0 3 に命中して表示態様を変化させる演出) と、失敗態様の変化示唆演出 (図 1 3 - 1 9 (1 0)、(2 0) に示すように、キャラクタが投げたボールがアクティブ表示 3 0 T M 0 0 3 に弾かれて表示態様を変化させない演出) を実行可能であり、

成功態様の変化示唆演出の実行回数に応じて、所定期間内 (例えば、変動開始からリーチ状態が成立するまでの期間内、変動開始から飾り図柄 (仮停止後に再変動 (擬似連) が行われることになる飾り図柄の組み合わせ又は擬似連図柄) が仮停止するまでの期間内、変動開始から左中右の何れかの飾り図柄が最初に停止するまでの期間内) に次の変化示唆演出が実行される割合が異なる (例えば、図 1 3 - 1 6 に示すように、2 回目の変化示唆演出が実行された段階において、2 回とも成功態様だった場合には 1 0 0 % の割合で 3 回目の変化示唆演出が実行され、1 回が成功態様であり 1 回が失敗態様だった場合には 3 回目の変化示唆演出が実行されない場合がある)

ことを特徴とする。

このような構成によれば、変化示唆演出の実行回数に対する注目度合いを高めて、興趣を向上させることができる。

【0 1 1 7】

手段 M 2 の遊技機は、

手段 M 1 の遊技機であって、

対応表示 (アクティブ表示 3 0 T M 0 0 3) の態様に応じて、遊技者にとって有利な有利状態 (大当たり遊技状態) に制御される割合が異なり (図 1 3 - 3 (A) に示すように、アクティブ表示の最終表示態様によって大当たり期待度が異なり)、

成功態様の変化示唆演出が連続した回数に応じて、対応表示が何れの態様となるかの割合が異なる (図 1 3 - 1 6 (A) に示すように、成功態様の変化示唆演出が連続する回数が多いほど大当たり期待度が高く、同じ表示色のアクティブ表示であっても成功態様の変化示唆演出が連続する回数が多い方が大当たり期待度が高い)

ことを特徴とする。

このような構成によれば、成功態様の変化示唆演出が連続した回数に関心を持たせるこ

10

20

30

40

50

とができ、興趣を向上させることができる。

【0118】

手段M3の遊技機は、

手段M1又は手段M2の遊技機であって、

飾り図柄の可変表示を実行可能であり、

変化示唆演出が実行されているときには、飾り図柄の可変表示態様が変化しない（図13-18に示すように、変化示唆演出が実行されているときは飾り図柄の変動表示に関して仮停止が行われず変動方向も変化しない）

ことを特徴とする。

このような構成によれば、飾り図柄の可変表示態様が変化しないことにより、変化示唆演出に一層注目させることができる。

10

【0119】

手段M4の遊技機は、

手段M1～手段M3から選択される何れかの遊技機であって、

前記変化示唆演出実行手段（演出制御用CPU120）は、複数種類の変化示唆演出（例えば、キャラクタAが登場する変化示唆演出及びキャラクタBが登場する変化示唆演出）を実行可能であり、

1の種類の变化示唆演出を実行した後に、異なる種類の变化示唆演出を実行可能である（例えば、図13-18（1）に示すように、キャラクタAが登場する変化示唆演出を実行した後に、図13-18（4）に示すように、キャラクタBが登場する変化示唆演出を実行する）

20

ことを特徴とする。

このような構成によれば、変化示唆演出の多様化を図ることができる。

【0120】

手段M5の遊技機は、

手段M1～手段M4から選択される何れかの遊技機であって、

前記変化示唆演出実行手段（演出制御用CPU120）は、複数種類の変化示唆演出（例えば、キャラクタAが登場する変化示唆演出、キャラクタBが登場する変化示唆演出、キャラクタCが登場する変化示唆演出、キャラクタDが登場する変化示唆演出）を実行可能であり、

30

変化示唆演出の種類に応じて、成功態様の变化示唆演出が実行される割合が異なり、特定態様の対応表示に変化する割合が異なる（例えば、図13-17に示すように、キャラクタAよりもキャラクタDの方が、成功態様の变化示唆演出が実行される割合が高く、アクティブ表示の表示態様が変化する割合が高い）

ことを特徴とする。

このような構成によれば、何れの種類の変化示唆演出が実行されるかに興味を持たせることができる。

【0121】

手段M6の遊技機は、

手段M1～手段M5から選択される何れかの遊技機であって、

40

前記変化示唆演出実行手段（演出制御用CPU120）は、複数種類の変化示唆演出（キャラクタAが登場する変化示唆演出、キャラクタBが登場する変化示唆演出、キャラクタCが登場する変化示唆演出、キャラクタDが登場する変化示唆演出）を実行可能であり、

変化示唆演出の種類に応じて、次の変化示唆演出が実行される割合が異なる（図13-17に示すように、キャラクタDよりもキャラクタAの方が、次の変化示唆演出が実行される割合が高い）

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、何れの種類の変化示唆演出が実行されるかに興味を持たせることができる。

50

【0122】

特開2016-144583号公報（図36）に示すように、可変表示に対応した情報としてアクティブ表示が表示され、擬似連変動が実行される毎にアクティブ表示の表示態様を変化させる遊技機が提案されている。特開2016-144583号公報（図36）に記載されたような遊技機では、可変表示に対応した情報に関する興趣を向上させる余地がある。手段N1～N6に係る発明は、上記の実状に鑑みてなされたものであり、可変表示に対応した情報に関する興趣を向上させる遊技機を提供することにある。

【0123】

手段N1の遊技機は、

可変表示（特別図柄の変動表示、飾り図柄の変動表示）を実行可能な遊技機（パチンコ遊技機1）であって、

可変表示に対応した対応表示（アクティブ表示30TMO03）を表示可能な表示制御手段（演出制御用CPU120）と、

対応表示の態様を変化することを示唆する変化示唆演出を実行可能な変化示唆演出実行手段（演出制御用CPU120）と、を備え、

前記変化示唆演出実行手段は、変化示唆演出として、成功態様の変化示唆演出（図13-18（1）、（2）に示すように、キャラクタAが投げたボールがアクティブ表示30TMO03に命中して表示態様を変化させる演出）と、失敗態様の変化示唆演出（図13-19（10）、（20）に示すように、キャラクタDが投げたボールがアクティブ表示30TMO03に弾かれて表示態様を変化させない演出）を実行可能であり、

所定期間（例えば、変動開始からリーチ状態が成立するまでの期間内、変動開始から飾り図柄（仮停止後に再変動（擬似連）が行われることになる飾り図柄の組み合わせ又は擬似連図柄）が仮停止するまでの期間内、変動開始から左中右の何れかの飾り図柄が最初に停止するまでの期間内）における変化示唆演出の実行回数に対しての成功態様の変化示唆演出の実行回数に応じて、遊技者にとって有利な有利状態に制御される割合が異なる（図13-16（A）に示すように、[変化示唆演出の実行回数]に対する[成功態様の変化示唆演出の実行回数]の割合が高いほど、大当たり期待度が高い表示態様になり易く、例えば、[成功態様の変化示唆演出の実行回数/変化示唆演出の実行回数]が2/3である場合の表示態様は青色態様となり、4/5である場合の表示態様はより大当たり期待度の高い赤色態様となる。）

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、変化示唆演出の実行回数に対する注目度合いを高めて、興趣を向上させることができる。

【0124】

手段N2の遊技機は、

手段N1の遊技機であって、

対応表示（アクティブ表示30TMO03）の態様に応じて有利状態（大当たり遊技状態）に制御される割合が異なり（図13-3（A）に示すように、アクティブ表示の最終表示態様によって大当たり期待度が異なり）、

成功態様の変化示唆演出が連続した回数に応じて、対応表示が何れの態様となるかの割合が異なる（図13-16（A）に示すように、成功態様の変化示唆演出が連続する回数が多いほど大当たり期待度が高く、同じ表示色のアクティブ表示であっても成功態様の変化示唆演出が連続する回数が多い方が大当たり期待度が高い）

ことを特徴とする。

このような構成によれば、成功態様の変化示唆演出が連続した回数に関心を持たせることができ、興趣を向上させることができる。

【0125】

手段N3の遊技機は、

手段N1又は手段N2の遊技機であって、

飾り図柄の可変表示を実行可能であり、

変化示唆演出が実行されているときには、飾り図柄の可変表示態様が変化しない（図13-18に示すように、変化示唆演出が実行されているときは飾り図柄の変動表示に関して仮停止が行われず変動方向も変化しない）

ことを特徴とする。

このような構成によれば、飾り図柄の可変表示態様が変化しないことにより、変化示唆演出に一層注目させることができる。

【0126】

手段N4の遊技機は、

手段N1～手段N3から選択される何れかの遊技機であって、

前記変化示唆演出実行手段（演出制御用CPU120）は、複数種類の変化示唆演出（例えば、キャラクタAが登場する変化示唆演出及びキャラクタBが登場する変化示唆演出）を実行可能であり、

1の種類の变化示唆演出を実行した後に、異なる種類の変化示唆演出を実行可能である（例えば、図13-18（1）に示すように、キャラクタAが登場する変化示唆演出を実行した後に、図13-18（4）に示すように、キャラクタBが登場する変化示唆演出を実行する）

ことを特徴とする。

このような構成によれば、変化示唆演出の多様化を図ることができる。

【0127】

手段N5の遊技機は、

手段N1～手段N4から選択される何れかの遊技機であって、

前記変化示唆演出実行手段（演出制御用CPU120）は、複数種類の変化示唆演出（例えば、キャラクタAが登場する変化示唆演出、キャラクタBが登場する変化示唆演出、キャラクタCが登場する変化示唆演出、キャラクタDが登場する変化示唆演出）を実行可能であり、

変化示唆演出の種類に応じて、成功態様の变化示唆演出が実行される割合が異なり、特定態様の対応表示に変化する割合が異なる（例えば、図13-17に示すように、キャラクタAよりもキャラクタDの方が、成功態様の变化示唆演出が実行される割合が高く、アクティブ表示の表示態様が変化する割合が高い）

ことを特徴とする。

このような構成によれば、何れの種類の変化示唆演出が実行されるかに興味を持たせることができる。

【0128】

手段N6の遊技機は、

手段N1～手段N5から選択される何れかの遊技機であって、

前記変化示唆演出実行手段（演出制御用CPU120）は、複数種類の変化示唆演出（キャラクタAが登場する変化示唆演出、キャラクタBが登場する変化示唆演出、キャラクタCが登場する変化示唆演出、キャラクタDが登場する変化示唆演出）を実行可能であり、

変化示唆演出の種類に応じて、次の変化示唆演出が実行される割合が異なる（図13-17に示すように、キャラクタDよりもキャラクタAの方が、次の変化示唆演出が実行される割合が高い）

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、何れの種類の変化示唆演出が実行されるかに興味を持たせることができる。

【0129】

また、特開2010-200902号公報（段落0007）に示すように、複数段階の設定値を外部からの設定変更操作に基づいて変更する設定変更手段を備える遊技機が提案されている。また、特開2014-200506号公報（段落0102）に示すように、主制御基板の外部出力端子から、「大当たり信号」等が出力される遊技機が提案されてい

10

20

30

40

50

る。特開2010-200902号公報（段落0007）に記載されたような遊技機に関しては、設定値の変更等の際に、設定に関連する制御状態を外部装置側で把握することが必要となる場合があるが、特開2014-200506号公報（段落0102）に記載されている従来の遊技機の信号出力技術を適用しても、外部装置側でこれを把握することが困難であるという課題がある。手段O1～手段O4に係る発明は、上記の実状に鑑みてなされたものであり、設定に関連する制御状態を遊技機外部に適切に通知可能な遊技機を提供することにある。

【0130】

手段O1の遊技機は、

設定値（大当たり判定用乱数の範囲が異なる設定値0～5の6段階）に応じた制御（特別図柄プロセス処理における大当たり判定処理等）を実行可能な遊技機（パチンコ遊技機1）であって、

設定値を変更可能な設定変更モードに制御可能な設定変更モード制御手段（ステップS21TM4530～ステップS21TM4620を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ100）と、

設定値を確認可能な設定確認モードに制御可能な設定確認モード制御手段（ステップS21TM4530～ステップS21TM4570及びステップS21TM4650を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ100）と、

前記設定変更モード及び前記設定確認モードの何れかの制御の開始に対応して特定信号（セキュリティ信号）を出力する特定信号出力手段（ステップS21TM4560でセキュリティ信号を出力する遊技制御用マイクロコンピュータ100）と、

特定信号が出力される期間に関する値（セキュリティ信号タイマの値）を設定する設定手段（セキュリティ信号タイマの値をセットする遊技制御用マイクロコンピュータ100）と、を備え、

前記設定手段は、前記設定変更モードに制御される場合と前記設定確認モードに制御される場合とで共通の所定値を設定可能であり（ステップS21TM4710でセキュリティ信号タイマの値として1秒を設定し）、

前記特定信号出力手段は、前記設定変更モード及び前記設定確認モードの何れかの制御の終了に対応して、少なくとも前記所定値に対応した期間が経過するまで特定信号を出力する（設定確認モードの終了に伴い設定確認モードの終了から1秒が経過するまでセキュリティ信号を継続して出力し、設定変更モードの終了に伴い設定変更モードの終了から30秒が経過するまでセキュリティ信号を継続して出力する）

ことを特徴とする。

これによれば、設定に関連する遊技機の状態を外部装置に適切に通知できる。

【0131】

手段O2の遊技機は、

手段O1の遊技機であって、

遊技状態を初期化する初期化手段（ステップS21TM4050、ステップS21TM4150でRAMクリアフラグがセットされていることに基づいてRAMクリア（ステップS21TM1410）を実行する遊技制御用マイクロコンピュータ100）を備え、

前記初期化手段は前記設定変更モードの制御に伴い遊技状態を初期化し（設定変更モードに制御される場合には、設定変更モードに制御された後にRAMクリアが実行されており）、

前記設定手段は、前記所定値を設定した後（ステップS21TM4710でセキュリティ信号タイマの値として1秒を設定した後）に、前記所定値に対応した期間よりも長い期間に対応した特定値を設定可能であり（RAMクリアが実行される場合にはステップS21TM1465でセキュリティ信号タイマの値として30秒を設定可能であり）、

前記特定信号出力手段は、前記設定変更モードの制御の終了に対応して、前記特定値に対応した期間が経過するまで特定信号を出力する（設定変更モードの終了に伴い設定変更モードの終了から30秒が経過するまでセキュリティ信号を継続して出力する）

ことを特徴とする。

これによれば、設定変更モードの制御が終了した場合及び設定確認モードの制御が終了した場合の何れの場合にも少なくとも所定値に対応した期間は特定信号が出力されることになり、設定変更モードに制御された場合には所定値に対応した期間よりも長い期間、特定信号が出力されることになるため、設定手段による設定処理を共通化しつつ設定変更モードと設定確認モードとで異なる出力期間を設定することが可能となる。

【0132】

手段〇3の遊技機は、

手段〇1又は手段〇2の遊技機であって、

前記設定変更モードにおいて、前記設定変更モードを終了させるための特定操作（ステップS21TM4680で錠スイッチ21TM051がOFFとされたことの検出）が行われることなく当該遊技機への電力供給が停止された場合に特定情報（設定変更中フラグ）を記憶する特定情報記憶手段（RAM102のバックアップ領域において、設定変更モードに移行したことに基づいてステップS21TM4580で設定変更中フラグをセットし、設定変更モードが終了したことに基づいてステップS21TM4720で設定変更中フラグをクリアする遊技制御用マイクロコンピュータ100）を備え、

当該遊技機への電力供給が開始された場合に前記特定情報記憶手段に前記特定情報が記憶されているときに（電源復旧時のステップS21TM4030で設定変更中フラグがセットされていると判定された場合に）、遊技停止状態とするとともに特定信号を出力する（設定変更モードに移行するための条件が成立していないことに基づいてステップS21TM4200～ステップS21TM4220の処理を電源断まで繰り返し実行する）ことが可能である

ことを特徴とする。

これによれば、設定変更モードの制御中に電力供給が停止された場合に、電力供給再開時に遊技機の状態を外部装置に適切に通知することができる。

【0133】

手段〇4の遊技機は、

手段〇1～手段〇3から選択される何れかの遊技機であって、

遊技の進行を制御する遊技制御手段（遊技制御用タイマ割込処理を実行する遊技制御用マイクロコンピュータ100）と、

演出の実行を制御する演出制御手段（演出制御用CPU120）と、を備え、

前記遊技制御手段は、

表示手段（表示モニタ21TM029）と、

前記設定変更モード制御手段（ステップS21TM4530～ステップS21TM4620の処理を実行する遊技制御用マイクロコンピュータ100）と、

前記設定変更モードにおいて、前記設定変更モードを終了させるための特定操作が行われることなく（ステップS21TM4680で錠スイッチ21TM051がOFFとされる操作が検出されることなく）当該遊技機への電力供給が停止された場合に特定情報を記憶する特定情報記憶手段（RAM102のバックアップ領域において、設定変更モードに移行したことに基づいてステップS21TM4580で設定変更中フラグをセットし、設定変更モードが終了したことに基づいてステップS21TM4720で設定変更中フラグをクリアする遊技制御用マイクロコンピュータ100）と、を有し、

当該遊技機への電力供給が開始された場合に前記特定情報記憶手段に前記特定情報が記憶されているときに（電源復旧時のステップS21TM4030で設定変更中フラグがセットされていると判定された場合に）、前記表示手段においてエラー報知を実行するとともに前記演出制御手段にエラーコマンドを送信することが可能であり（ステップS21TM4190で設定値異常エラーコマンドを送信し、ステップS21TM4210のエラー表示において表示モニタ21TM029に「E」の文字を表示することが可能であり）、

前記演出制御手段は、前記エラーコマンドを受信したことに応じて、設定値を変更するための操作を促す報知を行う（画像表示装置5に「電源断後に電源を再投入して設定変更

10

20

30

40

50

モードに移行させて下さい」というメッセージを表示する)
ことを特徴とする。

これによれば、遊技場の店員に対して遊技機の状態を適切に報知できるとともに、設定値を変更するための操作を促すことができる。

【0134】

また、特開2010-200902号公報（段落0007）に示すように、複数段階の設定値を外部からの設定変更操作に基づいて変更する設定変更手段を備える遊技機が提案されている。特開2010-200902号公報（段落0007）に記載されたような遊技機では、設定値を変更する際に電力供給が停止された場合に、遊技機の状態を適切に報知する必要がある。手段P1～手段P4に係る発明は、上記の実状に鑑みてなされたものであり、設定値を変更する際に電力供給が停止された場合に、遊技機の状態を適切に報知する遊技機を提供することにある。

10

【0135】

手段P1の遊技機は、

設定値（大当たり判定用乱数の範囲が異なる設定値0～5の6段階）に応じた制御（特別図柄プロセス処理における大当たり判定処理等）を実行可能な遊技機（パチンコ遊技機1）であって、

設定値を変更可能な設定変更モードに制御可能な設定変更モード制御手段（ステップS21TM4530～ステップS21TM4620を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ100）と、

20

前記設定変更モードに制御されたことを特定可能な特定情報を記憶する特定情報記憶手段（設定変更モードに移行したことに基づいてステップS21TM4580で設定変更中フラグをセットし、設定変更モードが終了したことに基づいてステップS21TM4720で設定変更中フラグをクリアする遊技制御用マイクロコンピュータ100）と、を備え、

前記特定情報記憶手段は、当該遊技機への電力供給が停止された後も前記特定情報を記憶可能であり（設定変更中フラグの値はRAM102のバックアップ領域に格納されており）、

当該遊技機への電力供給が開始された場合に前記特定情報記憶手段に前記特定情報が記憶されているときに（電源復旧時のステップS21TM4030で設定変更中フラグがセットされていると判定された場合に）、エラー報知を実行可能なエラー報知手段（設定変更モードへの移行条件が成立していない場合にステップS21TM4210でエラー表示を行う遊技制御用マイクロコンピュータ100）をさらに備える

30

ことを特徴とする。

これによれば、設定変更モードにおいて電力供給が停止された場合に遊技機の状態を適切に報知することができる。

【0136】

手段P2の遊技機は、

手段P1の遊技機であって、

前記設定変更モード制御手段は、設定変更条件が成立していること（電源投入時に、遊技機用枠3が開放状態となっており、錠スイッチ21TM051がON状態であり、且つ、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052がON状態であること）に基づいて前記設定変更モードに制御可能であり、

40

当該遊技機への電力供給が開始された場合に前記特定情報記憶手段に前記特定情報が記憶されているときに（電源復旧時のステップS21TM4030で設定変更中フラグがセットされていると判定された場合に）、前記設定変更条件が成立していることに基づいて、前記エラー報知を実行することなく前記設定変更モードに制御可能である（電源投入時に、ステップS21TM4120、ステップS21TM4130、ステップS21TM4140ですべてYESと判定されたことに基づいて、ステップS21TM4200～ステップS21TM4220のループ処理に移行することなく設定変更モードに移行する）

50

ことを特徴とする。

これによれば、設定変更モードに制御される条件が成立しているときにはエラー報知を実行することなく設定変更モードに制御されることになり、不要なエラー報知を回避して適切に設定値の変更を促すことができる。

【0137】

手段P3の遊技機は、

手段P1又は手段P2の遊技機であって、

当該遊技機への電力供給が開始された場合に前記特定情報記憶手段に前記特定情報が記憶されているときに（電源復旧時のステップS21TM4030で設定変更中フラグがセットされていると判定された場合に）、前記エラー報知を実行するとともに遊技停止状態とすることが可能である（電源投入時に、設定変更モードへの移行条件が成立していない場合には（ステップS21TM4120～ステップS21TM4140の何れかでNOと判定された場合には）、設定変更モードに移行することなくステップS21TM4200～ステップS21TM4220のループ処理に移行する）

ことを特徴とする。

これによれば、設定値が不安定な状態での遊技の進行を制限することができ、適切な遊技制御を実現できる。

【0138】

手段P4の遊技機は、

手段P1～手段P3から選択される何れかの遊技機であって、

遊技の進行を制御する遊技制御手段（遊技制御用タイマ割込処理を実行する遊技制御用マイクロコンピュータ100）と、

演出の実行を制御する演出制御手段（演出制御用CPU120）と、を備え、

前記遊技制御手段は、

表示手段（表示モニタ21TM029）と、

前記設定変更モード制御手段（ステップS21TM4530～ステップS21TM4620の処理を実行する遊技制御用マイクロコンピュータ100）と、

前記特定情報記憶手段と、を有し、

当該遊技機への電力供給が開始された場合に前記特定情報記憶手段に前記特定情報が記憶されているときに（電源復旧時のステップS21TM4030で設定変更中フラグがセットされていると判定された場合に）、前記表示手段において前記エラー報知を実行するとともに前記演出制御手段にエラーコマンドを送信することが可能であり（ステップS21TM4190で設定値異常エラーコマンドを送信し、ステップS21TM4210のエラー表示において表示モニタ21TM029に「E」の文字を表示することが可能であり）、

前記演出制御手段は、前記エラーコマンドを受信したことに応じて、設定値を変更するための操作を促す報知を行う（画像表示装置5に「電源断後に電源を再投入して設定変更モードに移行させて下さい」というメッセージを表示する）

ことを特徴とする。

これによれば、遊技場の店員に対して遊技機の状態を適切に報知できるとともに、設定値を変更するための操作を促すことができる。

【0139】

また、特開2010-200902号公報（段落0007）に示すように、複数段階の設定値を外部からの設定変更操作に基づいて変更する設定変更手段を備える遊技機が提案されている。特開2010-200902号公報（段落0007）に記載されたような遊技機では、設定値を変更する際に電力供給が停止された場合に、遊技機の状態を適切に定める必要がある。手段Q1～手段Q5に係る発明は、上記の実状に鑑みてなされたものであり、設定値を変更する際に電力供給が停止された場合に、遊技機の状態を適切に定める遊技機を提供することにある。

【0140】

手段Q1の遊技機は、

設定値（大当たり判定用乱数の範囲が異なる設定値0～5の6段階）に応じた制御（特別図柄プロセス処理における大当たり判定処理等）を実行可能な遊技機（パチンコ遊技機1）であって、

設定値を変更可能な設定変更モードに制御可能な設定変更モード制御手段（ステップS21TM4530～ステップS21TM4620を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ100）と、

前記設定変更モードに制御されたことを特定可能な特定情報を記憶する特定情報記憶手段（設定変更モードに移行したことに基づいてステップS21TM4580で設定変更中フラグをセットし、設定変更モードが終了したことに基づいてステップS21TM4720で設定変更中フラグをクリアする遊技制御用マイクロコンピュータ100）と、を備え、

前記特定情報記憶手段は、当該遊技機への電力供給が停止された後も前記特定情報を記憶可能であり（設定変更中フラグの値はRAM102のバックアップ領域に格納されており）、

前記設定変更モード制御手段は、当該遊技機への電力供給が開始された場合に前記特定情報記憶手段に前記特定情報が記憶されているときに（電源復旧時のステップS21TM4030で設定変更中フラグがセットされていると判定された場合に）、前記設定変更モードに制御する（電源投入時に、遊技機用枠3が開放状態となっており、錠スイッチ21TM051がON状態であり、且つ、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052がON状態である、という設定変更モードに移行するための条件が成立しているか否かにかかわらず、自動的に設定変更モードに制御する）

ことを特徴とする。

これによれば、遊技状態の初期化を伴う設定変更モードにおいて電力供給が停止された場合に遊技機の状態を適切に定めることができる。

なお、手段Q1の遊技機が、前記設定変更モードの制御に対応して遊技状態を初期化する初期化手段（例えば、ステップS21TM4050、ステップS21TM4150でRAMクリアフラグがセットされていることに基づいてRAMクリア（ステップS21TM1410）を実行する遊技制御用マイクロコンピュータ100）を更に備えていても良い。

【0141】

手段Q2の遊技機は、

手段Q1の遊技機であって、

前記設定変更モード制御手段は、当該遊技機への電力供給が開始された場合に、前記特定情報記憶手段に前記特定情報が記憶されていないときには設定変更条件が成立していることに基づいて前記設定変更モードに制御し（電源投入時に、設定変更中フラグがセットされていない場合には（ステップS21TM4030でNO）、遊技機用枠3が開放状態となっており、錠スイッチ21TM051がON状態であり、且つ、RAMクリアフラグが1である（クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052がON状態であったことにより設定変更モード終了後にRAMクリアが実行される）、という設定変更モードに移行するための条件が成立していることに基づいて設定変更モードに移行し）、前記特定情報記憶手段に前記特定情報が記憶されている場合には前記設定変更条件が成立しているか否かにかかわらず前記設定変更モードに制御する（電源投入時に、設定変更中フラグがセットされている場合には（ステップS21TM4030でYES）、設定変更モードに移行するための条件が成立しているか否かにかかわらず、自動的に設定変更モードに制御する）

ことを特徴とする。

これによれば、設定変更モード制御中に電源断が発生した場合には、電源復旧時に特定情報が記憶されていることに基づいて、設定変更条件が成立していないときにも設定変更モードに制御されることになるため、作業性を向上させることができる。

【0142】

手段Q3の遊技機は、

手段Q1又は手段Q2の遊技機であって、

前記設定変更モード制御手段は、当該遊技機への電力供給が開始された場合の移行操作（電源投入時に、設定変更中フラグがセットされていないときには（ステップS21TM4030でNO）、遊技機用枠3が開放状態となっており、錠スイッチ21TM051がON状態であり、且つ、RAMクリアフラグが1である（クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052がON状態であったことにより設定変更モード終了後にRAMクリアが実行される）、という設定変更モードに移行するための条件が成立していること）に基づいて前記設定変更モードに制御することが可能であり、前記設定変更モードに制御されているときの特定操作（ステップS21TM4680で錠スイッチ21TM051がOFFになったことが確認されたこと）に基づいて前記設定変更モードを終了させることが可能であり、

10

前記特定情報記憶手段は、前記設定変更モードに制御されるときに前記特定情報を記憶し（設定変更モードの制御が開始されたステップS21TM4580のタイミングで設定変更中フラグをセットし）、前記特定操作に基づいて前記設定変更モードが終了するときに前記特定情報を消去し（設定変更モードの制御が終了したステップS21TM4720のタイミングで設定変更中フラグをクリアし）、

前記設定変更モード制御手段は、当該遊技機への電力供給が開始された場合に、前記特定情報記憶手段に前記特定情報が記憶されているときには前記移行操作が行われたか否かにかかわらず前記設定変更モードに制御し（電源投入時に、設定変更中フラグがセットされている場合には（ステップS21TM4030でYES）、設定変更モードに移行するための条件が成立しているか否かにかかわらず、自動的に設定変更モードに制御し）、前記特定操作に基づいて前記設定変更モードを終了させる（ステップS21TM4680で錠スイッチ21TM051がOFFになったことが確認されたことに基づいて設定変更モードを終了させる）

20

ことを特徴とする。

これによれば設定変更モードの制御を終了させる条件を適切に定めることができる。

【0143】

手段Q4の遊技機は、

手段Q1～手段Q3から選択される何れかの遊技機であって、

設定値（大当り判定用乱数の範囲が異なる設定値0～5の6段階）を記憶する設定値記憶手段（設定値が格納されるRAM102の設定値格納領域）を備え、

前記設定値記憶手段に記憶されている設定値に応じた制御（特別図柄プロセス処理における大当り判定処理等）を実行可能であり、

前記設定変更モードに制御されているときの変更操作に基づいて前記設定値記憶手段に記憶されている設定値を変更し（ステップS21TM4610で設定切替スイッチ（クリアスイッチ）21TM052が操作された場合には設定値格納領域に格納されている設定値を変更し）、

前記設定変更モード制御手段は、前記設定変更モードに制御されているときの特定操作に基づいて前記設定変更モードを終了させ（ステップS21TM4680で錠スイッチ21TM051がOFFになったことが確認されたことに基づいて設定変更モードを終了させ）、

30

40

前記設定値記憶手段は、前記設定変更モードに制御されている場合に前記特定操作が行われることなく当該遊技機への電力供給が停止されたときに、前記設定変更モードにおいて前記変更操作により変更された後の設定値を継続して記憶する（設定値格納領域はRAM102のバックアップ領域に形成されており、設定変更モード中に設定切替スイッチ（クリアスイッチ）21TM052が操作されると設定値格納領域に格納されている設定値自体が変更されることになるため、設定変更モード中に電源断が発生した場合でも変更操作により変更された後の設定値が保持される）

50

ことを特徴とする。

これによれば、電力供給が再開されたときに、電源断発生前の設定変更モードにおいて変更操作により変更された後の設定値が設定値記憶手段に記憶されており、当該設定値に応じた制御が実行されることになるため作業性を向上できる。

【0144】

手段Q5の遊技機は、

手段Q1～手段Q3から選択される何れかの遊技機であって、

設定値（大当り判定用乱数の範囲が異なる設定値0～5の6段階）を記憶する設定値記憶手段（設定値が格納されるRAM102の設定値格納領域）を備え、

前記設定値記憶手段に記憶されている設定値に応じた制御（特別図柄プロセス処理における大当り判定処理等）を実行可能であり、

前記設定変更モード制御手段は、前記設定変更モードに制御されているときの変更操作と（設定変更モードにおいて設定切替スイッチ（クリアスイッチ）21TM052が操作された場合には設定値格納領域に格納されている設定値ではなく設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値のみを変更し）、該変更操作後の特定操作とに基づいて前記設定値記憶手段に記憶されている設定値を変更するとともに前記設定変更モードを終了させ（設定変更モードにおいて錠スイッチ21TM051がOFFになったことが確認されたことに基づいてそのとき設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値を設定値格納領域に格納して有効な設定値として確定させるとともに設定変更モードを終了させ）、

前記設定値記憶手段は、前記設定変更モードに制御されている場合に前記特定操作が行われることなく当該遊技機への電力供給が停止されたときに、前記設定変更モードにおいて前記変更操作が行われる前の設定値を記憶する（設定変更モード中に設定切替スイッチ（クリアスイッチ）21TM052が操作された場合でも錠スイッチ21TM051がOFFに切り替えられなければ設定値格納領域に格納されている設定値自体は変更されないため、設定変更モード中に電源断が発生した場合には設定変更モードに制御される前の設定値が保持される）

ことを特徴とする。

これによれば、設定変更モードが終了していない不安定な状態において電力供給が停止された場合に、設定値の変更を制限することができる。

【0145】

また、特開2010-200902号公報に記載の遊技機の問題を解決する手段QAの遊技機として、

設定値（大当り判定用乱数の範囲が異なる設定値0～5の6段階）に応じた制御（特別図柄プロセス処理における大当り判定処理等）を実行可能な遊技機（パチンコ遊技機1）であって、

設定値を変更可能な設定変更モードに制御可能な設定変更モード制御手段（ステップS21TM4530～ステップS21TM4620を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ100）と、

前記設定変更モードに制御されたことを特定可能な特定情報を記憶する特定情報記憶手段（設定変更モードに移行したことに基づいてステップS21TM4580で設定変更中フラグをセットし、設定変更モードが終了したことに基づいてステップS21TM4720で設定変更中フラグをクリアする遊技制御用マイクロコンピュータ100）と、を備え、

前記特定情報記憶手段は、当該遊技機への電力供給が停止された後も前記特定情報を記憶可能であり（設定変更中フラグの値はRAM102のバックアップ領域に格納されており）、

前記設定変更モード制御手段は、当該遊技機への電力供給が開始された場合に前記特定情報記憶手段に前記特定情報が記憶されているときに（電源復旧時のステップS21TM4030で設定変更中フラグがセットされていると判定された場合に）、前記設定変更モードに制御し（電源投入時に、遊技機用枠3が開放状態となっており、錠スイッチ21T

M051がON状態であり、且つ、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052がON状態である、という設定変更モードに移行するための条件が成立しているか否かにかかわらず、自動的に設定変更モードに制御する）、

さらに、

第1識別情報（例えば、第1特別図柄）の可変表示および第2識別情報（例えば、第2特別図柄）の可変表示を行うことが可能であり、遊技者にとって有利な有利状態（例えば、大当り遊技状態）と該有利状態とは異なる特殊状態（例えば、小当り遊技状態）とに制御可能な遊技機であって、

第1識別情報の可変表示と第2識別情報の可変表示とを並行して実行可能な可変表示実行手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100における第1特別図柄プロセス処理（ステップS25A）のステップS110A～S113Aを実行する部分、第2特別図柄プロセス処理（ステップS25B）でステップS110A～S113Aと同様の処理を実行する部分）と、

10

所定条件（例えば、大当り図柄を導出表示）が成立した後、特定領域（例えば、通過ゲート41）を遊技媒体（例えば、遊技球）が通過したことにもとづいて、前記有利状態に制御可能な有利状態制御手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100における第1特別図柄プロセス処理（ステップS25A）のステップS115A～S118Aを実行する部分、第2特別図柄プロセス処理（ステップS25B）でステップS115A～S118Aと同様の処理を実行する部分）と、

前記特殊状態に制御可能な特殊状態制御手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100における第1特別図柄プロセス処理（ステップS25A）のステップS119A～S121Aを実行する部分、第2特別図柄プロセス処理（ステップS25B）でステップS119A～S121Aと同様の処理を実行する部分）と、

20

通常状態よりも前記特殊状態による遊技価値が付与されやすい特別状態（例えば、KT状態）に制御可能な特別状態制御手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100におけるステップ138IWS2208A, S2213A, S2214A, S2219A, S2220A, S2208B, S2213B, S2214B, S2219B, S2220Bを実行する部分）と、

特定信号（例えば、大当り信号1）を出力可能な特定信号出力手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100におけるステップS23およびステップ138IWS2022A, S2022B, S2503Bを実行する部分）とを備え、

30

前記特定信号出力手段は、

通常状態において第1識別情報の可変表示により前記所定条件が成立したことにもとづいて前記特定信号を出力可能であり（例えば、図8-22（1）に示すように、通常状態では、第1特別図柄で大当り図柄を導出表示したことにもとづいて大当り信号1の外部出力を開始する）、

通常状態において第2識別情報の可変表示により前記所定条件が成立したことにもとづいて特定信号を出力しない（例えば、図8-22（1）に示すように、通常状態では、第2特別図柄で大当り図柄を導出表示しても大当り信号1の外部出力を開始しない）ことを特徴とする遊技機が挙げられる。

40

そのような構成によれば、遊技状態の初期化を伴う設定変更モードにおいて電力供給が停止された場合に遊技機の状態を適切に定めることができる。さらに、第2識別情報の可変表示により所定条件が成立する場合に適切に信号を出力することができる。

【0146】

この場合、いずれの設定値が設定されていても通常状態において特図2変動の大当りは大当り信号の外部出力をしないことが望ましい。設定値に関わらず大当り信号を出力しないことにより制御の共通化ができ制御負担の軽減となる。

【0147】

なお、特殊状態（例えば、小当り遊技状態）や特別状態（例えば、通常状態よりも小当り遊技状態による賞球等を獲得しやすいKT状態）における演出の態様によって設定値を

50

示唆するようにしてもよい。例えば、演出を行うキャラクタを特殊状態や特別状態の発生毎に複数種類の中から抽選等により選択するとともに、設定されている設定値によって各キャラクタの選択割合を異ならせることにより、設定されている設定値が遊技者にとって有利であるほど、特定種類のキャラクタによる演出が行われやすくなるようにしてもよい。

このようにすれば、設定されている設定値を推測させる機会を遊技者に与えることができ、遊技の興趣が向上する。

【0148】

なお、上記した手段Q1の遊技機に適用できる手段Q2～手段Q5の遊技機は、上記した手段QAの遊技機にも適用することができる。

10

【0149】

また、手段QAの遊技機が、前記設定変更モードの制御に対応して遊技状態を初期化する初期化手段（例えば、ステップS21TM4050、ステップS21TM4150でRAMクリアフラグがセットされていることに基づいてRAMクリア（ステップS21TM1410）を実行する遊技制御用マイクロコンピュータ100）を更に備えていても良い。

【図面の簡単な説明】

【0150】

【図1】この実施の形態におけるパチンコ遊技機の正面図である。

【図2】パチンコ遊技機に搭載された各種の制御基板などを示す構成図である。

20

【図3】遊技制御メイン処理の一例を示すフローチャートである。

【図4】遊技制御用タイマ割込み処理の一例を示すフローチャートである。

【図5】第1特別図柄プロセス処理の一例を示すフローチャートである。

【図6】演出制御メイン処理の一例を示すフローチャートである。

【図7】演出制御プロセス処理の一例を示すフローチャートである。

【図8-1】大当たり判定テーブル、小当たり判定テーブル、および大当たり種別判定テーブルを示す説明図である。

【図8-2】特別図柄および飾り図柄の変動パターン（変動時間）を示す説明図である。

【図8-3】特別図柄および飾り図柄の変動パターン（変動時間）を示す説明図である。

【図8-4】特別図柄および飾り図柄の変動パターン（変動時間）を示す説明図である。

30

【図8-5】KT状態における可変入賞球装置および特殊可変入賞球装置の開放パターンを説明するための説明図である。

【図8-6】演出制御コマンドの内容の一例を示す説明図である。

【図8-7】演出制御コマンドの内容の一例を示す説明図である。

【図8-8】第1特別図柄通常処理を示すフローチャートである。

【図8-9】第1変動パターン設定処理を示すフローチャートである。

【図8-10】第1特別図柄変動処理を示すフローチャートである。

【図8-11】第1特別図柄停止処理を示すフローチャートである。

【図8-12】第1ゲート通過待ち処理を示すフローチャートである。

【図8-13】第1大当たり終了処理を示すフローチャートである。

40

【図8-14】第1大当たり終了処理を示すフローチャートである。

【図8-15】第2特別図柄通常処理を示すフローチャートである。

【図8-16】第2特別図柄停止処理を示すフローチャートである。

【図8-17】第2ゲート通過待ち処理を示すフローチャートである。

【図8-18】第2大当たり終了処理を示すフローチャートである。

【図8-19】第2大当たり終了処理を示すフローチャートである。

【図8-20】遊技状態の遷移の仕方を説明するための説明図である。

【図8-21】外部出力信号を説明するための説明図である。

【図8-22】大当たり信号1および大当たり信号2の出力タイミングを説明するための説明図である。

50

- 【図 8-23】 普通図柄プロセス処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 8-24】 普通図柄通常処理を示すフローチャートである。
- 【図 8-25】 普通図柄停止処理を示すフローチャートである。
- 【図 8-26】 普通電動役物開放前処理を示すフローチャートである。
- 【図 8-27】 コマンド解析処理の具体例を示すフローチャートである。
- 【図 8-28】 デモ表示制御処理を示すフローチャートである。
- 【図 8-29】 デモ表示制御処理を示すフローチャートである。
- 【図 8-30】 可変表示開始待ち処理を示すフローチャートである。
- 【図 8-31】 可変表示開始設定処理を示すフローチャートである。
- 【図 8-32】 演出決定テーブルの具体例を示す説明図である。 10
- 【図 8-33】 特図当り待ち処理を示すフローチャートである。
- 【図 8-34】 特図当り待ち処理を示すフローチャートである。
- 【図 8-35】 特図当り待ち処理を示すフローチャートである。
- 【図 8-36】 小当り報知表示色決定テーブルの具体例を示す説明図である。
- 【図 8-37】 小当り R U S H 継続示唆演出終了決定テーブルの具体例を示す説明図である。
- 【図 8-38】 小当り終了演出処理を示すフローチャートである。
- 【図 8-39】 再抽選演出の演出態様を説明するための説明図である。
- 【図 8-40】 再抽選演出の演出態様を説明するための説明図である。
- 【図 8-41】 再抽選演出の演出態様を説明するための説明図である。 20
- 【図 8-42】 ゲート通過時報知の演出態様を説明するための説明図である。
- 【図 8-43】 小当り R U S H 継続示唆演出の演出態様を説明するための説明図である。
- 【図 8-44】 小当り R U S H 継続示唆演出の演出態様を説明するための説明図である。
- 【図 8-45】 設定値を変更可能に構成する場合を説明するための説明図である。
- 【図 9-1】 変動パターンやリーチの種類を説明するための図である。
- 【図 9-2】 演出動作例を示す図である。
- 【図 9-3】 演出動作例を示す図である。
- 【図 9-4】 演出動作例を示す図である。
- 【図 9-5】 演出動作例を示す図である。
- 【図 9-6】 演出動作例を示す図である。 30
- 【図 9-7】 演出動作例を示す図である。
- 【図 9-8】 予告演出決定処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 9-9】 予告演出決定処理における決定割合を示す図である。
- 【図 9-10】 変形例の演出動作例を示す図である。
- 【図 9-11】 変形例の演出動作例を示す図である。
- 【図 9-12】 変形例の演出動作例を示す図である。
- 【図 10-1】 パチンコ遊技機の回路構成例を示すブロック図である。
- 【図 10-2】 払出制御基板の回路構成を示すブロック図である。
- 【図 10-3】 パチンコ遊技機を示す背面図である。
- 【図 10-4】 表示結果判定テーブルを示す説明図である。 40
- 【図 10-5】 (A) は、主基板を簡略化した正面図、(B) は、表示モニタの表示内容を説明する説明図である。
- 【図 10-6】 主基板の R A M における記憶領域の一部の構成を示す説明図である。
- 【図 10-7】 主基板における C P U のメモリマップを示した図である。
- 【図 10-8】 主基板 R A M の記憶領域に対応する R A M 領域を示した図である。
- 【図 10-9】 (A) は、表示モニタに表示される項目の表示時間を示すタイムチャート、(B-1) ~ (B-6) は、表示モニタの表示内容の変化を説明する説明図である。
- 【図 10-10】 リングバッファの記憶領域に記憶されたデータの移動を説明する説明図である。
- 【図 10-11】 遊技制御メイン処理の一例を示すフローチャートである。 50

- 【図10-12】遊技制御メイン処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図10-13】遊技制御メイン処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図10-14】遊技制御用タイマ割込処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図10-15】設定変更モードにおける表示モニタの表示態様を示す説明図である。
- 【図10-16】設定確認モードにおける表示モニタの表示態様を示す説明図である。
- 【図10-17】(1)は、設定変更モードに制御された場合に画像表示装置に表示される情報を示す図、(2)は、設定確認モードに制御された場合に画像表示装置に表示される情報を示す図である。
- 【図10-18】(1)～(3)は、設定示唆演出の演出態様を示す説明図、(4)は、設定示唆演出の演出態様を決定するためのテーブルを示す説明図である。 10
- 【図10-19】遊技制御基板から払出制御基板に対して出力される制御信号の内容の一例を示す説明図である。
- 【図10-20】遊技制御基板と払出制御基板との間で送受信される制御コマンドの内容の一例を示す説明図である。
- 【図10-21】制御信号および制御コマンドの送受信に用いられる信号線等を示すブロック図である。
- 【図10-22】通常動作時における遊技制御用マイクロコンピュータと払出制御用マイクロコンピュータとの信号の送受信を示すシーケンス図である。
- 【図10-23】払出制御用CPUが実行するメイン処理を示すフローチャートである。
- 【図10-24】払出制御用CPUが実行するタイマ割込処理を示すフローチャートである。 20
- 【図10-25】本実施形態における球貸制限方法の概要を示す説明図である。
- 【図10-26】カードユニットとパチンコ遊技機との間の通信を説明するためのタイミング図である。
- 【図10-27】第1の球貸制限方法を示すタイミング図である。
- 【図10-28】第2の球貸制限方法を示すタイミング図である。
- 【図10-29】第3の球貸制限方法を示すタイミング図である。
- 【図10-30】第4の球貸制限方法を示すタイミング図である。
- 【図10-31】設定変更モード中に球貸制限しない例を示すタイミング図である。
- 【図10-32】設定変更モード終了後に払出を再開する例を示すタイミング図である。 30
- 【図10-33】設定変更モードへの移行に伴い払出を強制終了する例を示すタイミング図である。
- 【図10-34】通常動作時における遊技制御用マイクロコンピュータと払出制御用マイクロコンピュータとの信号の送受信を示すタイミング図である。
- 【図10-35】設定変更モードに制御されている期間における遊技制御用マイクロコンピュータと払出制御用マイクロコンピュータとの信号の送受信を示すタイミング図である。
- 【図10-36】遊技機用枠又はガラス扉枠が開放されている期間における遊技制御用マイクロコンピュータと払出制御用マイクロコンピュータとの信号の送受信を示すタイミング図である。 40
- 【図10-37】(1)は、設定値確定前に電源断が発生した場合の制御、(2)は、設定値確定後に電源断が発生した場合の制御を示す説明図である。
- 【図10-38】遊技中に設定変更操作が行われた場合の警告画面を示す図である。
- 【図10-39】各出力端子から出力される信号の説明図である。
- 【図10-40】セキュリティ信号及び設定変更対応信号の出力期間を示すタイミング図である。
- 【図10-41】設定値と設定変更対応信号の出力態様との関係を示す図である。
- 【図10-42】設定変更対応信号の出力態様及び出力期間を示すタイミング図である。
- 【図10-43】遊技制御メイン処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図10-44】遊技制御メイン処理の一例を示すフローチャートである。 50

- 【図11-1】電源投入時処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図11-2】電源投入時処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図11-3】(1)設定値が正規の値ではないときに表示モニタに表示される値を示す図、(2)設定値が正規の値であるときに表示モニタに表示される値を示す図、である。
- 【図11-4】遊技機用枠の開放状態検知に基づいて球貸を制限する方法を示すタイミング図である。
- 【図11-5】遊技機用枠の開放状態検知が終了した後に球貸を再開する方法を示すタイミング図である。
- 【図11-6】電源断後に設定変更モードに移行せず球貸を再開する方法を示すタイミング図である。
- 【図11-7】電源断後に設定変更モードに移行して球貸を強制終了する方法を示すタイミング図である。
- 【図11-8】電源断後に設定変更モードに移行して球貸を再開する方法を示すタイミング図である。
- 【図11-9】遊技機用枠の開放状態検知に基づいて賞球払出を制限する方法を示すタイミング図である。
- 【図11-10】遊技機用枠の開放状態検知が終了した後に賞球払出を再開する方法を示すタイミング図である。
- 【図11-11】電源断後に設定変更モードに移行せず賞球払出を再開する方法を示すタイミング図である。
- 【図11-12】電源断後に設定変更モードに移行して賞球払出を強制終了する方法を示すタイミング図である。
- 【図11-13】電源断後に設定変更モードに移行して賞球払出を再開する方法を示すタイミング図である。
- 【図11-14】セキュリティ信号及び設定変更対応信号の出力期間を示すタイミング図である。
- 【図11-15】セキュリティ信号及び設定変更対応信号の出力期間を示すタイミング図である。
- 【図11-16】パチンコ遊技機に搭載された各種の制御基板などを示す構成図である。
- 【図12-1】保留表示及びアクティブ表示の具体例を示す説明図である。
- 【図12-2】変化演出決定処理を示すフローチャートである。
- 【図12-3】(A)は第1変化演出決定用の最終表示態様決定テーブルを示す説明図であり、(B)は第2変化演出決定用の最終表示態様決定テーブルを示す説明図である。
- 【図12-4】第1変化演出における保留変化パターンを示す説明図である。
- 【図12-5】第1変化演出における保留変化パターンを示す説明図である。
- 【図12-6】第2変化演出における保留変化パターンを示す説明図である。
- 【図12-7】第1変化演出及び第2変化演出における各演出の実行タイミングを示すタイムチャートである。
- 【図12-8】第1変化演出及び第2変化演出に関する演出態様の具体例を示す説明図である。
- 【図12-9】第1変化演出及び第2変化演出に関する演出態様の具体例を示す説明図である。
- 【図12-10】第1変化演出における各演出の実行タイミングを示すタイムチャートである。
- 【図12-11】第1変化演出に関する演出態様の具体例を示す説明図である。
- 【図12-12】第1変化演出に関する演出態様の具体例を示す説明図である。
- 【図12-13】第1変化演出及び第2変化演出に関する演出態様の変形例を示す説明図である。
- 【図12-14】第1変化演出及び第2変化演出に関する演出態様の変形例を示す説明図である。

10

20

30

40

50

【図 1 2 - 1 5】第 1 変化演出及び第 2 変化演出に関する演出態様の変形例を示す説明図である。

【図 1 2 - 1 6】アクティブ表示の変化パターンを示す説明図である。

【図 1 2 - 1 7】変化示唆演出の種類を決定するためのテーブルを示す説明図である。

【図 1 2 - 1 8】変化示唆演出の演出態様に関する具体例を示す説明図である。

【図 1 2 - 1 9】変化示唆演出の演出態様に関する具体例を示す説明図である。

【図 1 2 - 2 0】変化示唆演出の演出態様に関する具体例を示す説明図である。

【図 1 3 - 1】電源投入時処理の一例を示すフローチャートである。

【図 1 3 - 2】電源投入時処理の一例を示すフローチャートである。

【図 1 3 - 3】電源投入時処理の一例を示すフローチャートである。

10

【図 1 3 - 4】セキュリティ信号の出力期間を示すタイミング図である。

【図 1 3 - 5】電源投入時に設定変更中フラグがセットされているときの報知例を示す説明図である。

【図 1 3 - 6】電源投入時処理の一例を示すフローチャートである。

【図 1 3 - 7】(1) は、設定値確定前に電源断が発生した場合の制御、(2) は、設定値確定後に電源断が発生した場合の制御を示す説明図である。

【発明を実施するための形態】

【0 1 5 1】

(基本説明)

まず、パチンコ遊技機 1 の基本的な構成及び制御（一般的なパチンコ遊技機の構成及び制御でもある。）について説明する。

20

【0 1 5 2】

(パチンコ遊技機 1 の構成等)

図 1 は、パチンコ遊技機 1 の正面図であり、主要部材の配置レイアウトを示す。パチンコ遊技機（遊技機）1 は、大別して、遊技盤面を構成する遊技盤（ゲージ盤）2 と、遊技盤 2 を支持固定する遊技機用枠（台枠）3 とから構成されている。遊技盤 2 には、遊技領域が形成され、この遊技領域には、遊技媒体としての遊技球が、所定の打球発射装置から発射されて打ち込まれる。

【0 1 5 3】

遊技盤 2 の所定位置（図 1 に示す例では、遊技領域の右側方）には、複数種類の特別識別情報としての特別図柄（特図ともいう）の可変表示（特図ゲームともいう）を行う第 1 特別図柄表示装置 4 A 及び第 2 特別図柄表示装置 4 B が設けられている。これらは、それぞれ、7 セグメントの LED などからなる。特別図柄は、「0」～「9」を示す数字や「ー」などの点灯パターンなどにより表される。特別図柄には、LED を全て消灯したパターンが含まれてもよい。

30

【0 1 5 4】

なお、特別図柄の「可変表示」とは、例えば、複数種類の特別図柄を変動可能に表示することである（後述の他の図柄についても同じ）。変動としては、複数の図柄の更新表示、複数の図柄のスクロール表示、1 以上の図柄の変形、1 以上の図柄の拡大／縮小などがある。特別図柄や後述の普通図柄の変動では、複数種類の特別図柄又は普通図柄が更新表示される。後述の飾り図柄の変動では、複数種類の飾り図柄がスクロール表示又は更新表示されたり、1 以上の飾り図柄が変形や拡大／縮小されたりする。なお、変動には、ある図柄を点滅表示する態様も含まれる。可変表示の最後には、表示結果として所定の特別図柄が停止表示（導出又は導出表示などともいう）される（後述の他の図柄の可変表示についても同じ）。なお、可変表示を変動表示、変動と表現する場合がある。

40

【0 1 5 5】

なお、第 1 特別図柄表示装置 4 A において可変表示される特別図柄を「第 1 特図」ともいい、第 2 特別図柄表示装置 4 B において可変表示される特別図柄を「第 2 特図」ともいう。また、第 1 特図を用いた特図ゲームを「第 1 特図ゲーム」といい、第 2 特図を用いた特図ゲームを「第 2 特図ゲーム」ともいう。なお、特別図柄の可変表示を行う特別図柄表

50

示装置は１種類であってもよい。

【０１５６】

遊技盤２における遊技領域の中央付近には画像表示装置５が設けられている。画像表示装置５は、例えばＬＣＤ（液晶表示装置）や有機ＥＬ（Electro Luminescence）等から構成され、各種の演出画像を表示する。画像表示装置５は、プロジェクタ及びスクリーンから構成されていてもよい。画像表示装置５には、各種の演出画像が表示される。

【０１５７】

例えば、画像表示装置５の画面上では、第１特図ゲームや第２特図ゲームと同期して、特別図柄とは異なる複数種類の装飾識別情報としての飾り図柄（数字などを示す図柄など）の可変表示が行われる。ここでは、第１特図ゲーム又は第２特図ゲームに同期して、「左」、「中」、「右」の各飾り図柄表示エリア５Ｌ、５Ｃ、５Ｒにおいて飾り図柄が可変表示（例えば上下方向のスクロール表示や更新表示）される。なお、同期して実行される特図ゲーム及び飾り図柄の可変表示を総称して単に可変表示ともいう。

10

【０１５８】

また、例えば、画像表示装置５の画面上には、実行が保留されている可変表示に対応する保留表示を表示するための表示エリアが設けられている。本例では、第１特図の可変表示に対応する保留表示を表示するための第１保留表示領域５Ａと、第２特図の可変表示に対応する保留表示を表示するための第２保留表示領域５Ｂとが設けられている。なお、画像表示装置５の画面上には、実行中の可変表示に対応するアクティブ表示を表示するための表示エリアが設けられていてもよい。保留表示及びアクティブ表示を総称して可変表示に対応する可変表示対応表示ともいう。

20

【０１５９】

保留されている可変表示の数は保留記憶数ともいう。第１特図ゲームに対応する保留記憶数を第１保留記憶数、第２特図ゲームに対応する保留記憶数を第２保留記憶数ともいう。また、第１保留記憶数と第２保留記憶数との合計を合計保留記憶数ともいう。

【０１６０】

また、遊技盤２の所定位置には、複数のＬＥＤを含んで構成された第１保留表示器２５Ａと第２保留表示器２５Ｂとが設けられ、第１保留表示器２５Ａは、ＬＥＤの点灯個数によって、第１保留記憶数を表示し、第２保留表示器２５Ｂは、ＬＥＤの点灯個数によって、第２保留記憶数を表示する。

30

【０１６１】

画像表示装置５の下方には、第１始動入賞口を有する入賞球装置６Ａが設けられている。第１始動入賞口に入賞した遊技球は、遊技盤２の背面に導かれ、第１始動口スイッチ２２Ａによって検出される。第１始動口スイッチ２２Ａによって遊技球が検出された場合には、この検出情報に基づき、所定個数（１個）の遊技球が賞球として払い出される。

【０１６２】

また、第１始動入賞口の右方には、釘の列１９が設けられており、遊技領域の右方から流下した遊技球が第１始動入賞口が設けられた領域に進入しないように構成されている。このように、遊技領域の右方から流下した遊技球が進入することを防止する釘の列１９が設けられていることによって、遊技領域の左方を狙って遊技球を発射操作（いわゆる左打ち操作）した場合にのみ第１始動入賞口に遊技球が入賞可能に構成されている。

40

【０１６３】

なお、本例では、釘の列１９が設けられていることにより左打ち操作した場合にのみ第１始動入賞口に遊技球が入賞可能に構成される場合を示しているが、そのような態様に限定されない。例えば、第１始動入賞口が遊技領域の左方に設けられていることによって左打ち操作した場合にのみ第１始動入賞口に遊技球が入賞可能に構成してもよいし、第１始動入賞口が遊技領域の左方に設けられているとともに釘の列１９も設けることによって左打ち操作した場合にのみ第１始動入賞口に遊技球が入賞可能に構成してもよい。

【０１６４】

画像表示装置５の右方には、通過ゲート４１が設けられている。通過ゲート４１を通過

50

した遊技球は、ゲートスイッチ 21 によって検出される。

【0165】

通過ゲート 41 の下方には、大入賞口を形成する特別可変入賞球装置 7 が設けられている。特別可変入賞球装置 7 は、やや傾斜した状態で左右方向に延在し、遊技球が流下する流路の底面として形成される板状の底面部材を、前後方向に進退移動させることにより、底面部材の下方に位置する大入賞口に遊技球が入賞可能な開状態（開放状態ともいう）と遊技球が入賞不能な閉状態（閉鎖状態ともいう）とに変化させる。特別可変入賞球装置 7 は、第 1 特別図柄表示装置 4 A または第 2 特別図柄表示装置 4 B に特定表示結果（大当り図柄）が導出表示されたときに生起する大当り遊技状態において、底面部材を前方に向けて前進移動させた閉状態から底面部材を後方に向けて後退移動させ、入賞領域となる大入賞口を開状態とする開放制御を実行する。

10

【0166】

特別可変入賞球装置 7 の下方には、小当り用の特殊入賞口を形成する特殊可変入賞球装置 17 と、第 2 始動入賞口を有する可変入賞球装置 6 B とが設けられており、図 1 に示すように、左側に特殊可変入賞球装置 17 が配置され、その右側に隣り合うように可変入賞球装置 6 B が配置されている。これら特殊可変入賞球装置 17 および可変入賞球装置 6 B は、やや傾斜した状態で左右方向に延在し、遊技球が流下する流路の底面として形成される板状の底面部材を、前後方向に進退移動させることにより、底面部材の下方に位置する特殊入賞口や第 2 始動入賞口に遊技球が入賞可能な開状態（開放状態ともいう）と遊技球が入賞不能な閉状態（閉鎖状態ともいう）とに変化させる。特殊可変入賞球装置 17 は、第 1 特別図柄表示装置 4 A または第 2 特別図柄表示装置 4 B に所定表示結果（小当り図柄）が導出表示されたときに生起する小当り遊技状態において、底面部材を前方に向けて前進移動させた閉状態から底面部材を後方に向けて後退移動させ、入賞領域となる特殊入賞口を開状態とする開放制御を実行する。また、可変入賞球装置 6 B は、普通図柄表示器 20 に当り図柄が導出表示されたときに、底面部材を前方に向けて前進移動させた閉状態から底面部材を後方に向けて後退移動させ、入賞領域となる第 2 始動入賞口を開状態とする開放制御を実行する。

20

【0167】

なお、本例では、特別可変入賞球装置 7 と特殊可変入賞球装置 17 と可変入賞球装置 6 B とは、同様の構造を有するように形成されている。また、図 1 に示すように、特別可変入賞球装置 7 は底面部材が左上から右下に向けてやや傾斜する態様で形成されているので、特別可変入賞球装置 7 上に落下した遊技球は、特別可変入賞球装置 7 が閉状態であれば特別可変入賞球装置 7 上を左上から右下に向けて移動して行き、その下の可変入賞球装置 6 B 上に落下する。

30

【0168】

また、本例では、可変入賞球装置 6 B と比較して特殊可変入賞球装置 17 の方が若干大きい。また、図 1 に示すように、特殊可変入賞球装置 17 および可変入賞球装置 6 B は底面部材が右上から左下に向けてやや傾斜する態様で形成されているので、特殊可変入賞球装置 17 や可変入賞球装置 6 B 上の遊技球は、特殊可変入賞球装置 17 や可変入賞球装置 6 B が閉状態であれば特殊可変入賞球装置 17 や可変入賞球装置 6 B 上を右上から左下に向けて移動して行く。また、図 1 に示すように、特殊可変入賞球装置 17 と可変入賞球装置 6 B とは隣り合うように配置されているので、特別可変入賞球装置 7 に入賞することなく可変入賞球装置 6 B 上に落下した遊技球は、可変入賞球装置 6 B の底面部材が後退移動されて第 2 始動入賞口が開状態となっていれば、遊技球は第 2 始動入賞口に入賞し、特殊可変入賞球装置 17 の方には遊技球は流れて行かない。一方、第 2 始動入賞口が開状態となっていなければ、遊技球は可変入賞球装置 6 B の底面部材の上を移動して特殊可変入賞球装置 17 の方に導かれる。この際に特殊可変入賞球装置 17 の底面部材が後退移動されて特殊入賞口が開状態となっていれば、遊技球は特殊入賞口に入賞する。さらに、特殊入賞口も開状態となっていなければ、遊技球は特殊可変入賞球装置 17 の底面部材の上を移動して、そのままアウト口の方へ落下することになる。

40

50

【0169】

また、本例では、特別可変入賞球装置7、特殊可変入賞球装置17および可変入賞球装置6Bには、底面部材上を流下する遊技球の流下速度を低下させる複数の規制片が形成されている。本例では、特別可変入賞球装置7、特殊可変入賞球装置17および可変入賞球装置6Bにおいて規制片が設けられていることによって、左上から右下方向または右上から左下方向に向けて流下する遊技球を前後方向成分の動きをもって蛇行するように、遊技球の流下方向を変更させて、その流下にかかる時間を、規制片がない場合よりも遅延させる。

【0170】

なお、本例では、図1に示すように、特殊可変入賞球装置17が左側に配置され、可変入賞球装置6Bが右側に配置されているのであるが、特殊可変入賞球装置17および可変入賞球装置6Bの底面部材が右上方から左下方に緩やかに傾斜するように形成され、底面部材が後退しておらず閉状態である場合には可変入賞球装置6Bの方から特殊可変入賞球装置17の方に向かって遊技球が流れるように構成されているので、この意味で、可変入賞球装置6Bの方が上流側に設けられ、特殊可変入賞球装置17の方が下流側に設けられているといえる。

10

【0171】

大入賞口内には、大入賞口内に入賞した遊技球を検出可能なスイッチ（第1カウントスイッチ23）が設けられている。第1カウントスイッチ23によって遊技球が検出された場合には、この検出情報に基づき、所定個数（例えば15個）の遊技球が賞球として払い出される。従って、特別可変入賞球装置7が開放制御されて大入賞口が開状態となれば、遊技者にとって有利な状態となる。その一方で、特別可変入賞球装置7が閉鎖制御されて大入賞口が閉状態となれば、大入賞口に遊技球を通過（進入）させて賞球を得ることができないため、遊技者にとって不利な状態となる。

20

【0172】

特殊入賞口内には、特殊入賞口内に入賞した遊技球を検出可能なスイッチ（第2カウントスイッチ24）が設けられている。第2カウントスイッチ24によって遊技球が検出された場合には、この検出情報に基づき、所定個数（例えば10個）の遊技球が賞球として払い出される。ここで、特殊可変入賞球装置17において開状態となった特殊入賞口を遊技球が通過（進入）したときには、大入賞口に遊技球が入賞したときと比較すると賞球の数が少ないものの、例えば第1始動入賞口1や第2始動入賞口といった、他の入賞口を遊技球が通過（進入）したときよりも多くの賞球が払い出されるようになっている。従って、特殊可変入賞球装置17が開放制御されて特殊入賞口が開状態となれば、遊技者にとって有利な状態となる。その一方で、特殊可変入賞球装置17が閉鎖制御されて特殊入賞口が閉状態となれば、特殊入賞口に遊技球を通過（進入）させて賞球を得ることができないため、遊技者にとって不利な状態となる。

30

【0173】

また、第2始動入賞口内には、第2始動入賞口内に入賞した遊技球を検出可能な第2始動口スイッチ22Bが設けられている。第2始動口スイッチ22Bによって遊技球が検出された場合には、この検出情報に基づき、所定個数（1個）の遊技球が賞球として払い出される。

40

【0174】

以下、第1始動入賞口と第2始動入賞口とを総称して始動入賞口または始動口ということがある。

【0175】

なお、このパチンコ遊技機1では、通過ゲート41、特別可変入賞球装置7（大入賞口）、可変入賞球装置6B（第2始動入賞口）、および特殊可変入賞球装置17（特殊入賞口）が遊技領域の右方に設けられているので、大当たり遊技中やKT状態（いわゆる小当たりタイム）中である場合には、遊技者は遊技領域の右方を狙って発射操作（いわゆる右打ち操作）を行う。

50

【0176】

遊技盤2の所定位置(図1に示す例では、遊技領域の左右下方4箇所)には、所定の玉受部材によって常に一定の開放状態に保たれる一般入賞口10が設けられる。この場合には、一般入賞口10のいずれかに進入したときには、所定個数(例えば10個)の遊技球が賞球として払い出される。

【0177】

一般入賞口10を含む各入賞口に遊技球が進入することを「入賞」ともいう。特に、始動口(第1始動入賞口、第2始動入賞口始動口)への入賞を始動入賞ともいう。

【0178】

遊技盤2の所定位置(図1に示す例では、遊技領域の左側方)には、普通図柄表示器20が設けられている。一例として、普通図柄表示器20は、7セグメントのLEDなどからなり、特別図柄とは異なる複数種類の普通識別情報としての普通図柄の可変表示を行う。普通図柄は、「0」～「9」を示す数字や「-」などの点灯パターンなどにより表される。普通図柄には、LEDを全て消灯したパターンが含まれてもよい。このような普通図柄の可変表示は、普図ゲームともいう。

10

【0179】

普通図柄表示器20の上方には、普図保留表示器25Cが設けられている。普図保留表示器25Cは、例えば4個のLEDを含んで構成され、実行が保留されている普図ゲームの数である普図保留記憶数をLEDの点灯個数により表示する。

【0180】

20

なお、このパチンコ遊技機1では、通過ゲート41を遊技球が通過したことにもとづいて普通図柄の変動表示が実行されることから、通過ゲート41は普通始動領域としての役割を担っているのであるが、大当り図柄が導出表示された場合にも通過ゲート41を遊技球が通過したことにもとづいて大当り遊技状態に移行するので、通過ゲート41は作動領域としての役割も担っている。従って、通過ゲート41は、普通始動領域と作動領域との両方の役割を担う兼用ゲートとして構成されている。

【0181】

遊技盤2の表面には、上記の構成以外にも、遊技球の流下方向や速度を変化させる風車及び多数の障害釘が設けられている。遊技領域の最下方には、いずれの入賞口にも進入しなかった遊技球が取り込まれるアウト口が設けられている。

30

【0182】

遊技機用枠3の左右上部位置には、効果音等を再生出力するためのスピーカ8L、8Rが設けられており、さらに遊技領域周辺部には、遊技効果用の遊技効果ランプ9が設けられている。遊技効果ランプ9は、LEDを含んで構成されている。

【0183】

遊技盤2の所定位置(図1では図示略)には、演出に応じて動作する可動体32が設けられている。

【0184】

遊技機用枠3の右下部位置には、遊技球を打球発射装置により遊技領域に向けて発射するために遊技者等によって操作される打球操作ハンドル(操作ノブ)30が設けられている。

40

【0185】

遊技領域の下方における遊技機用枠3の所定位置には、賞球として払い出された遊技球や所定の球貸機により貸し出された遊技球を、打球発射装置へと供給可能に保持(貯留)する打球供給皿(上皿)が設けられている。上皿の下方には、上皿満タン時に賞球が払い出される打球供給皿(下皿)が設けられている。

【0186】

遊技領域の下方における遊技機用枠3の所定位置には、遊技者が把持して傾倒操作が可能なスティックコントローラ31Aが取り付けられている。スティックコントローラ31Aには、遊技者が押下操作可能なトリガボタンが設けられている。スティックコントロー

50

ラ 3 1 A に対する操作は、コントローラセンサユニット 3 5 A（図 2 参照）により検出される。

【0 1 8 7】

遊技領域の下方における遊技機用枠 3 の所定位置には、遊技者が押下操作などにより所定の指示操作を可能なプッシュボタン 3 1 B が設けられている。プッシュボタン 3 1 B に対する操作は、プッシュセンサ 3 5 B（図 2 参照）により検出される。

【0 1 8 8】

パチンコ遊技機 1 では、遊技者の動作（操作等）を検出する検出手段として、スティックコントローラ 3 1 A やプッシュボタン 3 1 B が設けられるが、これら以外の検出手段が設けられていてもよい。

10

【0 1 8 9】

（遊技の進行の概略）

このパチンコ遊技機 1 では、遊技状態が通常状態である場合には、遊技者は遊技領域の左方を狙って発射操作（いわゆる左打ち操作）を行うのが有利である。パチンコ遊技機 1 が備える打球操作ハンドル 3 0 への遊技者による回転操作により、左打ち操作を行い、入賞球装置 6 A に形成された第 1 始動入賞口に遊技球が進入すると、第 1 特別図柄表示装置 4 A による第 1 特図ゲームが開始される。

【0 1 9 0】

なお、特図ゲームの実行中の期間や、後述する大当たり遊技状態や小当たり遊技状態に制御されている期間に、遊技球が始動入賞口へ進入（入賞）した場合（始動入賞が発生したが当該始動入賞に基づく特図ゲームを直ちに実行できない場合）には、当該進入に基づく特図ゲームは所定の上限数（例えば 4）までその実行が保留される。

20

【0 1 9 1】

第 1 特図ゲームにおいて、確定特別図柄として特定の特別図柄（大当たり図柄、例えば「7」、後述の大当たり種別に応じて実際の図柄は異なる。）が停止表示されれば、「大当たり」となる。また、大当たり図柄とは異なる特別図柄（ハズレ図柄、例えば「ー」）が停止表示されれば「ハズレ」となる。なお、第 1 特図ゲームであっても、極低い割合で小当たり図柄が停止表示され、「小当たり」となる場合があるように構成してもよい。

【0 1 9 2】

第 1 特図ゲームでの表示結果が「大当たり」になった後には、遊技球が通過ゲート 4 1 を通過したことを条件として、遊技者にとって有利な有利状態として大当たり遊技状態に制御される。

30

【0 1 9 3】

大当たり遊技状態では、特別可変入賞球装置 7 により形成される大入賞口が所定の態様で開放状態となる。当該開放状態は、所定期間（例えば 2.9 秒間や 1.8 秒間）の経過タイミングと、大入賞口に進入した遊技球の数が所定個数（例えば 9 個）に達するまでのタイミングと、のうちのいずれか早いタイミングまで継続される。前記所定期間は、1 ラウンドにおいて大入賞口を開放することができる上限期間であり、以下、開放上限期間ともいう。このように大入賞口が開放状態となる 1 のサイクルをラウンド（ラウンド遊技）という。大当たり遊技状態では、当該ラウンドが所定の上限回数（15 回や 2 回）に達するまで繰り返し実行可能となっている。

40

【0 1 9 4】

大当たり遊技状態においては、遊技者は、遊技球を大入賞口に進入させることで、賞球を得ることができる。従って、大当たり遊技状態は、遊技者にとって有利な状態である。大当たり遊技状態におけるラウンド数が多い程、また、開放上限期間が長い程遊技者にとって有利となる。

【0 1 9 5】

なお、「大当たり」には、大当たり種別が設定されている。例えば、大入賞口の開放態様（ラウンド数や開放上限期間）や、大当たり遊技状態後の遊技状態（通常状態、確変状態（高確率状態）、K T 状態、高ベース状態など）を複数種類用意し、これらに応じて大当たり種

50

別が設定されている。大当たり種別として、多くの賞球を得ることができる大当たり種別や、賞球の少ない又はほとんど賞球を得ることができない大当たり種別が設けられていてもよい。

【0196】

大当たり遊技状態が終了した後は、上記大当たり種別に応じて、確変状態やK T状態、高ベース状態に制御されることがある。

【0197】

確変状態（確率変動状態）では、表示結果が「大当たり」となる確率が通常状態よりも高くなる確変制御が実行される。確変状態は、特別図柄の変動効率が向上することに加えて「大当たり」となりやすい状態であるので、遊技者にとってさらに有利な状態である。

10

【0198】

K T状態では、通常状態よりも小当たりになりやすいK T制御が実行される。このパチンコ遊技機1では、小当たり遊技状態でもある程度の賞球を得ることができるので、大当たり遊技状態と比べると得られる賞球が少ないが遊技者にとって有利な状態である。

【0199】

高ベース状態では、平均的な特図変動時間（特図を変動させる期間）を通常状態よりも短縮させる制御（時短制御）が実行され（時短状態）、普図ゲームで「普図当り」となる確率を通常状態よりも向上させる等により、第2始動入賞口に遊技球が進入しやすくなる制御（高開放制御、高ベース制御）も実行される。高ベース状態は、特別図柄（特に第2特別図柄）の変動効率が向上する状態であるので、遊技者にとって有利な状態である。

20

【0200】

確変状態やK T状態、高ベース状態は、所定回数の特図ゲームが実行されたことと、次の大当たり遊技状態が開始されたこと等といった、いずれか1つの終了条件が先に成立するまで継続する。所定回数の特図ゲームが実行されたことが終了条件となるものを、回数切り（回数切り確変等）ともいう。

【0201】

通常状態とは、遊技者にとって有利な大当たり遊技状態等の有利状態、確変状態、K T状態、高ベース状態等の特別状態以外の遊技状態のことであり、特図ゲームにおける表示結果が「大当たり」となる確率などのパチンコ遊技機1が、パチンコ遊技機1の初期設定状態（例えばシステムリセットが行われた場合のように、電源投入後に所定の復帰処理を実行しなかったとき）と同一に制御される状態である。

30

【0202】

大当たり遊技を終了し、遊技状態が確変状態やK T状態、高ベース状態に制御されると、遊技者は遊技領域の右方を狙って発射操作（右打ち操作）を行うのが有利である。パチンコ遊技機1が備える打球操作ハンドル30への遊技者による回転操作により、右打ち操作を行い、遊技球が通過ゲート41を通過すると、普通図柄表示器20による普図ゲームが開始される。なお、前回の普図ゲームの実行中の期間等に遊技球が通過ゲート41を通過した場合（遊技球が通過ゲート41を通過したが当該通過に基づく普図ゲームを直ちに実行できない場合）には、当該通過に基づく普図ゲームは所定の上限数（例えば4）まで保留される。

40

【0203】

この普図ゲームでは、特定の普通図柄（普図当り図柄）が停止表示されれば、普通図柄の表示結果が「普図当り」となる。その一方、確定普通図柄として、普図当り図柄以外の普通図柄（普図ハズレ図柄）が停止表示されれば、普通図柄の表示結果が「普図ハズレ」となる。「普図当り」となると、可変入賞球装置6Bを所定期間開放状態とする開放制御が行われる（第2始動入賞口が開放状態になる）。

【0204】

可変入賞球装置6Bに形成された第2始動入賞口に遊技球が進入すると、第2特別図柄表示装置4Bによる第2特図ゲームが開始される。

【0205】

50

第2特図ゲームにおいて、確定特別図柄として特定の特別図柄（大当り図柄、例えば「7」、後述の大当り種別に応じて実際の図柄は異なる。）が停止表示されれば、「大当り」となり、大当り図柄とは異なる所定の特別図柄（小当り図柄、例えば「2」）が停止表示されれば、「小当り」となる。また、大当り図柄や小当り図柄とは異なる特別図柄（ハズレ図柄、例えば「-」）が停止表示されれば「ハズレ」となる。

【0206】

第2特図ゲームでの表示結果が「大当り」になった後には、遊技球が通過ゲート41を通過したことを条件として、遊技者にとって有利な有利状態として大当り遊技状態に制御される。第2特図ゲームでの表示結果が「小当り」になった後には、小当り遊技状態に制御される。

10

【0207】

小当り遊技状態では、特殊可変入賞球装置17により形成される特殊入賞口が所定の開放態様で開放状態となる。なお、大当り種別と同様に、「小当り」にも小当り種別を設けてもよい。

【0208】

小当り遊技状態が終了した後は、遊技状態の変更が行われず、特図ゲームの表示結果が「小当り」となる以前の遊技状態に継続して制御される（但し、「小当り」発生時の特図ゲームが、上記回数切りにおける上記所定回数目の特図ゲームである場合には、当然遊技状態が変更される）。

【0209】

20

なお、遊技状態は、大当り遊技状態中に遊技球が特定領域（例えば、大入賞口内の特定領域）を通過したことに基づいて、変化してもよい。例えば、遊技球が特定領域を通過したとき、その大当り遊技状態後に確変状態に制御してもよい。

【0210】

（演出の進行など）

パチンコ遊技機1では、遊技の進行に応じて種々の演出（遊技の進行状況を報知したり、遊技を盛り上げたりする演出）が実行される。当該演出について以下説明する。なお、当該演出は、画像表示装置5に各種の演出画像を表示することによって行われるが、当該表示に加えて又は代えて、スピーカ8L、8Rからの音声出力、及び／又は、遊技効果ランプ9の点等／消灯、可動体32の動作等により行われてもよい。

30

【0211】

遊技の進行に応じて実行される演出として、画像表示装置5に設けられた「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rでは、第1特図ゲーム又は第2特図ゲームが開始されることに伴って、飾り図柄の可変表示が開始される。第1特図ゲームや第2特図ゲームにおいて表示結果（確定特別図柄ともいう。）が停止表示されるタイミングでは、飾り図柄の可変表示の表示結果となる確定飾り図柄（3つの飾り図柄の組合せ）も停止表示（導出）される。

【0212】

飾り図柄の可変表示が開始されてから終了するまでの期間では、飾り図柄の可変表示の態様が所定のリーチ態様となる（リーチが成立する）ことがある。ここで、リーチ態様とは、画像表示装置5の画面上にて停止表示された飾り図柄が後述の大当り組合せの一部を構成しているときに未だ停止表示されていない飾り図柄については可変表示が継続している態様などのことである。

40

【0213】

また、飾り図柄の可変表示中に上記リーチ態様となったことに伴ってリーチ演出が実行される。パチンコ遊技機1では、演出態様に伴って表示結果（特図ゲームの表示結果や飾り図柄の可変表示の表示結果）が「大当り」となる割合（大当り信頼度、大当り期待度とも呼ばれる。）が異なる複数種類のリーチ演出が実行される。リーチ演出には、例えば、ノーマルリーチと、ノーマルリーチよりも大当り信頼度の高いスーパーリーチと、がある。

50

【0214】

特図ゲームの表示結果が「大当たり」となるときには、画像表示装置5の画面上において、飾り図柄の可変表示の表示結果として、予め定められた大当たり組合せとなる確定飾り図柄が導出される（飾り図柄の可変表示の表示結果が「大当たり」となる）。一例として、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rにおける所定の有効ライン上に同一の飾り図柄（例えば、「7」等）が揃って停止表示される。

【0215】

大当たり遊技状態の終了後に確変状態に制御される「確変大当たり」である場合には、奇数の飾り図柄（例えば、「7」等）が揃って停止表示され、大当たり遊技状態の終了後に確変状態に制御されない「非確変大当たり（通常大当たり）」である場合には、偶数の飾り図柄（例えば、「6」等）が揃って停止表示されるようにしてもよい。この場合、奇数の飾り図柄を確変図柄、偶数の飾り図柄を非確変図柄（通常図柄）ともいう。非確変図柄でリーチ態様となった後に、最終的に「確変大当たり」となる昇格演出を実行するようにしてもよい。

10

【0216】

特図ゲームの表示結果が「小当たり」となるときには、画像表示装置5の画面上において、飾り図柄の可変表示の表示結果として、予め定められた小当たり組合せとなる確定飾り図柄（例えば、「1 3 5」等）が導出される（飾り図柄の可変表示の表示結果が「小当たり」となる）。一例として、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rにおける所定の有効ライン上にチャンス目を構成する飾り図柄が停止表示される。なお、特図ゲームの表示結果が、一部の大当たり種別（小当たり遊技状態と同様の態様の大当たり遊技状態の大当たり種別）の「大当たり」となるときと、「小当たり」となるときとで、共通の確定飾り図柄が導出表示されてもよい。

20

【0217】

特図ゲームの表示結果が「ハズレ」となる場合には、飾り図柄の可変表示の態様がリーチ態様とならずに、飾り図柄の可変表示の表示結果として、非リーチ組合せの確定飾り図柄（「非リーチハズレ」ともいう。）が停止表示される（飾り図柄の可変表示の表示結果が「非リーチハズレ」となる）ことがある。また、表示結果が「ハズレ」となる場合には、飾り図柄の可変表示の態様がリーチ態様となった後に、飾り図柄の可変表示の表示結果として、大当たり組合せでない所定のリーチ組合せ（「リーチハズレ」ともいう）の確定飾り図柄が停止表示される（飾り図柄の可変表示の表示結果が「リーチハズレ」となる）こともある。

30

【0218】

パチンコ遊技機1が実行可能な演出には、上記の可変表示対応表示（保留表示やアクティブ表示）を表示することも含まれる。また、他の演出として、例えば、大当たり信頼度を予告する予告演出等が飾り図柄の可変表示中に実行される。予告演出には、実行中の可変表示における大当たり信頼度を予告する予告演出や、実行前の可変表示（実行が保留されている可変表示）における大当たり信頼度を予告する先読み予告演出がある。先読み予告演出として、可変表示対応表示（保留表示やアクティブ表示）の表示態様を通常とは異なる態様に変化させる演出が実行されるようにしてもよい。

40

【0219】

また、画像表示装置5において、飾り図柄の可変表示中に飾り図柄を一旦仮停止させた後に可変表示を再開させることで、1回の可変表示を擬似的に複数回の可変表示のように見せる擬似連演出を実行するようにしてもよい。

【0220】

大当たり遊技状態中にも、大当たり遊技状態を報知する大当たり中演出が実行される。大当たり中演出としては、ラウンド数を報知する演出や、大当たり遊技状態の価値が向上することを示す昇格演出が実行されてもよい。また、小当たり遊技状態中にも、小当たり遊技状態を報知する小当たり中演出が実行される。なお、小当たり遊技状態中と、一部の大当たり種別（小当たり遊技状態と同様の態様の大当たり遊技状態の大当たり種別で、例えばその後の遊技状態を高確

50

状態とする大当たり種別)での大当たり遊技状態とで、共通の演出を実行することで、現在が小当たり遊技状態中であるか、大当たり遊技状態中であるかを遊技者に分からないようにしてもよい。そのような場合であれば、小当たり遊技状態の終了後と大当たり遊技状態の終了後とで共通の演出を実行することで、高確状態であるか低確状態であるかを識別できないようにしてもよい。

【0221】

また、例えば特図ゲーム等が実行されていないときには、画像表示装置5にデモ(デモンストラーション)画像が表示される(客待ちデモ演出が実行される)。

【0222】

(基板構成)

パチンコ遊技機1には、例えば図2に示すような主基板11、演出制御基板12、音声制御基板13、ランプ制御基板14、中継基板15などが搭載されている。その他にも、パチンコ遊技機1の背面には、例えば払出制御基板、情報端子基板、発射制御基板、電源基板などといった、各種の基板が配置されている。

【0223】

主基板11は、メイン側の制御基板であり、パチンコ遊技機1における上記遊技の進行(特図ゲームの実行(保留の管理を含む)、普図ゲームの実行(保留の管理を含む)、大当たり遊技状態、小当たり遊技状態、遊技状態など)を制御する機能を有する。主基板11は、遊技制御用マイクロコンピュータ100、スイッチ回路110、ソレノイド回路111などを有する。

【0224】

主基板11に搭載された遊技制御用マイクロコンピュータ100は、例えば1チップのマイクロコンピュータであり、ROM(Read Only Memory)101と、RAM(Random Access Memory)102と、CPU(Central Processing Unit)103と、乱数回路104と、I/O(Input/Output port)105とを備える。

【0225】

CPU103は、ROM101に記憶されたプログラムを実行することにより、遊技の進行を制御する処理(主基板11の機能を実現する処理)を行う。このとき、ROM101が記憶する各種データ(後述の変動パターン、後述の演出制御コマンド、後述の各種決定を行う際に参照される各種テーブルなどのデータ)が用いられ、RAM102がメインメモリとして使用される。RAM102は、その一部または全部がパチンコ遊技機1に対する電力供給が停止しても、所定期間記憶内容が保存されるバックアップRAMとなっている。なお、ROM101に記憶されたプログラムの全部又は一部をRAM102に展開して、RAM102上で実行するようにしてもよい。

【0226】

乱数回路104は、遊技の進行を制御するときに使用される各種の乱数値(遊技用乱数)を示す数値データを更新可能にカウントする。遊技用乱数は、CPU103が所定のコンピュータプログラムを実行することで更新されるもの(ソフトウェアで更新されるもの)であってもよい。

【0227】

I/O105は、例えば各種信号(後述の検出信号)が入力される入力ポートと、各種信号(第1特別図柄表示装置4A、第2特別図柄表示装置4B、普通図柄表示器20、第1保留表示器25A、第2保留表示器25B、普図保留表示器25Cなどを制御(駆動)する信号、ソレノイド駆動信号)を伝送するための出力ポートとを含んで構成される。

【0228】

スイッチ回路110は、遊技球検出用の各種スイッチ(ゲートスイッチ21、始動口スイッチ(第1始動口スイッチ22Aおよび第2始動口スイッチ22B)、カウントスイッチ(第1カウントスイッチ23および第2カウントスイッチ24))からの検出信号(遊技球が通過又は進入してスイッチがオンになったことを示す検出信号など)を取り込んで遊技制御用マイクロコンピュータ100に伝送する。検出信号の伝送により、遊技球の通

10

20

30

40

50

過又は進入が検出されたことになる。

【0229】

ソレノイド回路111は、遊技制御用マイクロコンピュータ100からのソレノイド駆動信号（例えば、ソレノイド81やソレノイド82、ソレノイド83をオンする信号など）を、普通電動役物用のソレノイド81や大入賞口扉用のソレノイド82、特殊入賞口用のソレノイド83に伝送する。

【0230】

主基板11（遊技制御用マイクロコンピュータ100）は、遊技の進行の制御の一部として、遊技の進行に応じて演出制御コマンド（遊技の進行状況等を指定（通知）するコマンド）を演出制御基板12に供給する。主基板11から出力された演出制御コマンドは、中継基板15により中継され、演出制御基板12に供給される。当該演出制御コマンドには、例えば主基板11における各種の決定結果（例えば、特図ゲームの表示結果（大当たり種別を含む。）、特図ゲームを実行する際に使用される変動パターン（詳しくは後述））、遊技の状況（例えば、可変表示の開始や終了、大入賞口の開放状況、入賞の発生、保留記憶数、遊技状態）、エラーの発生等を指定するコマンド等が含まれる。

【0231】

演出制御基板12は、主基板11とは独立したサブ側の制御基板であり、演出制御コマンドを受信し、受信した演出制御コマンドに基づいて演出（遊技の進行に応じた種々の演出であり、可動体32の駆動、エラー報知、電断復旧の報知等の各種報知を含む）を実行する機能を有する。

【0232】

演出制御基板12には、演出制御用CPU120と、ROM121と、RAM122と、表示制御部123と、乱数回路124と、I/O125とが搭載されている。

【0233】

演出制御用CPU120は、ROM121に記憶されたプログラムを実行することにより、表示制御部123とともに演出を実行するための処理（演出制御基板12の上記機能を実現するための処理であり、実行する演出の決定等を含む）を行う。このとき、ROM121が記憶する各種データ（各種テーブルなどのデータ）が用いられ、RAM122がメインメモリとして使用される。

【0234】

演出制御用CPU120は、コントローラセンサユニット35Aやプッシュセンサ35Bからの検出信号（遊技者による操作を検出したときに出力される信号であり、操作内容を適宜示す信号）に基づいて演出の実行を表示制御部123に指示することもある。

【0235】

表示制御部123は、VDP（Video Display Processor）、CGROM（Character Generator ROM）、VRAM（Video RAM）などを備え、演出制御用CPU120からの演出の実行指示に基づき、演出を実行する。

【0236】

表示制御部123は、演出制御用CPU120からの演出の実行指示に基づき、実行する演出に応じた映像信号を画像表示装置5に供給することで、演出画像を画像表示装置5に表示させる。表示制御部123は、さらに、演出画像の表示に同期した音声出力や、遊技効果ランプ9の点灯／消灯を行うため、音指定信号（出力する音声を指定する信号）を音声制御基板13に供給したり、ランプ信号（ランプの点灯／消灯態様を指定する信号）をランプ制御基板14に供給したりする。また、表示制御部123は、可動体32を動作させる信号を当該可動体32又は当該可動体32を駆動する駆動回路に供給する。

【0237】

音声制御基板13は、スピーカ8L、8Rを駆動する各種回路を搭載しており、当該音指定信号に基づきスピーカ8L、8Rを駆動し、当該音指定信号が指定する音声をスピーカ8L、8Rから出力させる。

【0238】

ランプ制御基板 14 は、遊技効果ランプ 9 を駆動する各種回路を搭載しており、当該ランプ信号に基づき遊技効果ランプ 9 を駆動し、当該ランプ信号が指定する態様で遊技効果ランプ 9 を点灯／消灯する。このようにして、表示制御部 123 は、音声出力、ランプの点灯／消灯を制御する。

【0239】

なお、音声出力、ランプの点灯／消灯の制御（音指定信号やランプ信号の供給等）、可動体 32 の制御（可動体 32 を動作させる信号の供給等）は、演出制御用 CPU 120 が実行するようにしてもよい。

【0240】

乱数回路 124 は、各種演出を実行するために使用される各種の乱数値（演出用乱数）を示す数値データを更新可能にカウントする。演出用乱数は、演出制御用 CPU 120 が所定のコンピュータプログラムを実行することで更新されるもの（ソフトウェアで更新されるもの）であってもよい。

10

【0241】

演出制御基板 12 に搭載された I/O 125 は、例えば主基板 11 などから伝送された演出制御コマンドを取り込むための入力ポートと、各種信号（映像信号、音指定信号、ランプ信号）を伝送するための出力ポートとを含んで構成される。

【0242】

演出制御基板 12、音声制御基板 13、ランプ制御基板 14 といった、主基板 11 以外の基板をサブ基板ともいう。パチンコ遊技機 1 のようにサブ基板が機能別に複数設けられていてもよいし、1 のサブ基板が複数の機能を有するように構成してもよい。

20

【0243】

（動作）

次に、パチンコ遊技機 1 の動作（作用）を説明する。

【0244】

（主基板 11 の主要な動作）

まず、主基板 11 における主要な動作を説明する。パチンコ遊技機 1 に対して電力供給が開始されると、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 が起動し、CPU 103 によって遊技制御メイン処理が実行される。図 3 は、主基板 11 における CPU 103 が実行する遊技制御メイン処理を示すフローチャートである。

30

【0245】

図 3 に示す遊技制御メイン処理では、CPU 103 は、まず、割込禁止に設定する（ステップ S1）。続いて、必要な初期設定を行う（ステップ S2）。初期設定には、スタックポインタの設定、内蔵デバイス（CTC（カウンタ／タイマ回路）、パラレル入出力ポート等）のレジスタ設定、RAM 102 をアクセス可能状態にする設定等が含まれる。

【0246】

次いで、クリアスイッチからの出力信号がオンであるか否かを判定する（ステップ S3）。クリアスイッチは、例えば電源基板に搭載されている。クリアスイッチがオンの状態で電源が投入されると、出力信号（クリア信号）が入力ポートを介して遊技制御用マイクロコンピュータ 100 に入力される。クリアスイッチからの出力信号がオンである場合（ステップ S3；Yes）、初期化处理（ステップ S8）を実行する。初期化处理では、CPU 103 は、RAM 102 に記憶されるフラグ、カウンタ、バッファをクリアする RAM クリア処理を行い、作業領域に初期値を設定する。

40

【0247】

また、CPU 103 は、初期化を指示する演出制御コマンドを演出制御基板 12 に送信する（ステップ S9）。演出制御用 CPU 120 は、当該演出制御コマンドを受信すると、例えば画像表示装置 5 において、遊技機の制御の初期化がなされたことを報知するための画面表示を行う。

【0248】

クリアスイッチからの出力信号がオンでない場合には（ステップ S3；No）、RAM

50

102 (バックアップRAM) にバックアップデータが保存されているか否かを判定する (ステップS4)。不測の停電等 (電断) によりパチンコ遊技機1への電力供給が停止したときには、CPU103は、当該電力供給の停止によって動作できなくなる直前に、電源供給停止時処理を実行する。この電源供給停止時処理では、RAM102にデータをバックアップすることを示すバックアップフラグをオンする処理、RAM102のデータ保護処理等が実行される。データ保護処理には、誤り検出符号 (チェックサム、パリティビット等) の付加、各種データをバックアップする処理が含まれる。バックアップされるデータには、遊技を進行するための各種データ (各種フラグ、各種タイマの状態等を含む) の他、前記バックアップフラグの状態や誤り検出符号も含まれる。ステップS4では、バックアップフラグがオンであるか否かを判定する。バックアップフラグがオフでRAM102にバックアップデータが記憶されていない場合 (ステップS4; No)、初期化処理 (ステップS8) を実行する。

10

【0249】

RAM102にバックアップデータが記憶されている場合 (ステップS4; Yes)、CPU103は、バックアップしたデータのデータチェックを行い (誤り検出符号を用いて行われる)、データが正常か否かを判定する (ステップS5)。ステップS5では、例えば、パリティビットやチェックサムにより、RAM102のデータが、電力供給停止時のデータと一致するか否かを判定する。これらが一致すると判定された場合、RAM102のデータが正常であると判定する。

【0250】

20

RAM102のデータが正常でないと判定された場合 (ステップS5; No)、内部状態を電力供給停止時の状態に戻すことができないので、初期化処理 (ステップS8) を実行する。

【0251】

RAM102のデータが正常であると判定された場合 (ステップS5; Yes)、CPU103は、主基板11の内部状態を電力供給停止時の状態に戻すための復旧処理 (ステップS6) を行う。復旧処理では、CPU103は、RAM102の記憶内容 (バックアップしたデータの内容) に基づいて作業領域の設定を行う。これにより、電力供給停止時の遊技状態に復旧し、特別図柄の変動中であつた場合には、後述の遊技制御用タイマ割込み処理の実行によって、復旧前の状態から特別図柄の変動が再開されることになる。

30

【0252】

そして、CPU103は、電断からの復旧を指示する演出制御コマンドを演出制御基板12に送信する (ステップS7)。これに合わせて、バックアップされている電断前の遊技状態を指定する演出制御コマンドや、特図ゲームの実行中であつた場合には当該実行中の特図ゲームの表示結果を指定する演出制御コマンドを送信するようにしてもよい。これらコマンドは、後述の特別図柄プロセス処理で送信設定されるコマンドと同じコマンドを使用できる。演出制御用CPU120は、電断からの復旧時を特定する演出制御コマンドを受信すると、例えば画像表示装置5において、電断からの復旧がなされたこと又は電断からの復旧中であることを報知するための画面表示を行う。演出制御用CPU120は、前記演出制御コマンドに基づいて、適宜の画面表示を行うようにしてもよい。

40

【0253】

復旧処理または初期化処理を終了して演出制御基板12に演出制御コマンドを送信した後には、CPU103は、乱数回路104を初期設定する乱数回路設定処理を実行する (ステップS10)。そして、所定時間 (例えば2ms) 毎に定期的にタイマ割込がかかるように遊技制御用マイクロコンピュータ100に内蔵されているCTCのレジスタの設定を行い (ステップS11)、割込みを許可する (ステップS12)。その後、ループ処理に入る。以後、所定時間 (例えば2ms) ごとにCTCから割込み要求信号がCPU103へ送出され、CPU103は定期的にタイマ割込み処理を実行することができる。

【0254】

こうした遊技制御メイン処理を実行したCPU103は、CTCからの割込み要求信号

50

を受信して割込み要求を受け付けると、図4のフローチャートに示す遊技制御用タイマ割込み処理を実行する。図4に示す遊技制御用タイマ割込み処理を開始すると、CPU103は、まず、所定のスイッチ処理を実行することにより、スイッチ回路110を介してゲートスイッチ21、第1始動口スイッチ22A、第2始動口スイッチ22B、第1カウントスイッチ23、第2カウントスイッチ24といった各種スイッチからの検出信号の受信の有無を判定する(ステップS21)。続いて、所定のメイン側エラー処理を実行することにより、パチンコ遊技機1の異常診断を行い、その診断結果に応じて必要ならば警告を発生可能とする(ステップS22)。この後、所定の情報出力処理を実行することにより、例えばパチンコ遊技機1の外部に設置されたホール管理用コンピュータに供給される大当たり情報(大当たりの発生回数等を示す情報)、始動情報(始動入賞の回数等を示す情報)、確率変動情報(確変状態となった回数等を示す情報)などのデータを出力する(ステップS23)。

10

【0255】

情報出力処理に続いて、主基板11の側で用いられる遊技用乱数の少なくとも一部をソフトウェアにより更新するための遊技用乱数更新処理を実行する(ステップS24)。この後、CPU103は、第1特別図柄プロセス処理を実行する(ステップS25A)。CPU103がタイマ割込み毎に第1特別図柄プロセス処理を実行することにより、第1特図ゲームの実行及び保留の管理や、大当たり遊技状態や小当たり遊技状態の制御、遊技状態の制御などが実現される(詳しくは後述)。また、CPU103は、第2特別図柄プロセス処理を実行する(ステップS25B)。CPU103がタイマ割込み毎に第2特別図柄プロセス処理を実行することにより、第2特図ゲームの実行及び保留の管理や、大当たり遊技状態や小当たり遊技状態の制御、遊技状態の制御などが実現される。なお、このパチンコ遊技機1では、第1特別図柄の変動表示と第2特別図柄の変動表示とを同時に並行して実行することが可能である。

20

【0256】

第1特別図柄プロセス処理および第2特別図柄プロセス処理に続いて、普通図柄プロセス処理が実行される(ステップS26)。CPU103がタイマ割込み毎に普通図柄プロセス処理を実行することにより、ゲートスイッチ21からの検出信号に基づく(通過ゲート41に遊技球が通過したことに基づく)普図ゲームの実行及び保留の管理や、「普図当り」に基づく可変入賞球装置6Bの開放制御などを可能にする。普図ゲームの実行は、普通図柄表示器20を駆動することにより行われ、普図保留表示器25Cを点灯させることにより普図保留数を表示する。

30

【0257】

普通図柄プロセス処理を実行した後、遊技制御用タイマ割込み処理の一部として、電断が発生したときの処理、賞球を払い出すための処理等などが行われてもよい。その後、CPU103は、コマンド制御処理を実行する(ステップS27)。CPU103は、上記各処理にて演出制御コマンドを送信設定することがある。ステップS27のコマンド制御処理では、送信設定された演出制御コマンドを演出制御基板12などのサブ側の制御基板に対して伝送させる処理が行われる。コマンド制御処理を実行した後には、割込みを許可してから、遊技制御用タイマ割込み処理を終了する。

40

【0258】

図5は、第1特別図柄プロセス処理として、図4に示すステップS25Aにて実行される処理の一例を示すフローチャートである。この第1特別図柄プロセス処理において、CPU103は、まず、第1始動入賞判定処理を実行する(ステップS101A)。

【0259】

第1始動入賞判定処理では、第1始動入賞口への始動入賞の発生を検出し、RAM102の所定領域に保留情報を格納し第1保留記憶数を更新する処理が実行される。第1始動入賞口への始動入賞が発生すると、表示結果(大当たり種別を含む)や変動パターンを決定するための乱数値が抽出され、保留情報としてRAM102に設けられた第1保留記憶バッファに記憶される。また、抽出した乱数値に基づいて、表示結果や変動パターンを先読

50

み判定する処理が実行されてもよい。保留情報や第1保留記憶数を記憶した後は、演出制御基板12に始動入賞の発生、第1保留記憶数、先読み判定等の判定結果を指定するための演出制御コマンドを送信するための送信設定が行われる。こうして送信設定された始動入賞時の演出制御コマンドは、例えば第1特別図柄プロセス処理が終了した後、図4に示すステップS27のコマンド制御処理が実行されることなどにより、主基板11から演出制御基板12に対して伝送される。

【0260】

S101にて第1始動入賞判定処理を実行した後、CPU103は、RAM102に設けられた第1特図プロセスフラグの値に応じて、ステップS110A~S121Aの処理のいずれかを選択して実行する。なお、第1特別図柄プロセス処理の各処理（ステップS110A~S121A）では、各処理に対応した演出制御コマンドを演出制御基板12に送信するための送信設定が行われる。

10

【0261】

ステップS110Aの第1特別図柄通常処理は、第1特図プロセスフラグの値が“0”（初期値）のときに実行される。この第1特別図柄通常処理では、保留情報の有無などに基づいて、第1特図ゲームを開始するか否かの判定が行われる。また、第1特別図柄通常処理では、表示結果決定用の乱数値に基づき、第1特別図柄や飾り図柄の表示結果を「大当たり」または「小当たり」とするか否かや「大当たり」とする場合の大当たり種別を、その表示結果が導出表示される以前に決定（事前決定）する。さらに、第1特別図柄通常処理では、決定された表示結果に対応して、第1特図ゲームにおいて停止表示させる確定特別図柄（大当たり図柄や小当たり図柄、ハズレ図柄のいずれか）が設定される。その後、第1特図プロセスフラグの値が“1”に更新され、第1特別図柄通常処理は終了する。

20

【0262】

乱数値に基づき各種の決定を行う場合には、ROM101に格納されている各種のテーブル（乱数値と比較される決定値が決定結果に割り当てられているテーブル）が参照される。主基板11における他の決定、演出制御基板12における各種の決定についても同じである。演出制御基板12においては、各種のテーブルがROM121に格納されている。

【0263】

ステップS111Aの第1変動パターン設定処理は、第1特図プロセスフラグの値が“1”のときに実行される。この第1変動パターン設定処理には、表示結果を「大当たり」または「小当たり」とするか否かの事前決定結果等に基づき、変動パターン決定用の乱数値を用いて変動パターンを複数種類のいずれかに決定する処理などが含まれている。第1変動パターン設定処理では、変動パターンを決定したときに、第1特図プロセスフラグの値が“2”に更新され、第1変動パターン設定処理は終了する。

30

【0264】

変動パターンは、特図ゲームの実行時間（特図変動時間）（飾り図柄の可変表示の実行時間でもある）や、飾り図柄の可変表示の態様（リーチの有無等）、飾り図柄の可変表示中の演出内容（リーチ演出の種類等）を指定するものであり、可変表示パターンとも呼ばれる。

40

【0265】

ステップS112Aの第1特別図柄変動処理は、第1特図プロセスフラグの値が“2”のときに実行される。この第1特別図柄変動処理には、第1特別図柄表示装置4Aにおいて第1特別図柄を変動させるための設定を行う処理や、その第1特別図柄が変動を開始してから経過時間を計測する処理などが含まれている。また、計測された経過時間が変動パターンに対応する特図変動時間に達したか否かの判定も行われる。そして、第1特別図柄の変動を開始してから経過時間が特図変動時間に達したときには、第1特図プロセスフラグの値が“3”に更新され、第1特別図柄変動処理は終了する。

【0266】

ステップS113Aの第1特別図柄停止処理は、第1特図プロセスフラグの値が“3”

50

のときに実行される。この第1特別図柄停止処理には、第1特別図柄表示装置4Aにて第1特別図柄の変動を停止させ、第1特別図柄の表示結果となる確定特別図柄を停止表示（導出）させるための設定を行う処理が含まれている。そして、表示結果が「大当たり」である場合には第1特図プロセスフラグの値が“4”に更新される。その一方で、大当たりフラグがオフであり、表示結果が「小当たり」である場合には、第1特図プロセスフラグの値が“9”に更新される。また、表示結果が「ハズレ」である場合には、第1特図プロセスフラグの値が“0”に更新される。表示結果が「小当たり」又は「ハズレ」である場合、確変状態やKT状態、高ベース状態に制御されているときであって、回数切りの終了成立する場合には、遊技状態も更新される。第1特図プロセスフラグの値が更新されると、第1特別図柄停止処理は終了する。

10

【0267】

ステップS114Aの第1ゲート通過待ち処理は、第4特図プロセスフラグの値が“4”のときに実行される。この第1ゲート通過待ち処理では、通過ゲート41への遊技球の通過を待機する制御を行う。通過ゲート41への遊技球の通過を検知したときには第1特図プロセスフラグの値が“5”に更新される。

【0268】

ステップS115Aの第1大当たり開放前処理は、第1特図プロセスフラグの値が“5”のときに実行される。この第1大当たり開放前処理には、表示結果が「大当たり」となったことなどに基づき、大当たり遊技状態においてラウンドの実行を開始して大入賞口を開放状態とするための設定を行う処理などが含まれている。大入賞口を開放状態とするときには、大入賞口扉用のソレノイド82に対してソレノイド駆動信号を供給する処理が実行される。このときには、例えば大当たり種別がいずれであるかに対応して、大入賞口を開放状態とする開放上限期間や、ラウンドの上限実行回数を設定する。これらの設定が終了すると、第1特図プロセスフラグの値が“6”に更新され、第1大当たり開放前処理は終了する。

20

【0269】

ステップS116Aの第1大当たり開放中処理は、第1特図プロセスフラグの値が“6”のときに実行される。この第1大当たり開放中処理には、大入賞口を開放状態としてからの経過時間を計測する処理や、その計測した経過時間や第1カウントスイッチ23によって検出された遊技球の個数などに基づいて、大入賞口を開放状態から閉鎖状態に戻すタイミングとなったか否かを判定する処理などが含まれている。そして、大入賞口を閉鎖状態に戻すときには、大入賞口扉用のソレノイド82に対するソレノイド駆動信号の供給を停止させる処理などを実行した後、第1特図プロセスフラグの値が“7”に更新し、第1大当たり開放中処理を終了する。

30

【0270】

ステップS117Aの第1大当たり開放後処理は、第1特図プロセスフラグの値が“7”のときに実行される。この第1大当たり開放後処理には、大入賞口を開放状態とするラウンドの実行回数が設定された上限実行回数に達したか否かを判定する処理や、上限実行回数に達した場合に大当たり遊技状態を終了させるための設定を行う処理などが含まれている。そして、ラウンドの実行回数が上限実行回数に達していないときには、第1特図プロセスフラグの値が“6”に更新される一方、ラウンドの実行回数が上限実行回数に達したときには、第1特図プロセスフラグの値が“8”に更新される。第1特図プロセスフラグの値が更新されると、第1大当たり開放後処理は終了する。

40

【0271】

ステップS118Aの第1大当たり終了処理は、第1特図プロセスフラグの値が“8”のときに実行される。この第1大当たり終了処理には、大当たり遊技状態の終了を報知する演出動作としてのエンディング演出が実行される期間に対応した待ち時間が経過するまで待機する処理や、大当たり遊技状態の終了に対応して確変制御やKT制御、高ベース制御を開始するための各種の設定を行う処理などが含まれている。こうした設定が行われたときには、第1特図プロセスフラグの値が“0”に更新され、第1大当たり終了処理は終了する。

【0272】

50

ステップS 1 1 9 Aの第1小当り開放前処理は、第1特図プロセスフラグの値が“9”のときに実行される。この第1小当り開放前処理には、表示結果が「小当り」となったことに基つき、小当り遊技状態において特殊入賞口を開放状態とするための設定を行う処理などが含まれている。このときには、第1特図プロセスフラグの値が“10”に更新され、第1小当り開放前処理は終了する。

【0273】

ステップS 1 2 0 Aの第1小当り開放中処理は、第1特図プロセスフラグの値が“10”のときに実行される。この第1小当り開放中処理には、特殊入賞口を開放状態としてからの経過時間を計測する処理や、その計測した経過時間などに基づいて、特殊入賞口を開放状態から閉鎖状態に戻すタイミングとなったか否かを判定する処理などが含まれている。

10

【0274】

ステップS 1 2 1 Aの第1小当り終了処理は、第1特図プロセスフラグの値が“11”のときに実行される。この第1小当り終了処理には、小当り遊技状態の終了を報知する演出動作が実行される期間に対応した待ち時間が経過するまで待機する処理などが含まれている。ここで、小当り遊技状態が終了するときには、小当り遊技状態となる以前のパチンコ遊技機1における遊技状態を継続させる。小当り遊技状態の終了時における待ち時間が経過したときには、第1特図プロセスフラグの値が“0”に更新され、第1小当り終了処理は終了する。

20

【0275】

なお、第2特別図柄プロセス処理（ステップS 2 5 B）において実行される処理は、第1特別図柄プロセス処理（ステップS 2 5 A）において実行される処理と同様である。すなわち、図5で説明した第1特別図柄プロセス処理において、「第1」を「第2」と読み替えれば、第2特別図柄プロセス処理が説明されることになる。また、第2特別図柄プロセス処理（ステップS 2 5 B）の第1始動入賞判定処理で抽出された各乱数値は、保留情報としてRAM 1 0 2に設けられた第2保留記憶バッファに記憶される。

【0276】

（演出制御基板12の主要な動作）

次に、演出制御基板12における主要な動作を説明する。演出制御基板12では、電源基板等から電源電圧の供給を受けると、演出制御用CPU 1 2 0が起動して、図6のフローチャートに示すような演出制御メイン処理を実行する。図6に示す演出制御メイン処理を開始すると、演出制御用CPU 1 2 0は、まず、所定の初期化処理を実行して（ステップS 7 1）、RAM 1 2 2のクリアや各種初期値の設定、また演出制御基板12に搭載されたCTC（カウンタ／タイマ回路）のレジスタ設定等を行う。また、初期動作制御処理を実行する（ステップS 7 2）。初期動作制御処理では、可動体32を駆動して初期位置に戻す制御、所定の動作確認を行う制御といった可動体32の初期動作を行う制御が実行される。

30

【0277】

その後、タイマ割込みフラグがオンとなっているか否かの判定を行う（ステップS 7 3）。タイマ割込みフラグは、例えばCTCのレジスタ設定に基づき、所定時間（例えば2ミリ秒）が経過するごとにオン状態にセットされる。このとき、タイマ割込みフラグがオフであれば（ステップS 7 3；No）、ステップS 7 3の処理を繰り返し実行して待機する。

40

【0278】

また、演出制御基板12の側では、所定時間が経過するごとに発生するタイマ割込みとは別に、主基板11からの演出制御コマンドを受信するための割込みが発生する。この割込みは、例えば主基板11からの演出制御INT信号がオン状態となることにより発生する割込みである。演出制御INT信号がオン状態となることによる割込みが発生すると、演出制御用CPU 1 2 0は、自動的に割込み禁止に設定するが、自動的に割込み禁止状態

50

にならないCPUを用いている場合には、割込み禁止命令（DI命令）を発行することが望ましい。演出制御用CPU120は、演出制御INT信号がオン状態となることによる割込みに対応して、例えば所定のコマンド受信割込み処理を実行する。このコマンド受信割込み処理では、I/O125に含まれる入力ポートのうちで、中継基板15を介して主基板11から送信された制御信号を受信する所定の入力ポートより、演出制御コマンドを取り込む。このとき取り込まれた演出制御コマンドは、例えばRAM122に設けられた演出制御コマンド受信用バッファに格納する。その後、演出制御用CPU120は、割込み許可に設定してから、コマンド受信割込み処理を終了する。

【0279】

ステップS73にてタイマ割込みフラグがオンである場合には（ステップS73；Yes）、タイマ割込みフラグをクリアしてオフ状態にするとともに（ステップS74）、コマンド解析処理を実行する（ステップS75）。コマンド解析処理では、例えば主基板11の遊技制御用マイクロコンピュータ100から送信されて演出制御コマンド受信用バッファに格納されている各種の演出制御コマンドを読み出した後に、その読み出された演出制御コマンドに対応した設定や制御などが行われる。例えば、どの演出制御コマンドを受信したかや演出制御コマンドが特定する内容等を演出制御プロセス処理等で確認できるように、読み出された演出制御コマンドをRAM122の所定領域に格納したり、RAM122に設けられた受信フラグをオンしたりする。また、演出制御コマンドが遊技状態を特定する場合、遊技状態に応じた背景の表示を表示制御部123に指示してもよい。

【0280】

ステップS75にてコマンド解析処理を実行した後は、演出制御プロセス処理を実行する（ステップS76）。演出制御プロセス処理では、例えば画像表示装置5の表示領域における演出画像の表示動作、スピーカ8L、8Rからの音声出力動作、遊技効果ランプ9及び装飾用LEDといった装飾発光体における点灯動作、可動体32の駆動動作といった、各種の演出装置を動作させる制御が行われる。また、各種の演出装置を用いた演出動作の制御内容について、主基板11から送信された演出制御コマンド等に応じた判定や決定、設定などが行われる。

【0281】

ステップS76の演出制御プロセス処理に続いて、演出用乱数更新処理が実行され（ステップS77）、演出制御基板12の側で用いられる演出用乱数の少なくとも一部がソフトウェアにより更新される。その後、ステップS73の処理に戻る。ステップS73の処理に戻る前に、他の処理が実行されてもよい。

【0282】

図7は、演出制御プロセス処理として、図6のステップS76にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。図7に示す演出制御プロセス処理において、演出制御用CPU120は、まず、先読予告設定処理を実行する（ステップS161）。先読予告設定処理では、例えば、主基板11から送信された始動入賞時の演出制御コマンドに基づいて、先読み予告演出を実行するための判定や決定、設定などが行われる。また、当該演出制御コマンドから特定される保留記憶数に基づき保留表示を表示するための処理が実行される。

【0283】

ステップS161の処理を実行した後、演出制御用CPU120は、例えばRAM122に設けられた演出プロセスフラグの値に応じて、以下のようなステップS170～S177の処理のいずれかを選択して実行する。

【0284】

ステップS170の可変表示開始待ち処理は、演出プロセスフラグの値が“0”（初期値）のときに実行される処理である。この可変表示開始待ち処理は、主基板11から可変表示の開始を指定するコマンドなどを受信したか否かに基づき、画像表示装置5における飾り図柄の可変表示を開始するか否かを判定する処理などを含んでいる。画像表示装置5における飾り図柄の可変表示を開始すると判定された場合、演出プロセスフラグの値を“

1 ”に更新し、可変表示開始待ち処理を終了する。

【0285】

ステップS171の可変表示開始設定処理は、演出プロセスフラグの値が“1”のときに実行される処理である。この可変表示開始設定処理では、演出制御コマンドにより特定される表示結果や変動パターンに基づいて、飾り図柄の可変表示の表示結果（確定飾り図柄）、飾り図柄の可変表示の態様、リーチ演出や各種予告演出などの各種演出の実行の有無やその態様や実行開始タイミングなどを決定する。そして、その決定結果等を反映した演出制御パターン（表示制御部123に演出の実行を指示するための制御データの集まり）を設定する。その後、設定した演出制御パターンに基づいて、飾り図柄の可変表示の実行開始を表示制御部123に指示し、演出プロセスフラグの値を“2”に更新し、可変表示開始設定処理を終了する。表示制御部123は、飾り図柄の可変表示の実行開始の指示により、画像表示装置5において、飾り図柄の可変表示を開始させる。

10

【0286】

ステップS172の可変表示中演出処理は、演出プロセスフラグの値が“2”のときに実行される処理である。この可変表示中演出処理において、演出制御用CPU120は、表示制御部123を指示することで、ステップS171にて設定された演出制御パターンに基づく演出画像を画像表示装置5の表示画面に表示させることや、可動体32を駆動させること、音声制御基板13に対する指令（効果音信号）の出力によりスピーカ8L、8Rから音声や効果音を出力させること、ランプ制御基板14に対する指令（電飾信号）の出力により遊技効果ランプ9や装飾用LEDを点灯／消灯／点滅させることといった、飾り図柄の可変表示中における各種の演出制御を実行する。こうした演出制御を行った後、例えば演出制御パターンから飾り図柄の可変表示終了を示す終了コードが読み出されたこと、あるいは、主基板11から確定飾り図柄を停止表示させることを指定するコマンドを受信したことなどに対応して、飾り図柄の表示結果となる確定飾り図柄を停止表示させる。確定飾り図柄を停止表示したときには、演出プロセスフラグの値が“3”に更新され、可変表示中演出処理は終了する。

20

【0287】

ステップS173の特図当り待ち処理は、演出プロセスフラグの値が“3”のときに実行される処理である。この特図当り待ち処理において、演出制御用CPU120は、主基板11から大当り遊技状態又は小当り遊技状態を開始することを指定する演出制御コマンドの受信があったか否かを判定する。そして、大当り遊技状態又は小当り遊技状態を開始することを指定する演出制御コマンドを受信したきに、そのコマンドが大当り遊技状態の開始を指定するものであれば、演出プロセスフラグの値を“6”に更新する。これに対して、そのコマンドが小当り遊技状態の開始を指定するものであれば、演出プロセスフラグの値を小当り中演出処理に対応した値である“4”に更新する。また、大当り遊技状態又は小当り遊技状態を開始することを指定するコマンドを受信せずに、当該コマンドの受信待ち時間が経過したときには、特図ゲームにおける表示結果が「ハズレ」であったと判定して、演出プロセスフラグの値を初期値である“0”に更新する。演出プロセスフラグの値を更新すると、特図当り待ち処理を終了する。

30

【0288】

ステップS174の小当り中演出処理は、演出制御プロセスフラグの値が“4”のときに実行される処理である。この小当り中演出処理において、演出制御用CPU120は、例えば小当り遊技状態における演出内容に対応した演出制御パターン等を設定し、その設定内容に基づく小当り遊技状態における各種の演出制御を実行する。また、小当り中演出処理では、例えば主基板11から小当り遊技状態を終了することを指定するコマンドを受信したことに対応して、演出プロセスフラグの値を小当り終了演出に対応した値である“5”に更新し、小当り中演出処理を終了する。

40

【0289】

ステップS175の小当り終了演出処理は、演出制御プロセスフラグの値が“5”のときに実行される処理である。この小当り終了演出処理において、演出制御用CPU120

50

は、例えば小当り遊技状態の終了などに対応した演出制御パターン等を設定し、その設定内容に基づく小当り遊技状態の終了時における各種の演出制御を実行する。その後、演出プロセスフラグの値を初期値である“0”に更新し、小当り終了演出処理を終了する。

【0290】

ステップS176の大当り中演出処理は、演出プロセスフラグの値が“6”のときに実行される処理である。この大当り中演出処理において、演出制御用CPU120は、例えば大当り遊技状態における演出内容に対応した演出制御パターン等を設定し、その設定内容に基づく大当り遊技状態における各種の演出制御を実行する。また、大当り中演出処理では、例えば主基板11から大当り遊技状態を終了することを指定するコマンドを受信したことに対応して、演出制御プロセスフラグの値をエンディング演出処理に対応した値である“7”に更新し、大当り中演出処理を終了する。

10

【0291】

ステップS177のエンディング演出処理は、演出プロセスフラグの値が“7”のときに実行される処理である。このエンディング演出処理において、演出制御用CPU120は、例えば大当り遊技状態の終了などに対応した演出制御パターン等を設定し、その設定内容に基づく大当り遊技状態の終了時におけるエンディング演出の各種の演出制御を実行する。その後、演出プロセスフラグの値を初期値である“0”に更新し、エンディング演出処理を終了する。

【0292】

(基本説明の変形例)

20

この発明は、上記基本説明で説明したパチンコ遊技機1に限定されず、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で、様々な変形及び応用が可能である。

【0293】

上記基本説明のパチンコ遊技機1は、入賞の発生に基づいて所定数の遊技媒体を景品として払い出す払出式遊技機であったが、遊技媒体を封入し入賞の発生に基づいて得点を付与する封入式遊技機であってもよい。

【0294】

特別図柄の可変表示中に表示されるものは1種類の図柄(例えば、「一」を示す記号)だけで、当該図柄の表示と消灯とを繰り返すことによって可変表示を行うようにしてもよい。さらに可変表示中に当該図柄が表示されるものも、可変表示の停止時には、当該図柄が表示されなくてもよい(表示結果としては「一」を示す記号が表示されなくてもよい)。

30

【0295】

上記基本説明では、遊技機としてパチンコ遊技機1を示したが、メダルが投入されて所定の賭け数が設定され、遊技者による操作レバーの操作に応じて複数種類の図柄を回転させ、遊技者によるストップボタンの操作に応じて図柄を停止させたときに停止図柄の組合せが特定の図柄の組み合わせになると、所定数のメダルが遊技者に払い出されるゲームを実行可能なスロット機(例えば、ビッグボーナス、レギュラーボーナス、RT、AT、ARRT、CZ(以下、ボーナス等)のうち1以上を搭載するスロット機)にも本発明を適用可能である。

40

【0296】

本発明を実現するためのプログラム及びデータは、パチンコ遊技機1に含まれるコンピュータ装置などに対して、着脱自在の記録媒体により配布・提供される形態に限定されるものではなく、予めコンピュータ装置などの有する記憶装置にインストールしておくことで配布される形態を採っても構わない。さらに、本発明を実現するためのプログラム及びデータは、通信処理部を設けておくことにより、通信回線等を介して接続されたネットワーク上の、他の機器からダウンロードすることによって配布する形態を採っても構わない。

【0297】

そして、ゲームの実行形態も、着脱自在の記録媒体を装着することにより実行するもの

50

だけではなく、通信回線等を介してダウンロードしたプログラム及びデータを、内部メモリ等に一旦格納することにより実行可能とする形態、通信回線等を介して接続されたネットワーク上における、他の機器側のハードウェア資源を用いて直接実行する形態としてもよい。さらには、他のコンピュータ装置等とネットワークを介してデータの交換を行うことによりゲームを実行するような形態とすることもできる。

【0298】

なお、本明細書において、演出の実行割合などの各種割合の比較の表現（「高い」、「低い」、「異ならせる」などの表現）は、一方が「0%」の割合であることを含んでもよい。例えば、一方が「0%」の割合で、他方が「100%」の割合又は「100%」未満の割合であることも含む。

10

【0299】

（特徴部138IWに関する説明）

次に、特徴部138IWについて説明する。まず、本特徴部138IWにおける遊技状態について説明する。まず、本特徴部138IWにおける遊技状態には、通常状態（低確率／非KT状態）と、通常状態よりも小当りになりやすいKT状態（いわゆる小当りタイム）とがある。さらに、KT状態には第1KT状態と第2KT状態との2種類があり、この特徴部138IWでは、遊技状態には、低確率状態且つ非KT状態（低確率／非KT状態：通常状態）に制御されている場合と、低確率且つ第1KT状態（低確率／第1KT状態）に制御されている場合と、高確率且つ第1KT状態（高確率／第1KT状態）に制御されている場合と、高確率且つ第2KT状態（高確率／第2KT状態）に制御されている場合とがある。

20

【0300】

KT状態のうち第1KT状態は、後述するように、小当りが発生しやすく特殊可変入賞球装置17が開状態となりやすいものの、上流側の可変入賞球装置6Bの開放時間が極めて長く、小当りが発生しても下流側の特殊可変入賞球装置17に遊技球が入賞するケースは極めて少ない（例えば、100変動するごとに1球程度）。具体的には、第1KT状態では、小当りが発生しやすい状態に制御されるとともに高ベース状態に制御されて可変入賞球装置6Bの開放時間が長くなるように制御される。また、KT状態のうち第2KT状態は、後述するように、上流側の可変入賞球装置6Bの開放時間が短く、小当りが発生した場合に下流側の特殊可変入賞球装置17に遊技球が入賞しやすい。具体的には、第2KT状態では、小当りが発生しやすい状態に制御されるとともに低ベース状態に制御されて可変入賞球装置6Bの開放時間が短くなるように制御される。

30

【0301】

また、KT状態は、通常状態（低確率／非KT状態）よりも小当りになりやすい遊技状態である。具体的には、この特徴部138IWでは、普図当りとなって可変入賞球装置6Bが開状態となる確率はKT状態の方が通常状態より高くなっている。そして、第1特別図柄の変動時には小当りと決定される場合がないのに対して、第2特別図柄の変動時には小当りと決定される場合があるよう構成されている（ただし、後述する強制はずれの場合を除く）ため、KT状態を、通常状態よりも小当りになりやすい遊技状態としている。これにより、KT状態では、主に第2特別図柄の変動を行わせることにより小当りを頻繁に発生させ、遊技者に有利な遊技状態となっている。

40

【0302】

なお、KT状態を、通常状態よりも小当りになりやすい遊技状態とするための構成としては、これに限るものではない。例えば、KT状態であっても普図当りとなって可変入賞球装置6Bが開状態となる確率は通常状態と同じ（例えば、10%または100%）であるが、第2特別図柄の変動時に選択する変動パターンの有する変動時間が、KT状態の方が通常状態よりも短く構成することにより、KT状態の方が通常状態よりも一定時間に対する変動回数の割合が高くなり、KT状態を通常状態よりも小当りになりやすい遊技状態とするものであってもよい。

【0303】

50

また、本特徴部 1 3 8 I W では、遊技球が通過ゲート 4 1 を通過してから可変入賞球装置 6 B に到達するまでの所要時間が 0. 6 秒以上になるよう構成されている。具体的には、通過ゲート 4 1 および可変入賞球装置 6 B の設置位置や、遊技球の流下経路を形成する釘群により調整されている。詳しくは後述するが、本特徴部 1 3 8 I W では遊技球が通過ゲート 4 1 を通過したことにもとづいて可変入賞球装置 6 B が開放状態に制御され得る構成であり、後述する第 1 K T 状態では遊技球が通過ゲート 4 1 を通過してから可変入賞球装置 6 B が開放状態に制御されるまでの時間が 0. 5 秒となっており、遊技球が通過ゲート 4 1 を通過してから可変入賞球装置 6 B に到達するまでの所要時間である 0. 6 秒よりも短いことから、第 1 K T 状態において一の遊技球が通過ゲート 4 1 を通過した場合に可変入賞球装置 6 B が開放状態に制御された場合、該一の遊技球がそのまま可変入賞球装置 6 B に入賞可能となっている。

10

【0 3 0 4】

図 8-1 (A) は、大当たり判定テーブル 1 3 8 I W 1 3 0 a を示す説明図である。大当たり判定テーブル 1 3 8 I W 1 3 0 a とは、ROM 1 0 1 に記憶されているデータの集まりであって、大当たり判定用乱数と比較される大当たり判定値が設定されているテーブルである。大当たり判定テーブル 1 3 8 I W 1 3 0 a には、非確変状態（低確率状態（低確率／非 K T 状態、低確率／第 1 K T 状態））において用いられる非確変時大当たり判定テーブルと、確変状態（高確率状態（高確率／第 1 K T 状態、高確率／第 2 K T 状態））において用いられる確変時大当たり判定テーブルとがある。非確変時大当たり判定テーブルには、図 8-1 (A) の左欄に記載されている各数値が設定され、確変時大当たり判定テーブルには、図 8-1 (A) の右欄に記載されている各数値が設定されている。図 8-1 (A) に記載されている数値が大当たり判定値である。

20

【0 3 0 5】

図 8-1 (B), (C) は、小当たり判定テーブル 1 3 8 I W 1 3 0 b, 1 3 0 c を示す説明図である。このうち、図 8-1 (B) は、第 1 特別図柄の変動表示を実行する場合に用いる第 1 特別図柄用の小当たり判定テーブル 1 3 8 I W 1 3 0 b を示している。また、図 8-1 (C) は、第 2 特別図柄の変動表示を実行する場合に用いる第 2 特別図柄用の小当たり判定テーブル 1 3 8 I W 1 3 0 c を示している。小当たり判定テーブルとは、ROM 1 0 1 に記憶されているデータの集まりであって、大当たり判定用乱数と比較される小当たり判定値が設定されているテーブルである。小当たり判定テーブル 1 3 8 I W 1 3 0 b, 1 3 0 c には、それぞれ、非確変状態（低確率状態（低確率／非 K T 状態、低確率／第 1 K T 状態））において用いられる非確変時小当たり判定テーブルと、確変状態（高確率状態（高確率／第 1 K T 状態、高確率／第 2 K T 状態））において用いられる確変時小当たり判定テーブルとがある。非確変時小当たり判定テーブルには、図 8-1 (B), (C) の左欄に記載されている各数値が設定され、確変時小当たり判定テーブルには、図 8-1 (B), (C) の右欄に記載されている各数値が設定されている。また、図 8-1 (B), (C) に記載されている数値が小当たり判定値である。

30

【0 3 0 6】

本例では、図 8-1 (B) に示すように、第 1 特別図柄用の小当たり判定テーブル 1 3 8 I W 1 3 0 b には、小当たり判定値が割り振られておらず、大当たりと決定されなかった場合には小当たりとなる場合はない。すなわち、大当たりと決定されなかった場合には全てはずれとなり、小当たり確率は 0 % である。また、図 8-1 (C) に示すように、第 2 特別図柄用の小当たり判定テーブル 1 3 8 I W 1 3 0 c には、非確変時小当たり判定テーブルでは、非確変状態（低確率状態）における大当たり判定値（0 ~ 2 2 4）を除く全ての判定値（2 2 5 ~ 6 5 5 3 5）が小当たり判定値として割り振られており、確変時小当たり判定テーブルでは、確変状態（高確率状態）における大当たり判定値（0 ~ 2 2 4 9）を除く全ての判定値（2 2 5 0 ~ 6 5 5 3 5）が小当たり判定値として割り振られており、大当たりと決定されなかった場合には必ず小当たりとなり、小当たり確率は 1 0 0 % である。

40

【0 3 0 7】

C P U 1 0 3 は、所定の時期に、乱数回路 1 0 4 のカウント値を抽出して抽出値を大当

50

り判定用乱数の値とするのであるが、大当たり判定用乱数値が図8-1(A)に示すいずれかの大当たり判定値に一致すると、特別図柄に関して大当たりすることに決定する。なお、図8-1(A)に示す「確率」は、大当たりになる確率(割合)を示しており、確変状態(高確率状態)では、非確変状態(低確率状態)と比較して、大当たりになる確率が10倍になっている。また、図8-1(B), (C)に示す「確率」は、小当たりになる確率(割合)を示す。また、大当たりにするか否か決定するということは、大当たり遊技状態に移行させるか否か決定するということであるが、第1特別図柄表示装置4Aまたは第2特別図柄表示装置4Bにおける停止図柄を大当たり図柄にするか否か決定するということでもある。また、小当たりにするか否か決定するということは、小当たり遊技状態に移行させるか否か決定するということであるが、第2特別図柄表示装置4Bにおける停止図柄を小当たり図柄にするか否か決定するということでもある。

10

【0308】

図8-1(D), (E)は、ROM101に記憶されている大当たり種別判定テーブル138IW131a, 131bを示す説明図である。大当たり種別判定テーブル138IW131a, 131bは、可変表示結果を大当たり図柄にする旨の判定がなされたときに、大当たり種別判定用の乱数にもとづいて、大当たりの種別を「2R通常大当たり」、「2R確変大当たり」、「6R通常大当たり」、「6R確変大当たり」、「9R確変大当たり」、または「16R確変大当たり」のいずれかに決定するために参照されるテーブルである。

【0309】

図8-1(D)に示すように、この特徴部138IWでは、第1特別図柄の変動表示を実行する場合には、9%の確率で「16R確変大当たり」と決定され、56%の確率で「6R確変大当たり」と決定され、35%の確率で「6R通常大当たり」と決定される。また、図8-1(E)に示すように、この特徴部138IWでは、第2特別図柄の変動表示を実行する場合には、10%の確率で「16R確変大当たり」と決定され、50%の確率で「9R確変大当たり」と決定され、5%の確率で「2R確変大当たり」と決定され、35%の確率で「2R通常大当たり」と決定される。

20

【0310】

「16R確変大当たり」とは、16ラウンドの大当たり遊技状態に制御し、その大当たり遊技状態の終了後に高確率状態に移行させる大当たりである。また、「9R確変大当たり」とは、9ラウンドの大当たり遊技状態に制御し、その大当たり遊技状態の終了後に高確率状態に移行させる大当たりである。また、「6R確変大当たり」とは、6ラウンドの大当たり遊技状態に制御し、その大当たり遊技状態の終了後に高確率状態に移行させる大当たりである。また、「2R確変大当たり」とは、2ラウンドの大当たり遊技状態に制御し、その大当たり遊技状態の終了後に高確率状態に移行させる大当たりである。

30

【0311】

「6R通常大当たり」とは、6ラウンドの大当たり遊技状態に制御し、その大当たり遊技状態の終了後に低確率状態に移行させる大当たりである。また、「2R通常大当たり」とは、2ラウンドの大当たり遊技状態に制御し、その大当たり遊技状態の終了後に低確率状態に制御される大当たりである。

【0312】

この特徴部138IWでは、「16R確変大当たり」、「9R確変大当たり」、「6R確変大当たり」、および「6R通常大当たり」となる場合には、その大当たり遊技の各ラウンドにおいて所定期間(本例では、30秒間)が経過するか所定数(本例では、10個)の遊技球が入賞するまで大入賞口が開放状態に制御され、ラウンドごとに最大で10個の大入賞口への入賞が可能である。これに対して、「2R確変大当たり」および「2R通常大当たり」となる場合には、その大当たり遊技の各ラウンドにおいて短い期間(本例では、1.8秒間)のみ大入賞口が開放状態に制御され、ラウンドごとに入賞可能な大入賞口への入賞数は2~3個程度である。

40

【0313】

また、この特徴部138IWでは、大当たり遊技を終了するときに、大当たり遊技前の遊技

50

状態および大当たり種別に応じて第1 K T 状態、第2 K T 状態または非 K T 状態のいずれかに制御されるのであるが、大当たり遊技後の遊技状態の遷移の仕方については後述する（図8-20参照）。

【0314】

図8-2～図8-4は、この特徴部138IWで用いられる特別図柄および飾り図柄の変動パターン（変動時間）を示す説明図である。図8-2～図8-4に示すE X Tとは、それぞれの変動パターンに対応した演出制御コマンド（2バイト構成）の2バイト目のデータである。

【0315】

図8-2～図8-4に示す例では、第1特別図柄および飾り図柄についての第1変動パターン#01～#07の7種類と、第2特別図柄および飾り図柄についての第2変動パターン#01～#32の32種類とが用いられる。以下、例えば変動パターン#n（n=01～07または01～32）というときには、第1変動パターン#nと第2変動パターン#nの双方を意味する。

【0316】

第1特別図柄の変動表示を実行する場合、非 K T 状態（低確率／非 K T 状態）である場合には、図8-2（A）に示す非 K T 時用の第1特別図柄用変動パターンテーブルが選択されて変動パターンが決定される。図8-2（A）に示すように、非 K T 状態において第1特別図柄の変動表示が実行される場合には、第1変動パターン#01～#05のいずれかに決定される。

【0317】

第1特別図柄の変動表示を実行する場合、K T 状態（低確率／第1 K T 状態、高確率／第1 K T 状態、高確率／第2 K T 状態）である場合には、図8-2（B）に示すK T 時用の第1特別図柄用変動パターンテーブルが選択されて変動パターンが決定される。図8-2（B）に示すように、K T 状態において第1特別図柄の変動表示が実行される場合には、第1変動パターン#06～#07のいずれかに決定される。

【0318】

第2特別図柄の変動表示を実行する場合、非 K T 状態（低確率／非 K T 状態）である場合には、図8-3（C）に示す非 K T 時用の第2特別図柄用変動パターンテーブルが選択されて変動パターンが決定される。図8-3（C）に示すように、非 K T 状態において第2特別図柄の変動表示が実行される場合には、第2変動パターン#01～#03のいずれかに決定される。具体的には、はずれと決定する場合には第2変動パターン#01が決定されて、15分間の長期間にわたって第2特別図柄の変動表示が実行される。また、小当たりと決定する場合にも第2変動パターン#02が決定されて、15分間の長期間にわたって第2特別図柄の変動表示が実行される。また、大当たりと決定する場合にも第2変動パターン#03が決定されて、5分間というある程度長期間にわたって第2特別図柄の変動表示が実行される。

【0319】

この特徴部138IWでは、非 K T 状態中であっても第2特別図柄の変動表示が実行されて小当たりとなると、特殊入賞口への遊技球の入賞によりある程度の賞球を期待できる状況が生じてしまう。そこで、この特徴部138IWでは、図8-3（C）に示すように、非 K T 状態中に第2特別図柄の変動表示が実行されても、変動時間を極端に長くし変動表示の実行頻度を低下させることによって却って小当たりの発生頻度を低下させるようにし、非 K T 状態中であるにもかかわらず小当たりによる賞球の獲得を狙われてしまう事態を防止している。なお、この特徴部138IWにおいて、「小当たりの発生頻度」とは、例えば、単位時間（例えば、1分）あたりの小当たりの発生割合であり、K T 状態では、例えば、単位時間あたりの小当たりの発生割合が通常状態よりも高い状態となっている。

【0320】

なお、この特徴部138IWでは、図8-3（C）に示すように、非 K T 状態中に第2特別図柄の変動表示が実行される場合には、大当たりとなる場合であっても変動時間を5分

と比較的長くすることによって、非K T状態中に不当に特殊入賞口への入賞による賞球を狙う行為を防止するようにしている。ただし、大当たりとなる場合には、小当たりとなる場合と比較して第1保留記憶の消化を長くしなくてもよいので、小当たりとなる場合よりも短い変動時間となるように構成している。

【0321】

第2特別図柄の変動表示を実行する場合、低確率／第1K T状態である場合には、その低確率／第1K T状態の契機となった6R通常大当たりや2R通常大当たりにもとづく大当たり遊技を終了してからの変動回数に応じて、変動パターンテーブルを選択する。この場合、1変動目の変動表示を実行する場合であれば、図8-3(D)に示す低確率／第1K T時且つ1変動目用の第2特別図柄変動パターンテーブルが選択されて変動パターンが決定される。図8-3(D)に示すように、低確率／第1K T状態の1変動目として第2特別図柄の変動表示が実行される場合には、第2変動パターン#04～#06のいずれかに決定される。

10

【0322】

なお、図8-3(D)に示すように、低確率／第1K T状態の1変動目としてはずれと決定する場合には、変動時間が5秒と短い短縮変動の第2変動パターン#04に決定される。また、低確率／第1K T状態の1変動目として小当たりと決定する場合には、小当たりとしては比較的長めの7秒の変動時間である第2変動パターン#05(第2始動入賞口開放準備用の変動パターン)に決定される。この特徴部138IWでは、既に説明したように、第1K T状態に制御される場合には、小当たりの頻度が高くなるものの可変入賞球装置6Bの開放時間を長くすることによって実際には特殊可変入賞球装置17内の特殊入賞口には減多に入賞しないように設定されている。しかしながら、低確率／第1K T状態に移行した直後の状態では可変入賞球装置6Bや特殊可変入賞球装置17の底面部材上にある程度の遊技球が溜まっている可能性があり、直ちに特殊可変入賞球装置17を開状態に制御してしまったのでは、相当数の遊技球が特殊入賞口に入賞してしまう可能性がある。そこで、この特徴部138IWでは、第1K T状態の1変動目では、少なくとも7秒の変動時間を確保することによって、第1K T状態に移行する前から可変入賞球装置6Bや特殊可変入賞球装置17の底面部材上に溜まっている遊技球が全て落下するまでに十分な時間が経過してから特殊可変入賞球装置17を開状態に制御して特殊入賞口への入賞を可能とすることにより、第1K T状態において想定以上の賞球が得られるような事態が生じることを防止している。また、低確率／第1K T状態の1変動目として大当たりと決定する場合には第2変動パターン#06が決定されて、2分間にわたって第2特別図柄の変動表示が実行される。

20

30

【0323】

また、低確率／第1K T状態の契機となった6R通常大当たりや2R通常大当たりにもとづく大当たり遊技を終了してから2～49変動目の変動表示を実行する場合であれば、図8-3(E)に示す低確率／第1K T時且つ2～49変動目用の第2特別図柄変動パターンテーブルが選択されて変動パターンが決定される。図8-3(E)に示すように、低確率／第1K T状態の2～49変動目として第2特別図柄の変動表示が実行される場合には、第2変動パターン#07～#13のいずれかに決定される。また、図8-3(E)に示すように、低確率／第1K T状態の2～49変動目としてはずれと決定する場合には、変動時間が5秒と短い短縮変動の第2変動パターン#07や、変動時間が1秒とさらに短い短縮変動の第2変動パターン#08に決定される場合がある。一方で、低確率／第1K T状態の2～49変動目としてはずれと決定する場合には、リーチを伴う第2変動パターン#09に決定される場合がある。また、低確率／第1K T状態の2～49変動目として小当たりと決定する場合には、変動時間が5秒と短い短縮変動の第2変動パターン#10や、変動時間が1秒とさらに短い短縮変動の第2変動パターン#11に決定される場合がある。一方で、低確率／第1K T状態の2～49変動目として小当たりと決定する場合には、リーチを伴う第2変動パターン#12に決定される場合がある。第2変動パターン#07、#10は第2保留記憶が記憶されていないときのみ選択され得る変動パターンであり、第2変

40

50

動パターン#08, #11は第2保留記憶が1個以上記憶されているときのみ選択され得る変動パターンである。これにより、保留記憶の消化を早め稼働率を高める構成としている。また、低確率/第1KT状態の2~49変動目として大当たりと決定する場合には、リーチを伴う第2変動パターン#13に決定される。

【0324】

また、低確率/第1KT状態の契機となった6R通常大当たりや2R通常大当たりにもとづく大当たり遊技を終了してから50変動目の変動表示(すなわち、低確率/第1KT状態における最終変動)を実行する場合であれば、図8-3(F)に示す低確率/第1KT時且つ50変動目用の第2特別図柄変動パターンテーブルが選択されて変動パターンが決定される。図8-3(F)に示すように、低確率/第1KT状態の50変動目として第2特別図柄の変動表示が実行される場合には、第2変動パターン#14~#16のいずれかに決定される。

10

【0325】

この特徴部138IWでは、低確率/第1KT状態に制御されている場合には、例えば、画像表示装置5において「チャンスタイム中」などの文字表示が表示される。図8-3(F)に示すように、低確率/第1KT状態の50変動目としてはずれや小当たりと決定する場合には、画像表示装置5において「チャンスタイム終了!!」などの文字表示を行う終了表示を伴う第2変動パターン#14や第2変動パターン#15に決定される。また、図8-3(F)に示すように、低確率/第1KT状態の50変動目として大当たりと決定する場合には、画像表示装置5において「チャンスタイム終了!!」などの文字表示を行う終了表示の後に所定の復活表示を伴う第2変動パターン#16に決定される。

20

【0326】

なお、この特徴部138IWでは、図8-2に示すように、KT状態中に第1特別図柄の変動表示で大当たりとなった場合には、変動時間が10秒の第1変動パターン#07を決定するように構成されている。これは、第2KT状態に移行した直後に第1特別図柄の変動表示で直ちに大当たりが発生してしまったようなケースで、第1特別図柄の大当たり変動の変動時間を長い変動時間としてしまうと、該第1特別図柄の大当たり変動中に実行される第2特別図柄の変動は強制はずれとされる構成であるため、第2KT状態であるにもかかわらず強制はずれが頻発して遊技者が小当たりによる利益を一切受けられないこととなる。そのため、この特徴部138IWでは、第1特別図柄の大当たり変動の変動時間を短い変動時間とすることにより、強制はずれが頻発する前に第1特別図柄の変動にもとづく大当たり遊技状態に移行するように構成されている。

30

【0327】

なお、本特徴部138IWとは異なり、第1特別図柄の大当たり変動中に第2特別図柄の変動を開始した場合にも、該第2特別図柄の変動を強制はずれとしない構成(例えば、第1特別図柄の大当たり図柄停止時に第2特別図柄の変動中であるときは、第2特別図柄を強制はずれとする構成)の遊技機であれば、KT状態中の第1特別図柄の大当たりの変動時間を長い変動時間(例えば、1分)としてもよい。これは、第2KT状態に移行した直後に第1特別図柄の変動表示で直ちに大当たりが発生してしまったようなケースで、大当たりの変動時間をはずれと同じ短い変動時間としてしまうと、遊技者が小当たりによる利益を一切受けられなくなる。そのため、KT状態中の第1特別図柄の大当たりの変動時間を長い変動時間(例えば、1分)とすれば、そのようなケースであっても、少なくとも複数回小当たりが発生可能な十分な時間(例えば、1分)が確保されるように構成される。

40

【0328】

第2特別図柄の変動表示を実行する場合、高確率/第1KT状態である場合には、その高確率/第1KT状態の契機となった6R確変大当たりや9R確変大当たりにもとづく大当たり遊技を終了してからの変動回数に応じて、変動パターンテーブルを選択する。この場合、1変動目の変動表示を実行する場合であれば、図8-4(G)に示す高確率/第1KT時且つ1変動目用の第2特別図柄変動パターンテーブルが選択されて変動パターンが決定される。図8-4(G)に示すように、高確率/第1KT状態の1変動目として第2特別図

50

柄の変動表示が実行される場合には、第2変動パターン#17～#21のいずれかに決定される。

【0329】

なお、低確率／第1KT状態の1変動目と同様に、図8-4(G)に示すように、高確率／第1KT状態の1変動目としてはずれと決定する場合にも、変動時間が5秒と短い短縮変動の第2変動パターン#17に決定される場合がある。一方で、高確率／第1KT状態の1変動目としてはずれと決定する場合にも、リーチを伴う第2変動パターン#18に決定される場合がある。また、高確率／第1KT状態の1変動目として小当たりと決定する場合にも、第2始動入賞口開放準備用の変動パターン(第2変動パターン#19)に決定される場合がある。一方で、高確率／第1KT状態の1変動目として小当たりと決定する場合にも、リーチを伴う第2変動パターン#20に決定される場合がある。また、図8-4(G)に示すように、高確率／第1KT状態の1変動目として大当たりと決定する場合には、リーチを伴う第2変動パターン#21に決定される。

10

【0330】

また、高確率／第1KT状態の契機となった6R確変大当たりや9R確変大当たりにもとづく大当たり遊技を終了してから2変動目以降の変動表示を実行する場合であれば、図8-4(H)に示す高確率／第1KT時且つ2変動目以降用の第2特別図柄変動パターンテーブルが選択されて変動パターンが決定される。図8-4(H)に示すように、高確率／第1KT状態の2変動目以降として第2特別図柄の変動表示が実行される場合には、第2変動パターン#22～#28のいずれかに決定される。

20

【0331】

なお、低確率／第1KT状態の2～49変動目と同様に、図8-4(H)に示すように、高確率／第1KT状態の2変動目以降としてはずれと決定する場合には、変動時間が5秒と短い短縮変動の第2変動パターン#22や、変動時間が1秒とさらに短い短縮変動の第2変動パターン#23に決定される場合がある。一方で、高確率／第1KT状態の2変動目以降としてはずれと決定する場合には、リーチを伴う第2変動パターン#24に決定される場合がある。また、高確率／第1KT状態の2変動目以降として小当たりと決定する場合には、変動時間が5秒と短い短縮変動の第2変動パターン#25や、変動時間が1秒とさらに短い短縮変動の第2変動パターン#26に決定される場合がある。一方で、高確率／第1KT状態の2変動目以降として小当たりと決定する場合には、リーチを伴う第2変動パターン#27に決定される場合がある。第2変動パターン#22、#25は第2保留記憶が記憶されていないときのみ選択され得る変動パターンであり、第2変動パターン#23、#26は第2保留記憶が1個以上記憶されているときのみ選択され得る変動パターンである。これにより、保留記憶の消化を早め稼働率を高める構成としている。また、高確率／第1KT状態の2変動目以降として大当たりと決定する場合には、リーチを伴う第2変動パターン#28に決定される。

30

【0332】

第2特別図柄の変動表示を実行する場合、高確率／第2KT状態である場合には、図8-4(I)に示す高確率／第2KT時用の第2特別図柄用変動パターンテーブルが選択されて変動パターンが決定される。図8-4(I)に示すように、高確率／第2KT状態において第2特別図柄の変動表示が実行される場合には、第2変動パターン#29～#32のいずれかに決定される。

40

【0333】

なお、図8-4(I)に示すように、高確率／第2KT状態においてはずれと決定する場合には、変動時間が1.5秒と短い短縮変動の第2変動パターン#25に決定される場合がある。一方で、高確率／第2KT状態においてはずれと決定する場合には、リーチを伴う第2変動パターン#30に決定される場合がある。また、高確率／第2KT状態において小当たりと決定する場合には、変動時間が1.5秒と短い短縮変動の第2変動パターン#31に決定される。また、高確率／第2KT状態において大当たりと決定する場合には、リーチを伴う第2変動パターン#32に決定される。

50

【0334】

なお、図8-3および図8-4に示す例では、第1KT状態の場合に5秒または1秒の短縮変動を実行し、第2KT状態の場合に1.5秒の短縮変動を実行するように構成する場合を示しているが、そのような態様にかぎられない。例えば、低確率状態の場合に5秒または1秒の短縮変動を実行し、高確率状態の場合に1.5秒の短縮変動を実行するように構成してもよい。

【0335】

次に、KT状態における可変入賞球装置6Bおよび特殊可変入賞球装置17の開放パターンについて説明する。図8-5は、KT状態における可変入賞球装置6Bおよび特殊可変入賞球装置17の開放パターンを説明するための説明図である。このうち、図8-5(1)は、第1KT状態における可変入賞球装置6Bおよび特殊可変入賞球装置17の開放パターンを示し、図8-5(2)は、第2KT状態における可変入賞球装置6Bおよび特殊可変入賞球装置17の開放パターンを示している。

【0336】

まず、図8-5(1)を用いて、第1KT状態における可変入賞球装置6Bおよび特殊可変入賞球装置17の開放パターンについて説明する。図8-5(1)に示すように、通過ゲート41を遊技球が通過してゲートスイッチ21にて遊技球が検出されると、普通図柄表示器20において普通図柄の変動表示が実行され、普図当りと決定された場合には普通図柄表示器20に当り図柄が導出表示され、はずれと決定された場合には普通図柄表示器20にはずれ図柄が導出表示される。この特徴部138IWでは、図8-5(1)に示すように、普通図柄の変動時間は0.2秒とされ、当り図柄やはずれ図柄を導出表示する図柄確定時間は0.2秒とされている。そして、当り図柄を導出表示した場合には、図8-5(1)に示すように、図柄確定時間0.2秒を経過した後、第2始動入賞口開放処理前時間0.1秒を経過してから、可変入賞球装置6Bが5.5秒間にわたって開状態とされ、第2始動入賞口に遊技球が入賞可能となる。

【0337】

可変入賞球装置6Bが開状態となっていてときに第2始動入賞口に遊技球が入賞すると、第2特別図柄の変動表示が実行され、小当りとするに決定された場合には、第2特別図柄表示装置4Bに小当り図柄が導出表示される。そして、小当り図柄を導出表示した場合には、図8-5(1)に示すように、特殊可変入賞球装置17が0.8秒間にわたって開状態とされ、特殊入賞口に遊技球が入賞可能となる。しかしながら、第1KT状態では、図8-5(1)に示すように、下流側の特殊可変入賞球装置17の開放時間が0.8秒と短いのに対して、上流側の可変入賞球装置6Bの開放時間が5.5秒と長い。従って、第1KT状態では、小当りが発生しやすい状態ではあるものの、特殊入賞口に遊技球が入賞することは極めて稀である(例えば、100変動表示ごとに1球程度)。

【0338】

なお、第1KT状態では、図8-5(1)に示すように、可変入賞球装置6Bの開放を終了した後、次の可変入賞球装置6Bの開放を行えるのは、次の普通図柄の変動時間0.2秒と図柄確定時間0.2秒と第2始動入賞口開放前処理時間0.1秒とを合計した少なくとも0.5秒を経過した後である。従って、この特徴部138IWでは、第1KT状態では、可変入賞球装置6Bの開放した後のインターバル期間として少なくとも0.5秒の閉鎖期間が設けられていることになる。

【0339】

また、本特徴部138IWでは、第1KT状態では、普通図柄の変動が行われていない状態で遊技球が通過ゲート41を通過した後、可変入賞球装置6Bが開放状態に制御されるのは、普通図柄の変動時間0.2秒と図柄確定時間0.2秒と第2始動入賞口開放前処理時間0.1秒とを合計した0.5秒を経過した後であるとともに、遊技球が通過ゲート41を通過してから可変入賞球装置6Bに到達するまでの所要時間が約0.6秒であるよう構成されている。このように、第1KT状態では、普通図柄の変動が行われていない状態で遊技球が通過ゲート41を通過してから可変入賞球装置6Bが開放状態に制御される

までの時間の方が、普通図柄の変動が行われていない状態で遊技球が通過ゲート41を通過してから該遊技球が可変入賞球装置6Bに到達するまでの時間よりも短いため、可変入賞球装置6Bが既に開放状態に制御されているときに遊技球が該可変入賞球装置6Bに到達することとなる。従って、第1KT状態では、普通図柄の変動が行われていない状態で通過ゲート41を通過した遊技球は、可変入賞球装置6Bに入賞しやすくなっている。

【0340】

次に、図8-5(2)を用いて、第2KT状態における可変入賞球装置6Bおよび特殊可変入賞球装置17の開放パターンについて説明する。図8-5(2)に示すように、通過ゲート41を遊技球が通過してゲートスイッチ21にて遊技球が検出されると、普通図柄表示器20において普通図柄の変動表示が実行され、普図当りと決定された場合には普通図柄表示器20に当り図柄が導出表示され、はずれと決定された場合には普通図柄表示器20にはずれ図柄が導出表示される。この特徴部138IWでは、図8-5(2)に示すように、普通図柄の変動時間は1.0秒とされ、当り図柄やはずれ図柄を導出表示する図柄確定時間は0.2秒とされている。そして、当り図柄を導出表示した場合には、図8-5(2)に示すように、図柄確定時間0.2秒を経過した後、第2始動入賞口開放処理前時間2.6秒を経過してから、可変入賞球装置6Bが0.2秒間にわたって開状態とされ、第2始動入賞口に遊技球が入賞可能となる。

10

【0341】

可変入賞球装置6Bが開状態となっていてときに第2始動入賞口に遊技球が入賞すると、第2特別図柄の変動表示が実行され、小当りとするに決定された場合には、第2特別図柄表示装置4Bに小当り図柄が導出表示される。そして、小当り図柄を導出表示した場合には、図8-5(2)に示すように、特殊可変入賞球装置17が0.8秒間にわたって開状態とされ、特殊入賞口に遊技球が入賞可能となる。

20

【0342】

第2KT状態では、第1KT状態とは異なり可変入賞球装置6Bの開放時間が0.2秒と極めて短い。また、この特徴部138IWでは、第2KT状態では、可変入賞球装置6Bの開放した後のインターバル期間(閉鎖期間)として少なくとも3.8秒(普通図柄の変動時間1.0秒+図柄確定時間0.2秒+第2始動入賞口開放処理前時間2.6秒)という比較的長い期間が確保されている。従って、第2KT状態では、図8-5(2)に示すように、上流側の可変入賞球装置6Bの開放時間が短いとともにインターバル期間(閉鎖期間)が長いので、第1KT状態と比較して下流側の特殊可変入賞球装置17に遊技球が進入しやすく特殊入賞口に遊技球が入賞しやすい。

30

【0343】

なお、第2KT状態では、特殊入賞口に遊技球が入賞しやすく賞球が得られやすいことから、本例では「小当りRUSH」ともいい、第2KT状態中である場合には「小当りRUSH」などの文字表示が表示される。

【0344】

なお、本例では、第2特別図柄の変動表示を実行する場合にのみ小当りが発生し、KT状態では第2特別図柄の変動表示の頻度を高くすることにより小当りが発生しやすい状態とし、さらに賞球が得られにくい第1KT状態と賞球が得られやすい第2KT状態とを設けることによって、特に小当りにより賞球が期待できる小当りRUSH(本例では、第2KT状態)を実現する場合を示しているが、そのような態様にかぎれない。例えば、第1特別図柄の変動表示を実行する場合と第2特別図柄の変動表示を実行する場合とのいずれであっても、大当りでなければ100%小当りとなるように構成し、第1特別図柄の変動表示で小当りとなった場合には賞球が得られにくく、第2特別図柄の変動表示で小当りとなった場合には賞球が得られやすくすることにより、小当りにより賞球が期待できる小当りRUSH(第2特別図柄の変動表示での小当りによる遊技価値が増加しやすい遊技状態)が実現されるように構成してもよい。そのように何らかの形式で、同じKT状態でも賞球が期待できない状態がある一方で、賞球が期待できる小当りRUSHの状態が実現されるように構成されていればよい。

40

50

【0345】

また、本特徴部138IWでは、第2KT状態では、普通図柄の変動が行われていない状態で遊技球が通過ゲート41を通過した後、可変入賞球装置6Bが開放状態に制御されるのは、普通図柄の変動時間1.0秒と図柄確定時間0.2秒と第2始動入賞口開放前処理時間2.6秒とを合計した3.8秒を経過した後であるとともに、遊技球が通過ゲート41を通過してから可変入賞球装置6Bに到達するまでの所要時間が約0.6秒であるよう構成されている。このように、第2KT状態では、普通図柄の変動が行われていない状態で遊技球が通過ゲート41を通過してから可変入賞球装置6Bが開放状態に制御されるまでの時間の方が、普通図柄の変動が行われていない状態で遊技球が通過ゲート41を通過してから該遊技球が可変入賞球装置6Bに到達するまでの時間よりも長いため、可変入賞球装置6Bが開放状態に制御される前に遊技球が該可変入賞球装置6Bに到達することとなる。従って、第2KT状態では、普通図柄の変動が行われていない状態で通過ゲート41を通過した遊技球は、可変入賞球装置6Bに入賞しにくくなっている。

10

【0346】

なお、この特徴部138IWでは、普通図柄の変動表示を実行したり可変入賞球装置6Bを開放制御したりする処理は、遊技制御用マイクロコンピュータ100（具体的には、CPU103）によって普通図柄プロセス処理（ステップS26参照）が実行されることによって行われる。また、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、ステップS26の普通図柄プロセス処理において、遊技状態が確変状態（高確率状態）であるか否かや、非KT状態、第1KT状態または第2KT状態のいずれであるか、大当り遊技状態であるか否かに関係なく、同じ確率（例えば、10%または100%）により普図当りとするか否かを決定する。

20

【0347】

なお、この特徴部138IWでは、第1KT状態と第2KT状態とで普通図柄の変動時間と図柄確定時間とはそれぞれ0.2秒ずつで同じであり、第2始動入賞口開放処理前時間が第1KT状態では0.1秒と短く第2KT状態では2.6秒と長くすることによって、可変入賞球装置6Bの閉鎖期間（インターバル期間）を異ならせる場合を示したが、そのような態様にかぎられない。例えば、第1KT状態と第2KT状態とで変動時間や図柄確定時間を異ならせることによって、可変入賞球装置6Bの閉鎖期間（インターバル期間）を異ならせるように構成してもよい。また、例えば、可変入賞球装置6Bを閉鎖した後の第2始動入賞口開放処理後時間を制御可能に構成し、第1KT状態と第2KT状態とで第2始動入賞口開放処理後時間を異ならせることによって、可変入賞球装置6Bの閉鎖期間（インターバル期間）を異ならせるように構成してもよい。特に、上記のいずれかの方法により第1KT状態における可変入賞球装置6Bの閉鎖期間（インターバル期間）が短くなるように構成すれば、第1KT状態における特殊入賞口への入賞を抑制することができる。

30

【0348】

この特徴部138IWでは、後述するように、第1KT状態では、高ベース状態であることを示す高ベースフラグをセットすることによって高ベース状態に制御することによって、図8-5（1）に示すように、可変入賞球装置6Bの開放時間が長くなるように制御している。また、第2KT状態では、高ベースフラグをセットせず低ベース状態に制御することによって、図8-5（2）に示すように、可変入賞球装置6Bの開放時間が短くなるように制御している。

40

【0349】

なお、例えば、可変入賞球装置6Bの開放時間を延長することを示す特殊フラグ（開放延長フラグ）を設けるようにし、その特殊フラグがセットされていれば図8-5（1）に示すような可変入賞球装置6Bを長時間開放する第1開放パターン（ロング開放）で制御し、特殊フラグがセットされていなければ図8-5（2）に示す可変入賞球装置6Bを短時間開放する第2開放パターン（ショート開放）で制御するように構成してもよい。つまり、第1KT状態でのみ特殊フラグをセットし、大当り遊技状態を含む他の状態では、特

50

殊フラグをセットしないように制御するように構成してもよい。

【0350】

また、第1KT状態であっても、低確率／第1KT状態中の最後の変動表示を実行する場合には、可変入賞球装置6Bの開放時間を短くしてもよい。例えば、低確率／第1KT状態の50回の特別図柄の短縮変動期間のうち、49回目の特別図柄の変動停止に応じて、前述の特殊フラグを消去するように構成してもよい。そのように構成すれば、低確率／第1KT状態の終了後に、左打ち報知を行うときに、可変入賞球装置6Bがロング開放していることに対して遊技者に違和感を与えることを抑制することができる。

【0351】

なお、上記のように、可変入賞球装置6Bの開放制御用のフラグ（特殊フラグ）を用いて可変入賞球装置6Bを構成する場合、さらに、特別図柄の変動表示の短縮変動用のフラグを用いて特別図柄の変動表示を制御するようにしてもよく、この場合、特殊フラグと短縮変動用のフラグとを別々に管理して制御を行うように構成してもよい。

【0352】

また、低確率／非KT状態中においては可変入賞球装置6Bをショート開放するように構成してもよい。そのように構成すれば、低確率／非KT状態（左打ち状態）である場合に可変入賞球装置6Bの開放確率が高くなるように構成する場合には、遊技球を数個発射操作しただけでは可変入賞球装置6Bに入賞しないようすることができ、低確率／非KT状態中に右打ち操作が行われてしまうことを防止することができる。

【0353】

なお、この特徴部138IWでは、図8-5に示すように、普通図柄の変動時間が0.2秒と短い時間に設定されている。これは、例えば、第1KT状態において比較的変動時間が長い第2特別図柄の変動表示が実行される場合に、普通図柄が変動停止中であり且つ普通図柄の保留記憶がない状態では可変入賞球装置6Bが閉鎖状態となっており、第2特別図柄の変動停止タイミングを狙った攻略が可能となってしまうためである（小当たりとなった場合に、普通図柄の変動時間が長いと通過ゲート41を通過した遊技球が可変入賞球装置6Bや特殊可変入賞球装置17に到達するまでに可変入賞球装置6Bが開放せず、特殊入賞口の入賞が可能となってしまう）。これに対して、この特徴部138IWでは、普通図柄の変動時間を短くすることにより、遊技球が通過ゲート41を通過してから可変入賞球装置6Bに到達する前に可変入賞球装置6Bの開放が開始されるように設定されているので、第1KT状態において第2特別図柄の変動表示にもとづく小当たり発生タイミングを狙った発射操作による攻略要素を排除することができる。

【0354】

図8-6および図8-7は、演出制御用CPU120に送出される演出制御コマンドの内容の一例を示す説明図である。図8-6に示す例において、コマンド8000(H)～8007(H)、8011(H)～8030(H)は、特別図柄の可変表示に対応して画像表示装置5において可変表示される飾り図柄の変動パターンを指定する演出制御コマンド（変動パターンコマンド）である。なお、変動パターンを指定する演出制御コマンドは、変動開始を指定するためのコマンドでもある。従って、演出制御用CPU120は、コマンド8000(H)～8007(H)、8011(H)～8030(H)のいずれかを受信すると、画像表示装置5において飾り図柄の可変表示を開始するように制御する。

【0355】

コマンド9001(H)は、変動パターンコマンドで指定する飾り図柄の可変表示の表示結果をはずれとすることを指定する演出制御コマンド（表示結果1指定コマンド）（はずれ指定コマンド）である。コマンド9002(H)は、変動パターンコマンドで指定する飾り図柄の可変表示の表示結果を16R確変大当たりとすることを指定する演出制御コマンド（表示結果2指定コマンド（16R確変大当たり指定コマンド））である。コマンド9003(H)は、変動パターンコマンドで指定する飾り図柄の可変表示の表示結果を9R確変大当たりとすることを指定する演出制御コマンド（表示結果3指定コマンド（9R確変大当たり指定コマンド））である。コマンド9004(H)は、変動パターンコマンドで

指定する飾り図柄の可変表示の表示結果を6R確変大当たりとすることを指定する演出制御コマンド（表示結果4指定コマンド（6R確変大当たり指定コマンド））である。コマンド9005（H）は、変動パターンコマンドで指定する飾り図柄の可変表示の表示結果を6R通常大当たりとすることを指定する演出制御コマンド（表示結果5指定コマンド（6R通常大当たり指定コマンド））である。コマンド9006（H）は、変動パターンコマンドで指定する飾り図柄の可変表示の表示結果を2R確変大当たりとすることを指定する演出制御コマンド（表示結果6指定コマンド（2R確変大当たり指定コマンド））である。コマンド9007（H）は、変動パターンコマンドで指定する飾り図柄の可変表示の表示結果を2R通常大当たりとすることを指定する演出制御コマンド（表示結果7指定コマンド（2R通常大当たり指定コマンド））である。コマンド9008（H）は、変動パターンコマンドで指定する飾り図柄の可変表示の表示結果を小当たりとすることを指定する演出制御コマンド（表示結果8指定コマンド（小当たり指定コマンド））である。

10

【0356】

以下、表示結果1指定コマンド～表示結果8指定コマンドを、表示結果指定コマンドということがある。なお、この特徴部138IWでは、遊技制御用マイクロコンピュータ100は変動パターンコマンドの直前に表示結果指定コマンドを送信するので、演出制御CPU120が第1変動パターンコマンドの直前に受信した表示結果指定コマンドは第1特別図柄についての表示結果指定コマンドであると判定でき、第2変動パターンコマンドの直前に受信した表示結果指定コマンドは第2特別図柄についての表示結果指定コマンドであると判定できるので、表示結果指定コマンドを第1特別図柄と第2特別図柄とについて兼用できるが、第1特別図柄についての表示結果指定コマンドと第2特別図柄についての表示結果指定コマンドとを別にしてもよい。

20

【0357】

また、遊技制御用マイクロコンピュータ100が表示結果指定コマンドを送信するのではなく、15R確変大当たり／9R確変大当たり／6R確変大当たり／6R通常大当たり／2R確変大当たり／2R通常大当たり／小当たり／はずれのそれぞれに対応させて変動パターンコマンドを定め、演出制御CPU120は、受信した変動パターンコマンドにもとづいて飾り図柄の停止図柄を決定するようにしてもよい。

【0358】

コマンドA000（H）は、第1特別図柄の可変表示の停止を特定可能な演出制御コマンド（第1図柄確定指定コマンド）である。コマンドA001（H）は、第2特別図柄の可変表示の停止を特定可能な演出制御コマンド（第2図柄確定指定コマンド）である。

30

【0359】

コマンドBXXXX（H）（X＝任意の16進数）は、大当たり遊技開始から大当たり遊技終了までの間に送出される演出制御コマンドである。そのうち、B000（H）は、第1大当たり遊技の開始を指定する演出制御コマンド（第1大当たり開始指定コマンド：第1ファンファーレ指定コマンド）である。B001（H）は、第1大当たり遊技の終了を指定する演出制御コマンド（第1大当たり終了指定コマンド：第1エンディング指定コマンド）である。B002（H）は、第2大当たり遊技の開始を指定する演出制御コマンド（第2大当たり開始指定コマンド：第2ファンファーレ指定コマンド）である。B003（H）は、第2大当たり遊技の終了を指定する演出制御コマンド（第2大当たり終了指定コマンド：第2エンディング指定コマンド）である。B004（H）は、小当たり遊技の開始を指定する演出制御コマンド（小当たり開始指定コマンド）である。B005（H）は、小当たり遊技の終了を指定する演出制御コマンド（小当たり終了指定コマンド）である。

40

【0360】

コマンドB1XX（H）は、大当たり遊技中のラウンド中の表示を指定する演出制御コマンド（大入賞口開放中表示コマンド）である。なお、「XX」に表示するラウンド数が設定される。コマンドB2XX（H）は、大当たり遊技中のラウンド後の表示（ラウンド間のインターバルの表示）を指定する演出制御コマンド（大入賞口開放後表示コマンド）である。

50

【0361】

コマンドB400(H)は、大入賞口に遊技球が入賞したことを指定する演出制御コマンド(大入賞口入賞指定コマンド)である。コマンドB401(H)は、特殊入賞口に遊技球が入賞したことを指定する演出制御コマンド(特殊入賞口入賞指定コマンド)である。

【0362】

コマンドC000(H)は、第1保留記憶数が4に達していない状態で第1始動入賞口に遊技球が入賞したことを示す演出制御コマンド(第1有効始動入賞指定コマンド)である。コマンドC001(H)は、第2保留記憶数が4に達していない状態で第2始動入賞口に遊技球が入賞したことを示す演出制御コマンド(第2有効始動入賞指定コマンド)である。なお、第1有効始動入賞指定コマンドとして第1保留記憶数を示すコマンドを送信し、第2有効始動入賞指定コマンドとして第2保留記憶数を示すコマンドを送信してもよいが、この特徴部138IWでは、第1有効始動入賞指定コマンドおよび第2有効始動入賞指定コマンドは、始動入賞があったことを示すコマンドである。

10

【0363】

コマンドC801(H)は、通過ゲート41を遊技球が通過したことを指定する演出制御コマンド(ゲート通過指定コマンド)である。

【0364】

コマンドD000(H)は、第1客待ち状態(第1特別図柄の変動が行われておらず、第1保留記憶が記憶されていない状態)であることを指定する演出制御コマンド(第1客待ちデモ表示指定コマンド)である。コマンドD001(H)は、第2客待ち状態(第2特別図柄の変動が行われておらず、第2保留記憶が記憶されていない状態)であることを指定する演出制御コマンド(第2客待ちデモ表示指定コマンド)である。なお、第1客待ちデモ表示指定コマンドは通常状態においてのみ送信され得るコマンドとしてもよい。また、第2客待ちデモ表示指定コマンドはKT状態においてのみ送信され得るコマンドとしてもよい。

20

【0365】

コマンドE000(H)は、遊技状態が低確率/非KT状態であるときの背景表示を指定する演出制御コマンド(低確/非KT背景指定コマンド)である。コマンドE001(H)は、遊技状態が低確率/第1KT状態であるときの背景表示を指定する演出制御コマンド(低確/第1KT背景指定コマンド)である。コマンドE002(H)は、遊技状態が高確率/第1KT状態であるときの背景表示を指定する演出制御コマンド(高確/第1KT背景指定コマンド)である。コマンドE003(H)は、遊技状態が高確率/第2KT状態であるときの背景表示を指定する演出制御コマンド(高確/第2KT背景指定コマンド)である。

30

【0366】

演出制御基板12に搭載されている演出制御用CPU120(具体的には、演出制御用CPU120)は、主基板11に搭載されている遊技制御用マイクロコンピュータ100から上述した演出制御コマンドを受信すると図8-6および図8-7に示された内容に応じて画像表示装置5の表示状態を変更するとともに、ランプの表示状態を変更し、音声制御基板13に対して音番号データを出力する。なお、図8-6および図8-7に示された演出制御コマンド以外の演出制御コマンドも主基板11から演出制御基板12に送信される。例えば、大当たり遊技に関するより詳細な演出制御コマンドや遊技状態を示す演出制御コマンド(例えば、初期化コマンドを示す演出制御コマンド)も主基板11から演出制御基板12に送信される。

40

【0367】

図8-8は、第1特別図柄プロセス処理における第1特別図柄通常処理(ステップS110A)を示すフローチャートである。第1特別図柄通常処理が実行される状態は、第1特図プロセスフラグの値がステップS110Aを示す値となっている場合である。なお、第1特図プロセスフラグの値がステップS110Aを示す値となっている場合とは、第1

50

特別図柄表示装置 4 A において第 1 特別図柄の変動表示がなされていない状態であって、かつ、第 1 大当り遊技（特別可変入賞球装置 7 を所定回開放）中でもない場合である。

【0368】

第 1 特別図柄通常処理において、遊技制御用マイクロコンピュータ 100（具体的には、CPU 103）は、まず、第 1 保留記憶数の値を確認する（ステップ 138 IWS 51 A）。具体的には、第 1 保留記憶数カウンタのカウント値を確認する。

【0369】

第 1 保留記憶数が 0 であれば、第 1 客待ちデモ表示指定コマンドを演出制御用 CPU 120 に送信する（ステップ 138 IWS 52 A）。

【0370】

第 1 保留記憶数が 0 でなければ、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 は、RAM 102 の第 1 保留記憶数バッファにおける保留記憶数 = 1 に対応する保存領域に格納されている各乱数値を読み出して RAM 102 の第 1 乱数バッファ領域に格納するとともに（ステップ 138 IWS 53 A）、第 1 保留記憶数の値を 1 減らし（第 1 保留記憶数カウンタのカウント値を 1 減算し）、かつ、各保存領域の内容をシフトする（ステップ 138 IWS 54 A）。すなわち、RAM 102 の第 1 保留記憶数バッファにおいて第 1 保留記憶数 = n （ $n = 2, 3, 4$ ）に対応する保存領域に格納されている各乱数値を、第 1 保留記憶数 = $n - 1$ に対応する保存領域に格納する。よって、各第 1 保留記憶数に対応するそれぞれの保存領域に格納されている各乱数値が抽出された順番は、常に、第 1 保留記憶数 = 1, 2, 3, 4 の順番と一致するようになっている。すなわち、この例では、可変表示の開

始条件が成立する毎に、各保存領域の内容をシフトする構成としているので、各乱数値が抽出された順番を特定することができる。なお、本例では、第 1 保留記憶数に対応するそれぞれの保存領域に格納されている各乱数値と、第 2 保留記憶数に対応するそれぞれの保存領域に格納されている各乱数値とが抽出された順番についても特定可能に保存される。

【0371】

その後、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 は、現在の遊技状態に応じた背景指定コマンドを演出制御用 CPU 120 に送信する（ステップ 138 IWS 55 A）。具体的に、確変フラグおよび高ベースフラグがオフである場合には低確率／非 KT 状態であると判定して低確／非 KT 背景指定コマンドを、確変フラグがオフで高ベースフラグがオンである場合には低確率／第 1 KT 状態であると判定して低確／第 1 KT 背景指定コマンドを、

【0372】

次いで、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 は、第 2 特別図柄の大当り変動中であるか否かを判定する（ステップ 138 IWS 56 A）。具体的に、第 2 特別図柄の変動表示にもとづいて大当りとなることを示す第 2 大当りフラグがセットされている場合には第 2 特別図柄の大当り変動中であると判定する。第 2 特別図柄の大当り変動中であると判定した場合には、ステップ 138 IWS 57 A 以降の処理を行うことなくステップ 138 IWS 66 A へ移行する。これにより、第 2 特別図柄の大当り変動中に第 1 特別図柄の変動を開始する場合には、大当り判定値が記憶されているか否かにかかわらず強制的にはずれとする構成になっている。

【0373】

なお、強制的にはずれとする方法については、上述したものに限られない。例えばステップ 138 IWS 56 A にて第 2 特別図柄の大当り変動中である場合に、大当り判定用乱数としてはずれの乱数値（固定値）を設定する処理を行い、ステップ 138 IWS 58 A へ移行することにより、始動入賞時にいずれの大当り判定用乱数が取得されていたかにかかわらず強制的にはずれとするものであってもよい。

【0374】

また、大当たり判定とは別に、小当たりとするか否かを決定するための小当たり判定を行う遊技機では、ステップ138 IWS 56 Aにて第2特別図柄の大当たり変動中である場合に、ステップ138 IWS 57 A～138 IWS 62 Aの処理を行わずに、小当たり判定用乱数（大当たり判定用乱数と共通の乱数であってもよいし、全く異なる乱数であってもよい）としてはずれの乱数値（固定値）を設定して小当たり判定を行うことにより、始動入賞時にいずれの大当たり判定用乱数が取得されていたかにかかわらず強制的にはずれとするものであってもよい。

【0375】

第2特別図柄の大当たり変動中でない場合には、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、第1乱数格納バッファから大当たり判定用乱数を読み出し（ステップ138 IWS 57 A）、大当たり判定モジュールを実行する（ステップ138 IWS 58 A）。大当たり判定モジュールは、大当たり判定用乱数が、あらかじめ決められている大当たり判定値と一致したら大当たりとすることに決定するプログラムである。大当たりとすることに決定した場合には（ステップ138 IWS 59 A）、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、第1特別図柄の変動表示にもとづいて大当たりとなることを示す第1大当たりフラグをセットする（ステップ138 IWS 60 A）。そして、大当たり種別判定用乱数にもとづいて大当たり種別が16R確変大当たり、6R確変大当たり、および6R通常大当たりのいずれであるかを判定し（ステップ138 IWS 61 A）、大当たり種別を記憶し（ステップ138 IWS 62 A）、ステップ138 IWS 66 Aへ移行する。

【0376】

また、ステップ138 IWS 59 Aにおいて大当たりとしない場合には、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、小当たり判定モジュールを実行する（ステップ138 IWS 63 A）。小当たり判定モジュールは、大当たり判定用乱数（小当たり判定用の乱数でもよい）が、あらかじめ決められている小当たり判定値と一致したら小当たりとすることに決定するプログラムである。小当たりとすることに決定した場合には（ステップ138 IWS 64 A）、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、第1特別図柄の変動表示にもとづいて小当たりとなることを示す第1小当たりフラグをセットする（ステップ138 IWS 65 A）。そして、ステップ138 IWS 66 Aへ移行する。

【0377】

なお、本例では、図8-1（B）に示したように、第1特別図柄用の小当たり判定テーブル138 IW 130 bには、小当たり判定値が割り振られていないので、ステップ138 IWS 63 Aにおいて、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、100%の確率で小当たりとしないこと（はずれとすること）に決定する。

【0378】

なお、本例で示した処理態様にかぎらず、例えば、大当たりとしないことに決定した場合には、小当たりとするか否かの抽選処理を行うことなく、そのまま無条件にステップ138 IWS 66 Aへ移行することにより、100%の確率ではずれとするように構成してもよい。そのように構成すれば、ステップ138 IWS 63 A～S 65 Aの処理は不要となる。また、また、大当たりとしないことに決定した場合に、低い確率で小当たりとすることに決定する場合があるように構成してもよい。

【0379】

そして、ステップ138 IWS 66 Aにおいて、第1特図プロセスフラグの値を第1変動パターン設定処理に対応した値に更新する（ステップ138 IWS 66 A）。なお、図示は省略したが、ステップ138 IWS 66 Aの直前において停止する図柄の確定をしている。

【0380】

なお、ステップ138 IWS 58 Aでは、遊技状態を加味して、非確変時大当たり判定テーブルおよび確変時大当たり判定テーブルのいずれかをを用いて大当たりとするか否かの判定を行う。

【0381】

図8-9は、第1特別図柄プロセス処理における第1変動パターン設定処理（ステップS111A）を示すフローチャートである。第1変動パターン設定処理において、遊技制御用マイクロコンピュータ100（具体的には、CPU103）は、まず、特別図柄の変動表示の短縮制御中であることを示す特図時短フラグがセットされているか否かを確認する（ステップ138IWS1700A）。なお、本例では、特図時短フラグがセットされ特別図柄の変動表示の短縮制御が行われることによって、第2特別図柄の変動表示を実行させた方が有利な状態になり（図8-2～図8-4参照）、小当たりが発生しやすい状態となるので、KT状態に制御されている状態となる。特図時短フラグがセットされていなければ（すなわち、KT状態でなければ）、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、変動パターンを決定するための変動パターンテーブルとして、図8-2（A）に示す非KT時用の第1特別図柄用変動パターンテーブルを選択する（ステップ138IWS1701A）。特図時短フラグがセットされていれば（すなわち、KT状態であれば）、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、変動パターンを決定するための変動パターンテーブルとして、図8-2（B）に示すKT時用の第1特別図柄用変動パターンテーブルを選択する（ステップ138IWS1702A）。

10

【0382】

次に、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、ステップ138IWS1701A、S1702Aにて使用することに決定した変動パターンテーブルと、第1特別図柄判定用バッファに格納されている変動パターン決定用乱数とにもとづいて、図8-2に示した変動パターンのいずれとするのかを決定する（ステップ138IWS1703A）。本例では、変動パターンを決定することによって、第1特別図柄の変動時間が決定される。また、変動時間を決定したあと、決定した変動時間が設定されている変動パターンを複数の変動パターンの中から選択するようにしてもよい。

20

【0383】

変動パターンを決定すると、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、決定した変動パターンを示す変動パターンコマンドを演出制御用CPU120に送信する制御を行う（ステップ138IWS1704A）。

【0384】

また、ステップ138IWS1703Aにて第1特別図柄の変動時間（変動パターン）を決定すると、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、決定した変動時間を示す変動時間データを第1変動時間タイマに設定して変動時間の計測を開始するとともに（ステップ138IWS1705A）、第1特別図柄表示装置4Aでの第1特別図柄の変動表示を開始する（ステップ138IWS1706A）。そして、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、第1特図プロセスフラグの値を第1特別図柄変動処理に対応した値に更新する（ステップ138IWS1707A）

30

【0385】

図8-10は、第1特別図柄プロセス処理における第1特別図柄変動処理（ステップS112A）を示すフローチャートである。第1特別図柄変動処理において、CPU103は、まず、まだ送信していなければ、大当たりとするか否かの決定結果、および大当たり種別の決定結果にもとづいて、いずれかの表示結果指定コマンド（表示結果1指定コマンド、表示結果2指定コマンド、表示結果4指定コマンド、表示結果5指定コマンド）を演出制御用CPU120に対して送信する制御を行う（ステップ138IWS1120A）。

40

【0386】

次いで、CPU103は、第1変動時間タイマを1減算し（ステップ138IWS1121A）、第1変動時間タイマがタイムアウトしたら（ステップ138IWS1122A）、演出制御用CPU120に図柄確定指定コマンドを送信する制御を行う（ステップ138IWS1123A）。そして、CPU103は、第1特図プロセスフラグの値を第1特別図柄停止処理（ステップS113A）に対応した値に更新する（ステップ138IWS1124A）。

【0387】

50

第1変動時間タイマがタイムアウトしていない場合には、CPU103は、第2特別図柄表示装置4Bにて大当り図柄を導出表示しているか否かを確認する(ステップ138 IWS1125A)。なお、第2特別図柄表示装置4Bにて大当り図柄を導出表示しているか否かは、例えば、第2特図プロセスフラグの値が第2特別図柄停止処理に対応した値となっているとともに、第2特別図柄の変動表示にもとづいて大当りとなることを示す第2大当りフラグがセットされているか否かを確認することにより判定できる。第2特別図柄表示装置4Bにて大当り図柄を導出表示していれば、CPU103は、ステップ138 IWS1123Aに移行して演出制御用CPU120に図柄確定指定コマンドを送信する制御を行う(ステップ138 IWS1123A)とともに、第1特図プロセスフラグの値を第1特別図柄停止処理(ステップS113A)に対応した値に更新する(ステップ138 IWS1124A)。

10

【0388】

ステップ138 IWS1125Aの処理が実行されることによって、この特徴部138 IWでは、第1特別図柄の変動表示の実行中に第2特別図柄の変動表示が大当りとなれば、第1特別図柄の変動表示は強制的に停止され、第1特別図柄と第2特別図柄とで同時に大当りが発生する事態が生じないようにしている。なお、この場合、演出制御用CPU120側では、第1特別図柄の変動表示が強制はずれとされた場合には、ステップS111Aで送信された表示結果1指定コマンドにもとづいて、飾り図柄の変動表示結果として強制的にはずれ図柄を停止表示するように制御する。

【0389】

20

第2特別図柄表示装置4Bにて大当り図柄を導出表示していなければ(ステップ138 IWS1125AのN)、そのまま処理を終了する。

【0390】

図8-11は、第1特別図柄停止処理を示すフローチャートである。第1特別図柄停止処理において、まず、CPU103は、高ベース状態の残余回数を示す高ベース回数カウンタの値が「0」であるか否かを判定し(ステップ138 IWS2010A)、「0」である場合、ステップ138 IWS2015Aへ移行する。高ベース回数カウンタの値が「0」でない場合、すなわち、低確率/第1KT状態である場合、CPU103は、高ベース回数カウンタの値を「1」減算し(ステップ138 IWS2011A)、「0」になったか否かを判定する(ステップ138 IWS2012A)。高ベース回数カウンタの値が「0」にならない場合、ステップ138 IWS2015Aへ移行する。高ベース回数カウンタの値が「0」になった場合、CPU103は、高ベース状態であることを示す高ベースフラグをリセットする(ステップ138 IWS2013A)とともに、特別図柄の変動表示の短縮制御中であることを示す特図時短フラグをリセットする(ステップ138 IWS2014A)。そして、ステップ138 IWS2015Aに移行する。

30

【0391】

この特徴部138 IWでは、後述するように、高ベースフラグがセットされて高ベース状態における変動表示の実行回数が管理されるのは、6R通常大当りや2R通常大当りにもとづく大当り遊技の終了時に低確率/高ベース状態(低確率/第1KT状態)に制御され50回の変動表示が実行される場合である。低確率/高ベース状態(低確率/第1KT状態)である場合には、50回目の変動表示を終了すると、ステップ138 IWS2012A、S2012BでYと判定されてステップ138 IWS2013A、S2013Bで高ベースフラグがリセットされるとともに、ステップ138 IWS2014A、S2014Bで特図時短フラグもリセットされ、低確率/低ベース状態(通常状態(非KT状態))に移行することになる。

40

【0392】

次いで、CPU103は、第1特別図柄表示装置4Aにおいて第1特別図柄の停止図柄を導出表示させる(ステップ138 IWS2015A)。次いで、CPU103は、第1大当りフラグがセットされているか否かを判定する(ステップ138 IWS2016A)。第1大当りフラグがセットされている場合、CPU103は、大当り信号1(大当り遊

50

技中であることを示す信号)および大当たり信号2(連荘中であることを示す信号)を外部出力することを示す大当たり信号出力フラグをセットする(ステップ138 IWS 2022 A)。本特徴部138 IWでは、ステップ138 IWS 2022 Aで大当たり信号出力フラグがセットされたことにもとづいて、情報出力処理(ステップS23)が実行されて、大当たり信号1のホールコンピュータに対する外部出力が開始され、大当たり信号2の外部出力中でなければ、大当たり信号2のホールコンピュータに対する外部出力が開始される。

【0393】

次いで、CPU103は、大入賞口開放前タイマを設定し(ステップ138 IWS 2024 A)、大当たり種別に応じたラウンド1用開放パターンデータをセットし(ステップ138 IWS 2025 A)、大当たりのラウンド数を示すラウンド数カウンタに「1」をセッ

10

【0394】

第1大当たりフラグがセットされていない場合には(ステップ138 IWS 2016 AのN)、CPU103は、第1特図プロセスフラグの値を第1特別図柄通常処理に対応した値に設定する(ステップ138 IWS 2028 A)。

【0395】

なお、本例では、第1特別図柄で大当たり図柄を停止表示したときに、遊技者に対して遊技領域の右方に遊技球を発射操作することを促す右打ち報知を実行可能に構成されている。また、第1特別図柄で大当たり図柄を停止表示したときに、右打ち報知として、遊技者に対して通過ゲート41を狙って遊技球を発射操作することを促す発射促進報知を実行可能に構成されている。

20

【0396】

ただし、本例では、第2特別図柄で大当たり図柄を停止表示した状態では右打ち報知や発射促進報知を実行せず、その状態で第1始動入賞口に遊技球が入賞した場合に右打ち報知や発射促進報知を実行する(この場合、ゲート通過待ち状態であるので、第1始動入賞口に遊技球が入賞しても直ちには第1特別図柄の変動表示は開始されず、第1保留記憶となる)。

【0397】

また、逆に、通常状態(低確率/非KT状態)で通過ゲート41での遊技球の通過を検出した場合には、認識度合いが低い態様(例えば、小音量の音出力や小画面表示)により、遊技者に対して遊技領域の左方に遊技球を発射操作することを促す左打ち報知を行うように構成してもよい。一方で、通常状態(低確率/非KT状態)で第2始動入賞口や特殊入賞口への遊技球の入賞を検出した場合には、認識度合いが高い態様(例えば、大音量の音出力や大画面表示)により左打ち報知を行うように構成してもよい。そのように構成すれば、的確に発射報知を行うことができる。特に、上記の構成により、偶発的に遊技領域の右方に遊技球を発射操作した遊技者に対しては、遊技機の周囲への認識度合いが低い態様により軽度な左打ち報知を行う一方で、右打ち操作を意図的に行う遊技者に対しては、遊技機の周囲への認識度合いが高い態様により左打ち報知を行うように構成してもよい。そのように構成すれば、意図的に右打ち操作を行う遊技者に対して、遊技店の店員から左打ち操作に戻すように促すことができる。

30

40

【0398】

また、上記の場合に、通過ゲート41や第2始動入賞口、特殊入賞口での遊技球の検出数が一定数に達した場合に左打ち報知を行うように構成してもよい。また、通過ゲート41では所定期間内(例えば、1分間)に複数回(例えば、5回)遊技球を検知した場合に左打ち報知を行い、第2始動入賞口や特殊入賞口では所定数よりも少ない特定数(例えば、1個)以上遊技球を検出した場合に左打ち報知を行うように構成してもよい。

【0399】

また、例えば、通過ゲート41での遊技球の検出では外部信号の出力を行わない一方で、第2始動入賞口や特殊入賞口での遊技球の検出では外部信号の出力を行うように構成し

50

てもよい。

【0400】

なお、本特徴部138IWでは特定の条件が満たされたときにデモ表示を行うものであるが、通常状態においてデモ表示を行っているときに通過ゲート41、第2始動入賞口または特殊入賞口への遊技球の入賞を検出した場合には、実行していたデモ表示の実行を終了して左打ち報知を行うものであってもよい。

【0401】

図8-12は、第1特別図柄プロセス処理における第1ゲート通過待ち処理（ステップS114A）を示すフローチャートである。第1ゲート通過待ち処理において、CPU103は、ゲートスイッチ21からの検出信号を入力したか否かを確認する（ステップ138IWS2501A）。ゲートスイッチ21からの検出信号を入力していなければ、そのまま処理を終了する。ゲートスイッチ21からの検出信号を入力していれば、CPU103は、セットされていれば、確変状態であることを示す確変フラグや、高ベースフラグ、特図時短フラグをリセットし、高ベース回数カウンタの値を0クリアする（ステップ138IWS2504A）。次いで、CPU103は、第1大当たり開始指定コマンドを送信し（ステップ138IWS2505A）、第1特図プロセスフラグの値を第1大当たり開放前処理に対応した値に設定する（ステップ138IWS2506A）。 10

【0402】

この特徴部138IWでは、第1ゲート通過待ち処理が実行されることによって、第1特別図柄の変動表示結果として大当たり図柄が導出表示されると直ちに大当たり遊技が開始されるのではなく、通過ゲート41を遊技球が通過し、ゲートスイッチ21で検出されたことを条件として、大当たり遊技に移行するように構成されている。 20

【0403】

図8-13および図8-14は、第1特別図柄プロセス処理における第1大当たり終了処理（ステップS118A）を示すフローチャートである。第1大当たり終了処理において、CPU103は、大当たり終了表示タイマが設定されているか否かを確認し（ステップ138IWS2200A）、大当たり終了表示タイマが設定されている場合には、ステップ138IWS2204Aに移行する。大当たり終了表示タイマが設定されていない場合には、第1大当たりフラグをリセットし（ステップ138IWS2201A）、第1大当たり終了指定コマンドを送信する制御を行う（ステップ138IWS2202A）。そして、大当たり終了表示タイマに、画像表示装置5において大当たり終了表示が行われている時間（大当たり終了表示時間）に対応する表示時間に相当する値を設定し（ステップ138IWS2203A）、処理を終了する。 30

【0404】

ステップ138IWS2204Aでは、大当たり終了表示タイマの値を1減算する（ステップ138IWS2204A）。そして、CPU103は、大当たり終了表示タイマの値が0になっているか否か、すなわち大当たり終了表示時間が経過したか否かを確認する（ステップ138IWS2205A）。経過していなければ処理を終了する。

【0405】

大当たり終了表示時間を経過していれば（ステップ138IWS2205AのY）、CPU103は、今回終了した大当たりの種別が16R確変大当たりであるか否かを確認する（ステップ138IWS2206A）。なお、16R確変大当たりであるか否かは、例えば、第1特別図柄通常処理のステップ138IWS62Aで記憶した大当たり種別を確認することにより判定できる。16R確変大当たりであれば、CPU103は、確変状態であることを示す確変フラグをセットして確変状態（高確率状態）に移行する（ステップ138IWS2207A）とともに、特別図柄の変動表示の短縮制御中であることを示す特図時短フラグをセットしてKT状態に移行する（ステップ138IWS2208A）。そして、ステップ138IWS2223Aに移行する。なお、16R確変大当たりであった場合には、高ベースフラグのセットは行われないので、高確率／低ベース状態（高確率／第2KT状態）に制御されることになる。 40 50

【0406】

16R確変大当りでなければ、CPU103は、今回終了した大当りの種別が6R確変大当りであるか否かを確認する（ステップ138IWS2209A）。なお、6R確変大当りであるか否かは、例えば、第1特別図柄通常処理のステップ138IWS62Aで記憶した大当り種別を確認することにより判定できる。6R確変大当りであれば、CPU103は、確変フラグをセットして確変状態（高確率状態）に移行する（ステップ138IWS2212A）とともに、高ベースフラグをセットして高ベース状態に移行し（ステップ138IWS2213A）、さらに特図時短フラグをセットしてKT状態に移行する（ステップ138IWS2214A）。そして、ステップ138IWS2223Aに移行する。従って、6R確変大当りであった場合には、高確率／高ベース状態（高確率／第1KT状態）に制御されることになる。

10

【0407】

なお、6R確変大当りである場合には、高ベースフラグをセットするだけで高ベース回数カウンタのセットは行わない。この場合、高ベース回数カウンタは大当り遊技を開始するときに0にリセットされているので（第1ゲート通過待ち処理のステップ138IWS2504A参照）、高ベース回数カウンタの値は0のままである。従って、6R確変大当りにもとづく大当り遊技の終了後は、高確率／高ベース状態（高確率／第1KT状態）に制御され、その後の変動表示において高ベース回数カウンタの値が0であることから、第1特別図柄停止処理のステップ138IWS2010AでYと判定されてステップ138IWS2011Aの高ベース回数カウンタの減算処理は行われず、次回の当りが発生するまで高確率／高ベース状態（高確率／第1KT状態）が維持されることになる。

20

【0408】

6R確変大当りでもなければ（すなわち、6R通常大当りであれば）、CPU103は、高ベースフラグをセットして高ベース状態に移行する（ステップ138IWS2219A）とともに、特図時短フラグをセットしてKT状態に移行する（ステップ138IWS2220A）。また、CPU103は、高ベース回数カウンタに「50」をセットする（ステップ138IWS2221A）。そして、ステップ138IWS2223Aに移行する。従って、6R通常大当りであった場合には、低確率／高ベース状態（低確率／第1KT状態）に制御されることになる。

30

【0409】

そして、CPU103は、第1特図プロセスフラグの値を第1特別図柄通常処理（ステップS110A）に対応した値に更新する（ステップ138IWS2223A）。

【0410】

図8-15は、第2特別図柄プロセス処理における第2特別図柄通常処理を示すフローチャートである。第2特別図柄通常処理が実行される状態は、第2特図プロセスフラグの値が第2特別図柄通常処理を示す値となっている場合である。なお、第2特図プロセスフラグの値が第2特別図柄通常処理を示す値となっている場合とは、第2特別図柄表示装置4Bにおいて第2特別図柄の変動表示がなされていない状態であって、かつ、第2大当り遊技（特別可変入賞球装置7を所定回開放）中でも小当り遊技中（特殊可変入賞球装置17を開放）中でもない場合である。

40

【0411】

第2特別図柄通常処理において、遊技制御用マイクロコンピュータ100（具体的には、CPU103）は、まず、第2保留記憶数の値を確認する（ステップ138IWS51B）。具体的には、第2保留記憶数カウンタのカウント値を確認する。

【0412】

第2保留記憶数が0であれば、第2客待ちデモ表示指定コマンドを演出制御用CPU120に送信する（ステップ138IWS52B）。

【0413】

第2保留記憶数が0でなければ、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、RAM1

50

02の第2保留記憶数バッファにおける保留記憶数=1に対応する保存領域に格納されている各乱数値を読み出してRAM102の第2乱数バッファ領域に格納するとともに(ステップ138 IWS53B)、第2保留記憶数の値を1減らし(第2保留記憶数カウンタのカウント値を1減算し)、かつ、各保存領域の内容をシフトする(ステップ138 IWS54B)。すなわち、RAM102の第2保留記憶数バッファにおいて第2保留記憶数=n(n=2, 3, 4)に対応する保存領域に格納されている各乱数値を、第2保留記憶数=n-1に対応する保存領域に格納する。よって、各第2保留記憶数に対応するそれぞれの保存領域に格納されている各乱数値が抽出された順番は、常に、第2保留記憶数=1, 2, 3, 4の順番と一致するようになっている。すなわち、この例では、可変表示の開始条件が成立する毎に、各保存領域の内容をシフトする構成としているので、各乱数値が抽出された順番を特定することができる。

10

【0414】

その後、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、現在の遊技状態に応じた背景指定コマンドを演出制御用CPU120に送信する(ステップ138 IWS55B)。なお、具体的な背景指定コマンドの送信の仕方は、第1特別図柄通常処理のステップ138 IWS55Aで示した処理と同様である。

【0415】

次いで、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、第1特別図柄の大当たり変動中であるか否かを判定する(ステップ138 IWS56B)。具体的に、第1特別図柄の変動表示にもとづいて大当たりとなることを示す第1大当たりフラグがセットされている場合には第1特別図柄の大当たり変動中であると判定する。第1特別図柄の大当たり変動中であると判定した場合には、ステップ138 IWS57B以降の処理を行うことなくステップ138 IWS66Bへ移行する。これにより、第1特別図柄の大当たり変動中に第2特別図柄の変動を開始する場合には、大当たり判定値が記憶されているか否かにかかわらず強制的にはずれとする構成になっている。

20

【0416】

なお、強制的にはずれとする方法については、上述したものに限られない。例えばステップ138 IWS56Bにて第1特別図柄の大当たり変動中である場合に、大当たり判定用乱数としてはずれの乱数値(固定値)を設定する処理を行い、ステップ138 IWS58Bへ移行することにより、始動入賞時にいずれの大当たり判定用乱数が取得されていたかにかかわらず強制的にはずれとするものであってもよい。

30

【0417】

また、ステップ138 IWS56Bにて第1特別図柄の大当たり変動中である場合に、ステップ138 IWS57B~S62Bの処理を行わずに、小当たり判定用乱数(大当たり判定用乱数と共通の乱数であってもよいし、全く異なる乱数であってもよい)としてはずれの乱数値(固定値)を設定して小当たり判定を行うことにより、始動入賞時にいずれの大当たり判定用乱数が取得されていたかにかかわらず強制的にはずれとするものであってもよい。

【0418】

第1特別図柄の大当たり変動中でない場合には、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、第2乱数格納バッファから大当たり判定用乱数を読み出し(ステップ138 IWS57B)、大当たり判定モジュールを実行する(ステップ138 IWS58B)。大当たり判定モジュールは、大当たり判定用乱数が、あらかじめ決められている大当たり判定値と一致したら大当たりとすることに決定するプログラムである。大当たりとすることに決定した場合には(ステップ138 IWS59B)、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、第2特別図柄の変動表示にもとづいて大当たりとなることを示す第2大当たりフラグをセットする(ステップ138 IWS60B)。そして、大当たり種別判定用乱数にもとづいて大当たり種別が16R確変大当たり、9R確変大当たり、2R確変大当たり、および2R通常大当たりのいずれであるかを判定し(ステップ138 IWS61B)、大当たり種別を記憶し(ステップ138 IWS62B)、ステップ138 IWS66Bへ移行する。

40

【0419】

50

また、ステップ138 IWS59Bにおいて大当たりとしない場合には、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、小当たり判定モジュールを実行する（ステップ138 IWS63B）。小当たり判定モジュールは、大当たり判定用乱数（小当たり判定用の乱数でもよい）が、あらかじめ決められている小当たり判定値と一致したら小当たりとすることに決定するプログラムである。小当たりとすることに決定した場合には（ステップ138 IWS64B）、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、第2特別図柄の変動表示にもとづいて小当たりとなることを示す第2小当たりフラグをセットする（ステップ138 IWS65B）。そして、ステップ138 IWS66Bへ移行する。

【0420】

なお、本例では、図8-1（C）に示したように、第2特別図柄用の小当たり判定テーブル138 IW130cには、非確変時小当たり判定テーブルでは、非確変状態（低確率状態）における大当たり判定値（0～224）を除く全ての判定値（225～65535）が小当たり判定値として割り振られ、確変時小当たり判定テーブルでは、確変状態（高確率状態）における大当たり判定値（0～2249）を除く全ての判定値（2250～65535）が小当たり判定値として割り振られているので、ステップ138 IWS63Bにおいて、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、100%の確率で小当たりとすることに決定する。

【0421】

なお、本例で示した処理態様にかぎらず、例えば、大当たりとしないことに決定した場合には、小当たりとするか否かの抽選処理を行うことなく、そのまま無条件に第2小当たりフラグをセットすることにより、100%の確率で小当たりとするように構成してもよい。そのように構成すれば、ステップ138 IWS63B、S64Bの処理は不要となる。また、大当たりとしないことに決定した場合に、低い確率ではずれとすることに決定する場合があるように構成してもよい。

【0422】

そして、ステップ138 IWS66Bにおいて、第2特図プロセスフラグの値を第2変動パターン設定処理に対応した値に更新する（ステップ138 IWS66B）。なお、図示は省略したが、ステップ138 IWS66Bの直前において停止する図柄の確定をしている。

【0423】

なお、ステップ138 IWS58Bでは、遊技状態を加味して、非確変時大当たり判定テーブルおよび確変時大当たり判定テーブルのいずれかをを用いて大当たりとするか否かの判定を行う。

【0424】

第2変動パターン設定処理は、図8-9に示した第1変動パターン設定処理（ステップS111A）と同様である。すなわち、図8-9に示す第1変動パターン設定処理において、「第1」を「第2」に読み替えれば、第2変動パターン処理が説明されたことになる。ただし、第2変動パターン設定処理では、CPU103は、まず、ステップ138 IWS1700Aと同様の処理を行い、特図時短フラグがセットされているか否かを確認する。特図時短フラグがセットされていなければ（すなわち、KT状態でなければ）、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、変動パターンを決定するための変動パターンテーブルとして、図8-3（C）に示す非KT時用の第2特別図柄用変動パターンテーブルを選択する。特図時短フラグがセットされていれば（すなわち、KT状態であれば）、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、確変フラグおよび高ベースフラグがセットされているか否かや、変動回数に応じて、変動パターンを決定するための変動パターンテーブルとして、図8-3（D）～図8-4（I）に示すいずれかのKT時用の第2特別図柄用変動パターンテーブルを選択する。例えば、確変フラグがオフで高ベースフラグがオンであれば（低確率／第1KT状態であれば）、1変動目であれば図8-3（D）に示す第2特別図柄用変動パターンテーブルを選択し、2～49変動目であれば図8-3（E）に示す第2特別図柄用変動パターンテーブルを選択し、50変動目であれば図8-3（F）に示す第2特別図柄用変動パターンテーブルを選択する。また、例えば、確変フラグおよび高ベ

ースフラグの両方がオンであれば（高確率／第1KT状態であれば）、1変動目であれば図8-4（G）に示す第2特別図柄用変動パターンテーブルを選択し、2変動目以降であれば図8-4（H）に示す第2特別図柄用変動パターンテーブルを選択する。また、例えば、確変フラグがオンで高ベースフラグがオフであれば（高確率／第2KT状態であれば）、図8-4（I）に示す第2特別図柄用変動パターンテーブルを選択する。

【0425】

第2特別図柄変動処理は、図8-10に示した第1特別図柄変動処理（ステップS112A）と同様である。すなわち、図8-10に示す第1特別図柄変動処理において、「第1」を「第2」に読み替えれば、第2特別図柄変動処理が説明されたことになる。

【0426】

図8-16は、第2特別図柄停止処理を示すフローチャートである。第2特別図柄停止処理において、まず、CPU103は、高ベース回数カウンタの値が「0」であるか否かを判定し（ステップ138IWS2010B）、「0」である場合、ステップ138IWS2015Bへ移行する。高ベース回数カウンタの値が「0」でない場合、すなわち、低確率／第1KT状態である場合、CPU103は、高ベース回数カウンタの値を「1」減算し（ステップ138IWS2011B）、「0」になったか否かを判定する（ステップ138IWS2012B）。高ベース回数カウンタの値が「0」にならない場合、ステップ138IWS2015Bへ移行する。高ベース回数カウンタの値が「0」になった場合、CPU103は、高ベースフラグをリセットする（ステップ138IWS2013B）とともに、特図時短フラグをリセットする（ステップ138IWS2014B）。そして、ステップ138IWS2015Bに移行する。

【0427】

次いで、CPU103は、第2特別図柄表示装置4Bにおいて第2特別図柄の停止図柄を導出表示させる（ステップ138IWS2015B）。次いで、CPU103は、第2大当たりフラグがセットされているか否かを判定する（ステップ138IWS2016B）。第2大当たりフラグがセットされている場合、CPU103は、特図時短フラグがセットされているか否かを確認する（ステップ138IWS2021B）。特図時短フラグがセットされていない場合は（すなわち、KT状態でなければ）、そのままステップ138IWS2024Bに移行する。

【0428】

特図時短フラグがセットされていれば（すなわち、KT状態中であれば）、CPU103は、大当たり信号出力フラグをセットする（ステップ138IWS2022B）。本特徴部138IWでは、ステップ138IWS2022Bで大当たり信号出力フラグがセットされたことにもとづいて、情報出力処理（ステップS23）が実行されて、大当たり信号1のホールコンピュータに対する外部出力が開始され、大当たり信号2の外部出力中でなければ、大当たり信号2のホールコンピュータに対する外部出力が開始される。

【0429】

次いで、CPU103は、大入賞口開放前タイマを設定し（ステップ138IWS2024B）、大当たり種別に応じたラウンド1用開放パターンデータをセットし（ステップ138IWS2025B）、ラウンド数カウンタに「1」をセットし（ステップ138IWS2026B）、第2特図プロセスフラグの値を第2ゲート通過待ち処理に対応した値に設定する（ステップ138IWS2027B）。

【0430】

第2大当たりフラグがセットされていない場合には（ステップ138IWS2016BのN）、CPU103は、第2特図プロセスフラグの値を第2特別図柄通常処理に対応した値に設定する（ステップ138IWS2028B）。

【0431】

図8-17は、第2特別図柄プロセス処理における第2ゲート通過待ち処理を示すフローチャートである。第2ゲート通過待ち処理において、CPU103は、ゲートスイッチ21からの検出信号を入力したか否かを確認する（ステップ138IWS2501B）。

ゲートスイッチ21からの検出信号を入力していなければ、そのまま処理を終了する。ゲートスイッチ21からの検出信号を入力していれば、CPU103は、特図時短フラグがセットされているか否かを確認する（ステップ138 IWS 2502 B）。特図時短フラグがセットされていれば（すなわち、KT状態であれば）、そのままステップ138 IWS 2504 Bに移行する。

【0432】

特図時短フラグがセットされていない（すなわち、KT状態中でなければ）、CPU103は、大当たり信号出力フラグをセットする（ステップ138 IWS 2503 B）。特徴部138 IWでは、ステップ138 IWS 2503 Bで大当たり信号出力フラグがセットされたことにもとづいて、情報出力処理（ステップS23）が実行されて、大当たり信号1のホールコンピュータに対する外部出力が開始され、大当たり信号2の外部出力中でなければ、大当たり信号2のホールコンピュータに対する外部出力が開始される。

10

【0433】

次いで、CPU103は、セットされていれば、確変フラグや、高ベースフラグ、特図時短フラグをリセットし、高ベース回数カウンタの値を0クリアする（ステップ138 IWS 2504 B）。次いで、CPU103は、第2大当たり開始指定コマンドを送信し（ステップ138 IWS 2505 B）、第2特図プロセスフラグの値を第2大当たり開放前処理に対応した値に設定する（ステップ138 IWS 2506 B）。

【0434】

この特徴部138 IWでは、第2ゲート通過待ち処理が実行されることによって、第2特別図柄の変動表示結果として大当たり図柄が導出表示されると直ちに大当たり遊技が開始されるのではなく、通過ゲート41を遊技球が通過し、ゲートスイッチ21で検出されたことを条件として、大当たり遊技に移行するように構成されている。

20

【0435】

図8-18および図8-19は、第2特別図柄プロセス処理における第2大当たり終了処理を示すフローチャートである。第2大当たり終了処理において、CPU103は、大当たり終了表示タイマが設定されているか否か確認し（ステップ138 IWS 2200 B）、大当たり終了表示タイマが設定されている場合には、ステップ138 IWS 2204 Bに移行する。大当たり終了表示タイマが設定されていない場合には、第2大当たりフラグをリセットし（ステップ138 IWS 2201 B）、第2大当たり終了指定コマンドを送信する制御を行う（ステップ138 IWS 2202 B）。そして、大当たり終了表示タイマに、画像表示装置5において大当たり終了表示が行われている時間（大当たり終了表示時間）に対応する表示時間に相当する値を設定し（ステップ138 IWS 2203 B）、処理を終了する。

30

【0436】

ステップ138 IWS 2204 Bでは、大当たり終了表示タイマの値を1減算する（ステップ138 IWS 2204 B）。そして、CPU103は、大当たり終了表示タイマの値が0になっているか否か、すなわち大当たり終了表示時間が経過したか否か確認する（ステップ138 IWS 2205 B）。経過していなければ処理を終了する。

【0437】

大当たり終了表示時間を経過していれば（ステップ138 IWS 2205 BのY）、CPU103は、今回終了した大当たりの種別が16R確変大当たりまたは2R確変大当たりであるか否かを確認する（ステップ138 IWS 2206 B）。なお、16R確変大当たりまたは2R確変大当たりであるか否かは、例えば、第2特別図柄通常処理のステップ138 IWS 62 Bで記憶した大当たり種別を確認することにより判定できる。16R確変大当たりまたは2R確変大当たりであれば、CPU103は、確変フラグをセットして確変状態（高確率状態）に移行する（ステップ138 IWS 2207 B）とともに、特図時短フラグをセットしてKT状態に移行する（ステップ138 IWS 2208 B）。そして、ステップ138 IWS 2223 Bに移行する。なお、16R確変大当たりまたは2R確変大当たりであった場合には、高ベースフラグのセットは行われないので、高確率／低ベース状態（高確率／第2KT状態）に制御されることになる。

40

50

【0438】

16R確変大当りおよび2R確変大当りのいずれでもなければ、CPU103は、今回終了した大当りの種別が9R確変大当りであるか否かを確認する（ステップ138IWS2209B）。なお、9R確変大当りであるか否かは、例えば、第2特別図柄通常処理のステップ138IWS62Bで記憶した大当り種別を確認することにより判定できる。9R確変大当りであれば、CPU103は、確変フラグをセットして確変状態（高確率状態）に移行する（ステップ138IWS2212B）とともに、高ベースフラグをセットして高ベース状態に移行し（ステップ138IWS2213B）、さらに特図時短フラグをセットしてKT状態に移行する（ステップ138IWS2214B）。そして、ステップ138IWS2223Bに移行する。従って、9R確変大当りであった場合には、高確率／高ベース状態（高確率／第1KT状態）に制御されることになる。

10

【0439】

なお、9R確変大当りである場合には、高ベースフラグをセットするだけで高ベース回数カウンタのセットは行わない。この場合、高ベース回数カウンタは大当り遊技を開始するときに0にリセットされているので（第2ゲート通過待ち処理のステップ138IWS2504B参照）、高ベース回数カウンタの値は0のままである。従って、9R確変大当りにもとづく大当り遊技の終了後は、高確率／高ベース状態（高確率／第1KT状態）に制御され、その後の変動表示において高ベース回数カウンタの値が0であることから、第2特別図柄停止処理でステップ138IWS2010BでYと判定されてステップ138IWS2011Bの高ベース回数カウンタの減算処理は行われず。そして、次回の大当りが発生するまで高確率／高ベース状態（高確率／第1KT状態）が維持されることになる。

20

【0440】

9R確変大当りでもなければ（すなわち、2R通常大当りであれば）、CPU103は、高ベースフラグをセットして高ベース状態に移行する（ステップ138IWS2219B）とともに、特図時短フラグをセットしてKT状態に移行する（ステップ138IWS2220B）。また、CPU103は、高ベース回数カウンタに「50」をセットする（ステップ138IWS2221B）。そして、ステップ138IWS2223Bに移行する。従って、2R通常大当りであった場合には、低確率／高ベース状態（低確率／第1KT状態）に制御されることになる。

30

【0441】

そして、CPU103は、第2特図プロセスフラグの値を第2特別図柄通常処理に対応した値に更新する（ステップ138IWS2223B）。

【0442】

ここで、この特徴部138IWにおける遊技状態の遷移について説明する。図8-20は、この特徴部138IWにおける遊技状態の遷移の仕方を説明するための説明図である。まず、この特徴部138IWでは、低確率／低ベース状態（通常状態（非KT状態））では、遊技者は遊技領域の左方を狙って遊技球の発射操作（左打ち）を行う。そのため、通常状態では、主として第1始動入賞口への始動入賞が発生し、主として第1特別図柄の変動表示が実行される。また、主として第1特別図柄の変動表示が実行されることから、低確率／低ベース状態において大当りが発生した場合には、主として16R確変大当り、6R確変大当り、または6R通常大当りが発生する。

40

【0443】

図8-20に示すように、低確率／低ベース状態において16R確変大当りが発生した場合には、その大当り遊技の終了後に高確率／低ベース状態（高確率／第2KT状態）に移行し、次の大当りが発生するまで高確率／低ベース状態が維持される（ステップ138IWS2206A～S2208A参照）。また、低確率／低ベース状態において6R確変大当りが発生した場合には、その大当り遊技の終了後に高確率／高ベース状態（高確率／第1KT状態）に移行し、次の大当りが発生するまで高確率／高ベース状態が維持される（ステップ138IWS2209A，S2212A～S2214A参照）。また、低確率

50

／低ベース状態において6 R通常大当りが発生した場合には、その大当り遊技の終了後に低確率／高ベース状態（低確率／第1 K T状態）に移行し、次の大当りが発生するか50回の変動表示を終了するまで低確率／高ベース状態が維持される（ステップ1 3 8 I W S 2 2 1 9 A～S 2 2 2 1 A参照）。

【0 4 4 4】

K T状態（高確率／高ベース状態、低確率／高ベース状態、高確率／低ベース状態）に移行した後である場合には、この特徴部1 3 8 I Wでは、遊技者は遊技領域の右方を狙って遊技球の発射操作（右打ち）を行う。そのため、K T状態では、主として第2始動入賞口への始動入賞が発生し、主として第2特別図柄の変動表示が実行される。また、主として第2特別図柄の変動表示が実行されることから、K T状態において大当りが発生した場合

10

【0 4 4 5】

図8-20に示すように、高確率／高ベース状態（高確率／第1 K T状態）において1 6 R確変大当りまたは2 R確変大当りが発生した場合には、その大当り遊技の終了後に高確率／低ベース状態（高確率／第2 K T状態）に移行し、次の大当りが発生するまで高確率／低ベース状態が維持される（ステップ1 3 8 I W S 2 2 0 6 B～S 2 2 0 8 B参照）。また、高確率／高ベース状態（高確率／第1 K T状態）において9 R確変大当りが発生した場合には、その大当り遊技の終了後に高確率／高ベース状態（高確率／第1 K T状態）に移行し、次の大当りが発生するまで高確率／高ベース状態が維持される（ステップ1 3 8 I W S 2 2 0 9 B, S 2 2 1 2 B～S 2 2 1 4 B参照）。なお、この特徴部1 3 8 I Wでは、第2特別図柄の変動表示が実行される場合には、9 R確変大当りとなる確率が合計で50%であるので（図8-1（D）,（E）参照）、一旦高確率／高ベース状態となると50%の割合で高確率／高ベース状態がループすることになる。また、高確率／高ベース状態（高確率／第1 K T状態）において2 R通常大当りが発生した場合には、その大当り遊技の終了後に低確率／高ベース状態（低確率／第1 K T状態）に移行し、次の大当りが発生するか50回の変動表示を終了するまで低確率／高ベース状態が維持される（ステップ1 3 8 I W S 2 2 1 9 B～S 2 2 2 1 B参照）。

20

【0 4 4 6】

図8-20に示すように、低確率／高ベース状態（低確率／第1 K T状態）において1 6 R確変大当りまたは2 R確変大当りが発生した場合には、その大当り遊技の終了後に高確率／低ベース状態（高確率／第2 K T状態）に移行し、次の大当りが発生するまで高確率／低ベース状態が維持される（ステップ1 3 8 I W S 2 2 0 6 B～S 2 2 0 8 B参照）。また、低確率／高ベース状態（低確率／第1 K T状態）において9 R確変大当りが発生した場合には、その大当り遊技の終了後に高確率／高ベース状態（高確率／第1 K T状態）に移行し、次の大当りが発生するまで高確率／高ベース状態が維持される（ステップ1 3 8 I W S 2 2 0 9 B, S 2 2 1 2 B～S 2 2 1 4 B参照）。また、低確率／高ベース状態（低確率／第1 K T状態）において2 R通常大当りが発生した場合には、その大当り遊技の終了後に低確率／高ベース状態（低確率／第1 K T状態）に移行し、次の大当りが発生するか50回の変動表示を終了するまで低確率／高ベース状態が維持される（ステップ1 3 8 I W S 2 2 1 9 B～S 2 2 2 1 B参照）。なお、この特徴部1 3 8 I Wでは、第2特別図柄の変動表示が実行される場合には、2 R通常大当りとなる確率が35%であるので（図8-1（D）,（E）参照）、一旦低確率／高ベース状態となると35%の割合で低確率／高ベース状態がループすることになる。なお、6 R通常大当りや2 R通常大当りが発生して低確率／高ベース状態となった後、次の大当りが発生することなく、50回の変動表示が終了した場合には、図8-20に示すように、低確率／低ベース状態（通常状態（非K T状態））に移行する（ステップ1 3 8 I W S 2 0 1 0 A～S 2 0 1 4 A参照）。

30

40

【0 4 4 7】

図8-20に示すように、高確率／低ベース状態（高確率／第2 K T状態）において1

50

6 R 確変大当たりまたは 2 R 確変大当たりが発生した場合には、その大当たり遊技の終了後に高確率／低ベース状態（高確率／第 2 K T 状態）に移行し、次の大当たりが発生するまで高確率／低ベース状態が維持される（ステップ 1 3 8 I W S 2 2 0 6 B～S 2 2 0 8 B 参照）。なお、この特徴部 1 3 8 I W では、第 2 特別図柄の変動表示が実行される場合には、第 2 特別図柄の変動表示が実行される場合には、1 6 R 確変大当たりまたは 2 R 確変大当たりとなる確率が 1 5 % であるので（図 8 - 1 （D）, （E）参照）、一旦高確率／低ベース状態となると 1 5 % の割合で高確率／低ベース状態がループすることになる。また、高確率／低ベース状態（高確率／第 2 K T 状態）において 9 R 確変大当たりが発生した場合には、その大当たり遊技の終了後に高確率／高ベース状態（高確率／第 1 K T 状態）に移行し、次の大当たりが発生するまで高確率／高ベース状態が維持される（ステップ 1 3 8 I W S 2 2 0 9 B, S 2 2 1 2 B～S 2 2 1 4 B 参照）。また、高確率／低ベース状態（高確率／第 2 K T 状態）において 2 R 通常大当たりが発生した場合には、その大当たり遊技の終了後に低確率／高ベース状態（低確率／第 1 K T 状態）に移行し、次の大当たりが発生するか 5 0 回の変動表示を終了するまで低確率／高ベース状態が維持される（ステップ 1 3 8 I W S 2 2 1 9 B～S 2 2 2 1 B 参照）。

10

【0 4 4 8】

なお、図 8 - 2 0 では、低確率／低ベース状態（通常状態（非 K T 状態））では第 1 特別図柄の変動表示が実行される場合について説明したが、低い割合で第 2 特別図柄の変動表示が実行される可能性もありうる。この場合、1 6 R 確変大当たりまたは 2 R 確変大当たりが発生した場合には、高確率／低ベース状態（高確率／第 2 K T 状態）に移行することになる。また、9 R 確変大当たりが発生した場合には、高確率／高ベース状態（高確率／第 1 K T 状態）に移行することになる。また、2 R 通常大当たりが発生した場合には、低確率／高ベース状態（低確率／第 1 K T 状態）に移行し、次の大当たりが発生するか 5 0 回の変動表示を終了するまで低確率／高ベース状態が維持されることになる。

20

【0 4 4 9】

また、図 8 - 2 0 では、高確率／高ベース状態（高確率／第 1 K T 状態）では第 2 特別図柄の変動表示が実行される場合について説明したが、低い割合で第 1 特別図柄の変動表示が実行される可能性もありうる。この場合、1 6 R 確変大当たりが発生した場合には、高確率／低ベース状態（高確率／第 2 K T 状態）に移行することになる。また、6 R 確変大当たりが発生した場合には、高確率／高ベース状態（高確率／第 1 K T 状態）に移行することになる。また、6 R 通常大当たりが発生した場合には、低確率／高ベース状態（低確率／第 1 K T 状態）に移行し、次の大当たりが発生するか 5 0 回の変動表示を終了するまで低確率／高ベース状態が維持されることになる。

30

【0 4 5 0】

また、図 8 - 2 0 では、低確率／高ベース状態（低確率／第 1 K T 状態）では第 2 特別図柄の変動表示が実行される場合について説明したが、低い割合で第 1 特別図柄の変動表示が実行される可能性もありうる。この場合、1 6 R 確変大当たりが発生した場合には、高確率／低ベース状態（高確率／第 2 K T 状態）に移行することになる。また、6 R 確変大当たりが発生した場合には、高確率／高ベース状態（高確率／第 1 K T 状態）に移行することになる。また、6 R 通常大当たりが発生した場合には、低確率／高ベース状態（低確率／第 1 K T 状態）に移行し、次の大当たりが発生するか 5 0 回の変動表示を終了するまで低確率／高ベース状態が維持されることになる。

40

【0 4 5 1】

また、図 8 - 2 0 では、高確率／低ベース状態（高確率／第 2 K T 状態）では第 2 特別図柄の変動表示が実行される場合について説明したが、低い割合で第 1 特別図柄の変動表示が実行される可能性もありうる。この場合、1 6 R 確変大当たりが発生した場合には、高確率／低ベース状態（高確率／第 2 K T 状態）に移行することになる。また、6 R 確変大当たりが発生した場合には、高確率／高ベース状態（高確率／第 1 K T 状態）に移行することになる。また、6 R 通常大当たりが発生した場合には、低確率／高ベース状態（低確率／第 1 K T 状態）に移行し、次の大当たりが発生するか 5 0 回の変動表示を終了するまで低確

50

率／高ベース状態が維持されることになる。

【0452】

図8-21は、パチンコ遊技機1が出力する外部出力信号を説明するための説明図である。外部出力端子板の端子01には、賞球信号が割り当てられている。賞球信号とは、賞球を所定個数（本例では、10個）払い出すごとに外部出力される信号である。また、外部出力端子板の端子05には、大当り信号1が割り当てられている。大当り信号1は、全ての大当り遊技の期間中にわたって連続して外部出力される信号（すなわち、大当り遊技中であることを示す信号）である。また、外部出力端子板の端子06には、大当り信号2が割り当てられている。大当り信号2は、全ての大当り遊技の期間中およびKT状態中にわたって連続して外部出力される信号（すなわち、連荘中であることを示す信号）である。また、外部出力端子板の端子07には、特殊入賞口信号が割り当てられている。特殊入賞口入賞信号は、特殊入賞口への遊技球の入賞を検出したことにもとづいて外部出力される信号である。また、外部出力端子板の端子09には、賞球予定数信号が割り当てられている。賞球予定数信号とは、賞球の払出予定数が所定個数（本例では、10個）になるとに外部出力される信号である。

10

【0453】

なお、図8-21に示す各外部信号は、例えば、賞球を10個払い出したタイミングや、大当り発生のタイミング、特殊入賞口への入賞発生のタイミング、賞球予定数が10個に達したタイミングで外部信号の出力に対応したフラグ（例えば、ステップ138 IWS 2021A, S2023A, S2022B, S2023B, S2503B参照）やタイマがセットされ、それらのフラグやタイマがセットされたことにもとづいて、情報出力処理（ステップS23）が実行されることによってホールコンピュータなどに外部出力される。

20

【0454】

次に、外部出力信号のうち大当り信号1および大当り信号2の出力タイミングについて説明する。図8-22は、大当り信号1および大当り信号2の出力タイミングを説明するための説明図である。本例では、遊技状態が通常状態であるときにステップ138 IWS 2022A, S2503Bで大当り信号出力フラグがセットされたことにもとづいて、情報出力処理（ステップS23）が実行されて、大当り信号1および大当り信号2の外部出力が開始される。その後、情報出力処理（ステップS23）において、大当り遊技を終了したタイミングで大当り信号1の外部出力が停止される。また、情報出力処理（ステップS23）において、KT状態を終了したタイミングで大当り信号2の外部出力が停止される。一方、遊技状態がKT状態であるときにステップ138 IWS 2022A, S2022Bで大当り信号出力フラグがセットされたことにもとづいて、情報出力処理（ステップS23）が実行されて、大当り信号1の外部出力が開始される。なお、この場合、KT状態中であるので、大当り信号2は継続して外部出力されている。その後、情報出力処理（ステップS23）において、大当り遊技を終了したタイミングで大当り信号1の外部出力が停止される。

30

【0455】

まず、図8-22（1）を用いて、遊技状態が通常状態（低確率／非KT状態）である場合の大当り信号1および大当り信号2の出力タイミングを説明する。図8-22（1）に示すように、遊技状態が通常状態である場合、第1特別図柄の変動表示が実行されて大当り図柄が導出表示された場合には、その大当り図柄が導出表示されたタイミングで大当り信号1の外部出力が開始されるとともに、大当り信号2の外部出力が開始される（ステップ138 IWS 2022A参照）。一方、遊技状態が通常状態である場合、第2特別図柄の変動表示が実行されて大当り図柄が導出表示された場合には、大当り図柄が導出表示されたタイミングでは大当り信号1および大当り信号2の外部出力は開始されず、通過ゲート41を遊技球が通過したいタイミングで大当り信号1の外部出力が開始されるとともに大当り信号2の外部出力が開始される（ステップ138 IWS 2503B参照）。

40

【0456】

50

次に、図 8-22 (2) を用いて、遊技状態が K T 状態（低確率／第 1 K T 状態、高確率／第 1 K T 状態、高確率／第 2 K T 状態）である場合の大当たり信号 1 および大当たり信号 2 の出力タイミングを説明する。図 8-22 (2) に示すように、遊技状態が K T 状態である場合、第 1 特別図柄の変動表示が実行されて大当たり図柄が導出表示された場合には、その大当たり図柄が導出表示されたタイミングで大当たり信号 1 の外部出力が開始される（ステップ 138 IWS 2022 A 参照）。また、遊技状態が K T 状態である場合、第 2 特別図柄の変動表示が実行されて大当たり図柄が導出表示された場合にも、その大当たり図柄が導出表示されたタイミングで大当たり信号 1 の外部出力が開始される（ステップ 138 IWS 2022 B 参照）。なお、図 8-22 (2) に示すように、K T 状態中である場合には、大当たり信号 2 は継続して外部出力されている。

10

【0457】

次に、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 が実行する普通図柄プロセス処理（ステップ S29）について説明する。図 8-23 は、普通図柄プロセス処理の一例を示すフローチャートである。普通図柄プロセス処理では、遊技制御用マイクロコンピュータ 100（具体的には、CPU 103）は、通過ゲート 41 を遊技球が通過してゲートスイッチ 21 がオン状態となったことを検出すると（ステップ 138 IWS 5111）、ゲート通過指定コマンドを演出制御用 CPU 120 に対して送信する制御を行う（ステップ 138 IWS 5112）。そして、CPU 103 は、ゲートスイッチ通過処理（ステップ 138 IWS 5113）を実行する。

【0458】

20

この特徴部 138 IW では、ステップ 138 IWS 5111～S5113 の処理が実行されることによって、通過ゲート 41 への遊技球の通過を検出した場合には、ゲート通過指定コマンドが送信される。なお、この特徴部 138 IW では、通過ゲート 41 は兼用ゲートとして構成され作動領域の役割も担っているのであるが、大当たり図柄を停止表示した後大当たり遊技を開始する前のゲート通過待ち状態であるか否かには関係なく、ゲート通過指定コマンドが送信される。

【0459】

そして、CPU 103 は、普通図柄プロセスフラグの値に応じてステップ 138 IWS 5100～S5104 に示された処理のうちのいずれかの処理を実行する。

【0460】

30

なお、この特徴部 138 IW では、ゲート通過待ち状態であるか否かに関係なく、ステップ 138 IWS 5111 で通過ゲート 41 への遊技球の通過を検出した場合にはステップ 138 IWS 5113 のゲートスイッチ通過処理が実行されて普通図柄の変動表示が実行されるのであるが、そのような態様にかぎられない。例えば、ゲート通過待ち状態でないときに通過ゲート 41 を遊技球が通過した場合にのみ普通図柄の変動表示を実行するようにし、ゲート通過待ち状態では通過ゲート 41 を遊技球が通過しても普通図柄の変動表示を実行しないように構成してもよい。

【0461】

また、この特徴部 138 IW では、通過ゲート 41 は普通始動領域と作動領域との兼用ゲートとして用いられているのであるが、タイマ割込処理内において特別図柄プロセス処理（ステップ S25A, S25B 参照）は普通図柄プロセス処理（ステップ S26 参照）よりも先に実行されるので、作動領域としての通過ゲート 41 の遊技球の通過の検出処理を行った後に普通始動領域としての通過ゲート 41 の遊技球の通過の検出処理が行われる。そのため、大当たり遊技の開始のための処理を早く実行することができる。

40

【0462】

ゲートスイッチ通過処理（ステップ 138 IWS 5113）：CPU 103 は、ゲート通過記憶カウンタ（通過ゲート 41 を通過した遊技球数をカウントするためのカウンタ）のカウント値（ゲート通過記憶数）が最大値（この例では「4」）に達しているか否か確認する。最大値に達していなければ、ゲート通過記憶カウンタのカウント値を+1する。なお、ゲート通過記憶カウンタの値に応じて普図保留表示器 25C の LED が点灯される

50

。そして、CPU103は、普通図柄当り判定用乱数の値を抽出し、ゲート通過記憶数の値に対応した保存領域（普通図柄判定用バッファ）に格納する処理を行う。

【0463】

普通図柄通常処理（ステップ138IWS5100）：CPU103は、普通図柄の変動を開始することができる状態（例えば普通図柄プロセスフラグの値がステップ138IWS5100を示す値となっている場合、具体的には、普通図柄表示器20において普通図柄の変動表示がなされておらず、かつ、普通図柄表示器20に当たり図柄が導出表示されたことにもとづく可変入賞球装置6Bの開閉動作中でもない場合）には、ゲート通過記憶数の値を確認する。具体的には、ゲート通過記憶数カウンタのカウント値を確認する。ゲート通過記憶数が0でなければ、当りとするか否か（普通図柄の停止図柄を当り図柄とするか否か）を決定する。そして、普通図柄プロセスタイマに普通図柄の変動時間をセットし、タイマをスタートさせる。そして、普通図柄プロセスフラグの値を普通図柄変動処理（ステップ138IWS5101）を示す値（具体的には「1」）に更新する。

10

【0464】

普通図柄変動処理（ステップ138IWS5101）：CPU103は、普通図柄プロセスタイマがタイムアウトしたか否かを確認し、タイムアウトしていたら、普通図柄プロセスタイマに普通図柄停止図柄表示時間をセットし、タイマをスタートさせる。そして、普通図柄プロセスフラグの値を普通図柄停止処理（ステップ138IWS5102）を示す値（具体的には「2」）に更新する。

【0465】

20

普通図柄停止処理（ステップ138IWS5102）：CPU103は、普通図柄プロセスタイマがタイムアウトしたか否かを確認し、タイムアウトしていたら、普通図柄の停止図柄が当り図柄であるかどうかを確認する。当り図柄でなければ（はずれ図柄であれば）、普通図柄プロセスフラグの値を普通図柄通常処理（ステップ138IWS5100）を示す値（具体的には「0」）に更新する。一方、普通図柄の停止図柄が当り図柄であれば、普通図柄プロセスタイマに普通電動役物開放前時間をセットし、タイマをスタートさせる。そして、普通図柄プロセスフラグの値を普通電動役物開放前処理（ステップ138IWS5103）を示す値（具体的には「3」）に更新する。

【0466】

普通電動役物開放前処理（ステップ138IWS5103）：CPU103は、普通図柄プロセスタイマがタイムアウトしたか否かを確認し、タイムアウトしていたら、普通図柄プロセスタイマに普通電動役物作動時間をセットし、タイマをスタートさせ、可変入賞球装置6Bの開放を開始する。そして、普通図柄プロセスフラグの値を普通電動役物作動処理（ステップ138IWS5104）を示す値（具体的には「4」）に更新する。

30

【0467】

普通電動役物作動処理（ステップ138IWS5104）：CPU103は、普通図柄プロセスタイマを計測し、普通図柄プロセスタイマがタイムアウトすると、可変入賞球装置6Bを閉鎖する。そして、普通図柄プロセスフラグの値を普通図柄通常処理（ステップ138IWS5100）を示す値（具体的には「0」）に更新する。

【0468】

40

図8-24は、普通図柄通常処理（ステップ138IWS5100）を示すフローチャートである。普通図柄通常処理において、CPU103は、ゲート通過記憶数カウンタのカウント値を確認することにより、ゲート通過記憶数が0であるか否かを確認する（ステップ138IWS5121）。ゲート通過記憶数が0であれば（ステップ138IWS5121のY）、そのまま処理を終了する。ゲート通過記憶数が0でなければ（ステップ138IWS5121のN）、CPU103は、ゲート通過記憶数=1に対応する保存領域に格納されている普通図柄当り判定用乱数値を読み出す（ステップ138IWS5122）。そして、CPU103は、ゲート通過記憶数カウンタの値を1減らし、かつ、各保存領域の内容をシフトする（ステップ138IWS5123）。すなわち、ゲート通過記憶数=n（n=2, 3, 4）に対応する保存領域に格納されている普通図柄当り判定用乱数

50

値を、ゲート通過記憶数 = $n - 1$ に対応する保存領域に格納する。よって、各ゲート通過記憶数に対応するそれぞれの保存領域に格納されている普通図柄当り判定用乱数値が抽出された順番は、常に、ゲート通過記憶数 = 1, 2, 3, 4 の順番と一致するようになっている。

【0469】

次いで、CPU103は、普通図柄当りとするか否かを決定するための普通図柄判定テーブルを用いて、乱数（普通図柄当り判定用乱数値）にもとづく抽選処理を行い、普通図柄当りとするか否かを決定する（ステップ138IWS5127）。なお、この特徴部138IWでは、ステップ138IWS5127において、CPU103は、確変状態であるか否かや、KT状態であるか否か、高ベース状態であるか否かに関係なく、一律に99/100の確率で普通図柄当りすることに決定する。

10

【0470】

ステップ138IWS5127において、読み出した普通図柄当り判定用乱数値が当りの範囲内である場合（当りである場合）、CPU103は、表示結果として当り図柄を設定し（ステップ138IWS5128）、ステップ138IWS5130へ移行する。また、ステップ138IWS5127において、読み出した普通図柄当り判定用乱数値が当りの範囲内でない場合（はずれである場合）、CPU103は表示結果としてはずれ図柄を設定し（ステップ138IWS5129）、ステップ138IWS5130へ移行する。

【0471】

20

ステップ138IWS5130において、CPU103は、高ベースフラグがセットされていれば、普通図柄変動時間として0.2秒を普通図柄プロセスタイマにセットする（ステップ138IWS5130のY, S5131）。また、高ベースフラグがセットされていなければ、すなわち通常状態または第2KT状態であれば、普通図柄変動時間として1.0秒を普通図柄プロセスタイマにセットする（ステップ138IWS5130のN, S5132）。

【0472】

そして、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、普通図柄プロセスフラグの値を普通図柄変動処理（ステップ138IWS5101）を示す値（具体的には「1」）に更新する（ステップ138IWS5133）。

30

【0473】

図8-25は、普通図柄停止処理（ステップ138IWS5102）を示すフローチャートである。普通図柄停止処理において、CPU103は、普通図柄プロセスタイマの値を-1する（ステップ138IWS3701）。そして、CPU103は、普通図柄プロセスタイマの値が0になったかどうか、すなわち、普通図柄プロセスタイマがタイムアウトしたかどうかを確認する（ステップ138IWS3702）。普通図柄プロセスタイマがタイムアウトしていなければ（ステップ138IWS3702のN）、そのまま処理を終了する。

【0474】

普通図柄プロセスタイマがタイムアウトしたとき、すなわち、普通図柄停止図柄表示時間が経過したときは（ステップ138IWS3702のY）、CPU103は、普通図柄の停止図柄が当り図柄であるかどうか（ステップ138IWS5127にて当りと判定されたかどうか）を確認する（ステップ138IWS3703）。なお、普通図柄の停止図柄が当り図柄かどうかは、例えば、ステップ138IWS5127にて当りと判定されたときに普通図柄当り判定フラグをセットすることとして、そのフラグがセットされているかどうかによって確認することができる。

40

【0475】

普通図柄の停止図柄が当り図柄でなく、はずれ図柄であると判定されたときは（ステップ138IWS3703のN）、CPU103は、普通図柄プロセスフラグの値を普通図柄通常処理（ステップ138IWS5100）を示す値（具体的には「0」）に更新する

50

(ステップ138 IWS 3708)。

【0476】

ステップ138 IWS 3703において、普通図柄の停止図柄が当り図柄であるときは(ステップ138 IWS 3703のY)、CPU103は、高ベースフラグがセットされているか否かを判定し(ステップ138 IWS 3704)、セットされている場合、すなわち、第1KT状態である場合には、普通電動役物開放前時間として0.1秒を普通図柄プロセスタイマにセットする(ステップ138 IWS 3706)。また、高ベースフラグがセットされていない場合、すなわち、通常状態または第2KT状態である場合には、普通電動役物開放前時間として2.6秒を普通図柄プロセスタイマにセットする(ステップ138 IWS 3705)。

10

【0477】

次いで、CPU103は、特図プロセスフラグの値を、普通電動役物開放前処理(ステップ138 IWS 5103)に対応した値(具体的には「3」)に更新する(ステップ138 IWS 3707)

【0478】

図8-26は、普通電動役物開放前処理(ステップ138 IWS 5103)を示すフローチャートである。普通電動役物開放前処理において、CPU103は、普通図柄プロセスタイマの値を-1する(ステップ138 IWS 3801)。そして、CPU103は、普通図柄プロセスタイマの値が0になったかどうか、すなわち、普通図柄プロセスタイマがタイムアウトしたかどうかを確認する(ステップ138 IWS 3802)。普通図柄プロセスタイマがタイムアウトしていなければ(ステップ138 IWS 3802のN)、そのまま処理を終了する。

20

【0479】

普通図柄プロセスタイマがタイムアウトしたとき、すなわち、普通電動役物開放前時間が経過したときは(ステップ138 IWS 3802のY)、CPU103は、高ベースフラグがセットされているか否かを判定し(ステップ138 IWS 3803)、セットされている場合、すなわち、第1KT状態である場合には、普通電動役物開放時間として5.5秒を普通図柄プロセスタイマにセットする(ステップ138 IWS 3805)。また、高ベースフラグがセットされていない場合、すなわち、通常状態または第2KT状態である場合には、普通電動役物開放時間として0.2秒を普通図柄プロセスタイマにセットする(ステップ138 IWS 3804)。

30

【0480】

このように、本特徴部138 IWでは、第1KT状態では普通電動役物開放時間として5.5秒をセットするとともに、通常状態または第2KT状態では普通電動役物開放時間として0.2秒をセットすることにより、第1KT状態は通常状態または第2KT状態よりも第2始動入賞口に始動入賞しやすい状態としている。したがって、第1KT状態は通常状態または第2KT状態よりも、可変入賞球装置6Bの下流に設けられている特殊可変入賞球装置17に遊技球が達しにくく構成されている。

【0481】

なお、遊技状態が第1KT状態である場合に第2始動入賞口に始動入賞しやすくなるようにする制御の仕方は、この特徴部138 IWで示したものにかぎられない。例えば、第1KT状態である場合には、通常状態または第2KT状態である場合と比較して、可変入賞球装置6Bを多くの回数開放する(例えば、通常状態または第2KT状態では可変入賞球装置6Bの開放回数として1回をセットするのに対して、第1KT状態では可変入賞球装置6Bの開放回数として2回をセットする)ように制御してもよい。そのようにすれば、第1KT状態である場合には、可変入賞球装置6Bの開放回数を多くすることによって、第2始動入賞口に始動入賞しやすくなることができる。

40

【0482】

また、例えば、第1KT状態である場合には、通常状態または第2KT状態である場合と比較して、上記に示した可変入賞球装置6Bの開放時間を長くする制御と、可変入賞球

50

装置 6 B の開放回数を多くする制御とを組み合わせ実行してもよい。

【0483】

次いで、CPU 103 は、可変入賞球装置 6 B を開放状態に制御する（ステップ 138 IWS 3806）。具体的には、ソレノイド 81 を駆動して可変入賞球装置 6 B を開状態にする。

【0484】

そして、CPU 103 は、特図プロセスフラグの値を、普通電動役物作動処理（ステップ 138 IWS 5104）に対応した値（具体的には「4」）に更新する（ステップ 138 IWS 3807）。

【0485】

次に、演出制御手段の動作について説明する。図 8-27 は、コマンド解析処理（ステップ S75）の具体例を示すフローチャートである。主基板 11 から受信された演出制御コマンドは受信コマンドバッファに格納されるが、コマンド解析処理では、演出制御用 CPU 120 は、コマンド受信バッファに格納されているコマンドの内容を確認する。

【0486】

コマンド解析処理において、演出制御用 CPU 120 は、まず、コマンド受信バッファに受信コマンドが格納されているか否か確認する（ステップ 138 IWS 611）。格納されているか否かは、コマンド受信個数カウンタの値と読出ポインタとを比較することによって判定される。両者が一致している場合が、受信コマンドが格納されていない場合である。コマンド受信バッファに受信コマンドが格納されている場合には、演出制御用 CPU 120 は、コマンド受信バッファから受信コマンドを読み出す（ステップ 138 IWS 612）。なお、読み出したら読出ポインタの値を +2 しておく（ステップ 138 IWS 613）。+2 するのは 2 バイト（1 コマンド）ずつ読み出すからである。

【0487】

受信した演出制御コマンドが大入賞口入賞指定コマンドであれば（ステップ 138 IWS 614）、演出制御用 CPU 120 は、第 2 KT 状態中で小当たりが連続して発生している期間に発生した賞球をカウントするための小当たり連続中賞球数カウンタの値を 15 加算する（ステップ 138 IWS 615）。次いで、演出制御用 CPU 120 は、加算後の小当たり連続中賞球数カウンタの値にもとづいて、画像表示装置 5 において、第 2 KT 状態中で小当たりが連続して発生している期間に発生した賞球数を示す小当たり連続中賞球数表示 1 が表示されていれば、小当たり連続中賞球数表示 1 を更新する制御を行う（ステップ 138 IWS 616）。

【0488】

なお、本例では、小当たり連続中賞球数表示 1 は、通常状態や第 1 KT 状態中に 16 R 確変大当たりや 2 R 確変大当たりが発生したときに表示が開始され、16 R 確変大当たりや 2 R 確変大当たり以外の大当たりが発生したとき（すなわち、第 2 KT 状態を終了するとき）に表示が終了される。

【0489】

次いで、演出制御用 CPU 120 は、加算後の小当たり連続中賞球数カウンタの値がいずれかの閾値以上となっているか否かを確認する（ステップ 138 IWS 617）。加算後の小当たり連続中賞球数カウンタの値がいずれかの閾値以上となっていれば、演出制御用 CPU 120 は、画像表示装置 5 において、加算後の小当たり連続中賞球数カウンタの値に応じた小当たり連続中賞球数表示 2 を表示する制御を行う（ステップ 138 IWS 618）。例えば、加算後の小当たり連続中賞球数カウンタの値が 1000 や、1005、1010 となっていれば、今回の大入賞口への入賞で賞球数が 1000 個に達したことを意味しているので、閾値「1000」に到達したと判定し、賞球数が 1000 個に達した旨の小当たり連続中賞球数表示 2 を表示する。例えば、画像表示装置 5 において、小当たり連続中賞球数表示 2 として「1000 OVER」などの文字表示を表示する。

【0490】

受信した演出制御コマンドが特殊入賞口入賞指定コマンドであれば（ステップ 138 I

10

20

30

40

50

WS619)、演出制御用CPU120は、小当り連続中賞球数カウンタの値を10加算する(ステップ138IWS620)。次いで、演出制御用CPU120は、加算後の小当り連続中賞球数カウンタの値にもとづいて、画像表示装置5において、小当り連続中賞球数表示1が表示されていれば、小当り連続中賞球数表示1を更新する制御を行う(ステップ138IWS621)。

【0491】

次いで、演出制御用CPU120は、加算後の小当り連続中賞球数カウンタの値がいずれかの閾値以上となっているか否かを確認する(ステップ138IWS622)。加算後の小当り連続中賞球数カウンタの値がいずれかの閾値以上となれば、演出制御用CPU120は、画像表示装置5において、加算後の小当り連続中賞球数カウンタの値に応じた小当り連続中賞球数表示2を表示する制御を行う(ステップ138IWS623)。例えば、加算後の小当り連続中賞球数カウンタの値が1000や、1005となれば、今回の大入賞口への入賞で賞球数が1000個に達したことを意味しているので、閾値「1000」に到達したと判定し、賞球数が1000個に達した旨の小当り連続中賞球数表示2を表示する。例えば、画像表示装置5において、小当り連続中賞球数表示2として「1000OVER」などの文字表示を表示する。

【0492】

なお、本例では、大入賞口や特殊入賞口への入賞にもとづいて小当り連続中賞球数表示1を更新したり小当り連続中賞球数表示2を表示したりする場合を示したが、そのような態様にかぎられない。例えば、第2KT状態中の小当り連続中に一般入賞口10への入賞が発生した場合にも、その一般入賞口10への入賞に対する賞球数に相当する値を小当り連続中賞球数カウンタに加算し、小当り連続中賞球数表示1を更新したり小当り連続中賞球数表示2を表示したりしてもよい。

【0493】

受信した演出制御コマンドがその他のコマンドであれば、演出制御用CPU120は、受信した演出制御コマンドを記憶したり、受信した演出制御コマンドに応じたフラグをセットしたりする処理を実行する(ステップ138IWS624)。例えば、変動パターンコマンドを受信した場合には、RAM122に設けられた変動パターンコマンド格納領域に変動パターンコマンドを格納するとともに、変動パターンコマンド受信フラグをセットする。そして、ステップ138IWS611に移行する。

【0494】

また、本特徴部138IWでは、演出制御手段(具体的には、演出制御用CPU120)は、例えば、演出制御プロセス処理(ステップS76)において、デモ表示制御処理を実行する。図8-28および図8-29は、デモ表示制御処理を示すフローチャートである。デモ表示制御処理において、演出制御用CPU120は、第1客待ちデモ表示指定コマンドを受信しているか否かを判定し(ステップ138IWS4701)、受信していなければステップ138IWS4706へ移行する。受信している場合には、通常状態であるか否かを判定し(ステップ138IWS4702)、通常状態でなければステップ138IWS4705へ移行する。具体的に、第1KT状態であることを示す第1KT状態フラグおよび第2KT状態であることを示す第2KT状態フラグのいずれもセットされていなければ通常状態であると判定する。

【0495】

なお、第1客待ちデモ表示指定コマンドを受信しているか否かは、例えば、コマンド解析処理(ステップS75)において、第1客待ちデモ表示指定コマンドを受信した場合に、第1客待ちデモ表示指定コマンドを受信したことを示すフラグをセットするようにし、ステップ138IWS4701では、そのフラグがセットされているか否かを確認するようにすればよい。

【0496】

また、第1KT状態フラグおよび第2KT状態フラグは、例えば、コマンド解析処理(ステップS75)において、低確/第1KT背景指定コマンドや、高確/第1KT背景指

10

20

30

40

50

定コマンド、高確／第2KT背景指定コマンドを受信したことにもとづいてセットされる。

【0497】

通常状態であれば、演出制御用CPU120は、第1デモ表示を開始するまでの時間（例えば、30秒）に相当する値を計測するための第1デモ待機タイマをセットし（ステップ138IWS4703）、第1デモ表示の待機中であることを示す第1デモ待機中フラグをセットする（ステップ138IWS4704）。そして、第1デモ受信フラグをリセットする（ステップ138IWS4705）。

【0498】

その後、演出制御用CPU120は、第1デモ待機中フラグがセットされているか否かを判定し（ステップ138IWS4706）、セットされている場合には第1特別図柄変動が開始される場合（ステップ138IWS4707のY）、または第2特別図柄の変動にもとづいて大当り遊技状態に制御される場合（ステップ138IWS4708のY）、ステップ138IWS4712へ移行する。これにより、第1特別図柄変動が開始されるか第2特別図柄の変動にもとづいて大当り遊技状態に制御される場合には第1デモ表示を実行しないようになっている。具体的に、ステップ138IWS4707では第1特別図柄の変動を示す変動パターンコマンドを受信した場合には第1特別図柄変動が開始されたと判定する。また、ステップ138IWS4708では第2大当り開始指定コマンドを受信した場合に第2特別図柄の変動にもとづいて大当り遊技状態に制御されると判定する。

【0499】

第1デモ待機中フラグがセットされており、第1特別図柄変動が開始されず（ステップ138IWS4707のN）、第2特別図柄の変動にもとづいて大当り遊技状態に制御されない場合（ステップ138IWS4708のN）、第1デモ待機タイマの値を1減算し（ステップ138IWS4709）、第1デモ待機タイマがタイムアウトした場合には（ステップ138IWS4710のY）、第1デモ表示を開始し（ステップ138IWS4711）、第1デモ待機フラグをリセットする（ステップ138IWS4712）。

【0500】

その後、演出制御用CPU120は、第1デモ表示中である場合（ステップ138IWS4713のY）、第1特別図柄の変動が開始されるか（ステップ138IWS4714のY）、または第2特別図柄の変動にもとづいて大当り遊技状態に制御される場合（ステップ138IWS4715のY）、第1デモ表示を終了する（ステップ138IWS4716）。

【0501】

また、演出制御用CPU120は、第2客待ちデモ表示指定コマンドを受信しているか否かを判定し（ステップ138IWS4801）、受信していなければステップ138IWS4806へ移行する。受信している場合には、KT状態であるか否かを判定し（ステップ138IWS4802）、KT状態でなければステップ138IWS4805へ移行する。具体的に、第1KT状態フラグおよび第2KT状態フラグのいずれかがセットされていればKT状態であると判定する。

【0502】

なお、第2客待ちデモ表示指定コマンドを受信しているか否かは、例えば、コマンド解析処理（ステップS75）において、第2客待ちデモ表示指定コマンドを受信した場合に、第2客待ちデモ表示指定コマンドを受信したことを示すフラグをセットするようにし、ステップ138IWS4801では、そのフラグがセットされているか否かを確認するようにすればよい。

【0503】

KT状態であれば、演出制御用CPU120は、第2デモ表示を開始するまでの時間（例えば、30秒）に相当する値を計測するための第2デモ待機タイマをセットし（ステップ138IWS4803）、第2デモ表示の待機中であることを示す第2デモ待機中フラグをセットする（ステップ138IWS4804）。そして、第2デモ受信フラグをリセ

ットする（ステップ138 IWS4805）。

【0504】

その後、演出制御用CPU120は、第2デモ待機中フラグがセットされているか否かを判定し（ステップ138 IWS4806）、セットされている場合には第2特別図柄変動が開始される場合（ステップ138 IWS4807のY）、またはKT状態でない場合（ステップ138 IWS4808のN）、ステップ138 IWS4812へ移行する。これにより、第2特別図柄変動が開始されるかKT状態が終了した場合には第2デモ表示を実行しないようになっている。具体的に、ステップ138 IWS4807では第2特別図柄の変動を示す変動パターンコマンドを受信した場合には第2特別図柄変動が開始されたと判定する。また、ステップ138 IWS4808では第1KT状態フラグおよび第2KT状態フラグのいずれかもセットされていなければKT状態が終了したと判定する。

10

【0505】

第2デモ待機中フラグがセットされており、第2特別図柄変動が開始されず（ステップ138 IWS4807のN）、KT状態が終了していない場合（ステップ138 IWS4808のY）、第2デモ待機タイマの値を1減算し（ステップ138 IWS4809）、第2デモ待機タイマがタイムアウトした場合には（ステップ138 IWS4810のY）、第2デモ表示を開始し（ステップ138 IWS4811）、第2デモ待機フラグをリセットする（ステップ138 IWS4812）。

【0506】

その後、演出制御用CPU120は、第2デモ表示中である場合（ステップ138 IWS4813のY）、第2特別図柄の変動が開始されるか（ステップ138 IWS4814のY）、またはKT状態が終了した場合（ステップ138 IWS4815のN）、第2デモ表示を終了する（ステップ138 IWS4816）。

20

【0507】

図8-30は、可変表示開始待ち処理（ステップS170）を示すフローチャートである。可変表示開始待ち処理において、演出制御用CPU120は、変動パターンコマンドを受信しているか否か確認する（ステップ138 IWS811）。なお、変動パターンコマンドを受信しているか否かは、例えば、コマンド解析処理（ステップS75）において、変動パターンコマンドを受信した場合に、変動パターンコマンドを受信したことを示す変動パターンコマンド受信フラグをセットするようにし、ステップ138 IWS811では、その変動パターンコマンド受信フラグがセットされているか否かを確認するようになればよい。

30

【0508】

変動パターンコマンドを受信していれば、演出制御用CPU120は、第1KT状態フラグまたは第2KT状態フラグがセットされているか否かを確認する（ステップ138 IWS812）。第1KT状態フラグおよび第2KT状態フラグのいずれもセットされていなければ（すなわち、非KT状態であれば）、演出制御用CPU120は、第1特別図柄の変動表示を実行する場合であるか否かを確認する（ステップ138 IWS813）。なお、第1特別図柄の変動表示を実行する場合であるか否かは、例えば、受信した変動パターンコマンドで示される変動パターンが第1変動パターン#01～#07を指定するものであるか否かを確認することにより判定できる。第1特別図柄の変動表示を実行する場合でなければ（すなわち、第2特別図柄の変動表示を実行する場合であれば）、そのまま処理を終了する。第1特別図柄の変動表示を実行する場合であれば、演出制御用CPU120は、演出制御プロセスフラグの値を可変表示開始設定処理（ステップS171）に対応した値に更新する（ステップ138 IWS815）。

40

【0509】

第1KT状態フラグまたは第2KT状態フラグがセットされていなければ（すなわち、KT状態であれば）、演出制御用CPU120は、第2特別図柄の変動表示を実行する場合であるか否かを確認する（ステップ138 IWS814）。なお、第2特別図柄の変動表示を実行する場合であるか否かは、例えば、受信した変動パターンコマンドで示される

50

変動パターンが第2変動パターン#01～#32を指定するものであるか否かを確認することにより判定できる。第2特別図柄の変動表示を実行する場合でなければ（すなわち、第1特別図柄の変動表示を実行する場合であれば）、そのまま処理を終了する。第2特別図柄の変動表示を実行する場合であれば、演出制御用CPU120は、演出制御プロセスフラグの値を可変表示開始設定処理（ステップS171）に対応した値に更新する（ステップ138 IWS816）。

【0510】

ステップ138 IWS812～S815の処理が実行されることによって、この特徴部138 IWでは、非KT状態である場合には、第1特別図柄の変動表示に対応して画像表示装置5において飾り図柄の変動表示が実行され、KT状態である場合には、第2特別図柄の変動表示に対応して画像表示装置5において飾り図柄の変動表示が実行される。言い換えれば、第1特別図柄の変動表示が実行される場合であってもKT状態である場合や、第2特別図柄の変動表示が実行される場合であっても非KT状態である場合には、飾り図柄の変動表示は実行されない。

【0511】

図8-31は、可変表示開始設定処理（ステップS171）を示すフローチャートである。可変表示開始設定処理において、演出制御用CPU120は、飾り図柄の停止図柄を決定する（ステップ138 IWS920）。なお、この特徴部138 IWでは、表示結果1指定コマンドを受信した場合（はずれと決定されている場合）には、左中右の飾り図柄が全く不一致のはずれ図柄または左右の飾り図柄のみが一致したリーチはずれ図柄の組み合わせを決定する。また、表示結果2指定コマンドを受信した場合（16R確変大当たりと決定されている場合）には、左中右の飾り図柄が奇数図柄のうち図柄「7」で揃った図柄の組み合わせを決定する。また、表示結果3指定コマンドや表示結果4指定コマンドを受信した場合（9R確変大当たりや6R確変大当たりと決定されている場合）には、左中右の飾り図柄が「7」以外の奇数図柄で揃った図柄の組み合わせを決定する。また、表示結果6指定コマンドを受信した場合（2R確変大当たりと決定されている場合）には、中の飾り図柄が特殊図柄（本例では、図柄「R」）を含む図柄の組み合わせを決定する。また、表示結果5指定コマンドや表示結果7指定コマンドを受信した場合（6R通常大当たりや2R通常大当たりと決定されている場合）には、左中右の飾り図柄が偶数図柄で揃った図柄の組み合わせを決定する。また、表示結果8指定コマンドを受信した場合（小当たりと決定されている場合）には、小当たり図柄（例えば、「135」）の飾り図柄の組み合わせを決定する。

【0512】

次いで、演出制御用CPU120は、今回開始される変動表示が大当たりとなるものであるか否かを確認する（ステップ138 IWS921）。なお、大当たり変動であるか否かは、例えば、受信した表示結果指定コマンドが表示結果2指定コマンド～表示結果7指定コマンドのいずれかであるか否かを確認することにより判定できる。大当たり変動でなければ、そのままステップ138 IWS933に移行する。

【0513】

大当たり変動であれば、演出制御用CPU120は、再抽選演出がストックされている状態であることを示す再抽選ストックフラグがセットされているか否かを確認する（ステップIWS922）。再抽選ストックフラグがセットされていれば、演出制御用CPU120は、画像表示装置5に表示されている再抽選ストック画像を消去する制御を行う（ステップ138 IWS923）とともに、再抽選ストックフラグをリセットする（ステップ138 IWS924）。また、演出制御用CPU120は、受信した変動パターンコマンドで示される変動パターンに応じて、使用する飾り図柄の変動パターンおよび再抽選放出演出に応じたプロセステーブルを選択する（ステップ138 IWS925）。そして、ステップ138 IWS934に移行する。

【0514】

なお、本特徴部138 IWでは、ステップ138 IWS925で選択したプロセステ

10

20

30

40

50

ブルに従って後述するステップ138 IWS935および可変表示中演出処理（ステップS172）が実行されることによって、飾り図柄の変動表示中に再抽選放出演出が実行される。

【0515】

再抽選ストックフラグがセットされていなければ、演出制御用CPU120は、今回開始される変動表示が2R確変大当たりとなるものであるか否かを確認する（ステップ138 IWS926）。なお、2R確変大当たりとなる変動表示であるか否かは、例えば、受信した表示結果指定コマンドが表示結果6指定コマンドであるか否かを確認することにより判定できる。2R確変大当たりとなる変動表示でなければ、そのままステップ138 IWS932に移行する。

10

【0516】

2R確変大当たりとなる変動表示であれば、演出制御用CPU120は、再抽選演出やゲート通過時報知を実行するか否かを決定する演出決定処理を実行する（ステップ138 IWS927）。本例では、既に説明したように、2R確変大当たりとなると、大当たり遊技のラウンド数は2ラウンドと少なく他の大当たりと比べると賞球が期待できないが、確変状態に制御されるとともに、KT状態の中でも特に有利な第2KT状態に制御される点で有利な大当たりである。そこで、本特徴部138 IWでは、2R確変大当たりとなる場合には、再抽選演出やゲート通過時報知が実行されることによって、一旦通常大当たりであるかのような表示を行った後に第2KT状態に制御されることを報知して、遊技に対する興味を高めることができるようにしている。

20

【0517】

「再抽選演出」とは、飾り図柄の変動表示中に一旦通常大当たり図柄（非確変大当たり図柄）を仮停止表示した後、飾り図柄を再度変動表示させ、最終的な変動表示結果が報知される演出である。なお、本例では、再抽選演出が実行されると、その後、さらにKT状態（本例では、第2KT状態）に移行することを示すKT突入演出が実行される。

【0518】

なお、本例では、再抽選演出が実行される場合には、一旦通常大当たり図柄が仮停止表示されるように構成し、16R確変大当たり図柄が仮停止表示されて再抽選演出やKT突入演出が実行される場合がないように構成している。そのように構成することによって、最も有利な16R確変大当たり図柄が表示されたにもかかわらず、その後、却って不利な状態が報知される（有利度が成り下がるような報知が行われる）事態を防止することができ、遊技に対する興味の低下を抑えることができる。

30

【0519】

また、本例では、再抽選演出が実行される場合には、通常大当たり図柄が仮停止表示された後、必ず2R確変大当たり図柄が最終停止表示される場合を示しているが、そのような態様にかぎられない。例えば、6R通常大当たりや2R通常大当たりとなる場合にも再抽選演出を実行可能に構成し、再抽選演出を実行して通常大当たり図柄が仮停止表示された後、最終的に6R通常大当たりや2R通常大当たりであることを報知する場合があるように構成してもよい。また、例えば、16R確変大当たりや9R確変大当たり、6R確変大当たりとなる場合にも再抽選演出を実行可能に構成し、再抽選演出を実行して通常大当たり図柄が仮停止表示された後、最終的に16R確変大当たりや9R確変大当たり、6R確変大当たりであることを報知する場合があるように構成してもよい。

40

【0520】

「ゲート通過時報知」とは、飾り図柄の変動表示では通常大当たり図柄を最終停止表示し、その後、通過ゲート41を遊技球が通過したことにもとづいて2R確変大当たりであることを報知するものである。

【0521】

ステップ138 IWS927では、演出制御用CPU120は、再抽選演出またはゲート通過時報知を実行するか否かを決定するための演出決定テーブルを用いて、乱数にもとづく抽選処理を行い、再抽選演出またはゲート通過時報知を実行するか否かを決定する。

50

図8-32は、演出決定テーブルの具体例を示す説明図である。図8-32に示すように、本例では、30%の確率で再抽選演出を実行することに決定し、30%の確率でゲート通過時報知を実行することに決定するものとする。なお、本例で示した態様にかぎらず、例えば、ゲート通過時報知よりも再抽選演出の方を高い割合で決定するように構成してもよいし、再抽選演出よりもゲート通過時報知の方を高い割合で決定するように構成してもよい。

【0522】

再抽選演出を実行することに決定した場合には（ステップ138 IWS928のY）、演出制御用CPU120は、受信した変動パターンコマンドで示される変動パターンに応じて、使用する飾り図柄の変動パターン、再抽選演出およびKT突入演出に応じたプロセ

10

【0523】

なお、本特徴部138IWでは、ステップ138 IWS929で選択したプロセステーブルに従って後述するステップ138 IWS935および可変表示中演出処理（ステップS172）が実行されることによって、飾り図柄の変動表示中に再抽選演出およびKT突入演出が実行される。

【0524】

一方、ゲート通過時報知を実行することに決定した場合には（ステップ138 IWS930のY）、演出制御用CPU120は、飾り図柄の停止図柄として通常大当り図柄を再決定する（ステップ138 IWS931）。本例では、通常大当り図柄として、左中右の飾り図柄が偶数図柄で揃った図柄の組み合わせを再決定する。また、演出制御用CPU120は、受信した変動パターンコマンドで示される変動パターンに応じて、使用する飾り図柄の変動パターンに応じたプロセステーブルを選択する（ステップ138 IWS932）。そして、ステップ138 IWS934に移行する。

20

【0525】

また、大当り変動でなかった場合には（ステップ138 IWS921のN）、演出制御用CPU120は、受信した変動パターンコマンドで示される変動パターンに応じて、使用する飾り図柄の変動パターンに応じたプロセステーブルを選択する（ステップ138 IWS933）。そして、ステップ138 IWS934に移行する。

30

【0526】

次いで、演出制御用CPU120は、ステップ138 IWS925、S929、S932、S933で選択したプロセステーブルにおけるプロセスデータ1のプロセスタイマ設定値をプロセスタイマに設定してプロセスタイマをスタートさせる（ステップ138 IWS934）。次いで、演出制御用CPU120は、プロセスデータ1の内容（表示制御実行データ1、ランプ制御実行データ1、音番号データ1）に従って演出装置（画像表示装置5、各種ランプ、スピーカ8L、8R）の制御を実行する（ステップ138 IWS935）。例えば、画像表示装置5において変動パターンに応じた画像を表示させるために、VDPに制御信号（表示制御実行データ）を出力する。また、各種ランプを点灯／消灯制御を行わせるために、ランプ制御基板14に対して制御信号（ランプ制御実行データ）を出力する。また、スピーカ8L、8Rからの音声出力を行わせるために、音声制御基板13に対して制御信号（音番号データ）を出力する。

40

【0527】

次いで、演出制御用CPU120は、変動時間に応じた値を飾り図柄変動時間タイマに設定して飾り図柄変動時間タイマをスタートさせる（ステップ138 IWS936）。そして、演出制御プロセスフラグを、可変表示中演出処理（ステップS172）に応じた値に更新する（ステップ138 IWS937）。

【0528】

図8-33～図8-35は、演出制御プロセス処理における特図当り待ち処理（ステップS173）を示すフローチャートである。特図当り待ち処理において、演出制御用CP

50

U120は、まず、飾り図柄の停止図柄として大当り図柄を表示していることを示す停止図柄表示フラグ1がセットされているか否かを確認する（ステップ138 IWS9701）。停止図柄表示フラグ1がセットされていれば、ステップ138 IWS9706に移行する。この特徴部138 IWでは、飾り図柄の停止図柄として大当り図柄を表示した場合には、ステップ138 IWS9705で停止図柄表示フラグ1がセットされる。そして、大当り中演出を実行するときに停止図柄表示フラグ1がリセットされる。従って、停止図柄表示フラグ1がセットされているということは、大当り図柄を確定表示したが大当り中演出をまだ実行していない段階であるので、ステップ138 IWS9703の飾り図柄の停止図柄を表示する処理を実行することなく、ステップ138 IWS9706に移行する。

10

【0529】

停止図柄表示フラグ1がセットされていなければ、演出制御用CPU120は、飾り図柄の停止図柄として小当り図柄を表示していることを示す停止図柄表示フラグ2がセットされているか否かを確認する（ステップ138 IWS9702）。停止図柄表示フラグ2がセットされていれば、ステップ138 IWS9721に移行する。この特徴部138 IWでは、飾り図柄の停止図柄として小当り図柄を表示した場合には、ステップ138 IWS9720で停止図柄表示フラグ2がセットされる。そして、小当り中演出を実行するときに停止図柄表示フラグ2がリセットされる。従って、停止図柄表示フラグ2がセットされているということは、小当り図柄を確定表示したが小当り中演出をまだ実行していない段階であるので、ステップ138 IWS9703の飾り図柄の停止図柄を表示する処理を実行することなく、ステップ138 IWS9721に移行する。

20

【0530】

停止図柄表示フラグ1および停止図柄表示フラグ2のいずれもセットされていなければ、演出制御用CPU120は、画像表示装置5において停止表示中の左中右の飾り図柄の停止図柄（はずれ図柄、大当り図柄、小当り図柄）を確定表示させる制御を行う（ステップ138 IWS9703）。

【0531】

ステップ138 IWS9703の処理で大当り図柄を確定表示した場合には（ステップ138 IWS9704のY）、演出制御用CPU120は、停止図柄表示フラグ1をセットする（ステップ138 IWS9705）。

30

【0532】

次いで、演出制御用CPU120は、いずれかの当り開始指定コマンド（第1大当り開始指定コマンド、第2大当り開始指定コマンド）を受信したか否かを確認する（ステップ138 IWS9706）。いずれかの当り開始指定コマンドを受信している場合には、演出制御用CPU120は、停止図柄表示フラグ1をリセットする（ステップ138 IWS9707）。

【0533】

次いで、演出制御用CPU120は、今回の変動表示で再抽選演出を実行していれば（ステップ138 IWS9708のY）、画像表示装置5において再抽選ストック画像を表示する制御を行う（ステップ138 IWS9709）とともに、再抽選ストックフラグを

40

【0534】

本例では、飾り図柄の変動表示において再抽選演出が実行された場合には、再抽選ストック画像が表示され、恰も再抽選演出をストックしている状態であるかのような表示が行われる。そして、その後、大当りとなる変動表示が発生すると、その大当り変動において再び再抽選演出を実行して、恰もストック状態であった再抽選演出を放出して実行するかのような演出（再抽選放出演出）が実行される。

【0535】

また、再抽選演出を実行していなければ、演出制御用CPU120は、ゲート通過時報

50

知の実行を決定している場合であれば（ステップ138 IWS9711のY）、画像表示装置5に表示されている飾り図柄の組み合わせを通常大当り図柄から2R確変大当り図柄に差し替える制御を行う（ステップ138 IWS9712）。

【0536】

なお、本特徴部138 IWでは、大当り図柄が停止表示された後、通過ゲート41を遊技球が通過したタイミングで大当り開始指定コマンドが送信されるので（ステップ138 IWS2501A, S2505A, S2501B, S2505B参照）、ステップ138 IWS9706でYと判定されたことにもとづいてステップ138 IWS9712の処理が実行されることによって、通常大当り図柄を停止表示した後、通過ゲート41を遊技球が通過したタイミングで2R確変大当り図柄への差し替え表示が行われることになる。

10

【0537】

次いで、演出制御用CPU120は、今回発生した大当りの大当り種別が16R確変大当りまたは2R確変大当りであるか否かを確認する（ステップ138 IWS9713）。なお、大当り種別が16R確変大当りまたは2R確変大当りであるか否かは、例えば、受信した表示結果指定コマンドが表示結果2指定コマンドまたは表示結果6指定コマンドであるか否かを確認することにより判定できる。16R確変大当りまたは2R確変大当りであれば、そのままステップ138 IWS9715に移行する。

【0538】

16R確変大当りおよび2R確変大当りのいずれでもなければ、第2KT状態中であつた場合には今回の大当り遊技の終了後に第2KT状態が終了することを意味している。この場合、演出制御用CPU120は、第2KT状態中に小当りが連続して発生した回数をカウントするための小当り連続数カウンタ、および小当り連続中賞球数カウンタの値を0クリアする（ステップ138 IWS9714）。

20

【0539】

次いで、演出制御用CPU120は、大当り中演出に応じたプロセステーブルを選択する（ステップ138 IWS9715）。次いで、演出制御用CPU120は、プロセスタイマ設定値をプロセスタイマに設定することによってプロセスタイマをスタートさせ（ステップ138 IWS9716）、プロセスデータ1の内容（表示制御実行データ1、ランプ制御実行データ1、音番号データ1）に従って演出装置（演出用部品としての画像表示装置5、演出用部品としての各種ランプ、および演出用部品としてのスピーカ8L, 8R）の制御を実行する（ステップ138 IWS9717）。

30

【0540】

その後、演出制御用CPU120は、演出制御プロセスフラグの値を大当り中演出処理（ステップS176）に応じた値に更新する（ステップ138 IWS9718）。

【0541】

ステップ138 IWS9703の処理で大当り図柄を確定表示していなければ（ステップ138 IWS9704のN）、ステップ138 IWS9703の処理で小当り図柄を確定表示した場合には（ステップ138 IWS9719のY）、演出制御用CPU120は、停止図柄表示フラグ2をセットする（ステップ138 IWS9720）。

【0542】

次いで、演出制御用CPU120は、小当り開始指定コマンドを受信したか否かを確認する（ステップ138 IWS9721）。小当り開始指定コマンドを受信している場合には、演出制御用CPU120は、停止図柄表示フラグ2をリセットする（ステップ138 IWS9722）。

40

【0543】

次いで、演出制御用CPU120は、小当りRUSH継続示唆演出の実行中であることを示す小当りRUSH継続示唆演出実行中フラグがセットされているか否かを確認する（ステップ138 IWS9723）。小当りRUSH継続示唆演出実行中フラグがセットされていないければ（小当りRUSH継続示唆演出の実行中でなければ）、演出制御用CPU120は、第2KT状態に制御されているか否かを確認する（ステップ138 IWS97

50

24)。なお、第2KT状態に制御されているか否かは、例えば、第2KT状態フラグがセットされているか否かを確認することにより判定できる。第2KT状態に制御されていれば、演出制御用CPU120は、第1特別図柄の変動表示中であるか否かを確認する（ステップ138IWS9725）。なお、第1特別図柄の変動表示中であるか否かは、例えば、第1変動パターンを指定する変動パターンコマンドを受信しているか否かを確認することにより判定できる。

【0544】

第1特別図柄の変動表示中でなければ、演出制御用CPU120は、第1保留記憶があるか否かを確認する（ステップ138IWS9726）。なお、第1保留記憶があるか否かは、例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100から受信した第1保留記憶数を指定する演出制御コマンドを確認することにより判定できる。第1保留記憶がなければ、演出制御用CPU120は、第2保留記憶数が2以上であるか否かを確認する（ステップ138IWS9727）。第2保留記憶数が2以上であるか否かは、例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100から受信した第2保留記憶数を指定する演出制御コマンドを確認することにより判定できる。

【0545】

第2保留記憶数が2以上であれば、演出制御用CPU120は、第2特別図柄の変動表示に対する全ての先読み判定結果コマンドを読み出す（ステップ138IWS9728）。

【0546】

本例では、遊技制御用マイクロコンピュータ100（具体的には、CPU103）は、第1特別図柄プロセス処理の第1始動入賞判定処理（ステップS101A）において、第1始動入賞口への始動入賞が発生したときに、その始動入賞に対する第1特別図柄の変動表示が大当たりとなるか否かや変動パターンの種別（変動カテゴリ）を先読み判定し、その判定結果を示す先読み判定結果コマンドを送信する。また、本例では、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、第2特別図柄プロセス処理の第2始動入賞判定処理においても同様に、第2始動入賞口への始動入賞が発生したときに、その始動入賞に対する第2特別図柄の変動表示が大当たりとなるか否かや変動パターンの種別（変動カテゴリ）を先読み判定し、その判定結果を示す先読み判定結果コマンドを送信する。

【0547】

演出制御用CPU120は、コマンド解析処理（ステップS75）において、先読み判定結果コマンドを受信すると、RAM122に設けられた先読み判定結果コマンド格納領域に、受信した先読み判定結果コマンドを格納する。本例では、第1保留記憶数および第2保留記憶数の上限数は4であることから、先読み判定結果コマンド格納領域は、第1保留記憶および第2保留記憶に対応してそれぞれ4つの格納領域が設けられているものとする。

【0548】

次いで、演出制御用CPU120は、読み出した先読み判定結果コマンドの中に大当たりの先読み判定結果を示すものがあるか否かを確認する（ステップ138IWS9729）。大当たりの先読み判定結果を示すものがなければ（ステップ138IWS9729のN）、演出制御用CPU120は、小当たりの発生を報知する小当たり報知の表示色を決定する（ステップ138IWS9730）。

【0549】

ステップ138IWS9730では、演出制御用CPU120は、小当たり報知の表示色を決定するための小当たり報知表示色決定テーブルを用いて、乱数にもとづく抽選処理を行い、小当たり報知の表示色を決定する。図8-36は、小当たり報知表示色決定テーブルの具体例を示す説明図である。本例では、図8-36に示すように、90%の確率で小当たり報知の表示色を赤色にすると決定され、10%の確率で小当たり報知の表示色を金色にすると決定される。

【0550】

小当り報知の表示色を金色にすると決定した場合には（ステップ138 IWS9731のY）、演出制御用CPU120は、小当りRUSH継続示唆演出実行中フラグをセットする（ステップ138 IWS9732）とともに、画像表示装置5において金色の表示色で小当り報知を表示する制御を行う（ステップ138 IWS9733）。

【0551】

一方、第2KT状態でない場合（ステップ138 IWS9724のN）や、第1特別図柄の変動表示中である場合（ステップ138 IWS9725のY）、第1保留記憶がある場合（ステップ138 IWS9726のY）、第2保留記憶数が2以上でない場合（ステップ138 IWS9727のN）、大当りの先読み判定結果を示す先読み判定結果コマンドがある場合（ステップ138 IWS9729のY）、小当り報知の表示色を赤色に決定した
10 場合（ステップ138 IWS9731のN）には、演出制御用CPU120は、画像表示装置5において赤色の表示色で小当り報知を表示する制御を行う（ステップ138 IWS9743）。

【0552】

本例では、第2KT状態に制御されている場合には、大当りが発生すると、例えば、9R確変大当りや2R通常大当りが発生した場合には、その大当り遊技の終了後に第1KT状態に制御されることになり、第2KT状態が終了することになる点で却って不利であるともいえる。一方、大当りが発生しない間は遊技状態の変化が生じないのであるから、第2KT状態という有利な状態が継続することになる。そこで、本例では、ステップ138 IWS9729でNと判定した場合には（すなわち、大当りとなる保留がないのであるから、現在の保留記憶数分は第2KT状態が継続することが予見される場合には、ステップ138 IWS9730～S9733の処理が実行されることにより、金色の表示色で小当り報知が表示されることによって、第2KT状態が継続することを示唆することができるようにしている。
20

【0553】

なお、本例では、金色の表示色で小当り報知が報知されて小当りRUSH継続示唆演出が開始されると、後述するように、画像表示装置5における背景画像も小当りRUSH継続示唆演出に応じた背景画像に変更される（ステップ138 IWS9909参照）ことにより、小当りRUSH継続示唆演出が実行される。

【0554】

小当りRUSH継続示唆演出実行中フラグがセットされている場合には（すなわち、既に小当りRUSH継続示唆演出の実行中である場合には）、演出制御用CPU120は、第1特別図柄の変動表示中であるか否かを確認する（ステップ138 IWS9734）。なお、第1特別図柄の変動表示中であるか否かは、例えば、第1変動パターンを指定する変動パターンコマンドを受信しているか否かを確認することにより判定できる。
30

【0555】

第1特別図柄の変動表示中でなければ、演出制御用CPU120は、第1保留記憶があるか否かを確認する（ステップ138 IWS9735）。なお、第1保留記憶があるか否かは、例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100から受信した第1保留記憶数を指定する演出制御コマンドを確認することにより判定できる。第1保留記憶がなければ、演出制御用CPU120は、第2保留記憶数が2以上であるか否かを確認する（ステップ138 IWS9736）。第2保留記憶数が2以上であるか否かは、例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100から受信した第2保留記憶数を指定する演出制御コマンドを確認することにより判定できる。
40

【0556】

第2保留記憶数が2以上であれば、演出制御用CPU120は、第2特別図柄の変動表示に対する全ての先読み判定結果コマンドを読み出す（ステップ138 IWS9737）。次いで、演出制御用CPU120は、読み出した先読み判定結果コマンドの中に大当りの先読み判定結果を示すものがあるか否かを確認する（ステップ138 IWS9738）。大当りの先読み判定結果を示すものがなければ（ステップ138 IWS9738のN）
50

、演出制御用CPU120は、小当りRUSH継続示唆演出を終了するか否かを決定する（ステップ138 IWS9739）。

【0557】

ステップ138 IWS9739では、演出制御用CPU120は、小当りRUSH継続示唆演出を終了するか否かを決定するための小当りRUSH継続示唆演出終了決定テーブルを用いて、乱数にもとづく抽選処理を行い、小当りRUSH継続示唆演出を終了するか否かを決定する。図8-37は、小当りRUSH継続示唆演出終了決定テーブルの具体例を示す説明図である。本例では、図8-37に示すように、90%の確率で小当りRUSH継続示唆演出を継続すると決定され、10%の確率で小当りRUSH継続示唆演出を終了すると決定される。

10

【0558】

そして、第1特別図柄の変動表示中である場合（ステップ138 IWS9734のY）や、第1保留記憶がある場合（ステップ138 IWS9735のY）、第2保留記憶数が2以上でない場合（ステップ138 IWS9736のN）、大当りの先読み判定結果を示す先読み判定結果コマンドがある場合（ステップ138 IWS9738のY）、小当りRUSH継続示唆演出を終了すると決定した場合（ステップ138 IWS9740のY）には、演出制御用CPU120は、画像表示装置5において小当りRUSH継続示唆演出に応じた背景画像から通常の背景画像に変更する制御を行い（ステップ138 IWS9741）、小当りRUSH継続示唆演出を終了する。また、演出制御用CPU120は、小当りRUSH継続示唆演出実行中フラグをリセットする（ステップ138 IWS9742）

20

【0559】

一方、小当りRUSH継続示唆演出を継続すると決定した場合（ステップ138 IWS9740のN）には、演出制御用CPU120は、そのままステップ138 IWS9743に移行する。

【0560】

その後、演出制御用CPU120は、画像表示装置5において赤色の表示色で小当り報知を表示する制御を行う（ステップ138 IWS9743）。

【0561】

次いで、演出制御用CPU120は、小当り連続数カウンタの値を1加算する（ステップ138 IWS9744）。また、演出制御用CPU120は、更新後の小当り連続数カウンタの値にもとづいて、画像表示装置5において、第2KT状態中における小当りの連続回数を示す小当り連続数表示1が表示されていれば、小当り連続数表示1を更新する制御を行う（ステップ138 IWS9745）。

30

【0562】

なお、本例では、小当り連続数表示1は、通常状態や第1KT状態中に16R確変大当りや2R確変大当りが発生したときに表示が開始され、16R確変大当りや2R確変大当り以外の大当りが発生したとき（すなわち、第2KT状態を終了するとき）に表示が終了される。

【0563】

次いで、演出制御用CPU120は、加算後の小当り連続数カウンタの値がいずれかの閾値となっているか否かを確認する（ステップ138 IWS9746）。加算後の小当り連続数カウンタの値がいずれかの閾値となっていれば、演出制御用CPU120は、画像表示装置5において、加算後の小当り連続数カウンタの値に応じた小当り連続数表示2を表示する制御を行う（ステップ138 IWS9747）。例えば、加算後の小当り連続数カウンタの値が10となっていれば、今回の小当り発生で小当り連続数が10回に達したことを意味しているので、閾値「10」に到達したと判定し、小当り連続数が10回に達した旨の小当り連続数表示2を表示する。例えば、画像表示装置5において、小当り連続数表示2として「10COMBO」などの文字表示を表示する。

40

【0564】

50

次いで、演出制御用CPU120は、小当中演出に応じたプロセステーブルを選択する（ステップ138 IWS9748）。次いで、演出制御用CPU120は、プロセスタイマ設定値をプロセスタイマに設定することによってプロセスタイマをスタートさせ（ステップ138 IWS9749）、プロセスデータ1の内容（表示制御実行データ1、ランプ制御実行データ1、音番号データ1）に従って演出装置（演出用部品としての画像表示装置5、演出用部品としての各種ランプ、および演出用部品としてのスピーカ8L, 8R）の制御を実行する（ステップ138 IWS9750）。

【0565】

そして、演出制御用CPU120は、演出制御プロセスフラグの値を小当中演出処理（ステップS174）に応じた値に更新する（ステップ138 IWS9751）。 10

【0566】

ステップ138 IWS9703の処理で大当り図柄や小当り図柄を表示しなかった場合（すなわち、はずれ図柄を表示した場合）には（ステップ138 IWS9704のN、且つステップ138 IWS9719のN）、演出制御用CPU120は、演出制御プロセスフラグの値を可変表示開始待ち処理（ステップS170）に応じた値に更新する（ステップ138 IWS9752）。

【0567】

図8-38は、演出制御プロセス処理における小当り終了演出処理（ステップS175）を示すフローチャートである。小当り終了演出処理において、演出制御用CPU120は、まず、演出期間計測タイマの値を1減算する（ステップ138 IWS9901）。なお、演出期間計測タイマは、小当中演出処理（ステップS174）において小当り遊技を終了すること（例えば、小当り終了指定コマンドを受信したこと）にもとづいてセットされる。次いで、演出制御用CPU120は、演出期間計測タイマがタイムアウトしたか否かを確認する（ステップ138 IWS9902）。 20

【0568】

演出期間計測タイマがタイムアウトしていないときは（ステップ138 IWS9902のN）、演出制御用CPU120は、プロセスタイマの値を1減算し（ステップ138 IWS9903）、プロセスデータnの内容に従って演出装置（画像表示装置5、各種ランプ、スピーカ8L, 8R等）を制御する処理を実行する（ステップ138 IWS9904）。 30

【0569】

そして、演出制御用CPU120は、プロセスタイマがタイムアウトしていないかどうかを確認し（ステップ138 IWS9905）、プロセスタイマがタイムアウトしていれば、プロセスデータの切替を行う（ステップ138 IWS9906）。そして、次のプロセスデータにおけるプロセスタイマ設定値をプロセスタイマに設定してプロセスタイマをスタートさせる（ステップ138 IWS9907）。

【0570】

演出期間計測タイマがタイムアウトしていれば（ステップ138 IWS9902のY）、演出制御用CPU120は、小当りRUSH継続示唆演出実行中フラグがセットされているか否かを確認する（ステップ138 IWS9908）。小当りRUSH継続示唆演出実行中フラグがセットされていれば、演出制御用CPU120は、画像表示装置5に表示される背景画像を小当りRUSH継続示唆演出に応じた背景画像に変更する制御を行う（ステップ138 IWS9909）。 40

【0571】

なお、ステップ138 IWS9909が実行されて小当りRUSH継続示唆演出に応じた背景画像に変更されると、その後、いずれかの小当りRUSH継続示唆演出の終了条件が成立して小当りRUSH継続示唆演出が終了するまで（ステップ138 IWS9734～S9742参照）、複数の変動表示にわたって小当りRUSH継続示唆演出に応じた背景画像が表示される。

【0572】

そして、演出制御用CPU120は、演出制御プロセスフラグの値を可変表示開始待ち処理（ステップS170）に応じた値に更新する（ステップ138 IWS9910）。

【0573】

次に、本特微部138IWにおいて実行される演出の演出態様について説明する。まず、再抽選演出の演出態様について説明する。図8-39～図8-41は、再抽選演出の演出態様を説明するための説明図である。なお、図8-39～図8-41において、（A）（B）（C）・・・の順に表示画面が遷移する。

【0574】

本例では、2R確変大当たりとなる飾り図柄の変動表示を実行するものとし、その変動開始時に再抽選演出を実行することに決定したものとする。図8-39（A）に示すように、左中右の飾り図柄の変動表示を実行しているときに、飾り図柄の仮停止タイミングとなると、図8-39（B）に示すように、画像表示装置5において、通常大当たり図柄（非確変大当たり図柄）の飾り図柄の組み合わせ（本例では、図柄「666」の組み合わせ）が仮停止表示される。なお、仮停止表示とは、見た目上は飾り図柄が停止しているように見えるが、例えば、飾り図柄を僅かに上下に変動させたり揺れ変動させたりすることにより完全には停止していない状態である。

【0575】

次いで、図8-39（C）に示すように、画像表示装置5において、左中右の飾り図柄の変動表示が再び開始されるとともに、「再抽選」などの文字表示138IW001が表示され、再抽選演出が実行される。

【0576】

次いで、図8-39（D）に示すように、画像表示装置5の表示画面がブラックアウト（暗転）し、KT状態（本例では、第2KT状態）に移行することを示すKT突入演出が実行される。なお、本例では、図8-39（D）に示すように、KT突入演出の実行中で表示画面が暗転している状態であっても、飾り図柄の変動表示が画像表示装置5の表示画面の右上端部に僅かに視認できるものとする。

【0577】

次いで、図8-40（E）に示すように、画像表示装置5において、所定のキャラクタ画像138IW002が表示されるとともに、キャラクタのセリフとして「小当たりRUSH」などの文字表示138IW003が表示され、第2KT状態に移行することが報知される。なお、本例では、画像表示装置5の表示画面の右上端部にも、飾り図柄の停止図柄として2R確変大当たり図柄（本例では、特殊図柄「R」を含む図柄の組み合わせ）が縮小表示されるものとする。

【0578】

次いで、第2KT状態に制御されると、図8-40（F）に示すように、画像表示装置5において「小当たりRUSH」などの文字表示138IW004が表示され、第2KT状態中であることを認識可能な表示が行われる。また、図8-40（F）に示すように、画像表示装置5において「STANDBY」などの文字表示が再抽選ストック画像138IW005として表示され、2R確変大当たりが発生した変動表示で開始された再抽選演出を恰もストックした状態であるかのような表示が行われる。

【0579】

次いで、第2KT状態中に大当たりとなる変動表示が開始されたものとする。その大当たりとなる変動表示において、飾り図柄の仮停止タイミングとなると、図8-40（G）に示すように、画像表示装置5において、通常大当たり図柄（非確変大当たり図柄）の飾り図柄の組み合わせ（本例では、図柄「666」の組み合わせ）が仮停止表示される。

【0580】

次いで、図8-40（H）に示すように、画像表示装置5において、左中右の飾り図柄の変動表示が再び開始されるとともに、再抽選ストック画像138IW005が消去され、「再抽選」などの文字表示138IW006が表示され、再抽選演出が実行される。すなわち、恰もストックしていた再抽選演出を放出するような態様で再抽選放出演出が実行

10

20

30

40

50

される。

【0581】

そして、変動時間を終了すると、図8-41(I)に示すように、飾り図柄の停止図柄として大当り図柄が停止表示される。なお、図8-41(I)に示す例では、16R確変大当りとなることにもとづいて、16R確変大当り図柄(本例では、「777」の図柄の組み合わせ)が停止表示される場合が示されている。

【0582】

次に、ゲート通過時報知の演出態様について説明する。図8-42は、ゲート通過時報知の演出態様を説明するための説明図である。なお、図8-42において、(A)(B)(C)・・・の順に表示画面が遷移する。

10

【0583】

本例では、2R確変大当りとなる飾り図柄の変動表示を実行するものとし、その変動開始時にゲート通過時報知を実行し、飾り図柄の停止図柄として通常図柄(非確変大当り図柄)を再決定したものとする。そして、図8-42(A)に示すように、左中右の飾り図柄の変動表示を実行し、変動時間が経過すると、図8-42(B)に示すように、画像表示装置5において、通常大当り図柄(非確変大当り図柄)の飾り図柄の組み合わせ(本例では、図柄「666」の組み合わせ)が停止表示される。従って、2R確変大当りと決定した場合であるが、恰も通常大当り(6R通常大当りまたは2R通常大当り)となったかのような表示が行われる。

【0584】

20

次いで、通常大当り図柄が停止表示された後、通過ゲート41を遊技球が通過すると、図8-42(C)に示すように、画像表示装置5において停止表示されている飾り図柄の停止図柄が2R確変大当り図柄(本例では、特殊図柄「R」を含む図柄の組み合わせ)に差し替え表示される。すなわち、2R確変大当りであることが事後的に報知される表示が行われる。

【0585】

次いで、第2KT状態に制御されると、図8-42(D)に示すように、画像表示装置5において「小当りRUSH」などの文字表示138IWO04が表示され、第2KT状態中であることを認識可能な表示が行われる。

【0586】

30

次に、小当りRUSH継続示唆演出の演出態様について説明する。図8-43および図8-44は、小当りRUSH継続示唆演出の演出態様を説明するための説明図である。なお、図8-43および図8-44において、(A)(B)(C)・・・の順に表示画面が遷移する。

【0587】

第2KT状態中である場合には、図8-43(A)に示すように、画像表示装置5において、第2KT状態中における小当りの連続回数を示す小当り連続数表示1が表示されるとともに、第2KT状態中で小当りが連続して発生している期間に発生した賞球数を示す小当り連続中賞球数表示1が表示される。本例では、16R確変大当りが発生して第2KT状態に移行された後、現時点までに小当りが19回発生しているものとし、図8-43(A)に示すように、小当り連続数表示1として「19回目」などの文字表示138IWO07が表示されている場合が示されている。また、最初の16R確変大当りにもとづく大当り遊技中に15個×10球×16ラウンド=2400個の賞球が得られ、その後の小当り毎に10個×3球=30個の賞球が得られ、19回の小当り発生により30個×19=570個の賞球が得られたことにより、合計で2970個の賞球が得られていることにもとづいて、図8-43(A)に示すように、小当り連続中賞球数表示1として「2970PT」などの文字表示138IWO08が表示されている場合が示されている。

40

【0588】

次いで、変動時間が経過し、図8-43(B)に示すように、飾り図柄の停止図柄として小当り図柄(本例では、「135」の図柄の組み合わせ)が停止表示され、小当りが発

50

生したものとする。また、図8-43(B)に示すように、「GET」などの文字表示138IW009が表示され、小当り報知が表示される。なお、図8-43(B)に示す例では、赤色の表示色で小当り報知が表示される場合が示されている。また、図8-43(B)に示すように、小当り連続数表示1が「20回目」に更新されるとともに、第2KT状態中の小当り連続回数が20回目に達したことにともづいて、小当り連続数表示2として「20COMBO」などの文字表示138IW010が表示される。

【0589】

次いで、小当り遊技中に特殊入賞口に遊技球が3個入賞し、賞球数がさらに10個×3球=30個増加して合計で3000個になったものとする。この場合、図8-43(C)に示すように、小当り連続中賞球数表示1が「3000PT」に更新されるとともに、第2KT状態中で小当りが連続して発生している期間に発生した賞球数が3000個に達したことにともづいて、小当り連続中賞球数表示2として「3000OVER」などの文字表示138IW011が表示される。

【0590】

次いで、小当り遊技を終了して、図8-43(D)に示すように、次の飾り図柄の変動表示を開始したものとする。次いで、変動時間が経過し、図8-44(E)に示すように、飾り図柄の停止図柄として小当り図柄(本例では、「135」の図柄の組み合わせ)が停止表示され、小当りが発生したものとする。ここで、読み出した全ての先読み判定コマンドにもとづいて大当りとなる保留記憶がないと判定し、小当り報知の表示色を決定する処理を実行し、小当り報知の表示色を金色に決定したものとする(ステップ138IWS9728~S9731参照)。この場合、図8-44(E)に示すように、小当り報知として金色の表示色で「GET」などの文字表示138IW012が表示され、小当りRUSH継続示唆演出の一部として小当りが継続することが報知される。

【0591】

次いで、図8-44(F)に示すように、小当り遊技に制御され、その後、小当り遊技を終了するとき、図8-44(G)に示すように、画像表示装置5において小当りRUSH継続示唆演出に応じた背景画像に変更される。例えば、通常背景画像として青色の表示色の背景画像が表示されるのに対して、小当りRUSH継続示唆演出に応じた背景画像として虹色の表示色の背景画像が表示される。そして、その後、小当りRUSH継続示唆演出を終了するまで、図8-44(H)に示すように、画像表示装置5において小当りRUSH継続示唆演出に応じた背景画像の表示が継続される。

【0592】

なお、本例では、小当り連続中賞球数表示1および小当り連続中賞球数表示2として、第2KT状態中における賞球数を表示する場合を示したが、そのような態様にかぎられない。例えば、第1KT状態および第2KT状態を含めたKT状態における大入賞口や特殊入賞口への入賞にもとづく賞球をカウントし、小当り連続中賞球数表示1および小当り連続中賞球数表示2として表示するように構成してもよい。

【0593】

以上に説明したように、本特徴部138IWによれば、第1識別情報(例えば、第1特別図柄)の可変表示と第2識別情報(例えば、第2特別図柄)の可変表示とを並行して実行可能であり、所定条件が成立(例えば、大当り図柄を導出表示)した後、特定領域(例えば、通過ゲート41)を遊技媒体(例えば、遊技球)が通過したことにもとづいて、有利状態(例えば、大当り遊技状態)に制御可能である。また、特殊状態(例えば、小当り遊技状態)に制御可能であり、通常状態よりも特殊状態による遊技価値が付与されやすい特別状態(例えば、KT状態)に制御可能である。また、特定信号(例えば、大当り信号1)を出力可能であり、通常状態において第1識別情報の可変表示により所定条件が成立したことにもとづいて特定信号を出力可能であり(例えば、図8-22(1)に示すように、通常状態では、第1特別図柄で大当り図柄を導出表示したことにもとづいて大当り信号1の外部出力を開始する)、通常状態において第2識別情報の可変表示により所定条件が成立したことにもとづいて特定信号を出力しない(例えば、図8-22(1)に示すよ

うに、通常状態では、第2特別図柄で大当たり図柄を導出表示しても大当たり信号1の外部出力を開始しない)。そのため、第2識別情報の可変表示により所定条件が成立する場合に適切に信号を出力することができる。また、遊技者が遊技していない非遊技状態中に、特にKT状態を終了したが保留が残っており、見た目上空き台の状態になっている場合であっても、所定条件の成立(大当たり図柄の導出表示)では直ちに特定信号を出力しないようにすることによって、特に非遊技状態中を考慮して、第2識別情報の可変表示により所定条件が成立する場合に適切に信号を出力することができる。

【0594】

また、本特徴部138IWによれば、特定信号は、有利状態への制御を特定可能な信号(例えば、大当たり信号1)であり、特定信号出力手段は、通常状態において第2識別情報の可変表示により所定条件が成立した場合に、特定領域を遊技媒体が通過したことにもとづいて特定信号を出力可能である(例えば、図8-22(1)に示すように、通常状態では、第2特別図柄で大当たり図柄を導出表示した場合、通過ゲート41の遊技球の通過にもとづいて大当たり信号1の外部出力を開始する)ように構成されていてもよい。そのような構成によれば、遊技機の外部において有利状態に制御されていることを特定することができる。

10

【0595】

また、特に、パチンコ遊技機では、大当たり信号を受信したことに応じて、データランプ(いわゆる呼び出しランプ)において大当たりに対応する発光表示および液晶表示を行い、大当たり回数を1加算する。そのため、遊技者が遊技していない非遊技状態で第2特別図柄で大当たり図柄が停止表示された場合には、非遊技状態であるにもかかわらずデータランプが発光表示されたままとなり、空き台であるにもかかわらず、元の遊技者が戻ってくる可能性があると判断して他の遊技者が遊技を敬遠する可能性があり、パチンコ遊技機の稼働率が低下してしまう可能性がある。従って、本特徴部138IWでは、非遊技状態で第2特別図柄で大当たり図柄が停止表示されても大当たり信号1の外部出力を開始せず、データランプの発光表示が開始されないようにして、そのようなパチンコ遊技機の稼働率が低下してしまうことを抑止できるようにしている。

20

【0596】

また、本特徴部138IWによれば、特別状態および有利状態に対応する特別信号(例えば、大当たり信号2)を出力可能であり、特定信号とは異なる出力端子を用いて特別信号を出力可能である(例えば、図8-21に示すように、大当たり信号1は端子番号「05」の出力端子から外部出力し、大当たり信号2は端子番号「06」の出力端子から外部出力する)。また、特定信号の出力開始のタイミングと共通のタイミングにおいて特別信号の出力を開始する(例えば、図8-22に示すように、通常状態において、大当たり信号1と同様に、第1特別図柄で大当たり図柄を導出表示したことにもとづいて大当たり信号2の外部出力を開始し、第2特別図柄で大当たり図柄を導出表示した場合には、通過ゲート41の遊技球の通過にもとづいて大当たり信号2の外部出力を開始する)。そのため、適切に特別信号を出力することができる。

30

【0597】

また、本特徴部138IWによれば、有利状態において遊技媒体が進入可能な第1領域(例えば、大入賞口)と、特殊状態において遊技媒体が進入可能な第2領域(例えば、特殊入賞口)とを備える。また、第2領域に遊技媒体が進入したことに対応する特殊信号(例えば、特殊入賞口入賞信号)を出力可能であり、特定信号とは異なる出力端子を用いて特殊信号を出力可能である(例えば、図8-21に示すように、大当たり信号1は端子番号「05」の出力端子から外部出力し、特殊入賞口入賞信号は端子番号「07」の出力端子から外部出力する)。そのため、第2領域への遊技媒体の進入状況を外部で監視することができる。

40

【0598】

また、本特徴部138IWによれば、第1識別情報の可変表示により所定条件が成立した場合、および特別状態において第2識別情報の可変表示により所定条件が成立した場合

50

に、特定領域を遊技媒体が通過したか否かにかかわらず、特定信号を出力可能である（例えば、図8-22（1）、（2）に示すように、第1特別図柄で大当たり図柄が導出表示された場合には、その大当たり図柄が導出表示されたタイミングで大当たり信号1の外部出力を開始し、図8-22（2）に示すように、KT状態において第2特別図柄で大当たり図柄が導出表示された場合には、その大当たり図柄が導出表示されたタイミングで大当たり信号1の外部出力を開始する）。そのため、遊技中の状態に対応した信号出力を行うことができる。

【0599】

なお、主基板11からの信号により大当たりのラウンド数に対応する表示を表示可能な表示手段（ラウンドランプ）を別途設けるように構成してもよい。この場合、所定条件の成立（大当たり図柄の導出表示）後には表示手段は消灯状態で、通過ゲート41を遊技球が通過したことに応じて大当たりのラウンド数に対応する態様にて表示手段の表示を行わせるように構成してもよい。そのような構成によれば、特別図柄の大当たり図柄を停止表示した状態で飾り図柄として非確変図柄（偶数図柄）の大当たり図柄が停止表示した状態では、遊技者が表示手段（ラウンドランプ）を確認しても非確変大当たりであるか2R確変大当たり（小当たりRUSH）であるかを認識困難とし、遊技球が通過ゲート41を通過することにより画像表示装置5で小当たりRUSHへの突入演出が実行されて小当たりRUSHを認識可能となる点で、昇格演出の演出効果を高めることができる。

【0600】

また、飾り図柄の停止図柄として非確変図柄（偶数図柄）の大当たり図柄を停止表示した状態で遊技球が通過ゲート41を通過することにより、16R確変大当たり（RUSH）への昇格を報知するように構成してもよい。また、非確変図柄（偶数図柄）の大当たり図柄を停止表示した後の大当たり遊技中に昇格報知を実行するように構成してもよい。

【0601】

また、本特徴部138IWによれば、有利状態（例えば、大当たり遊技状態）に制御可能であり、特殊状態（例えば、小当たり遊技状態）に制御可能であり、非特別状態よりも特殊状態による遊技価値が付与されやすい特別状態（例えば、第2KT状態）に制御可能である。また、有利状態として、少なくとも、有利状態の終了後に非特別状態に制御される第1有利状態（例えば、6R通常大当たりや2R通常大当たりにもとづく大当たり遊技状態）と、有利状態の終了後に特別状態に制御される第2有利状態（例えば、16R確変大当たりにもとづく大当たり遊技状態）と、有利状態の終了後に特別状態に制御され第2有利状態よりも有利度合いが低い第3有利状態（例えば、2R確変大当たりにもとづく大当たり遊技状態）とに制御可能であり、有利状態に制御されることを報知した後に、第3有利状態に制御されることを報知可能である（例えば、再抽選演出およびKT突入演出を実行したり、ゲート通過時報知を実行したりする）。そのため、有利状態の終了後に遊技者にとってより有利な状況となることが報知されるので、特別状態に制御可能な遊技機において、遊技に対する興趣を向上させることができる。

【0602】

また、本特徴部138IWによれば、第1有利状態に制御されることを報知した後に再報知演出（例えば、図8-39（C）に示す再抽選演出）を実行し、再報知演出の実行開始後に第3有利状態に制御されることを報知する特別演出（例えば、図8-39（D）および図8-40（E）に示すKT突入演出）を実行可能である。そのため、演出に意外性をもたせて遊技に対する興趣を向上させることができる。

【0603】

また、本特徴部138IWによれば、再報知演出の実行開始後に特別演出を実行した場合に、特別状態において再報知演出に対応する特定画像（例えば、図8-40（F）に示す再抽選ストック画像138IW005）を表示可能である。また、特定画像を表示した後に再報知演出（例えば、図8-40（H）に示す再抽選演出（再抽選放出演出））を実行可能である。そのため、再報知演出に関する興趣を向上させることができる。

【0604】

なお、本特徴部 1 3 8 I Wでは、再抽選ストック画像が表示された後、次の大当たり発生時に再抽選ストック画像が消去されて再抽選放出演出が実行される（ストックされていた再抽選ストック画像が1回の大当たりで放出される）場合を示しているが、そのような態様にかぎられない。例えば、第 2 K T 状態に移行し再抽選ストック画像を表示した後、複数回の大当たりが発生しても継続して再抽選ストック画像を表示し、複数回の大当たりで繰り返し再抽選放出演出を実行する（1つの再抽選ストック画像で再抽選放出演出をループして実行する）ように構成してもよい。

【0605】

また、本特徴部 1 3 8 I Wによれば、第 2 有利状態に制御されることを報知した後に、第 3 有利状態に制御されることを報知しない（例えば、図 8-39（B）に示すように、通常大当たり図柄を仮停止表示した後に、図 8-39（C）～図 8-40（E）に示すように、再抽選演出および K T 突入演出を実行する。すなわち、1 6 R 確変大当たり図柄を仮停止表示した後に再抽選演出や K T 突入演出が実行される場合はない。）。そのため、遊技に対する興趣の低下を抑えることができる。

【0606】

また、本特徴部 1 3 8 I Wによれば、所定条件が成立（例えば、大当たり図柄の導出表示）した後、特定領域（例えば、通過ゲート 4 1）を遊技媒体（例えば、遊技球）が通過したことにもとづいて有利状態に制御可能である。また、第 1 有利状態に制御されることを報知した後に、特定領域を遊技媒体が通過したことにもとづいて第 3 有利状態に制御されることを報知可能である（例えば、図 8-42（B）に示すように、通常大当たり図柄を導出表示した後に、図 8-42（C）に示すように、通過ゲート 4 1 を遊技球が通過したことにもとづいて 2 R 確変大当たり図柄を差し替え表示する）。そのため、演出に意外性をもたせて遊技に対する興趣を向上させることができる。

【0607】

また、本特徴部 1 3 8 I Wによれば、有利状態に制御されやすい特定状態（例えば、確変状態（高確率状態））に制御可能である。また、第 2 有利状態および第 3 有利状態の終了後に特定状態に制御可能であり（例えば、図 8-20 に示すように、1 6 R 確変大当たりや 2 R 確変大当たりとなった場合には、確変状態（高確率状態）に制御される）、第 1 有利状態の終了後に特定状態に制御しない（例えば、図 8-20 に示すように、6 R 通常大当たりや 2 R 通常大当たりとなった場合には、低確率状態に制御される）。そのため、第 3 有利状態の終了後が第 1 有利状態の終了後よりもより一層有利度合いが高い点で、第 1 有利状態よりも第 3 有利状態に制御されることに遊技者の注目度合いを高めることができ、遊技に対する興趣を向上させることができる。

【0608】

また、本特徴部 1 3 8 I Wによれば、有利状態（例えば、大当たり遊技状態）に制御可能であり、有利度合いが異なる複数種類の有利状態（例えば、6 R 通常大当たりや、2 R 通常大当たり、1 6 R 確変大当たり、2 R 確変大当たりにもとづく大当たり遊技状態）に制御可能である。また、有利状態に制御されることを報知した後に、所定の演出態様により有利状態の種類を報知する再報知演出（例えば、図 8-39（C）に示す再抽選演出）を実行可能であり、再報知演出の実行開始後の演出結果が表示される前に、再報知演出とは演出態様が異なり特定の有利状態に制御されることを報知する特別演出（例えば、図 8-39（D）および図 8-40（E）に示す K T 突入演出）を実行可能である。また、特別演出の実行後に、再報知演出の実行を示唆する特別画像（例えば、図 8-40（F）に示す再抽選ストック画像 1 3 8 I W 0 0 5）を表示可能である。そのため、再報知演出に関して遊技に対する興趣を向上させることができる。

【0609】

また、本特徴部 1 3 8 I Wによれば、有利状態（例えば、大当たり遊技状態）に制御可能であり、特殊状態（例えば、小当たり遊技状態）に制御可能であり、非特別状態よりも特殊状態による遊技価値が付与されやすい特別状態（例えば、第 2 K T 状態）に制御可能である。また、有利状態への制御に対応して特別状態の制御を終了する（例えば、図 8-20

に示すように、高確率／第2KT状態中に9R確変大当りや2R通常大当りになると、第2KT状態を終了し、高確率／第1KT状態や低確率／第1KT状態に移行する)。また、特別状態において、判定手段の判定結果(例えば、先読み判定結果)にもとづいて、後の可変表示において特別状態が継続することを示唆する示唆演出(例えば、小当りRUSH継続示唆演出)を実行可能である。そのため、遊技価値が付与されやすい特別状態が継続することが示唆されるので、特別状態に制御可能な遊技機において、遊技に対する興趣を向上させることができる。

【0610】

また、本特徴部138IWによれば、特殊状態に制御されることを報知する報知演出(例えば、小当り報知)を複数種類の態様(例えば、金色の表示色と赤色の表示色)により実行可能であり、複数種類の態様のうちの特別態様(例えば、金色の表示色)により報知演出を実行する(例えば、図8-44(E)に示すように、金色の表示色で小当り報知138IW012を表示する)。そのため、報知演出の態様に注目させることができる。

10

【0611】

また、本特徴部138IWによれば、特別態様により報知演出を実行した後に、可変表示の演出態様を特殊態様に変化させる態様の示唆演出を実行可能である(例えば、図8-44(G)、(H)に示すように、画像表示装置5の背景画像を小当りRUSH継続示唆演出に応じた背景画像に変更する)。そのため、示唆演出の演出効果を高めて遊技に対する興趣を向上させることができる。

【0612】

20

なお、本特徴部138IWでは、小当りRUSH継続示唆演出に応じた背景画像を表示することによって小当りRUSH継続示唆演出を実行する場合を示したが、そのような態様にかぎられない。例えば、第2KT状態の継続を示唆するテロップ表示を表示したり、所定のキャラクタ画像を表示したりすることによって、小当りRUSH継続示唆演出を実行するように構成してもよい。

【0613】

また、本特徴部138IWによれば、複数の可変表示にわたって特別状態が継続することを示唆する態様により示唆演出を実行可能である(例えば、小当りRUSH継続示唆演出を終了するまで、複数の変動表示にわたって小当りRUSH継続示唆演出に応じた背景画像を表示する)。そのため、複数の可変表示にわたって遊技者に安堵感を与えることができ、遊技に対する興趣を向上させることができる。

30

【0614】

また、本特徴部138IWによれば、第1識別情報(例えば、第1特別図柄)の可変表示と第2識別情報(例えば、第2特別図柄)の可変表示とを並行して実行可能である。また、特別状態として、第2識別情報の可変表示の実行頻度が高く且つ第2識別情報の可変表示により特殊状態に制御される頻度が高い状態に制御可能である(例えば、第2KT状態では、小当りが発生しやすい状態に制御されるとともに低ベース状態に制御されて可変入賞球装置6Bの開放時間が短くなるように制御される)。また、第1識別情報の可変表示が実行されていないことを条件に示唆演出を実行可能である(例えば、第1特別図柄の変動表示中でない場合に、金色の表示色で小当り報知を表示可能である)。そのため、第1識別情報の可変表示に伴う不安定な状態(例えば、第1特別図柄の変動表示と第2特別図柄の変動表示とが並行して実行され、第1特別図柄の変動表示によって遊技状態の変化が生じ得る状態)での示唆演出の実行を制限することができる。

40

【0615】

また、本特徴部138IWによれば、有利状態に制御される保留記憶が記憶されたこと、保留記憶手段が記憶する保留記憶数が減少したこと、示唆演出を終了するか否かの判定処理によって示唆演出を終了すると判定されたこと、または第1識別情報の可変表示に関する保留記憶が記憶されたことのうちの少なくともいずれか1つにもとづいて、示唆演出を終了する(例えば、先読み判定結果にもとづいて大当りとなる保留があること、第2保留記憶数が2以上でないこと、抽選処理により小当りRUSH継続示唆演出を終了すると

50

決定したこと、第1保留記憶が記憶されたことにもとづいて、小当りRUSH継続示唆演出を終了する)。そのため、示唆演出の終了の契機を適切に確保することができる。

【0616】

また、本特徴部138IWによれば、特殊状態に制御された回数である所定回数(例えば、小当り連続数カウンタを用いて計数する第2KT状態中の小当り連続数)を集計するとともに、特殊状態において付与された遊技価値(例えば、小当り連続中賞球数カウンタを用いて計数する第2KT状態中の賞球数)を集計する。また、所定回数に応じた特別演出(例えば、図8-43(B)に示す小当り連続数表示2(「20COMBO」などの文字表示138IW010))を実行可能であり、遊技価値に対応する特殊演出(例えば、図8-43(C)に示す小当り連続中賞球数表示2(「3000OVER」などの文字表示138IW011))を実行可能である。そのため、遊技者に特別感を与えることにより遊技に対する興趣を向上させることができる。

10

【0617】

なお、本特徴部138IWでは、第2KT状態中である場合には、大当りが発生しなければ概ね小当りが発生するので、小当り連続数カウンタを用いて第2KT状態中に発生した小当りの連続回数をカウントするものとなっている。ただし、厳密には強制はずれが発生する場合もあるので、強制はずれを挟んで間欠的な小当りの発生回数を累積的にカウントする場合もある。なお、第2KT状態中に大当りが発生しなければ必ず小当りとなるように構成して、第2KT状態中の小当りの連続回数をカウントするように構成してもよい。また、必ずしも第2KT状態中の小当りの連続数をカウントする必要はなく、第2KT状態中であっても低い割合ではずれとなる場合があるように構成した場合には、間欠的な小当りの発生回数を累積的にカウントするように構成してもよい。

20

【0618】

また、上記のように、第2KT状態中であっても低い割合ではずれとなる(100%小当りでない)ように構成した場合、小当りRUSH継続示唆演出の実行中にはずれ変動が実行される場合がありうるが、はずれ変動中も小当りRUSH継続示唆演出を継続して実行(例えば、小当りRUSH継続示唆演出に応じた背景画像を継続して表示)するように構成してもよい。

【0619】

また、小当りRUSH継続示唆演出を実行するだけでなく、小当りRUSH終了示唆演出を実行するように構成してもよい。この場合、例えば、先読み判定結果にもとづいて小当りRUSHが終了するか否かを判定して小当りRUSH終了示唆演出を実行するように構成してもよい。また、例えば、確変状態が所定回数(確変回数)の変動表示の実行により終了し、確変回数の到達とともに小当りRUSHも終了するように構成する場合や、確変終了抽選処理により確変状態を終了するとともに小当りRUSHも終了するように構成する場合、その小当りRUSH終了の前に事前に小当りRUSH終了示唆演出を実行するように構成してもよい。そのように構成すれば、小当りRUSHの終了を事前に煽る演出を実行可能とすることにより、小当りRUSHが実際に終了するかまたは継続するかに遊技者を注目させることができ、より遊技に対する興趣を向上させることができる。

30

【0620】

また、上記の小当りRUSH終了示唆演出は、小当りRUSH継続示唆演出とは異なる演出態様で実行するように構成してもよい。例えば、背景画像を暗転させる態様で小当りRUSH終了示唆演出を実行したり、「RUSH終了?」などのテロップ状の文字表示を表示したりするように構成してもよい。

40

【0621】

また、複数種類の演出態様の小当りRUSH終了示唆演出を実行可能に構成し、いずれの演出態様により小当りRUSH終了示唆演出が実行されるかに応じて、実際に小当りRUSHが終了する割合が異なるように構成してもよい。そのように構成すれば、遊技者に小当りRUSH終了示唆演出の演出態様に注目させることができる。

【0622】

50

また、本特徴部 138IW で示した構成を、設定値に応じて大当りの当選確率（出玉率）が変わるように構成されたパチンコ遊技機に適用するように構成してもよい。図 8-45 は、設定値を変更可能に構成する場合を説明するための説明図である。このうち、図 8-45（A）は、非確変状態（低確率状態）における設定値ごとの大当りの当選確率や小当りの当選確率を示している。また、図 8-45（B）は、確変状態（高確率状態）における設定値ごとの大当りの当選確率や小当りの当選確率を示している。また、図 8-45 に示す例では、設定値「1」～「6」の 6 段階に設定変更可能に構成する場合が示されている。なお、6 段階に設定変更可能である場合にすぎず、例えば、2～5 段階に設定変更可能に構成したり、7 段階以上に設定変更可能に構成したりしてもよい。

【0623】

図 8-45（A）に示す例では、非確変状態（低確率状態）では、設定値「1」の場合が大当り確率「205/65536」と最も低く、遊技者にとって最も不利な設定となっている。そして、設定値「2」、設定値「3」、設定値「4」、設定値「5」の順に大当り確率が高くなり、設定値「6」の場合が大当り確率「255/65536」と最も高く、遊技者にとって最も有利な設定となっている。また、図 8-45（B）に示す例では、確変状態（高確率状態）では、非確変状態（低確率状態）と比較して全体に大当りの当選確率が 10 倍となっており、設定値「1」の場合が大当り確率「2050/65536」と最も低く、遊技者にとって最も不利な設定となっている。そして、設定値「2」、設定値「3」、設定値「4」、設定値「5」の順に大当り確率が高くなり、設定値「6」の場合が大当り確率「2550/65536」と最も高く、遊技者にとって最も有利な設定とな

【0624】

一方で、小当りに関しては、図 8-45（A）、（B）に示すように、設定値「1」～「6」のいずれであるかに関係なく、また、非確変状態（低確率状態）と確変状態（高確率状態）とのいずれであるかに関係なく、小当り確率が「62986/65536」と一定である。このように設定値に応じて大当り確率を異ならせる一方で小当り確率は一定となるように構成する場合であっても、図 8-45（A）、（B）に示すように、はずれ確率を設定値「1」～「6」で異ならせることによって、設定値ごとの判定値数が整合するように構成すればよい。なお、図 8-45（A）、（B）では、確変状態（高確率状態）と非確変状態（低確率状態）とで小当り確率を一致させはずれ確率を異ならせているが、確変状態（高確率状態）では非確変状態（低確率状態）に対して大当り確率が上昇した分、非確変状態（低確率状態）よりも小当り確率を低下させ、はずれ確率を一致させてもよい。さらに、設定値が例えば「1」及び「2」で異なる値であっても、大当り確率及び小当り確率のそれぞれを一致させてもよい。これにより、実質的な設定可能段階数が 6 段階未満の遊技機又は設定変更機能による有利度の差がない遊技機において、6 段階の設定変更機能を有する種別の遊技機とハードウェア・ソフトウェア構成の共通化を図ることができ、製造コストを低減できる。

【0625】

なお、本特徴部 138IW には、以下に示すような課題を解決するための構成が開示されている。すなわち、遊技機において、特定信号を出力可能に構成されたものがある。例えば、特開 2014-200506 号公報には、全ての大当り状態中に大当り信号（特定信号）を外部出力端子から出力することが記載されている。

【0626】

しかしながら、特開 2014-200506 号公報に記載された遊技機では、通常状態であるか特別状態であるかや、第 1 識別情報の可変表示により所定条件が成立する場合であるか第 2 識別情報の可変表示により所定条件が成立する場合であるかについては何ら考慮されていない。従って、通常状態において第 2 識別情報の可変表示により所定条件が成立する場合に適切に信号を出力できるようにする必要がある。

【0627】

そこで、本特徴部 138IW では、第 2 識別情報の可変表示により所定条件が成立する

場合に適切に信号を出力できるようにするという課題を解決すべく、以下の手段（１）～（５）の構成が開示されている。

【０６２８】

（手段１）本発明による遊技機は、第１識別情報（例えば、第１特別図柄）の可変表示および第２識別情報（例えば、第２特別図柄）の可変表示を行うことが可能であり、遊技者にとって有利な有利状態（例えば、大当り遊技状態）と該有利状態とは異なる特殊状態（例えば、小当り遊技状態）とに制御可能な遊技機であって、第１識別情報の可変表示と第２識別情報の可変表示とを並行して実行可能な可変表示実行手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ１００における第１特別図柄プロセス処理（ステップＳ２５Ａ）のステップＳ１１０Ａ～Ｓ１１３Ａを実行する部分、第２特別図柄プロセス処理（ステップＳ２５Ｂ）でステップＳ１１０Ａ～Ｓ１１３Ａと同様の処理を実行する部分）と、所定条件（例えば、大当り図柄を導出表示）が成立した後、特定領域（例えば、通過ゲート４１）を遊技媒体（例えば、遊技球）が通過したことにもとづいて、有利状態に制御可能な有利状態制御手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ１００における第１特別図柄プロセス処理（ステップＳ２５Ａ）のステップＳ１１５Ａ～Ｓ１１８Ａを実行する部分、第２特別図柄プロセス処理（ステップＳ２５Ｂ）でステップＳ１１５Ａ～Ｓ１１８Ａと同様の処理を実行する部分）と、特殊状態に制御可能な特殊状態制御手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ１００における第１特別図柄プロセス処理（ステップＳ２５Ａ）のステップＳ１１９Ａ～Ｓ１２１Ａを実行する部分、第２特別図柄プロセス処理（ステップＳ２５Ｂ）でステップＳ１１９Ａ～Ｓ１２１Ａと同様の処理を実行する部分）と、通常状態よりも特殊状態による遊技価値が付与されやすい特別状態（例えば、ＫＴ状態）に制御可能な特別状態制御手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ１００におけるステップ１３８ＩＷＳ２２０８Ａ，Ｓ２２１３Ａ，Ｓ２２１４Ａ，Ｓ２２１９Ａ，Ｓ２２２０Ａ，Ｓ２２２０Ｂ，Ｓ２２２１３Ｂ，Ｓ２２２１４Ｂ，Ｓ２２２１９Ｂ，Ｓ２２２２０Ｂを実行する部分）と、特定信号（例えば、大当り信号１）を出力可能な特定信号出力手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ１００におけるステップＳ２３およびステップ１３８ＩＷＳ２０２２Ａ，Ｓ２０２２Ｂ，Ｓ２５０３Ｂを実行する部分）とを備え、特定信号出力手段は、通常状態において第１識別情報の可変表示により所定条件が成立したことにもとづいて特定信号を出力可能であり（例えば、図８－２２（１）に示すように、通常状態では、第１特別図柄で大当り図柄を導出表示したことにもとづいて大当り信号１の外部出力を開始する）、通常状態において第２識別情報の可変表示により所定条件が成立したことにもとづいて特定信号を出力しない（例えば、図８－２２（１）に示すように、通常状態では、第２特別図柄で大当り図柄を導出表示しても大当り信号１の外部出力を開始しない）ことを特徴とする。そのような構成によれば、第２識別情報の可変表示により所定条件が成立する場合に適切に信号を出力することができる。

【０６２９】

（手段２）手段１において、特定信号は、有利状態への制御を特定可能な信号（例えば、大当り信号１）であり、特定信号出力手段は、通常状態において第２識別情報の可変表示により所定条件が成立した場合に、特定領域を遊技媒体が通過したことにもとづいて特定信号を出力可能である（例えば、図８－２２（１）に示すように、通常状態では、第２特別図柄で大当り図柄を導出表示した場合、通過ゲート４１の遊技球の通過にもとづいて大当り信号１の外部出力を開始する）ように構成されていてもよい。そのような構成によれば、遊技機の外部において有利状態に制御されていることを特定することができる。

【０６３０】

（手段３）手段１または手段２において、特別状態および有利状態に対応する特別信号（例えば、大当り信号２）を出力可能な特別信号出力手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ１００におけるステップＳ２３およびステップ１３８ＩＷＳ２０２２Ａ，Ｓ２５０３Ｂを実行する部分）を備え、特別信号出力手段は、特定信号とは異なる出力端子を用いて特別信号を出力可能であり（例えば、図８－２１に示すように、大当り信号１は端子番号「０５」の出力端子から外部出力し、大当り信号２は端子番号「０６」の出力端子

10

20

30

40

50

から外部出力する)、特定信号の出力開始のタイミングと共通のタイミングにおいて特別信号の出力を開始する(例えば、図8-22に示すように、通常状態において、大当たり信号1と同様に、第1特別図柄で大当たり図柄を導出表示したことにもとづいて大当たり信号2の外部出力を開始し、第2特別図柄で大当たり図柄を導出表示した場合には、通過ゲート41の遊技球の通過にもとづいて大当たり信号2の外部出力を開始する)ように構成されていてもよい。そのような構成によれば、適切に特別信号を出力することができる。

【0631】

(手段4) 手段1から手段3のうちのいずれかにおいて、有利状態において遊技媒体が進入可能な第1領域(例えば、大入賞口)と、特殊状態において遊技媒体が進入可能な第2領域(例えば、特殊入賞口)と、第2領域に遊技媒体が進入したことに対応する特殊信号(例えば、特殊入賞口入賞信号)を出力可能な特殊信号出力手段(例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100におけるステップS23を実行する部分)とを備え、特殊信号出力手段は、特定信号とは異なる出力端子を用いて特殊信号を出力可能である(例えば、図8-21に示すように、大当たり信号1は端子番号「05」の出力端子から外部出力し、特殊入賞口入賞信号は端子番号「07」の出力端子から外部出力する)ように構成されていてもよい。そのような構成によれば、第2領域への遊技媒体の進入状況を外部で監視することができる。

10

【0632】

(手段5) 手段1から手段4のうちのいずれかにおいて、特定信号出力手段は、第1識別情報の可変表示により所定条件が成立した場合、および特別状態において第2識別情報の可変表示により所定条件が成立した場合に、特定領域を遊技媒体が通過したか否かにかかわらず、特定信号を出力可能である(例えば、図8-22(1)、(2)に示すように、第1特別図柄で大当たり図柄が導出表示された場合には、その大当たり図柄が導出表示されたタイミングで大当たり信号1の外部出力を開始し、図8-22(2)に示すように、KT状態において第2特別図柄で大当たり図柄が導出表示された場合には、その大当たり図柄が導出表示されたタイミングで大当たり信号1の外部出力を開始する)ように構成されていてもよい。そのような構成によれば、遊技中の状態に対応した信号出力を行うことができる。

20

【0633】

また、本特徴部138IWには、以下に示すような課題を解決するための構成も開示されている。すなわち、遊技機において、有利状態に制御されることを報知した後にさらに報知を行うように構成されたものがある。例えば、特開2017-104227号公報には、演出図柄が偶数図柄揃いまたは「7」以外の数字図柄揃いで一旦仮停止表示状態となった後、再抽選演出を実行することが記載されている。

30

【0634】

しかしながら、特開2017-104227号公報では、特殊状態に制御されやすく遊技価値が付与されやすい特別状態に制御可能な遊技機に適用した場合に、有利状態に制御されることの報知に関して遊技に対する興趣を十分に向上させることはできない。

【0635】

そこで、本特徴部138IWでは、特別状態に制御可能な遊技機において、遊技に対する興趣を向上させることができるようにするという課題を解決すべく、以下の手段(1)~(6)の構成が開示されている。

40

【0636】

(手段1) 本発明による遊技機は、遊技を行うことが可能であり、遊技者にとって有利な有利状態(例えば、大当たり遊技状態)と該有利状態とは異なる特殊状態(例えば、小当たり遊技状態)とに制御可能な遊技機であって、有利状態に制御可能な有利状態制御手段(例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100における第1特別図柄プロセス処理(ステップS25A)のステップS115A~S118Aを実行する部分、第2特別図柄プロセス処理(ステップS25B)でステップS115A~S118Aと同様の処理を実行する部分)と、特殊状態に制御可能な特殊状態制御手段(例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100における第1特別図柄プロセス処理(ステップS25A)のステップS11

50

9 A～S 1 2 1 Aを実行する部分、第2特別図柄プロセス処理（ステップS 2 5 B）でステップS 1 1 9 A～S 1 2 1 Aと同様の処理を実行する部分）と、非特別状態よりも特殊状態による遊技価値が付与されやすい特別状態（例えば、第2 K T状態）に制御可能な特別状態制御手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ1 0 0におけるステップ1 3 8 I W S 2 2 0 8 A, S 2 2 0 8 Bを実行する部分）とを備え、有利状態制御手段は、有利状態として、少なくとも、有利状態の終了後に非特別状態に制御される第1有利状態（例えば、6 R通常大当りや2 R通常大当りにもとづく大当り遊技状態）と、有利状態の終了後に特別状態に制御される第2有利状態（例えば、1 6 R確変大当りにもとづく大当り遊技状態）と、有利状態の終了後に特別状態に制御され第2有利状態よりも有利度合いが低い第3有利状態（例えば、2 R確変大当りにもとづく大当り遊技状態）とに制御可能であり、有利状態に制御されることを報知した後に、第3有利状態に制御されることを報知可能な報知手段（例えば、演出制御用C P U 1 2 0におけるステップ1 3 8 I W S 9 2 9で選択したプロセステーブルに従ってステップ1 3 8 I W S 9 3 5およびステップS 1 7 2を実行したり、ステップ1 3 8 I W S 9 7 1 2を実行したりする部分）を備えたことを特徴とする。そのような構成によれば、有利状態の終了後に遊技者にとってより有利な状況となることが報知されるので、特別状態に制御可能な遊技機において、遊技に対する興趣を向上させることができる。

10

【0 6 3 7】

（手段2）手段1において、報知手段は、第1有利状態に制御されることを報知した後に再報知演出（例えば、図8－3 9（C）に示す再抽選演出）を実行し、再報知演出の実行開始後に第3有利状態に制御されることを報知する特別演出（例えば、図8－3 9（D）および図8－4 0（E）に示すK T突入演出）を実行可能であるように構成されていてもよい。そのような構成によれば、演出に意外性をもたせて遊技に対する興趣を向上させることができる。

20

【0 6 3 8】

（手段3）手段2において、再報知演出の実行開始後に特別演出を実行した場合に、特別状態において再報知演出に対応する特定画像（例えば、図8－4 0（F）に示す再抽選ストック画像1 3 8 I W 0 0 5）を表示可能な特定画像表示手段（例えば、演出制御用C P U 1 2 0におけるステップ1 3 8 I W S 9 7 0 9を実行する部分）と、特定画像を表示した後に再報知演出（例えば、図8－4 0（H）に示す再抽選演出（再抽選放出演出））を実行可能な再報知演出再実行手段（例えば、演出制御用C P U 1 2 0におけるステップ1 3 8 I W S 9 2 5で選択したプロセステーブルに従ってステップ1 3 8 I W S 9 3 5およびステップS 1 7 2を実行する部分）とを備えるように構成されていてもよい。そのような構成によれば、再報知演出に関する興趣を向上させることができる。

30

【0 6 3 9】

（手段4）手段1から手段3のうちのいずれかにおいて、報知手段は、第2有利状態に制御されることを報知した後に、第3有利状態に制御されることを報知しない（例えば、図8－3 9（B）に示すように、通常大当り図柄を仮停止表示した後に、図8－3 9（C）～図8－4 0（E）に示すように、再抽選演出およびK T突入演出を実行する。すなわち、1 6 R確変大当り図柄を仮停止表示した後に再抽選演出やK T突入演出が実行される場合はない。）ように構成されていてもよい。そのような構成によれば、遊技に対する興趣の低下を抑えることができる。

40

【0 6 4 0】

（手段5）手段1から手段4のうちのいずれかにおいて、有利状態制御手段は、所定条件が成立（例えば、大当り図柄の導出表示）した後、特定領域（例えば、通過ゲート4 1）を遊技媒体（例えば、遊技球）が通過したことにもとづいて有利状態に制御可能であり、報知手段は、第1有利状態に制御されることを報知した後に、特定領域を遊技媒体が通過したことにもとづいて第3有利状態に制御されることを報知可能である（例えば、図8－4 2（B）に示すように、通常大当り図柄を導出表示した後に、図8－4 2（C）に示すように、通過ゲート4 1を遊技球が通過したことにもとづいて2 R確変大当り図柄を差し

50

替え表示する)ように構成されていてもよい。そのような構成によれば、演出に意外性をもたせて遊技に対する興趣を向上させることができる。

【0641】

(手段6) 手段1から手段5のうちのいずれかにおいて、有利状態に制御されやすい特定状態(例えば、確変状態(高確率状態))に制御可能な特定状態制御手段(例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100におけるステップ138 IWS 2207A, S2212A, S2207B, S2212Bを実行する部分)を備え、特定状態制御手段は、第2有利状態および第3有利状態の終了後に特定状態に制御可能であり(例えば、図8-20に示すように、16R確変大当りや2R確変大当りとなった場合には、確変状態(高確率状態)に制御される)、第1有利状態の終了後に特定状態に制御しない(例えば、図8-20に示すように、6R通常大当りや2R通常大当りとなった場合には、低確率状態に制御される)ように構成されていてもよい。そのような構成によれば、第3有利状態の終了後が第1有利状態の終了後よりもより一層有利度合いが高い点で、第1有利状態よりも第3有利状態に制御されることに遊技者の注目度合いを高めることができ、遊技に対する興趣を向上させることができる。

10

【0642】

また、本特徴部138IWには、以下に示すような課題を解決するための構成も開示されている。すなわち、遊技機において、有利状態に制御されることを報知した後にさらに報知を行うように構成されたものがある。例えば、特開2017-104227号公報には、演出図柄が偶数図柄揃いまたは「7」以外の数字図柄揃いで一旦仮停止表示状態となった後、再抽選演出(再報知演出)を実行することが記載されている。

20

【0643】

しかしながら、特開2017-104227号公報では、再報知演出に関して遊技に対する興趣を十分に向上させることはできない。

【0644】

そこで、本特徴部138IWでは、再報知演出に関して遊技に対する興趣を向上させることができるようにするという課題を解決すべく、以下の手段(1)~(6)の構成が開示されている。

【0645】

(手段1) 本発明による遊技機は、遊技を行うことが可能であり、遊技者にとって有利な有利状態(例えば、大当り遊技状態)に制御可能な遊技機であって、有利状態に制御可能な有利状態制御手段(例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100における第1特別図柄プロセス処理(ステップS25A)のステップS115A~S118Aを実行する部分、第2特別図柄プロセス処理(ステップS25B)でステップS115A~S118Aと同様の処理を実行する部分)を備え、有利状態制御手段は、有利度合いが異なる複数種類の有利状態(例えば、6R通常大当りや、2R通常大当り、16R確変大当り、2R確変大当りにもとづく大当り遊技状態)に制御可能であり、有利状態に制御されることを報知した後に、所定の演出態様により有利状態の種類を報知する再報知演出(例えば、図8-39(C)に示す再抽選演出)を実行可能な再報知演出実行手段(例えば、演出制御用CPU120におけるステップ138 IWS 929で選択したプロセステーブルに従ってステップ138 IWS 935およびステップS172を実行する部分)と、再報知演出の実行開始後の演出結果が表示される前に、再報知演出とは演出態様が異なり特定の有利状態に制御されることを報知する特別演出(例えば、図8-39(D)および図8-40(E)に示すKT突入演出)を実行可能な特別演出実行手段(例えば、演出制御用CPU120におけるステップ138 IWS 929で選択したプロセステーブルに従ってステップ138 IWS 935およびステップS172を実行する部分)と、特別演出の実行後に、再報知演出の実行を示唆する特別画像(例えば、図8-40(F)に示す再抽選ストック画像138 IW005)を表示可能な特別画像表示手段(例えば、演出制御用CPU120におけるステップ138 IWS 9709を実行する部分)とを備えたことを特徴とする。そのような構成によれば、再報知演出に関して遊技に対する興趣を向上させることがで

30

40

50

きる。

【0646】

(手段2) 手段1において、有利状態とは異なる遊技者にとって有利な特殊状態(例えば、小当り遊技状態)に制御可能な特殊状態制御手段(例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100における第1特別図柄プロセス処理(ステップS25A)のステップS119A~S121Aを実行する部分、第2特別図柄プロセス処理(ステップS25B)でステップS119A~S121Aと同様の処理を実行する部分)と、非特別状態よりも特殊状態による遊技価値が付与されやすい特別状態(例えば、第2KT状態)に制御可能な特別状態制御手段(例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100におけるステップ138IWS2208A, S2208Bを実行する部分)とを備え、有利状態制御手段は、有利状態として、少なくとも、有利状態の終了後に非特別状態に制御される第1有利状態(例えば、6R通常大当りや2R通常大当りにもとづく大当り遊技状態)と、有利状態の終了後に特別状態に制御される第2有利状態(例えば、16R確変大当りにもとづく大当り遊技状態)と、有利状態の終了後に特別状態に制御され第2有利状態よりも有利度合いが低い第3有利状態(例えば、2R確変大当りにもとづく大当り遊技状態)とに制御可能であり、再報知演出実行手段は、第1有利状態に制御されることを報知した後に再報知演出を実行可能であり、特別演出実行手段は、再報知演出の実行開始後に第3有利状態に制御されることを報知する特別演出(例えば、図8-39(D)および図8-40(E)に示すKT突入演出)を実行可能であるように構成されていてもよい。そのような構成によれば、演出に意外性をもたせて遊技に対する興味を向上させることができる。

10

20

【0647】

(手段3) 手段2において、特定画像を表示した後に再報知演出(例えば、図8-40(H)に示す再抽選演出(再抽選放出演出))を実行可能な再報知演出再実行手段(例えば、演出制御用CPU120におけるステップ138IWS925で選択したプロセステーブルに従ってステップ138IWS935およびステップS172を実行する部分)を備えるように構成されていてもよい。そのような構成によれば、再報知演出に関する興味を向上させることができる。

【0648】

(手段4) 手段2から手段3のうちのいずれかにおいて、第2有利状態に制御されることを報知した後に、第3有利状態に制御されることを報知しない(例えば、図8-39(B)に示すように、通常大当り図柄を仮停止表示した後に、図8-39(C)~図8-40(E)に示すように、再抽選演出およびKT突入演出を実行する。すなわち、16R確変大当り図柄を仮停止表示した後に再抽選演出やKT突入演出が実行される場合はない。)ように構成されていてもよい。そのような構成によれば、遊技に対する興味の低下を抑えることができる。

30

【0649】

(手段5) 手段2から手段4のうちのいずれかにおいて、有利状態制御手段は、所定条件が成立(例えば、大当り図柄の導出表示)した後、特定領域(例えば、通過ゲート41)を遊技媒体(例えば、遊技球)が通過したことにもとづいて有利状態に制御可能であり、第1有利状態に制御されることを報知した後に、特定領域を遊技媒体が通過したことにもとづいて第3有利状態に制御されることを報知可能(例えば、図8-42(B)に示すように、通常大当り図柄を導出表示した後に、図8-42(C)に示すように、通過ゲート41を遊技球が通過したことにもとづいて2R確変大当り図柄を差し替え表示する)な報知手段(例えば、演出制御用CPU120におけるステップ138IWS9712を実行する部分)を備えるように構成されていてもよい。そのような構成によれば、演出に意外性をもたせて遊技に対する興味を向上させることができる。

40

【0650】

(手段6) 手段1から手段5のうちのいずれかにおいて、有利状態に制御されやすい特定状態(例えば、確変状態(高確率状態))に制御可能な特定状態制御手段(例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100におけるステップ138IWS2207A, S221

50

2 A, S 2 2 0 7 B, S 2 2 1 2 Bを実行する部分)を備え、特定状態制御手段は、第2有利状態および第3有利状態の終了後に特定状態に制御可能であり(例えば、図8-20に示すように、16R確変大当りや2R確変大当りとなった場合には、確変状態(高確率状態)に制御される)、第1有利状態の終了後に特定状態に制御しない(例えば、図8-20に示すように、6R通常大当りや2R通常大当りとなった場合には、低確率状態に制御される)ように構成されていてもよい。そのような構成によれば、第3有利状態の終了後が第1有利状態の終了後よりもより一層有利度合いが高い点で、第1有利状態よりも第3有利状態に制御されることに遊技者の注目度合いを高めることができ、遊技に対する興趣を向上させることができる。

【0651】

10

また、本特徴部138IWには、以下に示すような課題を解決するための構成も開示されている。すなわち、遊技機において、有利状態とは異なる遊技者にとって有利な特殊状態に制御可能であり、非特別状態に比べて特殊状態に制御される頻度を高めた特別状態に制御可能に構成されたものがある。例えば、特開2015-156952号公報には、小当り遊技状態(特殊状態)でも、大当り遊技状態よりも少ないものの、遊技者が出玉を得ることができるような開放態様であることが記載されている。また、通常状態よりも小当りが発生しやすい状態(特別状態)に制御することが記載されている。

【0652】

しかしながら、特開2015-156952号公報に記載された遊技機では、特別状態に関する遊技性が単調であり、遊技に対する興趣を十分に向上させることはできない。

20

【0653】

そこで、本特徴部138IWでは、特別状態に制御可能な遊技機において、遊技に対する興趣を向上させることができるようにするという課題を解決すべく、以下の手段(1)~(7)の構成が開示されている。

【0654】

(手段1)本発明による遊技機は、可変表示を行うことが可能であり、遊技者にとって有利な有利状態(例えば、大当り遊技状態)と該有利状態とは異なる特殊状態(例えば、小当り遊技状態)とに制御可能な遊技機であって、有利状態に制御可能な有利状態制御手段(例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100における第1特別図柄プロセス処理(ステップS25A)のステップS115A~S118Aを実行する部分、第2特別図柄プロセス処理(ステップS25B)でステップS115A~S118Aと同様の処理を実行する部分)と、特殊状態に制御可能な特殊状態制御手段(例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100における第1特別図柄プロセス処理(ステップS25A)のステップS119A~S121Aを実行する部分、第2特別図柄プロセス処理(ステップS25B)でステップS119A~S121Aと同様の処理を実行する部分)と、非特別状態よりも特殊状態による遊技価値が付与されやすい特別状態(例えば、第2KT状態)に制御可能な特別状態制御手段(例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100におけるステップ138IWS2208A, S2208Bを実行する部分)と、有利状態に制御するか否かを決定する決定手段(例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100におけるステップ138IWS58A, S58Bを実行する部分)と、決定手段の決定前に、有利状態に制

御されるか否かを判定する判定手段(例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100における第1特別図柄プロセス処理(ステップS25A)のステップS101Aを実行する部分、第2特別図柄プロセス処理(ステップS25B)でステップS101Aと同様の処理を実行する部分)とを備え、特別状態制御手段は、有利状態への制御に対応して特別状態の制御を終了し(例えば、図8-20に示すように、高確率/第2KT状態中に9R確変大当りや2R通常大当りになると、第2KT状態を終了し、高確率/第1KT状態や低確率/第1KT状態に移行する)、特別状態において、判定手段の判定結果(例えば、先読み判定結果)にもとづいて、後の可変表示において特別状態が継続することを示唆する示唆演出(例えば、小当りRUSH継続示唆演出)を実行可能な示唆演出実行手段(例えば、演出制御用CPU120におけるステップ138IWS9733, S9909を実行

30

40

50

する部分)を備えたことを特徴とする。そのような構成によれば、遊技価値が付与されやすい特別状態が継続することが示唆されるので、特別状態に制御可能な遊技機において、遊技に対する興趣を向上させることができる。

【0655】

(手段2) 手段1において、示唆演出実行手段は、特殊状態に制御されることを報知する報知演出(例えば、小当り報知)を複数種類の態様(例えば、金色の表示色と赤色の表示色)により実行可能であり、複数種類の態様のうちの特別態様(例えば、金色の表示色)により報知演出を実行することによって示唆演出を実行する(例えば、図8-44(E)に示すように、金色の表示色で小当り報知138IWO12を表示する)ように構成されていてもよい。そのような構成によれば、報知演出の態様に注目させることができる。

10

【0656】

(手段3) 手段2において、示唆演出実行手段は、特別態様により報知演出を実行した後、可変表示の演出態様を特殊態様に変化させる態様の示唆演出を実行可能である(例えば、図8-44(G),(H)に示すように、画像表示装置5の背景画像を小当りRUSH継続示唆演出に応じた背景画像に変更する)ように構成されていてもよい。そのような構成によれば、示唆演出の演出効果を高めて遊技に対する興趣を向上させることができる。

【0657】

(手段4) 手段1から手段3のうちのいずれかにおいて、示唆演出実行手段は、複数の可変表示にわたって特別状態が継続することを示唆する態様により示唆演出を実行可能である(例えば、小当りRUSH継続示唆演出を終了するまで、複数の変動表示にわたって小当りRUSH継続示唆演出に応じた背景画像を表示する)ように構成されていてもよい。そのような構成によれば、複数の可変表示にわたって遊技者に安堵感を与えることができ、遊技に対する興趣を向上させることができる。

20

【0658】

(手段5) 手段1から手段4のうちのいずれかにおいて、第1識別情報(例えば、第1特別図柄)の可変表示および第2識別情報(例えば、第2特別図柄)の可変表示を行うことが可能な遊技機であって、第1識別情報の可変表示と第2識別情報の可変表示とを並行して実行可能な可変表示実行手段(例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100における第1特別図柄プロセス処理(ステップS25A)のステップS110A~S113Aを実行する部分、第2特別図柄プロセス処理(ステップS25B)でステップS110A~S113Aと同様の処理を実行する部分)を備え、特別状態制御手段は、特別状態として、第2識別情報の可変表示の実行頻度が高く且つ第2識別情報の可変表示により特殊状態に制御される頻度が高い状態に制御可能であり(例えば、第2KT状態では、小当りが発生しやすい状態に制御されるとともに低ベース状態に制御されて可変入賞球装置6Bの開放時間が短くなるように制御される)、示唆演出実行手段は、第1識別情報の可変表示が実行されていないことを条件に示唆演出を実行可能である(例えば、演出制御用CPU120は、ステップ138IWS9725でNと判定したときにステップ138IWS9728~S9733を実行することにより、第1特別図柄の変動表示中でない場合に、金色の表示色で小当り報知を表示可能である)ように構成されていてもよい。そのような構成によれば、第1識別情報の可変表示に伴う不安定な状態での示唆演出の実行を制限することができる。

30

40

【0659】

(手段6) 手段1から手段5のうちのいずれかにおいて、可変表示に関する情報を保留記憶として記憶する保留記憶手段(例えば、第1保留記憶バッファ、第2保留記憶バッファ)を備え、示唆演出実行手段は、有利状態に制御される保留記憶が記憶されたこと、保留記憶手段が記憶する保留記憶数が減少したこと、示唆演出を終了するか否かの判定処理によって示唆演出を終了すると判定されたこと、または第1識別情報の可変表示に関する保留記憶が記憶されたことのうちの少なくともいずれか1つにもとづいて、示唆演出を終了する(例えば、演出制御用CPU120は、ステップ138IWS9735でYと判定し

50

たとき、ステップ138 IWS9736でNと判定したとき、ステップ138 IWS9738でYと判定したとき、およびステップ138 IWS9736でNと判定したとき、ステップ138 IWS9740でYと判定したときに、ステップ138 IWS9741、S9742を実行して小当りRUSH継続示唆演出を終了する)ように構成されていてもよい。そのような構成によれば、示唆演出の終了の契機を適切に確保することができる。

【0660】

(手段7) 手段1から手段6のうちのいずれかにおいて、特殊状態に制御された回数である所定回数(例えば、小当り連続数カウンタを用いて計数する第2KT状態中の小当り連続数)を集計するとともに、特殊状態において付与された遊技価値(例えば、小当り連続中賞球数カウンタを用いて計数する第2KT状態中の賞球数)を集計する集計手段(例えば、演出制御用CPU120におけるステップ138 IWS615、S620およびステップ138 IWS9744を実行する部分)と、所定回数に応じた特別演出(例えば、図8-43(B)に示す小当り連続数表示2(「20COMBO」などの文字表示138 IWO10))を実行可能な特別演出実行手段(例えば、演出制御用CPU120におけるステップ138 IWS9747を実行する部分)と、遊技価値に対応する特殊演出(例えば、図8-43(C)に示す小当り連続中賞球数表示2(「3000OVER」などの文字表示138 IWO11))を実行可能な特殊演出実行手段(例えば、演出制御用CPU120におけるステップ138 IWS618、S623を実行する部分)とを備えるように構成されていてもよい。そのような構成によれば、遊技者に特別感を与えることにより遊技に対する興趣を向上させることができる。

【0661】

本発明は、以上に説明したものに限られるものではない。また、その具体的な構成は上述の実施形態や後述の他の形態例に加えて、本発明の要旨を逸脱しない範囲における変更や追加があっても本発明に含まれる。

【0662】

また、上述した実施の形態及び各変形例に示した構成、後述の形態例及び各変形例に示した構成のうち、全部または一部の構成を任意に組み合わせることとしてもよい。

【0663】

なお、今回開示された上述の実施形態及び後述の形態はすべての点で例示であって制限的なものではないと考えられるべきである。本発明の範囲は上述の説明及び後述の説明ではなく特許請求の範囲によって示され、特許請求の範囲と均等の意味および範囲内での全ての変更が含まれることが意図される。

【0664】

本発明による遊技機は、他にも、第1識別情報(例えば、第1特別図柄)の可変表示および第2識別情報(例えば、第2特別図柄)の可変表示を行うことが可能であり、遊技者にとって有利な有利状態(例えば、大当り遊技状態)と該有利状態とは異なる特殊状態(例えば、小当り遊技状態)とに制御可能な遊技機であって、第1識別情報の可変表示と第2識別情報の可変表示とを並行して実行可能な可変表示実行手段(例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100における第1特別図柄プロセス処理(ステップS25A)のステップS110A~S113Aを実行する部分、第2特別図柄プロセス処理(ステップS25B)でステップS110A~S113Aと同様の処理を実行する部分)と、所定条件(例えば、大当り図柄を導出表示)が成立した後、特定領域(例えば、通過ゲート41)を遊技媒体(例えば、遊技球)が通過したことにもとづいて、有利状態に制御可能な有利状態制御手段(例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100における第1特別図柄プロセス処理(ステップS25A)のステップS115A~S118Aを実行する部分、第2特別図柄プロセス処理(ステップS25B)でステップS115A~S118Aと同様の処理を実行する部分)と、特殊状態に制御可能な特殊状態制御手段(例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100における第1特別図柄プロセス処理(ステップS25A)のステップS119A~S121Aを実行する部分、第2特別図柄プロセス処理(ステップS25B)でステップS119A~S121Aと同様の処理を実行する部分)と、通常

状態よりも特殊状態による遊技価値が付与されやすい特別状態（例えば、K T 状態）に制御可能な特別状態制御手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100におけるステップ138 I W S 2 2 0 8 A, S 2 2 1 3 A, S 2 2 1 4 A, S 2 2 1 9 A, S 2 2 2 0 A, S 2 2 0 8 B, S 2 2 1 3 B, S 2 2 1 4 B, S 2 2 1 9 B, S 2 2 2 0 Bを実行する部分）と、特定信号（例えば、大当り信号1）を出力可能な特定信号出力手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100におけるステップS 2 3およびステップ138 I W S 2 0 2 2 A, S 2 0 2 2 B, S 2 5 0 3 Bを実行する部分）とを備え、特定信号出力手段は、通常状態において第1識別情報の可変表示により所定条件が成立したことにもとづいて特定信号を出力可能であり（例えば、図8-22（1）に示すように、通常状態では、第1特別図柄で大当り図柄を導出表示したことにもとづいて大当り信号1の外部出力を開始する）、通常状態において第2識別情報の可変表示により所定条件が成立したことにもとづいて特定信号を出力しない（例えば、図8-22（1）に示すように、通常状態では、第2特別図柄で大当り図柄を導出表示しても大当り信号1の外部出力を開始しない）ことを特徴とする。そのような構成によれば、第2識別情報の可変表示により所定条件が成立する場合に適切に信号を出力することができる。さらに、前記有利状態に制御されることを示唆する示唆演出（例えばリーチ演出）を実行可能な示唆演出実行手段（例えば演出制御用CPU120）と、前記示唆演出に対応したタイトルを報知可能なタイトル報知手段（例えば演出制御用CPU120）と、を備え、前記タイトル報知手段は、前記示唆演出の開始から所定期間経過したときに当該示唆演出に対応したタイトルを報知可能である（例えば図9-2（D）、（F））遊技機が挙げられる。このような構成によれば、演出効果を高めることができる。

10

20

【0665】

また、示唆演出は特殊状態に制御されるか否かを示唆してもよい。そうすることで遊離状態に制御されるか特殊状態に制御させるかを期待でき興趣が向上する。

【0666】

さらに、興趣を向上させることができる遊技機の形態の一例として、本発明の遊技機としては、他にも、遊技者にとって有利な有利状態（例えば大当り遊技状態）に制御可能な遊技機（例えばパチンコ遊技機1）であって、

前記有利状態に制御されることを示唆する示唆演出（例えばリーチ演出）を実行可能な示唆演出実行手段（例えば演出制御用CPU120）と、

30

前記示唆演出に対応したタイトルを報知可能なタイトル報知手段（例えば演出制御用CPU120）と、を備え、

前記タイトル報知手段は、前記示唆演出の開始から所定期間経過したときに当該示唆演出に対応したタイトルを報知可能である（例えば図8-2（D）、（F））遊技機が挙げられる。以下に、この遊技機の形態例の一例を他の形態例として説明する。

【0667】

（特徴部31AKに関する説明）

次に、この実施の形態の特徴部31AKについて説明する。図9-1は、この実施の形態のパチンコ遊技機1における変動パターンやリーチの種類を説明するための図である。図9-1（A）に示すように、この実施の形態では、飾り図柄の可変表示の態様がリーチ態様とならずに表示結果が「ハズレ」となる非リーチハズレの変動パターンPA1-1、PA1-2、飾り図柄の可変表示の態様がリーチ態様となって表示結果が「ハズレ」となるリーチハズレの変動パターンPA2-1～PA2-6、PA3-1～PA3-4等、表示結果が「大当り」となる変動パターンPB2-1～PB2-6、PB3-1～PB3-4等が用意されている。

40

【0668】

また、図9-1（B）に示すように、この実施の形態では、ノーマルリーチ、スーパーリーチA～Eといったリーチ演出が実行されるようになっている。この実施の形態では、リーチ演出は、大当り状態に制御されることを示唆する示唆演出とも称される。各リーチが実行されたときの信頼度（大当り信頼度）は、図9-1（B）の黒色の星の数で表すよ

50

うに、ノーマルリーチ<スーパーリーチE<スーパーリーチD<スーパーリーチC<スーパーリーチB<スーパーリーチAの順番に高くなっている。なお、大当たりとなることが確定するリーチを設けてもよい。

【0669】

この実施の形態では、スーパーリーチはノーマルリーチを経由して実行されるようになっている。また、スーパーリーチのリーチ演出中に、より信頼度の高いリーチに発展（昇格）する発展演出が実行される場合がある。図9-1（A）に示す変動パターンPA3-1～PA3-4等、変動パターンPB3-1～PB3-4等が、発展演出が実行されることに対応した変動パターンとなっている。なお、図9-1（A）では、信頼度が一段階上のスーパーリーチに発展する変動パターンが示されているが、信頼度が二段階以上発展する変動パターンも設けられる。また、発展演出が複数回実行される変動パターンを設けてもよい。

10

【0670】

この実施の形態では、信頼度が最も低いノーマルリーチ以外では、リーチ成立後の所定タイミングにおいて、そのリーチのタイトルが報知されるようになっている。図9-1（B）に示すように、リーチの種類によってタイトルの報知態様が異なっている。具体的には、スーパーリーチの中で最も信頼度の低いスーパーリーチEは、表示のみでリーチのタイトルが報知され、それ以外のスーパーリーチは、表示及び音声によりタイトルが報知される。このように、信頼度の高いリーチの方が信頼度の低いリーチより多くの演出装置によりタイトルの報知が実行されるようになっている。これにより、遊技者の期待感を効果的に煽ることができ演出効果が向上する。なお、タイトルの報知態様は、信頼度によってまたは信頼度によらず任意に変更してもよい。また、同じリーチ演出においても、実際の表示結果等に応じて報知態様を異ならせてもよい。また、リーチの種類によってタイトル文字のフォント（ゴシック体、明朝体等）や書体（行書、楷書等）を異ならせてもよい。

20

【0671】

リーチのタイトルの報知（タイトル報知）とは、リーチの名称といったタイトルそのものを示すものに限定されず、リーチ演出で登場するキャラクターの名称、リーチ演出の演出内容等を示すものであってもよい。

【0672】

（特徴部31AKの演出動作例）

30

続いて、この実施の形態における演出動作例について説明する。以下の演出動作は、主基板11から送信される演出制御コマンドに基づいて、演出制御用CPU120が演出制御プロセス処理を実行することで実行される。図9-2、図9-3は、この実施の形態におけるスーパーリーチの演出動作例を示す図である。図9-2（A）は、画像表示装置5の「左」、「中」、「右」の各飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rにおいて飾り図柄の可変表示が実行されていることを示している。その後、例えば、図9-2（B）に示すように、「左」及び「右」に7の数字を示す飾り図柄が停止してリーチ態様となる。その後はリーチの種類に応じて演出が分岐する。

【0673】

（スーパーリーチA）

40

スーパーリーチAとなる場合には、図9-2（C）に示すように、画像表示装置5に味方キャラであるキャラクター31AK001が表示されてリーチ演出が開始される。ここでは、例えばキャラクター31AK001を使用したアニメーション等が表示される。スーパーリーチのリーチ演出（スーパーリーチ演出ともいう）の導入部分が終了する等、スーパーリーチ演出が開始されてから所定期間経過すると、図9-2（D）に示すように、画像表示装置5の画面全体にスーパーリーチAのタイトル31AK002（ここでは「SPリーチA」の文字）が表示されるとともに、スピーカ8からリーチのタイトル名に対応する音声（ここでは「スーパーリーチA」）が出力されることで、スーパーリーチAのタイトルが報知される。その後、スーパーリーチAのタイトル31AK002が消去され、図9-2（E）に示すように、敵キャラであるキャラクター31AK003が表示され、キャラ

50

クタ31AK001のセリフ31AK004が表示されたり、キャラクタ31AK001とキャラクタ31AK003とが対決するスーパーリーチAのリーチ演出の後続部分が実行される。キャラクタ同士が対決する演出をバトル演出ともいい、バトル演出において味方キャラが勝利すると大当たりとなり、味方キャラが敗北するとハズレとなる。

【0674】

なお、スーパーリーチ演出中に画像表示装置5にセリフを表示するときに、スピーカ8からセリフに対応する音声出力されるようにしてもよい。また、セリフは図9-2(E)に示すように吹き出しに表示することに限定されず、画像表示装置5の下部等に字幕で表示するようにしてもよい。

【0675】

10

(スーパーリーチB)

スーパーリーチBとなる場合には、図9-2(C)に示すように、画像表示装置5にキャラクタ31AK001が表示されてリーチ演出が開始される。ここでは、例えばキャラクタ31AK001を使用したアニメーション等が表示される。スーパーリーチ演出の導入部分が終了する等、スーパーリーチ演出が開始されてから所定期間経過すると、図9-2(F)に示すように、画像表示装置5の画面全体にスーパーリーチBのタイトル31AK005(ここでは「SPリーチB」の文字)が表示されるとともに、スピーカ8からリーチのタイトル名に対応する音声(ここでは「スーパーリーチB」)が出力されることで、スーパーリーチBのタイトルが報知される。その後、スーパーリーチBのタイトル31AK005が消去され、図9-2(G)に示すように、敵キャラであるキャラクタ31AK006が表示され、キャラクタ31AK001のセリフ31AK004が表示されたり、キャラクタ31AK001とキャラクタ31AK006とが対決するスーパーリーチBのリーチ演出の後続部分が実行される。

20

【0676】

このように、スーパーリーチAとスーパーリーチBとでは、スーパーリーチ演出が開始されてから所定期間経過したときにリーチのタイトルが報知されるようになっている。このようにすることで、スーパーリーチ演出の導入部分等を遊技者に見せた後にタイトルを報知できるので、タイトル報知の演出効果を高めることができる。

【0677】

また、スーパーリーチA(図9-2(C)→(D)→(E)・・・)とスーパーリーチB(図9-2(C)→(F)→(G)・・・)とでは、タイトルが報知されるまでの導入部分においては、共通の演出態様でスーパーリーチ演出が実行されるようになっている(図9-2(C))。このようにすることで、スーパーリーチ演出が開始されてからいずれのスーパーリーチとなるか、いずれのタイトルが報知されるかに遊技者を注目させることができる。スーパーリーチAとスーパーリーチBとにおいて、タイトルが報知されるまでの演出態様を完全に共通にすることに限定されず、演出を注視すればいずれのスーパーリーチとなるかを判別できる等、少なくとも一部を共通の演出態様にするようにしてもよい。例えば、スーパーリーチAとスーパーリーチBとの導入部分において、その後に報知されるタイトルに関連する態様でスーパーリーチ演出(例えば敵キャラを表示したり敵キャラを示唆するような演出)を実行するようにしてもよい。このようにすることで、演出効果が向上し、遊技者が演出に注目するようになる。このように、いずれのスーパーリーチとなるかを特定可能にしてからタイトル報知を実行するようにしてもよい。

30

40

【0678】

(スーパーリーチD)

スーパーリーチDとなる場合には、図9-2(H)に示すように、画像表示装置5の中央の一部にスーパーリーチDのタイトル31AK007(ここでは「SPリーチD」の文字)が表示されるとともに、スピーカ8からリーチのタイトル名に対応する音声(ここでは「敵を倒せ」)が出力されることで、スーパーリーチDのタイトルが報知される。このように、スーパーリーチDでは、スーパーリーチ演出の開始時にタイトルが報知されるようになっている。また、タイトル31AK007の下には、当該リーチの期待度を示唆す

50

る期待度示唆表示 3 1 A K 0 0 8 が表示される。期待度は、図 9-2 (H) に示すように、黒い星の数で表される。ここで、期待度とは大当たりとなる期待度であるが、リーチの大当たり信頼度と完全に一致していなくてもよい。

【0679】

なお、スーパーリーチ D の音声による報知は、タイトル名をそのまま報知するのではなく、リーチの内容を報知するようになっている。このように、この実施の形態では、リーチの種類によって音声によるタイトル報知の報知態様を異ならせている。これにより、タイトル報知の報知態様が多彩になり、興味が向上する。

【0680】

スーパーリーチ D においてタイトルが報知された後には、図 9-2 (I) に示すように、画像表示装置 5 にキャラクタ 3 1 A K 0 0 1 が表示される。このとき、タイトル 3 1 A K 0 0 7 及び期待度示唆表示 3 1 A K 0 0 8 は、画像表示装置 5 の右上部分等に縮小して表示され続ける。このようにすることで、リーチ演出中にも遊技者がリーチの期待度を把握することができる。なお、図 9-2 (I) では、図 9-2 (C) (スーパーリーチ A、スーパーリーチ B) と共通の演出内容が示されているが、スーパーリーチ D 専用のスーパーリーチ演出が実行されてもよい。

【0681】

その後、図 9-2 (J) に示すように、敵キャラであるキャラクタ 3 1 A K 0 0 9 が表示され、キャラクタ 3 1 A K 0 0 1 のセリフ 3 1 A K 0 0 4 が表示されたり、キャラクタ 3 1 A K 0 0 1 とキャラクタ 3 1 A K 0 0 9 とが対決するスーパーリーチ D のリーチ演出が実行される。

【0682】

(スーパーリーチ E)

スーパーリーチ E となる場合には、図 9-3 (A) に示すように、画像表示装置 5 の左上の一部にスーパーリーチ E のタイトル 3 1 A K 0 1 0 (ここでは「SPリーチ E」の文字) が表示されることで、スーパーリーチ E のタイトルが報知される。なお、スーパーリーチ E では、音声によるタイトルの報知が行われない。また、タイトル 3 1 A K 0 1 0 の表示と合わせて、キャラクタ 3 1 A K 0 0 1 と敵キャラであるキャラクタ 3 1 A K 0 1 1 とが表示され、キャラクタ 3 1 A K 0 0 1 のセリフ 3 1 A K 0 0 4 が表示されたり、キャラクタ 3 1 A K 0 0 1 とキャラクタ 3 1 A K 0 1 1 とが対決するスーパーリーチ E のリーチ演出が実行される。このように、スーパーリーチ E では、リーチ演出の進行と合わせてタイトルが報知されるようになっている。スーパーリーチ E では、リーチ演出中にタイトル 3 1 A K 0 1 0 が表示され続ける。

【0683】

大当たり信頼度の低いスーパーリーチ E のリーチ演出では、リーチ演出の進行を止めずにタイトル報知を行うことで、遊技者に過度な期待感を与えることを防止できる。これに対して、スーパーリーチ A、スーパーリーチ B、スーパーリーチ D のリーチ演出では、リーチ演出の進行を停止してタイトル報知を行うようになっている (図 9-2 (D)、(F)、(H))。このようにすることで、スーパーリーチ演出に応じたタイトル報知を実行でき演出効果が向上する。なお、スーパーリーチ A、スーパーリーチ B、スーパーリーチ D といったスーパーリーチ演出においてもリーチの進行を停止せずにタイトル報知を行うようにしてもよい。また、この実施の形態とは逆に、大当たり信頼度の高いスーパーリーチのリーチ演出では、リーチ演出の進行を止めずにタイトル報知を行うようにしてもよい。大当たり信頼度の低いスーパーリーチのリーチ演出では、リーチ演出の進行を停止してタイトル報知を行うようにしてもよい。

【0684】

(タイトルの報知タイミング)

以上のように、この実施の形態では、スーパーリーチ A 及びスーパーリーチ B においては、スーパーリーチ演出開始後所定期間経過してからタイトルが報知され、スーパーリーチ D 及びスーパーリーチ E においては、スーパーリーチ演出開始時にタイトルが報知され

るようになっている。このようにすることで、リーチ演出に応じたタイトル報知を実行でき演出効果が向上する。なお、この実施の形態では、大当たり信頼度の高いスーパーリーチ A 及びスーパーリーチ B においては、スーパーリーチ演出開始後所定期間経過してからタイトルが報知され、大当たり信頼度の低いスーパーリーチ D 及びスーパーリーチ E においては、スーパーリーチ演出開始時にタイトルが報知されるようになっていたが、大当たり信頼度の高いリーチの場合にスーパーリーチ演出開始時にタイトルが報知され、大当たり信頼度の低いリーチの場合にスーパーリーチ演出後所定期間経過してからタイトルが報知されるようにしてもよい。

【0685】

(タイトルの表示領域)

また、この実施の形態では、スーパーリーチ A 及びスーパーリーチ B においては、画像表示装置 5 の画面全体（第 1 領域）においてタイトルが報知され、スーパーリーチ D 及びスーパーリーチ E においては、画像表示装置 5 の画面の一部（第 2 領域）においてタイトルが報知される。このようにすることで、リーチ演出に応じたタイトル報知を実行でき演出効果が向上する。特に、大当たり信頼度の高いリーチである場合には、信頼度の低いリーチである場合よりも広い表示領域でタイトル報知が実行されるので効果的なタイトル報知が可能になる。なお、画像表示装置 5 の画面全体におけるタイトル報知とは、画面いっぱいに収まるサイズでタイトルが表示されるものであってもよいし、背景全体をタイトル報知用の背景としてそこにタイトルが表示されるもの（画面全体を使用したタイトル報知）等であってもよい。また、スーパーリーチ A とスーパーリーチ B とでタイトル報知を行う表示領域を異ならせてもよいし、スーパーリーチ D とスーパーリーチ E とでタイトル報知を行う表示領域を異ならせてもよい。

【0686】

リーチ演出に応じてタイトル報知を行う表示領域を異ならせる方法は、この実施の形態の例に限定されず、リーチ演出に応じてタイトル報知を行う表示領域を任意に異ならせてもよい。例えば、大当たり信頼度の高いリーチである場合には、信頼度の低いリーチである場合よりも狭い表示領域でタイトル報知が実行されてもよい。また、リーチ演出に応じてタイトル報知を行う表示領域を異ならせる場合において、この実施の形態のように表示面積を異ならせてもよいし、表示させる場所を異ならせてもよい。

【0687】

(期待度示唆表示)

この実施の形態では、大当たり信頼度の高いスーパーリーチ A 及びスーパーリーチ B におけるタイトル報知では、期待度示唆表示を表示せずに、スーパーリーチ A 及びスーパーリーチ B よりも大当たり信頼度の低いスーパーリーチ D におけるタイトル報知では、期待度示唆表示を表示するようにしていた。このようにすることで、演出がくどくなることを防止できる。また、スーパーリーチ D よりも大当たり信頼度の低いスーパーリーチ E におけるタイトル報知では、期待度示唆表示を表示しないようになっていた。このようにすることで、信頼度の低いリーチにおいて信頼度が低いことを示す期待度示唆表示が表示されることで遊技者が期待感を失うことを防止できる。なお、スーパーリーチ A、スーパーリーチ B、スーパーリーチ E の少なくとも一部において期待度示唆表示を表示するようにしてもよい。

【0688】

なお期待度示唆表示は、図 9-2 (H) 等に応示するように、黒い星の数によって示すものに限定されず、メーターやゲージにより期待度を示唆するようにしてもよいし、期待度に対応した数値を表示するようにしてもよい。また、図 9-2 (H) 等に応示するように、黒い星の数によって示す場合において、半個相当（半分）の黒い星を表示可能ようにして、期待度の段階数を増やしてもよい。

【0689】

(タイトルの表示終了タイミング)

また、この実施の形態では、スーパーリーチ A 及びスーパーリーチ B においては、タイ

10

20

30

40

50

トルが表示された後、タイトルが消去されてスーパーリーチ演出が実行される。これにより、スーパーリーチ A 及びスーパーリーチ B においては、リーチ演出に注目させることができる。また、スーパーリーチ D 及びスーパーリーチ E においては、タイトルが表示された後、後述の決め演出が実行されるまでタイトルが表示され続ける。これにより、スーパーリーチ D 及びスーパーリーチ E においては、スーパーリーチ演出中でもリーチの種類を把握することができる。また、以上のようにすることで、リーチ演出に応じたタイトル報知を実行でき演出効果が向上する。なお、タイトルの表示終了タイミングは、いずれであっても演出効果の向上を図れるため、任意に変更してもよい。

【0690】

なお、ここではスーパーリーチ C のリーチ演出の演出動作については省略するが、例えば大当り信頼度に応じたタイトル報知や期待度示唆表示が実行されればよい。

【0691】

(決め演出)

各リーチ演出が実行されてから、表示結果を導出するタイミング(可変表示の終盤)になると、表示結果が「大当り」となるか否かを報知するための決め演出が実行される。決め演出には、表示結果が「大当り」となることを示す決め演出と、表示結果が「ハズレ」となることを示す決め演出と、が含まれる。この実施の形態では、図9-3(B)に示すように、画像表示装置5に画像31AK012が表示される決め演出が実行される。その後、表示結果が「大当り」であれば、図9-3(C)に示すように、味方キャラが勝利したことを示す画像31AK013が表示され、図9-3(D)に示すように、大当り組合せとなる確定飾り図柄が導出される。なお、表示結果が「ハズレ」であれば、味方キャラが敗北したことを示す画像が表示され、リーチハズレ組合せとなる確定飾り図柄が導出される。

【0692】

この実施の形態では、リーチ演出中でも継続してタイトルを報知する場合でも、決め演出が実行される前にタイトルの報知を終了するようになっている。これにより、決め演出に注目させることができ、また、メリハリのあるタイトル報知を実行できる。

【0693】

図9-2、図9-3に示した演出動作例では、スーパーリーチのリーチ演出中は画像表示装置5の右下部分で飾り図柄を縮小して可変表示を実行するようになっていたが、リーチ演出中の飾り図柄の表示のさせ方は任意でよい。例えば、リーチ演出中は飾り図柄が表示されなくてもよいし、リーチ演出の種類によって表示態様(大きさ、位置、濃淡、数等)を異ならせてもよい。

【0694】

なお、画像表示装置5に保留表示、アクティブ表示、可変表示中に常駐表示されるキャラクタ、携帯連動関連の表示を表示する場合、スーパーリーチのリーチ演出中はリーチ演出に注目させるために適宜非表示としてもよい。その際に、スーパーリーチ E といった低信頼度のリーチ演出中には、これらの表示を表示したままにするようにしてもよい。このようにすることで、低信頼度のリーチ演出により遊技者を過度に期待させてしまうことを防止できるとともに、高信頼度のリーチ演出ではリーチ演出に注目させることができる。

【0695】

(発展演出)

続いて、発展演出が実行される場合の演出動作例について説明する。図9-4(A)に示すように、スーパーリーチ D のリーチ演出が実行されている(スーパーリーチ D のタイトル報知が実行されている)ときに発展演出が実行される場合、図9-4(B)に示すように、リーチ演出が中断して画面が裂けるような演出が実行される。その後、スーパーリーチ A に発展する場合には、図9-4(C)に示すように、スーパーリーチ A のタイトルが報知され、スーパーリーチ A のリーチ演出が実行される。スーパーリーチ B に発展する場合には、図9-4(D)に示すように、スーパーリーチ B のタイトルが報知され、スーパーリーチのリーチ演出が実行される。このように、発展演出が実行された場合には、発

展元のリーチのタイトル報知から発展先のリーチのタイトル報知に切り替えられるで、いずれのリーチに発展したかがわかりやすくなる。図9-4に示すように、発展先のリーチが表示及び音声によりタイトル報知を行うリーチである場合には、表示及び音声によるタイトル報知が改めて実行される。

【0696】

なお、発展演出は図9-4(B)に示すような例に限定されず、画面に徐々にヒビが入って割れるような演出であってもよいし、砂嵐(故障したような表示)を表示するようにしてもよい。このような演出とすることで、意外性のある演出を実行できる。なお、画面に徐々にヒビが入るがリーチが発展しない演出といった、ガセの発展演出があってもよい。

10

【0697】

(期待度示唆演出)

図9-2(H)に示す演出動作例では、期待度示唆表示31AK008が期待度を示す黒い星が最初から表示されるようになっていたが、最初に5つの白い星を表示し、段階的に黒い星となることで期待度示唆する期待度示唆演出を実行するようにしてもよい。

【0698】

例えば、図9-5(A)に示すように、スーパーリーチDのタイトルを報知する際に、最初に5つの白い星の期待度示唆表示31AK021が表示される。そして、図9-5(B)に示すように、期待度示唆表示31AK021の星より大きな黒い星31AK022が表示され、図9-5(C)に示すように、黒い星31AK022が移動して期待度示唆表示31AK021の白い星の一つに収まるような演出が実行される。このとき、スピーカ8から期待度を示す黒い星が増加したことを示す「ピン」という音声出力される。図9-5(D)、(E)に示すように、リーチの期待度に対応した回数同じ演出が繰り返される。このときに、繰り返される毎(星の数毎)にスピーカ8から出力される音声(音量、音階、音質等)を段階的に変化させるようにしてもよい。期待度示唆表示31AK021に期待度に対応した数の黒い星が収まった段階で、図9-5(F)に示すように、その黒い星が光るといったように強調表示される。このようにすることで、期待度示唆演出が終了したことがわかりやすくなる。

20

【0699】

図9-5(A)～(F)に示す例では、黒い星が1つずつ表示されて期待度示唆表示により示される期待度が1段階ずつ上がるようになっていたが、黒い星が2つ以上表示されて期待度が2段階以上上がるようにしてもよい。また、半分の黒い星が表示されて期待度が半段階上がるようにしてもよい。この場合において、表示される星の数(上昇する期待度の段階数)に応じて、異なる音声出力するようにしてもよいし、同じ音声出力するようにしてもよい。例えば、半分の黒い星が表示されるときと1つの黒い星が表示されるときとで同じ音声出力するようにしてもよい。2つ半の黒い星が表示されるときと3つの黒い星が表示されるときとで同じ音声出力するようにしてもよい。また、音声出力しない場合があってもよい。このようにすることで、期待度示唆演出が多彩になり、演出効果が向上する。なお、一度に増加する期待度の段階数によらず、同じ黒い星の画像が表示されて、期待度示唆表示の白い星に収まって、増加する期待度の段階数に応じた黒い星が増加するような演出を実行するようにしてもよい。

30

40

【0700】

(演出モード)

画像表示装置5、スピーカ8、遊技効果ランプ9といった演出装置における演出モードが複数あってもよい。異なる演出モードでは、主基板11から同じコマンド(例えば変動パターンを指定するコマンド)が送信された場合でも、当該コマンドに基づく演出が異なる演出態様で実行される。各演出モードでは、画像表示装置5に表示される背景、キャラクタ、モチーフ、スピーカ8から出力される音声等が異なっていればよい。演出モードは、可変表示の回数や遊技状態に応じて自動的に変更されるようにしてもよいし、遊技者の操作により変更可能にしてもよい。

50

【0701】

図9-5 (G) ~ (L) は、演出モードとして通常モード及び特別モードが設けられる場合において、特別モードとなっている場合のタイトル報知及び期待度示唆演出の演出動作例である。通常モードでは、図9-5 (A) ~ (F) に示すようタイトル報知及び期待度示唆演出が実行される。特別モードでは、スーパーリーチDの変動パターンに基づくリーチ演出は、スーパーリーチDのリーチ演出とは演出態様の異なるスーパーリーチD2のリーチ演出となる。従って、スーパーリーチDの変動パターンが指定された場合、図9-5 (G) に示すように、スーパーリーチD2のタイトル31AK023が表示される。このとき、スピーカ8からリーチのタイトル名に対応する音声出力されるが、通常モードとは異なる音声（例えば声色が異なる音声）が出力される。また、スーパーリーチD2における期待度示唆表示31AK024は、星型ではなく菱形となっている。

10

【0702】

その後、図9-5 (H) に示すように、期待度示唆表示31AK024の星より大きな黒い菱形31AK025が表示され、図9-5 (I) に示すように、黒い菱形31AK025が移動して期待度示唆表示31AK024の白い菱形の一つに収まるような演出が実行される。このとき、スピーカ8から期待度を示す黒い菱形が増加したことを示す「ポン」という音声出力される。図9-5 (J)、(K) に示すように、リーチの期待度に対応した回数同じ演出が繰り返される。期待度示唆表示31AK024に期待度に対応した数の黒菱形が収まった段階で、図9-5 (L) に示すように、その黒い菱形が光るといったように強調表示される。このように、遊技者の選択や遊技状態等に応じて決定される演出モード（リーチ演出が実行されるときの状態）によって、タイトルの報知態様を異ならせることで演出が多彩になり演出効果が向上する。

20

【0703】

図9-5では、スーパーリーチDの変動パターンが指定された場合の演出動作例を示したが、演出モード（リーチ演出が実行されるときの状態）によって他のリーチ演出（タイトル報知、期待度示唆演出を含む）の演出態様を異ならせるようにしてもよい。演出モード（リーチ演出が実行されるときの状態）によって、リーチのタイトルを報知するか否かやタイトル報知の実行割合を異ならせてもよい。例えば、所定の演出モードが選択された場合には、リーチのタイトルが報知されないようにしてもよい。このようにすることで、遊技者の好みに応じた演出を実行でき演出効果が向上する。

30

【0704】

なお、この実施の形態では、期待度示唆表示における黒い星の数によって期待度を示唆し、黒い星の数を段階的に増加させる期待度示唆演出を実行するようになっていたが、期待度を示唆する表示の数を段階的に減少させる期待度示唆演出を実行するようになっていてもよい。そのような期待度示唆演出をこの実施の形態の期待度示唆演出に加えて実行するようになっていてもよいし、代えて実行するようになっていてもよい。

【0705】

（発展演出の他の例）

期待度示唆表示の期待度を示す表示を段階的に増加させる期待度示唆演出を実行する場合において、期待度を示す表示を増加させた後に発展演出を実行するようになっていてもよい。この場合において、発展演出後に期待度を示す表示を増加させる場合、増加させる表示については段階的ではなく一度に表示するようにしてもよい。例えば図9-6 (A) に示すように、スーパーリーチDのタイトルが報知され、黒い星を段階的に増加させる演出が完了した後に、図9-6 (B) に示すように、画像表示装置5にボタン画像31AK031が表示される発展演出が実行される。ここで、プッシュボタン31Bへの操作が検出されると、図9-6 (C) に示すように、スーパーリーチCのタイトル31AK032（ここでは「SPリーチC」の文字）が表示されることで、スーパーリーチCのタイトルが報知される。このように、発展演出が実行された場合には、発展元のリーチのタイトル報知から発展先のリーチのタイトル報知に切り替えられるで、いずれのリーチに発展したかがわかりやすくなる。また、タイトル31AK032の下には、黒い星の数が3個である期待

40

50

度示唆表示 3 1 A K 0 3 3 が強調表示される。なお、黒い星の数が 2 個以上増加する場合でも一度に表示される。なお、可動体 3 2 が動作した後に、タイトルや期待度示唆表示が変化する発展演出を実行するようにしてもよい。

【0706】

(予告演出)

この実施の形態では、予告演出として、タイトルの報知態様（例えばタイトルの表示色等）によって、大当たり信頼度を予告するタイトル予告を実行するようになっている。例えば図 9-7 (A) に示すように、スーパーリーチ A のタイトル 3 1 A K 0 3 6 が黒色で表示されるとともに、スピーカ 8 からリーチのタイトル名に対応する音声出力されることで、スーパーリーチ A のタイトルが報知された後、図 9-7 (B) に示すようにタイトル 3 1 A K 0 3 6 の表示色が赤色に変化するタイトル予告を実行するようになっている。このように、タイトル予告が実行されない場合はタイトルが黒色で表示され、タイトル予告が実行される場合はタイトルが黒色以外の色で表示される。図 9-7 に示すタイトル予告では、音声によりリーチのタイトルが報知された後に、タイトルの表示態様（表示色）が変化する場合がある。このようにすることで、予告演出の演出効果を高めることができる。なお、タイトルが黒色以外で表示されるタイミングはこれに限定されず、タイトルの表示開始時から黒色以外で表示されるようにしてもよい。

【0707】

また、タイトルの表示態様（表示色）が変化するタイトル予告が実行された場合には、タイトルの表示態様に変化した後に、変化後の表示態様に応じた音声出力するようにしてもよい。このようにすることで、予告演出の演出効果を高めることができる。また、音声によるタイトル報知は、タイトルの表示態様（表示色）が変化した後に実行されるようにしてもよい。この場合、変化後のタイトルの表示態様（表示色）に応じた音声出力するようにしてもよい。

【0708】

(タイトル報知の実行タイミング)

リーチ中のタイトルの報知は、予告演出や発展演出といった、大当たり有利状態に制御される期待度が向上する演出（特定演出）の実行タイミング以外で実行することが好ましい。このようにすることで、一旦タイトルが報知された場合、期待度が向上する演出が実行され得るので、遊技者の期待感を維持することができる。

【0709】

図 9-8 は、予告演出の実行の有無や演出態様を決定するための予告演出決定処理の一例を示すフローチャートである。予告演出決定処理は、演出制御用 CPU 120 が図 7 のステップ S 171 の可変表示開始設定処理内で実行する。予告演出決定処理では、演出制御用 CPU 120 は、まず、主基板 11 から送信されるコマンドから特定される変動パターンがスーパーリーチの変動パターンであるか否かを判定する（ステップ 3 1 A K S 0 0 1）。

【0710】

スーパーリーチの変動パターンである場合には（ステップ 3 1 A K S 0 0 1 ; Yes）、スーパーリーチのタイトルの表示色（タイトル予告の実行の有無）を決定する（ステップ 3 1 A K S 0 0 2）。

【0711】

ステップ 3 1 A K S 0 0 2 では、表示結果が「大当たり」となるか「ハズレ」となるかに応じて、例えば図 9-9 (A) に示す決定割合で、スーパーリーチのタイトルの表示色を決定する。スーパーリーチのタイトルの表示色は、図 9-9 (A) に示すように、「黒」、「赤」、「黒」から「赤」に変化するもの、「黒」から「フルーツ柄」に変化するもの、「赤」から「フルーツ柄」に変化するものが設けられており、この順番（昇順）で大当たり信頼度が高くなっている。即ち、タイトルの表示色の変化タイミングに応じて大当たり信頼度が異なっている。このようにすることで、遊技者がタイトルの表示色の変化タイミングに注目するようになり、演出効果が向上する。

【0712】

なお、「フルーツ柄」は、タイトルの文字が太字で表示され文字そのものが「フルーツ柄」であってもよいし、タイトルの表示領域の背景部分が「フルーツ柄」となるものであってもよい。最初から「フルーツ柄」で表示されるパターンがあってもよい。表示色に変化するものについては、図9-7に示したように、タイトル報知が実行された後に表示色に変化すればよい。表示色に変化するものについて、表示色に変化するタイミングが複数あってもよい。そして、表示色に変化するタイミングに応じて大当たり信頼度を異ならせてもよい。また、スーパーリーチの種類によって、タイトルの表示期間が異なるため、スーパーリーチの種類によって表示色に変化するタイミングが異なるようにしてもよい。タイトルの表示期間が長いスーパーリーチ（例えばスーパーリーチDやスーパーリーチE）の場合には、変化するタイミングを複数設けて、変化タイミングをいずれかに決定するようにしてもよい。そして、タイトルの表示期間が短いスーパーリーチ（例えばスーパーリーチAやスーパーリーチB）の場合には、変化するタイミングの数を1つ又はタイトルの表示期間が長いスーパーリーチよりも少数にしてもよい。

10

【0713】

演出モードとして、通常モードと特別モードとがある場合、通常モードでは図9-9（A）に示す決定割合でタイトルの表示色を決定し、特別モードでは図9-9（B）に示すような通常モードと異なる割合でタイトルの表示色を決定する。なお、特別モードでは、表示色のパターンや信頼度の順位が通常モードと異なるようにしてもよい。このように、演出モードによってタイトル予告の実行態様（表示色や表示色の変化タイミング）を異ならせることで、演出が多彩になり演出効果が向上する。

20

【0714】

この実施の形態では、予告演出として、スーパーリーチのリーチ演出におけるキャラクタのセリフの表示態様（例えばセリフの表示色等）によって、大当たり信頼度を予告するセリフ予告を実行するようになっている。

【0715】

スーパーリーチのタイトルの表示色を決定した後は、スーパーリーチのリーチ演出におけるキャラクタのセリフの表示色（セリフ予告の実行の有無）を決定する（ステップ31AKS003）。

【0716】

ステップ31AKS003では、表示結果が「大当たり」となるか「ハズレ」となるかに応じて、例えば図9-9（C）に示す決定割合で、リーチ演出におけるセリフの表示色を決定する。リーチ演出におけるセリフの表示色は、図9-9（C）に示すように、「白」、「赤」、「白」から「赤」に変化するものが設けられており、この順番（昇順）で大当たり信頼度が高くなっている。即ち、セリフの表示色の変化タイミングに応じて大当たり信頼度が異なっている。このようにすることで、遊技者がセリフの表示色の変化タイミングに注目するようになり、演出効果が向上する。なお、表示色に変化するものについては、セリフが表示された後に表示色に変化すればよい。表示色に変化するものについて、表示色に変化するタイミングが複数あってもよい。そして、表示色に変化するタイミングに応じて大当たり信頼度を異ならせてもよい。

30

40

【0717】

また、タイトル予告とセリフ予告との演出態様の組み合わせで、大当たり信頼度が異なるようにしてもよい。例えば、タイトル予告とセリフ予告とで同じ演出態様（表示色）が含まれる場合、同じ演出態様となった場合には大当たり信頼度が高くなるようにしてもよい。また、タイトル予告とセリフ予告との演出態様の変化タイミングの組み合わせで、大当たり信頼度が異なるようにしてもよい。例えば、変化タイミングが同じ場合に変化タイミングが異なる場合より大当たり信頼度が高くなるようにしたり、いずれの変化が先かで大当たり信頼度を異ならせてもよい。このようにすることで、タイトル予告とセリフ予告とのそれぞれの変化タイミングに注目させることができる。

【0718】

50

演出モードとして、通常モードと特別モードとがある場合、特別モードでは通常モードと異なる割合でセリフの表示色を決定するようにしてもよい。なお、特別モードでは、表示色のパターンや信頼度の順位が通常モードと異なるようにしてもよい。

【0719】

なお、セリフ予告に代えてリーチ演出の演出態様の变化によって大当り信頼度を予告する予告演出を実行するようにしてもよい。その場合、その予告演出において、演出態様の变化タイミングを複数設けて、変化タイミングに応じて大当り信頼度が異なるようにすればよい。

【0720】

リーチ演出におけるセリフの表示色を決定した後や、スーパーリーチの変動パターンでないと判定された場合（ステップAK31S001；No）、その他の予告演出に実行有無や演出態様を決定する（ステップAK31S004）。その後、31AKS002～31AKS004における決定結果をRAM122の所定領域に保存し（ステップAK31S005）、予告演出決定処理を終了する。

【0721】

なお、この実施の形態では、スーパーリーチである場合に、タイトル予告及びセリフ予告を実行可能となっているが、特定のスーパーリーチ（例えば信頼度の低いスーパーリーチ以外）である場合に、タイトル予告及びセリフ予告のうち少なくとも一方を実行可能にしてもよい。また、タイトル予告及びセリフ予告については、図9-9に示す決定割合で決定されるものとして説明したが、決定割合は任意であり、例えばスーパーリーチの種類に応じて決定割合を異ならせてもよい。このようにすることで、リーチの種類に応じた予告演出を実行でき、演出効果が向上する。

【0722】

この実施の形態では、タイトル予告とセリフ予告とでは、実行可能な演出態様の数（表示可能な表示色の数）が異なっている。このようにすることで、演出が多彩になり演出効果が高まる。タイトル予告とセリフ予告とにおいて、実行可能な演出態様の数は任意に変更してもよく、実行可能な演出態様の数や種類が同じであってもよい。このようにすることで、統一感ある予告演出が実行でき、遊技者は大当り信頼度を把握しやすくなる。

【0723】

（作用演出）

このタイトル予告とセリフ予告との演出態様が変化するとき、演出態様が変化することを示す演出を実行するようにしてもよい。例えば、画像表示装置5に作用演出画像を表示し、その画像がタイトル及びセリフのうち少なくとも1つに作用する作用演出を実行するようにしてもよい。そして、作用演出が実行された後に、タイトルやセリフの演出態様（表示色）が変化するようにしてもよい。作用演出の演出態様（作用演出画像等）はタイトル及びセリフにいずれに作用する場合でも共通としてもよい。なお、作用演出が実行されたにも関わらず、タイトルやセリフの演出態様が変化しない場合があってもよい。作用演出を実行する場合には、タイトル予告とセリフ予告に係る決定結果に基づいて、作用演出の実行の有無や実行タイミング、演出態様を決定するようにすればよい。そのような決定はステップAK31S004の処理で実行されればよい。例えば、作用演出の演出態様に応じて、タイトル予告とセリフ予告との少なくとも一方の演出態様が変化する割合（作用演出により演出態様が変化する割合）が異なるようにしてもよいし、タイトル予告とセリフ予告といずれの演出態様が変化するか割合（いずれに作用するか割合）が異なるようにしてもよいし、何色に（何段階）変化するか割合が異なるようにしてもよい。このような作用演出を実行することで、遊技者はいずれ作用演出画像が表示されたときに、タイトルとセリフのいずれに作用するか注目するようになり演出効果が向上する。なお、複数の演出モードがある場合、演出モードに応じて異なる割合で作用演出の実行有無や演出態様を決定するようにしてもよい。このようにすることで、演出モードに応じた作用演出を実行でき、演出効果が向上する。

【0724】

このような作用演出の他の例として、リーチ演出の演出内容（例えばキャラクタの動作やバトル演出における演出内容等）に応じて、タイトル及びセリフのいずれかのうち少なくとも1つの演出態様（表示色）が変化するようにしてもよい。このようにすることで、遊技者はリーチ演出の演出内容に注目するようになる。

【0725】

この発明は、上記特徴部31AKで説明したパチンコ遊技機1に限定されず、この発明の趣旨を逸脱しない範囲で、様々な変形及び応用が可能である。例えば、上記実施の形態で説明した特徴部分は、全てが必須構成ではなく、適宜省略可能である。

【0726】

（サブ液晶）

画像表示装置5とは異なるサブ表示装置として、遊技盤2または遊技機用枠3にサブ液晶が設けられていてもよい。ここではサブ液晶と表現するが、サブ表示装置は、有機ELやドットマトリクスLEDにより構成されてもよい。サブ液晶装置は、例えば画像表示装置5の近傍等に固定されるものであってもよいし、可動式または収納式であってもよい。サブ液晶においては、予告演出や保留表示の表示といった各種演出を実行する。例えば、サブ液晶においてタイトル報知を実行するようにしてもよい。上記実施の形態のスーパーリーチD及びスーパーリーチEのように、タイトル報知後にも継続してタイトルを表示する場合に、サブ液晶においてタイトルや期待度示唆表示を表示するようにしてもよい。この場合、画像表示装置5においてタイトルを報知した後に、サブ液晶においてタイトルや期待度示唆表示を表示するようにしてもよい。このようにすることで、画像表示装置5におけるスーパーリーチ演出を阻害することなくタイトルや期待度示唆表示を表示することができる、タイトルや期待度示唆表示もわかりやすくなる。

【0727】

上記実施の形態では、示唆演出としてのリーチ演出のタイトルの報知について、この発明を適用した例を説明したが、他の演出に関するタイトル報知（主に文字を表示する報知）にこの発明を適用してもよい。例えば、予告演出（例えば先読み予告演出）として、画像表示装置5における背景画像や演出態様がそれぞれ異なる複数のゾーン（ステージ、演出モード等）に移行させる先読みゾーン演出を実行する場合において、移行したゾーンのタイトル報知にこの発明を適用してもよい。ミッション（「7でリーチをかけろ」、「スティックコントローラを使って敵を全滅させろ」等）を提示し、当該ミッションを達成したときに遊技者に有利な状態となるミッション演出を実行する場合に、ミッションのタイトル報知にこの発明を適用してもよい。

【0728】

（特徴部31AKの変形例1）

上記実施の形態では、表示結果を導出するタイミングになると、表示結果が「大当り」となるか否かを報知するための決め演出が実行され、その後、表示結果が示されるようになっていた（図9-3（B）～（D））。このような決め演出に代えて、表示結果を導出する前の所定タイミングになると、スティックコントローラ31Aやプッシュボタン31Bの操作を促す操作演出が実行され、操作有効期間に所定の操作が検出されるとバトル演出の勝敗が表示されたり、表示結果が仮停止される等により、表示結果が示されるようにしてもよい。このようにすることで、遊技者の操作に応じて表示結果が示されるため、遊技者の遊技参加意欲を高めることができ、興味が向上する。

【0729】

図9-10、図9-11は、操作演出が実行され、その操作に応じて表示結果が示される変形例におけるスーパーリーチの演出動作例を示す図である。図9-10（A）に示すように、画像表示装置5においてリーチ態様となった後、例えば図9-10（B）に示すように、味方キャラであるのキャラクタ31AK041と敵キャラであるキャラクタ31AK042とが表示され、図9-10（C）～（F）、図9-11（G）～（I）に示すように、キャラクタ31AK041とキャラクタ31AK042とが対決するリーチ演出が実行される。

【0730】

リーチ演出に伴い、図9-10(C)に示すように、画像表示装置5の右下に小ボタン画像31AK043と小ボタン画像31AK043に重畳する規制線31AK044とが表示される。これにより、プッシュボタン31Bを使用する操作演出が実行されるが、現状は操作の受付が規制されていることが示唆される。

【0731】

この変形例では、操作演出が実行されることを示す操作演出画像が複数種類用意されている。そして、いずれの操作演出画像が表示されて操作演出が実行されるかによって大当たり信頼度が異なるようになっている。また、リーチ演出中に操作演出が実行されることを示す画像がより信頼度の高い態様に変化する場合があるようになっている。

10

【0732】

例えば、図9-10(D)に示すように、祈るキャラクタ31AK045が表示され、図9-10(E)に示すように、祈るキャラクタ31AK045が喜ぶキャラクタ31AK046に変化するとともに、小ボタン画像31AK043が大ボタン画像31AK047に変化する。

【0733】

その後、図9-11(H)に示すように、大砲31AK048が表示され、図9-11(I)に示すように、大砲31AK048から弾が発射されるエフェクト31AK049が表示され、大ボタン画像31AK047に弾が命中するエフェクト31AK050が表示される。そして、大ボタン画像31AK047がスティック画像31AK051に変化する。

20

【0734】

このように、この変形例では、操作演出画像が変化する場合には操作演出画像が変化することを示す作用演出が実行される。なお、作用演出を伴わずに操作演出画像が変化する場合があってもよい。また、作用演出が実行されたにも関わらず操作演出画像が変化しない場合があってもよい。作用演出の種類によって、操作演出画像が変化する割合が異なっている。

【0735】

その後、表示結果が導出される所定時間前に、図9-11(J)に示すように、規制線31AK044が消去され、図9-11(K)に示すように、スティック画像31AK051が中央部に拡大表示され、スティックコントローラ31Aを引く操作を促す表示がされる。また、このときスティックコントローラ31Aへの操作が有効な操作有効期間となる。

30

【0736】

ここで、スティックコントローラ31Aを引く操作が検出されると、図9-11(L)に示すように、味方キャラが勝利したことを示す画像31AK052が表示される。その後、変動時間の終了するタイミングで、図9-11(M)に示すように、大当たり組合せとなる確定飾り図柄が導出される。なお、予め定められた操作有効期間内に操作が検出されなかった場合には、自動的に図9-11(L)に示す画像が表示される。

【0737】

40

この変形例では、操作演出画像として、小ボタン画像、大ボタン画像、スティック画像とがあり、小ボタン画像<大ボタン画像<スティック画像の順でこれらの画像を用いた操作演出が実行された場合の大当たり信頼度が高くなっている。信頼度の低い操作演出画像が表示された場合であっても、リーチ演出中に信頼度の高い操作演出画像に変化する場合があるので、演出効果が向上し、また、遊技者の期待感を維持することができる。

【0738】

なお、図9-10、図9-11に示した演出動作例では、リーチのタイトル報知や、期待度示唆表示は省略しているが、図9-10、図9-11に示したリーチ演出や操作演出と並行して適宜実行されるようにしてもよい。操作演出や操作演出画像に係る決定(操作演出の有無、表示する操作演出画像、作用演出の有無等)は、図9-8のステップ31A

50

K S O O 4にて実行されればよい。

【0739】

(特徴部31AKの変形例2)

大当り遊技状態等の有利状態への制御の期待度を示唆する示唆表示を行なうようにしてもよい。例えば、第1示唆表示を行うシャッター演出と、第2示唆表示を行うリーチタイトル演出と、実行するようにしてもよい。シャッター演出では、可変表示開始後に画面上をシャッター表示で覆う演出が実行される。また、リーチタイトル演出では、リーチ後にリーチ演出の発展先を示すリーチタイトル表示をする演出が実行される。シャッター表示およびリーチタイトル表示のいずれを表示するときにも特定画像が含まれて表示される場合がある。リーチタイトル演出は、上記実施の形態のタイトル予告と同じであってもよいし、別の処理で決定される別の演出であってもよい。

10

【0740】

特定画像とは、画像内に複数種類の要素を含んで表示される大当り信頼度の高い画像のことである。複数種類の要素としては、要素E1のバナナ画像、要素E2のメロン画像、要素E3のリンゴ画像、要素E4のスイカ画像、要素E5のイチゴ画像が含まれる。これら要素E1～E5を含んで構成されたフルーツ柄画像が特定画像である。シャッター表示およびリーチタイトル表示のいずれにおいても、要素E1～E5の全てが視認可能となるように表示される。また、特定画像を構成する要素E1～E5の表示サイズは、シャッター表示とリーチタイトル表示との表示サイズの違いに応じて変更して表示される。また、要素E1～E5のすべてがシャッター表示およびリーチタイトル表示のそれぞれに収まるように表示される。

20

【0741】

可変表示開始後にシャッター演出が実行された場合に、フルーツ柄画像が表示されるときには、フルーツ柄画像が表示されないときよりも大当り信頼度が高い。また、リーチ演出実行中に、リーチタイトル表示をする際に、フルーツ柄画像で表示がされるときには、フルーツ柄画像で表示がされないときよりも大当り信頼度が高い。フルーツ柄が表示されないときには、たとえば、各要素E1～E5を含まない無地の画像が表示される。なお、シャッター演出およびリーチタイトル演出が実行されたときの大当り信頼度を示す画像として、フルーツ柄画像以外の画像のパターンが用意されていてもよい。たとえば、大当り信頼度の順に白画像<青画像<赤画像<フルーツ柄画像が用意されていてもよい（たとえば、赤色のシャッターや赤文字のリーチタイトル等）。そして、可変表示の表示結果が大当りとなるか否かにより、所定の乱数抽選でいずれか1つの画像パターンが選択されるようにしてもよい。

30

【0742】

シャッター表示およびリーチタイトル表示を行なう際に、フルーツ柄が表示される際においても、スピーカ8による共通音（メロディ）を出力する報知を行なうとともに遊技効果ランプ9の発光による報知を行なう。共通音および遊技効果ランプ9の発光制御により、フルーツ柄が特別な画像であることが遊技者に示される。このような、シャッター表示およびリーチタイトル表示を行なう際には、フルーツ柄に対する共通報知が実行される。また、リーチタイトル表示では、共通報知の後に、特定音（ボイス）がさらに出力される。なお、共通音と特定音とは、出力期間が一部重なるようにしてもよい。

40

【0743】

図9-12は、シャッター演出およびリーチタイトル演出が実行されるときに表示画面図である。図9-12(a)に示すように、シャッター演出が実行される場合、画像表示装置5において可変表示の開始時にシャッター画像31AK061が表示される。シャッター画像31AK061には、要素E1～E5全てを含むフルーツ柄の画像が表示される。また、シャッター演出実行時には、スピーカ8による共通音（メロディ）を出力する報知が実行されるとともに遊技効果ランプ9の発光による報知が実行される。閉じていたシャッターが開くと、図9-12(b)に示すように、飾り図柄の可変表示が開始される。下向きの矢印が左、中、右図柄の可変表示を示している。左図柄および右図柄の可変表示

50

が仮停止すると、図9-12(c)に示すように、リーチ状態となる。

【0744】

次いで、図9-12(d)に示すように、スーパーリーチ演出が開始される。可変表示は例えば画面右上に小さく表示され、画面左側にキャラクタが表示される。画面右下には、リーチタイトル画像31AK062が表示され、これから実行されるスーパーリーチの内容がリーチタイトル表示として示される。リーチタイトル画像31AK062には、要素E1～E5全てを含むフルーツ柄の画像が表示される。また、リーチタイトル画像31AK062には、バトル演出を伴うリーチ演出が実行されることを示す「バトルリーチ」の文字が表示される。

【0745】

10

また、リーチタイトル演出実行時には、スピーカ8による共通音(メロディ)を出力する報知が実行されるとともに遊技効果ランプ9の発光による報知が実行される。さらに、共通音を出力後に、キャラクタが「アツアツ」のような大当たり信頼度が高いことを示す特定音(ボイス)を発する演出が実行される。ここで、リーチタイトル演出ではシャッター演出に比べ表示する示唆表示のサイズが小さい。しかし、このように、リーチタイトル演出においては、特定音を出力することで、フルーツ柄画像が表示されたことを遊技者により認識させやすくすることができる。なお、共通音と特定音とは、出力期間が完全に分かれている場合を説明したが、出力期間が一部重なるようにしてもよい。

【0746】

その後、図9-12(e)に示すような、バトルリーチ演出が実行される。画面左には敵キャラクタが表示され、画面右には味方キャラクタが表示される。味方キャラクタが敵キャラクタとのバトルに勝利すると、画面左上には「バトル勝利!」の文字が表示される。バトルに勝利したことで大当たりが確定したことが報知される。バトル演出が終了すると元の数字図柄による可変表示画面に戻る。図9-12(f)に示すように、全ての図柄が停止し、「777」の大当たり図柄が表示される。

20

【0747】

図9-12(a)、(d)に示すように、シャッター画像31AK061およびリーチタイトル画像31AK062のいずれにもフルーツ柄画像を構成する全ての要素E1～E5を含んで表示される。このようにすれば、表示サイズの異なるシャッター画像31AK061とリーチタイトル画像31AK062とのいずれにおいても、フルーツ柄画像を好適に表示することができる。これにより、大当たり信頼度の高いフルーツ柄画像が表示されたことを正確に伝えることができる。

30

【0748】

また、図9-12(a)に示すシャッター画像31AK061の表示サイズは、図9-12(d)に示すリーチタイトル画像31AK062の表示サイズよりも大きく表示される。よって、シャッター画像31AK061の表示サイズとリーチタイトル画像31AK062の表示サイズとの違いに注目させることができる。

【0749】

また、図9-12(a)に示すシャッター画像31AK061と図9-12(d)に示すリーチタイトル画像31AK062とは異なるタイミングで表示される。このようにすれば、実行タイミングが重なることにより特定画像であるフルーツ柄画像が見えづらくなってしまうことを防止することができる。

40

【0750】

シャッター演出に係る決定(シャッター演出の有無や演出態様)は、図9-8のステップ31AKS004にて実行されればよい。その際には、図9-8のステップ31AKS002におけるタイトルの表示色の決定結果に基づいてシャッター演出に係る決定を行うようにしてもよい。例えば、タイトルの表示色がフルーツ柄になるものが決定されている場合は、フルーツ柄のシャッター演出が実行されやすくしてもよい。また、リーチタイトル演出に係る決定もシャッター演出に係る決定と合わせて図9-8のステップ31AKS004にて実行されるようにしてもよい。

50

【0751】

[特徴部21TMに関する説明]

次に、特徴部21TMに関して説明する。パチンコ遊技機1には、例えば図10-1に示すような主基板11、演出制御基板12、ターミナル基板（情報出力基板）21TM016といった、各種の制御基板が搭載されている。また、パチンコ遊技機1には、主基板11と演出制御基板12との間で伝送される各種の制御信号を中継するための中継基板15なども搭載されている。その他にも、パチンコ遊技機1における遊技盤2などの背面には、例えば払出制御基板、発射制御基板、インタフェース基板などといった、各種の基板が配置されている。

【0752】

10

なお、前述した図2に示すように、主基板11には、第1始動口スイッチ22A及び第2始動口スイッチ22B、並びに、第1特別図柄表示装置4A及び第2特別図柄表示装置4B等の各種部品が接続されており、演出制御基板12には、スピーカ8L、8R、遊技効果ランプ9等の各種演出装置が接続されているが、図10-1では、これらを省略している。

【0753】

主基板11は、メイン側の制御基板であり、図10-3に示すように、基板ケース21TM201に収納された状態でパチンコ遊技機1の背面に搭載され、パチンコ遊技機1における遊技の進行を制御するための各種回路が搭載されている。主基板11は、主として、特図ゲームにおいて用いる乱数の設定機能、所定位置に配設されたスイッチ等からの信号の入力を行う機能、演出制御基板12などからなるサブ側の制御基板に宛てて、指令情報の一例となる制御コマンドを制御信号として出力して送信する機能、ホールの管理コンピュータに対して各種情報を出力する機能などを備えている。また、主基板11は、第1特別図柄表示装置4Aと第2特別図柄表示装置4Bを構成する各LED（例えばセグメントLED）などの点灯／消灯制御を行って第1特図や第2特図の変動表示を制御することや、普通図柄表示器20の点灯／消灯／発色制御などを行って普通図柄表示器20による普通図柄の変動表示を制御することといった、所定の表示図柄の変動表示を制御する機能も備えている。

20

【0754】

また、主基板11には、図10-3及び図10-5（A）に示すように、パチンコ遊技機1の背面側から視認可能な表示モニタ21TM029が設けられており、該表示モニタ21TM029に、入賞に関する各種の入賞情報を表示する機能も備えている。尚、表示モニタ21TM029の左側方には表示切替スイッチ21TM030が設けられており、該表示切替スイッチ21TM030の操作によって表示モニタ21TM029に表示されている情報を切り替えることが可能となっている。

30

【0755】

主基板11には、例えば遊技制御用マイクロコンピュータ100や、遊技球検出用の各種スイッチからの検出信号の他、電源断信号、クリア信号、リセット信号等の各種信号を取り込んで遊技制御用マイクロコンピュータ100に伝送するスイッチ回路110、ターミナル基板21TM016からセキュリティ信号等の各種の信号の出力を行うための情報出力回路112が搭載されている。

40

【0756】

また、図10-1に示す主基板11は、図10-3及び図10-5（A）に示すように、透過性を有する合成樹脂材からなる基板ケース21TM201に封入されており、主基板11の中央には表示モニタ21TM029（例えば、7セグメント）が配置され、表示モニタ21TM029の右側には表示切替スイッチ21TM030が配置されている。表示モニタ21TM029及び表示切替スイッチ21TM030は、主基板11を視認する際の正面に配置されている。主基板11の背面中央下部には、後述する設定変更モードまたは設定確認モードに切り替えるための錠スイッチ21TM051（図10-1参照）が設けられている。主基板11は、遊技機用枠3を開放していない状態では視認できないの

50

で、主基板 1 1 を視認する際の正面とは、遊技機用枠 3 を開放した状態における遊技盤 2 の裏面側を視認する際の正面であり、パチンコ遊技機 1 の正面とは異なる。ただし、主基板 1 1 を視認する際の正面とパチンコ遊技機 1 の正面とが共通するようにしてもよい。

【0757】

また、主基板 1 1（遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0）は、各入賞口（大入賞口、第 2 始動入賞口、第 1 始動入賞口、第 1～第 4 一般入賞口、以下、「進入領域」ともいう）への遊技球の進入数の集計を行い、該集計による連比、役比などの各種の入賞情報が表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 に表示されるようになっており、これら入賞情報が表示されることで、遊技場に設置後における連比、役比などの各種の入賞情報を確認できる。つまり、パチンコ遊技機 1 のメーカ側においては、予め定められた頻度で一般入賞口に遊技球が進入するように（試験を通過するように）遊技盤面を設計することが通常である。また、試験を行う際には、あらかじめ定められた頻度で一般入賞口に遊技球が進入しているかが確認される。さらに、パチンコ遊技機 1 を設置した後においても、どのような調整が行われているか、その調整の結果、設計どおりの頻度で一般入賞口に遊技球が進入しているかが確認される。そこで、この実施例のパチンコ遊技機 1 では、当該パチンコ遊技機 1 において、設置後にどのような調整を加えられたかを認識できるようになっている。

【0758】

また、電源基板は、透過性を有する合成樹脂材からなる基板ケースに封入されており、電源基板の背面右側下部には、後述する大当りの当選確率（出玉率）等の設定値を変更するための設定スイッチとして機能するクリアスイッチ（設定切替スイッチ） 2 1 T M 0 5 2 と、電源スイッチ 2 1 T M 0 5 5 が設けられている。遊技場の店員等が、パチンコ遊技機 1 に電源電圧が供給されていない状態で、電源スイッチ 2 1 T M 0 5 5 を操作することで、主基板 1 1、演出制御基板 1 2、払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 等の各基板に所定の動作電圧が供給される。さらに、電源スイッチ 2 1 T M 0 5 5 が操作されるタイミングで、クリアスイッチ（設定切替スイッチ） 2 1 T M 0 5 2 が操作されていれば、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 にクリア信号が入力され、後述する初期化处理（R A M クリア）が実行される。同じ電源基板上において、電源スイッチ 2 1 T M 0 5 5 とクリアスイッチ（設定切替スイッチ） 2 1 T M 0 5 2 を近くに配置することで、電源投入操作及び初期化操作を行い易いようにしている。

【0759】

尚、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 及びクリアスイッチ（設定切替スイッチ） 2 1 T M 0 5 2 は、パチンコ遊技機 1 の背面側に設けられており、所定のキー操作により開放可能な遊技機用枠 3 を開放しない限り操作不可能とされており、所定のキーを所持する店員のみが操作可能となる。また、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 はキー操作を要することから、遊技店の店員のなかでも、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 の操作を行うキーを所持する店員のみ操作が可能とされている。また、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 は、所定のキーによって O N と O F F の切替操作を実行可能なスイッチであるが、該切替操作を実行可能であると共に該切替操作とは異なる操作（例えば、押込み操作）を実行可能なスイッチであっても良い。

【0760】

なお、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 は、O N 状態又は O F F 状態を維持可能である。即ち、遊技場の店員等により力を加えられなくても、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 は、O N 状態又は O F F 状態を維持可能である。また、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 は、O F F 状態でのみキーを挿抜可能な構成とする。このような構成によれば、遊技場の店員等は、キーを回収するために錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 を O F F 状態としなければならないので、遊技場の店員等が錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 を O N 状態としたまま放置してしまうことを防ぐことができる。

【0761】

尚、図 1 0 - 3 に示すように、パチンコ遊技機 1 の背面側の下部には、各入賞口に入賞した遊技球やアウト口に進入した遊技球をパチンコ遊技機 1 外に排出するためのノズル（排出口）が設けられており、該ノズル内には、パチンコ遊技機 1 内から排出される遊技球

を検出する（発射された遊技球を検出する）ための排出口スイッチ 21 T M 0 7 0 が設けられている。該排出口スイッチ 21 T M 0 7 0 は、図 2 に示すように、前述したスイッチ回路 1 1 0 に接続されている。

【0762】

主基板 1 1 から演出制御基板 1 2 に向けて伝送される制御信号は、中継基板 1 5 によって中継される。中継基板 1 5 を介して主基板 1 1 から演出制御基板 1 2 に対して伝送される制御コマンドは、例えば電気信号として送受信される演出制御コマンドである。演出制御コマンドには、例えば画像表示装置 5 における画像表示動作を制御するために用いられる表示制御コマンドや、スピーカ 8 L、8 R からの音声出力を制御するために用いられる音声制御コマンド、遊技効果ランプ 9 や装飾用 L E D の点灯動作などを制御するために用いられる L E D 制御コマンドが含まれている。

10

【0763】

図 1 0 - 2 は、払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 および球払出装置 2 1 T M 0 9 7 などの払出に関連する構成要素を示すブロック図である。図 1 0 - 2 に示すように、払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 には、払出制御用 C P U 2 1 T M 3 7 1 を含む払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 が搭載されている。この実施の形態では、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、1 チップマイクロコンピュータであり、少なくとも R A M が内蔵されている。払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0、R A M（図示せず）、払出制御用プログラムを格納した R O M（図示せず）および I / O ポート等は、払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 を構成する。すなわち、払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 は、払出制御用 C P U 2 1 T M 3 7 1、R A M および R O M を有する払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 と、I / O ポートとで実現される。また、I / O ポートは、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 に内蔵されていてもよい。

20

【0764】

球切れスイッチ 2 1 T M 1 8 7、満タンスイッチ 2 1 T M 0 4 8 および払出個数カウントスイッチ 2 1 T M 3 0 1 からの検出信号は、中継基板 2 1 T M 0 7 2 を介して払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 の I / O ポート 2 1 T M 3 7 2 f に入力される。なお、この実施の形態では、払出個数カウントスイッチ 2 1 T M 3 0 1 からの検出信号は、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 に入力されたあと、I / O ポート 2 1 T M 3 7 2 a および出力回路 2 1 T M 3 7 3 B を介して主基板 1 1 に出力される。

30

【0765】

また、払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 には、図 1 0 - 2 に示すように、遊技盤 2 を支持固定する遊技機用枠 3 の開放を検知する遊技機枠開放センサと、遊技盤 2 の前面を開閉可能に覆うガラス扉枠 3 a の開放を検知する扉枠開放センサと、を備える遊技機枠・扉枠開放センサ 2 1 T M 3 0 0 が接続されており、これらのセンサから出力される検知信号に基づいて、各種の異常（エラー）の発生を判定する機能も備えている。なお、遊技機用枠 3 の開放が検知されたときの検知信号と、ガラス扉枠 3 a の開放が検知されたときの検出信号とは、異なる端子に入力されることにより、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、遊技機用枠 3 の開放状態と、ガラス扉枠 3 a の開放状態とを、区別して認識可能となっている。

40

【0766】

また、払出モータ位置センサ 2 1 T M 2 9 5 からの検出信号は、中継基板 2 1 T M 0 7 2 を介して払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 の I / O ポート 2 1 T M 3 7 2 e に入力される。払出モータ位置センサ 2 1 T M 2 9 5 は、払出モータ 2 1 T M 2 8 9 の回転位置を検出するための発光素子（L E D）と受光素子とによるセンサであり、遊技球が詰まったこと、すなわちいわゆる球噛みを検出するために用いられる。払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 に搭載されている払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、球切れスイッチ 2 1 T M 1 8 7 からの検出信号が球切れ状態を示していたり、満タンスイッチ 2 1 T M 0 4 8 からの検出信号が満タン状態を示していると、球払出処理を停止する。

【0767】

50

さらに、満タンスイッチ 21TM048 からの検出信号が満タン状態を示している、払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 は、打球発射装置からの球発射を停止させるために、発射基板 21TM090 に対してローレベルの満タン信号を出力する。発射基板 21TM090 の AND 回路 21TM091 が出力する発射モータ 21TM094 への発射モータ信号は、発射基板 21TM090 から発射モータ 21TM094 に伝えられる。払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 からの満タン信号は、発射基板 21TM090 に搭載された AND 回路 21TM091 の入力側の一方に入力され、駆動信号生成回路 21TM092 からの駆動信号（発射モータ 21TM094 を駆動するための信号であって、電源基板からの電源を供給する役割を果たす信号である。）は、AND 回路 21TM091 の入力側の他方に入力される。そして、AND 回路 21TM091 の発射モータ信号が発射モータ 21TM094 に入力される。すなわち、払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 が満タン信号を出力している間は、発射モータ 21TM094 への発射モータ信号の出力が停止される。

10

【0768】

払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 には、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 とシリアル通信で信号を入出力（送受信）するためのシリアル通信回路 21TM380 が内蔵されている。この実施の形態では、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 と払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 とは、シリアル通信回路 21TM505、21TM380 を介して、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 と払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 との間の接続確認を行うために、一定の間隔（例えば 1 秒）で信号（賞球要求信号、受信 ACK 信号）をやり取り（送受信）している。すなわち、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 は、シリアル通信回路 21TM505 を介して、一定の間隔で接続確認を行うための信号（この実施の形態における賞球要求信号）を送信し、払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 は、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 からの賞球要求信号を受信した場合、その旨を通知する信号（受信 ACK 信号）を遊技制御用マイクロコンピュータ 100 に送信する。この実施の形態では、賞球要求信号や受信 ACK 信号に特定のデータを乗せることにより、賞球要求信号や受信 ACK 信号を送受信するタイミングにおいて、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 と払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 との間で特定のデータをやり取りするように構成している。例えば、入賞が発生した場合には、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 は、払い出すべき賞球個数を示すデータを、賞球要求信号の所定ビットを異ならせることにより設定し、当該設定がなされた賞球要求信号を払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 に送信する。そして、払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 は、賞球払出動作が終了すると、賞球終了を示すデータを、受信 ACK 信号の所定ビットを異ならせることにより設定し、当該設定がなされた受信 ACK 信号を遊技制御用マイクロコンピュータ 100 に送信する。また、所定のエラー（球貸し、満タン、球切れなどのエラー）が発生した場合には、エラーの内容を示すデータを、受信 ACK 信号の所定ビットを異ならせることにより設定し、当該設定がなされた受信 ACK 信号を遊技制御用マイクロコンピュータ 100 に送信する。なお、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 と払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 におけるシリアル通信による具体的な信号のやり取りについては、図 10-22、図 10-34~36 において詳述する。

20

30

40

【0769】

払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 は、出力ポート 21TM372b を介して、賞球払出数を示す賞球情報信号および貸し球数を示す球貸し個数信号をターミナル基板（枠用外部端子基板と盤用外部端子基板とを含む）21TM160 に出力する。なお、出力ポート 21TM372b の外側に、ドライバ回路が設置されているが、図 10-2 では記載省略されている。

【0770】

また、払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 は、出力ポート 21TM372c を介して、7 セグメント LED によるエラー表示用 LED 21TM374 にエラー信

50

号を出力する。さらに、出力ポート 2 1 T M 3 7 2 b を介して、点灯／消灯を指示するための信号を賞球 L E D 2 1 T M 0 5 3 および球切れ L E D 2 1 T M 0 5 4 に出力する。なお、払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 の入力ポート 2 1 T M 3 7 2 f には、エラー状態を解除するためのエラー解除スイッチ 2 1 T M 3 7 5 からの検出信号が入力される。エラー解除スイッチ 2 1 T M 3 7 5 は、ソフトウェアリセットによってエラー状態を解除するために用いられる。

【0771】

さらに、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 からの払出モータ 2 1 T M 2 8 9 への駆動信号は、出力ポート 2 1 T M 3 7 2 a および中継基板 2 1 T M 0 7 2 を介して球払出装置 2 1 T M 0 9 7 の払出機構部分における払出モータ 2 1 T M 2 8 9 に伝えられる。なお、出力ポート 2 1 T M 3 7 2 a の外側に、ドライバ回路（モータ駆動回路）が設置されているが、図 1 0 - 3 では記載省略されている。

10

【0772】

遊技機に隣接して設置されているカードユニット 2 1 T M 0 5 0 には、カードユニット制御用マイクロコンピュータが搭載されている。また、カードユニット 2 1 T M 0 5 0 には、使用可表示ランプ、連結台方向表示器、カード投入表示ランプおよびカード挿入口が設けられている。インタフェース基板（中継基板） 2 1 T M 0 6 6 には、度数表示 L E D 2 1 T M 0 6 0、球貸し可 L E D 2 1 T M 0 6 1、球貸スイッチ 2 1 T M 0 6 2 および返却スイッチ 2 1 T M 0 6 3 が接続される。

【0773】

20

インタフェース基板 2 1 T M 0 6 6 からカードユニット 2 1 T M 0 5 0 には、遊技者の操作に応じて、球貸スイッチ 2 1 T M 0 6 2 が操作されたことを示す球貸スイッチ信号および返却スイッチ 2 1 T M 0 6 3 が操作されたことを示す返却スイッチ信号が与えられる。また、カードユニット 2 1 T M 0 5 0 からインタフェース基板 2 1 T M 0 6 6 には、プリペイドカードの残高を示すカード残高表示信号および球貸し可表示信号が与えられる。カードユニット 2 1 T M 0 5 0 と払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 の間では、接続信号（V L 信号）、ユニット操作信号（B R D Y 信号）、球貸し要求信号（B R Q 信号）、球貸し完了信号（E X S 信号）およびパチンコ機動作信号（P R D Y 信号）が入力ポート 2 1 T M 3 7 2 f および出力ポート 2 1 T M 3 7 2 d を介して送受信される。カードユニット 2 1 T M 0 5 0 と払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 の間には、インタフェース基板 2 1 T M 0 6 6 が介在している。よって、接続信号（V L 信号）等の信号は、図 1 0 - 2 に示すように、インタフェース基板 2 1 T M 0 6 6 を介してカードユニット 2 1 T M 0 5 0 と払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 の間で送受信されることになる。

30

【0774】

パチンコ遊技機 1 の電源が投入されると、払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 に搭載されている払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、カードユニット 2 1 T M 0 5 0 に P R D Y 信号を出力する。また、カードユニット制御用マイクロコンピュータは、電源が投入されると、V L 信号を出力する。払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、V L 信号の入力状態によってカードユニット 2 1 T M 0 5 0 の接続状態／未接続状態を判定する。カードユニット 2 1 T M 0 5 0 においてカードが受け付けられ、球貸スイッチが操作され球貸スイッチ信号が入力されると、カードユニット制御用マイクロコンピュータは、払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 に B R D Y 信号を出力する。この時点から所定の遅延時間が経過すると、カードユニット制御用マイクロコンピュータは、払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 に B R Q 信号を出力する。

40

【0775】

そして、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、カードユニット 2 1 T M 0 5 0 に対する E X S 信号を立ち上げ、カードユニット 2 1 T M 0 5 0 からの B R Q 信号の立ち下がりを検出すると、払出モータ 2 1 T M 2 8 9 を駆動し、所定個の貸し球を遊技者に払い出す。そして、払出が完了したら、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、カードユニット 2 1 T M 0 5 0 に対する E X S 信号を立ち下げる。その後、

50

カードユニット 21 T M 0 5 0 からの B R D Y 信号がオン状態でないことを条件に、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 から払出指令信号を受けると賞球払出制御を実行する。

【0776】

カードユニット 21 T M 0 5 0 で用いられる電源電圧 A C 2 4 V は払出制御基板 21 T M 0 3 7 から供給される。すなわち、カードユニット 21 T M 0 5 0 に対する電源基板からの電力供給は、払出制御基板 21 T M 0 3 7 およびインタフェース基板 21 T M 0 6 6 を介して行われる。この例では、インタフェース基板 21 T M 0 6 6 内に配されているカードユニット 21 T M 0 5 0 に対する A C 2 4 V の電源供給ラインに、カードユニット 21 T M 0 5 0 を保護するためのヒューズが設けられ、カードユニット 21 T M 0 5 0 に所定電圧以上の電圧が供給されることが防止される。

10

【0777】

この実施例のパチンコ遊技機 1 は、設定値に応じて大当りの当選確率（出玉率）が変わる構成とされている。詳しくは、後述する特別図柄プロセス処理の特別図柄通常処理において、設定値に応じた表示結果判定テーブル（当選確率）を用いることにより、大当りの当選確率（出玉率）が変わるようになっている。設定値は 1 ～ 6 の 6 段階からなり、6 が最も出玉率が高く、6, 5, 4, 3, 2, 1 の順に値が小さくなるほど出玉率が低くなる。すなわち、設定値として 6 が設定されている場合には遊技者にとって最も有利度が高く、5, 4, 3, 2, 1 の順に値が小さくなるほど有利度が段階的に低くなる。

20

【0778】

図 1 0 - 4 (A) ～ (F) は、各設定値に対応する表示結果判定テーブルを示す説明図である。表示結果判定テーブルとは、R O M 1 0 1 に記憶されているデータの集まりであって、M R 1 と比較される当り判定値が設定されているテーブルである。各表示結果判定テーブルは、変動特図指定バッファが 1 (第 1) である、つまり、第 1 特別図柄が変動表示の対象とされている場合と、変動特図指定バッファが 2 (第 2) である、つまり、第 2 特別図柄が変動表示の対象とされている場合のそれぞれについて、大当たりとする判定値が設定されている。

【0779】

図 1 0 - 4 (A) に示すように、設定値 1 に対応する表示結果判定テーブルを用いるときに、変動特図指定バッファが第 1 である場合、つまり、第 1 特別図柄が変動表示の対象とされている場合には、設定値が「2」、「3」、「4」、「5」、「6」である場合よりも低い確率 (1 / 3 0 0) で大当たり当選するようになっている。また、変動特図指定バッファが第 2 である場合には、大当たりに対応する判定値として、変動特図指定バッファが第 1 である場合と同様の判定値が設定されており、第 2 特別図柄が変動表示の対象とされている場合にも、第 1 特別図柄が変動表示の対象とされている場合と同じ確率 (1 / 3 0 0) で大当たり当選するようになっている。

30

【0780】

また、図 1 0 - 4 (B) に示すように、設定値 2 に対応する表示結果判定テーブルを用いるときに、変動特図指定バッファが第 1 である場合には、設定値が「1」である場合よりも高い確率 (1 / 2 8 0) で大当たり当選するようになっている。また、変動特図指定バッファが第 2 である場合には、大当たりに対応する判定値として、変動特図指定バッファが第 1 である場合と同様の判定値が設定されており、第 2 特別図柄が変動表示の対象とされている場合にも、第 1 特別図柄が変動表示の対象とされている場合と同じ確率 (1 / 2 8 0) で大当たり当選するようになっている。

40

【0781】

また、図 1 0 - 4 (C) に示すように、設定値 3 に対応する表示結果判定テーブルを用いるときに、変動特図指定バッファが第 1 である場合には、設定値が「1」、「2」である場合よりも高い確率 (1 / 2 8 0) で大当たり当選するようになっている。また、変動特図指定バッファが第 2 である場合には、大当たりに対応する判定値として、変動特図指定バッファが第 1 である場合と同様の判定値が設定されており、第 2 特別図柄が変動表示の

50

対象とされている場合にも、第1特別図柄が変動表示の対象とされている場合と同じ確率（1／280）で大当りに当選するようになっている。

【0782】

また、図10-4（D）に示すように、設定値4に対応する表示結果判定テーブルを用いるときに、変動特図指定バッファが第1である場合には、設定値が「1」、「2」、「3」である場合よりも高い確率（1／250）で大当りに当選するようになっている。また、変動特図指定バッファが第2である場合には、大当りに対応する判定値として、変動特図指定バッファが第1である場合と同様の判定値が設定されており、第2特別図柄が変動表示の対象とされている場合にも、第1特別図柄が変動表示の対象とされている場合と同じ確率（1／250）で大当りに当選するようになっている。

10

【0783】

また、図10-4（E）に示すように、設定値5に対応する表示結果判定テーブルを用いるときに、変動特図指定バッファが第1である場合には、設定値が「1」、「2」、「3」、「4」である場合よりも高い確率（1／235）で大当りに当選するようになっている。また、変動特図指定バッファが第2である場合には、大当りに対応する判定値として、変動特図指定バッファが第1である場合と同様の判定値が設定されており、第2特別図柄が変動表示の対象とされている場合にも、第1特別図柄が変動表示の対象とされている場合と同じ確率（1／235）で大当りに当選するようになっている。

【0784】

また、図10-4（F）に示すように、設定値5に対応する表示結果判定テーブルを用いるときに、変動特図指定バッファが第1である場合には、設定値が「1」、「2」、「3」、「4」、「5」である場合よりも高い確率（1／220）で大当りに当選するようになっている。また、変動特図指定バッファが第2である場合には、大当りに対応する判定値として、変動特図指定バッファが第1である場合と同様の判定値が設定されており、第2特別図柄が変動表示の対象とされている場合にも、第1特別図柄が変動表示の対象とされている場合と同じ確率（1／220）で大当りに当選するようになっている。

20

【0785】

つまり、CPU103は、その時点で設定されている設定値に対応する表示結果判定テーブルを参照して、MR1の値が図10-4（A）～（F）に示す大当りに対応するいずれかの当り判定値に一致すると、特別図柄に関して大当り（大当りA～大当りF）とすることを決定する。すなわち、設定値に応じた確率で大当りの当選を決定する。尚、図10-4（A）～（F）に示す「確率」は、大当りになる確率（割合）を示す。また、大当りにするか否か決定するということは、大当り遊技状態に制御するか否か決定するということであるが、第1特別図柄表示装置4Aまたは第2特別図柄表示装置4Bにおける停止図柄を大当り図柄にするか否か決定するということでもある。

30

【0786】

また、この実施例では、CPU103は、図10-4（A）～（F）に示す表示結果判定テーブルを用いて大当りとするか否かを判定するようになっているが、大当り判定テーブルを別個に設け、大当りの判定は、変動特図指定バッファによらず第1特別図柄の変動表示である場合と第2特別図柄の変動表示である場合とで共通のテーブルを用いて行うようにしてもよい。

40

【0787】

尚、この実施例では、パチンコ遊技機1に設定可能な設定値として1～6の計6個の設定値を設けているが、この発明はこれに限定されるものではなく、パチンコ遊技機1に設定可能な設定値は、2個、3個、4個、5個、または7個以上であってもよい。

【0788】

ここで、この実施例の主基板11における遊技球の集計及び役物比率等の表示について説明する。

【0789】

主基板11には、遊技の入賞に関する情報、例えば、第1始動入賞口（ヘソ）への入賞

50

による賞球数、第2始動入賞口（電チュー）への入賞による賞球数、大入賞口（アタッカー）への入賞による賞球数、賞球合計数が入力、発射球数が集計され、表示モニタ21TM029は、賞球合計数のうち大入賞口（アタッカー）への入賞による賞球数が占める割合である連比（％）、賞球合計数のうち第2始動入賞口（電チュー）への入賞による賞球数と大入賞口（アタッカー）への入賞による賞球数が占める割合である役比（％）、打ち出した遊技球数に対する賞球合計数が占める割合であるベース（％）を表示するようになっている。連比とは、賞球合計数のうち大入賞口（アタッカー）への入賞による賞球数（下記の連続役物獲得球数）が占める割合である。役比とは、賞球合計数のうち第2始動入賞口（電チュー）への入賞による賞球数と大入賞口（アタッカー）への入賞による賞球数（下記の役物獲得球数）が占める割合である。ベースとは、賞球合計数に対する打ち出した遊技球数が占める割合である。賞球合計数（下記の総獲得球数）は、大入賞口（アタッカー）への入賞による賞球数と、第2始動入賞口（電チュー）への入賞による賞球数と、大入賞口（アタッカー）及び第2始動入賞口（電チュー）以外の入賞口（第1始動入賞口、一般入賞口）への入賞による賞球数と、の総和である。なお、大入賞口（アタッカー）及び第2始動入賞口（電チュー）は、可変役物であり、遊技球の通過可能幅が変動することで、遊技球の入賞想定割合が変動する役物である。また、大入賞口（アタッカー）及び第2始動入賞口（電チュー）以外の入賞口（第1始動入賞口、一般入賞口）は、固定役物であり、遊技球の通過可能幅が固定されており、遊技球の入賞想定割合は一定の役物である。

10

【0790】

20

遊技の入賞に関する情報の集計、計算方法としては、連比と役比については、6000個の賞球数における第1始動入賞口（ヘソ）及び一般入賞口（ソデ）への入賞による賞球数（一般賞球数）、第2始動入賞口（電チュー）への入賞による賞球数である普通電役賞球数（電チュー賞球数）、大入賞口（アタッカー）への入賞による賞球数である特別電役賞球数（アタッカー賞球数）を集計する。その集計を1セットとし、10セット分、すなわち60000個分の連比（％）、役比（％）を算出する。なお、集計する第1始動入賞口（ヘソ）及び一般入賞口（ソデ）への入賞による賞球数（一般賞球数）、普通電役賞球数（電チュー賞球数）、特別電役賞球数（アタッカー賞球数）は、設定値毎に設けられたリングバッファに記録されるようになっており、少なくとも11セット分の記録容量があり、1セット毎に更新するようになっている。つまり、6000個の11セット分の記憶を相当数量（例えば、数バイト分）記憶しており、それらの累計の連比（％）、役比（％）を算出することができる。また、ベースについては、60000個の賞球数に対する打ち出した遊技球数を集計する。その集計を1セットとし、打ち出した遊技球数に対する60000個の賞球の占める割合（ベース（％））を算出する。

30

【0791】

表示モニタ21TM029は、6000個分の連比（％）、役比（％）、及び累計の連比（％）、役比（％）及び前回の賞球60000個に基づいて算出されたベース（ベース1（％））、直前の賞球60000個に基づいて算出されたベース（ベース2（％））を所定時間（例えば、5秒）毎に切り替えて表示することができる。すなわち、一つの表示手段で6つの表示を切り替えて表示するようになっている。この場合、全て表示を行うのに30秒要するが、遊技が進行することで集計される第1始動入賞口（ヘソ）への入賞による賞球数、第2始動入賞口（電チュー）への入賞による賞球数、大入賞口（アタッカー）への入賞による賞球数が変化することになる。とすると、例えば、6000個分の連比（％）を表示した後に入賞した賞球数を、その後に表示される60000個分の役比（％）に反映してしまうと、6000個分の連比（％）と60000個分の役比（％）とで食い違いが生じてしまうおそれがある。そこで、第1始動入賞口（ヘソ）への入賞による賞球数、第2始動入賞口（電チュー）の入賞による賞球数、大入賞口（アタッカー）への入賞による賞球数、賞球合計数が入力、集計は、切替表示における所定のタイミング（例えば、6000個分の連比（％）の表示タイミングなど）で行うようにすれば、このような食い違いを防ぐことができる。

40

50

【0792】

尚、この実施例における遊技の入賞に関する情報が記憶される記憶領域は、設定値毎に設けられており、一般入賞賞球や第1始動入賞口賞球、普通電役賞球、特別電役賞球、賞球合計、打込合計は、設定されている設定値に応じた記憶領域（リングバッファ）に記憶されるようになっている。このため、この実施例の連比、役比、ベースは、設定値毎に個別に算出可能となっている。

【0793】

以下に計算方法の一例として、賞球合計数が60000個であり、第2始動入賞口（電チュー）への入賞による賞球数と大入賞口（アタッカー）への入賞による賞球数との合計である役物獲得球数が42000個である場合の役物比率（役比（%））の計算方法を説明する。なお、以下の説明において、総獲得球数とは、パチンコ遊技機1から払い出された遊技媒体（賞球）の総累計数をいう。また、役物獲得球数とは、アタッカー及び電チューに遊技媒体が入賞することによって払い出された遊技媒体の累計数をいう。また、連続役物獲得球数とは、アタッカーに遊技媒体が入賞することによって払い出された遊技媒体の累計数をいう。打込合計とは、賞球数が60000個に達するまでにパチンコ遊技機1に打ち込まれた遊技媒体の累計数をいう。このため、連比は、下記（1）式で求めることができる。また、役比は、下記（2）式で求めることができる。また、ベースは下記（3）式で求めることができる。

【0794】

連比＝〔連続役物獲得球数／総獲得数〕×100・・・（1）

【0795】

役比＝〔（連続役物獲得球数＋役物獲得球数）／総獲得数〕×100・・・（2）

【0796】

ベース＝〔60000（賞球合計数）／打込合計〕×100・・・（3）

【0797】

賞球合計数が60000個であり、役物獲得球数が42000個である場合の役物比率は、42000を60000で除算することにより0.70（小数点以下3桁切り捨て）として求められる。しかしながら、パチンコ遊技機1に用いられるマイクロコンピュータは小数点以下の演算を行うことができないため、以下の手法での演算が必要となる。

【0798】

まず、第1の演算方法を説明する。第1の演算方法において、まず、役物獲得球数を100倍して420000とする。そしてこの420000を60000で除算する。これにより商として70が求められる。ここで求められた70より役物比率が70%として求められる。つまり、被除数を100倍することにより、小数点以下2桁までの演算結果を求められるようにしている。ここで、小数点以下3桁までの演算結果を求める場合1000倍すればよい。

【0799】

次に、第2の演算方法を説明する。第2の演算方法において、まず、賞球合計数を100で除算して600とする。そしてこの600で42000を除算する。これにより商として70が求められる。ここで求められた70より役物比率が70%として求められる。つまり、除数を100で除算することにより、小数点以下2桁までの演算結果を求められるようにしている。ここで、小数点以下3桁までの演算結果を求める場合1000で除算すればよい。

【0800】

上記した例で賞球合計数は60000個であるが、長い期間の役物比率を算出するために、賞球合計数を格納するための領域として3バイトの領域が設けられている。つまり本例では3バイトの格納領域に00EA60hとして格納される。また、同様に役物獲得球数も3バイトの格納領域に00A410hが格納される。

【0801】

ここで、パチンコ遊技機1に用いられるマイクロコンピュータは最大2バイトの値同士

10

20

30

40

50

の演算しか行うことができない。従って、演算を容易にするために、下位1バイトについて切り捨てを行ってもよい。

【0802】

ここで上記第2の演算方法を簡略化して行う第3の演算方法を説明する。第3の演算方法ではパチンコ遊技機1に用いられるマイクロコンピュータでの演算が容易になるように、賞球合計数の00EA60hに対し、下位1バイトの60hを切り捨て、賞球合計数を00EAh、つまり10進数表記で234を算出する。同じく、役物獲得球数の00A410hに対し、下位1バイトの10hを切り捨て、役物獲得球数を00A4h、つまり10進数表記で164を算出する。

【0803】

そして、上記第2の演算方法と同様に、賞球合計数を100で除算(273/100)して2を算出する。そして、この2で156を除算して、商として78が求められる。ここで求められた78より役物比率が78%として求められる。

【0804】

第3の演算方法ではパチンコ遊技機1で用いられるマイクロコンピュータでの演算が容易になる一方、+12%の誤差が生じる。ただし、賞球合計数および役物獲得球数がともに10倍の場合の誤差は+1%となる。つまり、役物比率を算出するための期間が長くなることにより誤差は縮小され、本来の数値に近似する。

【0805】

また、基板ケース21TM201は、透光性を有する材質で形成されており、主基板11、及び表示モニタ21TM029が視認可能になっている。基板ケース21TM201には主基板11に接続される配線コネクタが挿通する図示しない孔部と、主基板11の電気部品の熱を放出するための放熱孔とが形成されている。主基板11に設けられた表示モニタ21TM029は、放熱孔が真正面にはない位置に配置されている。このため放熱孔によって表示モニタ21TM029の視認性が遮られないようにされている。なお、ここでの「真正面」とは、主基板11を視点としての真正面を意味し、主基板11を視認しようとする従業員等と主基板11との間を意味する。

ここで、パチンコ遊技機1に用いられるマイクロコンピュータは最大2バイトの値同士の演算しか行うことができない。従って、演算を容易にするために、下位1バイトについて切り捨てを行ってもよい。

【0806】

ここで上記第2の演算方法を簡略化して行う第3の演算方法を説明する。第3の演算方法ではパチンコ遊技機1に用いられるマイクロコンピュータでの演算が容易になるように、賞球合計数の00EA60hに対し、下位1バイトの60hを切り捨て、賞球合計数を00EAh、つまり10進数表記で234を算出する。同じく、役物獲得球数の00A410hに対し、下位1バイトの10hを切り捨て、役物獲得球数を00A4h、つまり10進数表記で164を算出する。

【0807】

そして、上記第2の演算方法と同様に、賞球合計数を100で除算(273/100)して2を算出する。そして、この2で156を除算して、商として78が求められる。ここで求められた78より役物比率が78%として求められる。

【0808】

また、遊技の入賞に関する情報が記憶される記憶領域(リングバッファ、10セット合計バッファ(最大2バイトのカウンタを10個備えるリングバッファに記憶された遊技の入賞に関する情報を合計したもの)、賞球合計数バッファ)はリセットボタンが操作された場合に初期化は行われず、継続して記憶されてもよい。リングバッファについては後にさらに説明する。なお、記憶された値のチェックサムを算出し、異常が検出された場合に初期化を行ったり、記憶された賞球合計数の値よりも役物獲得球数の値が大きかったり、役物獲得球数の値よりも連続役物獲得球数の値が大きかったりした場合など、状況として起こりえない事象が検知された場合などには遊技の入賞に関する情報が記憶される記憶領

10

20

30

40

50

域の初期化処理を行ってもよい。また、初期化処理を行うことなく、エラー表示や警告表示などを行ってもよいし、エラー表示や警告表示を行うとともに、あるいは行った後に初期化処理を行ってもよい。エラー表示や警告表示については後にさらに説明する。

【0809】

役比(%)の計算は、例として総獲得球数を34321個、役物獲得球数を19876個とすると、19876個に対して34321個を除数として除算し、割合を計算する。 $19876 / 34321 = 0.57912 \dots$ となり約57.9%の役比(%)であることが算出される。遊技制御用マイクロコンピュータ100において演算を行う場合には小数点での計算を避けなければならないため、以下のような計算式に置き換える。 $19876 / 34321$ の除算において分母の34321を100で除算し、小数点を切り捨て、 $19876 / 343 = 57.9475 \dots$ となる。小数点以下は切り捨てられるため57%の役比(%)であることが算出され、表示モニタ21TMO29に表示されることとなり、この例の場合には正確な計算によって算出した値とは表示上では誤差がないものとなる。

10

【0810】

16ビットにおける最小値は32768(最上位ビットの値以外が0)で誤差が最大となる値は総獲得球数および役物獲得球数がそれぞれ32799であるときである。これを上記の方法で計算すると、 $32799 / 32799 = 100\%$ 、遊技制御用マイクロコンピュータ100での計算に置き換えると $32799 / 327 = 100.3\%$ で+0.3%の誤差となる。小数点を切り捨てて計算を行った場合に、例えば、正確な値が69.9%、遊技制御用マイクロコンピュータの計算による値が70.1%となった場合に69%→70%で表示上1%の誤差が表示されることが考えられるが、1%の誤差という表示上においても非常に小さい誤差で役比(%) (又は連比(%))が表示できる。

20

【0811】

また、上記の計算方法を用いる場合に、総獲得球数を100で除算するため、総獲得球数が100未満の場合には計算を行うことができない。さらに、32768未満である場合にも徐々に誤差が大きくなる。10000未満である場合には誤差が1%を超え、さらに大きな誤差となる場合がある。つまり、総獲得球数が少ないほど誤差が大きくなってしまふ。このため特定の数以上の総獲得球数(例えば16ビットの最小値である32768)をカウンタによって集計するまでは、表示モニタに役比(%)、連比(%)の表示を行わなかったり、表示を行ったとしても誤差が大きい可能性があることを専用のLEDの発光や、報知音を出力したり、表示された値を点滅表示させるなどして報知してもよい。

30

【0812】

また、表示モニタ21TMO29は役比(%)と、連比(%)と、ベース(%)を7セグメント上に表示するものであり、それぞれの値を所定期間毎(例えば5秒毎)に切り替えて表示する。この場合に、例えば役比(%)を5秒間表示している間に、電チューやアタッカーへ新たに遊技媒体が入賞するという事象が発生し、それに従い計算した値を5秒後に連比(%)の値として表示してしまうと、役比(%)と連役(%)との値が乖離してしまう虞がある。このため、役比(%)と連比(%)は同一割込み内で計算し算出された値を順次表示していくことが好ましい。

40

【0813】

また、7セグメントに表示可能な数値を2ケタとした場合(例えば7セグメントが2つ設けられている場合)に100%を100として表示ができなくなる。この場合には100の代わりに99を表示するようにしてもよい。図10-5(A)に示す表示モニタ21TMO29では、下位2桁に数値を表示可能としているが、この場合でも、上位2桁を使用することなく、数値を表示してもよい。あるいは、特定の条件の下で、上位2桁の一部に数値を表示してもよい。

【0814】

尚、この実施例では、アタッカーと電チューのそれぞれに設けられたセンサによって遊技媒体が入賞したことを検出し、その検出結果に基づいてそれぞれの賞球数を個別に集計

50

する形態を例示したが、この発明はこれに限定されるものではなく、アタッカーに入賞した遊技媒体と電チューに入賞した遊技媒体とが排出される排出通路が合流した後に設けられたセンサとを使い、その検出結果に基づいて役物獲得球数、連続役物獲得球数を集計するようにしてもよい。

【0815】

以下、連比、役比、ベースの表示について、より具体的に説明する。この実施例において主基板11は、遊技盤2（図10-3参照）の裏面側に設けられている。遊技盤2の裏面側には、主基板11以外の他、演出制御基板12などの各周辺基板も設けられている。

【0816】

主基板11におけるRAM102には、ゲート通過数カウンタ、第1始動入賞数カウンタ、第2始動入賞数カウンタ、第1一般入賞数カウンタ、第2一般入賞数カウンタ、第3一般入賞数カウンタ、第4一般入賞数カウンタ、大入賞数カウンタが設けられている。尚、この実施例では、大入賞口（アタッカー）の入賞数を大入賞数カウンタにて集計する形態を例示しているが、この発明はこれに限定されるものではなく、これら第1大入賞口への入賞数を集計する第1大入賞数カウンタと、第2大入賞口への入賞数を集計する第2大入賞数カウンタとを個別に設けて、第1大入賞口への入賞数と第2大入賞口への入賞数とを個別に集計し、これらの各入賞数を合計してアタッカーへの入賞数とするようにしてもよい。

【0817】

ゲート通過数カウンタは、ゲートスイッチ21が遊技球を検出した数を計数するカウンタである。第1始動入賞数カウンタは、第1始動口スイッチ22Aが遊技球を検出した数を計数するカウンタである。第2始動入賞数カウンタは、第2始動口スイッチ22Bが遊技球を検出した数を計数するカウンタである。第1一般入賞数カウンタ～第4一般入賞数カウンタは、第1一般入賞口スイッチ～第4一般入賞口スイッチが遊技球を検出した数を計数するカウンタである。大入賞数カウンタが、カウントスイッチ23が遊技球を検出した数を計数するカウンタである。

【0818】

尚、図10-3に示す、電源基板には、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052が接続されている。クリアスイッチ21TM052は、遊技盤2の裏側面において、従業員等が容易に操作できない位置に配置されている。クリアスイッチ21TM052を操作することにより、後に説明するRAM102に記憶された連比や役比に用いるデータがクリアされる。クリアスイッチは21TM052、連比や役比の算出などに障害が生じた場合など、連比や役比の算出をやり直さざるを得ない状態に陥った時に操作されるスイッチである。このため、通常の連比や役比の算出を行うためのデータの収集を行っている際には、操作する必要がないスイッチである。また、クリアスイッチ21TM052を操作すると、データのクリアのほかにクリアスイッチ操作信号が主基板11に送信される。

【0819】

尚、主基板11には、前述したように、RTC106が設けられおり、RTC106によって現在時刻を検出できる。RTC106は、初期設定を行うことで所定の時刻や経過時間などを測定できるが、この実施例においてRTC106は、遊技場の営業可能時間を計測可能とされている。

【0820】

主基板11は、図10-5（A）に示すように、基板ケース21TM201に収容されている。基板ケース21TM201には、かしめピン21TM011Bが取り付けられている。このかしめピン21TM011Bが設けられていることにより、主基板11が基板ケース21TM201に完全に封入された状態となり、主基板11に対する不正行為を防止するようになっている。基板ケース21TM201は、かしめられた基板ケース（以下「かしめ基板ケース」ともいう）である。

【0821】

また、表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 は、主基板 1 1 上に設けられている。また、基板ケース 2 1 T M 2 0 1 には、主基板 1 1 が封入されたことを証明するための封印シール 2 1 T M 0 1 1 S が貼られている。封印シール 2 1 T M 0 1 1 S は例えば基板ケース 2 1 T M 2 0 1 における取り外し部分をまたいで貼られている。封印シール 2 1 T M 0 1 1 S は、主基板 1 1 からは離れた位置に配置されており、表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 の真正面など、表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 の視認性が遮られる位置とは異なる位置に配置されている。このように、表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 は、封印シール 2 1 T M 0 1 1 S によって隠されない位置に配置されている。

【0822】

表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 は、第 1 表示部 2 1 T M 0 2 9 A、第 2 表示部 2 1 T M 0 2 9 B、第 3 表示部 2 1 T M 0 2 9 C、第 4 表示部 2 1 T M 0 2 9 D 及び第 5 表示部 2 1 T M 0 2 9 E を備えている。第 1 表示部 2 1 T M 0 2 9 A ～ 第 5 表示部 2 1 T M 0 2 9 E は、いずれも「8」の字を描く 7 つのセグメントによって構成される 7 セグメントと、7 セグメントの右側方下部に配置されたドットによって構成されている。これらの第 1 表示部 2 1 T M 0 2 9 A ～ 第 5 表示部 2 1 T M 0 2 9 E は、それぞれ種々の色、例えば赤色、青色、緑色、黄色、白色等で点灯、点滅可能とされている。また、これらの色を極短周期で変化させながら異なる色やいわゆるレインボーで表示させることもできる。

【0823】

表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 には、図 10-5 (B) に示す表示 N o 1 ～ 6 の各項目が表示される。1 桁目の第 1 表示部 2 1 T M 0 2 9 A には集計させた設定値 (1 ～ 6)、及び C P U 1 0 3 が設定変更モードの処理の後に実行する R A M クリアが完了したことを報知する R A M クリア報知 (「C」) が表示され、2 桁目の第 2 表示部 2 1 T M 0 2 9 B と 3 桁目の第 3 表示部 2 1 T M 0 2 9 C には集計期間が表示され、4 桁目の第 4 表示部 2 1 T M 0 2 9 D と 5 桁目の第 5 表示部 2 1 T M 0 2 9 E には数値が百分率で表示される。表示 N o 1 では、短期の連比が表示され、表示 N o 2 では、短期の役比が表示される。表示 N o 3 では、総累計の連比が表示され、表示 N o 4 では、総累計の役比が表示される。また、表示 N o 5 では、前回の賞球 6 0 0 0 0 個に基づいて算出されたベース (ベース 1) が表示され、表示 N o 6 では、直前の賞球 6 0 0 0 0 個に基づいて算出されたベース (ベース 2) が表示される。

【0824】

ここでの短期とは、払い出された賞球数 (獲得球数) が 6 0 0 0 個であった期間を意味する。総累計を求める期間は、連比、役比の算出を開始してからの通算、又は連比、役比の計算を一旦リセットしてからの通算の期間を意味する。

【0825】

なお、上記の例では、連比や役比、ベースは、遊技状態によらずに算出するが、遊技状態を考慮して算出してもよい。例えば、連比は、賞球合計数のうち、大当り遊技状態中の大入賞口への入賞による賞球数が占める割合としてもよい。また、役比は、賞球合計数のうち、高ベース状態中の第 2 始動入賞口への入賞による賞球数と大当り遊技状態中の大入賞口への入賞による賞球数が占める割合としてもよい。また、ベースは、低ベース状態と高ベース状態とで個別に算出してもよい。

【0826】

表示 N o 1 の短期連比が表示される場合には、第 2 表示部 2 1 T M 0 2 9 B 及び第 3 表示部 2 1 T M 0 2 9 C に「y 6 . 」が表示され、表示 N o 2 の短期役比が表示される場合には、第 2 表示部 2 1 T M 0 2 9 B 及び第 3 表示部 2 1 T M 0 2 9 C に「y 7 . 」が表示される。また、表示 N o 1 の短期連比が表示される場合には、第 4 表示部 2 1 T M 0 2 9 D 及び第 5 表示部 2 1 T M 0 2 9 E には、短期連比が百分率表示 (% 表示) され、表示 N o 2 の短期役比が表示される場合には、第 4 表示部 2 1 T M 0 2 9 D 及び第 5 表示部 2 1 T M 0 2 9 E には、短期役比が百分率表示 (% 表示) される。

【0827】

表示 N o 3 の総累計連比が表示される場合には、第 2 表示部 2 1 T M 0 2 9 B 及び第 3

10

20

30

40

50

表示部 2 1 T M 0 2 9 C に「A 6 . 」が表示され、表示 N o 4 の総累計役比が表示される場合には、第 2 表示部 2 1 T M 0 2 9 B 及び第 3 表示部 2 1 T M 0 2 9 C に「A 7 . 」が表示される。また、表示 N o 3 の総累計連比が表示される場合には、第 4 表示部 2 1 T M 0 2 9 D 及び第 5 表示部 2 1 T M 0 2 9 E には、総累計連比が百分率表示（% 表示）され、表示 N o 4 の総累計役比が表示される場合には、第 4 表示部 2 1 T M 0 2 9 D 及び第 5 表示部 2 1 T M 0 2 9 E には、総累計役比が百分率表示（% 表示）される。

【0828】

表示 N o 5 のベース 1 が表示される場合には、第 2 表示部 2 1 T M 0 2 9 B 及び第 3 表示部 2 1 T M 0 2 9 C に「b L . 」が表示され、表示 N o 4 のベース 2 が表示される場合には、第 2 表示部 2 1 T M 0 2 9 B 及び第 3 表示部 2 1 T M 0 2 9 C に「B 6 . 」が表示される。また、表示 N o 5 のベース 1 が表示される場合には、第 4 表示部 2 1 T M 0 2 9 D 及び第 5 表示部 2 1 T M 0 2 9 E には、総累計連比が百分率表示（% 表示）され、表示 N o 6 のベース 2 が表示される場合には、第 4 表示部 2 1 T M 0 2 9 D 及び第 5 表示部 2 1 T M 0 2 9 E には、総累計役比が百分率表示（% 表示）される。

【0829】

主基板 1 1 は、連比、役比及びベースを算出するにあたり、大入賞口（アタッカー）、第 1 始動入賞口、第 2 始動入賞口、及び第 1 一般入賞口から第 4 一般入賞口に進入した遊技球の進入数と、排出口から排出された遊技球数の集計を行っている。C P U 1 0 3 は、メイン処理において、ゲートスイッチ 2 1、第 1 始動口スイッチ 2 2 A 及び第 2 始動口スイッチ 2 2 B、カウントスイッチ 2 3、並びに、第 1 一般入賞口スイッチ～第 4 一般入賞口スイッチ、排出口スイッチ 2 1 T M 0 7 0 の各スイッチの状態（検出信号の有無）を確認するスイッチ処理を行っている。

【0830】

このスイッチ処理において、各スイッチから出力される検出信号に基づいて、いずれの進領域に遊技球が進入したのかを特定する。そして、ゲートスイッチ 2 1 から検出信号が出力された場合には、ゲート通過数カウンタの値を加算し、第 1 始動口スイッチ 2 2 A、第 2 始動口スイッチ 2 2 B から検出信号が出力された場合には、第 1 始動入賞数カウンタ、第 2 始動入賞数カウンタの値を加算し、カウントスイッチ 2 3 から検出信号が出力された場合には、大入賞数カウンタの値を加算し、第 1 一般入賞口スイッチ、第 2 一般入賞口スイッチ、第 3 一般入賞口スイッチ、第 4 一般入賞口スイッチから検出信号が出力された場合には、第 1 一般入賞数カウンタ、第 2 一般入賞数カウンタ、第 3 一般入賞数カウンタ、第 4 一般入賞数カウンタの値を加算し、排出口スイッチ 2 1 T M 0 7 0 から検出信号が出力された場合には、打込数カウンタの値を加算することで、各進領域への遊技球の進入数（各入賞口への遊技球の入賞数）を集計する。なお、各カウンタの値は R A M 1 0 2 に記憶されている。

【0831】

このように、各進領域への遊技球の進入数を集計するためのステップを、各進領域に対応したスイッチの状態を確認する一連の処理において併せて実行する（スイッチの状態確認処理であるスイッチ処理に含める）ことにより、別途の集計プログラムを実行させることなく、即ち、実行プログラムが増加することによる容量不足という問題を生じさせることなく、各進領域への遊技球の進入数を集計可能となっている。

【0832】

主基板 1 1 の C P U 1 0 3 は、集計した各入賞口への遊技球の入賞数に基づいて、各入賞口への入賞による賞球数を算出し、算出した賞球数を入賞口ごとに R A M 1 0 2 に記憶させる。遊技球の入賞による賞球数は、入賞口に対する 1 回の入賞で払い出される遊技球数と、当該入賞口への入賞回数を乗じた数で算出される。遊技球の入賞による賞球数は、入賞口毎にあらかじめ定められている。

【0833】

ここで区分される入賞口ごとの賞球数は、図 1 0 - 6 に示すように、一般入賞口賞球（第 1 一般入賞口～第 4 一般入賞口（ソデ）への入賞による賞球）、第 1 始動入賞口賞球（

第1始動入賞口（ヘソ）への入賞による賞球）、普通電役賞球（電チューへの入賞による賞球）、特別電役賞球（アタッカーへの入賞による賞球）の賞球数である。また、RAM 102は、総賞球数や打ち込まれた遊技球数も記憶している。なお、CPU 103では、一般入賞口への遊技球の入賞数及び第1始動入賞口への遊技球入賞数を個別に集計しているが、一般入賞口への遊技球の入賞数及び第1始動入賞口への遊技球入賞数をまとめて集計してもよい。また、一般入賞口賞球の賞球数と、第1始動入賞口賞球の賞球数とを個別に算出しているが、一般入賞口賞球の賞球数と、第1始動入賞口賞球の賞球数とをまとめて算出してもよい。

【0834】

RAM 102は、これらの賞球数や打込数を記憶するためのリングバッファとアクティブバッファを備えている。リングバッファは、6000個の賞球数ごとの各入賞口への入賞による賞球数を記憶する最大2バイトのカウンタからなる10個の第1記憶領域～第10記憶領域を備えている。このように、リングバッファでは、所定単位（最大2バイト）の記憶領域を備えている。また、アクティブバッファは、6000個の賞球数ごとの各入賞口への入賞による賞球数を記憶する最大2バイトのカウンタからなる第0記憶領域を備えている。第0記憶領域には、遊技の進行によって増加する入賞口毎の賞球数が加算される。第0記憶領域～第10記憶領域の11個の記憶領域は、 $256 \times 256 = 65536$ のデータを記憶可能であり、6000個までのデータは余裕をもって記憶できる。

【0835】

また、RAM 102には、入賞口毎に、第1記憶領域～第10記憶領域に記憶された賞球数（10セット分）や打込数の総和と、総累計との記憶領域が設けられている。10セット分の総和及び総累計の記憶領域は、最大3バイトのカウンタで構成されている、このため、 $256 \times 256 \times 256 = 16777216$ のデータを記憶可能であり、6000個までのデータは余裕をもって記憶できる。

【0836】

また、RAM 102には、10セット分及び総累計の役比及び連比を記憶する連比役比記憶領域と、10セット分のベース（ベース2）と前回の10セット分のベース（ベース1）を記憶するベース記憶領域と、を備えている。主基板11のCPU 103では、10セット分及び総累計の各入賞口への遊技球の入賞数に基づく賞球数によって、10セット分及び総累計の役比及び連比を算出し、10セット分及び総累計の役比及び連比を記憶する連比役比記憶領域に記憶させる。10セット分及び総累計の役比及び連比を記憶する連比役比記憶領域は、いずれも最大1バイトのカウンタで構成されている。10セット分及び総累計の役比及び連比は、例えば整数で記憶させる場合には、最大1バイトのカウンタで余裕をもって記憶できる。

【0837】

また、主基板11のCPU 103では、10セット分の各入賞口への遊技球の入賞数に対する打込数によって、10セット分のベースを算出し、該10セット分のベース（ベース2）と前回の10セット分の各入賞口への遊技球の入賞数に対する打込数によって算出したベース（ベース1）とをベース記憶領域に記憶させる。ベース1とベース2は、例えば整数で記憶させる場合には、最大1バイトのカウンタで余裕をもって記憶できる。

【0838】

ここで、主基板11のCPU 103のメモリ空間について説明する。図10-7は主基板におけるCPUのメモリマップを示した図である。CPU 103は、上述の内蔵レジスタ、ROM 101、RAM 102などにアクセスするためのメモリ空間を有している。具体的には、図10-7のメモリマップに示すように、ROM 101のアドレス／データ信号線は、メモリ空間のROM領域（この実施形態では、0000H～2FFFFH（Hは16進数を示す。以下、同じ）のうち、0000H～2FBFH。2FC0H～2FFFFHはプログラム管理エリア）に割り当てられ、CPU 103は、このROM領域を指定してROM 101からのデータの読み出しを行う。また、この実施例では、ROM領域を第一領域～第八領域の8つの領域に分けて管理を行っており、第一領域は0000Hから始ま

10

20

30

40

50

る領域としている。

【0839】

また、内蔵レジスタのアドレス／データ信号線は、メモリ空間のレジスタエリア（この実施形態では、F E 0 0 H～F E B F H）に割り当てられ、C P U 1 0 3 は、このレジスタエリアを介して内蔵レジスタからのデータの読み出しやレジスタへのデータの書き込みを行う。

【0840】

また、R A M 1 0 2 のアドレス／データ信号線は、メモリ空間のRWM領域（この実施形態では、F 0 0 0 H～F 3 F F H）に割り当てられ、C P U 1 0 3 は、このRWM領域を指定してR A M 1 0 2 からのデータの読み出しやR A M 1 0 2 へのデータの書き込みを行う。なお、メモリ空間の他の領域（この実施形態では、3 0 0 0 H～E F F F H、F 4 0 0 H～F D F F H、F E C 0 H～F F F F H）は非使用領域とされている。

10

【0841】

また、R A M 1 0 2 の記憶領域に対応するR A M領域（この実施形態では、0 0 0 0 H～2 F F F Hの16 Kバイト領域）は、図10-8に示すように、R A M制御領域、非使用領域、R A Mデータ領域及びその他領域で構成されている。このR A M制御領域に対応するR A M 1 0 2 の記憶領域には、C P U 1 0 3 が実行する複数種類の命令それぞれに対応する命令データ（オペコード）やC P U 1 0 3 がそれぞれの命令を実行するために必要な補足データ（オペランド）によって構成される制御プログラム用のデータ（単に、制御プログラムデータと称する場合がある）が一時的に記憶され、R A Mデータ領域に対応するR A M 1 0 2 の記憶領域には、上記の制御プログラムによって参照される参照データ（例えば、上述の各種抽選データ）が一時的に記憶される。

20

【0842】

また、非使用領域に対応するR A M 1 0 2 の記憶領域及びその他領域に対応するR A M 1 0 2 の記憶領域には、連比や役比の表示に用いるデータが一時的記憶される。例えば、非使用領域に対応するR A M 1 0 2 の記憶領域には、入賞口毎の賞球数の総累計を記憶する記憶領域及び総累計の連比役比記憶領域が設けられている。またその他領域に対応するR A M 1 0 2 の記憶領域には、入賞口毎の第0記憶領域を備えるアクティブバッファ、第1記憶領域～第10記憶領域を備えるリングバッファ、入賞口毎の賞球数（10セット分）の総和の記憶領域、及び10セット分の連比役比記憶領域が設けられている。なお、非使用領域に対応するR A M 1 0 2 の記憶領域と、その他領域に対応するR A M 1 0 2 の記憶領域とには、サブルーチンの先頭アドレスが互いに異なるデータがそれぞれ記憶されている。

30

【0843】

なお、この実施形態では、R A M領域の各々のアドレスに対応するR A M 1 0 2 の記憶領域には、1バイト（8ビット）のデータが記憶可能であり、上述の各データ（命令データ、補足データ、参照データ、管理データ）が1バイトを超えるバイト数（例えば、2バイト）のデータである場合には、R A M制御領域の連続する複数のアドレスに対応するR A M 1 0 2 の記憶領域に1バイト毎に分割して記憶している。

【0844】

40

また、主基板11は、表示モニタ21 T M 0 2 9 に対して、連比、役比、ベースを表示する制御を行う。ここで、主基板11は、複数の項目を順次表示する制御を行う。図10-9（A）は、役物比率表示装置に表示される項目の表示時間を示すタイムチャートである。図10-9（A）に示すように、表示モニタ21 T M 0 2 9 に対する表示を開始すると、まず表示N o 1 の短期連比が表示される。表示N o 1 の短期連比の表示は、緑字で表示される。表示N o 1 の短期連比の表示では、図10-9（B-1）に示すように、第1表示部21 T M 0 2 9 A に設定値である「1」が表示され、第2表示部21 T M 0 2 9 B に「y」の文字が表示され、第3表示部21 T M 0 2 9 C に「6.」の文字が表示される。また、第4表示部21 T M 0 2 9 D 及び第5表示部21 T M 0 2 9 E には、短期連比が表示される。例えば、短期連比が41%の場合、第4表示部21 T M 0 2 9 D に「4.」

50

の文字が表示され、第5表示部21TM029Eに「1.」の文字が表示される。

【0845】

表示No1の表示が5秒間継続すると、表示No2の短期役比が表示される。表示No2の短期連比の表示は、赤字で表示される。表示No2の短期役比の表示では、図10-9(B-2)に示すように、第1表示部21TM029Aに設定値である「1」が表示され、第2表示部21TM029Bに「y」の文字が表示され、第3表示部21TM029Cに「7.」の文字が表示される。また、第4表示部21TM029D及び第5表示部21TM029Eには、短期役比が表示される。例えば、短期役比が63%の場合、第4表示部21TM029Dに「4.」の文字が表示され、第5表示部21TM029Eに「3.」の文字が表示される。

10

【0846】

表示No2の表示が5秒間継続すると、表示No3の総累計連比が表示される。表示No3の総累計連比の表示は、赤字で表示される。表示No3の総累計連比の表示では、図10-9(B-3)に示すように、第1表示部21TM029Aに設定値である「1」が表示され、第2表示部21TM029Bに「A」の文字が表示され、第3表示部21TM029Cに「6.」の文字が表示される。また、第4表示部21TM029D及び第5表示部21TM029Eには、総累計連比が表示される。例えば、総累計連比が58%の場合、第4表示部21TM029Dに「5.」の文字が表示され、第5表示部21TM029Eに「8.」の文字が表示される。

【0847】

20

表示No3の表示が5秒間継続すると、表示No4の総累計役比が表示される。表示No4の総累計役比の表示は、赤字で表示される。表示No4の総累計役比の表示では、図10-9(B-4)に示すように、第1表示部21TM029Aに設定値である「1」が表示され、第2表示部21TM029Bに「A」の文字が表示され、第3表示部21TM029Cに「7.」の文字が表示される。また、第4表示部21TM029D及び第5表示部21TM029Eには、総累計役比が表示される。例えば、総累計役比が68%の場合、第4表示部21TM029Dに「6.」の文字が表示され、第5表示部21TM029Eに「8.」の文字が表示される。

【0848】

表示No4の表示が5秒間継続すると、図10-9(B-5)に示すように、表示No5のベース1が表示される。表示No5のベース1の表示は、赤字で表示される。表示No5のベース1の表示では、図10-9(B-5)に示すように、第1表示部21TM029Aに設定値である「1」が表示され、第2表示部21TM029Bに「b」の文字が表示され、第3表示部21TM029Cに「L.」の文字が表示される。また、第4表示部21TM029D及び第5表示部21TM029Eには、前回の賞球60000個に基づいて算出したベース1が表示される。例えば、ベース1が40%の場合、第4表示部21TM029Dに「4.」の文字が表示され、第5表示部21TM029Eに「0.」の文字が表示される。

30

【0849】

表示No5の表示が5秒間継続すると、図10-9(B-6)に示すように、表示No6のベース2が表示される。表示No6のベース2の表示は、赤字で表示される。表示No6のベース2の表示では、図10-9(B-6)に示すように、第1表示部21TM029Aに設定値である「1」が表示され、第2表示部21TM029Bに「b」の文字が表示され、第3表示部21TM029Cに「6.」の文字が表示される。また、第4表示部21TM029D及び第5表示部21TM029Eには、直前の賞球60000個に基づいて算出したベース2が表示される。例えば、ベース2が42%の場合、第4表示部21TM029Dに「4.」の文字が表示され、第5表示部21TM029Eに「2」の文字が表示される。

40

【0850】

そして、表示No5の表示が5秒間継続すると図10-9(B-1)に示すように、表

50

示N o 1の短期連比が表示される。表示N o 1の短期連比が表示される。以後、表示N o 1の短期連比～表示N o 6のベース2の表示が5秒毎に順次表示される。また、その表示の色は、表示N o 1の短期連比のみが緑色とされ、表示N o 2の短期役比～表示N o 5のベース2は赤色とされる。このように、表示モニタ21 T M 0 2 9は、短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース1、ベース2を5秒ごとに切り替えて表示する。

【0851】

更に、これら短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース1、ベース2の表示は、図18 (A)～図18 (B)に示すように、表示切替スイッチ21 T M 0 3 0の操作に基づいて、設定値が「1」の場合の短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース1、ベース2の表示、設定値が「2」の場合の短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース1、ベース2の表示、設定値が「3」の場合の短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース1、ベース2の表示に順次変更することが可能となっている。尚、設定値が「1」の場合の短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース1、ベース2の表示中に表示切替スイッチ21 T M 0 3 0が操作された場合は、第1表示部21 T M 0 2 9 Aに表示される数値が「2」に更新されるとともに、第4表示部21 T M 0 2 9 D及び第5表示部21 T M 0 2 9 Eに表示される短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース1、ベース2の数値が設定値「2」の値に切り替わる。

10

【0852】

また、設定値が「2」の場合の短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース1、ベース2の表示中に表示切替スイッチ21 T M 0 3 0が操作された場合は、第1表示部21 T M 0 2 9 Aに表示される数値が「3」に更新されるとともに、第4表示部21 T M 0 2 9 D及び第5表示部21 T M 0 2 9 Eに表示される短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース1、ベース2の数値が設定値「3」の値に切り替わる。

20

【0853】

また、設定値が「3」の場合の短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース1、ベース2の表示中に表示切替スイッチ21 T M 0 3 0が操作された場合は、第1表示部21 T M 0 2 9 Aに表示される数値が「4」に更新されるとともに、第4表示部21 T M 0 2 9 D及び第5表示部21 T M 0 2 9 Eに表示される短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース1、ベース2の数値が設定値「4」の値に切り替わる。

【0854】

また、設定値が「4」の場合の短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース1、ベース2の表示中に表示切替スイッチ21 T M 0 3 0が操作された場合は、第1表示部21 T M 0 2 9 Aに表示される数値が「5」に更新されるとともに、第4表示部21 T M 0 2 9 D及び第5表示部21 T M 0 2 9 Eに表示される短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース1、ベース2の数値が設定値「5」の値に切り替わる。

30

【0855】

また、設定値が「5」の場合の短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース1、ベース2の表示中に表示切替スイッチ21 T M 0 3 0が操作された場合は、第1表示部21 T M 0 2 9 Aに表示される数値が「6」に更新されるとともに、第4表示部21 T M 0 2 9 D及び第5表示部21 T M 0 2 9 Eに表示される短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース1、ベース2の数値が設定値「6」の値に切り替わる。

40

【0856】

そして、設定値が「6」の場合の短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース1、ベース2の表示中に表示切替スイッチ21 T M 0 3 0が操作された場合は、第1表示部21 T M 0 2 9 Aに表示される数値が「1」に更新されるとともに、第4表示部21 T M 0 2 9 D及び第5表示部21 T M 0 2 9 Eに表示される短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース1、ベース2の数値が設定値「1」の値に切り替わる。

【0857】

尚、この実施例の表示モニタ21 T M 0 2 9においては、各設定値における連比、役比、ベースを表示可能な形態を例示しているが、この発明はこれに限定されるものではなく

50

、表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 においてはこれら連比、役比、ベースのうち、1 の数値のみ、或いはいずれか 2 の数値のみ表示可能であってもよい。

【0 8 5 8】

また、この実施例では、付与された賞球数に基づく情報である連比、役比、ベースを算出し、これら連比、役比、ベースを表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 にて表示する形態を例示しているが、この発明はこれに限定されるものではなく、連比、役比、ベースを算出せずに、表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 には、付与された賞球数の履歴を表示するようにしてもよい。

【0 8 5 9】

また、この実施例では、表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 において、短期連比のみ赤色で表示し、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース 1、ベース 2 については緑色にて表示しているが、この発明はこれに限定されるものではなく、短期連比と短期役比、総累計連比及び総累計役比を同色にて表示し、ベース 1 とベース 2 とについては短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比とは異なる同一の色にて表示してもよい。

【0 8 6 0】

また、主基板 1 1 では、アクティブバッファにおける第 0 記憶領域の賞球合計が所定の容量である 6 0 0 0 個に到達すると、リングバッファにおける第 0 記憶領域～第 1 0 記憶領域の記憶を更新する。さらには、1 0 セット分の総和及び総累計の記憶領域、1 0 セット分及び総累計の役比及び連比を記憶する連比役比記憶領域の記憶をそれぞれ更新する。

【0 8 6 1】

アクティブバッファ及びリングバッファにおける更新では、アクティブバッファの第 0 記憶領域に記憶されている数値をリングバッファの第 1 記憶領域に移動させる。また、リングバッファの第 1 記憶領域～第 9 記憶領域に記憶されている数値をそれぞれ第 2 記憶領域～第 1 0 記憶領域に移動させる。例えば、図 1 0 - 1 0 に示すように、第 0 記憶領域～第 9 記憶領域における一般入賞口賞球の賞球数がそれぞれ「2 7」「8 1」「1 2 0」「3 6」「2 2 5」「8 7」「6 6」「1 1 7」「4 5」「2 1」であったとする。このときに、アクティブバッファの第 0 記憶領域における賞球合計が 6 0 0 0 個に到達すると、第 1 記憶領域～第 1 0 記憶領域における一般入賞口賞球の賞球数をそれぞれ「2 7」「8 1」「1 2 0」「3 6」「2 2 5」「8 7」「6 6」「1 1 7」「4 5」「2 1」に更新する。また、第 0 記憶領域の賞球数を「0」とし、第 1 0 記憶領域の賞球数を消去する。

【0 8 6 2】

第 0 記憶領域～第 1 0 記憶領域に記憶される賞球数を更新する際には、記憶している賞球数を一旦消去してから新たな賞球数を記憶させてもよい。あるいは、記憶されている賞球数に上書きする形で新たな賞球数を記憶させてもよい。

【0 8 6 3】

次に、この実施例におけるパチンコ遊技機 1 の動作（作用）を説明する。主基板 1 1 では、所定の電源基板からの電力供給が開始されると、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 が起動し、C P U 1 0 3 によって遊技制御メイン処理となる所定の処理が実行される。図 1 0 - 1 1 に示すように、遊技制御メイン処理を開始すると、C P U 1 0 3 は、プログラムの内容が正当か否か確認するための処理であるセキュリティチェック処理を実行した後、ステップ S 2 1 T M 1 0 1 0 以降の遊技制御メイン処理を開始する。遊技制御メイン処理において、C P U 1 0 3 は、まず、必要な初期設定を行う。

【0 8 6 4】

初期設定処理において、C P U 1 0 3 は、まず、割込禁止に設定する（ステップ S 2 1 T M 1 0 1 0）。次に、割込モードを割込モード 2 に設定し（ステップ S 2 1 T M 1 0 2 0）、スタックポインタにスタックポインタ指定アドレスを設定する（ステップ S 2 1 T M 1 0 3 0）。次いで、演出制御基板 1 2 が動作を開始するまでのウェイトを行う（ステップ S 2 1 T M 1 0 4 0）。

【0 8 6 5】

そして、C P U 1 0 3 は、内蔵デバイスの初期化（内蔵デバイス（内蔵周辺回路）であ

10

20

30

40

50

るCTC（カウンタ／タイマ）およびPIO（パラレル入出力ポート）の初期化など）を行った後（ステップS21TM1050）、RAM102をアクセス可能状態に設定する（ステップS21TM1060）。なお、割込モード2は、CPU103が内蔵する特定レジスタ（Iレジスタ）の値（1バイト）と内蔵デバイスが出力する割込ベクタ（1バイト：最下位ビット0）とから合成されるアドレスが、割込番地を示すモードである。

【0866】

また、図10-12に示すように、CPU103は、錠スイッチ21TM051がONとなっているか否かを判定する（ステップS21TM1110）。錠スイッチ21TM051がONとなっていない場合（ステップS21TM1110；NO）は、ステップS21TM1310に進む。錠スイッチ21TM051がONとなっている場合（ステップS21TM1110；YES）は、CPU103は、入力ポートを介して入力されるクリアスイッチ（電源基板に搭載されている設定切替スイッチ）21TM052の出力信号（クリア信号）の状態を確認する（ステップS21TM1120）。 10

【0867】

クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052の出力信号（クリア信号）の状態確認において、ON状態を検出した場合には（ステップS21TM1120でYES）、CPU103は、設定値を変更可能な設定変更モードに移行する。即ち、CPU103は、電源投入時に錠スイッチ21TM051がONであるという第1条件が成立しており、且つ、電源投入時にクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052がONであるという第2条件が成立していることに基づいて、処理状態を設定変更モードに制御する。 20

【0868】

CPU103は、設定変更モードに移行することに伴い、情報出力回路112から設定変更対応信号を出力すると共に、セキュリティ信号を出力する（ステップS21TM1130）。これにより、各遊技機の遊技情報を管理するホールコンピュータ等の外部装置において、設定変更対応信号及びセキュリティ信号が入力されていることに基づいて、これらの信号の出力元である遊技機が設定変更モード又は後述する設定確認モードに制御されていることを特定可能である。従って、当該外部装置が備える表示装置において、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている遊技機（例えば台番号等）を特定可能に報知することが可能となる。

【0869】

また、CPU103は、演出制御基板12に対する演出制御コマンドとして、設定変更モードに制御されたことを指定する設定変更モードコマンドを送信する（ステップS21TM1140）。演出制御用CPU120は、設定変更モードコマンドを受信したことに基づいて、遊技制御用マイクロコンピュータ100が設定変更モードに移行したことを特定可能である。従って、画像表示装置5において当該遊技機が設定変更モードに制御されていることを報知することが可能となる。 30

【0870】

そして、CPU103は、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値を読み出して、表示モニタ21TM029に表示させる（ステップS21TM1150）。そして、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052の操作を待機する（ステップS21TM1160）と共に、錠スイッチ21TM051のOFF操作を待機する（ステップS21TM1180）。 40

【0871】

クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052の操作待機状態において、CPU103は、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052が操作される毎に（ステップS21TM1160でYES）、表示モニタ21TM029に表示している設定値を変更する（ステップS21TM1170）。例えば、後述するように、設定変更操作を受け付ける毎に、表示している設定値を1ずつ増加させ、6まで達した後は1に戻す表示制御を実行する。

【0872】

また、錠スイッチ21TM051のOFF操作を待機している状態において、CPU103は、錠スイッチ21TM051のOFF操作を検出すると（ステップS21TM1180でYES）、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値を、表示モニタ21TM029に表示している設定値に変更する（ステップS21TM1190）。即ち、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値を、表示している設定値で書きすることにより、設定値を確定させる。そして、確定した設定値（RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値）を表示モニタ21TM029に表示させる（ステップS21TM1190）。

【0873】

なお、ステップS21TM1160において、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052が操作されることなく（ステップS21TM1160でYESと判定されることなく）、錠スイッチ21TM051のOFF操作が行われた場合（ステップS21TM1180でYESと判定された場合）には、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値と、表示モニタ21TM029に表示している設定値が一致している状態のため、結果として、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値は変更されない。

【0874】

ステップS21TM1200の処理が実行されると、設定変更モードが終了し、CPU103は、後述する図10-13に示すステップS21TM1410の初期化処理に移行する。

【0875】

前述したステップS21TM1120におけるクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052の出力信号（クリア信号）の状態確認において、OFF状態を検出した場合には（ステップS21TM1120でNO）、CPU103は、設定値を確認可能な設定確認モードに移行する。即ち、CPU103は、電源投入時に錠スイッチ21TM051がONであるという第1条件は成立しているが、電源投入時にクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052がONであるという第2条件は成立していないことに基づいて、処理状態を設定確認モードに制御する。

【0876】

CPU103は、設定確認モードに移行することに伴い、情報出力回路112から設定変更対応信号を出力すると共に、セキュリティ信号を出力する（ステップS21TM1210）。これにより、各遊技機の遊技情報を管理するホールコンピュータ等の外部装置において、設定変更対応信号及びセキュリティ信号が入力されていることに基づいて、これらの信号の出力元である遊技機が設定変更モード又は設定確認モードに制御されていることを特定可能である。従って、当該外部装置が備える表示装置において、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている遊技機（例えば台番号等）を特定可能に報知することが可能となる。

【0877】

また、CPU103は、演出制御基板12に対する演出制御コマンドとして、設定確認モードに制御されたことを指定する設定確認モードコマンドを送信する（ステップS21TM1220）。演出制御用CPU120は、設定確認モードコマンドを受信したことに基づいて、遊技制御用マイクロコンピュータ100が設定確認モードに移行したことを特定可能である。従って、画像表示装置5において当該遊技機が設定確認モードに制御されていることを報知することが可能となる。

【0878】

そして、CPU103は、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値を読み出して、表示モニタ21TM029に表示させる（ステップS21TM1230）。そして、錠スイッチ21TM051のOFF操作を待機する（ステップS21TM1240）。

【0879】

また、錠スイッチ21TM051のOFF操作を待機している状態において、CPU103は、錠スイッチ21TM051のOFF操作を検出すると（ステップS21TM1240でYES）、設定確認モードが終了し、CPU103は、後述する図10-13に示すステップS21TM1320の、電源断検出処理が実行されたか否かの判定処理に移行する。

【0880】

前述したステップS21TM1110で、錠スイッチがOFFの状態であると判定された場合には（ステップS21TM1110でNO）、CPU103は、図10-13に示すように、入力ポートを介して入力されるクリアスイッチ（電源基板に搭載されている設定切替スイッチ）21TM052の出力信号（クリア信号）の状態を確認する（ステップS21TM1310）。

10

【0881】

クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052の出力信号（クリア信号）の状態確認において、ON状態でない場合には（ステップS21TM1310でNO）、CPU103は、電源断検出処理（図10-14参照）を実行したか否かを、所定のバックアップ領域にチェックデータが格納されているか否かに基づいて判定する（ステップS21TM1320）。

【0882】

本例において、このステップS21TM1320の処理が実行されるケースとして、（1）電源投入時に錠スイッチ21TM051がOFFであり、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052もOFFであったことに基づいて、設定変更モード及び設定確認モードの何れにも移行することなく直ちにステップS21TM1320の処理が実行される場合と、（2）電源投入時に錠スイッチ21TM051がONであり、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052がOFFであったことに基づいて、設定確認モードに移行し、その設定確認モードの終了後にステップS21TM1320の処理が実行される場合と、が存在する。

20

【0883】

バックアップデータが格納されている場合、CPU103は、バックアップRAM領域のデータチェックを行う（ステップS21TM1330）。この実施例では、データチェックとしてパリティチェックを行う。よって、ステップS21TM1330では、算出したチェックサムと、電源断検出処理で同一の処理によって算出され保存されているチェックサムとを比較する。不測の停電等の電力供給停止が生じた後に復旧した場合には、バックアップRAM領域のデータは保存されているはずであるから、チェック結果（比較結果）は正常（一致）になる。チェック結果が正常でないということは、バックアップRAM領域のデータが、電力供給停止時のデータとは異なっていることを意味する。そのような場合には、内部状態を電力供給停止時の状態に戻すことができないので、電力供給の停止からの復旧時でない電源投入時に実行される初期化処理を実行する（ステップS21TM1330でNOと判定されてステップS21TM1410に移行する）。

30

【0884】

チェック結果が正常であれば（ステップS21TM1330でYES）、CPU103は、遊技制御用マイクロコンピュータ100を電力供給停止時の状態に戻すための遊技状態復旧処理（ステップS21TM1340及びステップS21TM1350の処理）を行う。具体的には、ROM101に格納されているバックアップ時設定テーブルの先頭アドレスをポインタに設定し（ステップS21TM1340）、バックアップ時設定テーブルの内容を順次作業領域（RAM102内の領域）に設定してステップS21TM1360に進む（ステップS21TM1350）。作業領域はバックアップ電源によって電源バックアップされている。バックアップ時設定テーブルには、作業領域のうち初期化してもよい領域についての初期化データが設定されている。ステップS21TM1340及びステップS21TM1350の処理によって、作業領域のうち初期化してはならない部分については、保存されていた内容がそのまま残る。初期化してはならない部分とは、例えば、

40

50

電力供給停止前の遊技状態を示すデータ（特別図柄プロセスフラグ、確変フラグ、時短フラグ、保留記憶、規制部材状態指定フラグ、初期化済フラグなど）、出力ポートの出力状態が保存されている領域（出力ポートバッファ）、未払出賞球数を示すデータが設定されている部分などである。設定値格納領域（確定した設定値が格納されている領域）も、初期化してはならない部分に含まれる。また、設定値毎に、連比、役比、及びベース等の各集計値（表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 に表示可能な遊技情報）が記憶されている領域も、初期化してはならない部分に含まれる。

【0885】

次いで、CPU 1 0 3 は、RAM 1 0 2 の設定値格納領域に格納されている設定値を読み出す（ステップ S 2 1 T M 1 3 6 0）。後述する遊技制御用タイマ割込処理では、ここで読み出された設定値に基づいて特別図柄プロセス処理（ステップ S 2 1 T M 1 6 9 0）における大当たり判定が実行される。次いで、CPU 1 0 3 は、電力供給復旧時のコマンドとしてのバックアップコマンド（復旧時のコマンド）を送信する（ステップ S 2 1 T M 1 3 7 0）。演出制御用 CPU 1 2 0 では、このバックアップコマンド（復旧時のコマンド）を受信したことに基

10

ついで、電力供給停止時のデータに基づいて電源断からの復旧が行われたことを認識する。演出制御用 CPU 1 2 0 は、バックアップコマンドを受信すると、例えば画像表示装置 5、スピーカ 8 L、8 R、遊技効果ランプ 9 等の演出装置において、電力供給停止時のデータに基づいて電源断からの復旧が行われたことを報知することが可能である。次いで、CPU 1 0 3 は、ステップ S 2 1 T M 1 4 7 0 の設定コマンド送信処理を実行する。

20

【0886】

尚、ステップ S 2 1 T M 1 3 1 0 で、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）2 1 T M 0 5 2 がオンの状態である場合（ステップ S 2 1 T M 1 3 1 0 ; Y E S）や、ステップ S 2 1 T M 1 3 2 0 でバックアップデータが格納されていない場合（ステップ S 2 1 T M 1 3 2 0 ; N O）、ステップ S 2 1 T M 1 3 3 0 でパリティチェックの結果が正常でない場合（ステップ S 2 1 T M 1 3 3 0 ; N O）場合は、初期化処理を実行する（ステップ S 2 1 T M 1 4 1 0）。

【0887】

本例において、ステップ S 2 1 T M 1 4 1 0 の初期化処理が実行されるケースとして、（1）電源投入時に錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 が O F F であり、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）2 1 T M 0 5 2 が O N であったことに基

30

づいて、設定変更モード及び設定確認モードの何れにも移行することなく直ちにステップ S 2 1 T M 1 4 1 0 の初期化処理が実行される場合と、（2）電源投入時に錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 が O F F であり、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）2 1 T M 0 5 2 も O F F であったことに基

づいて、ステップ S 2 1 T M 1 3 2 0 又はステップ S 2 1 T M 1 3 3 0 の何れかで N O と判定されたことを条件として、設定変更モード及び設定確認モードの何れにも移行することなく直ちにステップ S 2 1 T M 1 4 1 0 の初期化処理が実行される場合と、（3）電源投入時に錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 が O N であり、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）2 1 T M 0 5 2 も O N であったことに基

づいて、設定変更モードに移行し、その設定変更モードの終了後にステップ S 2 1 T M 1 4 1 0 の初期化処理が実行される場合と、（4）電源投入時に錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 が O N であり、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）2 1 T M 0 5 2 が O F F であったことに基

づいて、設定確認モードに移行し、その設定確認モードの終了後にステップ S 2 1 T M 1 3 2 0 又はステップ S 2 1 T M 1 3 3 0 の何れかで N O と判定されたことを条件として、ステップ S 2 1 T M 1 4 1 0 の初期化処理が実行される場合と、が存在する。

40

【0888】

初期化処理では、CPU 1 0 3 は、まず、RAM クリア処理を行う（ステップ S 2 1 T M 1 4 1 0）。RAM クリア処理では、RAM 1 0 2 の遊技状態情報格納領域に格納されている電力供給停止前の遊技状態を示すデータ（特別図柄プロセスフラグ、確変フラグ、時短フラグ、保留記憶等）はクリアされて、初期値が設定されるが、RAM 1 0 2 の設定

50

値格納領域に格納されている設定値はクリアされず、RAMクリア処理の前から変更されない。また、設定値毎に、連比、役比、及びベース等の各集計値（表示モニタ21TM029に表示可能な遊技情報）が記憶されている領域も、クリアされず、これら設定値毎の各集計値は、RAMクリア処理の前から変更されない。そして、表示モニタ21TM029に「C」の文字を表示すること等により、遊技状態が初期化されたことを報知する（ステップS21TM1420）。なお、RAMクリア処理によって、所定のデータ（例えば、普通図柄当り判定用乱数を生成するためのカウンタのカウント値のデータ）は0に初期化されるが、任意の値またはあらかじめ決められている値に初期化するようにしてもよい。また、RAM102の全領域を初期化せず、所定のデータ（例えば、普通図柄当り判定用乱数を生成するためのカウンタのカウント値のデータ）をそのままにしてもよい。また、ROM101に格納されている初期化時設定テーブルの先頭アドレスをポインタに設定し（ステップS21TM1430）、初期化時設定テーブルの内容を順次作業領域に設定する（ステップS21TM1440）。

10

【0889】

また、ステップS21TM1430およびステップS21TM1440の処理によって、例えば、普通図柄当り判定用乱数カウンタ、特別図柄バッファ、総賞球数格納バッファ、特別図柄プロセスフラグなど制御状態に応じて選択的に処理を行うためのフラグに初期値が設定される。

【0890】

尚、この実施例では、錠スイッチ21TM051がONとなっていることを条件に設定変更モード、設定確認モードに移行する形態を例示しているが、この発明はこれに限定されるものではなく、更に遊技機用枠3が開放されていること（遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300により遊技機用枠3が開放状態となっていることが検出されていること）を条件として設定変更モード、設定確認モードに移行可能としてもよい。

20

【0891】

ステップS21TM1430、ステップS21TM1440の実行後、CPU103は、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値を読み出す（ステップS21TM1450）。後述する遊技制御用タイマ割込処理では、ここで読み出された設定値に基づいて特別図柄プロセス処理（ステップS21TM1690）における大当り判定が実行される。次いで、CPU103は、電源投入時（あるいは、設定変更モード又は設定確認モードの終了時）に初期化処理が行われたことを指定する初期化コマンドを送信する（ステップS21TM1460）。演出制御用CPU120では、この初期化コマンドを受信したことに基づいて、初期化処理が行われたことを認識する。演出制御用CPU120は、初期化コマンドを受信すると、例えば画像表示装置5、スピーカ8L、8R、遊技効果ランプ9等の演出装置において、遊技状態等の初期化が行われたことを報知することが可能である。次いで、CPU103は、ステップS21TM1470の設定コマンド送信処理を実行する。

30

【0892】

CPU103は、ステップS21TM1360又はステップS21TM1450で読み出した設定値を指定する設定コマンドを、演出制御用CPU120に送信する（ステップS21TM1470）。設定コマンドを受信した演出制御用CPU120は、設定コマンドが指定する設定値に応じた演出を実行することにより、設定値を示唆することが可能である。例えば、大当り遊技状態が終了したときに実行されるエンディング演出の態様を、指定された設定値に応じて異ならせることで、遊技者に設定値を示唆することが可能である。

40

【0893】

そして、CPU103は、シリアル通信回路21TM505の設定処理を実行する（ステップS21TM1480）。この設定処理では、主基板11の出力回路21TM067から払出制御基板21TM037の入力回路21TM373Aに接続確認信号が出力される（図10-19及び図10-21を参照）。また、遊技制御用マイクロコンピュータ1

50

00のシリアル通信回路21TM505と、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370のシリアル通信回路21TM380との通信を実行可能な状態に設定する。

【0894】

次に、CPU103は、乱数回路104を初期設定する乱数回路設定処理を実行する（ステップS21TM1490）。CPU103は、例えば、乱数回路設定プログラムに従って処理を実行することによって、乱数回路104に特図表示結果判定用の乱数値MR1の値を更新させるための設定を行う。

【0895】

そして、ステップS21TM1500において、CPU103は、所定時間（例えば2ms）毎に定期的にタイマ割込がかかるように遊技制御用マイクロコンピュータ100に内蔵されているCTCのレジスタの設定を行う。すなわち、初期値として例えば2msに相当する値が所定のレジスタ（時間定数レジスタ）に設定される。この実施例では、2ms毎に定期的にタイマ割込がかかるとする。

【0896】

次いで、CPU103は、表示用乱数更新処理（ステップS21TM1520）および初期値用乱数更新処理（ステップS21TM1530）を繰返し実行する。表示用乱数更新処理および初期値用乱数更新処理を実行するときには割込禁止状態に設定し（ステップS21TM1510）、表示用乱数更新処理および初期値用乱数更新処理の実行が終了すると割込許可状態に設定する（ステップS21TM1540）。この実施例では、表示用乱数とは、大当たりとしない場合の特別図柄の停止図柄を決定するための乱数や大当たりとしない場合にリーチとするか否かを決定するための乱数であり、表示用乱数更新処理とは、表示用乱数を発生するためのカウンタのカウント値を更新する処理である。また、初期値用乱数更新処理とは、初期値用乱数を発生するためのカウンタのカウント値を更新する処理である。この実施例では、初期値用乱数とは、普通図柄に関して当たりとするか否か決定するための乱数を発生するためのカウンタ（普通図柄当たり判定用乱数発生カウンタ）のカウント値の初期値を決定するための乱数である。後述する遊技の進行を制御する遊技制御処理（遊技制御用マイクロコンピュータ100が、遊技機に設けられている演出表示装置、可変入賞球装置、球払出装置等の遊技用の装置を、自身で制御する処理、または他のマイクロコンピュータに制御させるために指令信号を送信する処理、遊技装置制御処理ともいう）において、普通図柄当たり判定用乱数のカウント値が1周（普通図柄当たり判定用乱数の取りうる値の最小値から最大値までの間の数値の個数分歩進したこと）すると、そのカウンタに初期値が設定される。

【0897】

図10-12及び図10-13に示した例では、設定変更モードに制御された場合、CPU103は、設定変更モードコマンド（ステップS21TM1140）を送信した後に、電源投入時の初期化コマンドを送信し（ステップS21TM1460）、設定コマンドを送信する（ステップS21TM1470）。また、設定確認モードに制御された場合、CPU103は、設定確認モードコマンド（ステップS21TM1220）を送信した後に、電源断復旧時のバックアップコマンド又は電源投入時の初期化コマンドを送信し（ステップS21TM1370又はステップS21TM1460）、設定コマンドを送信する（ステップS21TM1470）。従って、演出制御用CPU120は、設定変更モードコマンドを受信した後に初期化コマンドを受信したことに基づいて、設定変更モードの終了を特定可能であり、画像表示装置5、スピーカ8L、8R、遊技効果ランプ9等の演出装置により設定変更モードの終了を報知することが可能である。また、演出制御用CPU120は、設定確認モードコマンドを受信した後にバックアップコマンド又は初期化コマンドを受信したことに基づいて、設定確認モードの終了を特定可能であり、画像表示装置5、スピーカ8L、8R、遊技効果ランプ9等の演出装置により設定確認モードの終了を報知することが可能である。

【0898】

こうした遊技制御メイン処理を実行したCPU103は、CTCからの割込み要求信号

を受信して割込み要求を受付けると、図10-14のフローチャートに示す遊技制御用タイマ割込み処理を実行する。図10-14に示す遊技制御用タイマ割込み処理を開始すると、CPU103は、まず、電源断検出処理を実行する（ステップS21TM1610）。そして、遊技停止エラーが発生しているか否かを判定し（ステップS21TM1615）、遊技停止エラーが発生していないことを条件として（ステップS21TM1615でNO）、所定のスイッチ処理を実行することにより、スイッチ回路110を介してゲートスイッチ21、第1始動口スイッチ22A、第2始動口スイッチ22B、カウントスイッチ23、排出口スイッチ21TM070といった各種スイッチから入力される検出信号の状態を判定する（ステップS21TM1620）。一方、遊技停止エラーが発生している場合には（ステップS21TM1615でYES）、ステップS21TM1620のスイッチ処理は実行されず、結果として遊技が停止される。

10

【0899】

例えば、遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300により、遊技機用枠3の開放状態が検出されていること、ガラス扉枠3aの開放状態が検出されていること、不図示の磁気センサにより異常と判定されるレベルの磁気検出されていること、不図示の振動センサにより異常と判定されるレベルの振動が検出されていること、不図示の電波センサにより異常と判定されるレベル及び周波数帯の電波が検出されていることに基づいて、遊技停止エラーが発生していると判定される。

【0900】

続いて、第1始動入賞口、第2始動入賞口、大入賞口、第1一般入賞口～第4一般入賞口、のいずれかに遊技球が入賞した場合、つまり、第1始動口スイッチ22A、第2始動口スイッチ22B、カウントスイッチ23、第1一般入賞口スイッチ～第4一般入賞口スイッチからの検出信号の入力があった場合には、各検出信号による入賞に対応した賞球個数の設定などを行う賞球処理（ステップS21TM1630）を実行する。

20

【0901】

次いで、CPU103は、役比、連比、ベース等の入賞情報を算出する入賞情報処理（ステップS21TM1640）、該入賞情報処理にて算出された役比、連比、ベース等の入賞情報を表示モニタ21TM029に表示する入賞情報表示制御処理（ステップS21TM1650）を行う。その後、所定のメイン側エラー処理（ステップS21TM1660）を実行することにより、パチンコ遊技機1の異常診断を行い、その診断結果に応じて必要ならば警告を実行可能とする。なお、ステップS21TM1660において、ステップS1615の説明で述べた各種センサによる異常（遊技停止エラー）の検出を行い、異常を検出した場合には、異常検出フラグをセットして、次のタイマ割込におけるステップS21TM1615において遊技停止させる（スイッチ処理を実行させない）ようにしても良い。この後、所定の情報出力処理を実行することにより、例えばパチンコ遊技機1の外部に設置されたホール管理用コンピュータに供給される大当たり情報、始動情報、確率変動情報、払出情報などのデータを出力する（ステップS21TM1670）。

30

【0902】

情報出力処理に続いて、主基板11の側で用いられる乱数値MR1や乱数値MR1～MR4といった遊技用乱数の少なくとも一部をソフトウェアにより更新するための遊技用乱数更新処理を実行する（ステップS21TM1680）。この後、CPU103は、特別図柄プロセス処理を実行する（ステップS21TM1690）。特別図柄プロセス処理では、遊技制御フラグ設定部に設けられた特図プロセスフラグの値をパチンコ遊技機1における遊技の進行状況に応じて更新し、第1特別図柄表示装置4Aや第2特別図柄表示装置4Bにおける表示動作の制御や、特別可変入賞球装置7における大入賞口の開閉動作設定などを、所定の手順で行うために、各種の処理が選択されて実行される。

40

【0903】

特別図柄プロセス処理に続いて、普通図柄プロセス処理が実行される（ステップS21TM1700）。CPU103は、普通図柄プロセス処理を実行することにより、普通図柄表示器20における表示動作（例えばセグメントLEDの点灯、消灯など）を制御して

50

、普通図柄の変動表示や可変入賞球装置 6 B における可動翼片の傾動動作設定などを可能にする。

【0904】

普通図柄プロセス処理を実行した後、CPU 103 は、コマンド制御処理を実行することにより、主基板 11 から演出制御基板 12 などのサブ側の制御基板に対して制御コマンドを送信させる（ステップ S 21 TM 1710）。これらの一例として、コマンド制御処理では、遊技制御バッファ設定部に設けられた送信コマンドバッファの値によって指定されたコマンド送信テーブルにおける設定に対応して、I/O 105 に含まれる出力ポートのうち、演出制御基板 12 に対して演出制御コマンドを送信するための出力ポートに制御データをセットした後、演出制御 INT 信号の出力ポートに所定の制御データをセットして演出制御 INT 信号を所定時間にわたりオン状態としてからオフ状態とすることなどにより、コマンド送信テーブルでの設定に基づく演出制御コマンドの伝送を可能とする。コマンド制御処理を実行した後は、割込み許可状態に設定してから、遊技制御用タイマ割込み処理を終了する。

10

【0905】

尚、ステップ S 21 TM 1710 のコマンド制御処理においては、パチンコ遊技機 1 に設定されている設定値を通知するためのコマンドを送信すること、または、変動パターンや変動表示が終了したことを通知するためのコマンド等の既存コマンドにパチンコ遊技機 1 に設定されている設定値の情報を含ませて送信することによって、演出制御基板 12 に対して定期的に設定値を通知するようにしてもよい。更に、演出制御基板 12（演出制御用 CPU 120）は主基板 11 からこれらコマンドを受信することによって、設定されている設定値を示唆する演出を変動表示中や大当たり遊技中等、様々タイミングにて実行してもよい。

20

【0906】

図 10-12 及び図 10-13 に示したように、設定変更モードに制御された場合には、必ず RAM クリア（ステップ S 21 TM 1410）が実行されるようになっている。これは、図 10-4 に示したように、設定値に応じて大当たりと判定される乱数の範囲が異なるためである。例えば、設定変更前の始動入賞時に抽出された大当たり判定用乱数が、変更前の設定値との関係では大当たりと判定されたものの、変更後の設定値との関係でははずれと判定される事象や、これとは逆に、変更前の設定値との関係でははずれと判定されたものの、変更後の設定値との関係では大当たりと判定される事象が生じうる。このような場合に、設定変更前の始動入賞時に抽出された大当たり判定用乱数に基づいて、設定変更後の遊技を継続させる（特別図柄プロセス処理を含む遊技制御用タイマ割込処理を実行させる）ことは不適切であるため、遊技状態を初期化することにより保留記憶（特別図柄の保留記憶、普通図柄の保留記憶）をクリアして、保留記憶数を初期値（0）とするようにしている。

30

【0907】

また、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間は、ステップ S 21 TM 1540 の割込許可が行われない結果、遊技制御用タイマ割込処理におけるスイッチ処理（ステップ S 21 TM 1620）も行われず、始動入賞やゲート通過等は無効となっている。これは、設定変更モードに制御されている期間は乱数回路設定処理（ステップ S 21 TM 1490）等が未だ実行されておらず、乱数の更新が行われていないためである。仮に、設定変更モードに制御されている期間において始動入賞に基づいて乱数を抽出してしまうと、始動入賞のタイミングによらず同じ乱数値になってしまい、このような乱数値に基づいて遊技を進行させることは不適切であるため、始動入賞やゲート通過を無効化している。

40

【0908】

次に、設定変更モード（メイン処理のステップ S 21 TM 1130 からステップ S 21 TM 1200）、及び、RAM クリア（メイン処理のステップ S 21 TM 1410 からステップ S 21 TM 1420）に関連した処理における表示モニタ 21 TM 029 の表示態

50

様について説明する。先ず、図10-15(A)に示すように、遊技場の店員等の操作によって電源がOFFとなる(電源断させる)と、パチンコ遊技機1への電力の供給が停止することによって表示モニタ21TM029での表示が終了する。

【0909】

次に、図10-15(B)に示すように、錠スイッチ21TM051がONとなっていること(メイン処理のステップS21TM1110でY)を条件に、遊技場の店員等がクリアスイッチ(設定切替スイッチ)21TM052を操作しつつ電源を投入すると(メイン処理のステップS21TM1120でYの場合)、CPU103によってステップS21TM1130及びステップS21TM1140の処理が実行され、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値(この例では、設定値「1」)が、RAM102の設定情報一時記憶領域にコピーされ、表示モニタ21TM029(より正確には第1表示部21TM029A)において該設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値(この例では、設定値「1」)が表示される(ステップS21TM1150)。

10

【0910】

このように第1表示部21TM029Aにて設定値が表示されている状態において、図10-15(C)に示すように、CPU103は、遊技場の店員等によるクリアスイッチ(設定切替スイッチ)21TM052の操作を検出する毎に、第1表示部21TM029Aに表示している数値(設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値)を順次更新表示していく(ステップS21TM1170)。例えば、クリアスイッチ(設定切替スイッチ)21TM052が操作される毎に、第1表示部21TM029Aに表示している数値(設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値)を、1→2→3→4→5→6→1→・・・のように更新表示していく。ここで、クリアスイッチ(設定切替スイッチ)21TM052が操作されても、その操作によってはRAM102の設定値格納領域に格納されている設定値(この例では、設定値「1」)自体は変更されず、後述する錠スイッチ21TM051のOFF操作が実行されたときに、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値(この例では、設定値「1」)が、第1表示部21TM029Aに表示されている数値(この例では、設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値「2」)に変更される(上書きされる)。

20

【0911】

次いで、図10-15(D)に示すように、CPU103は、遊技場の店員等による錠スイッチ21TM051のOFF操作を検出(ステップS21TM1180でYES)したことにともづいて、RAM102の設定値格納領域に格納されていた設定値(この例では、設定値「1」)が、第1表示部21TM029Aに表示されている数値(この例では、設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値「2」)に変更され(上書きされ)、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値(この例では、設定値「2」)が確定する(ステップS21TM1190)。このとき、CPU103は、第1表示部21TM029Aを点滅表示させることによって、遊技場の店員等に新たな設定値がRAM102の設定値格納領域に格納され、設定変更モードの制御が終了したことを報知(設定完了報知)する(ステップS21TM1200)。

30

【0912】

なお、一旦錠スイッチ21TM051がOFF操作された後は、クリアスイッチ(設定切替スイッチ)21TM052が操作されても、第1表示部21TM029Aに表示されている数値(この例では、設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値「2」)、及び、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値(この例では、設定値「2」)は何れも変更されない。仮に、設定値が確定した後にも第1表示部21TM029Aに表示される数値が変更可能であると、錠スイッチ21TM051がOFFの状態でも設定値が変更可能であると誤解させてしまうおそれがある。そのため、この実施形態では、一旦錠スイッチ21TM051がOFF操作された後は、第1表示部21TM029Aに表示される数値を変更させないようにしている。

40

【0913】

50

そして、設定変更モード（ステップS 2 1 T M 1 1 3 0からステップS 2 1 T M 1 2 0 0）を終了し、C P U 1 0 3は、R A Mクリアの処理を実行する（ステップS 2 1 T M 1 4 1 0）。R A Mクリア処理では、R A M 1 0 2の遊技状態情報格納領域に格納されている電源断発生時の遊技状態を示すデータ（特別図柄プロセスフラグ、確変フラグ、時短フラグ、保留記憶等）がクリアされて、初期値が設定されることにより、遊技状態が初期化されるが、R A M 1 0 2の設定値格納領域に格納されている設定値はクリアされず、R A Mクリア処理の前から変更されない。また、R A M 1 0 2のバックアップ領域に保留記憶が記憶されている場合は、該保留記憶がクリアされる。R A Mクリアの処理が終了した後、C P U 1 0 3は、第1表示部2 1 T M 0 2 9 Aに「C」を表示させることによって、遊技場の店員等にR A Mクリアの処理が実行されたことを報知（R A Mクリア報知）する（ステップS 2 1 T M 1 4 2 0）。これにより、遊技場の店員等は、設定変更モードが終了して（設定値が確定して）、初期化処理が実行されたことを把握する。そして、ステップS 2 1 T M 1 4 3 0以降の処理を実行することによって遊技が可能な状態、つまり、変動表示結果や大当たり種別、変動パターンの決定抽選や、賞球の払出等が実行可能な状態となる。

10

【0914】

尚、この実施例の設定変更モードでは、表示モニタ2 1 T M 0 2 9に表示する初期表示として、R A M 1 0 2の設定値格納領域に格納されている設定値を表示する形態を例示しているが、この発明はこれに限定されるものではなく、設定変更モードにおいて表示モニタ2 1 T M 0 2 9に表示する初期表示としては、遊技者にとって最も有利な設定値（この実施例であれば「6」）、或いは、遊技者にとって最も不利な設定値（この実施例であれば「1」）を表示するようにしてもよい。

20

【0915】

また、C P U 1 0 3は、設定変更モードの終了に伴い、R A Mクリア報知後に、表示モニタ2 1 T M 0 2 9に、確定した設定値（R A M 1 0 2の設定値格納領域に格納されている設定値）に対応した、連比、役比、及びベース等の各集計値を表示させるようにしても良い。また、設定値毎に、各設定値に対応した連比、役比、及びベース等の各集計値を、順番（設定値の昇順又は降順）に表示モニタ2 1 T M 0 2 9に表示させるようにしても良い。

【0916】

30

なお、設定変更モードに制御されているときに、錠スイッチ2 1 T M 0 5 1がO F F状態とされることなく電源断が発生した場合には、錠スイッチ2 1 T M 0 5 1がO F F状態とされていないことにより、R A M 1 0 2の設定値格納領域に格納されていた設定値は、電源投入時から変更されておらず、設定情報一時記憶領域に記憶されていた設定値は削除される。

【0917】

次に、設定確認モード（ステップS 2 1 T M 1 2 1 0からステップS 2 1 T M 1 2 4 0）の処理における表示モニタ2 1 T M 0 2 9の表示態様について説明する。先ず、図10-16（A）に示すように、遊技場の店員等の操作によって電源がO F Fとなる（電源断させる）と、パチンコ遊技機1への電力の供給が停止することによって表示モニタ2 1 T M 0 2 9での表示が終了する。

40

【0918】

次に、図10-16（B）に示すように、錠スイッチ2 1 T M 0 5 1がO Nとなっていること（メイン処理のステップS 2 1 T M 1 1 1 0でY）を条件に、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）2 1 T M 0 5 2がO F Fの状態では電源を投入すると（メイン処理のステップS 2 1 T M 1 1 2 0でNの場合）、C P U 1 0 3によってステップS 2 1 T M 1 2 1 0及びステップS 2 1 T M 1 2 2 0の処理が実行され、R A M 1 0 2の設定値格納領域に格納されている設定値（この例では、設定値「1」）が、R A M 1 0 2の設定情報一時記憶領域にコピーされ、表示モニタ2 1 T M 0 2 9（より正確には第1表示部2 1 T M 0 2 9 A）において該設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値（この例では、設定値「

50

1」)が表示される(ステップS21TM1230)。

【0919】

なお、設定変更モードに制御されているときと異なり、設定確認モードに制御されているときには、遊技場の店員等によりクリアスイッチ(設定切替スイッチ)21TM052の操作が行われても、第1表示部21TM029Aに表示している数値(この例では、設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値「1」)は更新表示されない。仮に、設定確認モードに制御されているときに、遊技場の店員等によりクリアスイッチ(設定切替スイッチ)21TM052の操作が行われたことにより、第1表示部21TM029Aに表示している数値(この例では、設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値「1」)が更新表示されてしまうと、設定確認モードにおいて、設定値が変更可能であると誤解させてしまうおそれがある。そのため、この実施形態では、設定確認モードに制御されているときには、クリアスイッチ(設定切替スイッチ)21TM052の操作が行われても、第1表示部21TM029Aに表示している数値(この例では、設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値「1」)は更新表示されないようにしている。

10

【0920】

そして、CPU103は、遊技場の店員等による錠スイッチ21TM051のOFF操作を検出(ステップS21TM1240でYES)したことにもとづいて、設定確認モードを終了する。ステップS21TM1320以降の処理を実行することによって遊技が可能な状態、つまり、変動表示結果や大当り種別、変動パターンの決定抽選や、賞球の払出等が実行可能な状態となる。すなわち、設定確認モードの処理を実行した場合、CPU103は、ステップS21TM1320又はステップS21TM1330でNOと判定された場合を除き、RAMクリアに関連した処理を実行しない。

20

【0921】

なお、錠スイッチ21TM051がOFF操作された後は、前述したように、クリアスイッチ(設定切替スイッチ)21TM052が操作されても、第1表示部21TM029Aに表示されている数値(この例では、設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値「1」)、及び、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値(この例では、設定値「1」)は何れも変更されない。

【0922】

以上に示したように、パチンコ遊技機1への電力供給が開始されるときに、(1)錠スイッチ21TM051がON状態であり、且つ、クリアスイッチ(設定切替スイッチ)21TM052もON状態である、という、設定変更モードに制御するための条件が成立している場合には、遊技機が設定変更モードに制御され、(2)錠スイッチ21TM051がON状態であり、且つ、クリアスイッチ(設定切替スイッチ)21TM052はOFF状態である、という、設定確認モードに制御するための条件が成立している場合には、遊技機が設定確認モードに制御されることになる。

30

【0923】

遊技場の店員等は、設定値を変更又は表示させるため(設定変更モード又は設定確認モードに移行させるため)には、電源投入時に錠スイッチ21TM051をON状態とするが、このとき、設定変更モードに移行させるためには、さらに初期化処理を実行させるための操作(クリアスイッチ(設定切替スイッチ)21TM052の操作)を行い、設定確認モードに移行させるためには、当該初期化処理を実行させるための操作を行わない。このように、遊技場の店員等は、電源投入時に遊技機を設定変更モード及び設定確認モードの何れに制御させるのか(あるいは何れにも制御させないか)を選択可能であると共に、初期化処理を実行させるか否かについても選択可能となっている。

40

【0924】

また、この実施形態では、遊技機を設定確認モードに移行させるために初期化処理が必要とはならない(ステップS21TM1320又はステップS21TM1330でNOと判定された場合を除いてRAMクリアが実行されない)。そのため、遊技者が遊技を行っているときに遊技場の店員等が設定値を確認したい場合等に、一旦電源を落として、その

50

後の電源投入時に設定確認モードに移行させても、遊技状態が初期化されず、遊技者の不利益となることがない。遊技場側では、設定確認モードによって、設定値の確認を支障無く行うことが可能となる。

【0925】

また、CPU103は、設定確認モードの終了に伴い、表示モニタ21TM029に、表示した設定値（RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値）に対応した、連比、役比、及びベース等の各集計値を表示させるようにしても良い。また、設定値毎に、各設定値に対応した連比、役比、及びベース等の各集計値を、順番（設定値の昇順又は降順）に表示モニタ21TM029に表示させるようにしても良い。

【0926】

図10-17は、設定変更モード、設定確認モードに制御されたときに、パチンコ遊技機1の演出装置（画像表示装置5、スピーカ8L、8R、及び、遊技効果ランプ9）により設定変更モード、設定確認モードに移行したことの報知が行われる例を示している。図10-17（1）は、設定変更モードに制御されたときに画像表示装置5に表示される画像の例、図10-17（2）は、設定確認モードに制御されたときに画像表示装置5に表示される画像の例を、それぞれ示している。

【0927】

図10-17（1）の（A）に示すように、電源投入時（特にステップS21TM1040の演出制御基板動作待ちのウェイトが完了する前）は、演出制御基板12の起動が完了していない。よって、画像表示装置5には画像が表示されておらず、スピーカ8L、8Rから音は出力されず、遊技効果ランプ9は発光していない状態となっている。

【0928】

次に、図10-17（1）の（B）に示すように、メイン処理におけるステップS21TM1140でCPU103から演出制御基板12に送信される設定変更モードコマンドを受信したことに基づいて、演出制御用CPU120は、遊技制御用マイクロコンピュータ100が設定変更モードに移行したことを特定して、その旨を報知可能である。例えば、画像表示装置5において「設定変更中」の文字を表示し、スピーカ8L、8Rから設定変更モードに移行したことを報知する音声（例えば「設定変更中です」という音声）を出力し、遊技効果ランプ9を所定の発光態様（例えば白色の点滅態様）で発光させることにより、設定変更モードに移行したことを報知する。このような構成によれば、パチンコ遊技機1の中で最も大きな表示領域を備えた画像表示装置5等において、設定変更モードに移行されていることを報知することが可能であるため、設定変更モードに制御されていることを明確に把握可能となる。ここで、図10-17（1）の（B）に示す状態では、画像表示装置5におけるその他の表示情報（例えば、演出図柄や小図柄、第4図柄、右打ち表示等）を表示しない。

【0929】

なお、演出制御用CPU120が設定変更モードコマンドを受信したときに、VDP（Video Display Processor）により、映像信号を画像表示装置5に供給可能な状態となっていないと（即ち、表示制御部123により画像表示装置5の制御が可能となっていないときには）、映像信号を画像表示装置5に供給可能な状態となるまで（即ち、表示制御部123により画像表示装置5の制御が可能となるまで）、画像表示装置5による報知は行わず、音声報知及び発光報知を先行して実行する。即ち、スピーカ8L、8Rから設定変更モードに移行したことを報知する音声（例えば「設定変更中です」という音声）を出力し、遊技効果ランプ9を所定の発光態様（例えば白色の点滅態様）で発光させることにより、設定変更モードに移行に移行したことを報知する。その後、映像信号を画像表示装置5に供給可能な状態となったときに（即ち、表示制御部123により画像表示装置5の制御が可能となったときに）、上記音声報知及び上記発光報知に加えて、画像表示装置5による報知を開始する。即ち、画像表示装置5において「設定変更中」の文字を表示する。

【0930】

そして、図10-17(1)の(C)に示すように、メイン処理におけるステップS21TM1470でCPU103から演出制御基板12に送信される設定コマンドを受信したことに基づいて(あるいは、ステップS21TM1460でCPU103から演出制御基板12に送信された電源投入時の初期化コマンドを受信したことに基づいて)、演出制御用CPU120は、遊技制御用マイクロコンピュータ100が設定変更モードを終了したことを特定して、その旨を報知可能である。例えば、画像表示装置5において「設定変更終了」の文字を表示し、スピーカ8L, 8Rから出力されていた設定変更モードに移行したことを報知する音声(例えば「設定変更中です」という音声)の出力を停止し、遊技効果ランプ9による所定の発光態様(例えば白色の点滅態様)での発光を停止することにより、設定変更モードが終了したことを報知する。このような構成によれば、パチンコ遊技機1の中で最も大きな表示領域を備えた画像表示装置5等において、設定変更モードが終了したことを報知することが可能であるため、設定変更モードが終了したことを明確に把握可能となる。

10

【0931】

そして、図10-17(1)の(D)に示すように、CPU103は、メイン処理のステップS21TM1480以降の処理を実行し、遊技可能な状態になったこと(遊技制御用タイマ割込処理が実行されたこと)に伴って、画像表示装置5においてデモ画面を表示するための演出制御用コマンドを送信し、これを受信した演出制御用CPU120は、画像表示装置5にデモ画面を表示する。

【0932】

20

図10-17(2)の(A)に示すように、電源投入時(特にステップS21TM1040の演出制御基板動作待ちのウェイトが完了する前)は、演出制御基板12の起動が完了していない。よって、画像表示装置5には画像が表示されておらず、スピーカ8L, 8Rから音は出力されず、遊技効果ランプ9は発光していない状態となっている。

【0933】

次に、図10-17(2)の(B)に示すように、メイン処理におけるステップS21TM1220でCPU103から演出制御基板12に送信される設定確認モードコマンドを受信したことに基づいて、演出制御用CPU120は、遊技制御用マイクロコンピュータ100が設定確認モードに移行したことを特定して、その旨を報知可能である。例えば、画像表示装置5において「設定確認中」の文字を表示し、スピーカ8L, 8Rから設定確認モードに移行したことを報知する音声(例えば「設定確認中です」という音声)を出力し、遊技効果ランプ9を所定の発光態様(例えば白色の点滅態様)で発光させることにより、設定確認モードに移行したことを報知する。このような構成によれば、パチンコ遊技機1の中で最も大きな表示領域を備えた画像表示装置5等において、設定確認モードに移行されていることを報知することが可能であるため、設定確認モードに制御されていることを明確に把握可能となる。ここで、図10-17(2)の(B)に示す状態では、画像表示装置5におけるその他の表示情報(例えば、演出図柄や小図柄、第4図柄、右打ち表示等)を表示しない。

30

【0934】

なお、演出制御用CPU120が設定確認モードコマンドを受信したときに、VDP(Video Display Processor)により、映像信号を画像表示装置5に供給可能な状態となっていない(即ち、表示制御部123により画像表示装置5の制御が可能となっていないときには)、映像信号を画像表示装置5に供給可能な状態となるまで(即ち、表示制御部123により画像表示装置5の制御が可能となるまで)、画像表示装置5による報知は行わず、音声報知及び発光報知を先行して実行する。即ち、スピーカ8L, 8Rから設定確認モードに移行したことを報知する音声(例えば「設定変更中です」という音声)を出力し、遊技効果ランプ9を所定の発光態様(例えば白色の点滅態様)で発光させることにより、設定確認モードに移行したことを報知する。その後、映像信号を画像表示装置5に供給可能な状態となったときに(即ち、表示制御部123により画像表示装置5の制御が可能となったときに)、上記音声報知及び上記発光報知に加えて、画像表示装置5による

40

50

報知を開始する。即ち、画像表示装置 5 において「設定確認中」の文字を表示する。

【0935】

そして、図 10-17 (2) の (C) に示すように、メイン処理におけるステップ S 2 1 T M 1 4 7 0 で C P U 1 0 3 から演出制御基板 1 2 に送信される設定コマンドを受信したに基づいて (あるいは、ステップ S 2 1 T M 1 3 7 0 またはステップ S 2 1 T M 1 4 6 0 で C P U 1 0 3 から演出制御基板 1 2 に送信された電源断復旧時のバックアップコマンドまたは電源投入時の初期化コマンドを受信したに基づいて)、演出制御用 C P U 1 2 0 は、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 が設定確認モードを終了したことを特定して、その旨を報知可能である。例えば、画像表示装置 5 において「設定確認終了」の文字を表示し、スピーカ 8 L, 8 R から出力されていた設定確認モードに移行したことを報知する音声 (例えば「設定確認中です」という音声) の出力を停止し、遊技効果ランプ 9 による所定の発光態様 (例えば白色の点滅態様) での発光を停止することにより、設定確認モードが終了したことを報知する。このような構成によれば、パチンコ遊技機 1 の中で最も大きな表示領域を備えた画像表示装置 5 等において、設定確認モードが終了したことを報知することが可能であるため、設定確認モードが終了したことを明確に把握可能となる。

10

【0936】

そして、図 10-17 (2) の (D) に示すように、C P U 1 0 3 は、メイン処理のステップ S 2 1 T M 1 4 8 0 以降の処理を実行し、遊技可能な状態になったこと (遊技制御用タイマ割込処理が実行されたこと) に伴って、画像表示装置 5 においてデモ画面を表示するための演出制御用コマンドを送信し、これを受信した演出制御用 C P U 1 2 0 は、画像表示装置 5 にデモ画面を表示する。

20

【0937】

設定コマンドを受信した演出制御用 C P U 1 2 0 は、設定コマンドが指定する設定値に応じた演出を実行することにより、設定値を示唆することが可能である。例えば、大当たり遊技状態が終了したときに実行されるエンディング演出の態様を、指定された設定値に応じて異ならせることで、遊技者に設定値を示唆することが可能である。図 10-18 (1)、(2)、及び (3) は、設定示唆演出の例を示している。図 10-18 (1) は、大当たり終了画面において「晴れ」態様のエンディング画像が選択された例、図 10-18 (2) は、大当たり終了画面において「曇り」態様のエンディング画面が選択された例、図 10-18 (3) は、大当たり終了画面において「雨」態様のエンディング画像が選択された例を示している。また、図 10-18 (4) は、設定示唆演出の態様を、設定コマンドが指定した設定値に基づいて決定するためのテーブルの具体例を示す説明図である。

30

【0938】

C P U 1 0 3 は、メイン処理のステップ S 2 1 T M 1 4 7 0 において、設定値を指定する設定コマンドを演出制御用 C P U 1 2 0 に送信している。また、C P U 1 0 3 は、大当たり遊技状態が終了したときに、画像表示装置 5 においてエンディング演出を実行するための演出制御用コマンドを演出制御用 C P U 1 2 0 に送信する。演出制御用 C P U 1 2 0 は、受信した設定コマンドにより指定された設定値を R A M 1 0 2 に記憶することにより、記憶した設定値に基づいてエンディング演出の態様を決定可能である。例えば、大当たり遊技状態が終了したときに送信される演出制御用コマンドに基づいて、画像表示装置 5 に、大当たり遊技状態が終了したことを報知する文字 (「B O N U S 終了」の文字) と共に、記憶している設定値に基づいて決定された態様 (晴れの態様、曇りの態様、雨の態様) のエンディング画像を表示することが可能となる。

40

【0939】

図 10-18 (4) に示すテーブルには、設定コマンドで指定された設定値が「1, 2」である場合、「3, 4」である場合、及び「5, 6」である場合について、それぞれ、設定示唆演出の態様を、図 10-18 (1) に示す「晴れ」態様に決定する場合、図 10-18 (2) に示す「曇り」態様に決定する場合、及び図 10-18 (3) に示す「雨」態様に決定する場合、の判定値が割り振られている。

50

【0940】

演出制御用CPU120は、受信した設定コマンドで指定された設定値が「1」又は「2」である場合には、低い割合（例えば20%）で（1）に示す「晴れ」態様の設定示唆演出（エンディング演出）を実行することに決定し、中程度の割合（例えば40%）で（2）に示す「曇り」態様の設定示唆演出（エンディング演出）を実行することに決定し、中程度の割合（例えば40%）で（3）に示す「雨」態様の設定示唆演出（エンディング演出）を実行することに決定する。また、演出制御用CPU120は、受信した設定コマンドで指定された設定値が「3」又は「4」である場合には、低い割合（例えば20%）で（1）に示す「晴れ」態様の設定示唆演出（エンディング演出）を実行することに決定し、高い割合（例えば50%）で（2）に示す「曇り」態様の設定示唆演出（エンディング演出）を実行することに決定し、中程度の割合（例えば30%）で（3）に示す「雨」態様の設定示唆演出（エンディング演出）を実行することに決定する。また、演出制御用CPU120は、受信した設定コマンドで指定された設定値が「5」又は「6」である場合には、高い割合（例えば50%）で（1）に示す「晴れ」態様の設定示唆演出（エンディング演出）を実行することに決定し、低い割合（例えば20%）で（2）に示す「曇り」態様の設定示唆演出（エンディング演出）を実行することに決定し、中程度の割合（例えば30%）で（3）に示す「雨」態様の設定示唆演出（エンディング演出）を実行することに決定する。

10

【0941】

このように、設定値に応じて設定示唆演出の各態様の決定割合を異ならせることにより、遊技者は設定示唆演出がどのような態様で実行されるかに関心を抱くことになり、設定示唆演出の興趣を向上させることができる。本例では、遊技者は、大当り遊技状態が終了したときに実行されるエンディング演出がどのような態様で実行されるかに関心を抱くことになり、特に、「晴れ」態様でエンディング演出が実行されることに期待することになる。

20

【0942】

次に、メイン処理における賞球処理（ステップS21TM1630）を説明する。まず、主基板11と払出制御基板21TM037との間で送受信される払出制御信号（接続確認信号）および賞球要求信号（払出制御コマンド）について説明する。

【0943】

図10-19は、遊技制御用マイクロコンピュータ100から払出制御基板21TM037に対して出力される制御信号の内容の一例を示す説明図である。この実施の形態では、払出制御等に関する各種の制御を行うために、主基板11と払出制御基板21TM037との間で制御信号として接続確認信号が送受信される。図10-19に示すように、接続確認信号は、主基板11の立ち上がり時（遊技制御用マイクロコンピュータ100が遊技制御処理を開始したとき）に出力され、払出制御基板21TM037に対して主基板11が立ち上がったことを通知するための信号（主基板11の接続確認信号）である。また、接続確認信号は、賞球払出が可能な状態であることを示す。なお、接続確認信号は、遊技制御用マイクロコンピュータ100のI/Oポート21TM057および出力回路21TM067を介して出力され、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370の入力回路21TM373AおよびI/Oポート21TM372eを介して払出制御用マイクロコンピュータ21TM370に入力される。接続確認信号は、それぞれ1ビットのデータであり、1本の信号線によって送信される。なお、接続確認信号は、電源投入時に実行されるステップS21TM1350、S21TM1440の処理によって出力ポート0の接続確認信号に対応するビットに初期値が設定されることによって出力可能な状態となる（具体的にはステップS21TM2080の処理によって出力されるが、ステップS21TM1350、S21TM1440のタイミングで出力されるようにしてもよい）。

30

40

【0944】

払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、遊技制御用マイクロコンピュータ100と同様に、シリアル通信回路21TM380を内蔵する。また、遊技制御用マイク

50

ロコンピュータ100が内蔵するシリアル通信回路21TM505と、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が内蔵するシリアル通信回路21TM380との間で、各種払出制御コマンドが送受信される。なお、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が内蔵するシリアル通信回路21TM380の構成及び機能は、遊技制御用マイクロコンピュータ100が内蔵するシリアル通信回路21TM505の構成及び機能と同様である。

【0945】

図10-20は、遊技制御用マイクロコンピュータ100と払出制御基板21TM037との間で送受信される制御コマンドの内容の一例を示す説明図である。この実施の形態では、払出制御等に関する各種の制御を行うために、主基板11と払出制御基板21TM037とのマイクロコンピュータの間で各種制御コマンド（賞球要求信号）が送受信される。

10

【0946】

上述したように、賞球要求信号および受信ACK信号は、8ビットのデータ（2進8桁のデータ）によって構成され、設定された8ビットのデータの内容によって所定の内容を示す制御コマンドとして出力される。

【0947】

接続確認コマンドは、遊技制御用マイクロコンピュータ100と払出制御用マイクロコンピュータ21TM370との間の接続状態が正常であるか否かを確認するために一定間隔（1s）毎に遊技制御用マイクロコンピュータ100から送信される制御コマンドである。接続確認コマンドのデータの内容は「A0（H）」すなわち「1010000」とされている。

20

【0948】

接続OKコマンドは、遊技制御用マイクロコンピュータ100と払出制御用マイクロコンピュータ21TM370との間の接続状態が正常であることを通知するための制御コマンドであって、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が接続確認コマンドの受信に応じて応答信号として送信する制御コマンドである。接続OKコマンドのデータの内容は「8x（H）」すなわち「10000xxx」とされている。ここで、賞球エラー（入賞にもとづく賞球払出動作や球貸し要求にもとづく球貸払出動作が正常に行えない状態になった異常状態）が発生した場合には、1ビット目の「x」に「1」が設定される。また、満タンエラーが発生した場合には、2ビット目の「x」に「1」が設定される。また、球切れエラーが発生した場合には、3ビット目の「x」に「1」が設定される。また、ドア開放エラーが発生した場合には、4ビット目の「x」に「1」が設定される。このようにして、遊技制御用マイクロコンピュータ100と払出制御用マイクロコンピュータ21TM370との間の接続確認を行っている最中に、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370における所定のエラーの発生を遊技制御用マイクロコンピュータ100に通知することができる。

30

【0949】

賞球個数コマンドは、払出要求を行う遊技球の個数（0～14個）を通知するための制御コマンドであって、遊技制御用マイクロコンピュータ100が入賞の発生に基づいて送信する制御コマンドである。賞球個数コマンドのデータの内容は「5x（H）」すなわち「0101xxx」とされている。この実施の形態では、第1始動口スイッチ22A、第2始動口スイッチ22Bで遊技球が検出されると3個の賞球払出を行い、一般入賞口10に対応した入賞口スイッチで遊技球が検出されると10個の賞球払出を行い、カウントスイッチ23で遊技球が検出されると14個の賞球払出を行う。よって、第1始動口スイッチ22A、第2始動口スイッチ22Bで遊技球が検出された場合、賞球数3個を通知するための賞球個数コマンド「01010011」が送信され、一般入賞口10に対応した入賞口スイッチで遊技球が検出された場合、賞球数10個を通知するための賞球個数コマンド「01011010」が送信され、カウントスイッチ23で遊技球が検出された場合、賞球数14個を通知するための賞球個数コマンド「01011110」が送信される。

40

50

なお、接続確認コマンド及び賞球個数コマンドは賞球要求信号として、何れかが送信されるように構成されている。なお、賞球個数コマンドは、賞球の払出条件（入賞等の発生）が成立したことにもとづいて、接続確認コマンドが送信されるタイミングで、接続確認コマンドに代えて送信されるものである。この実施の形態では、上述したように、上位4ビットに賞球個数に対応したデータを設定しているが、上位4ビットを共通にして下位4ビットに賞球個数に対応したデータを設定するようにしてもよい。

【0950】

賞球終了コマンドは、賞球動作（賞球払出動作）が終了したことを示す制御コマンドであって、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が賞球動作の終了にもとづいて送信する制御コマンドである。賞球終了コマンドのデータの内容は「50（H）」すなわち「01010000」とされている。なお、賞球終了コマンドは、賞球動作が終了したことにもとづいて、接続OKコマンドが送信されるタイミングで、接続OKコマンドに代えて送信されるものである。この実施の形態では、賞球終了コマンドにエラー情報を示すデータを設定するように構成してない。これは、賞球終了コマンドは賞球動作が終了したときに1回だけ送信されるので、そのタイミングでエラー情報を送らなくても次の接続OKコマンドにエラー情報を示すデータを設定して送ることができるからである。なお、賞球終了コマンドの下位4ビットにエラー情報を示すデータを設定するようにしてもよい。

【0951】

賞球準備中コマンドは、所定のエラーが発生し賞球動作が終了していないことを通知する制御コマンドであって、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が賞球動作の実行中に所定のエラーが発生したことにもとづいて送信する制御コマンドである。接続OKコマンドのデータの内容は「8x（H）」すなわち「10000xxx」とされている。ここで、賞球エラーが発生した場合には、1ビット目の「x」に「1」が設定される。また、満タンエラーが発生した場合には、2ビット目の「x」に「1」が設定される。また、球切れエラーが発生した場合には、3ビット目の「x」に「1」が設定される。また、ドア開放エラーが発生した場合には、4ビット目の「x」に「1」が設定される。このようにして、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370から遊技制御用マイクロコンピュータ100に賞球動作の実行中に所定のエラーが発生し賞球動作が終了していないことを遊技制御用マイクロコンピュータ100に通知することができるとともに、エラーの内容も遊技制御用マイクロコンピュータ100に通知することができる。賞球準備中コマンドは、接続OKコマンドと同様に、下位4ビットの内容をエラー状態に応じて異ならせる（所定ビットを異ならせる）ことによって所定のエラーが発生したことを通知している。また、接続OKコマンド、賞球準備中コマンド、賞球終了コマンドは、受信ACK信号として、何れかのコマンドが送信されるように構成されている。なお、賞球準備中コマンドは、エラーが発生して賞球動作が実行できない状態のみならず、賞球動作の実行中の状態においても出力されるコマンド（信号）である。

【0952】

なお、賞球準備中コマンドは、エラーが発生して賞球動作が行えない状態になったことにもとづいて、接続OKコマンドが送信されるタイミングで、接続OKコマンドに代えて送信されるものである。

【0953】

図10-21は、図10-19に示す制御信号および図10-20に示す制御コマンドの送受信に用いられる信号線等を示すブロック図である。図10-21に示すように、接続確認信号は、遊技制御用マイクロコンピュータ100によって出力回路21TM067を介して出力され、入力回路21TM373Aを介して払出制御用マイクロコンピュータ21TM370に入力される。また、制御コマンドのうちの接続確認コマンドおよび賞球個数コマンドは、遊技制御用マイクロコンピュータ100が内蔵するシリアル通信回路21TM505から出力され、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が内蔵するシリアル通信回路21TM380に入力される。制御コマンドのうちの接続OKコマンド

、賞球終了コマンドおよび賞球準備中コマンドは、払出制御用マイクロコンピュータ 21 TM 370 が内蔵するシリアル通信回路 21 TM 380 から出力され、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 が内蔵するシリアル通信回路 21 TM 505 に入力される。なお、図 10-21 では、シリアル通信を行うための信号線として 2 本の信号線（賞球要求信号を送信するための信号線と受信 A C K 信号を送信するための信号線）を示しているが、実際は 1 本の信号線で賞球要求信号と受信 A C K 信号を送受信する。

【0954】

次に、通常動作時における遊技制御用マイクロコンピュータと払出制御用マイクロコンピュータとの信号（賞球要求信号、受信 A C K 信号；制御コマンド）の送受信について説明する。賞球要求信号は、接続確認コマンドと賞球個数コマンドからなり、受信 A C K 信号は、接続 O K コマンドと賞球終了コマンドと賞球準備中コマンドからなる。

10

【0955】

図 10-22 は、通常動作時における遊技制御用マイクロコンピュータ 100 と払出制御用マイクロコンピュータ 21 TM 370 との信号の送受信を示すシーケンス図である。図 10-22 に示すように、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 は、シリアル通信回路 21 TM 505 を介して、払出制御用マイクロコンピュータ 21 TM 370 との間の信号線の接続が切れていないかどうかを確認するために、賞球要求信号としての接続確認コマンドを払出制御用マイクロコンピュータ 21 TM 370 に送信する。払出制御用マイクロコンピュータ 21 TM 370 は、賞球要求信号としての接続確認コマンドをシリアル通信回路 21 TM 380 を介して受信すると、受信 A C K 信号としての接続 O K コマンドを遊技制御用マイクロコンピュータ 100 に送信する。遊技制御用マイクロコンピュータ 100 は、受信 A C K 信号としての接続 O K コマンドを受信すると、受信した時点から 1 s（1 秒）経過後に賞球要求信号としての接続確認コマンドを送信する。遊技制御用マイクロコンピュータ 100 および払出制御用マイクロコンピュータ 21 TM 370 は、接続状態が正常である限り、上記のような接続確認の通信処理を繰り返し実行する。

20

【0956】

次に、払出制御基板 21 TM 037 の動作について説明する。図 10-23 は、払出制御基板 21 TM 037 が実行するメイン処理を示すフローチャートである。メイン処理では、払出制御用マイクロコンピュータ 21 TM 370 の払出制御用 C P U 21 TM 371 は、まず、必要な初期設定を行う。すなわち、払出制御用 C P U 21 TM 371 は、まず、割込禁止に設定する（ステップ S 21 TM 1810）。次に、割込モードを割込モード 2 に設定し（ステップ S 21 TM 1820）、スタックポインタにスタックポインタ指定アドレスを設定する（ステップ S 21 TM 1830）。また、払出制御用 C P U 21 TM 371 は、内蔵デバイスレジスタの設定を行い（ステップ S 21 TM 1840）、C T C および P I O の設定を行う（ステップ S 21 TM 1850）を行った後に、R A M をアクセス可能状態に設定する（ステップ S 21 TM 1860）。また、賞球未払出個数カウンタ初期値として 0000（H）をセットする（ステップ S 21 TM 1870）。

30

【0957】

この実施の形態では、内蔵 C T C のうちの一つのチャンネルがタイマモードで使用される。従って、ステップ S 21 TM 1840 の内蔵デバイスレジスタの設定処理およびステップ S 21 TM 1850 の処理において、使用するチャンネルをタイマモードに設定するためのレジスタ設定、割込発生を許可するためのレジスタ設定および割込ベクタを設定するためのレジスタ設定が行われる。そして、そのチャンネルによる割込がタイマ割込として用いられる。タイマ割込を例えば 2 m s 毎に発生させたい場合は、初期値として 2 m s に相当する値が所定のレジスタ（時間定数レジスタ）に設定される。

40

【0958】

なお、タイマモードに設定されたチャンネル（この実施の形態ではチャンネル 3）に設定される割込ベクタは、タイマ割込処理の先頭アドレスに相当するものである。具体的は、I レジスタに設定された値と割込ベクタとでタイマ割込処理の先頭アドレスが特定される。タイマ割込処理では、払出手段を制御する払出制御処理（少なくとも主基板からの賞球払

50

出に関する指令信号に応じて払出モータ 2 1 T M 2 8 9 を駆動する処理を含み、球貸し要求に応じて払出モータ 2 1 T M 2 8 9 を駆動する処理が含まれていてもよい。) が実行される。

【0959】

この実施の形態では、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 でも割込モード 2 が設定される。従って、内蔵 C T C のカウントアップにもとづく割込処理を使用することができる。また、C T C が送出した割込ベクタに応じた割込処理開始アドレスを設定することができる。C T C のチャンネル 3 (C H 3) のカウントアップにもとづく割込は、C P U の内部クロック (システムクロック) をカウントダウンしてレジスタ値が「 0 」になったら発生する割込であり、タイマ割込として用いられる。

10

【0960】

次に、払出制御用 C P U 2 1 T M 3 7 1 は、まず、R A M クリア処理を行う (ステップ S 2 1 T M 1 8 8 0) 。また、R A M 領域のフラグやカウンタなどに初期値を設定する (ステップ S 2 1 T M 1 8 9 0) 。ステップ S 2 1 T M 1 8 9 0 の処理には、賞球未払出個数カウンタ初期値を賞球未払出個数カウンタにセットする処理が含まれる。

【0961】

また、払出制御用 C P U 2 1 T M 3 7 1 は、シリアル通信回路 2 1 T M 3 8 0 を初期設定するシリアル通信回路設定処理を実行する (ステップ S 2 1 T M 1 9 0 0) 。この場合、払出制御用 C P U 2 1 T M 3 7 1 は、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 の C P U 1 0 3 が行うシリアル通信回路設定処理 (ステップ S 2 1 T M 2 5 6 0 参照) と同様の処理に従って、シリアル通信回路 2 1 T M 3 8 0 に遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 とシリアル通信させるための設定を行う。

20

【0962】

シリアル通信回路 2 1 T M 3 8 0 を初期設定すると、払出制御用 C P U 2 1 T M 3 7 1 は、シリアル通信回路 2 1 T M 3 8 0 の割り込み要求に応じて実行する割込処理の優先順位を初期設定する (ステップ S 2 1 T M 1 9 1 0) 。この場合、払出制御用 C P U 2 1 T M 3 7 1 は、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 の C P U 1 0 3 が行う優先順位の初期設定処理と同様の処理に従って、割込処理の優先順位を初期設定する。

【0963】

そして、定期的にタイマ割込がかかるように払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 に設けられている C T C のレジスタの設定を行う (ステップ S 2 1 T M 1 9 2 0) 。すなわち、初期値としてタイマ割込発生間隔に相当する値が所定のレジスタ (時間定数レジスタ) に設定される。そして、初期設定処理のステップ S 2 1 T M 1 8 1 0 において割込禁止とされているので、初期化処理を終える前に割込が許可される (ステップ S 2 1 T M 1 9 3 0) 。その後、タイマ割込の発生を監視するループ処理に入る。

30

【0964】

上記のように、この実施の形態では、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 の内蔵 C T C が繰り返しタイマ割込を発生するように設定される。そして、タイマ割込が発生すると、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 の払出制御用 C P U 2 1 T M 3 7 1 は、タイマ割込処理を実行する。

40

【0965】

図 1 0 - 2 4 は、払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 が実行するタイマ割込処理の例を示すフローチャートである。タイマ割込処理にて、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 の払出制御用 C P U 2 1 T M 3 7 1 は、払出制御処理として以下の処理を実行する。まず、払出制御用 C P U 2 1 T M 3 7 1 は、入力判定処理を行う (ステップ S 2 1 T M 2 0 1 0) 。入力判定処理は、入力ポート 0 のビット 4 ~ 6 および入力ポート 1 のビット 3 ~ 6 の状態を検出して検出結果を R A M の所定の 1 バイト (入力状態フラグと呼ぶ。) に反映する処理である。なお、払出制御処理において、入力ポート 0 のビット 4 ~ 6 および入力ポート 1 のビット 3 ~ 6 の状態にもとづいて制御を行う場合には、直接入力ポートの状態をチェックするのではなく、入力状態フラグの状態をチェックする。

50

【0966】

次に、払出制御用CPU21TM371は、払出モータ制御処理を実行する（ステップS21TM2020）。払出モータ制御処理では、払出モータ21TM289を駆動すべきときには、払出モータφ1～φ4のパターンを出力ポート0に出力するための処理を行う。

【0967】

また、払出制御用CPU21TM371は、カードユニット21TM050と通信を行うプリペイドカードユニット制御処理を実行する（ステップS21TM2030）。また、払出制御用CPU21TM371は、後述する主制御通信処理を実行する（ステップS21TM2035）。さらに、カードユニット21TM050からの球貸し要求に応じて貸し球を払い出す制御を行い、また、主基板からの賞球個数コマンドが示す個数の賞球を払い出す制御を行う賞球球貸し制御処理を実行する（ステップS21TM2040）。 10

【0968】

そして、払出制御用CPU21TM371は、各種のエラーを検出するエラー処理を実行する（ステップS21TM2050）。また、遊技機外部に出力される賞球情報や球貸し情報を出力するための情報出力処理を実行する（ステップS21TM2060）。また、エラー処理の結果に応じてエラー表示用LED21TM374に所定の表示を行うとともに、賞球LED21TM053および球切れLED21TM054を点灯するための表示制御処理を実行する（ステップS21TM2070）。 20

【0969】

この実施の形態では、後述するエラー処理において各種エラー（例えば、満タンエラーや球切れエラー、プリペイドカードユニット未接続エラー）が検出されると、検出されたエラーに対応するエラービットがセットされる。そして、ステップS21TM2070の表示制御処理において、エラービットがセットされていることに基づいて、払出制御用CPU21TM371は、エラー表示用LED21TM374に所定の表示を行う。また、払出制御用CPU21TM371は、表示制御処理において、賞球払出を行っている状態であるときに、賞球LED21TM053を点灯するための制御を行う。また、賞球払出を終了したら、賞球LED21TM053を消灯するための制御を行う。 30

【0970】

また、この実施の形態では、出力ポートの出力状態に対応したRAM領域（出力ポート0バッファ、出力ポート1バッファ、出力ポート2バッファ）が設けられているのであるが、払出制御用CPU21TM371は、出力ポート0バッファ、出力ポート1バッファおよび出力ポート2バッファの内容を出力ポートに出力する（ステップS760：出力処理）。出力ポート0バッファ、出力ポート1バッファおよび出力ポート2バッファは、払出モータ制御処理（ステップS21TM2020）、プリペイドカード制御処理（ステップS21TM2030）、主制御通信処理（ステップS21TM2035）、情報出力処理（ステップS21TM2060）および表示制御処理（ステップS21TM2070）で更新される。 40

【0971】

次に、ステップS21TM2035の主制御通信処理において、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370の払出制御用CPU21TM371が各種コマンドを送受信する動作を説明する。図10-21に示すように、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、遊技制御用マイクロコンピュータ100と各種コマンドをシリアル通信するシリアル通信回路21TM380を内蔵している。払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、シリアル通信回路21TM380を用いて、遊技制御用マイクロコンピュータ100から図10-20に示す賞球個数コマンドを受信する。また、賞球個数コマンドを受信すると、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、シリアル通信回路21TM380を用いて、賞球ACKコマンド「D2」を受信確認信号として送信する。 50

【0972】

また、払出制御用CPU21TM371は、遊技制御用マイクロコンピュータ100の

CPU103と同様に、割り込み許可状態である間にシリアル通信回路21TM380からの割り込み要求があると、シリアル通信回路21TM380が割り込み要求を行った割り込み原因に応じた割り込み処理を実行する。この実施の形態では、払出制御用CPU21TM371は、割り込み原因が、シリアル通信回路21TM380が受信データを受信したことであると特定すると、受信時割込処理を実行する。この場合、払出制御用CPU21TM371は、シリアル通信回路21TM380が受信データを受信していることを示す受信時割込フラグをセットする。なお、払出制御用CPU21TM371は、受信時割込処理において、受信時割込フラグをセットするのではなく、シリアル通信回路21TM380の受信データレジスタからデータを読み込んでよい。この場合、例えば、払出制御用CPU21TM371は、受信時割込処理において、読み込んだ受信データが賞球個数コマンドであるか否かを判断する。また、受信データが賞球個数コマンドである場合、払出制御用CPU21TM371は、賞球個数コマンドが示す賞球数を賞球未払出個数カウンタに加算してもよい。そのようにすれば、後述する主制御通信処理において、受信時割込フラグがセットされていることにもとづいて受信データが賞球個数コマンドであるか否かを判定し、賞球数を賞球未払出個数カウンタに加算する処理を実行する必要がなくなる。

10

【0973】

図10-25は、主基板11（遊技制御用マイクロコンピュータ100）、払出制御基板21TM037（払出制御用マイクロコンピュータ21TM370）及び払出モータ21TM289、並びに、カードユニット21TM050の間で実行される球貸のための通信処理を説明するためのブロック図である。ここで、後述するように、払出モータ21TM289による球貸を制限する方法として、以下に示す第1の球貸制限方法～第4の球貸制限方法が存在する。

20

【0974】

まず、（1）第1の球貸制限方法は、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間は、主基板11（遊技制御用マイクロコンピュータ100）から払出制御基板21TM037（払出制御用マイクロコンピュータ21TM370）に対しての接続確認信号の出力を停止する方法である。また、（2）第2の球貸制限方法は、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間は、払出制御基板21TM037（払出制御用マイクロコンピュータ21TM370）からカードユニット21TM050に対してのPRDY信号の出力を停止する方法である。また、（3）第3の球貸制限方法は、遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300を備える払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの開放状態を検知している期間は、払出制御基板21TM037（払出制御用マイクロコンピュータ21TM370）から払出モータ21TM289に対しての払出モータ21TM289を駆動させるための信号の出力を停止する方法である。また、（4）第4の球貸制限方法は、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間は、払出制御基板21TM037（払出制御用マイクロコンピュータ21TM370）からカードユニット21TM050に対してのEXS信号の出力を停止する方法である。

30

【0975】

設定変更モードへの移行、設定確認モードへの移行は、電源断（電源スイッチ21TM055をOFFとすることを含む）、及び、その後の電源投入を伴うものであるため、遊技機の状態として不安定になる可能性があり、このような不安定な状態において球貸処理に対応する払出制御を実行してしまうと、貸出要求に対応した適正な数量の遊技媒体を払い出せない可能性がある。このような状況における遊技者の不利益を防止するために、以下の実施形態では、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている遊技機における球貸を制限するようにしている。以下、これら第1の球貸制限方法～第4の球貸制限方法に関して、具体的に説明する。

40

【0976】

図10-26は、遊技機の主基板11、払出制御基板21TM037、及びカードユニ

50

ット21TM050の間の通信を説明するためのタイミング図である。遊技機への電力供給が開始され、主基板11からの接続確認信号がON状態であることに基づいて、払出制御基板21TM037は、払出動作が可能なときにはPRDY信号をON状態にする。接続確認信号は、図10-13に示す、ステップS21TM1480におけるシリアル通信回路設定処理でON状態となる(図10-19参照)。カードユニット21TM050は、電力供給が開始されると、接続信号としてのVL信号をON状態にする。

【0977】

カードユニット21TM050においてカードが受け付けられ、球貸スイッチが操作され球貸スイッチ信号が入力されると、カードユニット21TM050は、PRDY信号がON状態であることに基づいて、払出制御基板21TM037にBRDY信号を出力する。すなわち、BRDY信号をON状態にする。この時点から所定の遅延時間が経過すると、カードユニット21TM050は、BRDY信号がON状態であることに基づいて、払出制御基板21TM037にBRQ信号を出力する。すなわち、BRQ信号をON状態にする。

10

【0978】

そして、払出制御基板21TM037は、PRDY信号がON状態であり、かつ、BRDY信号及びBRQ信号が何れもON状態であることに基づいて、カードユニット21TM050に対するEXS信号をON状態にし、カードユニット21TM050からのBRQ信号の立ち下がり(OFF)を検出すると、払出モータ21TM289を駆動し、所定個(例えば25個)の貸し球を遊技者に払い出す。そして、払出制御基板21TM037は、カードユニット21TM050に対するEXS信号を立ち下げる。すなわちEXS信号をOFF状態にする。

20

【0979】

(設定変更モードにおける第1の球貸制限方法)

設定変更モードに制御されている期間において、球貸を制限する方法として、前述した第1の球貸制限方法～第4の球貸制限方法がある。まず、第1の球貸制限方法に関して、図10-27を用いて具体的に説明する。

【0980】

図10-27は、遊技制御用マイクロコンピュータ100のCPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行しているときの、主基板11(遊技制御用マイクロコンピュータ100)、払出制御基板21TM037(払出制御用マイクロコンピュータ21TM370)、及びカードユニット21TM050の間で行われる通信処理を説明するためのタイミング図である。主基板11では、所定の電源基板からの電力供給が開始されると、遊技制御用マイクロコンピュータ100が起動し、CPU103によって遊技制御メイン処理となる所定の処理が実行される。CPU103が、図10-13に示すシリアル通信回路設定処理(ステップS21TM1480)を実行するまでは、主基板11から払出制御基板21TM037に出力される接続確認信号がOFF状態であるので、CPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している間は、主基板11からの接続確認信号はOFF状態である。

30

【0981】

CPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している間は、主基板11からの接続確認信号がOFF状態であるため、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、PRDY信号をON状態としない。即ち、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、VL信号がON状態であっても、即ち、カードユニット21TM050と電氣的に接続されている状態であっても、PRDY信号をON状態とせず、OFF状態に維持する。

40

【0982】

その結果、カードユニット21TM050においてカードが受け付けられ、CPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している間に、球貸スイッチ21TM062が操作されて球貸スイッチ信号が入力されたとしても、カードユニット21TM

50

050は、PRDY信号がOFF状態であることに基づいて、払出制御基板21TM037にBRDY信号を出力しない。すなわち、BRDY信号はOFF状態のままである。この時点から所定の遅延時間が経過しても、カードユニット21TM050は、BRDY信号がOFF状態であることに基づいて、払出制御基板21TM037にBRQ信号を出力しない。すなわち、BRQ信号はOFF状態のままである。

【0983】

払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、BRDY信号及びBRQ信号が何れもOFF状態であることに基づいて、カードユニット21TM050に対するEXS信号をON状態とせず、OFF状態に維持する。すなわち、接続確認信号がOFF状態であるときには、PRDY信号、BRDY信号、BRQ信号、及びEXS信号が何れもOFF状態であり、払出モータ21TM289は駆動されないので、CPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している間は、球貸スイッチ21TM062が操作されても球貸（遊技媒体の払出）が実行されない。

10

【0984】

このように、設定変更モード、設定確認モードに制御されている期間は、遊技制御用マイクロコンピュータ100が接続確認信号をON状態としないことにより、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370による遊技媒体の払出制御を実行させないようにすることができる。また、カードユニット21TM050においては、PRDY信号がON状態とならないことに基づいて、球貸が実行されないこと（球貸エラーが発生したこと）を報知することが可能である。

20

【0985】

CPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を終了し、図10-13に示す、ステップS21TM1480のシリアル通信回路設定処理を実行すると、主基板11からの接続確認信号がON状態となることに基づいて、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、払出動作が可能なときにはPRDY信号をON状態にする。

【0986】

カードユニット21TM050においてカードが受け付けられ、球貸スイッチ21TM062が操作され球貸スイッチ信号が入力されると、カードユニット21TM050は、PRDY信号がON状態であることに基づいて、払出制御基板21TM037にBRDY信号を出力する。すなわち、BRDY信号をON状態にする。この時点から所定の遅延時間が経過すると、カードユニット21TM050は、BRDY信号がON状態であることに基づいて、払出制御基板21TM037にBRQ信号を出力する。すなわち、BRQ信号をON状態にする。

30

【0987】

そして、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、BRDY信号及びBRQ信号が何れもON状態であることに基づいて、カードユニット21TM050に対するEXS信号をON状態にし、以降の球貸の払出制御を実行する。

【0988】

なお、遊技中（遊技制御用タイマ割込処理が実行可能な状態）に、錠スイッチ21TM051及びクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052の操作により設定変更モード、設定確認モードに制御可能な構成を採用した場合であっても、図10-27に示した第1の球貸制限方法を適用可能である。即ち、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、設定変更モード又は設定確認モードに制御されたことに基づいて、接続確認信号の出力を停止する（ON状態からOFF状態に切り替える）。これにより、接続確認信号が入力されなくなったことに基づいて、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が、PRDY信号をOFF状態とすることにより、あるいは、EXS信号をON状態としないことにより、球貸が実行されないようにする。

40

【0989】

（設定変更モードにおける第2の球貸制限方法）

次に、第2の球貸制限方法に関して、図10-28を用いて具体的に説明する。なお、

50

図10-28に示す例では、設定変更モードに制御されている期間は、接続確認信号はON状態であり、設定確認モードに制御されている期間も、接続確認信号はON状態であるものとする。即ち、接続確認信号は、図10-12及び図10-13に示した例とは異なり、設定変更モードに制御される前のタイミングでON状態となり、設定変更モード期間中もON状態が維持されるものとする。また、接続確認信号は、図10-12及び図10-13に示した例とは異なり、設定確認モードに制御される前のタイミングでON状態となり、設定確認モード期間中もON状態が維持されるものとする。

【0990】

図10-28は、遊技制御用マイクロコンピュータ100のCPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行しているときの、主基板11（遊技制御用マイクロコンピュータ100）、払出制御基板21TM037（払出制御用マイクロコンピュータ21TM370）、及びカードユニット21TM050の間で行われる通信処理を説明するためのタイミング図である。主基板11では、所定の電源基板からの電力供給が開始されると、遊技制御用マイクロコンピュータ100が起動し、CPU103によって遊技制御メイン処理となる所定の処理が実行される。そして、主基板11から払出制御基板21TM037に出力される接続確認信号がON状態となった後に、設定変更モード又は設定確認モードに移行する。

【0991】

図10-28の例では、CPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している間も接続確認信号はON状態である。ここで、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、設定変更モード又は設定確認モードに制御したことに基づいて、接続確認コマンドの送信を停止する。接続確認コマンドは、前述したように、シリアル通信回路21TM505を介して、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370との間の通信状態を確認するためのコマンドである。

【0992】

払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、遊技制御用マイクロコンピュータ100から接続確認コマンドを受信していないことに基づいて、PRDY信号をON状態としない。また、PRDY信号が既にON状態となっている場合には、PRDY信号をON状態からOFF状態に切り替える。即ち、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、VL信号がON状態（即ち、カードユニット21TM050と電氣的に接続されている状態）であり、且つ、接続確認信号がON状態（即ち、遊技制御用マイクロコンピュータ100と電氣的に接続されている状態）であっても、CPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している間（接続確認コマンドを受信していない間）は、PRDY信号をON状態とせず、OFF状態とする。

【0993】

その結果、カードユニット21TM050においてカードが受け付けられ、CPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している間に、球貸スイッチ21TM062が操作されて球貸スイッチ信号が入力されたとしても、カードユニット21TM050は、PRDY信号がOFF状態であることに基づいて、払出制御基板21TM037にBRDY信号を出力しない。すなわち、BRDY信号はOFF状態のままである。この時点から所定の遅延時間が経過しても、カードユニット21TM050は、BRDY信号がOFF状態であることに基づいて、払出制御基板21TM037にBRQ信号を出力しない。すなわち、BRQ信号はOFF状態のままである。

【0994】

払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、BRDY信号及びBRQ信号が何れもOFF状態であることに基づいて、カードユニット21TM050に対するEXS信号をON状態とせず、OFF状態に維持する。すなわち、接続確認信号がON状態であるときでも、接続確認コマンドが送信されないときには、PRDY信号、BRDY信号、BRQ信号、及びEXS信号が何れもOFF状態であり、払出モータ21TM289は駆動されないで、CPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している

10

20

30

40

50

間は、球貸スイッチ 2 1 T M 0 6 2 が操作されても球貸（遊技媒体の払出）が実行されない。

【0995】

このように、設定変更モード、設定確認モードに制御されている期間は、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 が接続確認コマンドを送信しないことにより、接続確認コマンドを受信していない払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 側で、P R D Y 信号を O N 状態としないようになっている。このようにして、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 による遊技媒体の払出制御を実行させないようにすることができる。また、カードユニット 2 1 T M 0 5 0 においては、P R D Y 信号が O N 状態とならないことに基づいて、球貸が実行されないこと（球貸エラーが発生したこと）を報知することが可能である。

10

【0996】

C P U 1 0 3 が設定変更モード又は設定確認モードの処理を終了すると、接続確認コマンドの送信を再開する。遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 からの接続確認コマンドの受信を再開したことに基づいて、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、払出動作が可能ときには P R D Y 信号を O N 状態にする。

【0997】

カードユニット 2 1 T M 0 5 0 においてカードが受け付けられ、球貸スイッチ 2 1 T M 0 6 2 が操作され球貸スイッチ信号が入力されると、カードユニット 2 1 T M 0 5 0 は、P R D Y 信号が O N 状態であることに基づいて、払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 に B R D Y 信号を出力する。すなわち、B R D Y 信号を O N 状態にする。この時点から所定の遅延時間が経過すると、カードユニット 2 1 T M 0 5 0 は、B R D Y 信号が O N 状態であることに基づいて、払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 に B R Q 信号を出力する。すなわち、B R Q 信号を O N 状態にする。

20

【0998】

そして、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、B R D Y 信号及び B R Q 信号が何れも O N 状態であることに基づいて、カードユニット 2 1 T M 0 5 0 に対する E X S 信号を O N 状態にし、以降の球貸の払出制御を実行する。

【0999】

なお、遊技中（遊技制御用タイマ割込処理が実行可能な状態）に、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 及びクリアスイッチ（設定切替スイッチ） 2 1 T M 0 5 2 の操作により設定変更モード、設定確認モードに制御可能な構成を採用した場合であっても、図 1 0 - 2 8 に示した第 2 の球貸制限方法を適用可能である。また、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 に接続確認信号が入力されているか否か（O N 状態であるか又は O F F 状態であるか）にかかわらず、P R D Y 信号を出力する（O N 状態とする）ことが可能な構成を採用した場合であっても、図 1 0 - 2 8 に示した第 2 の球貸制限方法を適用可能である。即ち、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 から接続確認コマンドを受信していないことに基づいて、O N 状態となっている P R D Y 信号を O F F 状態に切り替える。これにより、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間は、球貸が実行されないようにすることが可能となる。

30

40

【1000】

（設定変更モードにおける第 3 の球貸制限方法）

次に、第 3 の球貸制限方法に関して、図 1 0 - 2 9 を用いて具体的に説明する。なお、この実施形態では、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 及びクリアスイッチ（設定切替スイッチ） 2 1 T M 0 5 2 は、パチンコ遊技機 1 の背面側に設けられており、所定のキー操作により開放可能な遊技機用枠 3 を開放しない限り操作不可能とされているので、当該パチンコ遊技機 1 を設定変更モード又は設定確認モードに制御させるには、遊技機用枠 3 を開放しなければならない。即ち、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間は、遊技機用枠 3 が開放されていることが通常である。即ち、設定変更モード及び設定確認モー

50

ドに制御されている期間は、払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 が備える遊技機枠・扉枠開放センサ 21TM300 が、遊技機用枠 3 の開放を検知していることになる。このように、遊技機用枠 3 の開放状態が検出されている期間には、設定変更モードに制御されている期間、設定確認モードに制御されている期間が含まれる。

【1001】

図 10-29 は、払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 が備える遊技機枠・扉枠開放センサ 21TM300 が、遊技機用枠 3（又はガラス扉枠 3a）の開放状態を検知しているときに、主基板 11、払出制御基板 21TM037（払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370）、及びカードユニット 21TM050 の間で行われる通信処理を説明するためのタイミング図である。

10

【1002】

図 10-29 の例では、払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 が備える遊技機枠・扉枠開放センサ 21TM300 が、遊技機用枠 3（又はガラス扉枠 3a）の開放状態を検知していることに基づいて、PRDY 信号を ON 状態としない。また、PRDY 信号が既に ON 状態となっている場合には、PRDY 信号を ON 状態から OFF 状態に切り替える。即ち、払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 は、VL 信号が ON 状態（即ち、カードユニット 21TM050 と電氣的に接続されている状態）であり、且つ、接続確認信号が ON 状態（即ち、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 と電氣的に接続されている状態）であっても、CPU 103 が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している間（遊技機用枠 3 が開放状態となっている期間）は、PRDY 信号を ON 状態とせず、OFF 状態とする。

20

【1003】

その結果、カードユニット 21TM050 においてカードが受け付けられ、CPU 103 が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している間に、球貸スイッチ 21TM062 が操作されて球貸スイッチ信号が入力されたとしても、カードユニット 21TM050 は、PRDY 信号が OFF 状態であることに基づいて、払出制御基板 21TM037 に BRDY 信号を出力しない。すなわち、BRDY 信号は OFF 状態のままである。この時点から所定の遅延時間が経過しても、カードユニット 21TM050 は、BRDY 信号が OFF 状態であることに基づいて、払出制御基板 21TM037 に BRQ 信号を出力しない。すなわち、BRQ 信号は OFF 状態のままである。

30

【1004】

払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 は、BRDY 信号及び BRQ 信号が何れも OFF 状態であることに基づいて、カードユニット 21TM050 に対する EXS 信号を ON 状態とせず、OFF 状態に維持する。すなわち、払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 が備える遊技機枠・扉枠開放センサ 21TM300 が、遊技機用枠 3（又はガラス扉枠 3a）の開放状態を検知しているときには、PRDY 信号、BRDY 信号、BRQ 信号、及び EXS 信号が何れも OFF 状態であり、払出モータ 21TM289 は駆動されないため、CPU 103 が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している間は、球貸スイッチ 21TM062 が操作されても球貸（遊技媒体の払出）が実行されない。

40

【1005】

このように、設定変更モード、設定確認モードに制御されている期間は、払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 が備える遊技機枠・扉枠開放センサ 21TM300 が、遊技機用枠 3（又はガラス扉枠 3a）の開放状態を検知していることにより、PRDY 信号を ON 状態としないようになっている。このようにして、払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 による遊技媒体の払出制御を実行させないようにすることができる。また、カードユニット 21TM050 においては、PRDY 信号が ON 状態とならないことに基づいて、球貸が実行されないこと（球貸エラーが発生したこと）を報知することが可能である。

【1006】

50

そして、遊技場の店員等が、錠スイッチ 21TM051 を OFF 状態とする操作を行うことによって、CPU103 が設定変更モード又は設定確認モードの処理を終了する。さらに、遊技場の店員等が、当該パチンコ遊技機 1 を遊技可能な状態とするために遊技機用枠 3 を閉鎖することで、払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 が備える遊技機枠・扉枠開放センサ 21TM300 が、遊技機用枠 3 の開放状態を検知しなくなる。遊技機用枠 3 の閉鎖に伴い、払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 は、払出動作が可能なきときには PRDY 信号を ON 状態にする。

【1007】

カードユニット 21TM050 においてカードが受け付けられ、球貸スイッチ 21TM062 が操作され球貸スイッチ信号が入力されると、カードユニット 21TM050 は、PRDY 信号が ON 状態であることに基づいて、払出制御基板 21TM037 に BRDY 信号を出力する。すなわち、BRDY 信号を ON 状態にする。この時点から所定の遅延時間が経過すると、カードユニット 21TM050 は、BRDY 信号が ON 状態であることに基づいて、払出制御基板 21TM037 に BRQ 信号を出力する。すなわち、BRQ 信号を ON 状態にする。

【1008】

そして、払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 は、BRDY 信号及び BRQ 信号が何れも ON 状態であることに基づいて、カードユニット 21TM050 に対する EXS 信号を ON 状態にし、以降の球貸の払出制御を実行する。

【1009】

なお、遊技中（遊技制御用タイマ割込処理が実行可能な状態）に、錠スイッチ 21TM051 及びクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052 の操作により設定変更モード、設定確認モードに制御可能な構成を採用した場合であっても、図 10-29 に示した第 3 の球貸制限方法を適用可能である。また、払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 に接続確認信号が入力されているか否か（ON 状態であるか又は OFF 状態であるか）にかかわらず、PRDY 信号を出力する（ON 状態とする）ことが可能な構成を採用した場合であっても、図 10-29 に示した第 3 の球貸制限方法を適用可能である。即ち、払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 は、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間は、払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 が備える遊技機枠・扉枠開放センサ 21TM300 が、遊技機用枠 3（又はガラス扉枠 3a）の開放状態を検知していることに基づいて、PRDY 信号を ON 状態としない。これにより、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間は、球貸が実行されないようにすることが可能となる。

【1010】

なお、この実施形態では、遊技機枠・扉枠開放センサ 21TM300 が、払出制御基板 21TM037 に設けられている（開放状態の検出信号が払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 に入力される）例を示したが、このような形態に限らず、遊技機枠・扉枠開放センサ 21TM300 は、主基板 11 に設けられる（開放状態の検出信号が遊技制御用マイクロコンピュータ 100 に入力される）ようにしても良い。このような構成とした場合には、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 は、遊技機枠・扉枠開放センサ 21TM300 が、遊技機用枠 3（又はガラス扉枠 3a）の開放状態を検知したことに基づいて、接続確認信号の出力を停止する（ON 状態から OFF 状態に切り替える）。これにより、接続確認信号が入力されなくなったことに基づいて、払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 が、PRDY 信号を OFF 状態とすることにより、あるいは、EXS 信号を ON 状態としないことにより、球貸が実行されないようにする。

【1011】

（設定変更モードにおける第 4 の球貸制限方法）

次に、第 4 の球貸制限方法に関して、図 10-30 を用いて具体的に説明する。なお、図 10-30 に示す例では、設定変更モードに制御されている期間は、接続確認信号は ON 状態であり、設定確認モードに制御されている期間も、接続確認信号は ON 状態である

ものとする。即ち、接続確認信号は、図10-12及び図10-13に示した例とは異なり、設定変更モードに制御される前のタイミングでON状態となり、設定変更モード期間中もON状態が維持されるものとする。また、接続確認信号は、図10-12及び図10-13に示した例とは異なり、設定確認モードに制御される前のタイミングでON状態となり、設定確認モード期間中もON状態が維持されるものとする。

【1012】

図10-30は、遊技制御用マイクロコンピュータ100のCPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行しているときの、主基板11（遊技制御用マイクロコンピュータ100）、払出制御基板21TM037（払出制御用マイクロコンピュータ21TM370）、及びカードユニット21TM050の間で行われる通信処理を説明するためのタイミング図である。主基板11では、所定の電源基板からの電力供給が開始されると、遊技制御用マイクロコンピュータ100が起動し、CPU103によって遊技制御メイン処理となる所定の処理が実行される。そして、主基板11から払出制御基板21TM037に出力される接続確認信号がON状態となった後に、設定変更モード又は設定確認モードに移行する。

10

【1013】

図10-30の例では、CPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している間も接続確認信号はON状態である。ここで、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、設定変更モード又は設定確認モードに制御したことに基づいて、接続確認コマンドの送信を停止する。接続確認コマンドは、前述したように、シリアル通信回路21TM505を介して、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370との間の通信状態を確認するためのコマンドである。

20

【1014】

払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、接続確認信号がON状態であることに基づいて、PRDY信号をON状態とする。また、PRDY信号が既にON状態となっている場合には、PRDY信号をON状態のまま維持する。即ち、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、VL信号がON状態（即ち、カードユニット21TM050と電氣的に接続されている状態）であり、且つ、接続確認信号がON状態（即ち、遊技制御用マイクロコンピュータ100と電氣的に接続されている状態）であるときは、CPU103が設定変更モード又は設定確認モードに制御されているか否かにかかわらず、PRDY信号をON状態とする。

30

【1015】

カードユニット21TM050においてカードが受け付けられ、CPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している間に、球貸スイッチ21TM062が操作され球貸スイッチ信号が入力されると、カードユニット21TM050は、PRDY信号がON状態であることに基づいて、払出制御基板21TM037にBRDY信号を出力する。すなわち、BRDY信号をON状態にする。この時点から所定の遅延時間が経過すると、カードユニット21TM050は、BRDY信号がON状態であることに基づいて、払出制御基板21TM037にBRQ信号を出力する。すなわち、BRQ信号をON状態にする。

40

【1016】

ここで、払出制御基板21TM037は、PRDY信号がON状態であり、かつ、BRDY信号及びBRQ信号が何れもON状態であるが、遊技制御用マイクロコンピュータ100から接続確認コマンドを受信していないことに基づいて、カードユニット21TM050に対するEXS信号をON状態にしない。即ち、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、VL信号がON状態（即ち、カードユニット21TM050と電氣的に接続されている状態）であり、且つ、接続確認信号がON状態（即ち、遊技制御用マイクロコンピュータ100と電氣的に接続されている状態）であり、PRDY信号がON状態（即ち、払出制御基板21TM037による、払出動作が可能な状態）であり、BRDY信号がON状態（即ち、球貸スイッチ21TM062が操作され球貸スイッチ信号が入力

50

された状態）であり、BRQ信号がON状態（即ち、BRDY信号がON状態となつてから所定の遅延時間が経過した状態）であっても、CPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している間（接続確認コマンドを受信していない間）は、EXS信号をON状態とせず、OFF状態とする。このように、接続確認信号、PRDY信号、BRDY信号、BRQ信号がON状態であるときでも、接続確認コマンドが送信されないときには、EXS信号がOFF状態であり、払出モータ21TM289は駆動されないので、CPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している間は、球貸スイッチ21TM062が操作されても球貸（遊技媒体の払出）が実行されない。

【1017】

このように、設定変更モード、設定確認モードに制御されている期間は、遊技制御用マイクロコンピュータ100が接続確認コマンドを送信しないことにより、接続確認コマンドを受信していない払出制御用マイクロコンピュータ21TM370側で、EXS信号をON状態としないようになっている。このようにして、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370による遊技媒体の払出制御を実行させないようにすることができる。また、カードユニット21TM050においては、EXS信号がON状態とならないことに基づいて、球貸が実行されないこと（球貸エラーが発生したこと）を報知することが可能である。

10

【1018】

そして、カードユニット21TM050は、BRQ信号をON状態としてから、EXS信号がOFF状態のまま所定の時間が経過すると（予め定められた値にセットされたタイマがタイムアウトすると）、BRQ信号の出力を停止する。即ち、BRQ信号をOFF状態にする。そして、カードユニット21TM050は、BRQ信号がOFF状態となったことに基づいて、BRDY信号の出力を停止する。即ち、BRDY信号をOFF状態にする。

20

【1019】

CPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を終了すると、接続確認コマンドの送信を再開する。このとき、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、PRDY信号をON状態に維持している。

【1020】

カードユニット21TM050においてカードが受け付けられ、球貸スイッチ21TM062が操作され球貸スイッチ信号が入力されると、カードユニット21TM050は、PRDY信号がON状態であることに基づいて、払出制御基板21TM037にBRDY信号を出力する。すなわち、BRDY信号をON状態にする。この時点から所定の遅延時間が経過すると、カードユニット21TM050は、BRDY信号がON状態であることに基づいて、払出制御基板21TM037にBRQ信号を出力する。すなわち、BRQ信号をON状態にする。

30

【1021】

そして、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、遊技制御用マイクロコンピュータ100からの接続確認コマンドの受信を再開したこと、並びに、BRDY信号、及び、BRQ信号が何れもON状態であることに基づいて、カードユニット21TM050に対するEXS信号をON状態にし、以降の球貸の払出制御を実行する。

40

【1022】

なお、遊技中（遊技制御用タイマ割込処理が実行可能な状態）に、錠スイッチ21TM051及びクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052の操作により設定変更モード、設定確認モードに制御可能な構成を採用した場合であっても、図10-30に示した第4の球貸制限方法を適用可能である。また、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370に接続確認信号が入力されているか否か（ON状態であるか又はOFF状態であるか）にかかわらず、PRDY信号を出力する（ON状態とする）ことが可能な構成を採用した場合であっても、図10-30に示した第4の球貸制限方法を適用可能である。即ち、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、設定変更モード又は設定確認モ

50

ードに制御されている遊技制御用マイクロコンピュータ100から接続確認コマンドを受信していないことに基づいて、EXS信号をON状態にしない。これにより、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間は、球貸が実行されないようにすることが可能となる。

【1023】

また、図10-30では、BRQ信号がON状態となってから、EXS信号がOFF状態のまま所定の時間が経過すると（予め定められた値にセットされたタイマがタイムアウトすると）、カードユニット21TM050がBRQ信号をOFF状態に戻し、さらに、BRDY信号もOFF状態に戻す例を示しているが、このような形態に限らず、BRQ信号がON状態となってから、EXS信号がOFF状態のまま所定の時間が経過しても、BRQ信号をON状態のまま維持し、BRDY信号もON状態のまま維持するようにしても良い。そして、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、遊技制御用マイクロコンピュータ100からの接続確認コマンドの受信を再開したこと（設定変更モード又は設定確認モードが終了したこと）、並びに、BRDY信号、及び、BRQ信号が何れもON状態であることに基づいて、EXS信号をON状態にしても良い。ここで、EXS信号をON状態としたときに、（1）球貸スイッチ21TM062が改めて操作されることなく、BRQ信号がOFF状態となり球貸が自動的に実行される（即ち、設定変更モード又は設定確認モードが終了したときに、当該設定変更モード又は当該設定確認モードの期間内に受け付けられた球貸操作に応じた球貸処理が実行される）ようにしても良く、（2）球貸スイッチ21TM062が改めて操作されたことを契機として、BRQ信号がOFF状態となり、球貸が実行されるようにしても良い。

【1024】

（設定変更モード中に球貸制限を実行しない方法）

次に、設定変更モード中に球貸制限を実行しない方法に関して、図10-31を用いて具体的に説明する。なお、図10-31に示す例では、設定変更モードに制御されている期間は、接続確認信号はON状態であり、設定確認モードに制御されている期間も、接続確認信号はON状態であるものとする。即ち、接続確認信号は、図10-12及び図10-13に示した例とは異なり、設定変更モードに制御される前のタイミングでON状態となり、設定変更モード期間中もON状態が維持されるものとする。また、接続確認信号は、図10-12及び図10-13に示した例とは異なり、設定確認モードに制御される前のタイミングでON状態となり、設定確認モード期間中もON状態が維持されるものとする。

【1025】

図10-31は、遊技制御用マイクロコンピュータ100のCPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行しているときの、主基板11（遊技制御用マイクロコンピュータ100）、払出制御基板21TM037（払出制御用マイクロコンピュータ21TM370）、及びカードユニット21TM050の間で行われる通信処理を説明するためのタイミング図である。主基板11では、所定の電源基板からの電力供給が開始されると、遊技制御用マイクロコンピュータ100が起動し、CPU103によって遊技制御メイン処理となる所定の処理が実行される。そして、主基板11から払出制御基板21TM037に出力される接続確認信号がON状態となった後に、設定変更モード又は設定確認モードに移行する。

【1026】

図10-31の例では、CPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している間も接続確認信号はON状態である。ここで、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間も、接続確認コマンドの送信を継続する。接続確認コマンドは、前述したように、シリアル通信回路21TM505を介して、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370との間の通信状態を確認するためのコマンドである。

【1027】

払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、接続確認信号がON状態であること、及び、接続確認コマンドを受信していることに基づいて、PRDY信号をON状態とする。また、PRDY信号が既にON状態となっている場合には、PRDY信号をON状態のまま維持する。即ち、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、VL信号がON状態（即ち、カードユニット21TM050と電氣的に接続されている状態）であり、接続確認信号がON状態（即ち、遊技制御用マイクロコンピュータ100と電氣的に接続されている状態）であり、且つ、接続確認コマンドを受信している状態であるときは、CPU103が設定変更モード又は設定確認モードに制御されているか否かにかかわらず、PRDY信号をON状態とする。

【1028】

10

カードユニット21TM050においてカードが受け付けられ、CPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している間に、球貸スイッチ21TM062が操作され球貸スイッチ信号が入力されると、カードユニット21TM050は、PRDY信号がON状態であることに基づいて、払出制御基板21TM037にBRDY信号を出力する。すなわち、BRDY信号をON状態にする。この時点から所定の遅延時間が経過すると、カードユニット21TM050は、BRDY信号がON状態であることに基づいて、払出制御基板21TM037にBRQ信号を出力する。すなわち、BRQ信号をON状態にする。

【1029】

そして、払出制御基板21TM037は、PRDY信号、BRDY信号、及び、BRQ信号が何れもON状態であり、且つ、接続確認コマンドを受信している状態であることに基づいて、カードユニット21TM050に対するEXS信号をON状態にし、カードユニット21TM050からのBRQ信号の立ち下がり（OFF）を検出すると、払出モータ21TM289を駆動し、所定個（例えば25個）の遊技媒体を遊技者に払い出す。

20

【1030】

このように、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間でも、遊技制御用マイクロコンピュータ100が接続確認コマンドを継続して送信することにより、接続確認コマンドを継続して受信している払出制御用マイクロコンピュータ21TM370側で、PRDY信号、及び、EXS信号をON状態とするようになっている。このようにして、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間でも、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370による遊技媒体の払出制御を実行させるようにすることができ、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間に払出制御を実行させないようにするための制御負担を軽減することができる。また、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間において、カードユニット21TM050とパチンコ遊技機1との間の通信機能についての点検等も併せて行うことができ、作業性を向上させることができる。

30

【1031】

CPU103は、設定変更モード又は設定確認モードの処理を終了しても、接続確認コマンドを継続して送信する。遊技制御用マイクロコンピュータ100からの接続確認コマンドの受信を継続していることに基づいて、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、払出動作が可能なときにはPRDY信号のON状態を維持する。

40

【1032】

なお、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間において、所定個の遊技媒体の払出が終了し、払出モータ21TM289の駆動が停止すると、払出制御基板21TM037は、EXS信号の出力を停止する。即ち、EXS信号をOFF状態にする。そして、カードユニット21TM050は、EXS信号がOFF状態であることに基づいて、BRDY信号の出力を停止する。即ち、BRDY信号をOFF状態にする。このように、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間において、EXS信号がON状態からOFF状態になり、これに伴いBRDY信号がON状態からOFF状態になる場合がある。また、設定変更モード又は設定確認モードの終了後に、所定個の遊技媒体の

50

払出が終了し、払出モータ 2 1 T M 2 8 9 の駆動が停止すると、払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 は、E X S 信号の出力を停止する。即ち、E X S 信号を O F F 状態にする。そして、カードユニット 2 1 T M 0 5 0 は、E X S 信号が O F F 状態であることに基づいて、B R D Y 信号の出力を停止する。このように、設定変更モード又は設定確認モードの終了後に、E X S 信号が O N 状態から O F F 状態になり、これに伴い B R D Y 信号が O N 状態から O F F 状態になる場合がある。

【 1 0 3 3 】

(設定変更モード終了後に球貸を再開する方法)

次に、球貸が実行されている途中で電源断が発生したことにより払出が中断され、その後の電源投入時に設定変更モード又は設定確認モードに制御された場合の処理に関して、
図 1 0 - 3 2 を用いて具体的に説明する。図 1 0 - 3 2 に示す例では、遊技媒体の払出を
実行中に電源断が発生したことに基づいて、遊技媒体の払出を中断し、電源投入後に設定
変更モード又は設定確認モードに制御され、設定変更モード又は設定確認モードの終了後
に中断されていた払出を再開する。

10

【 1 0 3 4 】

図 1 0 - 3 2 は、払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 (払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0) が遊技媒体の払出を実行しているときの、主基板 1 1 (遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0)、払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 (払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0)、及びカードユニット 2 1 T M 0 5 0 の間で行われる通信処理を説明するためのタイミング図である。払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 が遊技媒体の払出を実行している期間は、主基板 1 1 からの接続確認信号は O N 状態であり、払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 からの P R D Y 信号、及び、E X S 信号、並びに、カードユニット 2 1 T M 0 5 0 からの B R D Y 信号は O N 状態であるものとする。

20

【 1 0 3 5 】

払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 が遊技媒体の払出を実行している期間において、電源断が発生すると、主基板 1 1 からの接続確認信号の出力が停止され、払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 からの P R D Y 信号の出力が停止される。即ち、P R D Y 信号は O F F 状態となる。そして、P R D Y 信号が O F F 状態であることに基づいて、カードユニット 2 1 T M 0 5 0 からの B R D Y 信号、及び、払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 からの E X S 信号の出力が停止される。即ち、B R D Y 信号、及び、E X S 信号は O F F 状態となる。そして、E X S 信号が O F F 状態であることに基づいて、払出モータ 2 1 T M 2 8 9 の駆動を停止し、遊技媒体の払出を中断する。このとき、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 における R A M 内のバックアップ領域に形成されている未払出個数格納バッファに、未払出個数のデータが格納される。

30

【 1 0 3 6 】

この未払出個数は、中継基板 2 1 T M 0 7 2 を介して払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 の I / O ポート 2 1 T M 3 7 2 f に入力される払出個数カウントスイッチ 2 1 T M 3 0 1 からの検出信号に基づいて更新される。具体的には、未払出個数は、払出モータ 2 1 T M 2 8 9 により払い出すべき所定の遊技媒体数(即ち、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 から指定された払出個数であり、例えば 2 5 個)から、払出個数カウントスイッチ 2 1 T M 3 0 1 によりカウントされた個数(即ち、実際に払出モータ 2 1 T M 2 8 9 により払い出された遊技媒体数)を減算することにより算出される。

40

【 1 0 3 7 】

その後、主基板 1 1 では、所定の電源基板からの電力供給が開始されると、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 が起動し、C P U 1 0 3 によって遊技制御メイン処理となる所定の処理が実行される。C P U 1 0 3 が、図 1 0 - 1 3 に示すシリアル通信回路設定処理(ステップ S 2 1 T M 1 4 8 0)を実行するまでは、主基板 1 1 から払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 に出力される接続確認信号が O F F 状態であるので、C P U 1 0 3 が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している間は、主基板 1 1 からの接続確認信号は O F F 状態である。

50

【1038】

CPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している間は、主基板11からの接続確認信号がOFF状態であるため、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、PRDY信号をON状態としない。即ち、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、VL信号がON状態であっても、即ち、カードユニット21TM050と電氣的に接続されている状態であっても、PRDY信号をON状態とせず、OFF状態に維持する。

【1039】

その結果、CPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している期間は、カードユニット21TM050は、PRDY信号がOFF状態であることに基づいて、球貸スイッチ21TM062が操作されても払出制御基板21TM037にBRDY信号を出力しない。すなわち、BRDY信号はOFF状態のままである。この時点から所定の遅延時間が経過しても、カードユニット21TM050は、BRDY信号がOFF状態であることに基づいて、払出制御基板21TM037にBRQ信号を出力しない。すなわち、BRQ信号はOFF状態のままである。

【1040】

払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、BRDY信号及びBRQ信号が何れもOFF状態であることに基づいて、カードユニット21TM050に対するEXS信号をON状態とせず、OFF状態に維持する。そして、EXS信号がOFF状態であることに基づいて、払出モータ21TM289の駆動を停止させた状態を維持する。すなわち、接続確認信号がOFF状態であるときには、PRDY信号、BRDY信号、BRQ信号、及びEXS信号が何れもOFF状態であり、払出モータ21TM289は駆動しないので、CPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している間は、遊技媒体の払出が実行されない。

【1041】

CPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を終了し、図10-13に示す、ステップS21TM1480のシリアル通信回路設定処理を実行すると、主基板11からの接続確認信号がON状態となることに基づいて、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、払出動作が可能なときにはPRDY信号をON状態にする。

【1042】

そして、電力供給が再開され、電源投入時に制御された設定変更モード又は設定確認モードが終了したこと（接続確認信号がON状態となり、PRDY信号がON状態となったこと）に基づいて、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370におけるRAMに保存されている未払出個数格納バッファの内容に基づいて、払出モータ21TM289を駆動させ、未払出個数のデータが0になるまで1個ずつ払出動作を行う。これにより、電源断、及び、その後の設定変更モード又は設定確認モードへの移行により中断されていた遊技媒体の払出が完了する。このように、球貸の実行中に電源断が発生して遊技媒体の払出が中断されたときには、その後の電源復旧時に設定変更モード又は設定確認モードに制御された場合であっても、当該設定変更モード又は設定確認モードの終了後に、中断されていた遊技媒体の払出を再開して、球貸を完了させることが可能である。

【1043】

ここで、図10-32に示す例では、払出処理中に電源断が発生したことにより払出処理が中断され、電源復旧時に設定変更モード又は設定確認モードに制御され、設定変更モード又は設定確認モードの終了後に、中断されていた払出処理が再開される例を示したが、この電源断は、遊技場の店員が、設定値を変更又は確認するために電源スイッチ21TM055をOFF状態としたことにより発生した電源断であっても良く、遊技場の営業終了に伴い電源スイッチ21TM055をOFF状態としたことにより発生した電源断であっても良い。また、電源断が発生した場合に限らず、払出処理中に、遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300により、遊技機用枠3の開放状態が検出されたこと、又は、ガラス

10

20

30

40

50

扉枠 3 a の開放状態が検出されたことに応じて、実行中の払出処理が中断され、その後に設定変更モード又は設定確認モードに制御され、設定変更モード又は設定確認モードの終了後に、中断されていた払出処理が再開されるようにしても良い。

【1044】

(電源断に伴う球貸の強制終了方法)

次に、球貸が実行されている途中で電源断が発生したときに払出が強制終了(中止)され、電源復旧後に払出が再開されない場合の処理に関して、図10-33を用いて具体的に説明する。図10-33に示す例では、遊技媒体の払出を実行中に電源断が発生したときに、実行中の払出を停止し、電源復旧後に設定変更モード又は設定確認モードに制御されたときに、払出を再開せず、また、設定変更モード又は設定確認モードの終了後にも払出を再開しない。

10

【1045】

図10-33は、払出制御基板21TM037(払出制御用マイクロコンピュータ21TM370)が遊技媒体の払出を実行しているときの、主基板11(遊技制御用マイクロコンピュータ100)、払出制御基板21TM037(払出制御用マイクロコンピュータ21TM370)、及びカードユニット21TM050の間で行われる通信処理を説明するためのタイミング図である。払出制御基板21TM037が遊技媒体の払出を実行している期間は、主基板11からの接続確認信号はON状態であり、払出制御基板21TM037からのPRDY信号、及び、EXS信号、並びに、カードユニット21TM050からのBRDY信号はON状態であるものとする。

20

【1046】

払出制御基板21TM037が遊技媒体の払出を実行している期間において、電源断が発生すると、主基板11からの接続確認信号の出力が停止され、払出制御基板21TM037からのPRDY信号の出力が停止される。即ち、PRDY信号はOFF状態となる。そして、PRDY信号がOFF状態であることに基づいて、カードユニット21TM050からのBRDY信号、及び、払出制御基板21TM037からのEXS信号の出力が停止される。即ち、BRDY信号、及び、EXS信号は何れもOFF状態となる。そして、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、EXS信号がOFF状態となったことに基づいて、払出モータ21TM289の駆動を停止し、遊技媒体の払出を強制終了(中止)する。このとき、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370におけるRAM内のバックアップ領域に形成されている未払出個数格納バッファに、未払出個数のデータを格納しない(あるいは、未払出個数格納バッファ自体が設けられていない)ため、以下に示すように、電源復旧後に、未払出個数相当の遊技媒体の払出は実行されない。

30

【1047】

その後、主基板11では、所定の電源基板からの電力供給が開始されると、遊技制御用マイクロコンピュータ100が起動し、CPU103によって遊技制御メイン処理となる所定の処理が実行される。CPU103が、図10-13に示すシリアル通信回路設定処理(ステップS21TM1480)を実行するまでは、主基板11から払出制御基板21TM037に出力される接続確認信号がOFF状態であるので、CPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している間は、主基板11からの接続確認信号はOFF状態である。

40

【1048】

その後、CPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している間は、主基板11からの接続確認信号はOFF状態である。そのため、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、PRDY信号をON状態としない。即ち、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、VL信号がON状態であっても、即ち、カードユニット21TM050と電氣的に接続されている状態であっても、PRDY信号をON状態とせず、OFF状態に維持する。

【1049】

その結果、CPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している期

50

間は、カードユニット 21TM050 は、PRDY 信号が OFF 状態であることに基づいて、球貸スイッチ 21TM062 が操作されても払出制御基板 21TM037 に BRDY 信号を出力しない。すなわち、BRDY 信号は OFF 状態のままである。この時点から所定の遅延時間が経過しても、カードユニット 21TM050 は、BRDY 信号が OFF 状態であることに基づいて、払出制御基板 21TM037 に BRQ 信号を出力しない。すなわち、BRQ 信号は OFF 状態のままである。

【1050】

払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 は、BRDY 信号及び BRQ 信号が何れも OFF 状態であることに基づいて、カードユニット 21TM050 に対する EXS 信号を ON 状態とせず、OFF 状態に維持する。そして、EXS 信号が OFF 状態であることに基づいて、払出モータ 21TM289 の駆動を停止させた状態を維持する。すなわち、接続確認信号が OFF 状態であるときには、PRDY 信号、BRDY 信号、BRQ 信号、及び EXS 信号が何れも OFF 状態であり、払出モータ 21TM289 は駆動しないので、CPU103 が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している間は、遊技媒体の払出が実行されない。

【1051】

CPU103 が設定変更モード又は設定確認モードの処理を終了し、図 10-13 に示す、ステップ S21TM1480 のシリアル通信回路設定処理を実行すると、主基板 11 からの接続確認信号が ON 状態となることに基づいて、払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 は、払出動作が可能なときには PRDY 信号を ON 状態にする。なお、未払出個数のデータをバックアップしていないため、電源断発生前（電源復旧に伴い設定変更モード又は設定確認モードに制御される前）に実行されていた球貸処理において払い出すべき所定の遊技媒体数（即ち、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 から指定された払出個数であり、例えば 25 個）のうち、払出の中止（強制終了）により払い出されなかった未払出個数分に関しては、払出が行われない。このように、球貸の実行中に電源断が発生すると、払出を強制終了（中止）し、その後、電源復旧時、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間、設定変更モード又は設定確認モードの終了後、に未払出個数分の払出を実行しないことにより、未払出個数のデータをバックアップして払出を再開する制御が不要となり、球貸処理を簡略化することができる。

【1052】

なお、図 10-33 に示す例では、払出中に電源断が発生したときに、未払出個数のデータをバックアップしないことにより、実行中の払出を途中で強制終了（中止）させているが、このような形態に限らず、図 10-32 に示した例のように、電源断が発生したときに、未払出個数のデータをバックアップしておき、電源復旧後に設定変更モード及び設定確認モードの何れにも制御されないことを条件として、バックアップされていた未払出個数のデータに基づいて未払出個数相当の遊技媒体の払出を実行する（バックアップデータに基づいて払出を再開する）一方、電源復旧後に設定変更モード又は設定確認モードに制御されたときには、未払出個数相当の遊技媒体の払出を実行せず（バックアップデータに基づく払出を再開せず）、設定変更モード又は設定確認モードの終了後も未払出個数相当の遊技媒体の払出を実行しない、ようにしても良い。

【1053】

なお、遊技中（遊技制御用タイマ割込処理が実行可能な状態）に、錠スイッチ 21TM051 及びクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052 の操作により設定変更モード、設定確認モードに制御可能な構成を採用した場合であっても、図 10-33 に示した設定変更モードへの移行に伴う球貸の強制終了方法を適用可能である。また、払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 に接続確認信号が入力されているか否か（ON 状態であるか又は OFF 状態であるか）にかかわらず、PRDY 信号を出力する（ON 状態とする）ことが可能な構成を採用した場合であっても、図 10-33 に示した設定変更モードへの移行に伴う球貸の強制終了方法を適用可能である。即ち、払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 は、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている遊技

10

20

30

40

50

制御用マイクロコンピュータ100から接続確認信号を受信していないことに基づいて、PRDY信号をON状態にしない。これにより、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間は、払出（球貸）が実行されないようにすることが可能となる。

【1054】

（賞球払出制御）

図10-34は、通常動作時における遊技制御用マイクロコンピュータ100と払出制御用マイクロコンピュータ21TM370との信号の送受信を示すタイミング図である。図10-34に示すように、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、賞球要求信号としての接続確認コマンドを払出制御用マイクロコンピュータ21TM370に送信すると、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370から送信される受信ACK信号としての接続OKコマンドを受信する。遊技制御用マイクロコンピュータ100は、受信ACK信号としての接続OKコマンドを受信すると、受信した時点から1s（1秒）経過後に賞球要求信号としての接続確認コマンドを再び送信する。遊技制御用マイクロコンピュータ100および払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、接続状態が正常である限り、上記のような接続確認の通信処理を繰り返し実行する。

【1055】

接続確認の通信処理を実行していないとき（受信ACK信号としての接続OKコマンドを受信してから賞球要求信号としての接続確認コマンドを送信するまでの間）に入賞があった場合は、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、賞球個数を示すデータを賞球要求信号に設定し、当該設定した賞球要求信号としての賞球個数コマンドを払出制御用マイクロコンピュータ21TM370に送信する。払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、賞球要求信号としての賞球個数コマンドを受信すると、賞球個数コマンドで指定された個数の賞球の払い出しを行い、賞球の払い出し（賞球払出動作）が終了すると、受信ACK信号としての賞球終了コマンドを遊技制御用マイクロコンピュータ100に送信する。遊技制御用マイクロコンピュータ100は、受信ACK信号としての賞球終了コマンドを受信すると、受信した時点から1s（1秒）経過後に賞球要求信号としての接続確認コマンドを送信する。

【1056】

尚、図示していないが、接続確認の通信処理の実行中（賞球要求信号としての接続確認コマンドを送信してから受信ACK信号としての接続OKコマンドを受信するまでの間）に入賞があった場合は、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、賞球個数を示すデータを賞球要求信号に設定し、当該設定した賞球要求信号としての賞球個数コマンドを、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370からの受信ACK信号としての接続OKコマンドを受信した後に払出制御用マイクロコンピュータ21TM370に送信する。払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、賞球要求信号としての賞球個数コマンドを受信すると、賞球個数コマンドで指定された個数の賞球の払い出しを行い、賞球の払い出し（賞球払出動作）が終了すると、受信ACK信号としての賞球終了コマンドを遊技制御用マイクロコンピュータ100に送信する。なお、賞球の払い出し（賞球払出動作）の実行中は、受信ACK信号としての賞球準備中コマンドが遊技制御用マイクロコンピュータ100に送信される。

【1057】

（設定変更モード又は設定確認モード中の入賞無効）

図10-35は、設定変更モード又は設定確認モード中における遊技制御用マイクロコンピュータ100と払出制御用マイクロコンピュータ21TM370との信号の送受信を示すタイミング図である。主基板11では、所定の電源基板からの電力供給が開始されると、遊技制御用マイクロコンピュータ100が起動し、CPU103によって遊技制御メイン処理となる所定の処理が実行される。

【1058】

前述したように、CPU103が、図10-13に示す割込許可（ステップS21TM1540）を実行するまでは、第1始動口スイッチ22A、第2始動口スイッチ22B、

10

20

30

40

50

第1一般入賞口スイッチ～第4一般入賞口スイッチ、及び、カウントスイッチ23の各スイッチの状態（検出信号の有無）を確認するスイッチ処理（図10-14に示すステップS21TM1620）が実行されず、大当たり判定処理等を含む特別図柄プロセス処理（図10-14に示すステップS21TM1690）等も実行されない。そのため、CPU103が、設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している期間は、各スイッチから出力される検出信号を検知せず、大当たり判定処理等も実行しない。即ち、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間は、遊技媒体が各入賞口を通過しても入賞が無効とされる。さらに、スイッチ処理が実行されないことにより、排出口スイッチ21TM070による遊技球の検出も実行されず、ベースの集計も実行されないことになる。即ち、割込許可が実行されるまでは、連比、役比、及びベース等の各項目の集計が不要となるため、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間は、これら各項目の集計期間外となり、CPU103の処理負担を軽減することができる。

10

【1059】

設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間において、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、スイッチ処理及び特別図柄プロセス処理を実行しないことで各入賞口を遊技媒体が通過したことに基づく入賞を無効とする。即ち、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370に賞球個数コマンドを送信せず、大当たり判定処理等を実行しない。そして、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、遊技制御用マイクロコンピュータ100からの賞球個数コマンドを受信していないことに基づいて、払出モータ21TM289を駆動させない。即ち、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間において、遊技媒体が各入賞口を通過しても、賞球の払出制御は実行されない。

20

【1060】

CPU103が、設定変更モード又は設定確認モードの処理を終了すると、第1始動口スイッチ22A、第2始動口スイッチ22B、第1一般入賞口スイッチ～第4一般入賞口スイッチ、及び、カウントスイッチ23の各スイッチの状態（検出信号の有無）を確認するスイッチ処理を実行可能となり、遊技媒体が各入賞口を通過したことを検知可能となり、賞球個数コマンド（及び接続確認コマンド）の送信が可能となる。また、大当たり判定処理を含む特別図柄プロセス処理を実行可能となる。

【1061】

30

遊技制御用マイクロコンピュータ100は、賞球要求信号としての接続確認コマンドを払出制御用マイクロコンピュータ21TM370に送信し、賞球要求信号としての接続確認コマンドを受信した払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が、受信ACK信号としての接続OKコマンドを遊技制御用マイクロコンピュータ100に送信する。このとき、遊技媒体が何れかの入賞口を通過すると（入賞が発生すると）、CPU103は、スイッチ処理を実行することにより入賞を検知し、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、賞球要求信号としての賞球個数コマンドを払出制御用マイクロコンピュータ21TM370に送信し、賞球要求信号としての賞球個数コマンドを受信した払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、払出モータ21TM289を駆動させ所定個（例えば3個）の遊技媒体を払い出す。そして、所定個の遊技媒体を払い出した払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、受信ACK信号としての賞球終了コマンドを送信する。

40

【1062】

仮に、設定値が変更される可能性がある設定変更モード期間内に、スイッチ処理が実行されることにより大当たり判定用乱数が抽出され、その大当たり判定用乱数に基づいて大当たり判定が実行されてしまうと、変更前の設定値では大当たりとなるが変更後の設定値（確定後の設定値）では大当たりとはならない大当たり判定用乱数に基づいて大当たり判定が実行されてしまうケースや、逆に変更前の設定値では大当たりとはならないが変更後の設定値（確定後の設定値）では大当たりとなる大当たり判定用乱数に基づいて大当たり判定が実行されてしまうケース等が発生しうる。即ち、これらのケースでは、大当たり判定の実行タイミングと設定

50

値との関係が複雑化し、遊技者又は遊技場が不利益を被る可能性がある。

【1063】

この実施形態では、設定変更モードに制御されているときには、各入賞口を遊技球が通過したことに基づく賞球の払出を実行せず、大当たり判定処理も実行しないようにすることで、大当たり判定の実行タイミングと設定値との関係が複雑化することを防止すると共に、遊技者又は遊技場の不利益を防止するようにしている。

【1064】

また、この実施形態では、設定値を変更可能な設定変更モードのみならず、設定値が表示されるものの変更はできない設定確認モードにおいても、同様に入賞を無効とし、大当たり判定処理を実行しないようにしている。仮に、設定確認モードに関して、設定変更モードとは異なり、電源投入時ではなく遊技制御用タイマ割込処理を実行しているときに制御可能であり、設定確認モードに制御されている期間もスイッチ処理及び特別図柄プロセス処理を実行可能とすると、設定変更モードとは全く異なる制御が必要となり、遊技制御用マイクロコンピュータ100の制御負担が増加してしまうという問題が生じる。

【1065】

そこで、この実施形態では、設定確認モードにおいても、設定変更モードと同様に電源投入時のみ制御可能とし、各入賞口を遊技球が通過したことに基づく賞球の払出を実行せず、大当たり判定処理も実行しないようにすることで、処理を共通化して、遊技制御用マイクロコンピュータ100の制御負担を軽減している。

【1066】

この実施形態では、図10-12及び図10-13に示すように、設定変更モード又は設定確認モードの処理が終了した後に、タイマ割込の設定が行われるようになっている（ステップS21TM1500）。従って、遊技制御用タイマ割込処理自体が実行されないことにより、遊技制御用タイマ割込処理内のスイッチ処理及び特別図柄プロセス処理が実行されず、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間における入賞が無効化されている。これに対して、磁気エラー、電波エラー、振動エラー等によって遊技が停止される場合は、遊技制御用タイマ割込処理が実行されている期間、即ち遊技中において、遊技停止エラーが発生しているか否かが判定されて（ステップS21TM1615）、遊技停止エラーが発生していると判定されると（ステップS21TM1615）、同一の割込処理における以降のスイッチ処理（ステップS21TM1620）及び特別図柄プロセス処理（ステップS21TM1690）が実行されないことにより、入賞が無効化されている。このように、設定変更モード又は設定確認モードに制御された場合と、遊技停止エラーが発生した場合とでは、入賞を無効化する（遊技を停止させる）方式が異なる。

【1067】

なお、遊技制御用マイクロコンピュータ100が、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間において、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370への賞球要求信号としての接続確認コマンドの送信を停止することにより、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、受信ACK信号としての接続OKコマンドを遊技制御用マイクロコンピュータ100に送信しない。従って、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間において、接続OKコマンドを受信していないことに基づいて、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370に賞球要求信号としての賞球個数コマンドを送信しないことで、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370に遊技媒体の払出制御を実行させないようにすることが可能である。このように、遊技制御用マイクロコンピュータ100が、賞球要求信号としての接続確認コマンド及び賞球個数コマンドの出力を行わないことに基づいて、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370に払出制御を実行させず、入賞を無効とすることが可能となる。

【1068】

尚、遊技中（遊技制御用タイマ割込処理が実行可能な状態）に、錠スイッチ21TM051及びクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052の操作により設定変更モー

10

20

30

40

50

ド又は設定確認モードに制御可能な構成としても良い。このような構成を採用した場合であっても、図10-35に示した方法を適用可能であり、設定変更モード又は設定確認モードに制御されたことに基づいて、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、スイッチ処理及び特別図柄プロセス処理を実行しないようにすると良い。

【1069】

また、設定変更モード又は設定確認モードに制御されているときに、遊技制御用マイクロコンピュータ100がスイッチ処理を実行可能な構成（遊技媒体が各入賞口を通過したことの検出自体は可能な構成）としても良い。このような構成を採用した場合には、上述したように、設定変更モード又は設定確認モードに制御されているときに、賞球個数コマンド及び接続確認コマンドの送信を停止することにより、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370に払出制御を実行させず入賞を無効とすると共に、特別図柄プロセス処理は実行しないようにする。そして、設定変更モード又は設定確認モードが終了したときに、当該スイッチ処理を実行可能な状態で賞球個数コマンド及び接続確認コマンドの送信を再開すると共に、特別図柄プロセス処理を実行する。

【1070】

（遊技機枠・扉枠開放検知中の払出制限方法）

図10-36は、遊技機枠・扉枠開放検知中における遊技制御用マイクロコンピュータ100と払出制御用マイクロコンピュータ21TM370との信号の送受信を示すタイミング図である。前述のように、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、賞球要求信号としての接続確認コマンドを払出制御用マイクロコンピュータ21TM370に送信すると、通常動作時は、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370から送信される受信ACK信号としての接続OKコマンドを受信する。このとき、遊技場の店員等が遊技機用枠3又はガラス扉枠3aを開放すると、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が備える遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300が、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの開放状態を検知する。

【1071】

遊技機用枠3が開放されている状態（及び、ガラス扉枠3aと上皿が一体化されている構成であれば、ガラス扉枠3aが開放されている状態）では、払い出されるべき賞球が流下する経路と、流下してきた賞球が貯留される上皿とが物理的に接続されていないため、仮に、この状態で賞球が払い出されてしまうと、遊技媒体が上皿に到達せずに落下してしまう。ここで、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aが開放されている状態で、第1始動入賞口、第2始動入賞口、第1一般入賞口～第4一般入賞口、及び、大入賞口の何れかの入賞口で遊技媒体の通過を検出したときに、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、賞球要求信号としての賞球個数コマンドを払出制御用マイクロコンピュータ21TM370に送信するが、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの開放状態を検知している払出制御用マイクロコンピュータ21TM370では、遊技媒体の払出制御を実行せず、受信ACK信号としての賞球準備中コマンドを遊技制御用マイクロコンピュータ100に送信する。この賞球準備中コマンドは、遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300が遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの開放状態を検知しなくなるまで、即ち、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aが閉鎖状態となるまで、遊技制御用マイクロコンピュータ100に送信し続けられる。

【1072】

このように、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aが開放状態である期間は、遊技媒体が各入賞口を通過して入賞を検知しても、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、払出モータ21TM289を駆動させずに賞球の払出制御を実行しない。そして、受信ACK信号としての賞球準備中コマンドを遊技制御用マイクロコンピュータ100に送信する。

【1073】

払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が備える遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300が、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの開放状態の検知を終了すると、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、払出モータ21TM289を駆動させ、

遊技機用枠 3 又はガラス扉枠 3 a の開放状態が検知されている期間内の入賞に応じた所定数（賞球個数コマンドにより指定された数）の賞球の払出制御を実行する。そして、所定数の遊技媒体を払い出した払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、受信 A C K 信号としての賞球終了コマンドを送信する。

【1 0 7 4】

なお、賞球の払出を実行中に遊技機用枠 3 又はガラス扉枠 3 a の開放状態を検知した場合には、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、当該賞球の払出を中断して、賞球個数コマンドにより指定された個数のうち未払出個数のデータを、R A M 内のバックアップ領域に記憶しておく。そして、受信 A C K 信号としての賞球準備中コマンドを遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 に送信する。払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 が備える遊技機枠・扉枠開放センサ 2 1 T M 3 0 0 が、遊技機用枠 3 又はガラス扉枠 3 a の開放状態の検知を終了すると、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、払出モータ 2 1 T M 2 8 9 を駆動させ、未払出個数相当の遊技媒体の払出制御を実行する。そして、遊技媒体を払い出した払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、受信 A C K 信号としての賞球終了コマンドを送信する。

【1 0 7 5】

尚、遊技中（遊技制御用タイマ割込処理が実行可能な状態）に、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 及びクリアスイッチ（設定切替スイッチ） 2 1 T M 0 5 2 の操作により設定変更モード、設定確認モードに制御可能な構成を採用した場合であっても、図 1 0 - 3 6 に示した遊技機枠・扉枠開放検知中の払出制限方法を適用可能である。この実施形態では、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 及びクリアスイッチ（設定切替スイッチ） 2 1 T M 0 5 2 は、パチンコ遊技機 1 の背面側に設けられており、所定のキー操作により開放可能な遊技機用枠 3 を開放しない限り操作不可能とされている。そのため、当該パチンコ遊技機 1 を設定変更モード又は設定確認モードに制御させるには、遊技機用枠 3 を開放しなければならず、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間は、遊技機用枠 3 が開放されていることが通常である。払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 が、遊技機用枠 3 が開放状態であることを検知している期間は、払出モータ 2 1 T M 2 8 9 の駆動を制限して、賞球の払出が実行されないようにすることで、結果として、設定変更モードに制御されている期間、設定確認モードに制御されている期間における賞球の払出が制限されることになる。

【1 0 7 6】

次に、設定変更モード中に電源断が発生した場合の制御について、図 1 0 - 3 7 （1）及び（2）に基づき説明する。

【1 0 7 7】

図 1 0 - 3 7 （1）及び（2）は、電源断に係るパターンを、電源断発生時の状況の違いに基づき、それぞれ別な図表に分けて示している。図 1 0 - 3 7 （1）に示す電源断に係るパターンは、「設定値変更中」に「設定値確定」が行われない状況で電源断が発生した場合の制御を示しており、電源断復帰時の設定値は前回の電源投入時の設定値となる。また、図 1 0 - 3 7 （2）に示す電源断に係るパターンは、「設定値変更中」に「設定値確定」が行われた状況で電源断が発生した場合の制御を示しており、電源断復帰時の設定値は電源断発生時の設定値となる。

【1 0 7 8】

すなわち、図 1 0 - 3 7 （1）は、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 が O F F 状態に操作される「設定値確定」の操作がない状態（錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 が O N 状態のまま）で電源断が発生した場合の設定値に関する制御を示しており、図 1 0 - 3 7 （2）は、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 が O F F 状態に操作される「設定値確定」の操作があった後に電源断が発生した場合の設定値に関する制御を示している。

【1 0 7 9】

また、図 1 0 - 3 7 （1）及び（2）は、設定変更の作業における各種の状況を、発生の順番に沿って上段から下段に示している（「順番」欄及び「状況」欄を参照）。また、

図10-37(1)及び(2)中においては、「錠スイッチ」の欄に、各状況(順番1～8)における錠スイッチ21TM051のON/OFFの状態が示されており、「設定値」の欄には、それぞれの状況における設定値のデータ(RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値)が示されている。また、図中の「設定値表示」の欄には、それぞれの状況における表示モニタ21TM029(第1表示部21TM029A)の表示内容(設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値)が示されている。

【1080】

設定変更の作業が行われる際には、図10-37(1)における「状況」の欄の最上段に示すように、パチンコ遊技機1の電源投入(順番1)があり、図中右側の「錠スイッチ」の欄に示すように、このときの錠スイッチ21TM051の状態はON状態となっている。また、図10-37(1)中において、順番1の「電源投入」のときの「設定値」は、このときRAM102の設定値格納領域に格納されている設定値が「1」であるため、「1」となっている。

10

【1081】

また、「設定値表示」の欄に示す表示モニタ21TM029(第1表示部21TM029A)の表示内容が空白(ブランク)となっているのは、この段階では、電源投入がされたばかりであり、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値を読み出して表示する処理(ステップS21TM1150)が行われる前であるため、設定値の表示が開始されていないことを表している。

【1082】

20

「電源投入」の状況の後には、「設定変更モード開始」の状況(順番2)となる。そして、この「設定変更モード開始」においては、図10-37(1)中に示すように、「錠スイッチ」の欄は、「ON」となっており、「設定値」の欄は、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値から変更していないことに基づいて、「1」となっており、「設定値表示」の欄は、前述したように、RAM102の設定値格納領域から読み出して設定情報一時記憶領域に記憶している設定値を表示モニタ21TM029(第1表示部21TM029A)に表示していることに基づいて、「1」となっている。

【1083】

続いて、「設定値変更中」の状況(順番3)となった際には、「錠スイッチ」の欄は「ON」のままであり、クリアスイッチ(設定切替スイッチ)21TM052の操作があると、図10-37(1)に示すように、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値は変更されないため「設定値」の欄は「1」のままであるが、設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値は「1」から「2」に変更されることにより、「設定値表示」の欄(表示モニタ21TM029(第1表示部21TM029A)に表示する設定値)については、選択された新たな値である「2」に変化する。

30

【1084】

さらに、「設定値変更中」の状況(順番4)となった際には、「錠スイッチ」の欄は「ON」のままであり、クリアスイッチ(設定切替スイッチ)21TM052の操作があると、図10-37(1)に示すように、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値は変更されないため「設定値」の欄は「1」のままであるが、設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値は「2」から「3」に変更されることにより、「設定値表示」の欄(表示モニタ21TM029(第1表示部21TM029A)に表示する設定値)については、選択された新たな値である「3」に変化する。

40

【1085】

そして、図10-37(1)に示すように、「設定値変更中」に電源断が発生すると(順番5)、設定値を確定させる操作が行われておらず、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値を上書きする処理(設定値を確定させるステップS21TM1190の処理)が実行されていないので、「設定値」の欄は「1」のままである。つまり、電源断発生時は、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値は電源投入時の「1」の状態を維持している。ここで、電源断が発生したことにより、設定情報一時記憶領

50

域に記憶されていた設定値は消去される。

【1086】

さらに、図10-37(1)に示すように、錠スイッチ21TM051がON状態のままで、かつクリアスイッチ(設定切替スイッチ)21TM052がON状態で、電源投入が行われると(順番6)、その後の「設定変更モード開始」の状況(順番7)においては、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値(本例では「1」)が読み出されて設定情報一時記憶領域に記憶され、表示モニタ21TM029(第1表示部21TM029A)に表示されるため、「設定値」の欄は「1」のままであり、「設定値表示」の欄も「1」となる。なお、順番7において、設定変更モードではなく設定確認モードに制御された場合も同様である。

10

【1087】

このように、電源投入に伴い設定変更モードに移行し、設定変更操作が完了することなく(錠スイッチ21TM051がOFF状態に切り替えられることなく)、電源断が発生した場合には、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値が変更されていないため、電源復旧後に設定変更モード又は設定確認モードに制御されたときに表示モニタ21TM029(第1表示部21TM029A)に表示される設定値は、前回の電源投入時(電源断発生前)にRAM102の設定値格納領域に格納されていた設定値となる。このように、設定変更モードに制御されているときに電源断が発生した場合の設定値を適切に定めることができる。

【1088】

次に、設定値の確定後に電源断が発生した場合の制御について、図10-37(2)を用いて説明する。設定値の確定前に電源断が発生した場合と共通する処理部分については説明を省略する。設定値の確定後に電源断が発生する場合において、順番4で示す「設定値変更中」の後に、順番5に示す「設定値確定」が行われるものとする。ここで、設定値を確定させるための操作が行われる直前は、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値は「1」であり、設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値(表示モニタ21TM029(第1表示部21TM029A)に表示されている設定値)は「3」の状態である。そして、設定変更モード中において、錠スイッチ21TM051をOFF状態にすることに基づいて「錠スイッチ」欄は「OFF」となっている。

20

【1089】

即ち、設定変更モード中において、錠スイッチ21TM051をOFF状態にする(ステップS21TM1180でYES)と、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値である「1」が、設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値(表示モニタ21TM029(第1表示部21TM029A)に表示されている設定値)である「3」により上書きされ、これにより設定値が確定する(ステップS21TM1190)。結果として、RAM102の設定値格納領域には設定値として「3」が格納される。

30

【1090】

そして、この状態で電源断が発生すると(順番6)、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値を上書きする処理(設定値を確定させるステップS21TM1190の処理)が実行されたことにより、「設定値」の欄は「3」となっている。つまり、電源断発生時は、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値は電源投入時とは異なる「3」に変更されている。ここで、電源断が発生したことにより、設定情報一時記憶領域に記憶されていた設定値は消去される。

40

【1091】

さらに、図10-37(2)に示すように、錠スイッチ21TM051がOFF状態からON状態に切りかえられて、電源投入が行われると(順番7)、その後の「設定変更モード開始」の状況(順番8)においては、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値(本例では「3」)が読み出されて設定情報一時記憶領域に記憶され、表示モニタ21TM029(第1表示部21TM029A)に表示されるため、「設定値」の欄は「3」となり、「設定値表示」の欄も「3」となる。なお、順番8において、設定変更モ

50

ードではなく設定確認モードに制御された場合も同様である。

【1092】

なお、前述したように、設定変更モードに制御されているときに、錠スイッチ21TM051がOFF状態とされることがなく電源断が発生した場合には、錠スイッチ21TM051がOFF状態とされていないことにより、RAM102の設定値格納領域に格納されていた設定値は、電源投入時から変更されておらず、設定情報一時記憶領域に記憶されていた設定値は削除される。従って、遊技場の店員等は、仮に、電源投入時に誤って遊技機を設定変更モードに移行させてしまい、さらに設定変更操作（クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052の操作）を行った場合であっても、その後に電源スイッチ21TM055をOFFにすることで、設定値の変更を中止させて、設定変更モードに移行させる前の状態に戻ることができる。

10

【1093】

設定変更モードへの移行、設定確認モードへの移行は、電源断（電源スイッチ21TM055をOFFとすることを含む）、及び、その後の電源投入を伴うものであるため、遊技機の状態として不安定になる可能性があり、このような不安定な状態における設定値の取り扱いが問題となるが、図10-37（1）に示したように、錠スイッチ21TM051がOFF状態とされることがなく電源断が発生した場合には、RAM102の設定値格納領域に格納されていた設定値が、電源投入時から変更されないことにより、設定値を適切に定めることができると共に、設定値に関する制御の不安定化を回避でき、設定値に関する適切な制御を実行させることができる。

20

【1094】

図10-38は、遊技中（遊技制御用タイマ割込処理が実行可能な状態）に、錠スイッチ21TM051又はクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052が操作されたときに、パチンコ遊技機1の演出装置（画像表示装置5、スピーカ8L、8R、及び、遊技効果ランプ9）により、設定値を変更させるための操作が行われたことの報知が実行される例を示している。

【1095】

図10-38（1）は、遊技中に画像表示装置5において飾り図柄が変動表示されている状態を示している。このとき遊技制御用マイクロコンピュータ100のCPU103は、遊技制御用タイマ割込処理を実行している。主基板11（CPU103）は、遊技中（例えば、特別図柄の可変表示を実行中）に、錠スイッチ21TM051が操作されたこと（OFF状態からON状態に切り替えられたこと）を検知すると（遊技制御用タイマ割込処理のステップS21TM1660）、錠スイッチ21TM051が操作されたことを示す錠スイッチ操作コマンドを、演出制御基板12（演出制御用CPU120）に送信し（遊技制御用タイマ割込処理のステップS21TM1710）、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052が操作されたことを検知すると（遊技制御用タイマ割込処理のステップS21TM1660）、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052が操作されたことを示す設定切替スイッチ操作コマンドを、演出制御基板12（演出制御用CPU120）に送信する（遊技制御用タイマ割込処理のステップS21TM1710）。即ち、設定値を変更するための操作が行われたことを報知するために、錠スイッチ操作コマンド、及び／又は、設定切替スイッチ操作コマンドを送信する。

30

40

【1096】

図10-38（2）に示すように、演出制御基板12（演出制御用CPU120）は、錠スイッチ操作コマンド、及び／又は、設定切替スイッチ操作コマンドを受信したことに基づいて、設定変更モード及び設定確認モードの何れにも制御されていないにもかかわらず、設定値を変更させるための操作が行われたことを特定して、その旨を報知可能である。例えば、錠スイッチ操作コマンドを受信したことに基づいて、画像表示装置5において「錠スイッチの操作を検出しました。」の文字を表示する異常操作警告報知を実行する。また、設定切替スイッチ操作コマンドを受信したことに基づいて、「設定切替スイッチの操作を検出しました。」の文字を表示する異常操作警告報知を実行する。

50

【1097】

本例では、演出制御用CPU120は、錠スイッチ操作コマンド及び設定切替スイッチ操作コマンドの両方を受信したことに基づいて、異常操作警告報知として「錠スイッチ、設定切替スイッチの操作を検出しました。」の文字を画像表示装置5に表示させている。異常操作警告報知は、表示優先度が背景画像及び飾り図柄よりも高い（表示されるレイヤが背景画像及び飾り図柄よりも上位である）ので、図10-38（2）に示すように、飾り図柄の可変表示中であっても、遊技場の店員等は、設定変更モード及び設定確認モードの何れにも制御されていないにもかかわらず設定値を変更させるための操作が行われたことを明確に把握して、不正が行われていないか等を確認することができる。尚、スピーカ8L, 8Rから設定値変更のための操作が検出されたことを報知する音声（例えば「錠ス

10

【1098】

この実施形態では、電源投入時（遊技制御用タイマ割込み処理が実行される前）においてのみ、設定変更モード又は設定確認モードに制御可能な構成としており、通常であれば、設定値を変更又は確認するための操作（錠スイッチ21TM051、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052の操作）は、遊技制御用タイマ割込み処理を実行可能な期間内には行われなくなっている。従って、特別図柄及び飾り図柄の可変表示が実行されている期間内、あるいは、普通図柄の可変表示が実行されている期間内に、錠ス

20

【1099】

この実施形態では、電源投入時、又は、設定変更モード若しくは設定確認モードに制御されている期間、以外のタイミングで、錠スイッチ21TM051及び／又はクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052が操作された場合には、パチンコ遊技機1が備える最大の表示装置である画像表示装置5において、設定値を変更するための操作、設定値を確認するための操作、が行われたことを報知して、不正を抑止するようにしている。

【1100】

また、前述したように、錠スイッチ21TM051及び／又はクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052が操作される場合には、通常、遊技機用枠3が開放状態となるため、遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300により、遊技機用枠3の開放状態が検知されて、その旨が報知されるようになっていく。また、前述したように、球貸が中断又は中止され、賞球払出も中断又は中止される。しかしながら、遊技島の所定位置に設置されているパチンコ遊技機1に関しては、その遊技島において、所定位置に対向する位置に設置されているパチンコ遊技機1の遊技機用枠3が開放状態となることにより、所定位置に対向する位置から、所定位置に設置されているパチンコ遊技機1の遊技盤2の裏側面を見ることが可能であり、その裏面側の錠スイッチ21TM051及び／又はクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052を操作することが可能となる。即ち、所定位置のパチンコ遊技機1の遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300が、遊技機用枠3の開放状

30

40

【1101】

そのためこの実施形態では、遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300により遊技機用枠3の開放状態が検知されているか否かにかかわらず、錠スイッチ21TM051及び／又はクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052が操作された場合には、設定値を変更するための操作、設定値を確認するための操作、が行われたことを報知することで、不正の抑止を強化するようにしている。

【1102】

50

(設定変更対応信号)

次に、主基板 11 の情報出力端子から出力される各種信号について具体的に説明する。図 10-39 に示すように、この実施形態における情報出力回路 112 には、第 1 端子～第 10 端子までの 10 の情報出力端子が設けられており、各情報出力端子に対応した信号が出力される。

【1103】

図 10-39 (1) に示すパターン 1 の例において、第 1 端子からは賞球信号が出力される。賞球信号は、10 個の賞球が払い出される毎に出力されるパルス状の信号であり、パルス幅は 0.1 秒となっている。第 2 端子からは遊技機枠・扉枠開放信号が出力される。遊技機枠・扉枠開放信号は、遊技機枠・扉枠開放センサ 21TM300 により遊技機用枠 3 の開放状態が検出されているときに ON 状態となり、ガラス扉枠 3a の開放状態が検出されているときにも ON 状態となる。

10

【1104】

第 3 端子からは全図柄確定回数信号が出力される。全図柄確定回数信号は、第 1 特別図柄の可変表示が実行されて表示結果が導出表示されたとき（確定したとき）に出力され、第 2 特別図柄の可変表示が実行されて表示結果が導出表示されたとき（確定したとき）に出力されるパルス状の信号であり、パルス幅は 0.5 秒となっている。第 4 端子からは全始動口信号が出力される。全始動口信号は、第 1 始動入賞口への遊技球の入賞が発生したときに出力され、第 2 始動入賞口への遊技球の入賞が発生したときにも出力されるパルス状の信号であり、パルス幅は 0.1 秒となっている。

20

【1105】

第 5 端子からは大当たり 1 信号が出力される。大当たり 1 信号は、大当たり遊技状態に制御されているときに ON 状態となる。第 6 端子からは大当たり 2 信号が出力される。大当たり 2 信号は、大当たり遊技状態に制御されているときに ON 状態となり、高ベース状態に制御されているときにも ON 状態となる。即ち、大当たり 1 信号が OFF 状態であり、大当たり 2 信号が ON 状態である期間は、高ベース状態として特定可能である。

【1106】

第 7 端子からは設定変更対応信号が出力される。設定変更対応信号は、設定変更モードに制御されている期間に ON 状態となり、設定確認モードに制御されている期間にも ON 状態となる信号である。また、設定変更対応信号は、後述するように、設定変更モード又は設定確認モードの終了後に、パルス状（特殊態様）で出力可能であり、そのときのパルス数により設定値を外部装置側で特定可能となっている。

30

【1107】

第 8 端子からはアウト信号が出力される。アウト信号は、10 個のアウト球（遊技領域に発射されて排出口に導かれた遊技球）が排出口スイッチ 21TM070 により検出される毎に出力されるパルス状の信号であり、パルス幅は 0.1 秒となっている。第 9 端子からは入賞信号が出力される。入賞信号は、各入賞口（第 1 始動入賞口、第 2 始動入賞口、大入賞口、第 1 一般入賞口～第 4 一般入賞口）に遊技球が入賞する毎（各入賞口に対応したスイッチにより入賞が検出される毎）に出力され、また、10 個の賞球が払い出される毎に出力されるパルス状の信号である。入賞信号のパルス幅は 0.1 秒となっている。

40

【1108】

第 10 端子からはセキュリティ信号が出力される。セキュリティ信号は、電源投入時に初期化処理（ステップ S21TM1410 の RAM クリア）が実行されたときに、30 秒間 ON 状態となる信号である。また、不正行為が検出された場合に 4 分間 ON 状態となる。不正行為が検出される場合には、例えば、異常入賞が発生した場合が含まれ、各入賞口に異常な頻度（例えば、第 1 始動入賞口に 30 秒間あたり 15 回以上の頻度で遊技球が入賞した場合等）で遊技球が入賞していることに基づいて、異常入賞と判定される。また、スイッチ異常検出が発生した場合も含まれ、各入賞口に対応したスイッチが入賞検出状態となっている期間が異常である（例えば、遊技制御用タイマ割込み処理で 10 回以上連続して第 1 始動口スイッチが ON 状態となっている場合等）ことに基づいて、スイッチ異常

50

検出と判定される。また、磁気センサにより異常磁気を検出されたときには、遊技停止対象エラーが発生したことに基づいて、電源がOFFになるまでON状態が継続し、電源再投入後に異常磁気を検出されなくなったとき（エラー解除後）には4分間ON状態となる。

【1109】

さらに、図10-39(1)に示すパターン1の例では、セキュリティ信号は、設定変更モードに制御されている期間にON状態となり、設定確認モードに制御されている期間にもON状態となる。

【1110】

このように、第10端子からセキュリティ信号を出力可能であり、第7端子からは設定変更対応信号を出力可能であることにより、不正行為が行われた可能性を外部に通知可能であると共に、設定変更モード又は設定確認モードに制御されたこと（設定変更に関連した処理が実行されたこと）を外部に通知可能となっている。また、設定変更モード又は設定確認モードの終了に伴い、一旦は、第7端子から出力される設定変更対応信号がOFF状態となり、その後と同じ第7端子から、RAM102の設定値格納領域に格納されている現在の設定値に対応した数のパルス状の設定変更対応信号が出力されるため、設定値を外部に通知可能となっている。

【1111】

具体的には、図10-40(1)に示すように、電源投入時に設定変更モードに移行した場合には、第7端子から設定対応変更信号が出力され、これと同時に、第10端子からはセキュリティ信号が出力される。そして、RAMクリアが実行されたことに基づいて、設定変更モードの終了に伴い設定変更対応信号がOFF状態となった後も、30秒間はセキュリティ信号がON状態とされる。

【1112】

また、図10-40(2)に示すように、電源投入時に設定確認モードに移行した場合には、第7端子から設定変更対応信号が出力され、これと同時に、第10端子からはセキュリティ信号が出力される。そして、RAMクリアが実行されないことに基づいて、設定確認モードの終了に伴い設定変更対応信号及びセキュリティ信号が同時にOFF状態となる。ここで、電源投入時に設定確認モードに制御された後にRAMクリアが実行された場合（ステップS21TM1320においてNO、又は、ステップS21TM1330においてNOの場合）には、図10-40(1)に示した例と同様に、設定確認モードの終了に伴い設定変更対応信号がOFF状態となった後も、30秒間はセキュリティ信号がON状態とされる。

【1113】

なお、電源投入時に設定変更モード及び設定確認モードの何れにも移行することなくRAMクリアが実行された場合には、電源投入時から30秒間はセキュリティ信号がON状態となるが、設定変更対応信号はON状態とはならない。

【1114】

このように、セキュリティ信号は、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間もON状態となる。従って、外部装置が、設定変更対応信号の入力を想定しておらず、設定変更対応信号の入力に基づく処理が実行されないように構成されている場合であっても、少なくともセキュリティ信号の入力に基づいて、設定変更モード又は設定確認モードに制御された可能性があることを認識可能となっている。

【1115】

設定変更対応信号は、設定変更モード又は設定確認モードが終了したときにOFF状態となるが、セキュリティ信号に関しては、RAMクリアが実行されたことに基づいて、設定変更モード（又は設定確認モードにおいてパリティチェックの結果が正常でない場合）が終了した後も30秒間はON状態となる。一方、設定変更モード及び設定確認モードの何れにも制御されることなくRAMクリアが実行された場合には、セキュリティ信号は電源投入時から30秒間、ON状態となる。従って、セキュリティ信号が入力される外部装

10

20

30

40

50

置側では、セキュリティ信号の入力期間が30秒程度である場合には、設定変更モード及び設定確認モードの何れにも制御されることなくRAMクリアが実行された可能性があることを認識可能である。一方、セキュリティ信号の入力期間が30秒を超えている場合には、設定変更モード又は設定確認モードに制御された可能性があることを認識可能であり、セキュリティ信号の入力期間が30秒に達しなかった場合には、設定確認モードに制御された後にRAMクリアが実行されなかった可能性があることを認識可能である。つまり、セキュリティ信号の入力期間が30秒程度である場合には、設定変更モード及び設定確認モードの何れにも制御されることなくRAMクリアが実行された可能性があることをホールコンピュータ等の管理装置において認識可能であり、セキュリティ信号の入力期間が30秒未満である場合には、一時的に設定確認モードに制御された可能性があることを管理装置において認識可能であり、セキュリティ信号の入力期間が30秒を超えている場合には、設定変更モードに制御された可能性があることを管理装置において認識可能である。したがって、遊技機のセキュリティ信号の出力期間によって、外部側で遊技機がどのような制御を実行したかを区別することができる。

10

【1116】

従って、外部装置が、設定変更対応信号の入力を想定しておらず、設定変更対応信号の入力に基づく処理が実行されないように構成されている場合であっても、少なくともセキュリティ信号の入力に基づいて、RAMクリアが実行された可能性と、設定変更モード又は設定確認モードに制御された可能性とを、区別して認識可能となっている。

20

【1117】

なお、図10-40(3)に示すように、設定確認モードに制御されている期間はセキュリティ信号を出力しない構成としても良い。この構成には、設定変更モードに制御されている期間はセキュリティ信号を出力する一方で、設定確認モードに制御されている期間はセキュリティ信号を出力しない構成と、設定変更モードに制御されている期間はセキュリティ信号を出力せず、設定確認モードに制御されている期間もセキュリティ信号を出力しない構成と、が含まれる。具体的には、電源投入時に設定確認モードに移行した場合には、第7端子から設定対応変更信号が出力されるが、第10端子からはセキュリティ信号が出力されないものとする。そして、設定確認モードの終了に伴い設定変更対応信号がOFF状態になると、RAMクリアが実行されないことに基づいてセキュリティ信号のOFF状態を維持する。即ち、設定確認モードに移行された場合には、RAMクリアが実行されないことを条件としてセキュリティ信号が出力されない。

30

【1118】

このように、設定確認モードに制御されている期間はセキュリティ信号を出力しない構成において、図10-40(5)に示すように、電源投入時に設定確認モードに制御された後にRAMクリアが実行された場合(ステップS21TM1320においてNO、又は、ステップS21TM1330においてNOの場合)には、設定確認モードの終了(設定変更対応信号のOFF状態)から30秒間はセキュリティ信号がON状態となる。

【1119】

また、図10-40(4)に示すように、設定変更モードに制御されている期間はセキュリティ信号を出力しない構成としても良い。即ち、電源投入時に設定変更モードに移行した場合には、第7端子から設定対応変更信号が出力されるが、第10端子からはセキュリティ信号が出力されない。そして、設定変更モードの終了に伴いRAMクリアが実行されたことに基づいて、設定変更対応信号がOFF状態となった後も、30秒間はセキュリティ信号がON状態となる。なお、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間はセキュリティ信号を出力しない構成において、電源投入時に設定変更モード及び設定確認モードの何れにも移行することなくRAMクリアが実行された場合には、電源投入時から30秒間はセキュリティ信号がON状態となるが、設定変更対応信号はON状態とはならない。

40

【1120】

このように、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間は、設定変更対

50

応信号をON状態とする一方でセキュリティ信号はOFF状態としておき、RAMクリアが実行されたときには、設定変更モード又は設定確認モードが終了してから（設定変更対応信号がOFF状態となってから）30秒間はセキュリティ信号をON状態とすることで、一方の信号がON状態のときには、他方の信号がOFF状態となる関係となる。このような関係により、信号出力制御が簡素化され（同時に両方の信号がON状態とはならないため出力制御が簡素化され）、外部装置において、設定変更モード又は設定確認モードへの制御期間を明確に認識可能であると共に、設定変更モード又は設定確認モードの終了を契機として初期化处理が実行されたことを明確に認識可能となる。

【1121】

また、図10-40(6)に示すように、遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300により遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの開放状態が検知された場合には、第2端子から遊技機枠・扉枠開放信号が出力され、これと同時に、第10端子からはセキュリティ信号が出力される。そして、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの閉鎖に伴い遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300による遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの開放状態の検知が終了したことに基づいて、遊技機枠・扉枠開放信号がOFF状態となった後も、30秒間はセキュリティ信号がON状態とされる。

【1122】

ここで、図10-39(1)に示したパターン1の例では、第7端子から設定変更対応信号を出力し、第10端子からセキュリティ信号を出力するようにしているが、通常は出力端子の割り当てに制約があるため、設定変更対応信号専用の出力端子を割り当てるのが困難な場合がある。図10-39(2)に示すパターン2の例では、セキュリティ信号が出力される第10端子から設定変更対応信号も出力される例を示している。

【1123】

パターン2において、第1端子～第6端子、第8端子、及び、第9端子に関しては、パターン1における信号の割り当てと同様である。パターン2においては、パターン1と異なり、第7端子からは、高ベース信号が出力される。高ベース信号は、高ベース状態に制御されているときにON状態となる。第10端子からはセキュリティ信号が出力される。セキュリティ信号は、電源投入時に初期化处理（ステップS21TM1410のRAMクリア）が実行されたときに、30秒間ON状態となる信号である。また、不正行為が検出された場合に4分間ON状態となる。不正行為が検出される場合には、例えば、異常入賞が発生した場合が含まれ、各入賞口に異常な頻度（例えば、第1始動入賞口に30秒間あたり15回以上の頻度で遊技球が入賞した場合等）で遊技球が入賞していることに基づいて、異常入賞と判定される。また、スイッチ異常検出が発生した場合も含まれ、各入賞口に対応したスイッチが入賞検出状態となっている期間が異常である（例えば、遊技制御用タイマ割込み処理で10回以上連続して第1始動口スイッチがON状態となっている場合等）ことに基づいて、スイッチ異常検出と判定される。また、磁気センサにより異常磁気を検出されたときには、遊技停止対象エラーが発生したことに基づいて、電源がOFFになるまでON状態が継続し、電源再投入後に異常磁気を検出されなくなったとき（エラー解除後）には4分間ON状態となる。

【1124】

さらに、図10-39(2)の例では、第10端子から、設定変更対応信号が出力される。設定変更対応信号は、設定変更モードに制御されている期間にON状態となり、設定確認モードに制御されている期間にもON状態となる信号である。また、設定変更対応信号は、後述するように、設定変更モード又は設定確認モードの終了後に、パルス状（特殊態様）で出力可能であり、そのときのパルス数により設定値を外部装置側で特定可能となっている。従って、第10端子からは、セキュリティ信号及び設定変更対応信号が出力されている。即ち、セキュリティ信号及び設定変更対応信号は、共通端子から出力されている。

【1125】

このように、第10端子からセキュリティ信号及び設定変更対応信号を出力可能である

10

20

30

40

50

ことにより、不正行為が行われた可能性を外部に通知可能であると共に、設定変更対応信号専用の出力端子を設けることなく、設定変更モード又は設定確認モードに制御された可能性があること（設定変更に関連した処理が実行された可能性があること）を外部に通知可能となっている。また、設定変更モード又は設定確認モードの終了に伴い、一旦は、第10端子から出力される設定変更対応信号がOFF状態となり（RAMクリアが実行された場合には設定変更モード又は設定確認モードの終了から30秒後に第10端子から出力される信号がOFF状態となり）、その後と同じ第10端子から、RAM102の設定値格納領域に格納されている現在の設定値に対応した数のパルス状の設定変更対応信号が出力されるため、設定値を外部に通知可能となっている。そして、遊技機島に設けられた中継装置を介して遊技機番号（台番号）とともに設定変更対応信号が管理装置へ送信されるため、管理装置において、台番号と設定変更対応信号に基づく設定値と事前に決定された設定値とを対応付けて表示することにより対比可能に表示するような処理が可能となる。この結果、複数の遊技機の実際の設定値を遊技店の管理者が管理装置を介して容易に管理することができ、管理者が事前に決定した設定値と設定変更作業において変更された設定値との不整合を管理者が把握することができる。そして、このような不整合が生じている場合には、当該遊技機について設定確認又は再度の設定変更作業を行うことによって、遊技店における複数の遊技機における設定に関する管理の適正化を図ることができる。

10

【1126】

前述したように、設定変更対応信号は、設定変更モードの終了、設定確認モードの終了に伴い一旦はOFF状態となるが、その後、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値に対応した特殊態様で出力される。具体的には、図10-41に示すように、特殊態様の設定変更対応信号として、設定値に相当する数のパルスが出力される。本例では、設定値の数と同じパルスが出力される。パルスの幅は例えば0.1秒であり、例えば、設定値が3である場合には、0.1秒の幅のパルスが所定間隔（例えば0.5秒間隔）で3回出力される。これにより、ホールコンピュータ等の外部装置において、各遊技機の設定値を容易に特定可能となる。

20

【1127】

図10-42（1）に示すように、電源投入時に設定変更モードに制御されたことに伴い、設定変更対応信号がON状態となる。ここでは、電源投入時にRAM102の設定値格納領域に格納されていた設定値が1であったものとする。そして、設定変更モードにおいて、設定値の変更が行われることなく設定変更モードが終了したものとする。設定変更モードの終了に伴い、設定変更対応信号が一旦はOFF状態となるが、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値が1であることに基づいて、特殊態様の設定変更対応信号として1のパルスが出力されている。

30

【1128】

このように、設定変更対応信号により、設定変更モードに制御されているか否かを外部に通知することが可能であると共に、設定変更モード終了時における設定値（設定値が変更された場合には変更後の設定値）を外部に通知することが可能となり、設定変更モードに制御されているか否かを通知する信号と、設定値を通知する信号とを、共通の情報出力端子から出力させることが可能となる。

40

【1129】

さらに、この実施形態では、設定変更モード、設定確認モードが終了したときに限らず、予め定められた所定契機に、特殊態様の設定変更対応信号として、設定値に相当する数のパルスが出力される。具体的には、大当り遊技状態に制御されたこと、大当り遊技状態が終了したこと、高ベース状態が終了したこと、払い出された賞球数が1000増加したこと、といった遊技状態に関連した事象や、遊技機用枠3の開放を検知したこと、ガラス扉枠3aの開放を検知したこと、磁気異常を検知したこと等の遊技機エラーに関連した事象を契機として、その時点（所定事象が発生したとき）におけるRAM102の設定値格納領域に格納されている設定値に対応した特殊態様の設定変更対応信号を出力する。図10-42（1）に示す例では、大当りの発生を契機として、特殊態様の設定変更対応信号

50

として1のパルスが出力されている。

【1130】

これにより、外部装置において、各遊技機の設定値を把握する機会を確保することが可能となり、例えば、設定変更モードの終了時に設定変更対応信号が適切に入力されなかったこと等により、外部装置側で設定値を特定できなかった場合でも、その後の所定契機に設定値を特定可能となり、設定値を不適切な方法により変更する不正の防止を強化することができる。

【1131】

また、図10-42(2)に示す例では、電源投入時に設定変更モードに制御されたことに伴い、設定変更対応信号がON状態となる。ここでは、電源投入時にRAM102の設定値格納領域に格納されていた設定値が1であったものとする。そして、設定変更モードにおいて、設定値の変更が行われた結果、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値が1から3に変更されたものとする。この場合には、設定変更モードの終了に伴い、設定変更対応信号が一旦はOFF状態となり、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値が3となったことに基づいて、設定変更対応信号として3のパルスが出力されている。また、図10-42(2)に示す例では、大当りの発生を契機として、特殊態様の設定変更対応信号として3のパルスが出力されている。

【1132】

ここで、図10-41(1)に示すように、設定変更モードに制御されているときに設定値を変更する操作(設定切替スイッチ21TM052の操作)が行われず、設定値が変更されなかった場合と、図10-41(2)に示すように、設定変更モードに制御されているときに設定値を変更する操作(設定切替スイッチ21TM052の操作)が行われて、設定値が変更された場合とで、何れの場合にも設定変更モードの終了後には、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値に対応した数のパルス状の設定変更対応信号が出力されるようになっている。このように、設定変更モードに制御されたときには、実際に設定変更操作や設定値の変更が行われたか否かにかかわらず、設定変更モードの終了に伴い共通の信号出力処理を実行することで、信号出力処理を簡素化することができる。

【1133】

また、図10-42(3)に示す例では、電源投入時に設定確認モードに制御されたことに伴い、設定変更対応信号がON状態となる。ここでは、電源投入時にRAM102の設定値格納領域に格納されていた設定値が1であったものとする。そして、設定確認モードにおいては、設定値の変更が行われなため、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値は1のまま変更されない。この場合には、設定確認モードの終了に伴い、設定変更対応信号が一旦はOFF状態となり、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値が1であることに基づいて、設定変更対応信号として1のパルスが出力されている。また、図10-42(3)に示す例では、大当りの発生を契機として、特殊態様の設定変更対応信号として1のパルスが出力されている。

【1134】

このように、設定変更対応信号により、設定確認モードに制御されているか否かを外部に通知することが可能であると共に、設定確認モードにおいて報知された設定値(電源投入時にRAM102の設定値格納領域に格納されていた設定値であり、表示モニタ21TM029に表示されていた設定値)を外部に通知することが可能となり、設定確認モードに制御されているか否かを通知する信号と、設定値を通知する信号とを、共通の情報出力端子から出力させることが可能となる。

【1135】

なお、前述した図10-39(2)に示した情報端子の割り当てパターン2では、設定変更モード又は設定確認モードの終了に伴いRAMクリアが実行された場合、第10端子から出力される信号が、設定変更モード又は設定確認モードの終了から30秒経過後にOFF状態となり、その後、同じ第10端子から、RAM102の設定値格納領域に格納さ

10

20

30

40

50

れていた設定値に対応した数のパルス状（特殊態様）の設定変更対応信号が出力されることになる。

【1136】

（遊技制御メイン処理の変形例）

次に、前述した図10-11～図10-13の遊技制御メイン処理に関する他の形態に関して、図10-43及び図10-44を用いて説明する。図10-11～図10-13では、設定変更モード又は設定確認モードが終了した後に初期化処理（RAMクリア）が実行される例を示したが、このような形態に限らず、図10-43及び図10-44に示すように、初期化処理（RAMクリア）が実行された後に、設定変更モード又は設定確認モードに移行するようにしても良い。

10

【1137】

図10-11に示した遊技制御メイン処理において、CPU103は、RAM102をアクセス可能状態に設定する（ステップS21TM1060）と、図10-43のステップS21TM2110に移行し、入力ポートを介して入力されるクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052の出力信号（クリア信号）の状態を確認する（ステップS21TM2110）。

【1138】

クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052の出力信号（クリア信号）の状態確認において、ON状態を検出した場合には（ステップS21TM2110でYES）、CPU103は、電源投入時にクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052が操作されたことを示すRAMクリアフラグをセットして（ステップS21TM2210）、初期化処理を実行する（ステップS21TM2220）。初期化処理に伴う一連の処理（ステップS21TM2220～ステップS21TM2270に示す処理）に関しては、図10-13に示したステップS21TM1410～ステップS21TM1460に示した処理と同様であり、説明を省略する。

20

【1139】

一方、ステップS21TM2110におけるクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052の出力信号（クリア信号）の状態確認において、OFF状態を検出した場合には（ステップS21TM2110でNO）、CPU103は、ステップS21TM2120以降の処理を実行する。ステップS21TM2120～ステップS2170に示す処理に関しては、図10-13に示したステップS21TM1320～ステップS21TM1370に示した処理と同様であり、説明を省略する。

30

【1140】

そして、CPU103は、ステップS21TM2170で電源断復旧時のバックアップコマンドを送信した後、又は、ステップS21TM2270で電源投入時の初期化コマンドを送信した後、錠スイッチ21TM051がONとなっているか否かを判定する（図10-44のステップS21TM2310）。錠スイッチ21TM051がONとなっていない場合（ステップS21TM2310；NO）は、ステップS21TM2550に進む。錠スイッチ21TM051がONとなっている場合（ステップS21TM2310；YES）は、CPU103は、RAMクリアフラグがセットされているか否か、即ち、電源投入時にクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052が操作されたか否かを確認する（ステップS21TM2320）。

40

【1141】

RAMクリアフラグがセットされている場合、即ち、電源投入時にクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052が操作されていた場合には（ステップS21TM2320でYES）、CPU103は、設定値を変更可能な設定変更モードに移行する（ステップS21TM2330～ステップS21TM2400）。即ち、CPU103は、電源投入時に錠スイッチ21TM051がONであるという第1条件が成立しており、且つ、電源投入時にクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052がONであるという第2条件が成立していることに基づいて、処理状態を設定変更モードに制御する。設定変更モ

50

ードに関連したステップS 2 1 T M 2 3 3 0～ステップS 2 1 T M 2 4 0 0に示す処理は、図1 0－1 2のステップS 2 1 T M 1 1 3 0～ステップS 2 1 T M 1 2 0 0に示した処理と同様であり、説明を省略する。そして、ステップS 2 1 T M 2 4 0 0の処理を実行した後に、セットされていたR A Mクリアフラグを消去して（ステップS 2 1 T M 2 4 1 0）、ステップS 2 1 T M 2 5 5 0に進む。

【1 1 4 2】

R A Mクリアフラグがセットされていない場合、即ち、電源投入時にクリアスイッチ（設定切替スイッチ）2 1 T M 0 5 2が操作されていなかった場合には（ステップS 2 1 T M 2 3 2 0でN O）、C P U 1 0 3は、設定値を確認可能な設定確認モードに移行する（ステップS 2 1 T M 2 5 1 0～ステップS 2 1 T M 2 5 4 0）。即ち、C P U 1 0 3は、電源投入時に錠スイッチ2 1 T M 0 5 1がO Nであるという第1条件は成立しているが、電源投入時にクリアスイッチ（設定切替スイッチ）2 1 T M 0 5 2がO Nであるという第2条件は成立していないことに基づいて、処理状態を設定確認モードに制御する。設定確認モードに関連したステップS 2 1 T M 2 5 1 0～ステップS 2 1 T M 2 5 4 0に示す処理は、図1 0－1 2のステップS 2 1 T M 1 2 1 0～ステップS 2 1 T M 1 2 4 0に示した処理と同様であり、説明を省略する。そして、ステップS 2 1 T M 2 5 4 0において、錠スイッチ2 1 T M 0 5 1がO F Fとなったことを確認すると（ステップS 2 1 T M 2 5 4 0でY E S）、ステップS 2 1 T M 2 5 5 0に進む。

【1 1 4 3】

ここで、電源投入時にクリアスイッチ（設定切替スイッチ）2 1 T M 0 5 2が操作されていなかった場合には、仮に、図1 0－4 3のステップS 2 1 T M 2 1 2 0又はステップS 2 1 T M 2 1 3 0でN Oと判定されて、初期化処理（ステップS 2 1 T M 2 2 2 0以降の処理）が実行された場合であっても、R A Mクリアフラグがセットされていない。その結果、ステップS 2 1 T M 2 3 2 0でN Oと判定されて、設定変更モードには移行しないようになっている。このように、初期化処理（R A Mクリアによる遊技状態の初期化）が実行される場合でも、電源投入時にクリアスイッチ（設定切替スイッチ）2 1 T M 0 5 2がO Nであるという第2条件が成立していない場合には、設定変更モードには制御されないようになっている。

【1 1 4 4】

設定変更モード若しくは設定確認モードが終了した後、又は、電源投入時に錠スイッチ2 1 T M 0 5 1がO F F状態であった場合における、ステップS 2 1 T M 2 5 5 0～ステップS 2 1 T M 2 6 2 0に関する一連の処理は、図1 0－1 3に示したステップS 2 1 T M 1 4 7 0～ステップS 2 1 T M 1 5 4 0に示した一連の処理と同様であり、説明を省略する。

【1 1 4 5】

図1 0－4 3及び図1 0－4 4に示した例では、設定変更モードに制御された場合、C P U 1 0 3は、電源投入時の初期化コマンド（ステップS 2 1 T M 2 2 7 0）を送信した後に、設定変更モードコマンド（ステップS 2 1 T M 2 3 4 0）を送信し、設定コマンドを送信する（ステップS 2 1 T M 2 5 5 0）。また、設定確認モードに制御された場合、C P U 1 0 3は、電源断復旧時のバックアップコマンド又は電源投入時の初期化コマンド（ステップS 2 1 T M 2 1 7 0又はステップS 2 1 T M 2 2 7 0）を送信した後に、設定確認モードコマンドを送信し（ステップS 2 1 T M 2 5 2 0）を送信し、設定コマンドを送信する（ステップS 2 1 T M 2 5 5 0）。従って、演出制御用C P U 1 2 0は、設定変更モードコマンドを受信した後に設定コマンドを受信したに基づいて、設定変更モードの終了を特定可能であり、画像表示装置5、スピーカ8 L、8 R、遊技効果ランプ9等の演出装置により設定変更モードの終了を報知することが可能である。また、演出制御用C P U 1 2 0は、設定確認モードコマンドを受信した後に設定コマンドを受信したに基づいて、設定確認モードの終了を特定可能であり、画像表示装置5、スピーカ8 L、8 R、遊技効果ランプ9等の演出装置により設定確認モードの終了を報知することが可能である。このような構成によれば、設定変更モード又は設定確認モードが終了したことを指

定するための専用のコマンド（設定変更モード終了コマンド又は設定確認モード終了コマンド）を設けること無く、設定コマンドの受信によって、演出制御用CPU120側で設定変更モード又は設定確認モードが終了したことを特定可能であるため、コマンド数を抑制することができる。即ち、遊技制御用マイクロコンピュータ100の制御負担を軽減し、コマンド数を記憶させるための容量を抑制することができる。

【1146】

（特徴部21TMに関する他の変形例）

上記の実施形態では、設定値を変更するためのスイッチが、遊技機を初期化（RAMクリア）させるためのクリアスイッチと共通である例を示したが、このような形態に限らず、設定値を変更するためのスイッチは、主基板11に設けられており（遊技制御用マイクロコンピュータ100が操作を検知可能であり）、遊技機を初期化（RAMクリア）させるためのクリアスイッチとは異なるスイッチであっても良い。このような構成とすることによって、設定値を切り替えるためのスイッチが電源基板に設けられる場合と比較して、設定値を切り替えるためのスイッチと、表示モニタ21TM029（第1表示部21TM029A）との位置が近くなるため、設定値を変更する際に、設定値の確認と、設定値の確認に応じた切替操作が容易になり、作業性を向上させることができる。

【1147】

また、上記の実施形態では、集計されたベース等の遊技情報が表示される表示モニタ21TM029の一部表示領域（第1表示部21TM029A）に、設定値が表示される例を示したが、このような形態に限らず、集計された遊技状態が表示される表示モニタ21TM029とは異なる表示装置、例えば、設定値を表示させるための専用の表示装置であって、主基板11に設けられている7セグメント表示器等に、設定値を表示させるようにしても良い。このような構成によれば、集計された遊技情報、及び、設定値を、個別に、より明確に把握することができるため、集計された遊技情報に応じて設定値を変更する作業が容易になり、作業性を向上させることができる。

【1148】

また、遊技機を初期化（RAMクリア）させるためのクリアスイッチを備える一方で、設定値を変更するためのスイッチを備えていない構成としても良い。このような構成において、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、設定変更モードに制御されているときに、表示モニタ21TM029（第1表示部21TM029A）に表示させる設定値を自動的に順番に変更し（例えば1→2→3→4→5→6の順序で5秒毎に変更し）、錠スイッチ21TM051がON状態からOFF状態となったときに、表示モニタ21TM029（第1表示部21TM029A）に表示されている設定値（設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値）が、設定値格納領域に格納される（設定値格納領域に格納されていた設定値が、設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値により上書きされる）ことにより設定値が確定するようにしても良い。遊技場の店員は、確定させたい設定値が表示モニタ21TM029（第1表示部21TM029A）に表示されているタイミングで、錠スイッチ21TM051をON状態からOFF状態に切り替えることで、そのとき表示されていた設定値を、当該遊技機の設定値として確定させることが可能である。

【1149】

上記の実施形態では、遊技機が、入賞の発生に基づいて所定数の遊技媒体を上皿又は下皿に払い出すパチンコ遊技機1である例を示したが、このような形態に限らず、遊技機に遊技媒体を封入しておき、入賞の発生に基づいて得点を付与する封入式遊技機であってもよい。この封入式遊技機において、主基板11から払出制御基板21TM037を介してカードユニット21TM050に定期的送信される情報の中に、設定変更モード又は設定確認モードに関する情報が含まれていても良く、例えば、設定変更モードに制御されたこと、設定確認モードに制御されたこと、設定変更モードに制御されている期間内であること、設定確認モードに制御されている期間内であること、設定値を変更するための操作が行われたこと、設定変更モードが終了したこと、設定確認モードが終了したこと、等を示す情報が含まれていても良い。また、情報出力回路112から、これらの情報がホール

10

20

30

40

50

コンピュータ等の管理装置に送信され、ホールコンピュータにおいて、各遊技機が設定変更モード又は設定確認モードに制御されていること等を特定可能としても良い。

【1150】

上記の実施形態では、演出制御基板12に接続される画像表示装置5等によって、設定変更モードに制御されている期間内であること、設定確認モードに制御されている期間内であること、等が報知される例を示したが、このような形態に限らず、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、設定変更モードに制御されていることに基づいて、第1特別図柄表示装置4A、第2特別図柄表示装置4B、普通図柄表示器20等により、設定変更モードに制御されていることを報知する（例えば、7セグメント表示器を第1報知態様で発光させる）ようにしても良く、設定確認モードに制御されていることに基づいて、第1特別図柄表示装置4A、第2特別図柄表示装置4B、普通図柄表示器20等により、設定確認モードに制御されていることを報知する（例えば、7セグメント表示器を第1報知態様とは異なる第2報知態様で発光させる）ようにしても良い。更に、パチンコ遊技機1に大当たり遊技中のラウンド数を表示する表示器（ラウンド数表示器）や、遊技者に対して遊技領域の特定領域（例えば右側の遊技領域）に遊技球を打ち出すよう指示するための表示器（右打ち表示器）等を設ける場合は、これら表示器を、設定変更モードの処理を実行中である旨を示す態様、設定確認モードの処理を実行中である旨を示す態様、にて発光させるようにしてもよい。

10

【1151】

上記の実施形態では、設定変更モード又は設定確認モードに制御されたときに、セキュリティ信号がON状態となり、その後、設定変更モード又は設定確認モードの終了後にRAMクリアが実行される場合には、セキュリティ信号がOFF状態となることなく、設定変更モード又は設定確認モードの終了後から30秒間、セキュリティ信号が継続してON状態となる例を示したが、このような形態に限らず、設定変更モード又は設定確認モードに制御されたときに、セキュリティ信号がON状態となり、その後、設定変更モード又は設定確認モードの終了後にRAMクリアが実行される場合には、設定変更モード又は設定確認モードの終了に伴い、セキュリティ信号が一旦、所定期間（例えば0.5秒間）OFF状態となり、その後、セキュリティ信号が特定期間（例えば、30秒間）ON状態となるようにしても良い。このような信号出力方式とすることにより、ホールコンピュータ等の外部装置において、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間を明確に特定可能となると共に、RAMクリアが実行されたことを明確に特定可能となる。

20

30

【1152】

図9-5に示される期待度示唆演出に関して、当該遊技機の設定値（RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値）と、大当たり期待度とに応じて、各演出態様（黒い星の数）の選択割合が変化するようにしても良い。例えば、大当たり期待度が低い場合であっても、当該パチンコ遊技機1の設定値が高い場合（例えば、5又は6の場合）には、当該パチンコ遊技機1の設定値が低い場合（例えば、1又は2の場合）よりも、高い割合で、黒い星の数が3以上の期待度示唆演出が実行されるようにしても良い。このような演出構成とすることにより、表示結果がハズレとなった場合でも、黒い星の数が3以上の期待度示唆演出が実行されたことにより、当該パチンコ遊技機1の設定値が高いことを遊技者に期待させることができ、期待度示唆演出が実行されるときに演出態様（黒い星の数）に遊技者を注目させることができる。また、大当たり期待度が低いリーチであっても、これに伴い、黒い星の数が多（例えば3以上の）期待度示唆演出が実行されることにより、遊技者は、当該パチンコ遊技機1の設定値が高いことを期待することができるため、大当たり期待度が低いときにも興趣を向上させることができる。

40

【1153】

上記の実施形態では、遊技機としてパチンコ遊技機1を示したが、メダルが投入されて所定の賭け数が設定され、遊技者による操作レバーの操作に応じて複数種類の図柄を回転させ、遊技者によるストップボタンの操作に応じて図柄を停止させたときに停止図柄の組合せが特定の図柄の組み合わせになると、所定数のメダルが遊技者に払い出されるゲーム

50

を実行可能なスロット機（例えば、ビッグボーナス、レギュラーボーナス、R T、A T、A R T、C Z（以下、ボーナス等）のうち1以上を搭載するスロット機）にもこの発明を適用可能である。このようなスロット機では、設定値に応じてボーナスが成立する割合が異なり、スロット機を設定変更モードに制御させることにより設定値を変更可能であり、設定確認モードに制御させることにより設定値を確認可能である。

【1154】

〔特徴部21TMに関する詳細及び他の形態〕

次に、上述した特徴部21TMに関する詳細及び他の形態について説明する。この実施形態のパチンコ遊技機1は、遊技機枠を備える。遊技機枠は、遊技機用枠3と、ガラス扉枠3aと、図示しない外枠と、を備えている。また、遊技機枠は、左右方向の一端側（例えば遊技者から見て左側）に図示しないヒンジ機構部を備えており、遊技機用枠3及びガラス扉枠3aは、それぞれヒンジ機構部を支点として左右方向の他端側（例えば遊技者から見て右側）が外枠から離れる方向に回動可能に連結されている。ガラス扉枠3aがヒンジ機構部を支点として扉のように回動することによって、遊技盤2の遊技領域を含む、外枠の内側部分を開放することができる。遊技機用枠3及びガラス扉枠3aの他端側（例えば遊技者から見て右側）には、それらの他端側を外枠に固定するロック機構が設けられている。

10

【1155】

また、外枠は、金属製であり、パチンコ遊技機1の外郭部となる枠体である。遊技機用枠3は、遊技盤2が取り付けられる合成樹脂製の枠体であり、前方から見て中央が貫通された略長方形の枠形状とされている。遊技盤2は、遊技機用枠3に対して前方から取り付けられる。遊技機用枠3に取り付けられた遊技盤2は、固定装置によって遊技機用枠3から外れないように係止される。遊技機用枠3は、スピーカ8L、8R、遊技効果ランプ9、スティックコントローラ31A、及び、プッシュボタン31B等が配設される枠体である。ガラス扉枠3aは、遊技盤面を保護するとともに、遊技盤2の前面の遊技領域を視認可能な透視窓として、ガラス板（窓部に相当）を備えている。

20

【1156】

遊技場の店員が、遊技盤面のメンテナンス（例えば、球詰まりの解消措置等）を行う場合には、ガラス扉枠3aを、他端側が外枠に固定（ロック）されている閉鎖状態から、ヒンジ機構部（一端側）を支点として扉のように手前側に回動させることにより、他端側を外枠から離れた開放状態とする必要がある。遊技場の店員が、遊技盤2の裏面側に配置された電源スイッチ21TM055、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052、表示切替スイッチ21TM030等进行操作するためには、また、表示モニタ21TM029を視認するためには、遊技機用枠3を、他端側が外枠に固定（ロック）されている閉鎖状態から、ヒンジ機構部（一端側）を支点として扉のように手前側に回動させることにより、他端側を外枠から離れた開放状態とする必要がある。

30

【1157】

遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300は、遊技機用枠3の開放状態を検出すると、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370に、遊技機用枠3が開放状態となっていることを特定可能な検出信号を出力し、ガラス扉枠3aの開放状態を検出すると、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370に、ガラス扉枠3aが開放状態となっていることを特定可能な検出信号を出力する。払出制御用マイクロコンピュータ21TM370側では、遊技機用枠3の開放状態と、ガラス扉枠3aの開放状態とを、区別して認識可能となっている。

40

【1158】

（電源投入時処理）

図11-1及び図11-2は、パチンコ遊技機1の電源投入時に遊技制御用マイクロコンピュータ100において実行される処理の一例を示す図であり、図10-11～図10-13、並びに、図10-11及び図10-43～図10-44に示した処理に相当する処理である。但し、これら図10-11等に示した処理のうち、一部の処理（例えば、図

50

10-11に示した処理等)については図示を省略している。

【1159】

図11-1に示すように、遊技制御用マイクロコンピュータ100のCPU103は、電源が投入された後に、バックアップRAM領域のデータチェックを行う(ステップS21TM3010)。この処理は、図10-13のステップS21TM1330及び図10-43のステップS21TM2130に示した処理と同様の処理であり、データチェックとしてパリティチェックを行う。

【1160】

チェック結果が正常であれば(ステップS21TM3010でYES)、CPU103は、設定変更中フラグがセットされているか否かを確認する(ステップS21TM3020)。設定変更中フラグは、後述する設定変更・確認処理に移行したときにセットされ(ステップS21TM3510)、錠スイッチ21TM051がOFF状態に切り替えられたときにクリアされる(ステップS21TM3710)。

10

【1161】

設定変更中フラグがセットされていない場合は(ステップS21TM3020でNO)、CPU103は、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値が、正規の値、例えば、1~6の何れかに合致するか否かを確認する(ステップS21TM3030)。ここで、パチンコ遊技機1が遊技機メーカーから出荷される際(遊技場に設置される前)には、設定値格納領域に、上記正規の値とは異なる値(例えば0)が記憶されている場合がある。また、設定値格納領域のデータが壊れている場合には、正規の値となっていない場合がある。設定値が正規の値であれば(ステップS21TM3030でYES)、クリアスイッチ(設定切替スイッチ)21TM052がON状態であるか否かを確認する(ステップS21TM3040)。

20

【1162】

クリアスイッチ(設定切替スイッチ)21TM052がON状態であれば(ステップS21TM3040でYES)、CPU103は、設定値格納領域を除いた領域をクリアし、RAMクリアフラグを1に設定する(ステップS21TM3050)。ステップS21TM3050におけるRAMクリア処理では、RAM102の遊技状態情報格納領域に格納されている電力供給停止前の遊技状態を示すデータ(特別図柄プロセスフラグ、確変フラグ、時短フラグ、保留記憶等)はクリアされて、初期値が設定されるが、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値はクリアされず、RAMクリア処理の前から変更されない。また、設定値毎に、連比、役比、及びベース等の各集計値(表示モニタ21TM029に表示可能な遊技情報)が記憶されている領域も、クリアされず、これら設定値毎の各集計値は、RAMクリア処理の前から変更されない。そして、表示モニタ21TM029に「C」の文字を表示すること等により、遊技状態が初期化されたことを報知する。なお、遊技状態が初期化されたことの報知は、設定変更モード又は設定確認モードに制御される前に行われるようにしても良く、前述したように、設定変更モード又は設定確認モードの終了後に行われるようにしても良い。

30

【1163】

次いで、CPU103は、初期化処理が行われたことを指定する初期化コマンドを送信し(ステップS21TM3055)、ステップS21TM3060に移行する。演出制御用CPU120では、この初期化コマンドを受信したことに基づいて、初期化処理が行われたことを認識する。演出制御用CPU120は、初期化コマンドを受信すると、例えば画像表示装置5、スピーカ8L、8R、遊技効果ランプ9等の演出装置において、遊技状態等の初期化が行われたことを報知することが可能である。

40

【1164】

一方、クリアスイッチ(設定切替スイッチ)21TM052がOFF状態であれば(ステップS21TM3040でNO)、CPU103は、電力供給復旧時のコマンドとしてのバックアップコマンド(復旧時のコマンド)を送信し(ステップS21TM3045)、ステップS21TM3060に移行する。演出制御用CPU120では、このバックア

50

ップコマンド（復旧時のコマンド）を受信したことに基づいて、電力供給停止時のデータに基づいて電源断からの復旧が行われたことを認識する。演出制御用CPU120は、バックアップコマンドを受信すると、例えば画像表示装置5、スピーカ8L、8R、遊技効果ランプ9等の演出装置において、電力供給停止時のデータに基づいて電源断からの復旧が行われたことを報知することが可能である。

【1165】

次いで、CPU103は、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aが開放状態となっているか否かを確認する（ステップS21TM3060）。ここで、前述したように、遊技機用枠3の開放状態、ガラス扉枠3aの開放状態は、遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300により検出可能となっており、遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300から払出制御用マイクロコンピュータ21TM370に、遊技機用枠3の開放状態が検出されたことを示す検出信号、ガラス扉枠3aの開放状態が検出されたことを示す検出信号が出力される。払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が、遊技機用枠3の開放状態が検出されたことを認識すると、遊技制御用マイクロコンピュータ100に、遊技機用枠3の開放状態が検出された旨を通知し、ガラス扉枠3aの開放状態が検出されたことを認識すると、遊技制御用マイクロコンピュータ100に、ガラス扉枠3aの開放状態が検出された旨を通知することで、遊技制御用マイクロコンピュータ100側で、遊技機用枠3の開放状態と、ガラス扉枠3aの開放状態とを、個別に認識可能となっている。

【1166】

なお、遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300から遊技制御用マイクロコンピュータ100に対して、遊技機用枠3の開放状態が検出されたことを示す検出信号、ガラス扉枠3aの開放状態が検出されたことを示す検出信号が出力される構成とした場合（即ち、遊技制御用マイクロコンピュータ100が遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300を備える場合）には、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、これらの検出信号の入力によって、遊技機用枠3の開放状態と、ガラス扉枠3aの開放状態とを、個別に認識可能となる。

【1167】

CPU103が、遊技機用枠3の開放状態又はガラス扉枠3aの開放状態を認識した場合には（ステップS21TM3060でYES）、錠スイッチ21TM051がON状態であるか否かを確認する（ステップS21TM3070）。そして、錠スイッチ21TM051がON状態であれば（ステップS21TM3070でYES）、図11-2に示す、設定変更モード又は設定確認モードに関連したステップS21TM3510以降の処理、に移行する。設定変更モードに移行した場合には設定値の確認及び変更が可能となり、設定確認モードに移行した場合には設定値の確認が可能となる。

【1168】

即ち、バックアップRAM領域のデータチェック結果が正常であり（ステップS21TM3010でYES）、設定変更中に電源断が発生しておらず（ステップS21TM3020でNO）、設定値が正規の値であるときには（ステップS21TM3030でYES）、遊技機用枠3が開放状態であり（ステップS21TM3060でYES）、且つ、錠スイッチ21TM051がON状態である（ステップS21TM3070でYES）ことを条件として、設定値の変更及び／又は確認が可能となり、遊技機用枠3が閉鎖状態であるか（ステップS21TM3060でNO）、又は、錠スイッチ21TM051がOFF状態である（ステップS21TM3070でNO）ことを条件として、通常遊技処理に移行する。

【1169】

この実施形態では、設定値の変更を許可しないものの、設定値を確認することが可能な状態（設定確認モード）とするためには、（1）遊技機用枠3が開放状態であり、（2）錠スイッチ21TM051がON状態である、という2つの条件が必要となっている。CPU103は、ステップS21TM3060及びステップS21TM3070の判定処理によって、これら（1）及び（2）の条件が何れも成立していることを確認したときに、

設定値を確認することが可能な状態（設定確認モード）に移行可能としている。また、これら（１）及び（２）の条件に加えて、さらに、（３）ステップＳ２１ＴＭ３０４０で、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）２１ＴＭ０５２がＯＮ状態である（ＹＥＳ）と判定されたことを条件として、後述するように、設定値を変更することが可能な状態（設定変更モード）に移行可能となっている。

【１１７０】

前述したように、設定値を確認又は変更するために操作しなければならない錠スイッチ２１ＴＭ０５１は、遊技盤２の裏面側に設けられており、遊技機用枠３を開放状態としなければ操作することができない。仮に、遊技機用枠３が開放状態となっていないにもかかわらず、錠スイッチ２１ＴＭ０５１が操作されたということは、遊技機枠・扉枠開放センサ２１ＴＭ３００に異常があるか、又は、何らかの不正な手段で設定値の確認又は変更が行われようとしている可能性がある。このような状態で、設定値の確認又は変更を許可することは不適切であるため、この実施形態では、遊技機用枠３が開放状態となっていないときには、パチンコ遊技機１を設定確認モード及び設定変更モードの何れにも制御させないようにしている。

10

【１１７１】

なお、この実施形態では、（１）の条件として、遊技機用枠３又はガラス扉枠３ａの何れか一方が開放状態となっているときには、パチンコ遊技機１を設定確認モード又は設定変更モードに制御可能としているが、このような形態に限らず、仮に、ガラス扉枠３ａが開放状態となっていない場合、遊技機用枠３が開放状態となっていない場合、設定確認モード及び設定変更モードの何れにも制御させないようにしても良い。

20

【１１７２】

一方、ステップＳ２１ＴＭ３０６０で、遊技機用枠３の開放状態又はガラス扉枠３ａの開放状態を認識しなかった場合（ステップＳ２１ＴＭ３０６０でＮＯ）、即ち、遊技機用枠３及びガラス扉枠３ａが何れも閉鎖状態となっている場合には、通常遊技処理に移行する。また、ステップＳ２１ＴＭ３０７０で、錠スイッチ２１ＴＭ０５１がＯＦＦ状態であることが確認されると（ステップＳ２１ＴＭ３０７０でＮＯ）、通常遊技処理に移行する。通常遊技処理への移行に伴い、図１０－１３に示したステップＳ２１ＴＭ１４７０～ステップＳ２１ＴＭ１５４０、又は、図１０－４４に示したステップＳ２１ＴＭ２５５０～ステップＳ２１ＴＭ２６２０に相当する処理が実行可能となり、図１０－１４に示した遊技制御用タイマ割込処理が実行可能となる（特別図柄プロセス処理等が実行可能となる）。

30

【１１７３】

バックアップＲＡＭ領域のデータチェックにおいて（ステップＳ２１ＴＭ３０１０）、チェック結果が異常であれば（ステップＳ２１ＴＭ３０１０でＮＯ）、ＣＰＵ１０３は、設定値格納領域に格納されている設定値が異常である可能性があることを示す設定値異常エラーコマンドを、演出制御用ＣＰＵ１２０に送信する（ステップＳ２１ＴＭ３１１０）。ここで、仮に、設定値格納領域に正規の値（１～６）が格納されている場合であっても、バックアップＲＡＭ領域の一部が壊れている場合には、ステップＳ２１ＴＭ３１１０が実行されて、設定値格納領域に格納されている値が不適切である可能性があることが、ＣＰＵ１０３及び演出制御用ＣＰＵ１２０によって認識される。

40

【１１７４】

また、ステップＳ２１ＴＭ３０２０において、設定変更中フラグがセットされていることが確認された場合には（ステップＳ２１ＴＭ３０２０でＹＥＳ）、ＣＰＵ１０３は、設定値異常エラーコマンドを、演出制御用ＣＰＵ１２０に送信する（ステップＳ２１ＴＭ３１１０）。

【１１７５】

また、ステップＳ２１ＴＭ３０３０において、設定値格納領域に正規の値（１～６）が格納されていない場合には（ステップＳ２１ＴＭ３０３０でＮＯ）、ＣＰＵ１０３は、設定値格納領域に０を記憶させて（ステップＳ２１ＴＭ３１００）、設定値異常エラーコマ

50

ンドを、演出制御用CPU120に送信する（ステップS21TM3110）。仮に、バックアップRAM領域のデータチェックにおいて（ステップS21TM3010）、チェック結果が正常であっても（ステップS21TM3010でYES）、設定値格納領域に正規の値（1～6）が格納されていない場合には、設定値として0が設定され、設定値異常エラーコマンドが送信されることになる。

【1176】

演出制御用CPU120は、設定値異常エラーコマンドを受信すると、画像表示装置5において、設定値が異常である可能性があることを報知する（例えば、「設定値が異常です。」というメッセージを表示する）。さらに、演出制御用CPU120は、画像表示装置5において、設定値を変更すべき状態であることを報知する（例えば、「設定値を変更して下さい。」というメッセージを表示する）。なお、スピーカ8L、8Rによって、設定値が異常である可能性があることを報知する（例えば、「設定値が異常です。」という音声を出力する）ようにしても良く、設定値を変更すべき状態であることを報知する（例えば、「設定値を変更して下さい。」という音声を出力する）ようにしても良い。

【1177】

CPU103は、設定値異常エラーコマンドを送信すると、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aが開放状態となっているか否かを確認する（ステップS21TM3120）。CPU103が、遊技機用枠3の開放状態又はガラス扉枠3aの開放状態を認識した場合には（ステップS21TM3120でYES）、錠スイッチ21TM051がON状態であるか否かを確認する（ステップS21TM3130）。

【1178】

錠スイッチ21TM051がON状態であれば（ステップS21TM3130でYES）、CPU103は、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052がON状態であるか否かを確認する（ステップS21TM3140）。

【1179】

クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052がON状態であれば（ステップS21TM3140でYES）、CPU103は、設定値格納領域を含む領域をクリアし、RAMクリアフラグを1に設定する（ステップS21TM3150）。ステップS21TM3150におけるRAMクリア処理では、RAM102の遊技状態情報格納領域に格納されている電力供給停止前の遊技状態を示すデータ（特別図柄プロセスフラグ、確変フラグ、時短フラグ、保留記憶等）はクリアされて、初期値が設定されると共に、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値もクリアされ、設定値格納領域には0が記憶される。一方で、設定値毎に、連比、役比、及びベース等の各集計値（表示モニタ21TM029に表示可能な遊技情報）が記憶されている領域は、クリアされず、これら設定値毎の各集計値は、RAMクリア処理の前から変更されない。そして、表示モニタ21TM029に「C」の文字を表示すること等により、遊技状態が初期化されたことを報知する。

【1180】

そして、CPU103は、RAMクリア（ステップS21TM3150）を実行した後に、初期化コマンドを送信し（ステップS21TM3160）、図11-2に示す、設定変更モード又は設定確認モードに関連したステップS21TM3510以降の処理、に移行する。なお、電源断復旧時のバックアップコマンド（ステップS21TM3045）、及び、電源投入時の初期化コマンド（ステップS21TM3055又はステップS21TM3160）に関しては、電源投入時に1回のみ送信されるコマンドである。そのため、CPU103は、これら電源投入時のコマンドを送信したときに、電源投入時のコマンドを送信したことを特定可能であり電源断時のバックアップ記憶が不要なコマンド送信フラグをセットするようにしておき、通常遊技処理に移行したとき（ステップS21TM1470～）に、コマンド送信フラグをクリアするようにしても良い。そして、コマンド送信フラグがセットされていない場合にのみ、電源断復旧時のバックアップコマンド（ステップS21TM3045）、及び、電源投入時の初期化コマンド（ステップS21TM30

55又はステップS21TM3160)を送信可能としても良い。

【1181】

一方、ステップS21TM3120で、遊技機用枠3の開放状態又はガラス扉枠3aの開放状態を認識しなかった場合(ステップS21TM3120でNO)、即ち、遊技機用枠3及びガラス扉枠3aが何れも閉鎖状態となっている場合には、電源断となるまで処理を実行しない(ステップS21TM3200)。また、ステップS21TM3130で、錠スイッチ21TM051がOFF状態であることが確認されると(ステップS21TM3130でNO)、電源断となるまで処理を実行しない(ステップS21TM3200)。また、クリアスイッチ(設定切替スイッチ)21TM052がOFF状態であれば(ステップS21TM3140でNO)、電源断となるまで処理を実行しない(ステップS21TM3200)。

10

【1182】

即ち、バックアップRAM領域のデータチェック結果が異常である場合(ステップS21TM3010でNO)、設定変更中に電源断が発生した場合(即ち、電源投入時に設定変更中フラグがセットされていた場合であり、ステップS21TM3020でYESと判定される場合)、及び、設定値が正規の値ではない場合(ステップS21TM3030でNO)、のいずれかに該当する場合には、この状態で遊技を行わせるべきではなく、通常遊技処理に移行する前に、設定値格納領域の設定値を正規の値に確定させる必要がある。そのため、RAMクリアによって設定値格納領域を含む領域をクリアして(ステップS21TM3150)、設定変更モードに移行させるようにしている。

20

【1183】

この実施形態では、設定値の変更が可能な状態(設定変更モード)とするためには、(1)遊技機用枠3が開放状態であり、(2)錠スイッチ21TM051がON状態であり、(3)クリアスイッチ(設定切替スイッチ)21TM052がON状態である、という3つの条件が必要となっている。CPU103は、ステップS21TM3120、ステップS21TM3130、及びステップS21TM3140の判定処理によって、これら(1)～(3)の条件が何れも成立していることを確認したときに、設定値の変更が可能な状態(設定変更モード)に移行可能としている。

【1184】

仮に、(1)～(3)の条件のうち何れかの条件が成立していなければ、設定値の変更が許可されないため、設定値格納領域の設定値を正規の値に確定させることができず、通常遊技処理に移行させることができない。そのため、ステップS21TM3120、ステップS21TM3130、及びステップS21TM3140の判定処理のうち、何れかでNOと判定された場合には、一旦は電源断を行わせて、次の電源投入時に(1)～(3)の条件を全て成立させるようにして、設定変更モードに移行させ、設定値格納領域の設定値を正規の値に確定させるようにしている。

30

【1185】

なお、CPU103は、(1)～(3)の条件のうち何れかの条件が成立していない場合には、電源をOFF状態とすべき旨を報知するためのコマンドを演出制御用CPU120に送信するようにしても良い。そして、このコマンドを受信した演出制御用CPU120が、画像表示装置5に、電源をOFF状態とするように促すメッセージ(例えば「電源をOFFとして下さい。」という文字)を表示するようにしても良い。また、CPU103は、(1)～(3)の条件のうち何れかの条件が成立していない場合には、第1特別図柄表示装置4Aや第2特別図柄表示装置4Bを、予め定められた電源断指示態様で発光させることにより、電源をOFF状態とするように促すようにしても良い。

40

【1186】

次に、設定変更モード及び設定確認モードに関連する処理について、図11-2を用いて説明する。図11-2の処理において、CPU103は、設定値の変更が行われている可能性があることを示す設定変更中フラグをセットする(ステップS21TM3510)。設定変更中フラグの値が格納される領域は、バックアップRAM領域に含まれるため、

50

電源断の状態となっても、設定変更中フラグの値は保持される。

【1187】

次いで、CPU103は、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aが開放状態となっているか否かを確認する(ステップS21TM3520)。CPU103が、遊技機用枠3の開放状態又はガラス扉枠3aの開放状態を認識した場合には(ステップS21TM3520でYES)、錠スイッチ21TM051がOFF状態であるか否かを確認する(ステップS21TM3530)。そして、錠スイッチ21TM051がON状態であれば(ステップS21TM3530でNO)、CPU103は、設定変更対応信号及びセキュリティ信号を出力し(ステップS21TM3540)、設定値格納領域に格納されている設定値を、表示モニタ21TM029に表示させる(ステップS21TM3550)。

10

【1188】

さらに、CPU103は、RAMクリアフラグが0であるか否かを確認する(ステップS21TM3570)。RAMクリアフラグが0であれば(ステップS21TM3570でYES)、即ち、RAMクリア(ステップS21TM3050又はステップS21TM3150)が実行されていなければ、CPU103は、設定確認モードに制御されたことを指定する設定確認モードコマンドを送信し(ステップS21TM3580)、ステップS21TM3520に移行する。演出制御用CPU120は、設定確認モードコマンドを受信したことに基づいて、遊技制御用マイクロコンピュータ100が設定確認モードに移行したことを特定可能である。従って、画像表示装置5やスピーカ8L、8Rにより、当該遊技機が設定確認モードに制御されていることを報知することが可能となる。

20

【1189】

一方、RAMクリアフラグが1であれば(ステップS21TM3570でNO)、即ち、RAMクリア(ステップS21TM3050又はステップS21TM3150)が実行されていれば、CPU103は、設定変更モードに制御されたことを指定する設定変更モードコマンドを送信し(ステップS21TM3585)、設定切替スイッチ(クリアスイッチ)21TM052が操作されたか否かを確認する(ステップS21TM3590)。演出制御用CPU120は、設定変更モードコマンドを受信したことに基づいて、遊技制御用マイクロコンピュータ100が設定変更モードに移行したことを特定可能である。従って、画像表示装置5やスピーカ8L、8Rにより、当該遊技機が設定変更モードに制御されていることを報知することが可能となる。

30

【1190】

設定切替スイッチ(クリアスイッチ)21TM052が操作されていなければ(ステップS21TM3590でNO)、CPU103は、ステップS21TM3520に移行する。設定切替スイッチ(クリアスイッチ)21TM052が操作された場合には(ステップS21TM3590でYES)、CPU103は、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値を更新して(ステップS21TM3600)、ステップS21TM3520に移行する。

【1191】

ここで、セキュリティ信号の出力(ステップS21TM3540)及び現在の設定値の表示(ステップS3550)、並びに設定確認モードコマンドの送信(ステップS21TM3580)を実行可能であるが、設定変更モードコマンドの送信(ステップS21TM3585)及び設定値の更新(ステップS21TM3600)を実行できない状態は、設定値の確認は可能であるか設定値の変更はできない設定確認モードに相当する。即ち、設定確認モードには、錠スイッチ21TM051がON状態であり(ステップS21TM3530でNO)、クリアスイッチ(設定切替スイッチ)21TM052がOFF状態であること(ステップS21TM3040でNOと判定されて、RAMクリアフラグが0のままであること)に基づいて制御される。

40

【1192】

また、セキュリティ信号の出力(ステップS21TM3540)及び現在の設定値の表示(ステップS3550)を実行可能であると共に、設定変更モードコマンドの送信(ス

50

テップS 2 1 T M 3 5 8 5) 及び設定値の更新(ステップS 2 1 T M 3 6 0 0)を実行可能な状態は、設定値の確認及び変更が可能な設定変更モードに相当する。即ち、設定変更モードには、錠スイッチ2 1 T M 0 5 1がON状態であり(ステップS 2 1 T M 3 5 3 0でNO)、クリアスイッチ(設定切替スイッチ)2 1 T M 0 5 2がON状態であること(ステップS 2 1 T M 3 0 4 0又はステップS 2 1 T M 3 1 4 0でYESと判定されて、RAMクリアフラグが1に設定されていること)に基づいて制御される。

【1 1 9 3】

なお、設定確認モードコマンドに関しては、設定確認モード制御時に1回のみ送信されるコマンドである。そのため、CPU 1 0 3は、設定確認モードコマンドを送信したときに、設定確認モードコマンドを送信したことを特定可能であり電源断時のバックアップ記憶が不要な設定確認モードコマンド送信フラグをセットするようにしておき、設定変更中フラグがクリアされたとき(ステップS 2 1 T M 3 7 1 0)に、設定確認モードコマンド送信フラグをクリアするようにしても良い。そして、設定確認モードコマンド送信フラグがセットされていない場合にのみ、設定確認モードコマンドを送信可能としても良い。同様に、設定変更モードコマンドに関しては、設定変更モード制御時に1回のみ送信されるコマンドである。そのため、CPU 1 0 3は、設定変更モードコマンドを送信したときに、設定変更モードコマンドを送信したことを特定可能であり電源断時のバックアップ記憶が不要な設定変更モードコマンド送信フラグをセットするようにしておき、設定変更中フラグがクリアされたとき(ステップS 2 1 T M 3 7 1 0)に、設定変更モードコマンド送信フラグをクリアするようにしても良い。そして、設定変更モードコマンド送信フラグが

【1 1 9 4】

ステップS 2 1 T M 3 5 3 0において、錠スイッチ2 1 T M 0 5 1がOFF状態であれば(ステップS 2 1 T M 3 5 3 0でYES)、CPU 1 0 3は、設定変更中フラグをクリアする(ステップS 2 1 T M 3 7 1 0)。ここで、設定変更中フラグがクリアされたことにより、その後に実行されるステップS 2 1 T M 3 0 2 0の処理で、設定変更中フラグがセットされていない(NO)と判定されるため、通常遊技処理に移行可能となる。

【1 1 9 5】

次いで、CPU 1 0 3は、設定値格納領域に格納されている設定値を指定する設定コマンドを、演出制御用CPU 1 2 0に送信する(ステップS 2 1 T M 3 7 2 0)。前述したように、演出制御用CPU 1 2 0は、設定コマンドの受信により、設定確認モード又は設定変更モードが終了したことを特定可能である。また、設定コマンドが指定する設定値に応じた演出を実行することにより、設定値を示唆することが可能である。例えば、大当り遊技状態が終了したときに実行されるエンディング演出の態様を、指定された設定値に応じて異ならせることで、遊技者に設定値を示唆することが可能である。

【1 1 9 6】

次いで、CPU 1 0 3は、表示モニタ2 1 T M 0 2 9に表示させている設定値を消去して(ステップS 2 1 T M 3 7 3 0)、RAMクリアフラグの値が0であるか否かを確認する(ステップS 2 1 T M 3 7 4 0)。

【1 1 9 7】

ここで、RAMクリアフラグの値が0である(ステップS 2 1 T M 3 7 4 0でYES)ということは、バックアップRAM領域のデータチェック結果が正常であり(ステップS 2 1 T M 3 0 1 0でYES)、設定変更中に電源断が発生しておらず(ステップS 2 1 T M 3 0 2 0でNO)、且つ、設定値が正規の値である(ステップS 2 1 T M 3 0 3 0でYES)、と判定され、さらに、クリアスイッチ(設定切替スイッチ)2 1 T M 0 5 2がOFF状態であることにより(ステップS 2 1 T M 3 0 4 0でNO)、RAMクリア(ステップS 2 1 T M 3 0 5 0)が実行されていないということであるから、電源復旧時の通常処理を実行すれば良く、遊技機用枠3及びガラス扉枠3aが何れも閉鎖状態となったこと(ステップS 2 1 T M 3 0 6 0でNO)が確認された場合に、通常遊技処理に移行すれば良い。

【1198】

一方、RAMクリアフラグの値が1である（ステップS21TM3740でNO）ということは、ステップS21TM3050又はステップS21TM3150で、RAMクリアが実行されたということであり、仮に、錠スイッチ21TM051がOFF状態とされる前（ステップS21TM3530でYESと判定される前）に、設定値格納領域に正規の設定値（1～6）が格納されていなければ（例えば、設定値が0の状態のまま、設定変更モードにおいて設定値を変更する操作が行われなかった場合等には）、設定変更モードに移行させて、設定値格納領域に正規の設定値（1～6）を格納させる必要がある。従って、CPU103は、再度電源投入時処理に移行して、ステップS21TM3010以降の処理を実行する。

10

【1199】

以上に示したように、遊技場の店員等は、電源投入時に錠スイッチ21TM051をON状態とし、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052をON状態とすることで、パチンコ遊技機1を設定変更モードに制御させることが可能であると共に、遊技状態等を初期化させること（ステップS21TM3050又はステップS21TM3150のRAMクリアを実行させること）ことが可能となる。また、電源投入時に錠スイッチ21TM051をON状態とし、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052をOFF状態とすることで、パチンコ遊技機1を設定確認モードに制御させることが可能であると共に、遊技状態等を初期化させない（ステップS21TM3040又はステップS21TM3140でNOと判定させて、ステップS21TM3050又はステップS21TM3150のRAMクリアを実行させないこと）ことが可能となる。このように、遊技場の店員は、パチンコ遊技機1を設定変更モード及び設定確認モードの何れに制御させるのかを選択可能であると共に、遊技状態等を初期化させるか否かも選択可能となっている。

20

【1200】

なお、図11-2に示す制御では、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている状態で、錠スイッチ21TM051がOFF状態とされることなく（ステップS21TM3530でNO）、遊技機用枠3及びガラス扉枠3aが何れも閉鎖状態とされると、ステップS21TM3520でNOと判定されて、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aが開放状態となることを待機する状態となる。このとき、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aを開放すべき旨を報知するように指示するコマンド、及び、錠スイッチ21TM051を操作して設定変更モード又は設定確認モードを終了させるべき旨を報知するように指示するコマンドを、演出制御用CPU120に送信するようにしても良い。そして、これらのコマンドを受信した演出制御用CPU120では、画像表示装置5やスピーカ8L、8R等によって、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aを開放すべき旨を報知すると共に、錠スイッチ21TM051を操作して設定変更モード又は設定確認モードを終了させるべき旨を報知する。例えば、画像表示装置5に、「遊技機用枠3を開放し、錠スイッチ21TM051をOFF状態として設定変更モードを終了して下さい。」というメッセージを表示するようにしても良い。

30

【1201】

また、設定変更モード又は設定確認モードが終了して通常遊技処理へ移行した後は、遊技機用枠3及びガラス扉枠3aが何れも閉鎖状態となっているときに、（1）錠スイッチ21TM051が操作されたこと（OFF状態からON状態となったこと）に応じて、遊技制御用マイクロコンピュータ100から演出制御用CPU120に対して、錠スイッチ操作コマンドが送信され、（2）設定切替スイッチ（クリアスイッチ）21TM052が操作されたこと（OFF状態からON状態となったこと）に応じて、遊技制御用マイクロコンピュータ100から演出制御用CPU120に対して、設定切替スイッチ操作コマンドが送信されることになる。

40

【1202】

そして、図10-38（2）に示したように、演出制御基板12（演出制御用CPU120）は、錠スイッチ操作コマンド、及び／又は、設定切替スイッチ操作コマンドを受信

50

したことに基づいて、設定変更モード及び設定確認モードの何れにも制御されていないにもかかわらず、設定値を変更させるための操作が行われたことを特定して、その旨を報知可能である。例えば、錠スイッチ操作コマンドを受信したことに基づいて、画像表示装置5において「錠スイッチの操作を検出しました。」の文字を表示する異常操作警告報知を実行する。また、設定切替スイッチ操作コマンドを受信したことに基づいて、「設定切替スイッチの操作を検出しました。」の文字を表示する異常操作警告報知を実行する。これにより、遊技場の店員等は、設定変更モード及び設定確認モードの何れにも制御されていないにもかかわらず設定値を変更させるための操作が行われたことを明確に把握して、不正が行われていないか等を確認することができる。

【1203】

10

なお、このような形態に限らず、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、設定変更モード又は設定確認モードが終了して通常遊技処理へ移行した後は、錠スイッチ21TM051が操作されたか否か、及び、設定切替スイッチ（クリアスイッチ）21TM052が操作されたか否か、を確認することなく、錠スイッチ操作コマンド及び設定切替スイッチ操作コマンドを送信しないようにしても良い。このように、通常遊技処理（遊技制御用タイマ割込処理）が実行されている期間は、設定値を変更するための操作及び設定値を確認するための操作の実行状況を確認しないようにすることで、遊技制御用マイクロコンピュータ100の制御負担を軽減することが可能になる。

【1204】

20

図11-3は、表示モニタ21TM029に表示される設定値の変化を示す説明図である。設定変更モードに制御されたときには、ステップS21TM3550で、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値が表示されることになる。このとき、設定値格納領域に、正規の値とは異なる値（本例では0）が格納されていれば、図11-3（1）に示すように、表示モニタ21TM029の7セグメント表示器には「E」の文字が表示される。従って、遊技場の店員は、少なくとも正規の値が設定値格納領域に格納されていないことを把握して、設定切替スイッチ（クリアスイッチ）21TM052を操作する（設定変更操作を行う）ことになる。

【1205】

30

遊技場の店員が、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052を操作する（ステップS21TM3590でYES）毎に、設定値格納領域に格納されている設定値が更新される（ステップS21TM3600）。本例では説明のために、正規の設定値が1～3の範囲である例を示しており、この場合には、設定変更操作毎に、設定値格納領域に格納される設定値が、0→1→2→3→1の順序で更新され、これに応じて、表示モニタ21TM029に表示される情報が、E→1→2→3→1の順序で更新されることになる。

【1206】

40

このように、設定値格納領域に格納されている値が、正規の値ではない場合には、これに対応した情報として、表示モニタ21TM029に数字とは異なる情報（本例ではアルファベットのE）が表示される。これにより、設定値格納領域に正規の値とは異なる値が格納されていることを明確に把握させて、設定変更操作を促すことが可能となる。仮に、設定値格納領域に正規の値とは異なる値（本例では0）が格納されている場合に、表示モニタ21TM029にもその値（本例では0）を表示すると、遊技場の管理者は、表示モニタ21TM029に表示されている値が正規の値の何れかに該当すると誤解して、設定変更操作を行わずに錠スイッチ21TM051をOFF状態にしてしまうおそれがある。そこで、この実施形態では、設定値格納領域に正規の値とは異なる値が格納されている場合には、表示モニタ21TM029に数字とは異なる情報（本例ではアルファベットのE）を表示させることにより、そのような誤解を防止して、確実に設定変更操作を行わせるようにしている。

【1207】

50

また、図11-3（1）に示すように、設定変更モードに制御されたときに、当初、設定値格納領域に正規の値とは異なる値（本例では0）が格納されていれば、表示モニタ2

1 T M 0 2 9 の 7 セグメント表示器には「E」の文字が表示されるが、その後に、1 回でも設定変更操作が行われて設定値格納領域に正規の値が格納されると、その後に、設定変更操作が何回行われたとしても、当該設定変更モードに制御されている期間（錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 が O F F 状態となるまで）は、正規の設定値の範囲内で設定値の更新が行われ、設定値格納領域に正規の値とは異なる値（本例では 0）が格納されることは無く、また、表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 にも正規の値とは異なる情報（本例では E の文字）が表示されることは無い。

【1 2 0 8】

一方、図 1 1 - 3（2）に示すように、設定変更モードに制御されたときに、R A M 1 0 2 の設定値格納領域に格納されている設定値が正規の値であった場合には、ステップ S 2 1 T M 3 5 5 0 で、設定値格納領域に格納されている正規の設定値（本例では 2）が表示されることになる。本例では説明のために、正規の設定値が 1 ~ 3 の範囲である例を示しており、この場合には、設定変更操作毎に、設定値格納領域に格納される設定値が、2 → 3 → 1 → 2 → 3 の順序で更新され、これに応じて、表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 に表示される情報が、2 → 3 → 1 → 2 → 3 の順序で更新されることになる。

【1 2 0 9】

即ち、設定変更モードに制御されたときに、当初、設定値格納領域に格納されている設定値が正規の値であった場合には、その後に、設定変更操作が何回行われたとしても、当該設定変更モードに制御されている期間（錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 が O F F 状態となるまで）は、正規の設定値の範囲内で設定値の更新が行われ、設定値格納領域に正規の値とは異なる値（本例では 0）が格納されることは無く、また、表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 にも正規の値とは異なる情報（本例では E の文字）が表示されることは無い。

【1 2 1 0】

例えば、遊技機メーカーが、パチンコ遊技機 1 を出荷する際（遊技場への設置前）に、R A M 1 0 2 の設定値格納領域に正規の値とは異なる値（本例では 0）を設定しておくことで、その後、遊技場側で、当該パチンコ遊技機 1 の電源投入時に、設定変更モードを経て設定値を正規の値に変更しなければ、当該パチンコ遊技機 1 での遊技を行わせることができなくなる。これにより、遊技場でパチンコ遊技機 1 を設置する際に、確実に設定変更操作を行わせて、設定値を正規の値に確定させるようにすることができる。

【1 2 1 1】

また、遊技機メーカーが、パチンコ遊技機 1 を出荷する際（遊技場への設置前）に、予め設定変更中フラグをセットしておくことで、その後、遊技場側で、設定変更モードを経て設定値を正規の値に変更し、設定変更モードを終了させなければ、当該パチンコ遊技機 1 での遊技を行わせることができなくなる。これにより、遊技場でパチンコ遊技機 1 を設置する際に、確実に設定変更操作を行わせて、設定値を正規の値に確定させるようにすることができる。

【1 2 1 2】

（遊技機用枠又はガラス扉枠の開放状態検知に基づく球貸制限）

次に、遊技機用枠 3 が開放状態となったとき、ガラス扉枠 3 a が開放状態となったときの球貸制限方法に関して、図 1 1 - 4 を用いて具体的に説明する。図 1 1 - 4 は、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 が備える遊技機枠・扉枠開放センサ 2 1 T M 3 0 0 が、遊技機用枠 3 又はガラス扉枠 3 a の開放状態を検知しているときに、主基板 1 1、払出制御基板 2 1 T M 0 3 7（払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0）、及びカードユニット 2 1 T M 0 5 0 の間で行われる通信処理を説明するためのタイミング図である。

【1 2 1 3】

図 1 1 - 4 の例では、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 が備える遊技機枠・扉枠開放センサ 2 1 T M 3 0 0 が、遊技機用枠 3 又はガラス扉枠 3 a の開放状態を検知していることに基づいて、P R D Y 信号を O N 状態としない。また、P R D Y 信号が既に O N 状態となっている場合には、P R D Y 信号を O N 状態から O F F 状態に切り替える

10

20

30

40

50

。即ち、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、VL信号がON状態（即ち、カードユニット21TM050と電氣的に接続されている状態）であり、且つ、接続確認信号がON状態（即ち、遊技制御用マイクロコンピュータ100と電氣的に接続されている状態）であっても、遊技機用枠3が開放状態となっている期間は、CPU103が、PRDY信号をON状態とせず、OFF状態とする。

【1214】

その結果、カードユニット21TM050においてカードが受け付けられ、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が備える遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300が、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの開放状態を検知している間に、球貸スイッチ21TM062が操作されて球貸スイッチ信号が入力されたとしても、カードユニット21TM050は、PRDY信号がOFF状態であることに基づいて、払出制御基板21TM037にBRDY信号を出力しない。すなわち、BRDY信号はOFF状態のままである。この時点から所定の遅延時間が経過しても、カードユニット21TM050は、BRDY信号がOFF状態であることに基づいて、払出制御基板21TM037にBRQ信号を出力しない。すなわち、BRQ信号はOFF状態のままである。

10

【1215】

払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、BRDY信号及びBRQ信号が何れもOFF状態であることに基づいて、カードユニット21TM050に対するEXS信号をON状態とせず、OFF状態に維持する。すなわち、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が備える遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300が、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの開放状態を検知しているときには、PRDY信号、BRDY信号、BRQ信号、及びEXS信号が何れもOFF状態であり、払出モータ21TM289は駆動されないので、球貸スイッチ21TM062が操作されても球貸（遊技媒体の払出）が実行されない。

20

【1216】

このように、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が備える遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300が、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの開放状態を検知している期間は、PRDY信号をON状態としないようになっている。このようにして、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370による遊技媒体の払出制御を実行させないようにすることができる。

30

【1217】

そして、遊技場の店員等が、当該パチンコ遊技機1を遊技可能な状態とするために遊技機用枠3及びガラス扉枠3aを何れも閉鎖状態とすることで、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が備える遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300が、遊技機用枠3の開放状態を検出しておらず、且つ、ガラス扉枠3aの開放状態も検知していない状態となる。遊技機用枠3及びガラス扉枠3aが何れも閉鎖状態となったことに伴い、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、払出動作が可能なときにはPRDY信号をON状態にする。

【1218】

カードユニット21TM050においてカードが受け付けられ、球貸スイッチ21TM062が操作され球貸スイッチ信号が入力されると、カードユニット21TM050は、PRDY信号がON状態であることに基づいて、払出制御基板21TM037にBRDY信号を出力する。すなわち、BRDY信号をON状態にする。この時点から所定の遅延時間が経過すると、カードユニット21TM050は、BRDY信号がON状態であることに基づいて、払出制御基板21TM037にBRQ信号を出力する。すなわち、BRQ信号をON状態にする。

40

【1219】

そして、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、BRDY信号及びBRQ信号が何れもON状態であることに基づいて、カードユニット21TM050に対するEXS信号をON状態にし、以降の球貸の払出制御を実行する。

50

【1220】

前述したように、この実施形態では、錠スイッチ21TM051及びクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052は、パチンコ遊技機1の背面側に設けられており、所定のキー操作により開放可能な遊技機用枠3を開放状態としない限り操作不可能とされているので、当該パチンコ遊技機1を設定変更モード又は設定確認モードに制御させるには、遊技機用枠3を開放状態としなければならない。即ち、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間は、遊技機用枠3が開放されていることが通常である。従って、遊技機用枠3の開放状態が検出されている期間には、設定変更モードに制御されている期間、設定確認モードに制御されている期間が含まれる。

【1221】

ここで、設定変更モードへの移行、設定確認モードへの移行は、電源断（電源スイッチ21TM055をOFFとすることを含む）、及び、その後の電源投入を伴うものであるため、遊技機の状態として不安定になる可能性があり、このような不安定な状態において球貸処理又は賞球処理に対応する払出制御を実行してしまうと、払出要求に対応した適正な数量の遊技媒体を払い出せない可能性がある。このような状況における遊技者の不利益を防止するためには、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている遊技機における払出制御を制限することが適切である。しかしながら、遊技制御用マイクロコンピュータ100側における設定変更モード、設定確認モードへの制御状況を払出制御用マイクロコンピュータ21TM370側で把握するためには、そのためのコマンドや判定処理等が必要となり、制御が複雑化してしまうという問題がある。

【1222】

そのため、この実施形態では、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が備える遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300により、遊技機用枠3の開放状態が検出されている期間、ガラス扉枠3aの開放状態が検出されている期間は、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が球貸処理及び賞球処理を実行しないようにしている。これにより、遊技制御用マイクロコンピュータ100が設定変更モードに制御されているか否かによらず、また、設定確認モードに制御されているか否かによらず、払出制御が実行されないことになる。結果として、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370側での制御を複雑化させることなく、設定変更モードに制御されている期間、設定確認モードに制御されている期間における球貸処理及び賞球処理が制限される。このような構成によって、球貸処理及び賞球処理に関して適切な払出制御を実現するようにしている。

【1223】

このように、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が備える遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300により、遊技機用枠3の開放状態が検出されている期間、ガラス扉枠3aの開放状態が検出されている期間において、払出制御が制限されることにより、払出要求に対応した適正な数量の遊技媒体を払い出せない等の、払出制御に伴う不具合の発生を回避でき、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aが開放状態とされた場合の遊技機のメンテナンス作業等を円滑に進めることができる。

【1224】

（開放状態検知終了後の球貸再開）

次に、球貸が実行されている途中で遊技機用枠3又はガラス扉枠3aが開放状態とされたことにより払出が中断され、その後に遊技機用枠3又はガラス扉枠3aが閉鎖状態とされた場合の処理に関して、図11-5を用いて具体的に説明する。図11-5に示す例では、遊技媒体の払出を実行中に、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aが開放状態となったことを検知したことに基づいて、遊技媒体の払出を中断し、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aが開放状態ではなくなった（閉鎖状態となった）ことに基づいて、中断されていた払出を再開する。

【1225】

図11-5は、払出制御基板21TM037（払出制御用マイクロコンピュータ21TM370）が遊技媒体の払出を実行しているときの、主基板11（遊技制御用マイクロコ

10

20

30

40

50

ンピュータ100)、払出制御基板21TM037(払出制御用マイクロコンピュータ21TM370)、及びカードユニット21TM050の間で行われる通信処理を説明するためのタイミング図である。払出制御基板21TM037が遊技媒体の払出を実行している期間は、主基板11からの接続確認信号はON状態であり、払出制御基板21TM037からのPRDY信号、及び、EXS信号、並びに、カードユニット21TM050からのBRDY信号はON状態であるものとする。

【1226】

払出制御基板21TM037が遊技媒体の払出を実行している期間において、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aが開放されると、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が備える遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300が、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの開放状態を検知していることに基づいて、PRDY信号をON状態からOFF状態に切り替える。そして、PRDY信号がOFF状態であることに基づいて、カードユニット21TM050からのBRDY信号、及び、払出制御基板21TM037からのEXS信号の出力が停止される。即ち、BRDY信号、及び、EXS信号はOFF状態となる。そして、EXS信号がOFF状態であることに基づいて、払出モータ21TM289の駆動を停止し、遊技媒体の払出を中断する。このとき、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370におけるRAM21TM302内のバックアップ領域に形成されている未払出個数格納バッファに、未払出個数のデータが格納される。

10

【1227】

この未払出個数は、中継基板21TM072を介して払出制御基板21TM037のI/Oポート21TM372fに入力される払出個数カウントスイッチ21TM301からの検出信号に基づいて更新される。具体的には、未払出個数は、払出モータ21TM289により払い出すべき所定の遊技媒体数(即ち、遊技制御用マイクロコンピュータ100から指定された払出個数であり、例えば25個)から、払出個数カウントスイッチ21TM301によりカウントされた個数(即ち、実際に払出モータ21TM289により払い出された遊技媒体数)を減算することにより算出される。

20

【1228】

払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が備える遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300が、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの開放状態を検知している期間は、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、PRDY信号をON状態としない。即ち、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、VL信号がON状態であっても、即ち、カードユニット21TM050と電氣的に接続されている状態であっても、PRDY信号をON状態とせず、OFF状態に維持する。

30

【1229】

その結果、遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300が、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの開放状態を検知している期間は、カードユニット21TM050は、PRDY信号がOFF状態であることに基づいて、球貸スイッチ21TM062が操作されても払出制御基板21TM037にBRDY信号を出力しない。すなわち、BRDY信号はOFF状態のままである。この時点から所定の遅延時間が経過しても、カードユニット21TM050は、BRDY信号がOFF状態であることに基づいて、払出制御基板21TM037にBRQ信号を出力しない。すなわち、BRQ信号はOFF状態のままである。

40

【1230】

払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、BRDY信号及びBRQ信号が何れもOFF状態であることに基づいて、カードユニット21TM050に対するEXS信号をON状態とせず、OFF状態に維持する。そして、EXS信号がOFF状態であることに基づいて、払出モータ21TM289の駆動を停止させた状態を維持する。すなわち、遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300が、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの開放状態を検知している期間であるときには、PRDY信号、BRDY信号、BRQ信号、及びEXS信号が何れもOFF状態であり、払出モータ21TM289は駆動しないので、遊技媒体の払出が実行されない。

50

【1231】

払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が備える遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300により、遊技機用枠3及びガラス扉枠3aが何れも閉鎖状態となったことを検知すると（遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの開放状態が終了したことを検知すると）、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、払出動作が可能なときにはPRDY信号をON状態にする。

【1232】

そして、遊技機用枠3及びガラス扉枠3aが何れも閉鎖状態となったこと（PRDY信号がON状態となったこと）に基づいて、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370におけるRAM21TM302に保存されている未払出個数格納バッファの内容に基づいて、払出モータ21TM289を駆動させ、未払出個数のデータが0になるまで1個ずつ払出動作を行う。これにより、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの開放により中断されていた遊技媒体の払出が完了する。

【1233】

従って、電源断発生前に実行されていた球貸処理において払い出すべき所定の遊技媒体数（即ち、遊技制御用マイクロコンピュータ100から指定された払出個数であり、例えば25個）のうち、払い出されなかった未払出個数分に関して、払出が実行されることになるため、遊技者の不利益の発生を回避できる。

【1234】

（電源発生時の球貸処理（設定変更モードに移行せず））

次に、球貸が実行されている途中で電源断が発生したことにより払出が中断され、電源復旧後に設定変更モード又は設定確認モードに制御されない場合の処理に関して、図11-6を用いて具体的に説明する。図11-6に示す例では、遊技媒体の払出を実行中に電源断が発生したことに基づいて、遊技媒体の払出を中断し、電源投入後に設定変更モード又は設定確認モードに制御されることなく、接続確認信号がON状態となった後に、中断されていた払出を再開する。

【1235】

図11-6は、払出制御基板21TM037（払出制御用マイクロコンピュータ21TM370）が遊技媒体の払出を実行しているときの、主基板11（遊技制御用マイクロコンピュータ100）、払出制御基板21TM037（払出制御用マイクロコンピュータ21TM370）、及びカードユニット21TM050の間で行われる通信処理を説明するためのタイミング図である。払出制御基板21TM037が遊技媒体の払出を実行している期間は、主基板11からの接続確認信号はON状態であり、払出制御基板21TM037からのPRDY信号、及び、EXS信号、並びに、カードユニット21TM050からのBRDY信号はON状態であるものとする。

【1236】

払出制御基板21TM037が遊技媒体の払出を実行している期間において、電源断が発生すると、主基板11からの接続確認信号の出力が停止され、払出制御基板21TM037からのPRDY信号の出力が停止される。即ち、PRDY信号はOFF状態となる。そして、PRDY信号がOFF状態であることに基づいて、カードユニット21TM050からのBRDY信号、及び、払出制御基板21TM037からのEXS信号の出力が停止される。即ち、BRDY信号、及び、EXS信号はOFF状態となる。そして、EXS信号がOFF状態であることに基づいて、払出モータ21TM289の駆動を停止し、遊技媒体の払出を中断する。このとき、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370におけるRAM21TM302内のバックアップ領域に形成されている未払出個数格納バッファに、未払出個数のデータが格納される。

【1237】

ここで、遊技場の店員は、電源投入を行うために、遊技機用枠3を開放状態とした後、電源スイッチ21TM055をON状態とする。この際、パチンコ遊技機1を初期化させる場合には、さらにクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052を操作する。そ

10

20

30

40

50

の後、主基板 11 では、所定の電源基板からの電力供給が開始されると、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 が起動し、CPU 103 によって電源投入時処理が実行される。本例では、電源投入時に錠スイッチ 21 TM051 が OFF 状態であったことに基づいて、設定変更モード又は設定確認モードに制御されることなく、図 11-1 に示したステップ S 21 TM1470 以降の処理が実行されるものとする。ここで、CPU 103 が、図 11-1 に示すシリアル通信回路設定処理（ステップ S 21 TM1480）を実行するまでは、主基板 11 から払出制御基板 21 TM037 に出力される接続確認信号が OFF 状態である。

【1238】

払出制御基板 21 TM037 では、所定の電源基板からの電力供給が開始されると、払出制御用マイクロコンピュータ 21 TM370 が起動し、遊技機枠・扉枠開放センサ 21 TM300 により、遊技機用枠 3 の開放状態、ガラス扉枠 3a の開放状態を検出可能となったときに、遊技機用枠 3 が開放状態となっていることを検知する。

10

【1239】

払出制御用マイクロコンピュータ 21 TM370 は、主基板 11 からの接続確認信号が OFF 状態であるため、PRDY 信号を ON 状態としない。即ち、払出制御用マイクロコンピュータ 21 TM370 は、VL 信号が ON 状態であっても、即ち、カードユニット 21 TM050 と電氣的に接続されている状態であっても、PRDY 信号を ON 状態とせず、OFF 状態に維持する。

【1240】

20

その結果、カードユニット 21 TM050 は、PRDY 信号が OFF 状態であることに基いて、球貸スイッチ 21 TM062 が操作されても払出制御基板 21 TM037 に BRDY 信号を出力しない。すなわち、BRDY 信号は OFF 状態のままである。この時点から所定の遅延時間が経過しても、カードユニット 21 TM050 は、BRDY 信号が OFF 状態であることに基いて、払出制御基板 21 TM037 に BRQ 信号を出力しない。すなわち、BRQ 信号は OFF 状態のままである。

【1241】

払出制御用マイクロコンピュータ 21 TM370 は、BRDY 信号及び BRQ 信号が何れも OFF 状態であることに基いて、カードユニット 21 TM050 に対する EXS 信号を ON 状態とせず、OFF 状態に維持する。そして、EXS 信号が OFF 状態であることに基いて、払出モータ 21 TM289 の駆動を停止させた状態を維持する。すなわち、接続確認信号が OFF 状態であるときには、PRDY 信号、BRDY 信号、BRQ 信号、及び EXS 信号が何れも OFF 状態であり、払出モータ 21 TM289 は駆動しないので、接続確認信号が OFF 状態である期間（PRDY 信号が OFF 状態である期間）は、遊技媒体の払出が実行されない。

30

【1242】

CPU 103 が、図 11-1 に示すステップ S 21 TM1480 のシリアル通信回路設定処理を実行すると、主基板 11 からの接続確認信号が ON 状態となることに基いて、払出制御用マイクロコンピュータ 21 TM370 は、払出動作が可能ときには PRDY 信号を ON 状態にする。ここで、払出制御用マイクロコンピュータ 21 TM370 は、接続確認信号が ON 状態となったときに、遊技機用枠 3 の開放状態が検出されておらず、且つ、ガラス扉枠 3a の開放状態も検出されていないことを条件として、PRDY 信号を ON 状態とする。

40

【1243】

前述したように、電源投入後に、払出制御用マイクロコンピュータ 21 TM370 が、遊技機枠・扉枠開放センサ 21 TM300 により、遊技機用枠 3 及びガラス扉枠 3a の開放状態を検出可能な状態となってから、遊技機用枠 3 又はガラス扉枠 3a の開放状態を検知している期間は、設定変更モードに制御されているか否かによらず、また、設定確認モードに制御されているか否かによらず、遊技媒体の払出が実行されない。即ち、主基板 11 からの接続確認信号が ON 状態となった場合でも、遊技機枠・扉枠開放センサ 21 TM

50

300により、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの開放状態が検出されていれば、PRDY信号をON状態とせず、OFF状態に維持することにより、球貸処理を実行させないようにする。このように、接続確認信号がON状態の期間であっても、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aが開放状態となっている期間は、PRDY信号がOFF状態となる。

【1244】

なお、RAMクリア(ステップS21TM3050又はステップS21TM3150)が実行された場合には、遊技場の店員は、通常、RAMクリアが実行されたことを確認した後に、遊技機用枠3及びガラス扉枠3aを閉鎖状態とするため、接続確認信号がON状態の期間(ステップS21TM1480以降)であっても、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aが開放状態となっている場合がありうる。このような場合には、接続確認信号がON状態の期間であっても、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの開放状態が検出されているこ

10

【1245】

遊技場の店員が、遊技機用枠3及びガラス扉枠3aを何れも閉鎖状態とすると、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、接続確認信号がON状態であり、且つ、遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300により、遊技機用枠3及びガラス扉枠3aの何れの開放状態も検出していないことに基づいて、PRDY信号をON状態とする。そして、PRDY信号がON状態となったことに基づいて、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370におけるRAM21TM302に保存されている未払出個数格納バッファの内容に基づいて、払出モータ21TM289を駆動させ、未払出個数のデータが0になるまで1個ずつ払出動作を行う。これにより、電源断の発生、及び、その後に遊技機用枠3又はガラス扉枠3aが開放状態となったことにより中断されていた遊技媒体の払出が完了する。このように、球貸の実行中に電源断が発生して遊技媒体の払出が中断されたときには、その後の電源復旧時に、遊技機用枠3及びガラス扉枠3aが閉鎖状態となったことを条件として、中断されていた遊技媒体の払出を再開して、球貸を完了させることが可能である。

20

【1246】

(電源発生時の球貸処理(設定変更モードに移行))

図11-7(1)は、クリアスイッチ(設定切替スイッチ)21TM052、主基板11、及び、払出制御基板21TM037におけるRAMクリア信号線の接続例を示すブロック図である。図11-7(1)に示す例では、電源投入時にクリアスイッチ(設定切替スイッチ)21TM052が操作されると、クリアスイッチ(設定切替スイッチ)21TM052から出力されたRAMクリア信号が、遊技制御用マイクロコンピュータ100のI/O105、及び、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370のI/O21TM372fに入力される。即ち、遊技場の店員が、1のクリアスイッチ(設定切替スイッチ)21TM052を操作することによって、遊技制御用マイクロコンピュータ100のRAM102を初期化するRAMクリアと、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370のRAM21TM302を初期化するRAMクリアと、が両方実行されることになる。

30

【1247】

次に、球貸が実行されている途中で電源断が発生したことにより払出が中断され、電源復旧後に設定変更モード又は設定確認モードに制御された場合の処理に関して、図11-7(2)を用いて具体的に説明する。本例においては、図11-7(1)に示すように、電源投入時にクリアスイッチ21TM052が操作されることにより、遊技制御用マイクロコンピュータ100及び払出制御用マイクロコンピュータ21TM370の両方にRAMクリア信号が送信されるものとする。図11-7(2)に示す例では、遊技媒体の払出を実行中に電源断が発生したときに、実行中の払出を停止し、電源復旧後に設定変更モード又は設定確認モードに制御されたときに、払出を再開せず、また、設定変更モード又は設定確認モードが終了した後でも、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370のRAM21TM302を対象としたRAMクリアが実行されたことに基づいて、払出を再開しない。

40

50

【1248】

図11-7(2)は、払出制御基板21TM037(払出制御用マイクロコンピュータ21TM370)が遊技媒体の払出を実行しているときの、主基板11(遊技制御用マイクロコンピュータ100)、払出制御基板21TM037(払出制御用マイクロコンピュータ21TM370)、及びカードユニット21TM050の間で行われる通信処理を説明するためのタイミング図である。払出制御基板21TM037が遊技媒体の払出を実行している期間は、主基板11からの接続確認信号はON状態であり、払出制御基板21TM037からのPRDY信号、及び、EXS信号、並びに、カードユニット21TM050からのBRDY信号はON状態であるものとする。

【1249】

払出制御基板21TM037が遊技媒体の払出を実行している期間において、電源断が発生すると、主基板11からの接続確認信号の出力が停止され、払出制御基板21TM037からのPRDY信号の出力が停止される。即ち、PRDY信号はOFF状態となる。そして、PRDY信号がOFF状態であることに基づいて、カードユニット21TM050からのBRDY信号、及び、払出制御基板21TM037からのEXS信号の出力が停止される。即ち、BRDY信号、及び、EXS信号は何れもOFF状態となる。そして、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、EXS信号がOFF状態となったことに基づいて、払出モータ21TM289の駆動を停止し、遊技媒体の払出を中断する。このとき、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370におけるRAM21TM302内のバックアップ領域に形成されている未払出個数格納バッファに、未払出個数のデータが格納される。

【1250】

ここで、遊技場の店員は、電源投入を行うために、遊技機用枠3を開放状態とした後、電源スイッチ21TM055をON状態とする。この際、前述したように、設定変更モードに移行させるため(さらにパチンコ遊技機1を初期化するため)には、電源スイッチ21TM055をON状態とするときに、錠スイッチ21TM051をON状態とし、且つ、クリアスイッチ(設定切替スイッチ)21TM052もON状態としておく。また、設定確認モードに移行させるためには、電源スイッチ21TM055をON状態とするときに、錠スイッチ21TM051をON状態とし、クリアスイッチ(設定切替スイッチ)21TM052はOFF状態とする。

【1251】

その後、主基板11では、所定の電源基板からの電力供給が開始されると、遊技制御用マイクロコンピュータ100が起動し、CPU103によって電源投入時処理が実行される。本例では、電源投入時に錠スイッチ21TM051がON状態であったことに基づいて設定変更モード又は設定確認モードに制御される。

【1252】

払出制御基板21TM037では、所定の電源基板からの電力供給が開始されると、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が起動し、遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300により、遊技機用枠3の開放状態、ガラス扉枠3aの開放状態を検出可能となったときに、遊技機用枠3が開放状態となっていることを検知する。

【1253】

その後、CPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している間は、主基板11からの接続確認信号はOFF状態である。そのため、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、PRDY信号をON状態としない。即ち、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、VL信号がON状態であっても、即ち、カードユニット21TM050と電氣的に接続されている状態であっても、PRDY信号をON状態とせず、OFF状態に維持する。

【1254】

その結果、CPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している期間は、カードユニット21TM050は、PRDY信号がOFF状態であることに基づいて

10

20

30

40

50

て、球貸スイッチ 2 1 T M 0 6 2 が操作されても払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 に B R D Y 信号を出力しない。すなわち、B R D Y 信号は O F F 状態のままである。この時点から所定の遅延時間が経過しても、カードユニット 2 1 T M 0 5 0 は、B R D Y 信号が O F F 状態であることに基づいて、払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 に B R Q 信号を出力しない。すなわち、B R Q 信号は O F F 状態のままである。

【1 2 5 5】

払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、B R D Y 信号及び B R Q 信号が何れも O F F 状態であることに基づいて、カードユニット 2 1 T M 0 5 0 に対する E X S 信号を O N 状態とせず、O F F 状態に維持する。そして、E X S 信号が O F F 状態であることに基づいて、払出モータ 2 1 T M 2 8 9 の駆動を停止させた状態を維持する。すなわち、接続確認信号が O F F 状態であるときには、P R D Y 信号、B R D Y 信号、B R Q 信号、及び E X S 信号が何れも O F F 状態であり、払出モータ 2 1 T M 2 8 9 は駆動しないので、C P U 1 0 3 が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している間は、未払出個数のデータがクリアされていない場合であっても、遊技媒体の払出が実行されない。

【1 2 5 6】

その後、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 が O F F 状態に切り替えられると、設定変更モード又は設定確認モードが終了し、図 1 1 - 2 に示したステップ S 2 1 T M 3 7 1 0 以降の処理が実行されるものとする。なお、R A M クリア処理が実行された場合には、R A M クリアが実行されたことが報知される。また、本例において、電源投入時にクリアスイッチ（設定切替スイッチ） 2 1 T M 0 5 2 が操作された場合には、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 及び払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 の両方に R A M クリア信号が送信されるため、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 における R A M 2 1 T M 3 0 2 内のバックアップ領域に形成されている未払出個数格納バッファに格納されていた未払出個数のデータが、消去（クリアされる）。

【1 2 5 7】

C P U 1 0 3 が、図 1 1 - 1 に示すシリアル通信回路設定処理（ステップ S 2 1 T M 1 4 8 0）を実行するまでは、主基板 1 1 から払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 に出力される接続確認信号が O F F 状態である。C P U 1 0 3 が、図 1 1 - 1 に示すステップ S 2 1 T M 1 4 8 0 のシリアル通信回路設定処理を実行すると、主基板 1 1 からの接続確認信号が O N 状態となることに基づいて、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、払出動作が可能なときには P R D Y 信号を O N 状態にする。ここで、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、接続確認信号が O N 状態となったときに、遊技機用枠 3 の開放状態が検出されておらず、且つ、ガラス扉枠 3 a の開放状態も検出されていないことを条件として、P R D Y 信号を O N 状態とする。

【1 2 5 8】

前述したように、電源投入後に、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 が、遊技機枠・扉枠開放センサ 2 1 T M 3 0 0 により、遊技機用枠 3 及びガラス扉枠 3 a の開放状態を検出可能な状態となってから、遊技機用枠 3 又はガラス扉枠 3 a の開放状態を検知している期間は、設定変更モードに制御されているか否かによらず、また、設定確認モードに制御されているか否かによらず、遊技媒体の払出が実行されない。即ち、主基板 1 1 からの接続確認信号が O N 状態となった場合でも、遊技機枠・扉枠開放センサ 2 1 T M 3 0 0 により、遊技機用枠 3 又はガラス扉枠 3 a の開放状態が検出されていれば、P R D Y 信号を O N 状態とせず、O F F 状態に維持することにより、球貸処理を実行させないようにする。このように、接続確認信号が O N 状態の期間であっても、遊技機用枠 3 又はガラス扉枠 3 a が開放状態となっている期間は、P R D Y 信号が O F F 状態となる。

【1 2 5 9】

ここで、R A M クリア（ステップ S 2 1 T M 3 0 5 0 又はステップ S 2 1 T M 3 1 5 0）が実行された場合には、遊技場の店員は、通常、R A M クリアが実行されたことを確認した後に、遊技機用枠 3 及びガラス扉枠 3 a を閉鎖状態とするため、設定変更モード又は設定確認モードの処理が終了した後の接続確認信号が O N 状態の期間（ステップ S 2 1 T

M1480以降)であっても、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aが開放状態となっている場合があります。このような場合には、設定変更モード又は設定確認モードの処理が終了した後の接続確認信号がON状態の期間であっても、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの開放状態が検出されていることに基づいて、PRDY信号がOFF状態となる。

【1260】

遊技場の店員が、遊技機用枠3及びガラス扉枠3aを何れも閉鎖状態とすると、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、接続確認信号がON状態であり(設定変更モード又は設定確認モードの処理が終了しており)、且つ、遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300により、遊技機用枠3及びガラス扉枠3aの何れの開放状態も検出していないことに基づいて、PRDY信号をON状態とする。

10

【1261】

本例において、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370におけるRAM21TM302を対象としたRAMクリアが実行されていない場合(電源投入時にクリアスイッチ(設定切替スイッチ)21TM052が操作されていなかった場合)には、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、RAM21TM302内のバックアップ領域に形成されている未払出個数格納バッファに格納されていた未払出個数のデータがクリアされていないため(払い出すべき残りの遊技媒体が存在するため)、PRDY信号がON状態となったことに基づいて、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370におけるRAM21TM302に保存されている未払出個数格納バッファの内容に基づいて、払出モータ21TM289を駆動させ、未払出個数のデータが0になるまで1個ずつ払出動作を行う。これにより、電源断の発生、その後に、設定変更モード又は設定確認モードに制御されたこと、及び、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aが開放状態となったことにより中断されていた遊技媒体の払出が完了する。このように、球貸の実行中に電源断が発生して遊技媒体の払出が中断されたときには、その後の電源復旧時に、未払出個数のデータがクリアされていないことに基づいて、また、設定変更モード又は設定確認モードが終了し、遊技機用枠3及びガラス扉枠3aが閉鎖状態となったことを条件として、中断されていた遊技媒体の払出を再開して、球貸を完了させることが可能である。

20

【1262】

一方で、図11-7(2)に示すように、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370におけるRAM21TM302を対象としたRAMクリアが実行された場合(電源投入時にクリアスイッチ(設定切替スイッチ)21TM052が操作された場合)には、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、RAM21TM302内のバックアップ領域に形成されている未払出個数格納バッファに格納されていた未払出個数のデータがクリアされているため(払い出すべき残りの遊技媒体が存在しないため)、PRDY信号がON状態となったときにも、払出モータ21TM289を駆動させず、払出動作を行わない。

30

【1263】

この実施例では、図11-7(1)に示すように、クリアスイッチ21TM052から出力されるRAMクリア信号は、遊技制御用マイクロコンピュータ100及び払出制御用マイクロコンピュータ21TM370の両方に入力される。従って、遊技制御用マイクロコンピュータ100を対象としたRAMクリア(ステップS21TM3050又はステップS21TM3150)が実行されると、これに伴い、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370において、RAM21TM302内のバックアップ領域に形成されている未払出個数格納バッファに格納されている未払出個数のデータが初期化される。このように、電源投入時にクリアスイッチ21TM052が操作されることにより、未払出個数のデータが初期化されてしまうため、電源断発生前(電源復旧に伴い設定変更モード又は設定確認モードに制御される前)に実行されていた球貸処理において払い出すべき所定の遊技媒体数(即ち、遊技制御用マイクロコンピュータ100から指定された払出個数であり、例えば25個)のうち、払い出されなかった未払出個数分に関しては、払出が行われない。

40

50

【1264】

従って、遊技制御用マイクロコンピュータ100を対象としたRAMクリア（ステップS21TM3050又はステップS21TM3150）が実行されると、これに伴い、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370において、RAM21TM302に記憶されている未払出個数のデータが初期化されるため、球貸処理又は賞球処理において払い出すべき所定の遊技媒体数のデータの管理を簡素化することができる。

【1265】

以上に示したように、球貸処理の実行中に電源断が発生したことにより払出が中断されると、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370において、RAM21TM302内のバックアップ領域に形成されている未払出個数格納バッファに未払出個数のデータが格納されることになる。ここで、電源投入時にクリアスイッチ21TM052が操作されることにより、未払個数のデータがクリアされるため、中断されていた払出が再開されることなく強制終了（中止）される。即ち、電源復旧時、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間、設定変更モード又は設定確認モードの終了後、に未払出個数分の払出を実行しないことになる。

10

【1266】

（電源発生時の球貸処理（設定変更モードに移行）に関する変形例）

図11-8（1）は、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052及び主基板11、並びに、クリアスイッチ21TM052a及び払出制御基板21TM037におけるRAMクリア信号線の接続例を示すブロック図である。図11-8（1）に示す例では、主基板11（遊技制御用マイクロコンピュータ100）に対応して前述したクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052が設けられており、払出制御基板21TM037に対応して、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052とは異なる別のクリアスイッチ21TM052aが設けられている。即ち、主基板11（遊技制御用マイクロコンピュータ100）と、払出制御基板21TM037とで、別個に独立したクリアスイッチが設けられている。

20

【1267】

電源投入時にクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052が操作されると、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052から出力されたRAMクリア信号が、遊技制御用マイクロコンピュータ100のI/O105に入力される。電源投入時にクリアスイッチ21TM052aが操作されると、クリアスイッチ21TM052aから出力されたRAMクリア信号が、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370のI/O21TM372fに入力される。

30

【1268】

遊技場の店員は、遊技制御用マイクロコンピュータ100を初期化させ、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370を初期化させない場合には、電源投入時に、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052をON状態とし、クリアスイッチ21TM052aはOFF状態とする。これとは逆に、遊技制御用マイクロコンピュータ100を初期化させず、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370を初期化させる場合には、電源投入時に、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052をOFF状態とし、クリアスイッチ21TM052aはON状態とする。そして、遊技制御用マイクロコンピュータ100を初期化させ、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370を初期化させる場合には、電源投入時に、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052をON状態し、クリアスイッチ21TM052aもON状態とする。

40

【1269】

次に、球貸が実行されている途中で電源断が発生したことにより払出が中断され、電源復旧後に設定変更モード又は設定確認モードに制御された場合の処理に関して、図11-8（2）を用いて具体的に説明する。本例においては、図11-8（1）に示すように、電源投入時にクリアスイッチ21TM052が操作されることにより、遊技制御用マイクロコンピュータ100のRAM102が初期化され、電源投入時にクリアスイッチ21T

50

M052aが操作されることにより、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370のRAM21TM302が初期化される。図11-8(2)に示す例では、遊技媒体の払出を実行中に電源断が発生したときに、実行中の払出を停止し、電源復旧後に設定変更モード又は設定確認モードに制御されたときに、払出を再開せず、設定変更モード又は設定確認モードが終了した後に、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370のRAM21TM302を対象としたRAMクリアが実行されていないことに基づいて、払出が再開される。

【1270】

図11-8(2)は、払出制御基板21TM037(払出制御用マイクロコンピュータ21TM370)が遊技媒体の払出を実行しているときの、主基板11(遊技制御用マイクロコンピュータ100)、払出制御基板21TM037(払出制御用マイクロコンピュータ21TM370)、及びカードユニット21TM050の間で行われる通信処理を説明するためのタイミング図である。払出制御基板21TM037が遊技媒体の払出を実行している期間は、主基板11からの接続確認信号はON状態であり、払出制御基板21TM037からのPRDY信号、及び、EXS信号、並びに、カードユニット21TM050からのBRDY信号はON状態であるものとする。

10

【1271】

払出制御基板21TM037が遊技媒体の払出を実行している期間において、電源断が発生すると、主基板11からの接続確認信号の出力が停止され、払出制御基板21TM037からのPRDY信号の出力が停止される。即ち、PRDY信号はOFF状態となる。そして、PRDY信号がOFF状態であることに基づいて、カードユニット21TM050からのBRDY信号、及び、払出制御基板21TM037からのEXS信号の出力が停止される。即ち、BRDY信号、及び、EXS信号は何れもOFF状態となる。そして、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、EXS信号がOFF状態となったことに基づいて、払出モータ21TM289の駆動を停止し、遊技媒体の払出を中断する。このとき、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370におけるRAM21TM302内のバックアップ領域に形成されている未払出個数格納バッファに、未払出個数のデータが格納される。

20

【1272】

ここで、遊技場の店員は、電源投入を行うために、遊技機用枠3を開放状態とした後、電源スイッチ21TM055をON状態とする。この際、前述したように、設定変更モードに移行させるため(さらに遊技制御用マイクロコンピュータ100を初期化するため)には、電源スイッチ21TM055をON状態とするときに、錠スイッチ21TM051をON状態とし、且つ、クリアスイッチ(設定切替スイッチ)21TM052もON状態としておく。また、設定確認モードに移行させるためには、電源スイッチ21TM055をON状態とするときに、錠スイッチ21TM051をON状態とし、クリアスイッチ(設定切替スイッチ)21TM052はOFF状態とする。

30

【1273】

その後、主基板11では、所定の電源基板からの電力供給が開始されると、遊技制御用マイクロコンピュータ100が起動し、CPU103によって電源投入時処理が実行される。本例では、電源投入時に錠スイッチ21TM051がON状態であったことに基づいて設定変更モード又は設定確認モードに制御される。

40

【1274】

払出制御基板21TM037では、所定の電源基板からの電力供給が開始されると、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が起動し、遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300により、遊技機用枠3の開放状態、ガラス扉枠3aの開放状態を検出可能となったときに、遊技機用枠3が開放状態となっていることを検知する。

【1275】

その後、CPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している間は、主基板11からの接続確認信号はOFF状態である。そのため、払出制御用マイクロコ

50

ンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、P R D Y 信号を O N 状態としない。即ち、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、V L 信号が O N 状態であっても、即ち、カードユニット 2 1 T M 0 5 0 と電氣的に接続されている状態であっても、P R D Y 信号を O N 状態とせず、O F F 状態に維持する。

【1 2 7 6】

その結果、C P U 1 0 3 が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している期間は、カードユニット 2 1 T M 0 5 0 は、P R D Y 信号が O F F 状態であることに基づいて、球貸スイッチ 2 1 T M 0 6 2 が操作されても払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 に B R D Y 信号を出力しない。すなわち、B R D Y 信号は O F F 状態のままである。この時点から所定の遅延時間が経過しても、カードユニット 2 1 T M 0 5 0 は、B R D Y 信号が O F F 状態であることに基づいて、払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 に B R Q 信号を出力しない。すなわち、B R Q 信号は O F F 状態のままである。

10

【1 2 7 7】

払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、B R D Y 信号及び B R Q 信号が何れも O F F 状態であることに基づいて、カードユニット 2 1 T M 0 5 0 に対する E X S 信号を O N 状態とせず、O F F 状態に維持する。そして、E X S 信号が O F F 状態であることに基づいて、払出モータ 2 1 T M 2 8 9 の駆動を停止させた状態を維持する。すなわち、接続確認信号が O F F 状態であるときには、P R D Y 信号、B R D Y 信号、B R Q 信号、及び E X S 信号が何れも O F F 状態であり、払出モータ 2 1 T M 2 8 9 は駆動しないので、C P U 1 0 3 が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している間は、未払出個数のデータがクリアされていない場合であっても、遊技媒体の払出が実行されない。

20

【1 2 7 8】

その後、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 が O F F 状態に切り替えられると、設定変更モード又は設定確認モードが終了し、図 1 1 - 2 に示したステップ S 2 1 T M 3 7 1 0 以降の処理が実行されるものとする。なお、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 における R A M クリア処理が実行された場合には、R A M クリアが実行されたことが報知される。また、本例において、電源投入時に払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 に対応したクリアスイッチ 2 1 T M 0 5 2 a が操作された場合には、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 に R A M クリア信号が送信されるため、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 における R A M 2 1 T M 3 0 2 内のバックアップ領域に形成されている未払出個数格納バッファに格納されていた未払出個数のデータが、消去（クリアされる）。

30

【1 2 7 9】

C P U 1 0 3 が、図 1 1 - 1 に示すシリアル通信回路設定処理（ステップ S 2 1 T M 1 4 8 0）を実行するまでは、主基板 1 1 から払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 に出力される接続確認信号が O F F 状態である。C P U 1 0 3 が、図 1 1 - 1 に示すステップ S 2 1 T M 1 4 8 0 のシリアル通信回路設定処理を実行すると、主基板 1 1 からの接続確認信号が O N 状態となることに基づいて、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、払出動作が可能なときには P R D Y 信号を O N 状態にする。ここで、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、接続確認信号が O N 状態となったときに、遊技機用枠 3 の開放状態が検出されておらず、且つ、ガラス扉枠 3 a の開放状態も検出されていないことを条件として、P R D Y 信号を O N 状態とする。

40

【1 2 8 0】

前述したように、電源投入後に、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 が、遊技機枠・扉枠開放センサ 2 1 T M 3 0 0 により、遊技機用枠 3 及びガラス扉枠 3 a の開放状態を検出可能な状態となってから、遊技機用枠 3 又はガラス扉枠 3 a の開放状態を検知している期間は、設定変更モードに制御されているか否かによらず、また、設定確認モードに制御されているか否かによらず、遊技媒体の払出が実行されない。即ち、主基板 1 1 からの接続確認信号が O N 状態となった場合でも、遊技機枠・扉枠開放センサ 2 1 T M 3 0 0 により、遊技機用枠 3 又はガラス扉枠 3 a の開放状態が検出されていれば、P R D Y 信号を O N 状態とせず、O F F 状態に維持することにより、球貸処理を実行させないよ

50

うにする。このように、接続確認信号がON状態の期間であっても、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aが開放状態となっている期間は、PRDY信号がOFF状態となる。

【1281】

ここで、RAMクリア（ステップS21TM3050又はステップS21TM3150）が実行された場合には、遊技場の店員は、通常、RAMクリアが実行されたことを確認した後に、遊技機用枠3及びガラス扉枠3aを閉鎖状態とするため、設定変更モード又は設定確認モードの処理が終了した後の接続確認信号がON状態の期間（ステップS21TM1480以降）であっても、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aが開放状態となっている場合があります。このような場合には、設定変更モード又は設定確認モードの処理が終了した後の接続確認信号がON状態の期間であっても、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの開放状態が検出されていることに基づいて、PRDY信号がOFF状態となる。

10

【1282】

遊技場の店員が、遊技機用枠3及びガラス扉枠3aを何れも閉鎖状態とすると、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、接続確認信号がON状態であり、且つ、遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300により、遊技機用枠3及びガラス扉枠3aの何れの開放状態も検出していないことに基づいて、PRDY信号をON状態とする。

【1283】

本例において、図11-8（2）に示すように、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370におけるRAM21TM302を対象としたRAMクリアが実行されていない場合（電源投入時にクリアスイッチ21TM052aが操作されていなかった場合）には、遊技制御用マイクロコンピュータ100におけるRAM102を対象としたRAMクリア（ステップS21TM3050又はステップS21TM3150）が実行された場合（電源投入時にクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052が操作された場合）であっても、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、RAM21TM302内のバックアップ領域に形成されている未払出個数格納バッファに格納されていた未払出個数のデータがクリアされていないため（払い出すべき残りの遊技媒体が存在するため）、PRDY信号がON状態となったことに基づいて、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370におけるRAM21TM302に保存されている未払出個数格納バッファの内容に基づいて、払出モータ21TM289を駆動させ、未払出個数のデータが0になるまで1個ずつ払出動作を行う。これにより、電源断の発生、その後に、設定変更モード又は設定確認モードに制御されたこと、及び、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aが開放状態となったことにより中断されていた遊技媒体の払出が完了する。このように、球貸の実行中に電源断が発生して遊技媒体の払出が中断されたときには、その後の電源復旧時に、未払出個数のデータがクリアされていないことに基づいて、また、設定変更モード又は設定確認モードが終了し、遊技機用枠3及びガラス扉枠3aが閉鎖状態となったことを条件として、中断されていた遊技媒体の払出を再開して、球貸を完了させることが可能である。

20

30

【1284】

一方で、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370におけるRAM21TM302を対象としたRAMクリアが実行された場合（電源投入時にクリアスイッチ21TM052aが操作された場合）には、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、RAM21TM302内のバックアップ領域に形成されている未払出個数格納バッファに格納されていた未払出個数のデータがクリアされているため（払い出すべき残りの遊技媒体が存在しないため）、PRDY信号がON状態となったときにも、払出モータ21TM289を駆動させず、払出動作を行わない。

40

【1285】

この実施例では、図11-8（1）に示すように、クリアスイッチ21TM052から出力されるRAMクリア信号は、遊技制御用マイクロコンピュータ100に入力されるが、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370には入力されない。そのため、主基板11に対応したクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052が操作されたことにより、遊技制御用マイクロコンピュータ100を対象としたRAMクリア（ステップS21

50

TM3050又はステップS21TM3150)が実行されたとしても、払出制御基板21TM037に対応したクリアスイッチ21TM052aが操作されていなければ、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370において、RAM21TM302内のバックアップ領域に形成されている未払出個数格納バッファに格納されている未払出個数のデータは初期化されない。このように、電源投入時にクリアスイッチ(設定切替スイッチ)21TM052が操作されたか否かにかかわらず(遊技制御用マイクロコンピュータ100を対象としたRAMクリア(ステップS21TM3050又はステップS21TM3150)が実行されたか否かにかかわらず)、クリアスイッチ21TM052aが操作されていなければ、未払出個数のデータは初期化されず、電源断発生前(電源復旧に伴い設定変更モード又は設定確認モードに制御される前)に実行されていた球貸処理において払い出すべき所定の遊技媒体数(即ち、遊技制御用マイクロコンピュータ100から指定された払出個数であり、例えば25個)のうち、払い出されなかった未払出個数分に関して、払出が実行されることになる。

10

【1286】

従って、遊技制御用マイクロコンピュータ100を対象としたRAMクリア(ステップS21TM3050又はステップS21TM3150)が実行されたか否かに関わらず、RAM21TM302に記憶されている未払出個数のデータは初期化されないため、球貸処理又は賞球処理において払い出すべき所定の遊技媒体数のデータを適切に保護できる。

【1287】

以上に示したように、球貸処理の実行中に電源断が発生したことにより払出が中断されると、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370において、RAM21TM302内のバックアップ領域に形成されている未払出個数格納バッファに未払出個数のデータが格納されることになる。ここで、電源投入時に主基板11に対応したクリアスイッチ21TM052が操作されたとしても、払出制御基板21TM037に対応したクリアスイッチ21TM052aが操作されていなければ、未払出個数のデータがクリアされずに維持されているため、中断されていた払出が再開されて、未払出個数の遊技媒体の払出が完了する。即ち、電源復旧後に、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間を経て、設定変更モード又は設定確認モードの終了後に、未払出個数分の払出が実行されることになる。

20

【1288】

なお、この実施形態では、遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300が、払出制御基板21TM037に設けられている(開放状態の検出信号が払出制御用マイクロコンピュータ21TM370に入力される)例を示したが、このような形態に限らず、遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300は、主基板11に設けられる(開放状態の検出信号が遊技制御用マイクロコンピュータ100に入力される)ようにしても良い。このような構成とした場合には、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300が、遊技機用枠3(又はガラス扉枠3a)の開放状態を検知したことに基づいて、接続確認信号の出力を停止する(ON状態からOFF状態に切り替える)。これにより、接続確認信号が入力されなくなったことに基づいて、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が、PRDY信号をOFF状態とすることにより、あるいは、EXS信号をON状態としないことにより、球貸が実行されないようにする。

30

40

【1289】

(遊技機用枠又はガラス扉枠の開放状態検知に基づく賞球払出制限)

次に、遊技機用枠3が開放状態となったとき、ガラス扉枠3aが開放状態となったときの賞球払出の制限方法に関して、図11-9を用いて具体的に説明する。図11-9は、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が備える遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300が、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの開放状態を検知しているときに、遊技制御用マイクロコンピュータ100と払出制御用マイクロコンピュータ21TM370との信号の送受信を示すタイミング図である。図11-9に示すように、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、賞球要求信号としての接続確認コマンドを払出制御用マイクロ

50

コンピュータ21TM370に送信すると、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370から送信される受信ACK信号としての接続OKコマンドを受信する。遊技制御用マイクロコンピュータ100は、受信ACK信号としての接続OKコマンドを受信すると、受信した時点から1s（1秒）経過後に賞球要求信号としての接続確認コマンドを再び送信する。遊技制御用マイクロコンピュータ100および払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、接続状態が正常である限り、上記のような接続確認の通信処理を繰り返し実行する。

【1290】

このとき、遊技場の店員等が遊技機用枠3又はガラス扉枠3aを開放すると、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が備える遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300が、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの開放状態を検知する。遊技機用枠3が開放されている状態（及び、ガラス扉枠3aと上皿が一体化されている構成であれば、ガラス扉枠3aが開放されている状態）では、払い出されるべき賞球が流下する経路と、流下してきた賞球が貯留される上皿とが物理的に接続されていないため、仮に、この状態で賞球が払い出されてしまうと、遊技媒体が上皿に到達せずに落下してしまう。

【1291】

図11-9の例では、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が備える遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300が、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの開放状態を検知しているときに、遊技制御用マイクロコンピュータ100が、第1始動入賞口、第2始動入賞口、第1一般入賞口～第4一般入賞口、及び、大入賞口の何れかの入賞口に関する遊技媒体の通過を検出したことに基づいて、賞球要求信号としての賞球個数コマンドを払出制御用マイクロコンピュータ21TM370に送信するが、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの開放状態を検知している払出制御用マイクロコンピュータ21TM370では、遊技媒体の払出制御を実行せず、受信ACK信号としての賞球準備中コマンドを遊技制御用マイクロコンピュータ100に送信する。この賞球準備中コマンドは、遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300が遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの開放状態を検知しなくなるまで、即ち、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aが閉鎖状態となるまで、遊技制御用マイクロコンピュータ100に送信し続けられる。

【1292】

このように、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が備える遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300が、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの開放状態を検知している期間は、遊技媒体が各入賞口を通過して入賞を検知しても、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、払出モータ21TM289を駆動させずに賞球の払出制御を実行しない。このようにして、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370による遊技媒体の払出制御を実行させないようにすることができる。そして、受信ACK信号としての賞球準備中コマンドを遊技制御用マイクロコンピュータ100に送信する。

【1293】

そして、遊技場の店員等が、当該パチンコ遊技機1を遊技可能な状態とするために遊技機用枠3及びガラス扉枠3aを何れも閉鎖状態とすることで、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が備える遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300が、遊技機用枠3の開放状態を検出しておらず、且つ、ガラス扉枠3aの開放状態も検知していない状態となる。遊技機用枠3及びガラス扉枠3aが何れも閉鎖状態となったことに伴い、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、払出動作が可能となるときには払出モータ21TM289を駆動させ、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの開放状態が検知されている期間内の入賞に応じた所定数（賞球個数コマンドにより指定された数）の賞球の払出制御を実行する。そして、所定数の遊技媒体を払い出した払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、受信ACK信号としての賞球終了コマンドを送信する。

【1294】

（開放状態検知終了後の賞球払出再開）

次に、賞球の払出が実行されている途中で遊技機用枠3又はガラス扉枠3aが開放状態

10

20

30

40

50

とされたことにより払出が中断され、その後に遊技機用枠 3 又はガラス扉枠 3 a が閉鎖状態とされた場合の処理に関して、図 1 1-1 0 を用いて具体的に説明する。図 1 1-1 0 に示す例では、遊技媒体の払出を実行中に、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 が、遊技機用枠 3 又はガラス扉枠 3 a が開放状態となったことを検知したことに基

いて、遊技媒体の払出を中断し、遊技機用枠 3 又はガラス扉枠 3 a が開放状態ではなくなった（閉鎖状態となった）ことに基づいて、中断されていた払出を再開する。

【1 2 9 5】

図 1 1-1 0 に示すように、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 は、賞球要求信号としての接続確認コマンドを払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 に送信すると、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 から送信される受信 A C K 信号としての接続 O K コマンドを受信する。遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 は、受信 A C K 信号としての接続 O K コマンドを受信すると、受信した時点から 1 s （1 秒）経過後に賞球要求信号としての接続確認コマンドを再び送信する。遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 および払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、接続状態が正常である限り、上記のような接続確認の通信処理を繰り返し実行する。

【1 2 9 6】

接続確認の通信処理を実行していないとき（受信 A C K 信号としての接続 O K コマンドを受信してから賞球要求信号としての接続確認コマンドを送信するまでの間）に入賞があった場合は、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 は、賞球個数を示すデータを賞球要求信号に設定し、当該設定した賞球要求信号としての賞球個数コマンドを払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 に送信する。払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、賞球要求信号としての賞球個数コマンドを受信すると、賞球個数コマンドで指定された個数の賞球の払い出しを行う。この賞球個数コマンドで指定された個数の賞球の払い出しを行っている期間に、遊技機用枠 3 又はガラス扉枠 3 a が開放され、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 が備える遊技機枠・扉枠開放センサ 2 1 T M 3 0 0 が、遊技機用枠 3 又はガラス扉枠 3 a の開放を検知したことに基づいて、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、払出モータ 2 1 T M 2 8 9 の駆動を停止し、遊技媒体の払出を中断する。このとき、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 における R A M 2 1 T M 3 0 2 内のバックアップ領域に形成されている未払出個数格納バッファに、未払出個数のデータが格納される。

【1 2 9 7】

この未払出個数は、中継基板 2 1 T M 0 7 2 を介して払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 の I / O ポート 2 1 T M 3 7 2 f に入力される払出個数カウントスイッチ 2 1 T M 3 0 1 からの検出信号に基づいて更新される。具体的には、未払出個数は、払出モータ 2 1 T M 2 8 9 により払い出すべき所定の遊技媒体数（即ち、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 から指定された払出個数であり、例えば 1 4 個）から、払出個数カウントスイッチ 2 1 T M 3 0 1 によりカウントされた個数（即ち、実際に払出モータ 2 1 T M 2 8 9 により払い出された遊技媒体数）を減算することにより算出される。

【1 2 9 8】

遊技機用枠 3 又はガラス扉枠 3 a の開放状態を検知している払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 では、遊技媒体の払出制御を実行せず、受信 A C K 信号としての賞球準備中コマンドを遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 に送信する。この賞球準備中コマンドは、遊技機枠・扉枠開放センサ 2 1 T M 3 0 0 が遊技機用枠 3 又はガラス扉枠 3 a の開放状態を検知しなくなるまで、即ち、遊技機用枠 3 又はガラス扉枠 3 a が閉鎖状態となるまで、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 に送信し続けられる。

【1 2 9 9】

このように、遊技機用枠 3 又はガラス扉枠 3 a が開放状態である期間は、遊技媒体の払出の実行途中であっても、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、払出モータ 2 1 T M 2 8 9 を駆動させずに遊技媒体の払出を実行しない。そして、受信 A C K 信号としての賞球準備中コマンドを遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 に送信する。

【1300】

払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が備える遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300により、遊技機用枠3及びガラス扉枠3aが何れも閉鎖状態となったことを検知すると（遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの開放状態が終了したことを検知すると）、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aが閉鎖されたことに基づいて、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370におけるRAM21TM302に保存されている未払出個数格納バッファの内容に基づいて、払出モータ21TM289を駆動させ、未払出個数のデータが0になるまで1個ずつ払出動作を行う。これにより、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの開放により中断されていた遊技媒体の払出が完了する。

10

【1301】

（電源発生時の賞球処理（設定変更モードに移行せず））

次に、賞球の払出が実行されている途中で電源断が発生したことにより払出が中断され、電源復旧後に設定変更モード又は設定確認モードに制御されない場合の処理に関して、図11-11を用いて具体的に説明する。図11-11に示す例では、遊技媒体の払出を実行中に電源断が発生したことに基づいて、遊技媒体の払出を中断し、電源投入後に設定変更モード又は設定確認モードに制御されることなく、接続確認信号がON状態となり、遊技機用枠3が閉鎖状態となった後に、中断されていた払出を再開する。

【1302】

図11-11に示すように、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、賞球要求信号としての接続確認コマンドを払出制御用マイクロコンピュータ21TM370に送信すると、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370から送信される受信ACK信号としての接続OKコマンドを受信する。遊技制御用マイクロコンピュータ100は、受信ACK信号としての接続OKコマンドを受信すると、受信した時点から1s（1秒）経過後に賞球要求信号としての接続確認コマンドを再び送信する。遊技制御用マイクロコンピュータ100および払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、接続状態が正常である限り、上記のような接続確認の通信処理を繰り返し実行する。

20

【1303】

接続確認の通信処理を実行していないとき（受信ACK信号としての接続OKコマンドを受信してから賞球要求信号としての接続確認コマンドを送信するまでの間）に入賞があった場合は、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、賞球個数を示すデータを賞球要求信号に設定し、当該設定した賞球要求信号としての賞球個数コマンドを払出制御用マイクロコンピュータ21TM370に送信する。払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、賞球要求信号としての賞球個数コマンドを受信すると、賞球個数コマンドで指定された個数の賞球の払い出しを行う。この賞球個数コマンドで指定された個数の賞球の払い出しを行っている期間において、電源断が発生すると、払出モータ21TM289への電力供給が停止するので、払出モータ21TM289の駆動を停止し、遊技媒体の払出を中断する。このとき、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370におけるRAM21TM302内のバックアップ領域に形成されている未払出個数格納バッファに、未払出個数のデータが格納される。

30

40

【1304】

ここで、遊技場の店員は、電源投入を行うために、遊技機用枠3を開放状態とした後、電源スイッチ21TM055をON状態とする。この際、パチンコ遊技機1を初期化させる場合には、さらにクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052を操作する。その後、主基板11では、所定の電源基板からの電力供給が開始されると、遊技制御用マイクロコンピュータ100が起動し、CPU103によって電源投入時処理が実行される。本例では、電源投入時に錠スイッチ21TM051がOFF状態であったことに基づいて、設定変更モード又は設定確認モードに制御されることなく、図11-1に示したステップS21TM1470以降の処理が実行されるものとする。ここで、CPU103が、図11-1に示すシリアル通信回路設定処理（ステップS21TM1480）を実行するま

50

では、主基板 1 1 から払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 に出力される接続確認信号が O F F 状態である。

【 1 3 0 5 】

払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 では、所定の電源基板からの電力供給が開始されると、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 が起動し、遊技機枠・扉枠開放センサ 2 1 T M 3 0 0 により、遊技機用枠 3 の開放状態、ガラス扉枠 3 a の開放状態を検出可能となったときに、遊技機用枠 3 が開放状態となっていることを検知する。

【 1 3 0 6 】

払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、主基板 1 1 からの接続確認信号が O F F 状態であるため、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、払出モータ 2 1 T M 2 8 9 を停止状態に維持する。その結果、電源投入後に、C P U 1 0 3 が電源投入時処理となる所定の処理を実行している期間（電源投入後、設定変更モード又は設定確認モードに制御されることなく、図 1 1 - 1 に示すシリアル通信回路設定処理（ステップ S 2 1 T M 1 4 8 0 ）を実行するまでの期間）は、払出モータ 2 1 T M 2 8 9 の駆動が停止状態であるので、遊技媒体の払出を中断した状態を維持する。

【 1 3 0 7 】

その結果、接続確認信号が O F F 状態であるときには、払出モータ 2 1 T M 2 8 9 は駆動しないので、接続確認信号が O F F 状態である期間（電源投入してから、図 1 1 - 1 に示すシリアル通信回路設定処理（ステップ S 2 1 T M 1 4 8 0 ）を実行するまでの期間）は、遊技媒体の払出が実行されない。

【 1 3 0 8 】

C P U 1 0 3 が、図 1 1 - 1 に示すステップ S 2 1 T M 1 4 8 0 のシリアル通信回路設定処理を実行すると、主基板 1 1 からの接続確認信号が O N 状態となることに基づいて、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、払出動作が可能なときには払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 における R A M 2 1 T M 3 0 2 に保存されている未払出個数格納バッファの内容に基づいて、払出モータ 2 1 T M 2 8 9 を駆動させ、未払出個数のデータが 0 になるまで 1 個ずつ払出動作を行う。ここで、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、接続確認信号が O N 状態となったときに、遊技機用枠 3 の開放状態が検出されておらず、且つ、ガラス扉枠 3 a の開放状態も検出されていないことを条件として、払出モータ 2 1 T M 2 8 9 を駆動させ、払出動作を行うものとする。

【 1 3 0 9 】

前述したように、電源投入後に、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 が、遊技機枠・扉枠開放センサ 2 1 T M 3 0 0 により、遊技機用枠 3 及びガラス扉枠 3 a の開放状態を検出可能な状態となってから、遊技機用枠 3 又はガラス扉枠 3 a の開放状態を検知している期間は、設定変更モードに制御されているか否かによらず、また、設定確認モードに制御されているか否かによらず、遊技媒体の払出が実行されない。即ち、主基板 1 1 からの接続確認信号が O N 状態となった場合でも、遊技機枠・扉枠開放センサ 2 1 T M 3 0 0 により、遊技機用枠 3 又はガラス扉枠 3 a の開放状態が検出されていれば、払出モータ 2 1 T M 2 8 9 を駆動させないことにより、賞球処理を実行させないようにする。このように、接続確認信号が O N 状態の期間であっても、遊技機用枠 3 又はガラス扉枠 3 a が開放状態となっている期間は、払出モータ 2 1 T M 2 8 9 を駆動させない。

【 1 3 1 0 】

なお、R A M クリア（ステップ S 2 1 T M 3 0 5 0 又はステップ S 2 1 T M 3 1 5 0 ）が実行された場合には、遊技場の店員は、通常、R A M クリアが実行されたことを確認した後に、遊技機用枠 3 及びガラス扉枠 3 a を閉鎖状態とするため、接続確認信号が O N 状態の期間（ステップ S 2 1 T M 1 4 8 0 以降）であっても、遊技機用枠 3 又はガラス扉枠 3 a が開放状態となっている場合がありうる。このような場合には、接続確認信号が O N 状態の期間であっても、遊技機用枠 3 又はガラス扉枠 3 a の開放状態が検出されていることに基づいて、払出モータ 2 1 T M 2 8 9 の駆動は停止状態となり、遊技媒体の払出が実行されない。

【1311】

遊技場の店員が、遊技機用枠3及びガラス扉枠3aを何れも閉鎖状態とすると、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、接続確認信号がON状態であり、且つ、遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300により、遊技機用枠3及びガラス扉枠3aの何れの開放状態も検出していないことに基づいて、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370におけるRAM21TM302に保存されている未払出個数格納バッファの内容に基づいて、払出モータ21TM289を駆動させ、未払出個数のデータが0になるまで1個ずつ払出動作を行う。これにより、電源断の発生、及び、その後に遊技機用枠3又はガラス扉枠3aが開放状態となったことにより中断されていた遊技媒体の払出が完了する。このように、賞球の払出の実行中に電源断が発生して遊技媒体の払出が中断されたときには、その後の電源復旧時に、遊技機用枠3及びガラス扉枠3aが閉鎖状態となったことを条件として、中断されていた遊技媒体の払出を再開して、賞球の払出を完了させることが可能である。

10

【1312】

(電源発生時の賞球処理(設定変更モードに移行))

次に、賞球の払出が実行されている途中で電源断が発生したことにより払出が中断され、電源復旧後に設定変更モード又は設定確認モードに制御された場合の処理に関して、図11-12を用いて具体的に説明する。本例においては、図11-7(1)に示すように、電源投入時にクリアスイッチ21TM052が操作されることにより、遊技制御用マイクロコンピュータ100及び払出制御用マイクロコンピュータ21TM370の両方にRAMクリア信号が送信されるものとする。図11-12に示す例では、遊技媒体の払出を実行中に電源断が発生したときに、実行中の払出を停止し、電源復旧後に設定変更モード又は設定確認モードに制御されたときに、払出を再開せず、また、設定変更モード又は設定確認モードが終了した後でも、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370のRAM21TM302を対象としたRAMクリアが実行されたことに基づいて、払出を再開しない。

20

【1313】

図11-12に示すように、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、賞球要求信号としての接続確認コマンドを払出制御用マイクロコンピュータ21TM370に送信すると、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370から送信される受信ACK信号としての接続OKコマンドを受信する。遊技制御用マイクロコンピュータ100は、受信ACK信号としての接続OKコマンドを受信すると、受信した時点から1s(1秒)経過後に賞球要求信号としての接続確認コマンドを再び送信する。遊技制御用マイクロコンピュータ100および払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、接続状態が正常である限り、上記のような接続確認の通信処理を繰り返し実行する。

30

【1314】

接続確認の通信処理を実行していないとき(受信ACK信号としての接続OKコマンドを受信してから賞球要求信号としての接続確認コマンドを送信するまでの間)に入賞があった場合は、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、賞球個数を示すデータを賞球要求信号に設定し、当該設定した賞球要求信号としての賞球個数コマンドを払出制御用マイクロコンピュータ21TM370に送信する。払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、賞球要求信号としての賞球個数コマンドを受信すると、賞球個数コマンドで指定された個数の賞球の払い出しを行う。この賞球個数コマンドで指定された個数の賞球の払い出しを行っている期間において、電源断が発生すると、払出モータ21TM289への電力供給が停止するので、払出モータ21TM289の駆動を停止し、遊技媒体の払出を中断する。このとき、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370におけるRAM21TM302内のバックアップ領域に形成されている未払出個数格納バッファに、未払出個数のデータが格納される。

40

【1315】

ここで、遊技場の店員は、電源投入を行うために、遊技機用枠3を開放状態とした後、

50

電源スイッチ 2 1 T M 0 5 5 を O N 状態とする。この際、前述したように、設定変更モードに移行させるため（さらにパチンコ遊技機 1 を初期化するため）には、電源スイッチ 2 1 T M 0 5 5 を O N 状態とするときに、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 を O N 状態とし、且つ、クリアスイッチ（設定切替スイッチ） 2 1 T M 0 5 2 も O N 状態としておく。また、設定確認モードに移行させるためには、電源スイッチ 2 1 T M 0 5 5 を O N 状態とするときに、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 を O N 状態とし、クリアスイッチ（設定切替スイッチ） 2 1 T M 0 5 2 は O F F 状態とする。

【 1 3 1 6 】

その後、主基板 1 1 では、所定の電源基板からの電力供給が開始されると、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 が起動し、C P U 1 0 3 によって電源投入時処理が実行される。本例では、電源投入時に錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 が O N 状態であったことに基づいて設定変更モード又は設定確認モードに制御される。

10

【 1 3 1 7 】

払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 では、所定の電源基板からの電力供給が開始されると、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 が起動し、遊技機枠・扉枠開放センサ 2 1 T M 3 0 0 により、遊技機用枠 3 の開放状態、ガラス扉枠 3 a の開放状態を検出可能となったときに、遊技機用枠 3 が開放状態となっていることを検知する。

【 1 3 1 8 】

その後、C P U 1 0 3 が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している間は、主基板 1 1 からの接続確認信号は O F F 状態である。そのため、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、払出モータ 2 1 T M 2 8 9 を停止状態に維持する。その結果、電源投入後に、C P U 1 0 3 が電源投入時処理となる所定の処理を実行している期間（設定変更モード又は設定確認モードに制御され、図 1 1 - 1 に示すシリアル通信回路設定処理（ステップ S 2 1 T M 1 4 8 0）を実行するまでの期間）は、払出モータ 2 1 T M 2 8 9 の駆動が停止状態であるので、未払出個数のデータがクリアされていない場合であっても、遊技媒体の払出を中断した状態が維持されることになる。

20

【 1 3 1 9 】

その後、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 が O F F 状態に切り替えられると、設定変更モード又は設定確認モードが終了し、図 1 1 - 2 に示したステップ S 2 1 T M 3 7 1 0 以降の処理が実行されるものとする。なお、R A M クリア処理が実行された場合には、R A M クリアが実行されたことが報知される。また、本例において、電源投入時にクリアスイッチ（設定切替スイッチ） 2 1 T M 0 5 2 が操作された場合には、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 及び払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 の両方に R A M クリア信号が送信されるため、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 における R A M 2 1 T M 3 0 2 内のバックアップ領域に形成されている未払出個数格納バッファに格納されていた未払出個数のデータが、消去（クリアされる）。

30

【 1 3 2 0 】

C P U 1 0 3 が、図 1 1 - 1 に示すシリアル通信回路設定処理（ステップ S 2 1 T M 1 4 8 0）を実行するまでは、主基板 1 1 から払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 に出力される接続確認信号が O F F 状態である。C P U 1 0 3 が、図 1 1 - 1 に示すステップ S 2 1 T M 1 4 8 0 のシリアル通信回路設定処理を実行すると、主基板 1 1 からの接続確認信号が O N 状態となることに基づいて、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、払出動作が可能ときには、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 における R A M 2 1 T M 3 0 2 に保存されている未払出個数格納バッファの内容に基づいて、払出モータ 2 1 T M 2 8 9 を駆動させ、未払出個数のデータが 0 になるまで 1 個ずつ払出動作を行う。ここで、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、接続確認信号が O N 状態となったときに、遊技機用枠 3 の開放状態が検出されておらず、且つ、ガラス扉枠 3 a の開放状態も検出されていないことを条件として、払出モータ 2 1 T M 2 8 9 を駆動させ、払出動作を行うものとする。

40

【 1 3 2 1 】

50

前述したように、電源投入後に、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が、遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300により、遊技機用枠3及びガラス扉枠3aの開放状態を検出可能な状態となつてから、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの開放状態を検知している期間は、設定変更モードに制御されているか否かによらず、また、設定確認モードに制御されているか否かによらず、遊技媒体の払出が実行されない。即ち、主基板11からの接続確認信号がON状態となった場合でも、遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300により、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの開放状態が検出されていれば、払出モータ21TM289を駆動させないことにより、賞球処理を実行させないようにする。このように、接続確認信号がON状態の期間であっても、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aが開放状態となっている期間は、払出モータ21TM289を駆動させない。

10

【1322】

ここで、RAMクリア（ステップS21TM3050又はステップS21TM3150）が実行された場合には、遊技場の店員は、通常、RAMクリアが実行されたことを確認した後に、遊技機用枠3及びガラス扉枠3aを閉鎖状態とするため、接続確認信号がON状態の期間（ステップS21TM1480以降）であっても、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aが開放状態となっている場合がありうる。このような場合には、接続確認信号がON状態の期間であっても、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの開放状態が検出されていることに基づいて、払出モータ21TM289の駆動は停止状態となる。

【1323】

遊技場の店員が、遊技機用枠3及びガラス扉枠3aを何れも閉鎖状態とすると、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、接続確認信号がON状態であり（設定変更モード又は設定確認モードの処理が終了しており）、且つ、遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300により、遊技機用枠3及びガラス扉枠3aの何れの開放状態も検出していないことに基づいて、払出モータ21TM289を駆動させる。

20

【1324】

本例において、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370におけるRAM21TM302を対象としたRAMクリアが実行されていない場合（電源投入時にクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052が操作されていなかった場合）には、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、RAM21TM302内のバックアップ領域に形成されている未払出個数格納バッファに格納されていた未払出個数のデータがクリアされていないため（払い出すべき残りの遊技媒体が存在するため）、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370におけるRAM21TM302に保存されている未払出個数格納バッファの内容に基づいて、払出モータ21TM289を駆動させ、未払出個数のデータが0になるまで1個ずつ払出動作を行う。これにより、電源断の発生、その後に、設定変更モード又は設定確認モードに制御されたこと、及び、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aが開放状態となったことにより中断されていた遊技媒体の払出が完了する。このように、賞球の払出の実行中に電源断が発生して遊技媒体の払出が中断されたときには、その後の電源復旧時に、未払出個数のデータがクリアされていないことに基づいて、また、設定変更モード又は設定確認モードが終了し、遊技機用枠3及びガラス扉枠3aが閉鎖状態となったことを条件として、中断されていた遊技媒体の払出を再開して、賞球の払出を完了させることが可能である。

30

40

【1325】

一方で、図11-12に示すように、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370におけるRAM21TM302を対象としたRAMクリアが実行された場合（電源投入時にクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052が操作された場合）には、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、RAM21TM302内のバックアップ領域に形成されている未払出個数格納バッファに格納されていた未払出個数のデータがクリアされているため（払い出すべき残りの遊技媒体が存在しないため）、払出モータ21TM289を駆動せず、払出動作を行わない。

【1326】

50

この実施例では、図11-7(1)に示すように、クリアスイッチ21TM052から出力されるRAMクリア信号は、遊技制御用マイクロコンピュータ100及び払出制御用マイクロコンピュータ21TM370の両方に入力される。従って、遊技制御用マイクロコンピュータ100を対象としたRAMクリア(ステップS21TM3050又はステップS21TM3150)が実行されると、これに伴い、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370において、RAM21TM302内のバックアップ領域に形成されている未払出個数格納バッファに格納されている未払出個数のデータが初期化される。このように、電源投入時にクリアスイッチ21TM052が操作されることにより、未払出個数のデータが初期化されてしまうため、電源断発生前(電源復旧に伴い設定変更モード又は設定確認モードに制御される前)に実行されていた賞球処理において払い出すべき所定の遊技媒体数(即ち、遊技制御用マイクロコンピュータ100から指定された払出個数であり、例えば14個)のうち、払い出されなかった未払出個数分に関しては、払出が行われない。

10

【1327】

以上に示したように、賞球処理の実行中に電源断が発生したことにより払出が中断されると、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370において、RAM21TM302内のバックアップ領域に形成されている未払出個数格納バッファに未払出個数のデータが格納されることになる。ここで、電源投入時にクリアスイッチ21TM052が操作されることにより、未払出個数のデータがクリアされるため、中断されていた払出が再開されることなく強制終了(中止)される。即ち、電源復旧時、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間、設定変更モード又は設定確認モードの終了後、に未払出個数分の払出を実行しないことになる。

20

【1328】

(電源断発生時の賞球処理(設定変更モードに移行)に関する変形例)

次に、賞球の払出が実行されている途中で電源断が発生したことにより払出が中断され、電源復旧後に設定変更モード又は設定確認モードに制御された場合の処理に関して、図11-13を用いて具体的に説明する。本例においては、図11-8(1)に示すように、電源投入時にクリアスイッチ21TM052が操作されることにより、遊技制御用マイクロコンピュータ100のRAM102が初期化され、電源投入時にクリアスイッチ21TM052aが操作されることにより、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370のRAM21TM302が初期化される。図11-13に示す例では、遊技媒体の払出を実行中に電源断が発生したときに、実行中の払出を停止し、電源復旧後に設定変更モード又は設定確認モードに制御されたときに、払出を再開せず、設定変更モード又は設定確認モードが終了した後に、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370のRAM21TM302を対象としたRAMクリアが実行されていないことに基づいて、払出が再開される。

30

【1329】

図11-13に示すように、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、賞球要求信号としての接続確認コマンドを払出制御用マイクロコンピュータ21TM370に送信すると、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370から送信される受信ACK信号としての接続OKコマンドを受信する。遊技制御用マイクロコンピュータ100は、受信ACK信号としての接続OKコマンドを受信すると、受信した時点から1s(1秒)経過後に賞球要求信号としての接続確認コマンドを再び送信する。遊技制御用マイクロコンピュータ100および払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、接続状態が正常である限り、上記のような接続確認の通信処理を繰り返し実行する。

40

【1330】

接続確認の通信処理を実行していないとき(受信ACK信号としての接続OKコマンドを受信してから賞球要求信号としての接続確認コマンドを送信するまでの間)に入賞があった場合は、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、賞球個数を示すデータを賞球要求信号に設定し、当該設定した賞球要求信号としての賞球個数コマンドを払出制御用マイ

50

クロコンピュータ 21TM370 に送信する。払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 は、賞球要求信号としての賞球個数コマンドを受信すると、賞球個数コマンドで指定された個数の賞球の払い出しを行う。この賞球個数コマンドで指定された個数の賞球の払い出しを行っている期間において、電源断が発生すると、払出モータ 21TM289 への電力供給が停止するので、払出モータ 21TM289 の駆動を停止し、遊技媒体の払出を中断する。このとき、払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 における RAM 21TM302 内のバックアップ領域に形成されている未払出個数格納バッファに、未払出個数のデータが格納される。

【1331】

ここで、遊技場の店員は、電源投入を行うために、遊技機用枠 3 を開放状態とした後、電源スイッチ 21TM055 を ON 状態とする。この際、前述したように、設定変更モードに移行させるため（さらに遊技制御用マイクロコンピュータ 100 を初期化するため）には、電源スイッチ 21TM055 を ON 状態とするときに、錠スイッチ 21TM051 を ON 状態とし、且つ、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052 も ON 状態としておく。また、設定確認モードに移行させるためには、電源スイッチ 21TM055 を ON 状態とするときに、錠スイッチ 21TM051 を ON 状態とし、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052 は OFF 状態とする。

【1332】

その後、主基板 11 では、所定の電源基板からの電力供給が開始されると、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 が起動し、CPU 103 によって電源投入時処理が実行される。本例では、電源投入時に錠スイッチ 21TM051 が ON 状態であったことに基いて設定変更モード又は設定確認モードに制御される。

【1333】

払出制御基板 21TM037 では、所定の電源基板からの電力供給が開始されると、払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 が起動し、遊技機枠・扉枠開放センサ 21TM300 により、遊技機用枠 3 の開放状態、ガラス扉枠 3a の開放状態を検出可能となったときに、遊技機用枠 3 が開放状態となっていることを検知する。

【1334】

その後、CPU 103 が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している間は、主基板 11 からの接続確認信号は OFF 状態である。そのため、払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 は、払出モータ 21TM289 を停止状態に維持する。その結果、電源投入後に、CPU 103 が電源投入時処理となる所定の処理を実行している期間（設定変更モード又は設定確認モードに制御され、図 11-1 に示すシリアル通信回路設定処理（ステップ S 21TM1480）を実行するまでの期間）は、払出モータ 21TM289 の駆動が停止状態であるので、未払出個数のデータがクリアされていない場合であっても、遊技媒体の払出を中断した状態が維持されることになる。

【1335】

その後、錠スイッチ 21TM051 が OFF 状態に切り替えられると、設定変更モード又は設定確認モードが終了し、図 11-2 に示したステップ S 21TM3710 以降の処理が実行されるものとする。なお、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 における RAM クリア処理が実行された場合には、RAM クリアが実行されたことが報知される。また、本例において、電源投入時に払出制御基板 21TM037 に対応したクリアスイッチ 21TM052a が操作された場合には、払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 に RAM クリア信号が送信されるため、払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 における RAM 21TM302 内のバックアップ領域に形成されている未払出個数格納バッファに格納されていた未払出個数のデータが、消去（クリアされる）。

【1336】

CPU 103 が、図 11-1 に示すシリアル通信回路設定処理（ステップ S 21TM1480）を実行するまでは、主基板 11 から払出制御基板 21TM037 に出力される接続確認信号が OFF 状態である。CPU 103 が、図 11-1 に示すステップ S 21TM

10

20

30

40

50

1480のシリアル通信回路設定処理を実行すると、主基板11からの接続確認信号がON状態となることに基づいて、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、払出動作が可能なときには、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370におけるRAM21TM302に保存されている未払出個数格納バッファの内容に基づいて、払出モータ21TM289を駆動させ、未払出個数のデータが0になるまで1個ずつ払出動作を行う。ここで、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、接続確認信号がON状態となったときに、遊技機用枠3の開放状態が検出されておらず、且つ、ガラス扉枠3aの開放状態も検出されていないことを条件として、払出モータ21TM289を駆動させ、払出動作を行うものとする。

【1337】

前述したように、電源投入後に、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が、遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300により、遊技機用枠3及びガラス扉枠3aの開放状態を検出可能な状態となつてから、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの開放状態を検知している期間は、設定変更モードに制御されているか否かによらず、また、設定確認モードに制御されているか否かによらず、遊技媒体の払出が実行されない。即ち、主基板11からの接続確認信号がON状態となった場合でも、遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300により、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの開放状態が検出されていれば、払出モータ21TM289を駆動させないことにより、賞球処理を実行させないようにする。このように、接続確認信号がON状態の期間であっても、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aが開放状態となっている期間は、払出モータ21TM289を駆動させない。

【1338】

ここで、RAMクリア（ステップS21TM3050又はステップS21TM3150）が実行された場合には、遊技場の店員は、通常、RAMクリアが実行されたことを確認した後に、遊技機用枠3及びガラス扉枠3aを閉鎖状態とするため、設定変更モード又は設定確認モードの処理が終了した後の接続確認信号がON状態の期間（ステップS21TM1480以降）であっても、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aが開放状態となっている場合がありうる。このような場合には、設定変更モード又は設定確認モードの処理が終了した後の接続確認信号がON状態の期間であっても、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの開放状態が検出されていることに基づいて、払出モータ21TM289の駆動は停止状態となる。

【1339】

遊技場の店員が、遊技機用枠3及びガラス扉枠3aを何れも閉鎖状態とすると、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、接続確認信号がON状態であり、且つ、遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300により、遊技機用枠3及びガラス扉枠3aの何れの開放状態も検出していないことに基づいて、払出モータ21TM289の駆動を開始する。

【1340】

本例において、図11-8（2）に示すように、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370におけるRAM21TM302を対象としたRAMクリアが実行されていない場合（電源投入時にクリアスイッチ21TM052aが操作されていなかった場合）には、遊技制御用マイクロコンピュータ100におけるRAM102を対象としたRAMクリア（ステップS21TM3050又はステップS21TM3150）が実行された場合（電源投入時にクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052が操作された場合）であっても、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、RAM21TM302内のバックアップ領域に形成されている未払出個数格納バッファに格納されていた未払出個数のデータがクリアされていないため（払い出すべき残りの遊技媒体が存在するため）、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370におけるRAM21TM302に保存されている未払出個数格納バッファの内容に基づいて、払出モータ21TM289を駆動させ、未払出個数のデータが0になるまで1個ずつ払出動作を行う。これにより、電源断の発生、その後に、設定変更モード又は設定確認モードに制御されたこと、及び、遊技機

用枠 3 又はガラス扉枠 3 a が開放状態となったことにより中断されていた遊技媒体の払出が完了する。このように、賞球の払出の実行中に電源断が発生して遊技媒体の払出が中断されたときには、その後の電源復旧時に、未払出個数のデータがクリアされていないことに基づいて、また、設定変更モード又は設定確認モードが終了し、遊技機用枠 3 及びガラス扉枠 3 a が閉鎖状態となったことを条件として、中断されていた遊技媒体の払出を再開して、賞球の払出を完了させることが可能である。

【1341】

一方で、払出制御用マイクロコンピュータ 21 TM370 における RAM 21 TM302 を対象とした RAM クリアが実行された場合（電源投入時にクリアスイッチ 21 TM052 a が操作された場合）には、払出制御用マイクロコンピュータ 21 TM370 は、RAM 21 TM302 内のバックアップ領域に形成されている未払出個数格納バッファに格納されていた未払出個数のデータがクリアされているため（払い出すべき残りの遊技媒体が存在しないため）、払出モータ 21 TM289 を駆動させず、払出動作を行わない。

【1342】

この実施例では、図 11-8 (1) に示すように、クリアスイッチ 21 TM052 から出力される RAM クリア信号は、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 に入力されるが、払出制御用マイクロコンピュータ 21 TM370 には入力されない。そのため、主基板 11 に対応したクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21 TM052 が操作されたことにより、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 を対象とした RAM クリア（ステップ S21 TM3050 又はステップ S21 TM3150）が実行されたとしても、払出制御基板 21 TM037 に対応したクリアスイッチ 21 TM052 a が操作されていなければ、払出制御用マイクロコンピュータ 21 TM370 において、RAM 21 TM302 内のバックアップ領域に形成されている未払出個数格納バッファに格納されている未払出個数のデータは初期化されない。このように、電源投入時にクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21 TM052 が操作されたか否かにかかわらず（遊技制御用マイクロコンピュータ 100 を対象とした RAM クリア（ステップ S21 TM3050 又はステップ S21 TM3150）が実行されたか否かにかかわらず）、クリアスイッチ 21 TM052 a が操作されていなければ、未払出個数のデータは初期化されず、電源断発生前（電源復旧に伴い設定変更モード又は設定確認モードに制御される前）に実行されていた賞球処理において払い出すべき所定の遊技媒体数（即ち、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 から指定された払出個数であり、例えば 14 個）のうち、払い出されなかった未払出個数分に関して、払出が実行されることになる。

【1343】

以上に示したように、賞球処理の実行中に電源断が発生したことにより払出が中断されると、払出制御用マイクロコンピュータ 21 TM370 において、RAM 21 TM302 内のバックアップ領域に形成されている未払出個数格納バッファに未払出個数のデータが格納されることになる。ここで、電源投入時に主基板 11 に対応したクリアスイッチ 21 TM052 が操作されたとしても、払出制御基板 21 TM037 に対応したクリアスイッチ 21 TM052 a が操作されていなければ、未払出個数のデータがクリアされずに維持されているため、中断されていた払出が再開されて、未払出個数の遊技媒体の払出が完了する。即ち、電源復旧後に、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間を経て、設定変更モード又は設定確認モードの終了後に、未払出個数分の払出が実行されることになる。

【1344】

なお、この実施形態では、遊技機枠・扉枠開放センサ 21 TM300 が、払出制御基板 21 TM037 に設けられている（開放状態の検出信号が払出制御用マイクロコンピュータ 21 TM370 に入力される）例を示したが、このような形態に限らず、遊技機枠・扉枠開放センサ 21 TM300 は、主基板 11 に設けられる（開放状態の検出信号が遊技制御用マイクロコンピュータ 100 に入力される）ようにしても良い。このような構成とした場合には、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 は、遊技機枠・扉枠開放センサ 21

TM300が、遊技機用枠3（又はガラス扉枠3a）の開放状態を検知したことに基づいて、入賞を検知しても、賞球個数コマンドを送信しない。これにより、賞球個数コマンドを受信しなくなったことに基づいて、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が、払出モータ21TM289を駆動させないことにより、賞球の払出が実行されないようにする。

【1345】

（セキュリティ信号及び設定変更対応信号の出力期間）

前述したように、図10-39（1）に示すパターン1の例では、第10端子からセキュリティ信号を出力可能である。このセキュリティ信号により、前述したように、初期化処理（RAMクリア）、不正行為の検出、遊技停止対象エラーの検出等が行われた可能性を外部に通知可能である。また、セキュリティ信号は、設定変更モード又は設定確認モードに関する処理が開始されてから、設定変更モード又は設定確認モードに関する処理が終了して通常遊技処理に移行するまで（例えば、図11-1及び図11-2に示した、ステップS21TM3510から、ステップS21TM3060又はステップS21TM3070でNOと判定されて通常遊技処理が実行されるまで）の期間にON状態となる。

【1346】

また、図10-39（1）に示すパターン1の例では、第7端子からは設定変更対応信号を出力可能である。設定変更対応信号は、設定変更モード又は設定確認モードに関する処理が開始されてから、設定変更モード又は設定確認モードに関する処理が終了して通常遊技処理に移行するまで（例えば、図11-1及び図11-2に示した、ステップS21TM3510から、ステップS21TM3060又はステップS21TM3070でNOと判定されて通常遊技処理が実行されるまで）の期間にON状態となる。この設定変更対応信号により、設定変更モード又は設定確認モードに関する処理が実行されたこと（設定値の変更又は確認に関連した処理が実行されたこと）を外部に通知可能となっている。また、設定変更モード又は設定確認モードが終了すると（通常遊技処理に移行すると）、一旦は、第7端子から出力される設定変更対応信号がOFF状態となり、その後と同じ第7端子から、RAM102の設定値格納領域に格納されている現在の設定値に対応した数のパルス状の設定変更対応信号が出力されるため、設定値を外部に通知可能となっている。

【1347】

具体的には、図11-14（1）に示すように、電源投入時にRAMクリア（例えば、図11-1に示したステップS21TM3050又はステップS21TM3150）を伴う設定変更モードに移行した場合には、第7端子から設定変更対応信号が出力され、これと同時に、第10端子からはセキュリティ信号が出力される。そして、RAMクリア（ステップS21TM3050又はステップS21TM3150）が実行されたことに基づいて、設定変更モードが終了して通常遊技処理に移行した後も、30秒間はセキュリティ信号がON状態とされる。また、設定変更モードが終了したことに伴い（正確には設定変更モードが終了して通常遊技処理に移行してから50ms経過したタイミングで）、設定変更対応信号が一旦はOFF状態となるが、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値が2であることに基づいて、特殊態様の設定変更対応信号として2のパルスが出力されている。

【1348】

一方で、図11-14（2）に示すように、電源投入時にRAMクリア（例えば、図11-1に示したステップS21TM3050又はステップS21TM3150）は実行されたものの、設定変更モードに移行しなかった場合には、電源投入時（RAMクリア実行時）から30秒間はセキュリティ信号がON状態となるが、設定変更対応信号はON状態とはならない。

【1349】

このように、セキュリティ信号は、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間もON状態となる。従って、外部装置が、設定変更対応信号の入力を想定しておらず、設定変更対応信号の入力に基づく処理が実行されないように構成されている場合であ

っても、少なくともセキュリティ信号の入力に基づいて、設定変更モード又は設定確認モードに制御された可能性があることを認識可能となっている。

【1350】

図11-15(3)及び(4)に示すように、設定変更対応信号は、設定変更モード又は設定確認モードが開始されたときにON状態となり、設定変更モード又は設定確認モードが終了したときに(正確には、設定変更モード又は設定確認モードが終了して通常遊技処理に移行してから50ms経過したタイミングで)OFF状態となる。セキュリティ信号に関しても、設定変更モード又は設定確認モードが開始されたときにON状態となるが、図11-15(3)に示すように、RAMクリア(ステップS21TM3050又はステップS21TM3150)が実行された場合には、設定変更モードが終了した後に直ちにOFF状態とはならず、設定変更モードが終了した後も、30秒間はON状態が継続される。一方、図11-15(4)に示すように、RAMクリア(ステップS21TM3050又はステップS21TM3150)が実行されなかった場合には、設定確認モードが終了したときに(正確には、設定確認モードが終了して通常遊技処理に移行してから50ms経過したタイミングで)OFF状態となる。

10

【1351】

また、図11-15(3)及び(4)の何れの場合にも、設定変更モード又は設定確認モードの終了に伴い、設定変更対応信号が一旦はOFF状態となるが(正確には設定変更モード又は設定確認モードが終了して通常遊技処理に移行してから50msが経過したタイミングでOFF状態となるが)、その後に(例えば、さらに50ms以上が経過した後で)、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値が2であることに基づいて、特殊態様の設定変更対応信号として2のパルスが出力されている。これにより、ホールコンピュータ等の外部装置において、各遊技機の設定値を容易に特定可能となる。

20

【1352】

一方、図11-14(2)に示したように、RAMクリア(ステップS21TM3050又はステップS21TM3150)が実行されて、設定変更モードに移行しなかった場合には、セキュリティ信号は、電源投入時(RAMクリア実行時)から30秒間、ON状態となる。

【1353】

従って、セキュリティ信号が入力される外部装置側では、セキュリティ信号の入力期間が30秒程度である場合には、RAMクリア(ステップS21TM3050又はステップS21TM3150)が実行されたものの、設定変更モードに移行しなかった可能性があることを認識可能である。一方、セキュリティ信号の入力期間が30秒を超えている場合には、設定変更モード又は設定確認モードに移行した可能性があること(特に、RAMクリアを伴う設定変更モードに移行した可能性が高いこと)を認識可能であり、セキュリティ信号の入力期間が30秒に達しなかった場合には、RAMクリア(ステップS21TM3050又はステップS21TM3150)が実行されることなく、設定確認モードに移行した可能性があること(設定値を変更可能な状態となることなく確認のみが行われた可能性があること)を認識可能である。

30

【1354】

つまり、セキュリティ信号の入力期間が30秒程度である場合には、RAMクリア(ステップS21TM3050又はステップS21TM3150)が実行されたものの、設定変更モードに移行しなかった可能性があることを、ホールコンピュータ等の管理装置において認識可能であり、セキュリティ信号の入力期間が30秒未満である場合には、RAMクリア(ステップS21TM3050又はステップS21TM3150)が実行されることなく、設定確認モードに移行した可能性があること(設定値を変更可能な状態となることなく確認のみが行われた可能性があること)を、管理装置において認識可能であり、セキュリティ信号の入力期間が30秒を超えている場合には、設定変更モード又は設定確認モードに移行した可能性があること(特に、RAMクリアを伴う設定変更モードに移行した可能性が高いこと)を、管理装置において認識可能である。このように、遊技機のセキ

40

50

セキュリティ信号の出力期間によって、外部側で遊技機がどのような制御を実行したかを区別することができる。

【1355】

従って、外部装置が、設定変更対応信号の入力を想定しておらず、設定変更対応信号の入力に基づく処理が実行されないように構成されている場合であっても、少なくともセキュリティ信号の入力に基づいて、RAMクリア（ステップS21TM3050又はステップS21TM3150）が実行された可能性と、設定変更モード又は設定確認モードに制御された可能性とを、区別して認識可能となっている。

【1356】

また、この実施形態では、遊技機が設定変更モードに制御されるときには、電源投入時にクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052がON状態であるため、必ずRAMクリアが実行されることになる（ステップS21TM3050又はステップS21TM3150）。その結果、セキュリティ信号の出力期間は、設定変更モードに制御されている期間+30秒間程度となる。一方、遊技機が設定確認モードに制御されるときには、電源投入時にクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052がOFF状態であり、RAMクリアフラグが0の状態である（ステップS21TM3570でYESである）ため、RAMクリア（ステップS21TM3050又はステップS21TM3150）が実行されていない。その結果、セキュリティ信号の出力期間は、設定確認モードに制御されている期間（正確には設定確認モードに制御されている期間+50ms程度）となる。

【1357】

このように、遊技機が設定変更モードに制御された場合と、設定確認モードに制御された場合とで、セキュリティ信号の出力期間が異なることにより、外部装置側で、各遊技機が、設定変更モードに制御されたのか、あるいは、設定確認モードに制御されたのか、を区別して特定することが可能となっている。

【1358】

また、この実施形態では、設定変更対応信号が、設定変更モード又は設定確認モードが開始されたときにON状態となり、設定変更モード又は設定確認モードが終了したときに（正確には、設定変更モード又は設定確認モードが終了して通常遊技処理に移行してから50ms経過したタイミングで）OFF状態となる。そのため、外部装置側では、設定変更対応信号の入力期間によって、設定変更モード又は設定確認モードへの制御期間を特定可能となっている。また、設定変更対応信号の入力期間よりもセキュリティ信号の入力期間の方が30秒程度長くなった場合には、設定変更モードに制御されたこと及びこれに伴うRAMクリアが実行されたことを認識可能であり、設定変更対応信号の入力期間とセキュリティ信号の入力期間が同じ期間であった場合には、RAMクリアを伴わない設定確認モードに制御されたことを認識可能である。

【1359】

このように、セキュリティ信号と、設定変更対応信号とが、異なる出力端子から出力されることにより、これらの信号が入力される外部装置側では、当該遊技機において所定事象（本例ではRAMクリア）が発生したことで、当該遊技機が設定変更モード又は設定確認モードに制御されたことを区別して特定可能となる。そして、設定変更モード又は設定確認モードへの制御期間を明確に特定可能となり、設定変更モード及び設定確認モードの何れに制御されたのかも、セキュリティ信号の入力期間に基づいて特定可能となる。

【1360】

次に、電源投入時に錠スイッチ21TM051がON状態であり、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052がOFF状態であったことに基づいて、RAMクリア（ステップS21TM3050又はステップS21TM3150）を伴わずに、設定確認モードに移行し、設定確認モードが開始されてから（例えば、ステップS21TM3510で設定変更中フラグがセットされてから）50ms未満で、錠スイッチ21TM051がOFF状態とされたことにより、設定確認モードが終了して通常遊技処理に移行したものとする。

【1361】

このとき、図11-15(5)に示すように、設定確認モードが開始されたタイミングを起点に、第7端子から設定変更対応信号が出力され、これと同時に、第10端子からはセキュリティ信号が出力される。そして、設定確認モードが開始されてから50ms未満で、設定確認モードが終了して(錠スイッチ21TM051がOFF状態とされて)通常遊技処理に移行した場合であっても、少なくとも50ms以上の期間、設定変更対応信号及びセキュリティ信号は継続して出力されるようになっている。即ち、設定変更対応信号及びセキュリティ信号に関しては、一旦ON状態となると、少なくとも50msはON状態が維持される。

【1362】

10

仮に、設定変更対応信号及びセキュリティ信号がON状態となる期間が所定期間(本例では50ms)未満であったとすると、ホールコンピュータ等の外部装置側では、パチンコ遊技機1が設定変更モード又は設定確認モードに移行したことを認識することが困難になってしまう。この実施形態のように、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間によらず、少なくとも所定期間(本例では50ms)は、設定変更対応信号及びセキュリティ信号をON状態とすることにより、外部装置側で、各パチンコ遊技機1が、設定変更モード又は設定確認モードに移行したことを認識可能としている。

【1363】

また、設定変更対応信号に関しては、設定変更モード又は設定確認モードの終了後に、パルス幅が100msの特殊態様で設定変更対応信号が出力されることにより、ホールコンピュータ等の外部装置側で、各パチンコ遊技機1の設定値を特定して管理可能となっている。仮に、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間が50ms未満であったことに応じて、設定変更対応信号がON状態となってから50ms未満でOFF状態に切り替わり、その後に、設定値格納領域に格納されている設定値に対応した数の100ms幅のパルスが出力される構成とした場合には、外部装置において、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間(50ms未満)に相当する設定変更対応信号を認識することができず、その後に出力される特殊態様(パルス幅が100ms)の設定変更対応信号のみを認識することで、当該パチンコ遊技機1の設定値を誤って認識してしまうおそれがある。この実施形態のように、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間によらず、少なくとも所定期間(本例では50ms)は、設定変更対応信号をON状態とすることにより、外部装置側で、各パチンコ遊技機1の設定値を正確に特定できるようになる。

20

30

【1364】

図11-16は、演出制御基板12が備える演出装置に関する他の例を示す図である。本例では、図2に示した例とは異なり、ランプ制御基板14に、遊技効果ランプ9の他、画面外第1保留表示器21TM101、画面外第2保留表示器21TM102、第4図柄表示器21TM103、及び、設定変更状態表示器21TM104が接続されており、これらは何れもLED等の発光装置により構成されている。また、これらの発光装置は何れも画像表示装置5の画面枠外に設けられている。演出制御用CPU120は、ランプ制御基板14を介して、これらの発光装置の発光を制御する。本例では、これらの発光装置は

40

【1365】

画面外第1保留表示器21TM101は、2つの発光装置により構成されている。演出制御用CPU120は、第1保留記憶数の変更があったとき、即ち、第1始動入賞口への入賞が発生したとき(第1保留記憶数が増加したとき)、及び、第1特別図柄の変動表示が終了して表示結果が確定したとき(第1保留記憶数が減少したとき)に、遊技制御用マイクロコンピュータ100から、更新後の第1保留記憶数を指定する第1保留記憶数指定コマンドを受信すると、第1保留記憶数指定コマンドにより指定された第1保留記憶数に対応した態様で画面外第1保留表示器21TM101を発光させる。

【1366】

50

例えば、第1保留記憶数指定コマンドにより指定された第1保留記憶数が1である場合には、一方の発光装置を点灯状態として、他方の発光装置は消灯状態とする。また、第1保留記憶数指定コマンドにより指定された第1保留記憶数が2である場合には、両方の発光装置を点灯状態とする。また、第1保留記憶数指定コマンドにより指定された第1保留記憶数が3である場合には、一方の発光装置を点滅状態として、他方の発光装置は点灯状態とする。そして、第1保留記憶数指定コマンドにより指定された第1保留記憶数が4である場合には、両方の発光装置を点滅状態とする。

【1367】

画面外第2保留表示器21TM102は、2つの発光装置により構成されている。演出制御用CPU120は、第2保留記憶数の変更があったとき、即ち、第2始動入賞口への入賞が発生したとき（第2保留記憶数が増加したとき）、及び、第2特別図柄の変動表示が終了して表示結果が確定したとき（第2保留記憶数が減少したとき）に、遊技制御用マイクロコンピュータ100から、更新後の第2保留記憶数を指定する第2保留記憶数指定コマンドを受信すると、第2保留記憶数指定コマンドにより指定された第2保留記憶数に対応した態様で画面外第2保留表示器21TM102を発光させる。

10

【1368】

例えば、第2保留記憶数指定コマンドにより指定された第2保留記憶数が1である場合には、一方の発光装置を点灯状態として、他方の発光装置は消灯状態とする。また、第2保留記憶数指定コマンドにより指定された第2保留記憶数が2である場合には、両方の発光装置を点灯状態とする。また、第2保留記憶数指定コマンドにより指定された第2保留記憶数が3である場合には、一方の発光装置を点滅状態として、他方の発光装置は点灯状態とする。そして、第2保留記憶数指定コマンドにより指定された第2保留記憶数が4である場合には、両方の発光装置を点滅状態とする。

20

【1369】

第4図柄表示器21TM103は、2つの発光装置により構成されている。ここで、一方の発光装置は、主基板11側の第1特別図柄表示装置4Aに対応した第4図柄の変動表示装置であり、第1特別図柄の変動表示が開始されたタイミングで点滅（即ち変動表示）を開始し、第1特別図柄の変動表示が終了したタイミングで消灯状態又は点灯状態となり（即ち変動表示が終了し）、表示結果が導出される。また、他方の発光装置は、主基板11側の第2特別図柄表示装置4Bに対応した第4図柄の変動表示装置であり、第2特別図柄の変動表示が開始されたタイミングで点滅（即ち変動表示）を開始し、第2特別図柄の変動表示が終了したタイミングで消灯状態又は点灯状態となり（即ち変動表示が終了し）、表示結果が導出される。

30

【1370】

演出制御用CPU120は、第1特別図柄の変動表示が開始されるときに、第1保留記憶数が減算されたことを指定する第1保留記憶数減算指定コマンド、表示結果を指定する表示結果指定コマンド、及び、特別図柄の変動時間を指定する変動パターンコマンド、という1セットのコマンドを、遊技制御用マイクロコンピュータ100から受信したことに基づいて、第1特別図柄の変動表示が実行されること、及び、第1特別図柄の変動時間を特定可能となっている。また、演出制御用CPU120は、第1特別図柄の変動表示が終了して表示結果が確定したときに、図柄確定指定コマンドを遊技制御用マイクロコンピュータ100から受信したことに基づいて、第1特別図柄の変動表示が終了して表示結果が導出されたことを特定可能となっている。

40

【1371】

ここで、演出制御用CPU120は、第1特別図柄の変動表示が開始されることに伴う上記1セットのコマンドを受信すると、第4図柄表示器21TM103における一方の発光装置の点滅（即ち変動表示）を開始し、変動パターンコマンドにより指定された変動時間が経過したときに、図柄確定指定コマンドを受信したことに基づいて、一方の発光装置を消灯状態又は点灯状態とする（即ち表示結果を確定させる）。例えば、表示結果指定コマンドにより「はずれ」の表示結果が指定されていた場合には、図柄確定期間において一方

50

の発光装置を消灯させ、表示結果指定コマンドにより「大当たり」の表示結果が指定されていた場合には、図柄確定期間において一方の発光装置を点灯させる。

【1372】

演出制御用CPU120は、第2特別図柄の変動表示が開始されるときに、第2保留記憶数が減算されたことを指定する第2保留記憶数減算指定コマンド、表示結果を指定する表示結果指定コマンド、及び、特別図柄の変動時間を指定する変動パターンコマンド、という1セットのコマンドを、遊技制御用マイクロコンピュータ100から受信したことに基づいて、第2特別図柄の変動表示が実行されること、及び、第2特別図柄の変動時間を特定可能となっている。また、演出制御用CPU120は、第2特別図柄の変動表示が終了して表示結果が確定したときに、図柄確定指定コマンドを遊技制御用マイクロコンピュータ100から受信したことに基づいて、第2特別図柄の変動表示が終了して表示結果が導出されたことを特定可能となっている。

10

【1373】

ここで、演出制御用CPU120は、第2特別図柄の変動表示が開始されることに伴う上記1セットのコマンドを受信すると、第4図柄表示器21TM103における他方の発光装置の点滅（即ち変動表示）を開始し、変動パターンコマンドにより指定された変動時間が経過したときに、図柄確定指定コマンドを受信したことに応じて、他方の発光装置を消灯状態又は点灯状態とする（即ち表示結果を確定させる）。例えば、表示結果指定コマンドにより「はずれ」の表示結果が指定されていた場合には、図柄確定期間において他方の発光装置を消灯させ、表示結果指定コマンドにより「大当たり」の表示結果が指定されていた場合には、図柄確定期間において他方の発光装置を点灯させる。

20

【1374】

なお、画面外第1保留表示器21TM101の発光色と画面外第2保留表示器21TM102の発光色とを異ならせるようにしても良く、例えば、前者を青色で発光させて、後者を赤色で発光させるようにしても良い。また、第4図柄表示器21TM103において、第1特別図柄表示装置4Aに対応した一方の発光装置の発光色と、第2特別図柄表示装置4Bに対応した他方の発光装置の発光色とを異ならせるようにしても良く、例えば、前者を青色（画面外第1保留表示器21TM101と同じ発光色）で発光させて、後者を赤色（画面外第2保留表示器21TM102と同じ発光色）で発光させるようにしても良い。

30

【1375】

また、第1保留記憶数を示す画像（例えば青色の数字「0～4」の画像）、及び、第2保留記憶数を示す画像（例えば赤色の数字「0～4」の画像）を、画像表示装置5に表示するようにしても良い。また、第1特別図柄に対応した第4図柄の画像（例えば四角形の画像であり、第1特別図柄が変動表示している期間は白色で点滅（変動）しており、表示結果がはずれの場合には図柄確定期間に青色で停止表示され、表示結果が大当たりの場合には図柄確定期間に赤色で停止表示される画像）、及び、第2特別図柄に対応した第4図柄の画像（例えば四角形の画像であり、第2特別図柄が変動表示している期間は黄色で点滅（変動）しており、表示結果がはずれの場合には図柄確定期間に青色で停止表示され、表示結果が大当たりの場合には図柄確定期間に赤色で停止表示される画像）を、画像表示装置5に表示するようにしても良い。

40

【1376】

設定変更状態表示器21TM104は、1の発光装置により構成されている。演出制御用CPU120は、設定変更モードに制御されたときに遊技制御用マイクロコンピュータ100から送信される設定変更モードコマンド（図11-2のステップS21TM358を参照）を受信したタイミングで、設定変更状態表示器21TM104を点灯させる。そして、設定変更モードへの制御が終了したときに遊技制御用マイクロコンピュータ100から送信される設定コマンド（図11-2のステップS21TM3720を参照）を受信したタイミングで、設定変更状態表示器21TM104を消灯する。

【1377】

50

なお、演出制御用CPU120は、設定確認モードに制御されたときに遊技制御用マイクロコンピュータ100から送信される設定確認モードコマンド（図11-2のステップS21TM3580を参照）を受信したタイミングで、設定変更状態表示器21TM104を点滅させる。そして、設定確認モードへの制御が終了したときに遊技制御用マイクロコンピュータ100から送信される設定コマンド（図11-2のステップS21TM3720を参照）を受信したタイミングで、設定変更状態表示器21TM104を消灯する。

【1378】

このような構成によれば、設定変更状態表示器21TM104の発光態様によって、設定変更モードに制御されていること（点灯状態）、設定確認モードに制御されていること（点滅状態）を報知可能となっている。ここで、電源が投入されてから表示制御部123により画像表示装置5における画像表示制御が可能となるまでの期間と比較して、電源が投入されてからランプ制御基板14により各発光装置の発光制御が可能となるまでの期間は極めて短い。そのため、図10-17に示すように、画像表示装置5において、設定変更モードに制御されていること、設定確認モードに制御されていることを報知することができない期間（表示制御部123による画像表示制御が可能となる前の期間）であっても、設定変更状態表示器21TM104の発光態様によって、設定変更モードに制御されていること、設定確認モードに制御されていることを報知することが可能となる。

【1379】

なお、演出制御基板12側では、設定変更状態表示器21TM104に限らず、画面外第1保留表示器21TM101、画面外第2保留表示器21TM102、及び第4図柄表示器21TM103を、遊技が行われているときの通常の発光パターンとは異なる発光パターンで発光させることにより、設定変更モードに制御されていることや、設定確認モードに制御されていることを報知するようにしても良い。例えば、画面外第1保留表示器21TM101、画面外第2保留表示器21TM102、及び第4図柄表示器21TM103を構成するLEDを、全て点灯状態とすることで設定変更モードに制御されていることを報知し、画面外第1保留表示器21TM101、画面外第2保留表示器21TM102、及び第4図柄表示器21TM103を構成するLEDを、全て点滅状態とすることで設定確認モードに制御されていることを報知するようにしても良い。

【1380】

一方、主基板11側では、設定変更モードに制御されている期間は、CPU103が、第1保留表示器25A、第2保留表示器25B、及び普図保留表示器25C、並びに、第1特別図柄表示装置4A、第2特別図柄表示装置4B、及び普通図柄表示器20を、遊技が行われているときの通常の発光パターンとは異なる発光パターンで発光させる（例えば、全てを同時に点灯状態とする）ことで、設定変更モードに制御されていることを報知することができる。また、設定確認モードに制御されている期間は、CPU103が、第1保留表示器25A、第2保留表示器25B、及び普図保留表示器25C、並びに、第1特別図柄表示装置4A、第2特別図柄表示装置4B、及び普通図柄表示器20を、遊技が行われているときの通常の発光パターンとは異なる発光パターン（且つ設定変更モードに制御されているときとも異なる発光パターン）で発光させる（例えば、全てを同時に点滅状態とする）ことで、設定確認モードに制御されていることを報知することができる。

【1381】

[特徴部30TMに関する説明]

次に、特徴部30TMに関して説明する。図12-1は、保留表示及びアクティブ表示の具体例を示す説明図である。画像表示装置5の画面上には、第1保留記憶数（0～4の第1保留表示30TM001）を表示する第1保留表示領域30TM101と、第2保留記憶数（0～4の第2保留表示30TM002）を表示する第2保留表示領域30TM102と、現在実行中の変動表示に対応するアクティブ表示30TM003を表示するアクティブ表示領域30TM103と、が設けられている。第1保留表示領域30TM101及び第2保留表示領域30TM102、並びにアクティブ表示領域30TM103は、画面下部に設けられており、アクティブ表示領域30TM103を中央に、遊技者から見て

10

20

30

40

50

左側が第1保留表示領域30TM101、右側が第2保留表示領域30TM102となっている。

【1382】

演出制御用CPU120は、第1保留記憶数が0でないときには、第1保留表示領域30TM101に第1保留記憶数に相当する数の第1保留表示30TM001を表示する。即ち、第1保留表示30TM001は、始動条件（例えば、第1始動入賞口への入賞）は成立したが開始条件（例えば、特別図柄の変動表示が実行されておらず、大当り遊技状態に制御されておらず、且つ、第2保留記憶数が0であり第1保留記憶数が0ではないこと）が成立していない第1特別図柄の変動表示（及び飾り図柄の変動表示）に対応した情報である。第1保留表示領域30TM101に複数の第1保留表示30TM001が表示されている場合には、アクティブ表示領域30TM103に近い順序で（遊技者から見て右から順に）、その第1保留表示30TM001に対応した変動表示の開始条件が成立する。

10

【1383】

また、演出制御用CPU120は、第2保留記憶数が0でないときには、第2保留表示領域30TM102に第2保留記憶数に相当する数の第2保留表示30TM002を表示する。即ち、第2保留表示30TM002は、始動条件（例えば、第2始動入賞口への入賞）は成立したが開始条件（例えば、特別図柄の変動表示が実行されておらず、大当り遊技状態に制御されておらず、且つ、第2保留記憶数が0ではないこと）が成立していない第2特別図柄の変動表示（及び飾り図柄の変動表示）に対応した情報である。第2保留表示領域30TM102に複数の第2保留表示30TM002が表示されている場合には、アクティブ表示領域30TM103に近い順序で（遊技者から見て左から順に）、その第2保留表示30TM002に対応した変動表示の開始条件が成立する。

20

【1384】

演出制御用CPU120は、飾り図柄の変動表示が実行されているときには、アクティブ表示領域30TM103にアクティブ表示30TM003を表示する。即ち、アクティブ表示30TM003は、始動条件（例えば、第1始動入賞口又は第2始動入賞口への入賞）が成立した後に開始条件（例えば、特別図柄の変動表示が実行されておらず、大当り遊技状態に制御されておらず、且つ、保留記憶数が0ではないこと）が成立した特別図柄の変動表示（及び飾り図柄の変動表示）に対応した情報である。

30

【1385】

また、画像表示装置5の画面上部（遊技者から見て左側）には、第1保留表示領域30TM101とは異なる領域であって、第1保留記憶数（0～4の副保留表示30TM004）を表示する副保留表示領域30TM104と、アクティブ表示領域30TM103とは異なる領域であって、現在実行中の変動表示に対応する副アクティブ表示30TM005を表示する副アクティブ表示領域30TM105と、が設けられている。

【1386】

この実施形態において、演出制御用CPU120は、始動入賞時（第1始動入賞口への入賞が発生したとき）に副保留表示30TM004を表示すると決定したことに基づいて、副保留表示領域30TM104に第1保留記憶数に相当する数の副保留表示30TM004を表示すると共に、副アクティブ表示領域30TM105には副アクティブ表示30TM005を表示する。即ち、副保留表示30TM004は、始動条件（例えば、第1始動入賞口への入賞）は成立したが開始条件（例えば、特別図柄の変動表示が実行されておらず、大当り遊技状態に制御されておらず、且つ、第2保留記憶数が0であり第1保留記憶数が0ではないこと）が成立していない第1特別図柄の変動表示に対応した情報である。また、副アクティブ表示30TM005は、始動条件（例えば、第1始動入賞口への入賞）が成立した後に開始条件（例えば、特別図柄の変動表示が実行されておらず、大当り遊技状態に制御されておらず、且つ、第2保留記憶数が0であり第1保留記憶数が0ではないこと）が成立した第1特別図柄の変動表示（及び飾り図柄の変動表示）に対応した情報である。副保留表示領域30TM104に複数の副保留表示30TM004が表示され

40

50

ている場合には、副アクティブ表示領域 30TM105 に近い順序で（遊技者から見て右から順に）、その副保留表示 30TM004 に対応した変動表示の開始条件が成立する。

【1387】

ここで、図 12-1 に示すように、副保留表示 30TM004 は星形の輪郭であり、第 1 保留表示 30TM001（丸形表示又は三角形表示）とは異なる輪郭である。副保留表示 30TM004 は、第 1 保留表示 30TM001 と比較して表示されるサイズが小さいため目立ちにくく、遊技者にとっては視認性が低いものとなっている。また、副アクティブ表示 30TM005 も星形の輪郭であり、アクティブ表示 30TM003（丸形表示又は三角形表示）とは異なる輪郭である。副アクティブ表示 30TM005 は、アクティブ表示 30TM003 と比較して表示されるサイズが小さいため目立ちにくく、遊技者にと

10

【1388】

図 12-1 に示す例では、画像表示装置 5 において左中右の飾り図柄の変動表示が実行されていることに対応して、アクティブ表示領域 30TM103 にアクティブ表示 30TM003 が表示されると共に、副アクティブ表示領域 30TM105 には副アクティブ表示 30TM005 が表示されている。このように、実行中である 1 の変動表示（共通の変動表示）に対応した情報として、アクティブ表示 30TM003 と、副アクティブ表示 30TM005 という異なる態様の情報が表示されている。即ち、アクティブ表示 30TM003 と、当該アクティブ表示 30TM003 に対応した変動表示と共通の変動表示に対応した副アクティブ表示 30TM005 とが、同時に画面上に表示されていることになる。

20

【1389】

また、第 1 保留記憶数が 4 であることに対応して、第 1 保留表示領域 30TM101 には 4 つの第 1 保留表示 30TM001 が表示されると共に、副保留表示領域 30TM104 には 4 つの副保留表示 30TM004 が表示されている。このように、未だ実行されていない 4 の変動表示各々に対応した情報として、第 1 保留表示 30TM001 と、副保留表示 30TM004 という異なる態様の情報が表示されている。即ち、1 の第 1 保留表示 30TM001 と、当該 1 の第 1 保留表示 30TM001 に対応した変動表示（保留記憶）と共通の変動表示（保留記憶）に対応した 1 の副保留表示 30TM004 とが、同時に画面上に表示されていることになる。

30

【1390】

このように、共通の変動表示（第 1 特別図柄の変動表示）に対応する複数種類の保留表示（第 1 保留表示 30TM001、副保留表示 30TM004）が、同時に同じ画面上に表示されることにより、保留表示を用いた演出を多様化して興趣を向上させることができる。同様に、実行中の変動表示（第 1 特別図柄の変動表示、飾り図柄の変動表示）に対応した複数種類のアクティブ表示（アクティブ表示 30TM003、副アクティブ表示 30TM005）が、同時に同じ画面上に表示されることにより、アクティブ表示を用いた演出を多様化して興趣を向上させることができる。

【1391】

ここで、後述するように、始動入賞時の判定において副保留表示 30TM004 を表示させないことに決定された場合には、第 1 保留表示領域 30TM101 には第 1 保留表示 30TM001 が表示される一方で、副保留表示領域 30TM104 には副保留表示 30TM004 が表示されない。また、アクティブ表示領域 30TM103 にアクティブ表示 30TM003 が表示される一方で、副アクティブ表示領域 30TM105 には副アクティブ表示 30TM005 が表示されず、さらに、副アクティブ表示 30TM005 が表示されるべき領域であることを示す情報（図 12-1 の画面上部に示された四角形の枠）も表示されないことになる。

40

【1392】

この実施の形態では、後述するように、始動入賞時の判定結果に基づいて第 1 変化演出及び／又は第 2 変化演出を実行可能である。第 1 変化演出とは、始動入賞時の判定対象と

50

なった可変表示に対応した第1保留表示30TM001又はアクティブ表示30TM003を、通常態様（本例では、白色の丸形表示）とは異なる特殊態様（本例では、白色の三角形表示）、青色態様（本例では、青色の丸形表示）、緑色態様（本例では、緑色の丸形表示）、赤色態様（本例では、赤色の丸形表示）、又は金色態様（本例では、金色の丸形表示）で表示する予告演出である。また、第2変化演出とは、始動入賞時の判定対象となった可変表示に対応した副保留表示30TM004又は副アクティブ表示30TM005を、通常態様（本例では、白色の星形表示）とは異なる青色態様（本例では、青色の星形表示）又は赤色態様（本例では、赤色の星形表示）で表示する予告演出である。

【1393】

図12-2は、変化演出決定処理を示すフローチャートである。演出制御用CPU120は、図7に示した演出制御プロセス処理の先読予告設定処理（ステップS161）において、変化演出決定処理を実行する。

【1394】

変化演出決定処理において、演出制御用CPU120は、まず、第1始動入賞口への始動入賞が発生したことに基づく1セットの始動入賞時のコマンド（例えば、図柄指定コマンド、変動カテゴリコマンド、及び第1保留記憶数加算指定コマンド）を新たに受信したか否かを確認する（ステップS30TM1010）。

【1395】

図柄指定コマンドは、入賞時判定結果のうち、大当たりとなるか否かや、大当たりの種別の判定結果を示す演出制御コマンドである。CPU103は、始動入賞時に抽出した大当たり判定用乱数及び大当たり種別判定用乱数に基づいて、大当たりとなるか否か、及び、大当たりとなる場合の大当たり種別を判定して、その判定結果を指定する図柄指定コマンドを出力する。また、変動カテゴリコマンドは、入賞時判定結果のうち、変動パターンの判定結果を示す演出制御コマンドである。CPU103は、始動入賞時に抽出した変動パターン種別判定用乱数に基づいて、ノーマルリーチとなるか否かや、スーパーリーチとなるか否か等を判定して、その判定結果を指定する変動カテゴリコマンドを出力する。また、第1保留記憶数加算指定コマンドは、第1保留記憶数が1増加したことを指定する演出制御コマンドである。

【1396】

具体的には、演出制御用CPU120は、始動入賞時コマンド格納領域に1セットの図柄指定コマンド、変動カテゴリコマンド、及び第1保留記憶数加算指定コマンド）が新たに格納されているか否かを判定する。1セットの始動入賞時のコマンドを新たに受信していなければ（ステップS30TM1010でNO）、そのまま処理を終了する。

【1397】

1セットの始動入賞時のコマンドを新たに受信していれば、演出制御用CPU120は、変化禁止フラグがセットされているか否かを確認する（ステップS30TM1020）。変化禁止フラグがセットされていれば（ステップS30TM1020でYES）、そのまま処理を終了する。後述するように、変化禁止フラグは、少なくとも第1変化演出が実行されることが決定されたことに基づいてセットされる。変化禁止フラグがセットされていれば（ステップS30TM1020でYES）、そのまま処理を終了する。

【1398】

変化禁止フラグがセットされていなければ（ステップS30TM1020でNO）、演出制御用CPU120は、第1変化演出の実行有無及び最終表示態様、第2変化演出の実行有無及び最終表示態様を、後述する最終表示態様決定テーブル（図12-3を参照）に基づいて決定する（ステップS30TM1030）。

【1399】

ステップS30TM1010及びステップS30TM1020の処理が実行されることによって、この実施の形態では、第1変化演出が実行されていない場合にのみ、ステップS30TM1030以降の処理が実行されることになり、第1変化演出又は第2変化演出を実行することが可能に構成されている。

10

20

30

40

50

【1400】

図12-3は、最終表示態様決定テーブルの具体例を示す説明図である。図12-3(A)に示すように、この実施の形態では、アクティブ表示30TM003の最終表示態様として、「通常態様」、「特殊態様」、「青色態様」、「緑色態様」、「赤色態様」、及び「金色態様」の何れかを決定可能となっており、これらの各態様に対して、それぞれ判定値が割り振られている。また、図12-3(B)に示すように、この実施の形態では、副アクティブ表示30TM005の最終表示態様として、「表示なし」、「通常態様」、「青色態様」、及び「赤色態様」の何れかを決定可能となっており、これらの各態様に対して、それぞれ判定値が割り振られている。このうち「表示なし」とは、副保留表示領域30TM104に副保留表示30TM004が表示されず、副アクティブ表示領域30TM105に副アクティブ表示30TM005が表示されないことを示している。

10

【1401】

図12-3(A)に示すように、始動入賞時の判定結果が「はずれ」である場合（即ち図柄指定コマンドにより指定される判定結果が「はずれ」である場合）には、当該始動入賞（新たな第1保留記憶）に基づく可変表示に対応したアクティブ表示30TM003の最終表示態様は、31%の割合で通常態様（白色の丸形表示）となり、4%の割合で特殊態様（白色の三角形表示）となり、18%の割合で青色態様（青色の丸形表示）となり、21%の割合で緑色態様（緑色の丸形表示）となり、16%の割合で赤色態様（赤色の丸形表示）となり、10%の割合で金色態様（金色の丸形表示）となる。即ち、始動入賞時の判定対象となった可変表示に対応した情報（保留表示又はアクティブ表示）の態様を、通常態様（白色の丸形表示）とは異なる態様とする第1変化演出は、69%の割合で実行されることになる。

20

【1402】

一方、始動入賞時の判定結果が「大当たり」である場合（即ち図柄指定コマンドにより指定される判定結果が「大当たり」である場合）には、当該始動入賞（新たな第1保留記憶）に基づく可変表示に対応したアクティブ表示30TM003の最終表示態様は、2%の割合で通常態様となり、3%の割合で特殊態様となり、15%の割合で青色態様となり、20%の割合で緑色態様となり、25%の割合で赤色態様となり、35%の割合で金色態様となる。即ち、始動入賞時の判定対象となった可変表示に対応した情報（保留表示又はアクティブ表示）の態様を、通常態様とは異なる態様とする第1変化演出は、98%の割合で実行されることになる。

30

【1403】

このように、第1変化演出が実行された場合には、第1変化演出が実行されない場合と比較して、大当たりとなる割合が高い。また、第1変化演出が実行されたときには、アクティブ表示30TM003の最終表示態様が金色態様となった場合に、大当たりとなる割合が最も高くなる。図12-3(A)に示すように、アクティブ表示30TM003の表示態様に関しては、大当たりとなる期待度が、通常態様<特殊態様<青色態様<緑色態様<赤色態様<金色態様、の関係となる。

【1404】

また、後述する第1変化演出の変化パターンに示すように、アクティブ表示30TM003よりも前の第1保留表示30TM001の段階で、表示態様が、通常態様とは異なる特殊態様、青色態様、又は赤色態様となる場合がある。そして、第1保留表示30TM001がアクティブ表示領域30TM103にシフトされるとき（アクティブ表示30TM003として表示されるとき）には、少なくとも表示態様がアクティブシフト前と同じか、それよりも期待度の高い表示態様に変化するようになっている。従って、第1保留表示30TM001の表示態様に関しては、大当たりとなる期待度が、通常態様<特殊態様<青色態様<赤色態様、の関係となる。

40

【1405】

なお、図12-3(A)に示すように、アクティブ表示の最終表示態様として特殊態様が選択される割合は、それ以外の態様が選択される割合よりも極端に低い。一方で、後述

50

する図12-4及び図12-5に示すように、保留表示の変化パターンに特殊態様が含まれる割合は、他の態様が含まれる割合と比較してそれほど低くはない。従って、第1保留表示30TM001が特殊態様で表示された場合には、他の態様で表示された場合よりも表示態様が変化する割合が高い。遊技者は、第1保留表示30TM001が特殊態様で表示された場合には、青色態様や赤色態様で表示された場合と比較してそれほど大当りを期待できないが、その表示態様がより期待度の高い表示態様（青色態様、赤色態様）に変化することを期待することができる。

【1406】

また、図12-3(B)に示すように、始動入賞時の判定結果が「はずれ」である場合（即ち図柄指定コマンドにより指定される判定結果が「はずれ」である場合）には、当該始動入賞（新たな第1保留記憶）に基づく可変表示に対応した副保留表示30TM004及び副アクティブ表示30TM005は、70%の割合で表示されず、30%の割合で表示される。副アクティブ表示30TM005（副保留表示30TM004）が表示され且つ最終表示態様が通常態様（白色の星形表示）となる割合は25%であり、副アクティブ表示30TM005（副保留表示30TM004）が表示され且つ最終表示態様が青色態様（青色の星形表示）となる割合は4%であり、副アクティブ表示30TM005（副保留表示30TM004）が表示され且つ最終表示態様が赤色態様（赤色の星形表示）となる割合は1%である。即ち、始動入賞時の判定対象となった可変表示に対応した情報（保留表示又はアクティブ表示）は30%の割合で表示されることになり、始動入賞時の判定対象となった可変表示に対応した情報（保留表示又はアクティブ表示）の態様を、通常態様（白色の星形表示）とは異なる態様とする第2変化演出は、5%の割合で実行されることになる。

【1407】

また、図12-3(B)に示すように、始動入賞時の判定結果が「大当たり」である場合（即ち図柄指定コマンドにより指定される判定結果が「大当たり」である場合）には、当該始動入賞（新たな第1保留記憶）に基づく可変表示に対応した副保留表示30TM004及び副アクティブ表示30TM005は、40%の割合で表示されず、60%の割合で表示される。副アクティブ表示30TM005（副保留表示30TM004）が表示され且つ最終表示態様が通常態様（白色の星形表示）となる割合は25%であり、副アクティブ表示30TM005（副保留表示30TM004）が表示され且つ最終表示態様が青色態様（青色の星形表示）となる割合は10%であり、副アクティブ表示30TM005（副保留表示30TM004）が表示され且つ最終表示態様が赤色態様（赤色の星形表示）となる割合は25%である。即ち、始動入賞時の判定対象となった可変表示に対応した情報（保留表示又はアクティブ表示）は60%の割合で表示されることになり、始動入賞時の判定対象となった可変表示に対応した情報（保留表示又はアクティブ表示）の態様を、通常態様（白色の星形表示）とは異なる態様とする第2変化演出は、50%の割合で実行されることになる。

【1408】

このように、副保留表示30TM004及び副アクティブ表示30TM005が表示された場合には、副保留表示30TM004及び副アクティブ表示30TM005が表示されない場合と比較して、大当たりとなる割合が高い。また、第2変化演出が実行された場合には、第2変化演出が実行されない場合と比較して、大当たりとなる割合が高い。また、第2変化演出が実行されたときには、副アクティブ表示30TM005の最終表示態様が赤色態様となった場合に、大当たりとなる割合が最も高くなる。図12-3(B)に示すように、副アクティブ表示30TM005の表示態様に関しては、大当たりとなる期待度が、通常態様<青色態様<赤色態様、の関係となる。

【1409】

また、後述する第2変化演出の変化パターンに示すように、副アクティブ表示30TM005よりも前の副保留表示30TM004の段階で、表示態様が、通常態様とは異なる青色態様、又は赤色態様となる場合がある。そして、副保留表示30TM004が副アク

ティブ表示領域 30TM105 にシフトされるとき（副アクティブ表示 30TM005 として表示されるとき）には、少なくとも表示態様がアクティブシフト前と同じか、それよりも期待度の高い表示態様に変化している。従って、副保留表示 30TM004 の表示態様に関しては、大当たりとなる期待度が、通常態様<青色態様<赤色態様、の関係となる。

【1410】

ここで、ステップ S30TM1030 の処理において、演出制御用 CPU120 は、（1）第1変化演出を実行する（アクティブ表示 30TM003 の最終表示態様を通常態様とは異なる態様とする）ことに決定し、第2変化演出を実行する（副保留表示 30TM004 及び副アクティブ表示 30TM005 を表示させ且つ副アクティブ表示 30TM005 の最終表示態様を通常態様とは異なる態様とする）ことに決定する場合がある。

10

【1411】

また、演出制御用 CPU120 は、（2-1）第1変化演出を実行することに決定し、副保留表示 30TM004 及び副アクティブ表示 30TM005 を表示させないことに決定する場合がある。また、（2-2）第1変化演出を実行することに決定し、副保留表示 30TM004 及び副アクティブ表示 30TM005 を表示させるものの第2変化演出は実行しない（副アクティブ表示 30TM005 の最終表示態様を通常態様とする）ことに決定する場合がある。

【1412】

また、演出制御用 CPU120 は、（3）第1変化演出を実行しない（アクティブ表示 30TM003 の最終表示態様を通常態様とする）ことに決定し、第2変化演出を実行する（副保留表示 30TM004 及び副アクティブ表示 30TM005 を表示させ且つ副アクティブ表示 30TM005 の最終表示態様を通常態様とは異なる態様とする）ことに決定する場合がある。

20

【1413】

また、演出制御用 CPU120 は、（4-1）第1変化演出を実行しないことに決定し、副保留表示 30TM004 及び副アクティブ表示 30TM005 を表示させないことに決定する場合がある。また、（4-2）第1変化演出を実行しないことに決定し、副保留表示 30TM004 及び副アクティブ表示 30TM005 を表示させるものの第2変化演出は実行しない（副アクティブ表示 30TM005 の最終表示態様を通常態様とする）ことに決定する場合がある。

30

【1414】

演出制御用 CPU120 は、ステップ S30TM1030 の処理において、第1変化演出及び第2変化演出の何れも実行しないことに決定した場合には（ステップ S30TM1040 で NO）、即ち、上記（4-1）及び（4-2）の何れかに該当する場合には、新たな始動入賞（第1保留記憶）に対応した第1保留表示 30TM001 を通常態様で表示させる。新たな始動入賞（第1保留記憶）に対応した第1保留表示 30TM001 は通常態様から他の態様に変化することではなく、当該第1保留記憶に対応した変動表示が開始された後も、これに対応したアクティブ表示 30TM003 が通常態様から他の態様に変化することはない（図12-4及び図12-5に示す、最終表示態様が「通常態様」であるときの变化パターン101、201、301、401を参照）。

40

【1415】

なお、上記（4-2）に該当する場合には、新たな始動入賞（第1保留記憶）に対応した副保留表示 30TM004 が表示されるものの、その表示態様が通常態様から他の態様に変化することではなく、当該第1保留記憶に対応した変動表示が開始された後も、これに対応した副アクティブ表示 30TM005 が通常態様から他の態様に変化することはない（図12-6に示す、最終表示態様が「通常態様」であるときの变化パターン601、701、801、901を参照）。

【1416】

演出制御用 CPU120 は、第1変化演出及び第2変化演出の少なくとも一方を実行す

50

ることに決定した場合には（ステップS30TM1040でYES）、即ち、上記（1）、（2-1）及び（2-2）、並びに（3）の何れかに該当する場合には、以下に示すように、変化演出の変化パターンを決定する。

【1417】

第1変化演出及び第2変化演出の両方を実行することに決定した場合には（ステップS30TM1050でYES）、即ち、上記（1）に該当する場合には、ステップS30TM1060において、更新後の第1保留記憶数（第1保留記憶数加算指定コマンドを受信後の第1保留記憶数）と、決定されたアクティブ表示30TM003の最終表示態様とに基づいて、第1変化演出の変化パターンを決定する（図12-4及び図12-5を参照）と共に、更新後の第1保留記憶数（第1保留記憶数加算指定コマンドを受信後の第1保留記憶数）と、決定された副アクティブ表示30TM005の最終表示態様とに基づいて、第2変化演出の変化パターンを決定する（図12-6を参照）。

10

【1418】

演出制御用CPU120は、第1変化演出を実行し、第2変化演出を実行しないことに決定した場合には（ステップS30TM1110でYES）、即ち、上記（2-1）及び（2-2）の何れかに該当する場合には、ステップS30TM1120において、更新後の第1保留記憶数（第1保留記憶数加算指定コマンドを受信後の第1保留記憶数）と、決定されたアクティブ表示30TM003の最終表示態様とに基づいて、第1変化演出の変化パターンを決定する（図12-4及び図12-5を参照）。なお、上記（2-2）に該当する場合には、新たな始動入賞（第1保留記憶）に対応した副保留表示30TM004が表示されるものの、その表示態様が通常態様から他の態様に変化することではなく、当該第1保留記憶に対応した変動表示が開始された後も、これに対応した副アクティブ表示30TM005が通常態様から他の態様に変化することはない（図12-6に示す、最終表示態様が「通常態様」であるときの変化パターン601、701、801、901を参照）。

20

【1419】

演出制御用CPU120は、第1変化演出を実行せず、第2変化演出を実行することに決定した場合には（ステップS30TM1110でNO）、即ち、上記（3）に該当する場合には、ステップS30TM1210において、更新後の第1保留記憶数（第1保留記憶数加算指定コマンドを受信後の第1保留記憶数）と、決定された副アクティブ表示30TM005の最終表示態様とに基づいて、第2変化演出の変化パターンを決定する（図12-6を参照）。

30

【1420】

演出制御用CPU120は、第1変化演出又は第2変化演出の少なくとも一方を実行することに決定した場合（上記（1）、（2-1）及び（2-2）、並びに（3）の何れかに該当する場合）には、先読みカウンタをセットする（ステップS30TM1070、ステップS30TM1130、ステップS30TM1220）。なお、第1変化演出及び第2変化演出の何れの予告演出も実行しないものの、新たな始動入賞（第1保留記憶）に対応した副保留表示30TM004を表示する場合（上記（4-2）に該当する場合）にも、先読みカウンタをセットする。

40

【1421】

先読みカウンタには、始動入賞に基づいて更新された第1保留記憶数に対応した値（第1保留記憶数指定コマンドにより指定された値）がセットされ、第1特別図柄の変動表示が実行される毎に（第1保留記憶数減算指定コマンドを受信する毎に）、先読みカウンタの値が1ずつ減算される。即ち、始動入賞時の判定対象となった保留記憶に対応した第1保留表示30TM001又は副保留表示30TM004がシフトされる毎に、先読みカウンタの値が減算される。そして、先読みカウンタの値が0となったときに、第1変化演出及び／又は第2変化演出のターゲットとなった変動表示（あるいは第2変化演出は実行されないものの副保留表示30TM004が表示された変動表示）が実行されることになる。

50

【1422】

また、演出制御用CPU120は、第1変化演出を実行することに決定した場合には、変化禁止フラグをセットする（ステップS30TM1080、ステップS30TM1140）。変化禁止フラグがセットされている期間は、新たな始動入賞が発生したとしても、前述したステップS30TM1020でYESと判定されることにより、当該新たな始動入賞（新たな第1保留記憶）に対応した第1変化演出及び第2変化演出は何れも実行されず、また、当該新たな始動入賞（新たな第1保留記憶）に対応した副保留表示30TM004及び副アクティブ表示30TM005は表示されない。変化禁止フラグは、第1変化演出の対象となった変動表示が終了したときにクリアされる。

【1423】

図12-4及び図12-5は、第1変化演出の変化パターンを決定するための変化パターン決定テーブルの具体例を示す説明図である。始動入賞によって第1保留記憶数が n （ $n:1\sim4$ ）となった場合には、（i）その始動入賞に対応した n 番目の第1保留表示30TM001が第1保留表示領域30TM101に表示されるタイミング（始動入賞時のタイミング）、（ii）その始動入賞に対応した第1保留表示30TM001が、第1保留表示領域30TM101における変動順位が上位の位置（アクティブ表示領域30TM103側）にシフトするタイミング（ $n\geq2$ の場合）、及び、（iii）その始動入賞に対応した第1保留表示30TM001が、アクティブ表示領域30TM103にシフトするタイミング（その始動入賞に対応したアクティブ表示30TM003が表示されるタイミング）で、その始動入賞に基づく変動表示に対応した表示情報（保留表示又はアクティブ表示）が通常態様とは異なる態様で表示される可能性がある。

【1424】

図12-4及び図12-5では、変化パターン毎に、（i）～（iii）の各タイミングで、可変表示に対応した表示情報（第1保留表示30TM001又はアクティブ表示30TM003）がどのような表示態様になるかを示している。図12-4及び図12-5に示される変化パターンにおいて、「通常」とは白色の丸形表示である通常態様を示しており、「特殊」とは白色の三角形表示である特殊態様を示しており、「青色」とは青色の丸形表示である青色態様を示しており、「赤色」とは赤色の丸形表示である赤色態様を示している。

【1425】

演出制御用CPU120は、第1保留記憶数保存領域に格納されている第1保留記憶数が「1」である場合には、図12-4（A）に示す保留1個用の変化パターン決定テーブルを選択する。

【1426】

決定された最終表示態様が通常態様である場合に関しては、始動入賞時の判定結果（図柄指定コマンドにより指定される表示結果であり、はずれ又は大当たり）によらず、変化パターン101が100%の確率で決定されるように判定値が割り振られている。変化パターン101は、始動入賞時に予告対象の第1保留表示を通常態様で表示した後、アクティブシフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を通常態様のまま変化させない変化パターンである。

【1427】

なお、図12-4及び図12-5の説明において、アクティブシフトとは、第1保留表示30TM001が第1保留表示領域30TM101からアクティブ表示領域30TM103にシフトすること（その結果として、始動入賞時の判定対象となった変動表示に対応したアクティブ表示30TM003が表示されること）をいう。

【1428】

ここで、最終表示態様として通常態様が決定されており、アクティブシフトのタイミングで通常態様となっている場合（変化パターン101、後述する変化パターン201、変化パターン301、変化パターン401の場合）には、アクティブシフト後に、アクティブ表示30TM003が通常態様のまま変化しないことになる。

【1429】

決定された最終表示態様が特殊態様である場合に関しては、始動入賞時の判定結果（図柄指定コマンドにより指定される表示結果であり、はずれ又は大当たり）に応じて、変化パターン101、変化パターン102、及び、変化パターン103に対してそれぞれ判定値が割り振られている。変化パターン102は、始動入賞時に予告対象の第1保留表示を通常態様で表示した後、アクティブシフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を特殊態様に変化させる変化パターンであり、変化パターン103は、始動入賞時に予告対象の第1保留表示を特殊態様で表示した後、アクティブシフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を特殊態様のまま変化させない変化パターンである。

【1430】

10

ここで、最終表示態様として特殊態様が決定されており、アクティブシフトのタイミングで通常態様となっている場合（変化パターン101、後述する変化パターン201、変化パターン301、変化パターン401の場合）には、アクティブシフト後に、アクティブ表示30TMO03が通常態様から最終的に特殊態様に変化することになる。また、最終表示態様として特殊態様が決定されており、アクティブシフトのタイミングで特殊態様となっている場合（変化パターン102及び103、後述する変化パターン202～204、変化パターン302、変化パターン402の場合）には、アクティブシフト後に、アクティブ表示30TMO03が特殊態様のまま変化しないことになる。

【1431】

20

決定された最終表示態様が青色態様である場合に関しては、始動入賞時の判定結果（図柄指定コマンドにより指定される表示結果であり、はずれ又は大当たり）に応じて、変化パターン101、変化パターン102、変化パターン103、変化パターン104、及び、変化パターン105に対してそれぞれ判定値が割り振られている。変化パターン104は、始動入賞時に予告対象の第1保留表示を特殊態様で表示した後、アクティブシフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を青色態様に変化させる変化パターンであり、変化パターン105は、始動入賞時に予告対象の第1保留表示を青色態様で表示した後、アクティブシフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を青色態様のまま変化させない変化パターンである。

【1432】

30

ここで、最終表示態様として青色態様が決定されており、アクティブシフトのタイミングで通常態様となっている場合（変化パターン101、後述する変化パターン201、変化パターン301、変化パターン401の場合）には、アクティブシフト後に、アクティブ表示30TMO03が通常態様から最終的に青色態様に変化することになる。また、最終表示態様として青色態様が決定されており、アクティブシフトのタイミングで特殊態様となっている場合（変化パターン102及び103、後述する変化パターン202～204、変化パターン302、変化パターン402の場合）には、アクティブシフト後に、アクティブ表示30TMO03が特殊態様から最終的に青色態様に変化することになる。また、最終表示態様として青色態様が決定されており、アクティブシフトのタイミングで青色態様となっている場合（変化パターン104及び105、後述する変化パターン205～208、変化パターン303～305、変化パターン403及び404の場合）には、

40

【1433】

決定された最終表示態様が緑色態様である場合に関しては、始動入賞時の判定結果（図柄指定コマンドにより指定される表示結果であり、はずれ又は大当たり）に応じて、変化パターン101、変化パターン102、変化パターン103、変化パターン104、及び、変化パターン105に対してそれぞれ判定値が割り振られている。

【1434】

ここで、最終表示態様として緑色態様が決定されており、アクティブシフトのタイミングで通常態様となっている場合（変化パターン101、後述する変化パターン201、変

50

化パターン301、変化パターン401の場合)には、アクティブシフト後に、アクティブ表示30TMO03が通常態様から最終的に緑色態様に変化することになる。また、最終表示態様として緑色態様が決定されており、アクティブシフトのタイミングで特殊態様となっている場合(変化パターン102及び103、後述する変化パターン202~204、変化パターン302、変化パターン402の場合)には、アクティブシフト後に、アクティブ表示30TMO03が特殊態様から最終的に緑色態様に変化することになる。また、最終表示態様として緑色態様が決定されており、アクティブシフトのタイミングで青色態様となっている場合(変化パターン104及び105、後述する変化パターン205~208、変化パターン303~305、変化パターン403及び404の場合)には、アクティブシフト後に、アクティブ表示30TMO03が青色態様から最終的に緑色態様に変化することになる。

10

【1435】

決定された最終表示態様が赤色態様である場合に関しては、始動入賞時の判定結果(図柄指定コマンドにより指定される表示結果であり、はずれ又は大当たり)に応じて、変化パターン101、変化パターン102、変化パターン103、変化パターン104、変化パターン105、変化パターン106、及び、変化パターン107に対してそれぞれ判定値が割り振られている。変化パターン106は、始動入賞時に予告対象の第1保留表示を青色態様で表示した後、アクティブシフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を赤色態様に変化させる変化パターンであり、変化パターン107は、始動入賞時に予告対象の第1保留表示を赤色態様で表示した後、アクティブシフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を赤色態様のまま変化させない変化パターンである。

20

【1436】

ここで、最終表示態様として赤色態様が決定されており、アクティブシフトのタイミングで通常態様となっている場合(変化パターン101、後述する変化パターン201、変化パターン301、変化パターン401の場合)には、アクティブシフト後に、アクティブ表示30TMO03が通常態様から最終的に赤色態様に変化することになる。また、最終表示態様として赤色態様が決定されており、アクティブシフトのタイミングで特殊態様となっている場合(変化パターン102及び103、後述する変化パターン202~204、変化パターン302、変化パターン402の場合)には、アクティブシフト後に、アクティブ表示30TMO03が特殊態様から最終的に赤色態様に変化することになる。また、最終表示態様として赤色態様が決定されており、アクティブシフトのタイミングで青色態様となっている場合(変化パターン104及び105、後述する変化パターン205~208、変化パターン303~305、変化パターン403及び404の場合)には、アクティブシフト後に、アクティブ表示30TMO03が青色態様から最終的に赤色態様に変化することになる。また、最終表示態様として赤色態様が決定されており、アクティブシフトのタイミングで赤色態様となっている場合(変化パターン106及び107、後述する変化パターン209~212、変化パターン306~310、変化パターン405~412の場合)には、アクティブシフト後に、アクティブ表示30TMO03が赤色態様のまま変化しないことになる。

30

【1437】

決定された最終表示態様が金色態様である場合に関しては、始動入賞時の判定結果(図柄指定コマンドにより指定される表示結果であり、はずれ又は大当たり)に応じて、変化パターン101、変化パターン102、変化パターン103、変化パターン104、変化パターン105、変化パターン106、及び、変化パターン107に対してそれぞれ判定値が割り振られている。

40

【1438】

ここで、最終表示態様として金色態様が決定されており、アクティブシフトのタイミングで通常態様となっている場合(変化パターン101、後述する変化パターン201、変化パターン301、変化パターン401の場合)には、アクティブシフト後に、アクティブ表示30TMO03が通常態様から最終的に金色態様に変化することになる。また、最

50

終表示態様として金色態様が決定されており、アクティブシフトのタイミングで特殊態様となっている場合（変化パターン１０２及び１０３、後述する変化パターン２０２～２０４、変化パターン３０２、変化パターン４０２の場合）には、アクティブシフト後に、アクティブ表示３０ＴＭ００３が特殊態様から最終的に金色態様に変化することになる。また、最終表示態様として金色態様が決定されており、アクティブシフトのタイミングで青色態様となっている場合（変化パターン１０４及び１０５、後述する変化パターン２０５～２０８、変化パターン３０３～３０５、変化パターン４０３及び４０４の場合）には、アクティブシフト後に、アクティブ表示３０ＴＭ００３が青色態様から最終的に金色態様に変化することになる。また、最終表示態様として金色態様が決定されており、アクティブシフトのタイミングで赤色態様となっている場合（変化パターン１０６及び１０７、後述する変化パターン２０９～２１２、変化パターン３０６～３１０、変化パターン４０５～４１２の場合）には、アクティブシフト後に、アクティブ表示３０ＴＭ００３が赤色態様から最終的に金色態様に変化することになる。

10

【１４３９】

演出制御用ＣＰＵ１２０は、第１保留記憶数保存領域に格納されている第１保留記憶数が「２」である場合には、図１２－４（Ｂ）に示す保留２個用の変化パターン決定テーブルを選択する。

【１４４０】

決定された最終表示態様が通常態様である場合に関しては、始動入賞時の判定結果（図柄指定コマンドにより指定される表示結果であり、はずれ又は大当たり）によらず、変化パターン２０１が１００％の確率で決定されるように判定値が割り振られている。変化パターン２０１は、始動入賞時に予告対象の第１保留表示を通常態様で表示した後、１回目の保留シフトのタイミングで予告対象の第１保留表示を通常態様のまま変化させず、アクティブシフトのタイミングでも予告対象の第１保留表示を通常態様のまま変化させない変化パターンである。

20

【１４４１】

決定された最終表示態様が特殊態様である場合に関しては、始動入賞時の判定結果（図柄指定コマンドにより指定される表示結果であり、はずれ又は大当たり）に応じて、変化パターン２０１、変化パターン２０２、変化パターン２０３、及び、変化パターン２０４に対してそれぞれ判定値が割り振られている。変化パターン２０２は、始動入賞時に予告対象の第１保留表示を通常態様で表示した後、１回目の保留シフトのタイミングで予告対象の第１保留表示を通常態様のまま変化させず、アクティブシフトのタイミングで予告対象の第１保留表示を特殊態様に変化させる変化パターンであり、変化パターン２０３は、始動入賞時に予告対象の第１保留表示を通常態様で表示した後、１回目の保留シフトのタイミングで予告対象の第１保留表示を特殊態様に変化させ、アクティブシフトのタイミングで予告対象の第１保留表示を特殊態様のまま変化させない変化パターンであり、変化パターン２０４は、始動入賞時に予告対象の第１保留表示を特殊態様で表示した後、１回目の保留シフトのタイミングで予告対象の第１保留表示を特殊態様のまま変化させず、アクティブシフトのタイミングでも予告対象の第１保留表示を特殊態様のまま変化させない変化パターンである。

30

40

【１４４２】

決定された最終表示態様が青色態様である場合に関しては、始動入賞時の判定結果（図柄指定コマンドにより指定される表示結果であり、はずれ又は大当たり）に応じて、変化パターン２０１、変化パターン２０２、変化パターン２０３、変化パターン２０４、変化パターン２０５、変化パターン２０６、変化パターン２０７、及び、変化パターン２０８に対してそれぞれ判定値が割り振られている。変化パターン２０５は、始動入賞時に予告対象の第１保留表示を通常態様で表示した後、１回目の保留シフトのタイミングで予告対象の第１保留表示を特殊態様に変化させ、アクティブシフトのタイミングで予告対象の第１保留表示を青色態様に変化させる変化パターンであり、変化パターン２０６は、始動入賞時に予告対象の第１保留表示を特殊態様で表示した後、１回目の保留シフトのタイミング

50

で予告対象の第1保留表示を特殊態様のまま変化させず、アクティブシフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を青色態様に変化させる変化パターンであり、変化パターン207は、始動入賞時に予告対象の第1保留表示を特殊態様で表示した後、1回目の保留シフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を青色態様に変化させ、アクティブシフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を青色態様のまま変化させない変化パターンであり、変化パターン208は、始動入賞時に予告対象の第1保留表示を青色態様で表示した後、1回目の保留シフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を青色態様のまま変化させず、アクティブシフトのタイミングでも予告対象の第1保留表示を青色態様のまま変化させない変化パターンである。

【1443】

10

決定された最終表示態様が緑色態様である場合に関しては、始動入賞時の判定結果（図柄指定コマンドにより指定される表示結果であり、はずれ又は大当たり）に応じて、変化パターン201、変化パターン202、変化パターン203、変化パターン204、変化パターン205、変化パターン206、変化パターン207、及び、変化パターン208に対してそれぞれ判定値が割り振られている。

【1444】

決定された最終表示態様が赤色態様である場合に関しては、始動入賞時の判定結果（図柄指定コマンドにより指定される表示結果であり、はずれ又は大当たり）に応じて、変化パターン201、変化パターン202、変化パターン203、変化パターン204、変化パターン205、変化パターン206、変化パターン207、変化パターン208、変化パターン209、変化パターン210、変化パターン211、及び、変化パターン212に対してそれぞれ判定値が割り振られている。変化パターン209は、始動入賞時に予告対象の第1保留表示を特殊態様で表示した後、1回目の保留シフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を青色態様に変化させ、アクティブシフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を赤色態様に変化させる変化パターンであり、変化パターン210は、始動入賞時に予告対象の第1保留表示を青色態様で表示した後、1回目の保留シフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を青色態様のまま変化させず、アクティブシフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を赤色態様に変化させる変化パターンであり、変化パターン211は、始動入賞時に予告対象の第1保留表示を青色態様で表示した後、1回目の保留シフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を赤色態様に変化させ、アクティブシフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を赤色態様のまま変化させない変化パターンであり、変化パターン212は、始動入賞時に予告対象の第1保留表示を赤色態様で表示した後、1回目の保留シフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を赤色態様のまま変化させず、アクティブシフトのタイミングでも予告対象の第1保留表示を赤色態様のまま変化させない変化パターンである。

20

30

【1445】

決定された最終表示態様が金色態様である場合に関しては、始動入賞時の判定結果（図柄指定コマンドにより指定される表示結果であり、はずれ又は大当たり）に応じて、変化パターン201、変化パターン202、変化パターン203、変化パターン204、変化パターン205、変化パターン206、変化パターン207、変化パターン208、変化パターン209、変化パターン210、変化パターン211、及び、変化パターン212に対してそれぞれ判定値が割り振られている。

40

【1446】

演出制御用CPU120は、第1保留記憶数保存領域に格納されている第1保留記憶数が「3」である場合には、図12-5（C）に示す保留3個用の変化パターン決定テーブルを選択する。

【1447】

決定された最終表示態様が通常態様である場合に関しては、始動入賞時の判定結果（図柄指定コマンドにより指定される表示結果であり、はずれ又は大当たり）によらず、変化パターン301が100%の確率で決定されるように判定値が割り振られている。変化パタ

50

ーン301は、始動入賞時に予告対象の第1保留表示を通常態様で表示した後、1回目の保留シフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を通常態様のまま変化させず、2回目の保留シフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を通常態様のまま変化させず、アクティブシフトのタイミングでも予告対象の第1保留表示を通常態様のまま変化させない変化パターンである。

【1448】

決定された最終表示態様が特殊態様である場合に関しては、始動入賞時の判定結果（図柄指定コマンドにより指定される表示結果であり、はずれ又は大当たり）に応じて、変化パターン301、及び、変化パターン302に対してそれぞれ判定値が割り振られている。変化パターン302は、始動入賞時に予告対象の第1保留表示を通常態様で表示した後、1回目の保留シフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を特殊態様に変化させ、2回目の保留シフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を特殊態様のまま変化させず、アクティブシフトのタイミングでも予告対象の第1保留表示を特殊態様のまま変化させない変化パターンである。

10

【1449】

決定された最終表示態様が青色態様である場合に関しては、始動入賞時の判定結果（図柄指定コマンドにより指定される表示結果であり、はずれ又は大当たり）に応じて、変化パターン301、変化パターン302、変化パターン303、変化パターン304、及び、変化パターン305に対してそれぞれ判定値が割り振られている。変化パターン303は、始動入賞時に予告対象の第1保留表示を通常態様で表示した後、1回目の保留シフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を特殊態様に変化させ、2回目の保留シフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を特殊態様のまま変化させず、アクティブシフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を青色態様に変化させる変化パターンであり、変化パターン304は、始動入賞時に予告対象の第1保留表示を通常態様で表示した後、1回目の保留シフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を特殊態様に変化させ、2回目の保留シフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を青色態様に変化させ、アクティブシフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を青色態様のまま変化させない変化パターンであり、変化パターン305は、始動入賞時に予告対象の第1保留表示を青色態様で表示した後、1回目の保留シフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を青色態様のまま変化させず、2回目の保留シフトのタイミングでも予告対象の第1保留表示を青色態様のまま変化させず、アクティブシフトのタイミングでも予告対象の第1保留表示を青色態様のまま変化させない変化パターンである。

20

30

【1450】

決定された最終表示態様が緑色態様である場合に関しては、始動入賞時の判定結果（図柄指定コマンドにより指定される表示結果であり、はずれ又は大当たり）に応じて、変化パターン301、変化パターン302、変化パターン303、変化パターン304、及び、変化パターン305に対してそれぞれ判定値が割り振られている。

【1451】

決定された最終表示態様が赤色態様である場合に関しては、始動入賞時の判定結果（図柄指定コマンドにより指定される表示結果であり、はずれ又は大当たり）に応じて、変化パターン301、変化パターン302、変化パターン303、変化パターン304、変化パターン305、変化パターン306、変化パターン307、変化パターン308、変化パターン309、及び、変化パターン310に対してそれぞれ判定値が割り振られている。変化パターン306は、始動入賞時に予告対象の第1保留表示を通常態様で表示した後、1回目の保留シフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を特殊態様に変化させ、2回目の保留シフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を青色態様に変化させ、アクティブシフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を赤色態様に変化させる変化パターンであり、変化パターン307は、始動入賞時に予告対象の第1保留表示を青色態様で表示した後、1回目の保留シフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を青色態様のまま変化させず、2回目の保留シフトのタイミングでも予告対象の第1保留表示を青色態様のまま

40

50

変化させず、アクティブシフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を赤色態様に変化させる変化パターンであり、変化パターン308は、始動入賞時に予告対象の第1保留表示を青色態様で表示した後、1回目の保留シフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を青色態様のまま変化させず、2回目の保留シフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を赤色態様に変化させ、アクティブシフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を赤色態様のまま変化させない変化パターンであり、変化パターン309は、始動入賞時に予告対象の第1保留表示を青色態様で表示した後、1回目の保留シフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を赤色態様に変化させ、2回目の保留シフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を赤色態様のまま変化させず、アクティブシフトのタイミングでも予告対象の第1保留表示を赤色態様のまま変化させない変化パターンであり、変化パターン310は、始動入賞時に予告対象の第1保留表示を赤色態様で表示した後、1回目の保留シフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を赤色態様のまま変化させず、2回目の保留シフトのタイミングでも予告対象の第1保留表示を赤色態様のまま変化させず、アクティブシフトのタイミングでも予告対象の第1保留表示を赤色態様のまま変化させない変化パターンである。

10

【1452】

決定された最終表示態様が金色態様である場合に関しては、始動入賞時の判定結果（図柄指定コマンドにより指定される表示結果であり、はずれ又は大当たり）に応じて、変化パターン301、変化パターン302、変化パターン303、変化パターン304、変化パターン305、変化パターン306、変化パターン307、変化パターン308、変化パターン309、及び、変化パターン310に対してそれぞれ判定値が割り振られている。

20

【1453】

演出制御用CPU120は、第1保留記憶数保存領域に格納されている第1保留記憶数が「4」である場合には、図12-5（D）に示す保留4個用の変化パターン決定テーブルを選択する。

【1454】

決定された最終表示態様が通常態様である場合に関しては、始動入賞時の判定結果（図柄指定コマンドにより指定される表示結果であり、はずれ又は大当たり）によらず、変化パターン401が100%の確率で決定されるように判定値が割り振られている。変化パターン401は、始動入賞時に予告対象の第1保留表示を通常態様で表示した後、1回目の保留シフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を通常態様のまま変化させず、2回目の保留シフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を通常態様のまま変化させず、3回目の保留シフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を通常態様のまま変化させず、アクティブシフトのタイミングでも予告対象の第1保留表示を通常態様のまま変化させない変化パターンである。

30

【1455】

決定された最終表示態様が特殊態様である場合に関しては、始動入賞時の判定結果（図柄指定コマンドにより指定される表示結果であり、はずれ又は大当たり）に応じて、変化パターン401、及び、変化パターン402に対してそれぞれ判定値が割り振られている。変化パターン402は、始動入賞時に予告対象の第1保留表示を通常態様で表示した後、1回目の保留シフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を特殊態様に変化させ、2回目の保留シフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を特殊態様のまま変化させず、3回目の保留シフトのタイミングでも予告対象の第1保留表示を特殊態様のまま変化させず、アクティブシフトのタイミングでも予告対象の第1保留表示を特殊態様のまま変化させない変化パターンである。

40

【1456】

決定された最終表示態様が青色態様である場合に関しては、始動入賞時の判定結果（図柄指定コマンドにより指定される表示結果であり、はずれ又は大当たり）に応じて、変化パターン401、変化パターン402、変化パターン403、及び、変化パターン404に対してそれぞれ判定値が割り振られている。変化パターン403は、始動入賞時に予告対

50

象の第1保留表示を通常態様で表示した後、1回目の保留シフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を特殊態様に変化させ、2回目の保留シフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を青色態様に変化させ、3回目の保留シフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を青色態様のまま変化させず、アクティブシフトのタイミングでも予告対象の第1保留表示を青色態様のまま変化させない変化パターンであり、変化パターン404は、始動入賞時に予告対象の第1保留表示を青色態様で表示した後、1回目の保留シフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を青色態様のまま変化させず、2回目の保留シフトのタイミングでも予告対象の第1保留表示を青色態様のまま変化させず、3回目の保留シフトのタイミングでも予告対象の第1保留表示を青色態様のまま変化させず、アクティブシフトのタイミングでも予告対象の第1保留表示を青色態様のまま変化させない変化パターンである。

10

【1457】

決定された最終表示態様が緑色態様である場合に関しては、始動入賞時の判定結果（図柄指定コマンドにより指定される表示結果であり、はずれ又は大当たり）に応じて、変化パターン401、変化パターン402、変化パターン403、及び、変化パターン404に対してそれぞれ判定値が割り振られている。

【1458】

決定された最終表示態様が赤色態様である場合に関しては、始動入賞時の判定結果（図柄指定コマンドにより指定される表示結果であり、はずれ又は大当たり）に応じて、変化パターン401、変化パターン402、変化パターン403、変化パターン404、及び、変化パターン405～変化パターン412に対してそれぞれ判定値が割り振られている。変化パターン405は、始動入賞時に予告対象の第1保留表示を通常態様で表示した後、1回目の保留シフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を特殊態様に変化させ、2回目の保留シフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を特殊態様のまま変化させず、3回目の保留シフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を青色態様に変化させ、アクティブシフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を赤色態様に変化させる変化パターンであり、変化パターン406は、始動入賞時に予告対象の第1保留表示を通常態様で表示した後、1回目の保留シフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を特殊態様に変化させ、2回目の保留シフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を青色態様に変化させ、3回目の保留シフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を青色態様のまま変化させず、アクティブシフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を赤色態様に変化させる変化パターンであり、変化パターン407は、始動入賞時に予告対象の第1保留表示を通常態様で表示した後、1回目の保留シフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を特殊態様に変化させ、2回目の保留シフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を青色態様に変化させ、3回目の保留シフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を赤色態様に変化させ、アクティブシフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を赤色態様のまま変化させない変化パターンであり、変化パターン408は、始動入賞時に予告対象の第1保留表示を青色態様で表示した後、1回目、2回目、3回目の保留シフトのタイミングでも予告対象の第1保留表示を青色態様のまま変化させず、アクティブシフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を赤色態様に変化させる変化パターンであり、変化パターン409は、始動入賞時に予告対象の第1保留表示を青色態様で表示した後、1回目、2回目の保留シフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を青色態様のまま変化させず、3回目の保留シフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を赤色態様に変化させ、アクティブシフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を赤色態様のまま変化させない変化パターンであり、変化パターン410は、始動入賞時に予告対象の第1保留表示を青色態様で表示した後、1回目の保留シフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を青色態様のまま変化させず、2回目の保留シフトのタイミングで予告対象の第1保留表示を赤色態様に変化させ、3回目の保留シフトのタイミング、アクティブシフトのタイミングでも予告対象の第1保留表示を赤色態様のまま変化させない変化パターンであり、変化パターン411は、始動入賞時に予告対象の第1保留表示を青色態様で表示した後、1回目の保留シフトのタイ

20

30

40

50

ミングで予告対象の第1保留表示を赤色態様に変化させ、2回目、3回目の保留シフトのタイミング、アクティブシフトのタイミングでも予告対象の第1保留表示を赤色態様のまま変化させない変化パターンであり、変化パターン412は、始動入賞時に予告対象の第1保留表示を赤色態様で表示した後、1回目、2回目、3回目の保留シフトのタイミング、アクティブシフトのタイミングでも予告対象の第1保留表示を赤色態様のまま変化させない変化パターンである。

【1459】

決定された最終表示態様が金色態様である場合に関しては、始動入賞時の判定結果（図柄指定コマンドにより指定される表示結果であり、はずれ又は大当たり）に応じて、変化パターン401、変化パターン402、変化パターン403、変化パターン404、変化パターン405、変化パターン406、変化パターン407、変化パターン408、変化パターン409、変化パターン410、変化パターン411、及び、変化パターン412に対してそれぞれ判定値が割り振られている。

10

【1460】

図12-6は、第2変化演出の変化パターンを決定するための変化パターン決定テーブルの具体例を示す説明図である。始動入賞によって第1保留記憶数が n （ n ：1～4）となった場合であって、且つ、副保留表示30TM004及び副アクティブ表示30TM005を表示することに決定された場合には、（i）そのときの第1保留記憶数 n に対応した1～ n 番目の副保留表示30TM004が副保留表示領域30TM104に表示されると共にそのとき実行されている変動表示に対応した副アクティブ表示30TM005が副アクティブ表示領域30TM105に表示されるタイミング（始動入賞時のタイミング）、（ii）その始動入賞に対応した副保留表示30TM004が、副保留表示領域30TM104における変動順位が上位の位置（副アクティブ表示領域30TM105側）にシフトするタイミング（ $n \geq 2$ の場合）、及び、（iii）その始動入賞に対応した副保留表示30TM004が、副アクティブ表示領域30TM105にシフトするタイミング（その始動入賞に対応した副アクティブ表示30TM005が表示されるタイミング）で、その始動入賞に基づく変動表示に対応した表示情報（保留表示又はアクティブ表示）が通常態様とは異なる態様で表示される可能性がある。

20

【1461】

図12-6では、変化パターン毎に、（i）～（iii）の各タイミングで、可変表示に対応した表示情報（副保留表示30TM004又は副アクティブ表示30TM005）がどのような表示態様になるかを示している。図12-6に示される変化パターンにおいて、「通常」とは白色の星形表示である通常態様を示しており、「青色」とは青色の星形表示である青色態様を示しており、「赤色」とは赤色の星形表示である赤色態様を示している。

30

【1462】

演出制御用CPU120は、第1保留記憶数保存領域に格納されている第1保留記憶数が「1」である場合には、図12-6（A）に示す保留1個用の変化パターン決定テーブルを選択する。

【1463】

決定された最終表示態様が通常態様である場合に関しては、始動入賞時の判定結果（図柄指定コマンドにより指定される表示結果であり、はずれ又は大当たり）によらず、変化パターン601が100%の確率で決定されるように判定値が割り振られている。変化パターン601は、始動入賞時に予告対象の副保留表示を通常態様で表示した後、アクティブシフトのタイミングで予告対象の副保留表示を通常態様のまま変化させない変化パターンである。

40

【1464】

なお、図12-6の説明において、アクティブシフトとは、副保留表示30TM004が副保留表示領域30TM104から副アクティブ表示領域30TM105にシフトすること（その結果として、始動入賞時の判定対象となった変動表示に対応した副アクティブ

50

表示 3 0 T M 0 0 5 が表示されること)をいう。

【1 4 6 5】

ここで、最終表示態様として通常態様が決定されており、アクティブシフトのタイミングで通常態様となっている場合(変化パターン 6 0 1、後述する変化パターン 7 0 1、変化パターン 8 0 1、変化パターン 9 0 1 の場合)には、アクティブシフト後に、副アクティブ表示 3 0 T M 0 0 5 が通常態様のまま変化しないことになる。

【1 4 6 6】

決定された最終表示態様が青色態様である場合に関しては、始動入賞時の判定結果(図柄指定コマンドにより指定される表示結果であり、はずれ又は大当たり)に応じて、変化パターン 6 0 1、変化パターン 6 0 2、及び、変化パターン 6 0 3 に対してそれぞれ判定値が割り振られている。変化パターン 6 0 2 は、始動入賞時に予告対象の副保留表示を通常態様で表示した後、アクティブシフトのタイミングで予告対象の副保留表示を青色態様に变化させる変化パターンであり、変化パターン 6 0 3 は、始動入賞時に予告対象の副保留表示を青色態様で表示した後、アクティブシフトのタイミングで予告対象の副保留表示を青色態様のまま変化させない変化パターンである。

【1 4 6 7】

ここで、最終表示態様として青色態様が決定されており、アクティブシフトのタイミングで通常態様となっている場合(変化パターン 6 0 1、後述する変化パターン 7 0 1、変化パターン 8 0 1、変化パターン 9 0 1 の場合)には、アクティブシフト後に、副アクティブ表示 3 0 T M 0 0 5 が通常態様から最終的に青色態様に变化することになる。また、最終表示態様として青色態様が決定されており、アクティブシフトのタイミングで青色態様となっている場合(変化パターン 6 0 2 及び 6 0 3、後述する変化パターン 7 0 2 ~ 7 0 4、変化パターン 8 0 2 ~ 8 0 4、変化パターン 9 0 2 ~ 9 0 5 の場合)には、アクティブシフト後に、副アクティブ表示 3 0 T M 0 0 5 が青色態様のまま変化しないことになる。

【1 4 6 8】

決定された最終表示態様が赤色態様である場合に関しては、始動入賞時の判定結果(図柄指定コマンドにより指定される表示結果であり、はずれ又は大当たり)に応じて、変化パターン 6 0 1、変化パターン 6 0 2、変化パターン 6 0 3、変化パターン 6 0 4、及び、変化パターン 6 0 5 に対してそれぞれ判定値が割り振られている。変化パターン 6 0 4 は、始動入賞時に予告対象の副保留表示を青色態様で表示した後、アクティブシフトのタイミングで予告対象の副保留表示を赤色態様に变化させる変化パターンであり、変化パターン 6 0 5 は、始動入賞時に予告対象の副保留表示を赤色態様で表示した後、アクティブシフトのタイミングで予告対象の副保留表示を赤色態様のまま変化させない変化パターンである。

【1 4 6 9】

ここで、最終表示態様として赤色態様が決定されており、アクティブシフトのタイミングで通常態様となっている場合(変化パターン 6 0 1、後述する変化パターン 7 0 1、変化パターン 8 0 1、変化パターン 9 0 1 の場合)には、アクティブシフト後に、副アクティブ表示 3 0 T M 0 0 5 が通常態様から最終的に赤色態様に变化することになる。また、最終表示態様として赤色態様が決定されており、アクティブシフトのタイミングで青色態様となっている場合(変化パターン 6 0 2 及び 6 0 3、後述する変化パターン 7 0 2 ~ 7 0 4、変化パターン 8 0 2 ~ 8 0 4、変化パターン 9 0 2 ~ 9 0 5 の場合)には、アクティブシフト後に、副アクティブ表示 3 0 T M 0 0 5 が青色態様から赤色態様に变化することになる。また、最終表示態様として赤色態様が決定されており、アクティブシフトのタイミングで赤色態様となっている場合(変化パターン 6 0 4 及び 6 0 5、後述する変化パターン 7 0 5 ~ 7 0 8、変化パターン 8 0 5 ~ 8 0 8、変化パターン 9 0 6 ~ 9 1 2 の場合)には、アクティブシフト後に、副アクティブ表示 3 0 T M 0 0 5 が赤色態様のまま変化しないことになる。

【1 4 7 0】

演出制御用CPU120は、第1保留記憶数保存領域に格納されている第1保留記憶数が「2」である場合には、図12-6(B)に示す保留2個用の変化パターン決定テーブルを選択する。

【1471】

決定された最終表示態様が通常態様である場合に関しては、始動入賞時の判定結果（図柄指定コマンドにより指定される表示結果であり、はずれ又は大当たり）によらず、変化パターン701が100%の確率で決定されるように判定値が割り振られている。変化パターン701は、始動入賞時に予告対象の副保留表示を通常態様で表示した後、1回目の保留シフトのタイミングで予告対象の副保留表示を通常態様のまま変化させず、アクティブシフトのタイミングでも予告対象の副保留表示を通常態様のまま変化させない変化パターンである。

10

【1472】

決定された最終表示態様が青色態様である場合に関しては、始動入賞時の判定結果（図柄指定コマンドにより指定される表示結果であり、はずれ又は大当たり）に応じて、変化パターン701、変化パターン702、変化パターン703、及び、変化パターン704に対してそれぞれ判定値が割り振られている。変化パターン702は、始動入賞時に予告対象の副保留表示を通常態様で表示した後、1回目の保留シフトのタイミングで予告対象の副保留表示を通常態様のまま変化させず、アクティブシフトのタイミングで予告対象の副保留表示を青色態様に変化させる変化パターンであり、変化パターン703は、始動入賞時に予告対象の副保留表示を通常態様で表示した後、1回目の保留シフトのタイミングで予告対象の副保留表示を青色態様に変化させ、アクティブシフトのタイミングで予告対象の副保留表示を青色態様のまま変化させない変化パターンであり、変化パターン704は、始動入賞時に予告対象の副保留表示を青色態様で表示した後、1回目の保留シフトのタイミング、アクティブシフトのタイミングで予告対象の副保留表示を青色態様のまま変化させない変化パターンである。

20

【1473】

決定された最終表示態様が赤色態様である場合に関しては、始動入賞時の判定結果（図柄指定コマンドにより指定される表示結果であり、はずれ又は大当たり）に応じて、変化パターン701、変化パターン702、変化パターン703、変化パターン704、及び、変化パターン705～変化パターン708に対してそれぞれ判定値が割り振られている。変化パターン705は、始動入賞時に予告対象の副保留表示を通常態様で表示した後、1回目の保留シフトのタイミングで予告対象の副保留表示を青色態様に変化させ、アクティブシフトのタイミングで予告対象の副保留表示を赤色態様に変化させる変化パターンであり、変化パターン706は、始動入賞時に予告対象の副保留表示を青色態様で表示した後、1回目の保留シフトのタイミングで予告対象の副保留表示を青色態様のまま変化させず、アクティブシフトのタイミングで予告対象の副保留表示を赤色態様に変化させる変化パターンであり、変化パターン707は、始動入賞時に予告対象の副保留表示を青色態様で表示した後、1回目の保留シフトのタイミングで予告対象の副保留表示を赤色態様に変化させ、アクティブシフトのタイミングで予告対象の副保留表示を赤色態様のまま変化させない変化パターンであり、変化パターン708は、始動入賞時に予告対象の副保留表示を赤色態様で表示した後、1回目の保留シフトのタイミング、アクティブシフトのタイミングで予告対象の副保留表示を赤色態様のまま変化させない変化パターンである。

30

40

【1474】

演出制御用CPU120は、第1保留記憶数保存領域に格納されている第1保留記憶数が「3」である場合には、図12-6(C)に示す保留3個用の変化パターン決定テーブルを選択する。

【1475】

決定された最終表示態様が通常態様である場合に関しては、始動入賞時の判定結果（図柄指定コマンドにより指定される表示結果であり、はずれ又は大当たり）によらず、変化パターン801が100%の確率で決定されるように判定値が割り振られている。変化パタ

50

ーン８０１は、始動入賞時に予告対象の副保留表示を通常態様で表示した後、１回目の保留シフトのタイミングで予告対象の副保留表示を通常態様のまま変化させず、２回目の保留シフトのタイミングで予告対象の副保留表示を通常態様のまま変化させず、アクティブシフトのタイミングでも予告対象の副保留表示を通常態様のまま変化させない変化パターンである。

【１４７６】

決定された最終表示態様が青色態様である場合に関しては、始動入賞時の判定結果（図柄指定コマンドにより指定される表示結果であり、はずれ又は大当たり）に応じて、変化パターン８０１、及び、変化パターン８０２～変化パターン８０４に対してそれぞれ判定値が割り振られている。変化パターン８０２は、始動入賞時に予告対象の副保留表示を通常態様で表示した後、１回目の保留シフトのタイミングで予告対象の副保留表示を通常態様のまま変化させず、２回目の保留シフトのタイミングで予告対象の副保留表示を青色態様に変化させ、アクティブシフトのタイミングで予告対象の副保留表示を青色態様のまま変化させない変化パターンであり、変化パターン８０３は、始動入賞時に予告対象の副保留表示を通常態様で表示した後、１回目の保留シフトのタイミングで予告対象の副保留表示を青色態様に変化させ、２回目の保留シフトのタイミング、アクティブシフトのタイミングで予告対象の副保留表示を青色態様のまま変化させない変化パターンであり、変化パターン８０４は、始動入賞時に予告対象の副保留表示を青色態様で表示した後、１回目、２回目の保留シフトのタイミング、アクティブシフトのタイミングで予告対象の副保留表示を青色態様のまま変化させない変化パターンである。

【１４７７】

決定された最終表示態様が赤色態様である場合に関しては、始動入賞時の判定結果（図柄指定コマンドにより指定される表示結果であり、はずれ又は大当たり）に応じて、変化パターン８０１、変化パターン８０２、変化パターン８０３、変化パターン８０４、及び、変化パターン８０５～変化パターン８０８に対してそれぞれ判定値が割り振られている。変化パターン８０５は、始動入賞時に予告対象の副保留表示を通常態様で表示した後、１回目の保留シフトのタイミングで予告対象の副保留表示を青色態様に変化させ、２回目の保留シフトのタイミングで予告対象の副保留表示を赤色態様に変化させ、アクティブシフトのタイミングで予告対象の副保留表示を赤色態様に変化させる変化パターンであり、変化パターン８０６は、始動入賞時に予告対象の副保留表示を青色態様で表示した後、１回目の保留シフトのタイミングで予告対象の副保留表示を青色態様のまま変化させず、２回目の保留シフトのタイミングで予告対象の副保留表示を赤色態様に変化させ、アクティブシフトのタイミングで予告対象の副保留表示を赤色態様のまま変化させない変化パターンであり、変化パターン８０７は、始動入賞時に予告対象の副保留表示を青色態様で表示した後、１回目の保留シフトのタイミングで予告対象の副保留表示を赤色態様に変化させ、２回目の保留シフトのタイミング、アクティブシフトのタイミングで予告対象の副保留表示を赤色態様のまま変化させない変化パターンであり、変化パターン８０８は、始動入賞時に予告対象の副保留表示を赤色態様で表示した後、１回目、２回目の保留シフトのタイミング、アクティブシフトのタイミングで予告対象の副保留表示を赤色態様のまま変化させない変化パターンである。

【１４７８】

演出制御用ＣＰＵ１２０は、第１保留記憶数保存領域に格納されている第１保留記憶数が「４」である場合には、図１２－６（Ｄ）に示す保留４個用の変化パターン決定テーブルを選択する。

【１４７９】

決定された最終表示態様が通常態様である場合に関しては、始動入賞時の判定結果（図柄指定コマンドにより指定される表示結果であり、はずれ又は大当たり）によらず、変化パターン９０１が１００％の確率で決定されるように判定値が割り振られている。変化パターン９０１は、始動入賞時に予告対象の副保留表示を通常態様で表示した後、１回目、２回目、３回目の保留シフトのタイミング、アクティブシフトのタイミングで予告対象の副

10

20

30

40

50

保留表示を通常態様のまま変化させない変化パターンである。

【1480】

決定された最終表示態様が青色態様である場合に関しては、始動入賞時の判定結果（図柄指定コマンドにより指定される表示結果であり、はずれ又は大当たり）に応じて、変化パターン901、及び、変化パターン902～変化パターン905に対してそれぞれ判定値が割り振られている。変化パターン902は、始動入賞時に予告対象の副保留表示を通常態様で表示した後、1回目、2回目の保留シフトのタイミングで予告対象の副保留表示を通常態様のまま変化させず、3回目の保留シフトのタイミングで予告対象の副保留表示を青色態様に变化させ、アクティブシフトのタイミングで予告対象の副保留表示を青色態様のまま変化させない変化パターンであり、変化パターン903は、始動入賞時に予告対象の副保留表示を通常態様で表示した後、1回目の保留シフトのタイミングで予告対象の副保留表示を通常態様のまま変化させず、2回目の保留シフトのタイミングで予告対象の副保留表示を青色態様に变化させ、3回目の保留シフトのタイミング、アクティブシフトのタイミングで予告対象の副保留表示を青色態様のまま変化させない変化パターンであり、変化パターン904は、始動入賞時に予告対象の副保留表示を通常態様で表示した後、1回目の保留シフトのタイミングで予告対象の副保留表示を青色態様に变化させ、2回目、3回目の保留シフトのタイミング、アクティブシフトのタイミングで予告対象の副保留表示を青色態様のまま変化させない変化パターンであり、変化パターン905は、始動入賞時に予告対象の副保留表示を青色態様で表示した後、1回目、2回目、3回目の保留シフトのタイミング、アクティブシフトのタイミングで予告対象の副保留表示を青色態様のま

10

20

【1481】

決定された最終表示態様が赤色態様である場合に関しては、始動入賞時の判定結果（図柄指定コマンドにより指定される表示結果であり、はずれ又は大当たり）に応じて、変化パターン901～変化パターン905、及び、変化パターン906～変化パターン912に対してそれぞれ判定値が割り振られている。変化パターン906は、始動入賞時に予告対象の副保留表示を通常態様で表示した後、1回目の保留シフトのタイミングで予告対象の副保留表示を通常態様のまま変化させず、2回目の保留シフトのタイミングで予告対象の副保留表示を青色態様に变化させ、3回目の保留シフトのタイミングで予告対象の副保留表示を赤色態様に变化させ、アクティブシフトのタイミングで予告対象の副保留表示を赤色態様のまま変化させない変化パターンであり、変化パターン907は、始動入賞時に予告対象の副保留表示を通常態様で表示した後、1回目の保留シフトのタイミングで予告対象の副保留表示を青色態様に变化させ、2回目の保留シフトのタイミングで予告対象の副保留表示を青色態様のまま変化させず、3回目の保留シフトのタイミングで予告対象の副保留表示を赤色態様に变化させ、アクティブシフトのタイミングで予告対象の副保留表示を赤色態様のまま変化させない変化パターンであり、変化パターン908は、始動入賞時に予告対象の副保留表示を通常態様で表示した後、1回目の保留シフトのタイミングで予告対象の副保留表示を青色態様に变化させ、2回目の保留シフトのタイミングで予告対象の副保留表示を赤色態様に变化させ、3回目の保留シフトのタイミング、アクティブシフトのタイミングで予告対象の副保留表示を赤色態様のまま変化させない変化パターンであり、変化パターン909は、始動入賞時に予告対象の副保留表示を青色態様で表示した後、1回目、2回目の保留シフトのタイミングで予告対象の副保留表示を青色態様のまま変化させず、3回目の保留シフトのタイミングで予告対象の副保留表示を赤色態様に变化させ、アクティブシフトのタイミングで予告対象の副保留表示を赤色態様のまま変化させない変化パターンであり、変化パターン910は、始動入賞時に予告対象の副保留表示を青色態様で表示した後、1回目の保留シフトのタイミングで予告対象の副保留表示を青色態様のまま変化させず、2回目の保留シフトのタイミングで予告対象の副保留表示を赤色態様に变化させ、3回目の保留シフトのタイミング、アクティブシフトのタイミングで予告対象の副保留表示を赤色態様のまま変化させない変化パターンであり、変化パターン911は、始動入賞時に予告対象の副保留表示を青色態様で表示した後、1回目の保留シフト

30

40

50

のタイミングで予告対象の副保留表示を赤色態様に変化させ、2回目、3回目の保留シフトのタイミング、アクティブシフトのタイミングで予告対象の副保留表示を赤色態様のまま変化させない変化パターンであり、変化パターン912は、始動入賞時に予告対象の副保留表示を赤色態様で表示した後、1回目、2回目、3回目の保留シフトのタイミング、アクティブシフトのタイミングで予告対象の副保留表示を赤色態様のまま変化させない変化パターンである。

【1482】

図12-3に示したように、第1保留表示30TM001又はアクティブ表示30TM003を通常態様とは異なる表示態様で表示する第1変化演出が実行される割合は、副保留表示30TM004又は副アクティブ表示30TM005を通常態様とは異なる表示態様で表示する第2変化演出が実行される割合よりも高くなっている。一方で、図12-3に示すように、第2変化演出が実行された場合には、第1変化演出が実行された場合よりも大当たりとなる割合が高い。

【1483】

このように、画面下部においては、視認性が高い第1保留表示30TM001又はアクティブ表示30TM003の表示態様を変化させる第1変化演出を、高い頻度で実行することにより、予告演出に対しての遊技者の興味を持続させることができる。一方で、視認性が低い副保留表示30TM004及び副アクティブ表示30TM005に関しては、それ自体が画面上部に表示されるか否かによって大当たりとなる割合が異なるものであるため、遊技者は、画面上部に副保留表示30TM004及び副アクティブ表示30TM005が表示されているか否かに注目することになる。さらに、第2変化演出が実行された場合の大当たり期待度が第1変化演出よりも高いため、副保留表示30TM004及び副アクティブ表示30TM005が表示された場合に、その表示態様に変化するか否かにも注目することになる。

【1484】

また、この実施形態では、画面下部に表示される丸形又は三角形のアイコン（第1保留表示30TM001又はアクティブ表示30TM003）と、画面上部に表示される星形のアイコン（副保留表示30TM004又は副アクティブ表示30TM005）とのサイズ及び形状が異なっている。即ち、共通の保留記憶、共通の変動表示に対応した複数種類のアイコンが、同じ画面内の異なる表示位置に同時に表示されることになる。本例では、2種類のアイコンうち一方のアイコン（第1保留表示30TM001又はアクティブ表示30TM003）は丸形で表示し、他方のアイコン（副保留表示30TM004又は副アクティブ表示30TM005）は星形で表示することにより、アイコン毎の特徴を明確にして、遊技者が違い（異なる種類の表示情報であること）を把握し易いようにしている。また、変動表示に対応したアイコンによる演出を多様化して、興趣を向上させることができる。

【1485】

また、画面下部に表示される赤色態様の第1保留表示30TM001と、画面上部に表示される赤色態様の副保留表示30TM004との関係のように、共通の変動表示に対応した共通の表示色のアイコン（ただし形状は丸形と星形で異なるアイコン）が同時に表示される場合がある。これにより、第1変化演出及び第2変化演出の対象となっている変動表示が、第1保留表示領域30TM101及び副保留表示領域30TM104においてより明確になり、第1変化演出及び第2変化演出の対象となっている変動表示に関する大当たり期待度を遊技者が理解し易くなる。

【1486】

また、画面下部に表示される赤色態様のアクティブ表示30TM003と、画面上部に表示される赤色態様の副アクティブ表示30TM005との関係のように、実行中の変動表示に対応した共通の表示色のアイコン（ただし形状は丸形と星形で異なるアイコン）が同時に表示される場合がある。これにより、実行中の変動表示に関する大当たり期待度を遊技者が理解し易くなる。

【1487】

また、図12-4～図12-6に示したように、第1保留表示30TM001の表示色と、副保留表示30TM004の表示色との組み合わせによって、大当たり期待度が異なる（例えば、赤色態様の第1保留表示30TM001と赤色態様の副保留表示30TM004との組み合わせが最も大当たり期待度が高い）ことにより、遊技者は両方の保留表示の態様に対して関心を持つことになり、保留表示の表示態様を変化させる演出の興趣を高めることができる。

【1488】

また、図12-3に示したように、アクティブ表示30TM003の表示色と、副アクティブ表示30TM005の表示色との組み合わせによって、大当たり期待度が異なる（例えば、金色態様のアクティブ表示30TM003と赤色態様の副アクティブ表示30TM005の組み合わせが最も大当たり期待度が高い）ことにより、遊技者は両方のアクティブ表示の態様に対して関心を持つことになり、アクティブ表示の表示態様を変化させる演出の興趣を高めることができる。

10

【1489】

また、図12-4及び図12-5に示したように、第1保留表示30TM001がアクティブ表示領域30TM103にシフトする際（第1変化演出の対象となった変動表示に対応したアクティブ表示30TM003が表示されるとき）には、表示色が少なくとも同じであるか（即ちアクティブシフト時に表示色が引き継がれるか）、より期待度の高い表示色に変化する。これにより、第1保留表示30TM001がどのように変化するかに関して、遊技者に興味を持たせることができる。

20

【1490】

また、図12-6に示したように、副保留表示30TM004が副アクティブ表示領域30TM105にシフトする際（第2変化演出の対象となった変動表示に対応した副アクティブ表示30TM005が表示されるとき）には、表示色が少なくとも同じであるか（即ちアクティブシフト時に表示色が引き継がれるか）、より期待度の高い表示色に変化する。これにより、副保留表示30TM004がどのように変化するかに関して、遊技者に興味を持たせることができる。

【1491】

また、この実施形態では、図12-3に示すように、視認性の高いアクティブ表示30TM003に関しては、視認性の低い副アクティブ表示30TM005よりも多くの表示態様が設けられている。そして、図12-4～図12-6に示すように、視認性の高い第1保留表示30TM001の態様を変化させる際の変化パターンは、視認性の低い副保留表示30TM004の態様を変化させる際の変化パターンよりも多く設けられている。このように、アクティブ表示及び保留表示の視認性に応じて、実行可能な演出の種類及び演出パターンを異ならせることにより、演出が過度に複雑化することを防止しつつ第1変化演出及び第2変化演出の興趣を適切に高めるようにしている。

30

【1492】

（第1変化演出及び第2変化演出の具体例）

次に、第1変化演出及び第2変化演出の具体例に関して、図12-7～図12-9を用いて説明する。図12-7は、第1変化演出及び第2変化演出の両方を実行するときのタイムチャートであり、図12-8及び図12-9は、第1変化演出及び第2変化演出の両方を実行するときに表示される演出画像の一例を示す説明図である。

40

【1493】

まず、図12-8（1）は、第1保留記憶数が3の状態、画像表示装置5において左中右の飾り図柄の変動表示（図12-7に示すT1のタイミングで開始された変動表示）を実行している状態を示している。このとき、アクティブ表示領域30TM103には、通常態様のアクティブ表示30TM003（白色の丸形表示）が表示され、第1保留表示領域30TM101には、通常態様の第1保留表示30TM001（白色の丸形表示）が3つ表示されている。なお、このとき副保留表示30TM004は表示されておらず、副

50

アクティブ表示 30 T M 0 0 5 も表示されていない。また、副アクティブ表示領域 30 T M 1 0 5 を示すガイド（四角の枠）も表示されていない。

【1494】

そして、画像表示装置 5 において左中右の飾り図柄の変動表示を実行しているときに、図 12-8（2）に示すように（図 12-7 に示す T 2 のタイミング）、新たに入賞球装置 6 A への始動入賞が発生し、演出制御用 CPU 120 が、第 1 変化演出及び第 2 変化演出の両方を実行することに決定したものとする。前述したように、演出制御用 CPU 120 は、第 1 変化演出を実行することに決定した場合には、判定対象となった始動入賞に対応したアクティブ表示 30 T M 0 0 3 の最終表示態様（本例では金色態様）、及び、第 1 変化演出の変化パターン（本例では変化パターン 407）を決定し、第 2 変化演出を実行することに決定した場合には、判定対象となった始動入賞に対応した副アクティブ表示 30 T M 0 0 5 の最終表示態様（本例では赤色態様）、及び、第 2 変化演出の変化パターン（本例では変化パターン 906）を決定する。また、このとき第 1 保留記憶数が 4 であることに基づいて、先読みカウンタの値として 4 をセットする。即ち、先読みカウンタの値は、先読み予告演出のターゲットとなる変動表示が実行されるまでの残りの変動表示回数
10

【1495】

また、演出制御用 CPU 120 は、第 2 変化演出を実行することに決定したことに基づいて、副アクティブ表示領域 30 T M 1 0 5 に通常態様の副アクティブ表示 30 T M 0 0 5（白色の星形表示）を表示すると共に、副アクティブ表示領域 30 T M 1 0 5 を示すガイド（四角の枠）を表示する。このとき表示される副アクティブ表示 30 T M 0 0 5 は、現在実行されている飾り図柄（第 1 特別図柄）の変動表示に対応したものである。また、第 1 保留記憶数が 4 であることに基づいて、副保留表示領域 30 T M 1 0 4 に通常態様の副保留表示 30 T M 0 0 4（白色の星形表示）を 4 つ表示する。
20

【1496】

さらに、演出制御用 CPU 120 は、第 1 変化演出を実行することに決定したことに基づいて、図 12-7 の（T 2）及び図 12-8（2）に示すように、変化禁止フラグをセットし、これより後に発生した始動入賞（第 1 保留記憶）を対象とした第 1 変化演出及び第 2 変化演出の実行を禁止する。第 1 変化演出及び第 2 変化演出の実行禁止期間は、第 1 変化演出の対象となる第 1 保留表示 30 T M 0 0 1 が表示されてから（第 2 変化演出の対象となる副保留表示 30 T M 0 0 4 が表示されてから）、当該第 1 保留表示 30 T M 0 0 1（当該副保留表示 30 T M 0 0 4）に対応した変動表示が終了するまでの期間（図 12-7 に示す T 2 から T 9 までの期間）としている。
30

【1497】

これにより、変化演出の禁止期間内において新たな始動入賞が発生した場合には、当該始動入賞に対応した通常態様の第 1 保留表示 30 T M 0 0 1（白色の丸形表示）が表示され、変化演出の禁止期間内に、その通常態様の第 1 保留表示が他の態様（例えば、特殊態様、青色態様、又は赤色態様）に変化することはない。また、変化禁止フラグがセットされていることに基づいて、第 2 変化演出の実行有無及び最終表示態様は決定されない（ステップ S 30 T M 1 0 20 で YES となりステップ S 30 T M 1 0 30 の処理は実行されない）ので、新たな始動入賞に対応した副保留表示 30 T M 0 0 4 及び副アクティブ表示 30 T M 0 0 5 が表示されることはない。
40

【1498】

なお、このような形態に限らず、変化演出の禁止期間内において新たな始動入賞が発生した場合には、当該新たな始動入賞に対応した通常態様の副保留表示 30 T M 0 0 4 は表示可能であるものの、その副保留表示 30 T M 0 0 4 の表示態様は変化しないようにしても良い。

【1499】

本例では、始動入賞に基づいて第 1 保留記憶数が 4 となっているため、第 1 保留表示領域 30 T M 1 0 1 に表示されている 4 番目の第 1 保留表示 30 T M 0 0 1、及び、副保留
50

表示領域 30TM104 に表示されている 4 番目の副保留表示 30TM004 が、第 1 変化演出及び第 2 変化演出による予告対象となる変動表示に対応した保留表示である。そして、変動表示時間が終了したことにもとづいて、図 12-8 (3) に示すように、画像表示装置 5 において飾り図柄の変動表示を終了する。

【1500】

次いで、演出制御用 CPU 120 は、図 12-8 (4) に示すように (図 12-7 に示す T3 のタイミング)、アクティブ表示領域 30TM103 に表示されているアクティブ表示 30TM003 を消去すると共に、第 1 保留表示領域 30TM101 に表示されている第 1 保留表示 30TM001 を 1 つずつアクティブ表示領域 30TM103 側にシフト表示し、これと同時に、副アクティブ表示領域 30TM105 に表示されている副アクティブ表示 30TM005 を消去すると共に、副保留表示領域 30TM104 に表示されている副保留表示 30TM004 を 1 つずつ副アクティブ表示領域 30TM105 側にシフト表示して、画像表示装置 5 において次の変動表示を開始する。

10

【1501】

このシフト表示において、最もアクティブ表示領域 30TM103 に近い位置に第 1 保留表示として表示されていた通常態様の第 1 保留表示 30TM001 が、アクティブ表示領域 30TM103 にシフトしてアクティブ表示 30TM003 として表示されることになる。また、このシフト表示において、最も副アクティブ表示領域 30TM105 に近い位置に副保留表示として表示されていた通常態様の副保留表示 30TM004 が、副アクティブ表示領域 30TM105 にシフトして副アクティブ表示 30TM005 として表示されることになる。

20

【1502】

ここで、演出制御用 CPU 120 は、図 12-8 (4) に示すように (図 12-7 に示す T3 のタイミング)、変動表示を開始するときに、第 1 変化演出の変化パターン 407 に基づいて、その予告対象の第 1 保留表示を通常態様から特殊態様 (本例では白色の三角形表示である第 1 保留表示 30TM001a) に変化させる。そして、変動表示時間が終了したことにもとづいて、図 12-8 (5) に示すように、画像表示装置 5 において飾り図柄の変動表示を終了する。

【1503】

次いで、演出制御用 CPU 120 は、図 12-8 (6) に示すように (図 12-7 に示す T4 のタイミング)、アクティブ表示領域 30TM103 に表示されているアクティブ表示 30TM003 を消去すると共に、第 1 保留表示領域 30TM101 に表示されている第 1 保留表示 (通常態様の第 1 保留表示 30TM001 及び特殊態様の第 1 保留表示 30TM001a) を 1 つずつアクティブ表示領域 30TM103 側にシフト表示し、これと同時に、副アクティブ表示領域 30TM105 に表示されている副アクティブ表示 30TM005 を消去すると共に、副保留表示領域 30TM104 に表示されている副保留表示 (通常態様の副保留表示 30TM004 (白色の星形表示)) を 1 つずつ副アクティブ表示領域 30TM105 側にシフト表示して、画像表示装置 5 において次の変動表示を開始する。

30

【1504】

ここで、演出制御用 CPU 120 は、図 12-8 (6) に示すように (図 12-7 に示す T4 のタイミング)、変動表示を開始するときに、第 1 変化演出の変化パターン 407 に基づいて、その予告対象の第 1 保留表示を特殊態様から青色態様 (本例では青色の丸形表示である第 1 保留表示 30TM001b) に変化させ、第 2 変化演出の変化パターン 906 に基づいて、その予告対象の副保留表示を通常態様から青色態様 (本例では青色の星形表示である副保留表示 30TM004b) に変化させる。そして、変動表示時間が終了したことにもとづいて、図 12-8 (7) に示すように、画像表示装置 5 において飾り図柄の変動表示を終了する。

40

【1505】

次いで、演出制御用 CPU 120 は、図 12-8 (8) に示すように (図 12-7 に示

50

すT5のタイミング)、アクティブ表示領域30TM103に表示されているアクティブ表示30TM003を消去すると共に、第1保留表示領域30TM101に表示されている第1保留表示(通常態様の第1保留表示30TM001及び青色態様の第1保留表示30TM001b)を1つずつアクティブ表示領域30TM103側にシフト表示し、これと同時に、副アクティブ表示領域30TM105に表示されている副アクティブ表示30TM005を消去すると共に、副保留表示領域30TM104に表示されている副保留表示(通常態様の副保留表示30TM004(白色の星形表示)及び青色態様の副保留表示30TM004b(青色の星形表示))を1つずつ副アクティブ表示領域30TM105側にシフト表示して、画像表示装置5において次の変動表示を開始する。

【1506】

10

ここで、演出制御用CPU120は、図12-8(8)に示すように(図12-7に示すT5のタイミング)、変動表示を開始するときに、第1変化演出の変化パターン407に基づいて、その予告対象の第1保留表示を青色態様から赤色態様(本例では赤色の丸形表示である第1保留表示30TM001c)に変化させ、第2変化演出の変化パターン906に基づいて、その予告対象の副保留表示を青色態様から赤色態様(本例では赤色の星形表示である副保留表示30TM004c)に変化させる。そして、変動表示時間が終了したことにもとづいて、図12-9(9)に示すように、画像表示装置5において飾り図柄の変動表示を終了する。

【1507】

20

次いで、演出制御用CPU120は、図12-9(10)に示すように(図12-7に示すT6のタイミング)、アクティブ表示領域30TM103に表示されているアクティブ表示30TM003を消去すると共に、第1保留表示領域30TM101に表示されている第1保留表示(赤色態様の第1保留表示30TM001c(赤色の丸形表示))をアクティブ表示領域30TM103側にシフト表示し、これと同時に、副アクティブ表示領域30TM105に表示されている副アクティブ表示30TM005を消去すると共に、副保留表示領域30TM104に表示されている副保留表示(赤色態様の副保留表示30TM004c(赤色の星形表示))を副アクティブ表示領域30TM105にシフト表示して、画像表示装置5において次の変動表示を開始する。

【1508】

30

そして、演出制御用CPU120は、第1変化演出のターゲットとなった変動表示が実行された後(第1変化演出のターゲットとなった変動表示に対応したアクティブ表示30TM003が表示された後)、図12-7のT7からT8に示す期間内に、アクティブ表示領域30TM103において、赤色態様のアクティブ表示30TM003cを最終表示態様(本例では金色)まで変化させる。なお、シフト表示後にアクティブ表示領域30TM103に表示されているアクティブ表示30TM003の表示態様を変化させる変化パターンに関しては、図12-16を用いて後述する。また、アクティブ表示30TM003の表示態様を変化させる際には、後述する変化示唆演出が実行される場合がある。

【1509】

なお、シフト表示直後に副アクティブ表示30TM005が最終表示態様となっていない場合には、図12-7のT7からT8に示す期間内に、副アクティブ表示領域30TM105において、副アクティブ表示30TM005を最終表示態様まで変化させる。例えば、始動入賞時に決定された副アクティブ表示30TM005の最終表示態様が赤色態様であり、シフト表示直後に副アクティブ表示30TM005が青色態様で表示されている場合には、当該予告ターゲットの変動表示において、副アクティブ表示30TM005を青色態様から赤色態様に変化させる。

40

【1510】

その後、図12-9(11)に示すように(図12-7のT8に示すタイミング)、左図柄表示領域及び右図柄表示領域に同一の飾り図柄(本例では「7」)が停止したリーチ状態が成立し、「リーチ!!」という文字が画面下部、即ち第1保留表示領域30TM101及びアクティブ表示領域30TM103と重複する領域、に表示されるリーチ演出が

50

実行される。ここで、リーチ状態が成立するタイミングで、第1保留表示30TM001及び第2保留表示30TM002、並びにアクティブ表示30TM003は非表示となるので、リーチ演出の視認性が低下して興味が低下することを防止することができる。第1保留表示30TM001及びアクティブ表示30TM003は、当該予告対象の変動表示が終了するまで（図12-7のT9に示すタイミングまで）表示されない。

【1511】

このように、画面下部においてリーチ演出が実行されることに伴い、リーチ演出が実行される領域と少なくとも一部の表示領域が共通である第1保留表示30TM001及びアクティブ表示30TM003は非表示となる。一方で、リーチ演出が実行される領域とは異なる領域に表示される副保留表示30TM004及び副アクティブ表示に関しては、リーチ演出が実行されている期間も継続して画面上部に表示可能となっており、遊技者はこれらを視認可能である。これにより、遊技者はリーチ演出の実行期間中も保留記憶数を容易に把握可能であると共に、副保留表示30TM004及び副アクティブ表示の表示態様を把握可能となっている。

10

【1512】

（第1変化演出のみを実行する具体例）

次に、始動入賞時に第1変化演出のみを実行することに決定した場合の具体例に関して、図12-10～図12-12を用いて説明する。図12-10は、第1変化演出のみを実行するときのタイムチャートであり、図12-11及び図12-12は、第1変化演出のみを実行するときに画像表示装置5に表示される演出画像の一例を示す説明図である。

20

【1513】

まず、図12-11（1）は、第1保留記憶数が3の状態、画像表示装置5において左中右の飾り図柄の変動表示（図12-10に示すT1のタイミングで開始された変動表示）を実行している状態を示している。このとき、アクティブ表示領域30TM103には、通常態様のアクティブ表示30TM003（白色の丸形表示）が表示され、第1保留表示領域30TM101には、通常態様の第1保留表示30TM001（白色の丸形表示）が3つ表示されている。

【1514】

そして、画像表示装置5において左中右の飾り図柄の変動表示を実行しているときに、図12-11（2）に示すように（図12-10に示すT2のタイミング）、新たに入賞球装置6Aへの始動入賞が発生し、演出制御用CPU120が、第1変化演出のみを実行することに決定したものとする。前述したように、演出制御用CPU120は、第1変化演出を実行することに決定した場合には、判定対象となった始動入賞に対応したアクティブ表示30TM003の最終表示態様（本例では金色態様）、及び、第1変化演出の変化パターン（本例では変化パターン407）を決定する。また、本例では、副保留表示30TM004及び副アクティブ表示30TM005を表示しない（そのため第2変化演出も実行しない）ことに決定したものとする。また、このとき第1保留記憶数が4であることに基づいて、先読みカウンタの値として4をセットする。即ち、先読みカウンタの値は、先読み予告演出のターゲットとなる変動表示が実行されるまでの残りの変動表示回数を示している。

30

40

【1515】

また、演出制御用CPU120は、始動入賞時の判定により、副保留表示30TM004及び副アクティブ表示30TM005を表示しないことに決定したことに基づいて、副保留表示30TM004及び副アクティブ表示30TM005を表示せず、また、副アクティブ表示領域30TM105を示すガイド（四角の枠）も表示しない。

【1516】

さらに、演出制御用CPU120は、第1変化演出を実行することに決定したことに基づいて、図12-10の（T2）及び図12-11（2）に示すように、変化禁止フラグをセットし、これより後に発生した始動入賞（第1保留記憶）を対象とした第1変化演出及び第2変化演出の実行を禁止する。第1変化演出及び第2変化演出の実行禁止期間は、

50

第1変化演出の対象となる第1保留表示30TM001が表示されてから、当該第1保留表示30TM001に対応した変動表示が終了するまでの期間（図12-10に示すT2からT9までの期間）としている。

【1517】

これにより、変化演出の禁止期間内において新たな始動入賞が発生した場合には、当該始動入賞に対応した通常態様の第1保留表示30TM001（白色の丸形表示）が表示され、変化演出の禁止期間内に、その通常態様の第1保留表示が他の態様（例えば、特殊態様、青色態様、又は赤色態様）に変化することはない。また、変化禁止フラグがセットされていることに基づいて、第2変化演出の実行有無及び最終表示態様は決定されない（ステップS30TM1020でYESとなりステップS30TM1030の処理は実行されない）ので、新たな始動入賞に対応した副保留表示30TM004及び副アクティブ表示30TM005が表示されることはない。

10

【1518】

なお、このような形態に限らず、変化演出の禁止期間内において新たな始動入賞が発生した場合には、当該新たな始動入賞に対応した通常態様の副保留表示30TM004は表示可能であるものの、その副保留表示30TM004の表示態様は変化しないようにしても良い。

【1519】

本例では、始動入賞に基づいて第1保留記憶数が4となっているため、第1保留表示領域30TM101に表示されている4番目の第1保留表示30TM001が、第1変化演出による予告対象となる変動表示に対応した保留表示である。そして、変動表示時間が終了したことにもとづいて、図12-11（3）に示すように、画像表示装置5において飾り図柄の変動表示を終了する。

20

【1520】

次いで、演出制御用CPU120は、図12-11（4）に示すように（図12-10に示すT3のタイミング）、アクティブ表示領域30TM103に表示されているアクティブ表示30TM003を消去すると共に、第1保留表示領域30TM101に表示されている第1保留表示30TM001を1つずつアクティブ表示領域30TM103側にシフト表示して、画像表示装置5において次の変動表示を開始する。

【1521】

30

このシフト表示において、最もアクティブ表示領域30TM103に近い位置に第1保留表示として表示されていた通常態様の第1保留表示30TM001が、アクティブ表示領域30TM103にシフトしてアクティブ表示30TM003として表示されることになる。

【1522】

ここで、演出制御用CPU120は、図12-11（4）に示すように（図12-10に示すT3のタイミング）、変動表示を開始するときに、第1変化演出の変化パターン407に基づいて、その予告対象の第1保留表示を通常態様から特殊態様（本例では白色の三角形表示である第1保留表示30TM001a）に変化させる。そして、変動表示時間が終了したことにもとづいて、図12-11（5）に示すように、画像表示装置5において飾り図柄の変動表示を終了する。

40

【1523】

次いで、演出制御用CPU120は、図12-11（6）に示すように（図12-10に示すT4のタイミング）、アクティブ表示領域30TM103に表示されているアクティブ表示30TM003を消去すると共に、第1保留表示領域30TM101に表示されている第1保留表示（通常態様の第1保留表示30TM001及び特殊態様の第1保留表示30TM001a）を1つずつアクティブ表示領域30TM103側にシフト表示して、画像表示装置5において次の変動表示を開始する。

【1524】

ここで、演出制御用CPU120は、図12-11（6）に示すように（図12-10

50

に示すT4のタイミング)、変動表示を開始するときに、第1変化演出の変化パターン407に基づいて、その予告対象の第1保留表示を特殊態様から青色態様(本例では青色の丸形表示である第1保留表示30TM001b)に変化させる。そして、変動表示時間が終了したことにもとづいて、図12-11(7)に示すように、画像表示装置5において飾り図柄の変動表示を終了する。

【1525】

次いで、演出制御用CPU120は、図12-11(8)に示すように(図12-10に示すT5のタイミング)、アクティブ表示領域30TM103に表示されているアクティブ表示30TM003を消去すると共に、第1保留表示領域30TM101に表示されている第1保留表示(通常態様の第1保留表示30TM001及び青色態様の第1保留表示30TM001b)を1つずつアクティブ表示領域30TM103側にシフト表示して、画像表示装置5において次の変動表示を開始する。

10

【1526】

ここで、演出制御用CPU120は、図12-11(8)に示すように(図12-10に示すT5のタイミング)、変動表示を開始するときに、第1変化演出の変化パターン407に基づいて、その予告対象の第1保留表示を青色態様から赤色態様(本例では赤色の丸形表示である第1保留表示30TM001c)に変化させる。そして、変動表示時間が終了したことにもとづいて、図12-12(9)に示すように、画像表示装置5において飾り図柄の変動表示を終了する。

【1527】

20

次いで、演出制御用CPU120は、図12-12(10)に示すように(図12-10に示すT6のタイミング)、アクティブ表示領域30TM103に表示されているアクティブ表示30TM003を消去すると共に、第1保留表示領域30TM101に表示されている第1保留表示(赤色態様の第1保留表示30TM001c(赤色の丸形表示))をアクティブ表示領域30TM103側にシフト表示して、画像表示装置5において次の変動表示を開始する。

【1528】

そして、演出制御用CPU120は、第1変化演出のターゲットとなった変動表示が実行された後(第1変化演出のターゲットとなった変動表示に対応したアクティブ表示30TM003が表示された後)、図12-10のT7からT8に示す期間内に、アクティブ表示領域30TM103において、赤色態様のアクティブ表示30TM003cを最終表示態様(本例では金色)まで変化させる。

30

【1529】

その後、図12-12(11)に示すように(図12-10のT8に示すタイミング)、左図柄表示領域及び右図柄表示領域に同一の飾り図柄(本例では「7」)が停止したリーチ状態が成立し、「リーチ!!」という文字が画面下部、即ち第1保留表示領域30TM101及びアクティブ表示領域30TM103と重複する領域、に表示されるリーチ演出が実行される。ここで、リーチ状態が成立するタイミングで、第1保留表示30TM001及び第2保留表示30TM002、並びにアクティブ表示30TM003は非表示となる。第1保留表示30TM001及びアクティブ表示30TM003は、当該予告対象の変動表示が終了するまで(図12-10のT9に示すタイミングまで)表示されない。

40

【1530】

以上に示したように、始動入賞時に第1変化演出のみを実行することに決定された場合には、当該第1変化演出の対象となる変動表示が終了するまでの期間は、新たな始動入賞に基づく第1変化演出は実行されず、また、新たな始動入賞に基づく第2変化演出も実行されないことになる。このように、視認性の高い第1保留表示領域30TM101において第1保留表示30TM001の表示態様を一旦変化させた後(通常態様とは異なる態様とした後)は、その後新たな始動入賞が発生した場合でも、視認性の低い副保留表示領域30TM104において当該新たな始動入賞に基づく第2変化演出を実行しないようにすることで、視認性の高い第1変化演出に遊技者を注目させて、第1変化演出の対象となっ

50

ている変動表示とは異なる変動表示を対象とした第2変化演出が実行されることによる演出の複雑化を防止するようにしている。

【1531】

なお、この実施形態では、第1変化演出の実行後（第1保留表示30TM001が通常態様とは異なる態様で表示されている期間）に、新たな始動入賞が発生した場合には、当該新たな始動入賞に対応した第1変化演出及び第2変化演出の実行を禁止する例を示したが、このような形態に限らず、第1変化演出の実行後（第1保留表示30TM001が通常態様とは異なる態様で表示されている期間）に、新たな始動入賞が発生した場合には、当該新たな始動入賞に対応した第1変化演出及び第2変化演出の実行は可能であるものの、そのときの第1変化演出及び第2変化演出の実行割合を、第1変化演出の実行前（第1保留表示30TM001が通常態様で表示されている期間）よりも低下させるようにしても良い。

10

【1532】

また、第1変化演出の実行後（第1保留表示30TM001が通常態様とは異なる態様で表示されている期間）に、新たな始動入賞が発生した場合、第2変化演出に限らず他の予告演出の実行を制限するようにしても良い。例えば、当該新たな始動入賞に基づく変動表示が実行されるまでの残り変動表示回数を変動表示が実行される毎に画像表示装置5に表示する（例えば、第1保留記憶数が3から0に1ずつ減算することに伴い、「3」、「2」、「1」、「0」と表示する）カウントダウン演出を実行しないようにしても良い。また、当該新たな始動入賞に基づく変動表示が実行されるまで背景画像を特別態様に变化させる背景変化演出を実行しないようにしても良い。

20

【1533】

また、この実施形態では、第1変化演出の実行後（第1保留表示30TM001が通常態様とは異なる態様で表示されている期間）に、新たな始動入賞が発生した場合には、当該新たな始動入賞に対応した第1変化演出及び第2変化演出の両方の実行を禁止する例を示したが、このような形態に限らず、第1変化演出の実行後（第1保留表示30TM001が通常態様とは異なる態様で表示されている期間）に、新たな始動入賞が発生した場合には、当該新たな始動入賞に対応した第1変化演出は実行可能であるが当該新たな始動入賞に対応した第2変化演出は実行させない（当該新たな始動入賞に対応した副保留表示30TM004自体を表示させない、あるいは、当該新たな始動入賞に対応した副保留表示30TM004は表示されるもののその表示態様を通常態様のまま変化させない）ようにしても良い。

30

【1534】

（第1変化演出及び第2変化演出に関する変形例）

上記実施形態では、第1変化演出において第1保留表示30TM001がシフト表示されるタイミングでその態様を変化させ、第2変化演出において副保留表示30TM004がシフト表示されるタイミングでその態様を変化させる例を示したが、そのような形態に限らず、第1保留表示30TM001に作用する第1保留作用演出を実行したことに応じて第1保留表示30TM001の態様を変化させ、副保留表示30TM004に作用する副保留作用演出を実行したことに応じて副保留表示30TM004の態様を変化させるようにしても良い。

40

【1535】

図12-13、図12-14、及び図12-15は、第1変化演出において第1保留作用演出を実行し、第2変化演出において副保留作用演出を実行する場合の具体例である。

【1536】

まず、図12-13（1）は、第1保留記憶数が3の状態、画像表示装置5において左中右の飾り図柄の変動表示を実行している状態を示している。このとき、アクティブ表示領域30TM103には、通常態様のアクティブ表示30TM003（白色の丸形表示）が表示され、第1保留表示領域30TM101には、通常態様の第1保留表示30TM001（白色の丸形表示）が3つ表示されている。なお、このとき副保留表示30TM0

50

04は表示されておらず、副アクティブ表示30TM005も表示されていない。また、副アクティブ表示領域30TM105を示すガイド（四角の枠）も表示されていない。

【1537】

そして、画像表示装置5において左中右の飾り図柄の変動表示を実行しているときに、図12-13（2）に示すように、新たに入賞球装置6Aへの始動入賞が発生し、演出制御用CPU120が、第1変化演出及び第2変化演出の両方を実行することに決定したものとする。前述したように、演出制御用CPU120は、第1変化演出を実行することに決定した場合には、判定対象となった始動入賞に対応したアクティブ表示30TM003の最終表示態様（本例では金色態様）、及び、第1変化演出の変化パターン（本例では変化パターン407）を決定し、第2変化演出を実行することに決定した場合には、判定対象となった始動入賞に対応した副アクティブ表示30TM005の最終表示態様（本例では赤色態様）、及び、第2変化演出の変化パターン（本例では変化パターン906）を決定する。また、このとき第1保留記憶数が4であることに基づいて、先読みカウンタの値として4をセットする。即ち、先読みカウンタの値は、先読み予告演出のターゲットとなる変動表示が実行されるまでの残りの変動表示回数を示している。

10

【1538】

また、演出制御用CPU120は、第2変化演出を実行することに決定したことに基づいて、副アクティブ表示領域30TM105に通常態様の副アクティブ表示30TM005（白色の星形表示）を表示すると共に、副アクティブ表示領域30TM105を示すガイド（四角の枠）を表示する。また、第1保留記憶数が4であることに基づいて、副保留表示領域30TM104に通常態様の副保留表示30TM004（白色の星形表示）を4つ表示する。

20

【1539】

本例では、始動入賞に基づいて第1保留記憶数が4となっているため、第1保留表示領域30TM101に表示されている4番目の第1保留表示30TM001、及び、副保留表示領域30TM104に表示されている4番目の副保留表示30TM004が、第1変化演出及び第2変化演出による予告対象となる変動表示に対応した保留表示である。そして、変動表示時間が終了したことに基づいて、図12-13（3）に示すように、画像表示装置5において飾り図柄の変動表示を終了する。

【1540】

30

次いで、演出制御用CPU120は、図12-13（4）に示すように、アクティブ表示領域30TM103に表示されているアクティブ表示30TM003を消去すると共に、第1保留表示領域30TM101に表示されている第1保留表示30TM001を1つずつアクティブ表示領域30TM103側にシフト表示し、これと同時に、副アクティブ表示領域30TM105に表示されている副アクティブ表示30TM005を消去すると共に、副保留表示領域30TM104に表示されている副保留表示30TM004を1つずつ副アクティブ表示領域30TM105側にシフト表示して、画像表示装置5において次の変動表示を開始する。

【1541】

このシフト表示において、最もアクティブ表示領域30TM103に近い位置に第1保留表示として表示されていた通常態様の第1保留表示30TM001が、アクティブ表示領域30TM103にシフトしてアクティブ表示30TM003として表示されることになる。また、このシフト表示において、最も副アクティブ表示領域30TM105に近い位置に副保留表示として表示されていた通常態様の副保留表示30TM004が、副アクティブ表示領域30TM105にシフトして副アクティブ表示30TM005として表示されることになる。

40

【1542】

ここで、演出制御用CPU120は、変動表示を開始するときに、第1変化演出の変化パターン407に基づいて、当該変動表示の実行中に予告対象の第1保留表示を通常態様から特殊態様（本例では白色の三角形表示である第1保留表示30TM001a）に変化

50

させることを認識する。これに伴い、演出制御用CPU120は、第1保留作用演出を実行すること、また実行する第1保留作用演出の種類（キャラクタの種別）を決定する。本例では、キャラクタAが登場する第1保留作用演出（作用演出A）を実行することに決定したものとす。

【1543】

演出制御用CPU120は、その決定結果に基づいて、第1保留作用演出（作用演出A）を実行する。図12-13（4）に示す例では、キャラクタAが登場して、予告対象の第1保留表示30TM001に向かってボールを投げるような態様の演出が実行されている。キャラクタAが投げたボールが、対象の第1保留表示30TM001に当たる画像が表示されることによって、その第1保留表示30TM001の態様を変化することを遊技者に期待させることができる。

10

【1544】

次いで、演出制御用CPU120は、図12-13（5）に示すように、第1保留作用演出（作用演出A）を実行したことに応じて、予告対象の第1保留表示を通常態様から特殊態様（本例では白色の三角形表示である第1保留表示30TM001a）に変化させる。そして、変動表示時間が終了したことにともづいて、図12-13（6）に示すように、画像表示装置5において飾り図柄の変動表示を終了する。

【1545】

次いで、演出制御用CPU120は、図12-13（7）に示すように、アクティブ表示領域30TM103に表示されているアクティブ表示30TM003を消去すると共に、第1保留表示領域30TM101に表示されている第1保留表示（通常態様の第1保留表示30TM001及び特殊態様の第1保留表示30TM001a）を1つずつアクティブ表示領域30TM103側にシフト表示し、これと同時に、副アクティブ表示領域30TM105に表示されている副アクティブ表示30TM005を消去すると共に、副保留表示領域30TM104に表示されている副保留表示（通常態様の副保留表示30TM004（白色の星形表示））を1つずつ副アクティブ表示領域30TM105側にシフト表示して、画像表示装置5において次の変動表示を開始する。

20

【1546】

ここで、演出制御用CPU120は、変動表示を開始するときに、第1変化演出の変化パターン407に基づいて、当該変動表示の実行中に予告対象の第1保留表示を特殊態様から青色態様（本例では青色の丸形表示である第1保留表示30TM001b）に変化させることを認識する。これに伴い、演出制御用CPU120は、第1保留作用演出を実行すること、また実行する第1保留作用演出の種類（キャラクタの種別）を決定する。本例では、キャラクタBが登場する第1保留作用演出（作用演出B）を実行することに決定したものとす。

30

【1547】

また、演出制御用CPU120は、変動表示を開始するときに、第2変化演出の変化パターン906に基づいて、当該変動表示の実行中に予告対象の副保留表示を通常態様から青色態様（本例では青色の星形表示である副保留表示30TM004b）に変化させることを認識する。これに伴い、演出制御用CPU120は、副保留作用演出を実行すること、また実行する副保留作用演出の種類（キャラクタの種別）を決定する。本例では、キャラクタaが登場する副保留作用演出（作用演出a）を実行することに決定したものとす。

40

【1548】

演出制御用CPU120は、これらの決定結果に基づいて、まず第1保留作用演出（作用演出B）を実行する。図12-13（7）に示す例では、キャラクタBが登場して、予告対象の第1保留表示30TM001aに向かってボールを投げるような態様の演出が実行されている。キャラクタBが投げたボールが、予告対象の第1保留表示30TM001aに当たる画像が表示されることによって、その第1保留表示30TM001aの態様を変化することを遊技者に期待させることができる。

50

【1549】

次いで、演出制御用CPU120は、図12-13(8)に示すように、第1保留作用演出(作用演出B)を実行したことに応じて、予告対象の第1保留表示を特殊態様から青色態様(本例では青色の丸形表示である第1保留表示30TM001b)に変化させる。

【1550】

演出制御用CPU120は、同じ変動表示期間内で、次に副保留作用演出(作用演出a)を実行する。図12-14(9)に示す例では、キャラクタaが登場して、予告対象の副保留表示30TM004に向かって風船を飛ばすような態様の演出が実行されている。図12-14(10)及び図12-15(11)に示すように、キャラクタaが飛ばした風船が、予告対象の副保留表示30TM004に向かって飛んでゆき、副保留表示30TM004の位置に到達する画像が表示されることによって、その副保留表示30TM004の態様を変化することを遊技者に期待させることができる。

10

【1551】

本例では、図12-14(11)及び(12)に示すように、予告対象の副保留表示30TM004の位置に風船が到達すると、その副保留表示30TM004の態様が風船形(副保留表示30TM004F)に変化する。続けて、その風船が割れた画像(副保留表示30TM004G)が表示される。そして、演出制御用CPU120は、図12-14(13)及び(14)に示すように、副保留作用演出(作用演出a)を実行したことに応じて、予告対象の副保留表示を通常態様から青色態様(本例では青色の星形表示である副保留表示30TM004b)に変化させる。そして、変動表示時間が終了したことにもとづいて、図12-14(15)に示すように、画像表示装置5において飾り図柄の変動表示を終了する。

20

【1552】

次いで、演出制御用CPU120は、図12-14(16)に示すように、アクティブ表示領域30TM103に表示されているアクティブ表示30TM003を消去すると共に、第1保留表示領域30TM101に表示されている第1保留表示(通常態様の第1保留表示30TM001及び青色態様の第1保留表示30TM001b)を1つずつアクティブ表示領域30TM103側にシフト表示し、これと同時に、副アクティブ表示領域30TM105に表示されている副アクティブ表示30TM005を消去すると共に、副保留表示領域30TM104に表示されている副保留表示(通常態様の副保留表示30TM004(白色の星形表示)及び青色態様の副保留表示30TM004b(青色の星形表示))を1つずつ副アクティブ表示領域30TM105側にシフト表示して、画像表示装置5において次の変動表示を開始する。

30

【1553】

ここで、演出制御用CPU120は、変動表示を開始するときに、第1変化演出の変化パターン407に基づいて、当該変動表示の実行中に予告対象の第1保留表示を青色態様から赤色態様(本例では赤色の丸形表示である第1保留表示30TM001c)に変化させることを認識する。これに伴い、演出制御用CPU120は、第1保留作用演出を実行すること、また実行する第1保留作用演出の種類(キャラクタの種別)を決定する。本例では、キャラクタCが登場する第1保留作用演出(作用演出C)を実行することに決定したものとす。

40

【1554】

また、演出制御用CPU120は、変動表示を開始するときに、第2変化演出の変化パターン906に基づいて、当該変動表示の実行中に予告対象の副保留表示を青色態様から赤色態様(本例では赤色の星形表示である副保留表示30TM004c)に変化させることを認識する。これに伴い、演出制御用CPU120は、副保留作用演出を実行すること、また実行する副保留作用演出の種類(キャラクタの種別)を決定する。本例では、キャラクタbが登場する副保留作用演出(作用演出b)を実行することに決定したものとす。

【1555】

50

演出制御用CPU120は、これらの決定結果に基づいて、まず第1保留作用演出（作用演出C）を実行する。図12-15（17）に示す例では、キャラクタCが登場して、予告対象の第1保留表示30TM001bに向かってボールを投げるような態様の演出が実行されている。キャラクタCが投げたボールが、予告対象の第1保留表示30TM001bに当たる画像が表示されることによって、その第1保留表示30TM001bの態様

【1556】

次いで、演出制御用CPU120は、図12-15（18）に示すように、第1保留作用演出（作用演出C）を実行したことに応じて、予告対象の第1保留表示を青色態様から赤色態様（本例では赤色の丸形表示である第1保留表示30TM001c）に変化させる。

10

【1557】

演出制御用CPU120は、同じ変動表示期間内で、次に副保留作用演出（作用演出b）を実行する。図12-15（19）に示す例では、キャラクタbが登場して、予告対象の副保留表示30TM004bに向かって風船を飛ばすような態様の演出が実行されている。図12-15（20）及び図12-15（21）に示すように、キャラクタbが飛ばした風船が、予告対象の副保留表示30TM004bに向かって飛んでゆき、副保留表示30TM004bの位置に到達する画像が表示されることによって、その副保留表示30TM004bの態様

【1558】

20

本例では、図12-15（21）及び（22）に示すように、予告対象の副保留表示30TM004bの位置に風船が到達すると、その副保留表示30TM004bの態様が風船形（副保留表示30TM004F）に変化する。続けて、その風船が割れた画像（副保留表示30TM004G）が表示される。そして、演出制御用CPU120は、図12-15（23）及び（24）に示すように、副保留作用演出（作用演出b）を実行したことに応じて、予告対象の副保留表示を青色態様から赤色態様（本例では赤色の星形表示である副保留表示30TM004c）に変化させる。。

【1559】

このように、第1保留表示の態様を変化させる際に実行される第1保留作用演出と、副保留表示の態様を変化させる際に実行される副保留作用演出とで、演出態様が異なることにより、複数種類の保留対応表示（第1保留表示及び副保留表示）が存在することによる

30

興味を一層向上させることができる。

【1560】

なお、図12-13～図12-15に示したように、キャラクタが出現してアイコンに対してアクションを行う演出を、アクティブ表示の表示態様を変化させる際に実行するようにしても良く、また、副アクティブ表示の表示態様を変化させる際に実行するようにしても良い。例えば、アクティブ表示30TM003が通常態様で表示されているときに、キャラクタAが出現してアクティブ表示30TM003に向かってボールを投げるアクションを行うアクティブ作用演出を実行したことに応じて、アクティブ表示30TM003の表示態様を通常態様から他の態様（特殊態様、青色態様、緑色態様、赤色態様、金色態様）に変化させるようにしても良い。また、副アクティブ表示30TM005が通常態様で表示されているときに、キャラクタaが出現して副アクティブ表示30TM005に向かって風船を飛ばすアクションを行う副アクティブ作用演出を実行したことに応じて、副アクティブ表示30TM005の表示態様を通常態様から他の態様（青色態様、赤色態様）に変化させるようにしても良い。このように、アクティブ表示の態様を変化させる際に実行されるアクティブ作用演出と、副アクティブ表示の態様を変化させる際に実行される副アクティブ作用演出とで、演出態様が異なることにより、複数種類の変動対応表示（アクティブ表示及び副アクティブ表示）が存在することによる興味を一層向上させることができる。

40

【1561】

50

上記の実施形態において、パチンコ遊技機1に関する現在の設定値(1~6)に応じて、第1変化演出の実行割合や第2変化演出の実行割合が異なるようにしても良い。例えば、設定値が低い(1~3)場合と比較して、設定値が高い(4~6)場合の方が、第1保留表示30TM001が通常態様とは異なる態様で表示される割合が高く、また、副保留表示30TM004が通常態様とは異なる態様で表示される割合(あるいは、副保留表示30TM004及び副アクティブ表示30TM005自体が表示される割合)が高いようにしても良い。また、設定値が低い(1~3)場合と比較して、設定値が高い(4~6)場合の方が、第1保留表示30TM001の表示色の変化回数が多い(例えば3回である)変化パターンが選択される割合が高く、副保留表示30TM004の表示色の変化回数が多い(例えば2回である)変化パターンが選択される割合が高いようにしても良い。

10

【1562】

(アクティブ変化演出及び変化示唆演出)

この実施の形態では、演出制御用CPU120は、始動入賞が発生したときにアクティブ表示の最終表示態様を決定しているが、前述したようにアクティブシフト時のアクティブ表示の表示態様が最終表示態様とは異なる場合には、アクティブ表示の表示態様を変化させるアクティブ変化演出を実行することになる。

【1563】

ここで、アクティブ表示の表示態様を変化させる場合(アクティブ変化演出を実行する場合)、及び、アクティブ表示の表示態様を変化させない場合(アクティブ変化演出を実行しない場合)において、アクティブ表示の表示態様を変化させる可能性があることを示唆する変化示唆演出を実行可能である。この変化示唆演出には、成功態様と、失敗態様とがあり、以下に示す例では、成功態様の変化示唆演出が実行された場合には、アクティブ表示の表示態様を変化させ、失敗態様の変化示唆演出が実行された場合には、アクティブ表示の表示態様を変化させないものとする。

20

【1564】

演出制御用CPU120は、変動表示の開始に伴うアクティブシフトを行ったときに、アクティブシフト時のアクティブ表示の表示態様と、始動入賞が発生したときに決定したアクティブ表示の最終表示態様と、が異なる場合には、当該変動表示の実行中にアクティブ変化演出及び変化示唆演出を実行することにより、当該変動表示の期間内にアクティブ表示をアクティブシフト時の表示態様から最終表示態様まで変化させる。

30

【1565】

この場合に、演出制御用CPU120は、変動表示を開始するときに、アクティブ表示をアクティブシフト時の表示態様から最終表示態様まで変化させる変化パターンを決定する。図12-16は、アクティブ表示の変化パターンを決定するためのテーブルの具体例を示す説明図である。この実施の形態では、アクティブ表示の最終表示態様としての特殊態様、青色態様、緑色態様、赤色態様、及び、金色態様に対して、それぞれ判定値が割り振られている。なお、図12-16における「○」の表示は、成功態様の変化示唆演出が実行されることを示しており、「?」の表示は、失敗態様の変化示唆演出が実行されることを示している。

【1566】

40

演出制御用CPU120は、アクティブシフト時のアクティブ表示が通常態様である場合には、図12-16(A)に示すように、通常態様用のアクティブ表示変化パターン決定テーブルを選択する。図12-16(A)に示すように、通常態様用のアクティブ表示変化パターン決定テーブルには、最終表示態様が特殊態様である場合において、変化パターン011が100%の確率で選択されるように判定値が割り振られている。変化パターン011における変化示唆演出の実行回数は2回であり、そのうち成功態様が1回、失敗態様が1回である。変化パターン011は、アクティブシフト時にアクティブ表示を通常態様で表示した後、成功態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を特殊態様に変化させ、その後に失敗態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を特殊態様のまま変化させない変化パターンである。

50

【1567】

最終表示態様が青色態様である場合において、変化パターン012が60%、変化パターン013が40%の確率で選択されるように判定値が割り振られている。変化パターン012、変化パターン013における変化示唆演出の実行回数は3回であり、そのうち成功態様が2回、失敗態様が1回である。変化パターン012は、アクティブシフト時にアクティブ表示を通常態様で表示した後、成功態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を特殊態様に変化させ、その後に成功態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を青色態様に変化させ、その後に失敗態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を青色態様のまま変化させない変化パターンであり、変化パターン013は、アクティブシフト時にアクティブ表示を通常態様で表示した後、成功態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を特殊態様に変化させ、その後に失敗態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を特殊態様のまま変化させず、その後に成功態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を青色態様に変化させる変化パターンである。

10

【1568】

最終表示態様が緑色態様である場合において、変化パターン014が70%、変化パターン015が30%の確率で選択されるように判定値が割り振られている。変化パターン014、変化パターン015における変化示唆演出の実行回数は4回であり、そのうち成功態様が3回、失敗態様が1回である。変化パターン014は、アクティブシフト時にアクティブ表示を通常態様で表示した後、成功態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を特殊態様に変化させ、その後に成功態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を青色態様に変化させ、その後に成功態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を緑色態様に変化させ、その後に失敗態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を緑色態様のまま変化させない変化パターンであり、変化パターン015は、アクティブシフト時にアクティブ表示を通常態様で表示した後、成功態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を特殊態様に変化させ、その後に成功態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を青色態様に変化させ、その後に失敗態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を青色態様のまま変化させず、その後に成功態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を緑色態様に変化させる変化パターンである。

20

【1569】

最終表示態様が赤色態様である場合において、変化パターン016が80%、変化パターン017が20%の確率で選択されるように判定値が割り振られている。変化パターン016、変化パターン017における変化示唆演出の実行回数は5回であり、そのうち成功態様が4回、失敗態様が1回である。変化パターン016は、アクティブシフト時にアクティブ表示を通常態様で表示した後、成功態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を特殊態様に変化させ、その後に成功態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を青色態様に変化させ、その後に成功態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を緑色態様に変化させ、その後に成功態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を赤色態様に変化させ、その後に失敗態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を赤色態様のまま変化させない変化パターンであり、変化パターン017は、アクティブシフト時にアクティブ表示を通常態様で表示した後、成功態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を特殊態様に変化させ、その後に成功態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を青色態様に変化させ、その後に成功態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を緑色態様に変化させ、その後に失敗態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を緑色態様のまま変化させず、その後に成功態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を赤色態様に変化させる変化パターンである。

30

40

【1570】

また、最終表示態様が金色態様である場合において、変化パターン018が100%の確率で選択されるように判定値が割り振られている。変化パターン018における変化示唆演出の実行回数は5回であり、そのうち成功態様が5回、失敗態様が0回である。変化パターン018は、アクティブシフト時にアクティブ表示を通常態様で表示した後、成功

50

態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を特殊態様に変化させ、その後に成功態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を青色態様に変化させ、その後に成功態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を緑色態様に変化させ、その後に成功態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を赤色態様に変化させ、その後に成功態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を金色態様に変化させる変化パターンである。

【1571】

演出制御用CPU120は、アクティブシフト時のアクティブ表示が特殊態様である場合には、図12-16(B)に示すように、特殊態様用のアクティブ表示変化パターン決定テーブルを選択する。図12-16(B)に示すように、特殊態様用のアクティブ表示変化パターン決定テーブルには、最終表示態様が青色態様である場合において、変化パターン021が100%の確率で選択されるように判定値が割り振られている。変化パターン021における変化示唆演出の実行回数は2回であり、そのうち成功態様が1回、失敗態様が1回である。変化パターン021は、アクティブシフト時にアクティブ表示を特殊態様で表示した後、成功態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を青色態様に変化させ、その後に失敗態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を青色態様のまま変化させない変化パターンである。

10

【1572】

最終表示態様が緑色態様である場合において、変化パターン022が70%、変化パターン023が30%の確率で選択されるように判定値が割り振られている。変化パターン022、変化パターン023における変化示唆演出の実行回数は3回であり、そのうち成功態様が2回、失敗態様が1回である。変化パターン022は、アクティブシフト時にアクティブ表示を特殊態様で表示した後、成功態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を青色態様に変化させ、その後に成功態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を緑色態様に変化させ、その後に失敗態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を緑色態様のまま変化させない変化パターンであり、変化パターン023は、アクティブシフト時にアクティブ表示を特殊態様で表示した後、成功態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を青色態様に変化させ、その後に失敗態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を青色態様のまま変化させず、その後に成功態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を緑色態様に変化させる変化パターンである。

20

【1573】

最終表示態様が赤色態様である場合において、変化パターン024が80%、変化パターン025が20%の確率で選択されるように判定値が割り振られている。変化パターン024、変化パターン025における変化示唆演出の実行回数は4回であり、そのうち成功態様が3回、失敗態様が1回である。変化パターン024は、アクティブシフト時にアクティブ表示を特殊態様で表示した後、成功態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を青色態様に変化させ、その後に成功態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を緑色態様に変化させ、その後に成功態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を赤色態様に変化させ、その後に失敗態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を赤色態様のまま変化させない変化パターンであり、変化パターン025は、アクティブシフト時にアクティブ表示を特殊態様で表示した後、成功態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を青色態様に変化させ、その後に成功態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を緑色態様に変化させ、その後に失敗態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を緑色態様のまま変化させず、その後に成功態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を赤色態様に変化させる変化パターンである。

30

40

【1574】

また、最終表示態様が金色態様である場合において、変化パターン026が100%の確率で選択されるように判定値が割り振られている。変化パターン026における変化示唆演出の実行回数は4回であり、そのうち成功態様が4回、失敗態様が0回である。変化パターン026は、アクティブシフト時にアクティブ表示を特殊態様で表示した後、成功態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を青色態様に変化させ、その後に成功態様

50

の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を緑色態様に変化させ、その後に成功態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を赤色態様に変化させ、その後に成功態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を金色態様に変化させる変化パターンである。

【1575】

演出制御用CPU120は、アクティブシフト時のアクティブ表示が青色態様である場合には、図12-16(C)に示すように、青色態様用のアクティブ表示変化パターン決定テーブルを選択する。図12-16(C)に示すように、青色態様用のアクティブ表示変化パターン決定テーブルには、最終表示態様が緑色態様である場合において、変化パターン031が100%の確率で選択されるように判定値が割り振られている。変化パターン031における変化示唆演出の実行回数は2回であり、そのうち成功態様が1回、失敗態様が1回である。変化パターン031は、アクティブシフト時にアクティブ表示を青色態様で表示した後、成功態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を緑色態様に変化させ、その後に失敗態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を緑色態様のまま変化させない変化パターンである。

10

【1576】

最終表示態様が赤色態様である場合において、変化パターン032が80%、変化パターン033が20%の確率で選択されるように判定値が割り振られている。変化パターン032、変化パターン033における変化示唆演出の実行回数は3回であり、そのうち成功態様が2回、失敗態様が1回である。変化パターン032は、アクティブシフト時にアクティブ表示を青色態様で表示した後、成功態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を緑色態様に変化させ、その後に成功態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を赤色態様に変化させ、その後に失敗態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を赤色態様のまま変化させない変化パターンであり、変化パターン033は、アクティブシフト時にアクティブ表示を青色態様で表示した後、成功態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を緑色態様に変化させ、その後に失敗態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を緑色態様のまま変化させず、その後に成功態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を赤色態様に変化させる変化パターンである。

20

【1577】

また、最終表示態様が金色態様である場合において、変化パターン034が100%の確率で選択されるように判定値が割り振られている。変化パターン034における変化示唆演出の実行回数は3回であり、そのうち成功態様が3回、失敗態様が0回である。変化パターン034は、アクティブシフト時にアクティブ表示を青色態様で表示した後、成功態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を緑色態様に変化させ、その後に成功態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を赤色態様に変化させ、その後に成功態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を金色態様に変化させる変化パターンである。

30

【1578】

演出制御用CPU120は、アクティブシフト時のアクティブ表示が赤色態様である場合には、図12-16(D)に示すように、赤色態様用のアクティブ表示変化パターン決定テーブルを選択する。図12-16(D)に示すように、赤色態様用のアクティブ表示変化パターン決定テーブルには、最終表示態様が金色態様である場合において、変化パターン041が100%の確率で選択されるように判定値が割り振られている。変化パターン041における変化示唆演出の実行回数は1回であり、そのうち成功態様が1回、失敗態様が0回である。変化パターン041は、アクティブシフト時にアクティブ表示を赤色態様で表示した後、成功態様の変化示唆演出を実行してアクティブ表示を金色態様に変化させる変化パターンである。

40

【1579】

図12-16に示すように、1回の変動表示期間内（本例においてはリーチ状態が成立する前にアクティブ表示の表示態様が最終表示態様まで変化するため、変動表示が開始されてからリーチ状態が成立するまでの期間内）に、より多くの変化示唆演出が実行されるほど、特に、より多くの成功態様の変化示唆演出が実行されるほど、大当たり期待度の高い

50

表示色に変化する割合が高くなる。

【1580】

ここで、この実施形態では、 n 回目の変化示唆演出が実行された段階において、それまでの成功態様の変化示唆演出の実行回数が多いほど、 $n+1$ 回目の変化示唆演出が実行される割合が高いように構成されている。例えば、2回目の変化示唆演出が実行された段階（ $n=2$ の場合）において、2回ともに成功態様だった場合には必ず3回目の変化示唆演出が実行されるようになっているが、2回のうち1回が成功態様であり1回が失敗態様であった場合には、3回目の変化示唆演出が実行されない場合がある。 $n=3$ の場合、 $n=4$ の場合も同様である。このように、変化示唆演出が実行された場合には、変動表示が開始されてからリーチ状態が成立するまでの期間内に実行された成功態様の変化示唆演出の実行回数が多いほど、同じ変動表示期間内（変動表示が開始されてからリーチ状態が成立するまでの期間内）で次の変化示唆演出が実行される割合が高いため、遊技者は、変化示唆演出の実行回数、特に成功態様の変化示唆演出の実行回数に注目することになり、これにより興趣を向上させることができる。

10

【1581】

また、この実施形態では、1の変動表示期間内において、〔変化示唆演出が実行された回数〕に対しての〔成功態様の変化示唆演出が実行された回数〕の割合が高いほど、大当たり期待度の高い表示態様に変化する割合が高くなっている。具体的には、〔成功態様の変化示唆演出の実行回数／変化示唆演出の実行回数〕は、最終表示態様が特殊態様となる場合には $1/2$ であり、最終表示態様が青色態様となる場合には $2/3$ であり、最終表示態様が緑色態様となる場合には $3/4$ であり、最終表示態様が赤色態様となる場合には $4/5$ であり、最終表示態様が金色態様となる場合には $5/5$ である。このように、〔成功態様の変化示唆演出の実行回数／変化示唆演出の実行回数〕が大きいほど、アクティブ表示が大当たり期待度の高い表示態様に変化する割合が高くなっていることから、遊技者は、変化示唆演出の実行回数と成功態様の変化示唆演出の実行回数との関係にも注目することになり、これにより興趣を向上させることができる。

20

【1582】

また、この実施形態では、成功態様の変化示唆演出が連続して実行される回数が多いほど、大当たり期待度の高い表示態様に変化する割合が高くなっている。具体的には、成功態様の変化示唆演出が連続する数は、最終表示態様が青色態様となる場合には1（連続せず）又は2であり、最終表示態様が緑色態様となる場合には2又は3であり、最終表示態様が赤色態様となる場合には3又は4であり、最終表示態様が金色態様となる場合には5である。これにより、遊技者は成功態様の変化示唆演出が連続して実行されるか否か、さらに何回連続するかに興味を持つことになる。

30

【1583】

また、本例では、最終表示態様が同じ表示色の場合、成功態様の変化示唆演出が連続する数がより多い変化パターンが選択され易い。例えば、青色態様の場合は変化パターン013（連続せず）よりも変化パターン012（2連続）の方が選択される割合が高く、緑色態様の場合は変化パターン015（2連続）よりも変化パターン014（3連続）の方が選択される割合が高く、赤色態様の場合は変化パターン017（3連続）よりも変化パターン016（4連続）の方が選択される割合が高い。このように、最終的には同じ表示色となる場合でも、成功態様の変化示唆演出が連続し易いようにすることで、遊技者の期待感をより高めることができる。

40

【1584】

演出制御用CPU120は、始動入賞時に決定した図12-16に示す変化パターンに基づいて、変化示唆演出の実行回数及び変化示唆演出の態様（成功態様又は失敗態様）を決定する。そして、演出制御用CPU120は、各変化示唆演出に関して、成功態様であるか又は失敗態様であるか、及び、次の変化示唆演出を実行するか否か、に基づいて、変化示唆演出の種別を決定する。変化示唆演出の種別として、キャラクタAが登場する変化示唆演出A、キャラクタBが登場する変化示唆演出B、キャラクタCが登場する変化示唆

50

演出C、キャラクターDが登場する変化示唆演出D、及び、キャラクターEが登場する変化示唆演出E、が存在する。

【1585】

演出制御用CPU120は、始動入賞時に決定した変化パターンにおいて、n回目に実行される変化示唆演出が成功態様であり且つn+1回目の変化示唆演出を実行する場合には、図12-17に示す「成功態様、次回演出実行あり」のテーブルを選択する。変化示唆演出決定テーブルが「成功態様、次回演出実行あり」である場合において、キャラクターAが10%、キャラクターBが20%、キャラクターCが30%、キャラクターDが40%、キャラクターEが0%の確率で選択されるように判定値が割り振られている。

【1586】

演出制御用CPU120は、始動入賞時に決定した変化パターンにおいて、n回目に実行される変化示唆演出が成功態様であり且つn+1回目の変化示唆演出を実行しない場合には、図12-17に示す「成功態様、次回演出実行なし」のテーブルを選択する。変化示唆演出決定テーブルが「成功態様、次回演出実行なし」である場合において、キャラクターAが5%、キャラクターBが15%、キャラクターCが30%、キャラクターDが45%、キャラクターEが5%の確率で選択されるように判定値が割り振られている。

【1587】

演出制御用CPU120は、始動入賞時に決定した変化パターンにおいて、n回目に実行される変化示唆演出が失敗態様であり且つn+1回目の変化示唆演出を実行する場合には、図12-17に示す「失敗態様、次回演出実行あり」のテーブルを選択する。変化示唆演出決定テーブルが「失敗態様、次回演出実行あり」である場合において、キャラクターAが37%、キャラクターBが32%、キャラクターCが30%、キャラクターDが1%、キャラクターEが0%の確率で選択されるように判定値が割り振られている。

【1588】

演出制御用CPU120は、始動入賞時に決定した変化パターンにおいて、n回目に実行される変化示唆演出が失敗態様であり且つn+1回目の変化示唆演出を実行しない場合には、図12-17に示す「失敗態様、次回演出実行なし」のテーブルを選択する。変化示唆演出決定テーブルが「失敗態様、次回演出実行なし」である場合において、キャラクターAが35%、キャラクターBが30%、キャラクターCが30%、キャラクターDが5%、キャラクターEが0%の確率で選択されるように判定値が割り振られている。

【1589】

演出制御用CPU120は、各変化示唆演出に関して、図12-17に示す変化示唆演出決定テーブルに基づいて、変化示唆演出の種別を決定している。そのため、n回目とn+1回目の変化示唆演出が実行される場合に、例えば、n回目の変化示唆演出でキャラクターAが選択されて、n+1回目の変化示唆演出でキャラクターA～キャラクターEの全てのキャラクターが選択される可能性がある。つまり、n回目でキャラクターAが登場する変化示唆演出Aが実行されたときに、n+1回目でキャラクターAとは異なるキャラクターBが登場する変化示唆演出Bが実行される可能性がある一方で、n+1回目でn回目と同様のキャラクターAが登場する変化示唆演出Aが実行される可能性もある。このような構成によれば、変化示唆演出の多様化を図ることができる。

【1590】

図12-17に示すように、キャラクターAが登場する変化示唆演出Aは、成功態様となる確率は低いが、次の変化示唆演出が実行される確率は高く、キャラクターDが登場する変化示唆演出Dは、成功態様となる確率は高いが、次の変化示唆演出が実行される確率は低い。また、キャラクターEが登場する変化示唆演出Eは、成功態様である確率は100%であるが、次の変化示唆演出が実行される確率は0%である。従って、遊技者にとっては、画面にキャラクターAが表示された場合には、アクティブ表示の表示態様が変化する期待度は低い但次回の変化示唆演出が実行される期待度は高いということになり、画面にキャラクターDが表示された場合には、アクティブ表示の表示態様が変化する期待度は高い但次回の変化示唆演出が実行される期待度は低いということになり、画面にキャラクターEが表示

10

20

30

40

50

された場合には、アクティブ表示の表示態様は必ず変化するが次回の変化示唆演出は実行されない（今回の変化示唆演出が最後となる）ということになる。

【1591】

このように、演出に登場するキャラクタの種別に応じて、アクティブ表示の表示態様が大当たり期待度の高い態様に変化する割合が異なるため、遊技者は、何れの種別のキャラクタが登場するかに注目することになる。また、演出に登場するキャラクタの種別に応じて、次の変化示唆演出が実行される割合が異なるため、遊技者は、何れの種別のキャラクタが登場するかに注目することになる。

【1592】

なお、図12-17に示した演出種別に限らず、例えば、アクティブ表示の表示態様に変化する割合が低く且つ次回の変化示唆演出が実行される割合も低い演出種別を設けても良く、アクティブ表示の表示態様に変化する割合が高く且つ次回の変化示唆演出が実行される割合も高い演出種別を設けても良い。

【1593】

（アクティブ変化演出及び変化示唆演出の具体例）

次に、アクティブ変化演出及び変化示唆演出の具体例に関して、図12-18～図12-20を用いて説明する。図12-18、図12-19（9）～（12）、及び、図12-20に示す演出例は、演出制御用CPU120が、始動入賞時に、最終表示態様を金色態様とすることに決定すると共にアクティブシフト時の態様を通常態様とすることに決定し、当該始動入賞に基づく変動表示を開始するときに、アクティブ表示の変化パターンを変化パターン018とすることに決定した場合の例である。また、図12-18、及び、図12-19（9）、（10）、（20）～（22）に示す演出例は、演出制御用CPU120が、始動入賞時に、最終表示態様を緑色態様に決定すると共にアクティブシフト時の態様を通常態様とすることに決定し、当該始動入賞に基づく変動表示を開始するときに、アクティブ表示の変化パターンを変化パターン014とすることに決定した場合の例である。

【1594】

本例では、変化パターン018に基づいて、1回目の変化示唆演出に関してキャラクタAが登場する変化示唆演出Aを実行することに決定し、且つ2回目の変化示唆演出が実行されることに基づいて成功態様の変化示唆演出Aを実行することに決定されており、2回目の変化示唆演出に関してキャラクタBが登場する変化示唆演出Bを実行することに決定し、且つ3回目の変化示唆演出が実行されることに基づいて成功態様の変化示唆演出Bを実行することに決定されており、3回目の変化示唆演出に関してキャラクタCが登場する変化示唆演出Cを実行することに決定し、且つ4回目の変化示唆演出が実行されることに基づいて成功態様の変化示唆演出Cを実行することに決定されており、4回目の変化示唆演出に関してキャラクタDが登場する変化示唆演出Dを実行することに決定し、且つ5回目の変化示唆演出が実行されることに基づいて成功態様の変化示唆演出Dを実行することに決定されており、5回目の変化示唆演出に関してキャラクタEが登場する成功態様の変化示唆演出Eを実行することに決定しているものとする。

【1595】

図12-18（1）は、アクティブ表示領域30TM103に通常態様のアクティブ表示30TM003（白色の丸形表示）が表示されており、画像表示装置5において左中右の飾り図柄の変動表示を実行している状態を示している。

【1596】

演出制御用CPU120は、1回目の変化示唆演出の実行タイミングとなったことに応じて、成功態様の変化示唆演出Aを実行する。その結果、図12-18（1）に示すように、キャラクタAが画面右側から登場し、そのキャラクタAがアクティブ表示30TM003に向かってボールを投げるアクションを行う演出画像が表示され、続けて図12-18（2）に示すように、キャラクタAが投げたボールがアクティブ表示30TM003に命中したことを示す演出画像が表示される。このとき、アクティブ表示領域30TM10

3には通常態様のアクティブ表示30TM003とは異なるエフェクト画像（アクティブ表示30TM003G）が表示される。このエフェクト画像は、アクティブ表示が爆発したことを想起させる画像である。そして、図12-18（3）に示すように、1回目の変化示唆演出が終了したことに応じて、アクティブ表示領域30TM103には特殊態様のアクティブ表示30TM003a（白色の三角形表示）が表示される。

【1597】

次に、演出制御用CPU120は、2回目の変化示唆演出の実行タイミングとなったことに応じて、成功態様の変化示唆演出Bを実行する。その結果、図12-18（4）に示すように、キャラクタBが画面左側から登場し、そのキャラクタBがアクティブ表示30TM003aに向かってボールを投げるアクションを行う演出画像が表示され、続けて図12-18（5）に示すように、キャラクタBが投げたボールがアクティブ表示30TM003aに命中したことを示す演出画像が表示される。このとき、アクティブ表示領域30TM103には特殊態様のアクティブ表示30TM003aとは異なるエフェクト画像（アクティブ表示30TM003G）が表示される。そして、図12-18（6）に示すように、2回目の変化示唆演出が終了したことに応じて、アクティブ表示領域30TM103には青色態様のアクティブ表示30TM003b（青色の丸形表示）が表示される。

【1598】

次に、演出制御用CPU120は、3回目の変化示唆演出の実行タイミングとなったことに応じて、成功態様の変化示唆演出Cを実行する。その結果、図12-18（7）に示すように、キャラクタCが画面右側から登場し、そのキャラクタCがアクティブ表示30TM003bに向かって飛びながらボールを投げるアクションを行う演出画像が表示され、続けて図12-18（8）に示すように、キャラクタCが投げたボールがアクティブ表示30TM003bに命中したことを示す演出画像が表示される。このとき、アクティブ表示領域30TM103には青色態様のアクティブ表示30TM003bとは異なるエフェクト画像（アクティブ表示30TM003G）が表示される。そして、図12-19（9）に示すように、3回目の変化示唆演出が終了したことに応じて、アクティブ表示領域30TM103には緑色態様のアクティブ表示30TM003d（緑色の丸形表示）が表示される。

【1599】

次に、演出制御用CPU120は、4回目の変化示唆演出の実行タイミングとなったことに応じて、成功態様の変化示唆演出Dを実行する。その結果、図12-19（10）に示すように、キャラクタDが画面左側から登場し、そのキャラクタDがアクティブ表示30TM003dに向かって飛びながらボールを投げるアクションを行う演出画像が表示され、続けて図12-19（11）に示すように、キャラクタDが投げたボールがアクティブ表示30TM003dに命中したことを示す演出画像が表示される。このとき、アクティブ表示領域30TM103には緑色態様のアクティブ表示30TM003dとは異なるエフェクト画像（アクティブ表示30TM003G）が表示される。そして、図12-19（12）に示すように、4回目の変化示唆演出が終了したことに応じて、アクティブ表示領域30TM103には赤色態様のアクティブ表示30TM003c（赤色の丸形表示）が表示される。

【1600】

次に、演出制御用CPU120は、5回目の変化示唆演出の実行タイミングとなったことに応じて、成功態様の変化示唆演出Eを実行する。その結果、図12-20（13）に示すように、画像表示装置5の画面を構成する透明部材（ガラス板等）にヒビが入った態様のヒビ画像（画面ヒビ画像30TM200）が表示される。さらに、図12-20（14）に示すように、ヒビの範囲が拡大した態様のヒビ画像（画面ヒビ画像30TM200）が表示される。

【1601】

次いで、図12-20（15）に示すように、画像表示装置5の画面を構成する透明部材が割れる態様の画像（画面割れ画像30TM210）が表示され、キャラクタEが画面

10

20

30

40

50

中央から登場し、そのキャラクターEがアクティブ表示30TM003cに向かって飛びながらボールを投げるアクションを行う演出画像が表示される。続けて、図12-20(16)に示すように、キャラクターEが投げたボールがアクティブ表示30TM003cに命中したことを示す演出画像が表示される。このとき、アクティブ表示領域30TM103には赤色態様のアクティブ表示30TM003cとは異なるエフェクト画像(アクティブ表示30TM003G)が表示される。そして、図12-20(17)に示すように、5回目の変化示唆演出が終了したことに応じて、アクティブ表示領域30TM103には金色態様のアクティブ表示30TM003e(金色の丸形表示)が表示される。

【1602】

そして、図12-20(18)に示すように、画像表示装置5において表示されていた画面割れ画像30TM210が消去され、図12-20(19)に示すように、左図柄表示領域及び右図柄表示領域に同一の飾り図柄(本例では、「7」)が停止したリーチ状態が成立し、「リーチ!!」という文字が画面下部(アクティブ表示領域30TM103に重複する領域)に表示されるリーチ演出が実行される。ここで、前述したようにリーチが成立するタイミングで、金色態様のアクティブ表示30TM003eは非表示となり、アクティブ表示領域30TM103を示す四角の枠も非表示となる。非表示となった情報は、当該予告対象の変動表示が終了するまで表示されない。

【1603】

図12-18、及び、図12-19(9)、(10)、(20)~(22)に示す演出例は、演出制御用CPU120が、始動入賞時に、最終表示態様を緑色態様に決定すると共にアクティブシフト時の態様を通常態様とすることに決定し、当該始動入賞に基づく変動表示を開始するときに、アクティブ表示の変化パターンを変化パターン014とすることに決定した場合の例である。

【1604】

本例では、変化パターン014に基づいて、1回目の変化示唆演出に関してキャラクターAが登場する変化示唆演出Aを実行することに決定し、且つ2回目の変化示唆演出が実行されることに基づいて成功態様の変化示唆演出Aを実行することに決定されており、2回目の変化示唆演出に関してキャラクターBが登場する変化示唆演出Bを実行することに決定し、且つ3回目の変化示唆演出が実行されることに基づいて成功態様の変化示唆演出Bを実行することに決定されており、3回目の変化示唆演出に関してキャラクターCが登場する変化示唆演出Cを実行することに決定し、且つ4回目の変化示唆演出が実行されることに基づいて成功態様の変化示唆演出Cを実行することに決定されており、4回目の変化示唆演出に関してキャラクターDが登場する変化示唆演出Dを実行することに決定し、且つ5回目の変化示唆演出が実行されないことに基づいて失敗態様の変化示唆演出Dを実行することに決定しているものとする。

【1605】

図12-18(1)~図12-19(9)に示す演出例(1回目の変化示唆演出~3回目の変化示唆演出)は、上述した変化パターン018の演出例と同様であるため説明を省略し、図12-19(10)、(20)~(22)に示す演出例を説明する。

【1606】

演出制御用CPU120は、4回目の変化示唆演出の実行タイミングとなったことに応じて、失敗態様の変化示唆演出Dを実行する。その結果、図12-19(10)に示すように、キャラクターDが画面左側から登場し、そのキャラクターDがアクティブ表示30TM003dに向かって飛びながらボールを投げるアクションを行う演出画像が表示され、続けて図12-19(20)に示すように、キャラクターDが投げたボールがアクティブ表示30TM003dに命中しなかったことを示す演出画像が表示される。このとき、アクティブ表示領域30TM103には緑色態様のアクティブ表示30TM003dが継続して表示されており、前述したエフェクト画像(アクティブ表示30TM003G)は表示されず、これに代わりキャラクターDが投げて命中しなかったボールが画面右下部に向けて転がっていく演出画像が表示される。そして、図12-19(21)に示すように、4回目

10

20

30

40

50

の変化示唆演出が終了したときに、アクティブ表示領域 30TM103 には緑色態様のアクティブ表示 30TM003d が継続して表示されている。即ち、4 回目の変化示唆演出の実行前（3 回目の変化示唆演出の終了後）からアクティブ表示の表示態様が変化しない。

【1607】

そして、図 12-19（22）に示すように、左図柄表示領域及び右図柄表示領域に同一の飾り図柄（本例では、「4」）が停止したリーチ状態が成立し、「リーチ！！」という文字が画面下部（アクティブ表示領域 30TM103 に重複する領域）に表示されるリーチ演出が実行される。ここで、前述したようにリーチ状態が成立するタイミングで、アクティブ表示領域 30TM103 は非表示となるので、緑色態様のアクティブ表示 30TM003d は、当該予告対象の変動表示が終了するまで表示されない。

10

【1608】

図 12-18（1）～図 12-20（19）に示すように、演出制御用 CPU 120 は、画像表示装置 5 において左中右の飾り図柄の変動表示を継続して実行している状態で、変化パターンに応じた所定回数（1 回～5 回）の変化示唆演出を実行している。そして、所定回数の変化示唆演出の実行が終了すると、左図柄表示領域及び右図柄表示領域に同一の飾り図柄を停止させリーチ状態を成立させる。つまり、演出制御用 CPU 120 が所定回数の変化示唆演出を実行している期間は、画像表示装置 5 において左中右の飾り図柄を仮停止させたり、変動表示の方向を変化させたり、リーチ状態を成立させたりしない。このような構成によれば、変化パターンに応じた所定回数の変化示唆演出が実行されている期間は、飾り図柄の変動表示の態様が変化しないので、変化示唆演出により一層注目させることができる。

20

【1609】

なお、図 12-16 には、失敗態様の変化示唆演出が連続しない変化パターンを示しているが、このような形態に限らず、失敗態様の変化示唆演出が連続する変化パターンを設けても良い。また、失敗態様の変化示唆演出が成功態様の変化示唆演出よりも多く実行される変化パターンを設けても良い。例えば、3 回連続して失敗態様の変化示唆演出が実行された後に、2 回連続して成功態様の変化示唆演出が実行される変化パターンを設けても良い。また、失敗態様の変化示唆演出が 1 回以上実行されるが、成功態様の変化示唆演出が 1 回も実行されないことによりアクティブ表示の表示態様が変化しない演出パターンを設けても良い。

30

【1610】

図 12-16 等に示す例では、失敗態様の変化示唆演出が実行された場合にはアクティブ表示の表示態様が変化せず、成功態様の変化示唆演出が実行された場合には必ずアクティブ表示の表示態様が変化する例を示したが、このような形態に限らず、成功態様の変化示唆演出が実行された場合には、失敗態様の変化示唆演出が実行された場合よりも高い割合でアクティブ表示の表示態様が変化する構成であれば良く、例えば、成功態様の変化示唆演出が実行された場合であってもアクティブ表示の表示態様が変化しない演出パターンを設けても良く、失敗態様の変化示唆演出が実行された場合であってもアクティブ表示の表示態様が変化する演出パターンを設けても良い。

40

【1611】

図 12-16 等に示す例では、成功態様の変化示唆演出が実行された場合には、アクティブ表示の表示態様が、大当たり期待度が 1 段階高い表示態様（通常態様から特殊態様、特殊態様から青色態様、青色態様から緑色態様、緑色態様から赤色態様、赤色態様から金色態様）に変化する例を示したが、このような形態に限らず、成功態様の変化示唆演出が実行された場合には、アクティブ表示の表示態様が、大当たり期待度が 2 段階以上高い表示態様（例えば、通常態様から緑色態様、青色態様から金色態様等）に変化する変化パターンを設けても良い。また、実行される変化示唆演出の種別（例えば、出現するキャラクタの種別）に応じて、表示態様が 2 段階以上変化する割合が異なるようにしても良く、例えば、キャラクタ A が出現する変化示唆演出が実行された場合には、表示態様が 2 段階以上変

50

化する割合が低く、キャラクタ B が出現する変化示唆演出が実行された場合には、表示態様が 2 段階以上変化する割合が高いようにしても良い。さらに、キャラクタ C が出現する変化示唆演出が実行された場合には、表示態様が必ず 3 段階変化するようにしても良い。

【1612】

上記の実施形態において、変化示唆演出を、飾り図柄が仮停止する前のタイミングで実行するようにしても良い。具体的には、飾り図柄を仮停止させた後に再変動させる擬似連変動が 1 回以上実行される変動パターンに基づいて飾り図柄の変動表示が実行される場合に、飾り図柄の仮停止前に成功態様の变化示唆演出を実行するようにしても良い。例えば、n 回の仮停止が実行される場合には、各仮停止前に成功態様の变化示唆演出を実行し（計 n 回の成功態様の变化示唆演出を連続して実行し）、その後失敗態様の变化示唆演出を実行することで、n + 1 回目の仮停止が実行されないことを示唆するようにしても良い。なお、擬似連変動が 1 回も実行されない変動パターンに基づいて飾り図柄の変動表示が実行される場合に、失敗態様の变化示唆演出のみを実行して成功態様の变化示唆演出を実行しない演出パターンを設けても良い。また、擬似連変動が予め定められた上限回数（例えば n + 1 回）実行される変動パターンに基づいて飾り図柄の変動表示が実行される場合に、n + 1 回の成功態様の变化示唆演出を連続して実行し、失敗態様の变化示唆演出は実行しない演出パターンを設けても良い。

10

【1613】

このような構成とする場合には、飾り図柄が仮停止していない状態で变化示唆演出を開始し（キャラクタが登場し）、飾り図柄が仮停止する前に当該变化示唆演出を終了させる（キャラクタがアクションを行いアクティブ表示の表示態様が変化する）ようにすると良い。例えば、飾り図柄の変動表示が開始された直後にキャラクタ A が登場してアクションを行いアクティブ表示の表示態様が通常態様から特殊態様に変化し、その後に 1 回目の仮停止が行われて 1 回目の再変動が開始された後に、キャラクタ B が登場してアクションを行いアクティブ表示の表示態様が特殊態様から青色態様に変化し、その後に 2 回目の仮停止が行われて 2 回目の再変動が開始された後に、キャラクタ C が登場してアクションを行いアクティブ表示の表示態様が青色態様から緑色態様に変化するようにしても良い。このように、1 回の変化示唆演出の実行期間と飾り図柄の仮停止期間（即ち飾り図柄の変動態様を変化させる期間）とが重複しないようにすることで、変化示唆演出に注目させることができる。と共、飾り図柄が仮停止する際の演出効果を低下させないようにすることができる。

20

30

【1614】

なお、飾り図柄の変動表示方向を縦方向から横方向に変更する演出を実行する場合には、飾り図柄が縦方向に変動表示している状態で变化示唆演出を開始し（キャラクタが登場し）、飾り図柄の変動表示方向を横方向に変更する前に当該变化示唆演出を終了させる（キャラクタがアクションを行いアクティブ表示の表示態様が変化する）ようにすると良い。例えば、飾り図柄の変動表示が開始された直後に最初のキャラクタが登場してアクションを行いアクティブ表示の表示態様が通常態様から青色態様に変化し、その後に飾り図柄の変動表示方向が縦方向から横方向に変化した後に、次のキャラクタが登場してアクションを行いアクティブ表示の表示態様が青色態様から赤色態様に変化するようにしても良い。このように、1 回の変化示唆演出の実行期間と飾り図柄の変動表示方向が変化するタイミングとが重複しないようにすることで、変化示唆演出に注目させることができる。と共、飾り図柄の変動表示方向が変化する際の演出効果を低下させないようにすることができる。

40

【1615】

上記の実施形態では、変化示唆演出が、アクティブ表示の表示態様が変化することを示唆する演出である例を示したが、このような形態に限らず、変化示唆演出は、保留表示の表示態様が変化することを示唆する演出であっても良い。例えば、図 12 - 16 に示した変化パターンを、保留表示の表示態様を変化させる際の変化パターンとしても良く、成功態様の变化示唆演出が実行された場合には保留表示の表示態様を変化させ、失敗態様の変

50

化示唆演出が実行された場合には保留表示の表示態様を変化させないようにしても良い。

【1616】

上記の実施形態では、成功態様の变化示唆演出と、失敗態様の变化示唆演出の何れの場合にも、登場したキャラクタが同様のアクション（アクティブ表示又は保留表示に作用する演出であり、例えば、ボールを投げるアクション）を行う例を示したが、このような形態に限らず、成功態様の变化示唆演出では、登場したキャラクタがアクティブ表示又は保留表示の表示態様を変化させるためのアクションを行う一方で、失敗態様の变化示唆演出では、登場したキャラクタがアクティブ表示又は保留表示の表示態様を変化させるためのアクションを行わないようにしても良い。なお、成功態様の变化示唆演出と、失敗態様の变化示唆演出とで、登場したキャラクタが行うアクションが異なるようにしても良く、例えば、成功態様の变化示唆演出では、変化させるアクティブ表示又は保留表示の方向にボールを投げるアクション（アクティブ表示又は保留表示に作用する演出）を行い、失敗態様の变化示唆演出では、アクティブ表示又は保留表示とは異なる方向にボールを投げるアクション（アクティブ表示又は保留表示に作用しない演出）を行うようにしても良い。

10

【1617】

上記の実施形態では、変動表示が開始されてからリーチ状態が成立するまでの所定期間内に実行された成功態様の变化示唆演出の実行回数が多いほど、当該所定期間内に次回の変化示唆演出が実行される割合が高く、当該所定期間内に実行された变化示唆演出の実行回数に対しての成功態様の变化示唆演出の実行回数の割合が高いほど、大当たり期待度が高い例を示した。しかしながら、所定期間はこれに限らず、飾り図柄の変動開始から飾り図柄（仮停止後に再変動（擬似連）が行われることになる飾り図柄の組み合わせ又は擬似連図柄）が仮停止されるまでの期間であっても良く、また、飾り図柄が仮停止されてから飾り図柄の再変動後に再度飾り図柄が仮停止されるまでの期間（即ち擬似連の間の期間）であっても良い。なお、所定期間は、飾り図柄の変動開始から左中右の何れかの飾り図柄が最初に停止するまでの期間であっても良く、飾り図柄の変動開始から左中右の全ての飾り図柄が確定停止するまでの期間であっても良い。

20

【1618】

上記の実施形態において、複数回の変化示唆演出が実行される場合に、1の変化示唆演出の終了から次の変化示唆演出の開始までの期間が複数パターン存在するようにしても良い。例えば、1の変化示唆演出の終了から次の変化示唆演出の開始までの間隔が長い場合には、その間隔が短い場合よりも次の変化示唆演出が成功態様となる割合が高く、大当たり期待度も高いようにしても良い。また、多くの回数の変化示唆演出が実行される場合において、その間隔が徐々に短くなり、これに伴い大当たり期待度が徐々に高くなるようにしても良い。このような形態によれば、遊技者は1の変化示唆演出が終了したときに、次の変化示唆演出が実行されるか否かとともに、次の変化示唆演出が開始されるまでの間隔にも興味を持つようになり、興味を向上させることができる。

30

【1619】

上記の実施形態において、パチンコ遊技機1に関する現在の設定値（1～6）に応じて、アクティブ表示の表示態様を変化させる割合が異なるようにしても良い。例えば、設定値が低い（1～3）場合と比較して、設定値が高い（4～6）場合の方が、アクティブ表示の表示態様が通常態様とは異なる態様で表示される割合が高いようにしても良い。また、設定値が低い（1～3）場合と比較して、設定値が高い（4～6）場合の方が、アクティブ表示の表示色の変化回数が多い（例えば3回以上である）変化パターンが選択される割合が高い、即ち、成功態様の变化示唆演出が実行される割合、成功態様の变化示唆演出が連続する割合が高いようにしても良い。また、設定値が低い（1～3）場合と比較して、設定値が高い（4～6）場合の方が、特定種別の変化示唆演出（例えば出現頻度が低いキャラクタXが出現する演出）が実行される割合が高くなるようにしても良い。

40

【1620】

[電源投入時処理に関する他の例]

次に、電源投入時処理に関する他の例を説明する。

50

図13-1～図13-3は、パチンコ遊技機1の電源投入時に遊技制御用マイクロコンピュータ100において実行される処理の一例を示す図であり、図10-11～図10-13、図10-11及び図10-43～図10-44、並びに、図11-1及び図11-2に示した処理に相当する処理である。但し、これら図10-11等 に示した処理のうち、一部の処理（例えば、図10-11に示した処理等）については図示を省略している。

【1621】

図13-1に示すように、遊技制御用マイクロコンピュータ100のCPU103は、電源が投入された後に、バックアップRAM領域のデータチェックを行う（ステップS21TM4010）。この処理は、図10-13のステップS21TM1330及び図10-43のステップS21TM2130に示した処理と同様の処理であり、データチェックとしてパリティチェックを行う。

10

【1622】

チェック結果が正常であれば（ステップS21TM4010でYES）、CPU103は、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値が、正規の値、例えば、0～5の何れかに合致するか否かを確認する（ステップS21TM4020）。本例では設定値格納領域に格納されている設定値として、0、1、2、3、4、及び5の6つの数字を正規の値としており、大当たり確率が異なる6段階の設定値を設けている。本例における設定値0は前述した図10-4等で示す設定値1に相当し、本例における設定値1は前述した図10-4等で示す設定値2に相当し、本例における設定値2は前述した図10-4等で示す設定値3に相当し、本例における設定値3は前述した図10-4等で示す設定値4に相当し、本例における設定値4は前述した図10-4等で示す設定値5に相当し、本例における設定値5は前述した図10-4等で示す設定値6に相当する。

20

【1623】

ここで、本例では、パチンコ遊技機1が遊技機メーカーから出荷される際（遊技場に設置される前）には、設定値格納領域に、上記正規の値のうち最も大当たり確率が低い値（本例では0）が記憶されているものとする。なお、設定値格納領域のデータが壊れている場合には、正規の値となっていない場合がある。設定値が正規の値であれば（ステップS21TM4020でYES）、設定変更中フラグがセットされているか否かを確認する（ステップS21TM4030）。設定変更中フラグは、後述する設定変更モードに移行したときにセットされ（ステップS21TM4580）、錠スイッチ21TM051がOFF状態に切り替えられたときにクリアされる（ステップS21TM4720）。

30

【1624】

設定変更中フラグがセットされていなければ（ステップS21TM4030でNO）、CPU103は、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052がON状態であるか否かを確認する（ステップS21TM4040）。

【1625】

クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052がON状態であれば（ステップS21TM4040でYES）、CPU103は、RAMクリアフラグを1に設定する（ステップS21TM4050）。RAMクリアフラグの値は、RAMクリア（遊技状態の初期化）が実行されることに決定されたか否かを示す値であり、値が1である場合にはRAMクリアが実行されることに決定されたことを示している。本例では、RAMクリアフラグが1にセットされた時点では実際にRAMクリアは実行されておらず、設定変更モードに制御される場合には、設定変更モードに関する処理が終了した後にRAMクリアが実行されることになる。

40

【1626】

RAMクリアフラグの値が格納される領域は、バックアップRAM領域には含まれない。そのため電源断が発生した場合にはRAMクリアフラグの値は保持されず、電源復旧時のRAMクリアフラグの値は0（初期値が非セット状態）となっている。なお、遊技状態が初期化されることの報知は、設定変更モード又は設定確認モードに制御される前に行われるようにしても良く、後述するように、設定変更モード又は設定確認モードの終了後に

50

行われるようにしても良い。

【1627】

一方、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052がOFF状態であれば（ステップS21TM4040でNO）、CPU103は、ステップS21TM4060に移行する。

【1628】

次いで、CPU103は、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aが開放状態となっているか否かを確認する（ステップS21TM4060）。ここで、前述したように、遊技機用枠3の開放状態、ガラス扉枠3aの開放状態は、遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300により検出可能となっており、遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300から払出制御用マイクロコンピュータ21TM370に、遊技機用枠3の開放状態が検出されたことを示す検出信号、ガラス扉枠3aの開放状態が検出されたことを示す検出信号が出力される。払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が、遊技機用枠3の開放状態が検出されたことを認識すると、遊技制御用マイクロコンピュータ100に、遊技機用枠3の開放状態が検出された旨を通知し、ガラス扉枠3aの開放状態が検出されたことを認識すると、遊技制御用マイクロコンピュータ100に、ガラス扉枠3aの開放状態が検出された旨を通知することで、遊技制御用マイクロコンピュータ100側で、遊技機用枠3の開放状態と、ガラス扉枠3aの開放状態とを、個別に認識可能となっている。

【1629】

なお、遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300から遊技制御用マイクロコンピュータ100に対して、遊技機用枠3の開放状態が検出されたことを示す検出信号、ガラス扉枠3aの開放状態が検出されたことを示す検出信号が出力される構成とした場合（即ち、遊技制御用マイクロコンピュータ100が遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300を備える場合）には、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、これらの検出信号の入力によって、遊技機用枠3の開放状態と、ガラス扉枠3aの開放状態とを、個別に認識可能となる。

【1630】

CPU103が、遊技機用枠3の開放状態又はガラス扉枠3aの開放状態を認識した場合には（ステップS21TM4060でYES）、錠スイッチ21TM051がON状態であるか否かを確認する（ステップS21TM4070）。そして、錠スイッチ21TM051がON状態であれば（ステップS21TM4070でYES）、図13-2に示す、設定変更モード又は設定確認モードに関連したステップS21TM4510以降の処理、に移行する。設定変更モードに移行した場合には設定値の確認及び変更が可能となり、設定確認モードに移行した場合には設定値の確認が可能となる。

【1631】

即ち、バックアップRAM領域のデータチェック結果が正常であり（ステップS21TM4010でYES）、設定値が正規の値であり（ステップS21TM4020でYES）、設定変更中に電源断が発生していない場合には（ステップS21TM4030でNO）、遊技機用枠3が開放状態であり（ステップS21TM4060でYES）、且つ、錠スイッチ21TM051がON状態である（ステップS21TM4070でYES）ことを条件として、設定値の変更及び／又は確認が可能となる。一方、遊技機用枠3が閉鎖状態であるか（ステップS21TM4060でNO）、又は、錠スイッチ21TM051がOFF状態である（ステップS21TM4070でNO）場合には、設定変更モード及び設定確認モードの何れのモードにも制御されることなく、後述するステップS21TM4760（設定コマンドの送信）に移行する。

【1632】

この実施形態では、設定値の変更を許可しないものの設定値を確認することが可能な状態（設定確認モード）とするためには、（1）遊技機用枠3が開放状態であり、（2）錠スイッチ21TM051がON状態である、という2つの条件が必要となっている。CPU103は、ステップS21TM4060及びステップS21TM4070の判定処理に

10

20

30

40

50

よって、これら（１）及び（２）の条件が何れも成立していることを確認したときに、設定値を確認することが可能な状態（設定確認モード）に移行可能としている。また、これら（１）及び（２）の条件に加えて、さらに、（３）クリアスイッチ（設定切替スイッチ）２１ＴＭ０５２がＯＮ状態である（ＹＥＳ）と判定されたことに基づいてＲＡＭクリアフラグがセットされていることを条件として、後述するように、設定値を変更することが可能な状態（設定変更モード）に移行可能となっている。

【１６３３】

前述したように、設定値を確認又は変更するために操作しなければならない錠スイッチ２１ＴＭ０５１は、遊技盤２の裏面側に設けられており、遊技機用枠３を開放状態としなければ操作することができない。仮に、遊技機用枠３が開放状態となっていないにもかかわらず、錠スイッチ２１ＴＭ０５１が操作されたということは、遊技機枠・扉枠開放センサ２１ＴＭ３００に異常があるか、又は、何らかの不正な手段で設定値の確認又は変更が行われようとしている可能性がある。このような状態で、設定値の確認又は変更を許可することは不適切であるため、この実施形態では、遊技機用枠３が開放状態となっていないときには、パチンコ遊技機１を設定確認モード及び設定変更モードの何れにも制御させないようにしている。

【１６３４】

なお、この実施形態では、（１）の条件として、遊技機用枠３又はガラス扉枠３ａの何れか一方が開放状態となっているときには、パチンコ遊技機１を設定確認モード又は設定変更モードに制御可能としているが、このような形態に限らず、仮に、ガラス扉枠３ａが開放状態となっていない、遊技機用枠３が開放状態となっていなければ、設定確認モード及び設定変更モードの何れにも制御させないようにしても良い。

【１６３５】

一方、ステップＳ２１ＴＭ４０６０で、遊技機用枠３の開放状態又はガラス扉枠３ａの開放状態を認識しなかった場合（ステップＳ２１ＴＭ４０６０でＮＯ）、即ち、遊技機用枠３及びガラス扉枠３ａが何れも閉鎖状態となっている場合には、設定変更モード及び設定確認モードの何れのモードにも制御されることなく、後述するステップＳ２１ＴＭ４７６０（設定コマンドの送信）に移行する。また、ステップＳ２１ＴＭ４０７０で、錠スイッチ２１ＴＭ０５１がＯＦＦ状態であることが確認されると（ステップＳ２１ＴＭ４０７０でＮＯ）、設定変更モード及び設定確認モードの何れのモードにも制御されることなく、後述するステップＳ２１ＴＭ４７６０（設定コマンドの送信）に移行する。

【１６３６】

バックアップＲＡＭ領域のデータチェックにおいて（ステップＳ２１ＴＭ４０１０）、チェック結果が異常であれば（ステップＳ２１ＴＭ４０１０でＮＯ）、ＣＰＵ１０３は、ステップＳ２１ＴＭ４１２０に移行する。また、設定値格納領域に格納されている値のチェックにおいて（ステップＳ２１ＴＭ４０２０）、設定値格納領域に正規の値（０～５）が格納されていない場合には（ステップＳ２１ＴＭ４０２０でＮＯ）、ＣＰＵ１０３は、ステップＳ２１ＴＭ４１２０に移行する。また、設定変更中フラグのチェックにおいて（ステップＳ２１ＴＭ４０３０）、設定変更中フラグがセットされていることが確認された場合には（ステップＳ２１ＴＭ４０３０でＹＥＳ）、ＣＰＵ１０３は、ステップＳ２１Ｔ

【１６３７】

ここで、仮に、設定値格納領域に正規の値（０～５）が格納されている場合であっても、バックアップＲＡＭ領域の一部が壊れている場合には、ステップＳ２１ＴＭ４０１０でＮＯと判定されて、ステップＳ２１ＴＭ４１２０に移行する。即ち、設定値格納領域に格納されている値が不適切である可能性がある場合には、設定変更モード移行条件（後述するステップＳ２１ＴＭ４１２０～ステップＳ２１ＴＭ４１４０）が成立していることに基づいて設定変更モードに制御されることになる。また、仮に、バックアップＲＡＭ領域のデータチェックにおいて（ステップＳ２１ＴＭ４０１０）、チェック結果が正常であっても（ステップＳ２１ＴＭ４０１０でＹＥＳ）、設定値格納領域に正規の値（０～５）が格

納されていない場合には（ステップS 2 1 T M 4 0 2 0でNO）、設定変更モード移行条件（後述するステップS 2 1 T M 4 1 2 0～ステップS 2 1 T M 4 1 4 0）が成立していることに基づいて設定変更モードに制御されることになる。また、前回の電源断発生時に設定変更モードに制御されていた場合には、設定変更モード移行条件（後述するステップS 2 1 T M 4 1 2 0～ステップS 2 1 T M 4 1 4 0）が成立していることに基づいて設定変更モードに制御されることになる。

【1638】

ステップS 2 1 T M 4 1 2 0において、CPU 1 0 3は、遊技機用枠3又はガラス扉枠3 aが開放状態となっているか否かを確認する（ステップS 2 1 T M 4 1 2 0）。CPU 1 0 3が、遊技機用枠3の開放状態又はガラス扉枠3 aの開放状態を認識した場合には（10
ステップS 2 1 T M 4 1 2 0でYES）、錠スイッチ2 1 T M 0 5 1がON状態であるか否かを確認する（ステップS 2 1 T M 4 1 3 0）。

【1639】

錠スイッチ2 1 T M 0 5 1がON状態であれば（ステップS 2 1 T M 4 1 3 0でYES）、CPU 1 0 3は、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）2 1 T M 0 5 2がON状態であるか否かを確認する（ステップS 2 1 T M 4 1 4 0）。

【1640】

クリアスイッチ（設定切替スイッチ）2 1 T M 0 5 2がON状態であれば（ステップS 2 1 T M 4 1 4 0でYES）、CPU 1 0 3は、RAMクリアフラグを1に設定する（ステップS 2 1 T M 4 1 5 0）。そして、図13-2に示す、設定変更モードに関連したステップS 2 1 T M 4 5 1 0以降の処理が実行される。20

【1641】

一方、ステップS 2 1 T M 4 1 2 0で、遊技機用枠3の開放状態又はガラス扉枠3 aの開放状態を認識しなかった場合（ステップS 2 1 T M 4 1 2 0でNO）、即ち、遊技機用枠3及びガラス扉枠3 aが何れも閉鎖状態となっている場合、ステップS 2 1 T M 4 1 3 0で、錠スイッチ2 1 T M 0 5 1がON状態となっていない場合（ステップS 2 1 T M 4 1 3 0でNO）、ステップS 2 1 T M 4 1 4 0において、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）2 1 T M 0 5 2がON状態となっていない場合（ステップS 2 1 T M 4 1 4 0でNO）には、CPU 1 0 3は、設定変更モードに関連したステップS 2 1 T M 4 5 1 0以降の処理を実行することなく、設定値格納領域に格納されている設定値が異常である可能性30
があることを示す設定値異常エラーコマンドを演出制御用CPU 1 2 0に送信する。

【1642】

演出制御用CPU 1 2 0は、設定値異常エラーコマンドを受信すると、画像表示装置5において、設定値が異常である可能性があることを報知する。例えば「設定値が異常である可能性があります」というメッセージを表示する。さらに、演出制御用CPU 1 2 0は、画像表示装置5において、一旦は電源断の状態（電源スイッチ2 1 T M 0 5 5をOFF）にした後、電源再投入時（電源スイッチ2 1 T M 0 5 5をON時）に設定変更モードに移行させて設定値を変更するための操作を行う（設定値を確定させる）ように促す報知を行う。例えば「電源断後に電源を再投入して設定変更モードに移行させて下さい」というメッセージを表示する。なお、スピーカ8 L、8 Rからの音声出力により、同様の報知を行うようにしても良い。40

【1643】

次いで、演出制御用CPU 1 2 0は、電源断となるまで所定のループ処理（ステップS 2 1 T M 4 2 0 0～ステップS 2 1 T M 4 2 2 0の繰り返し）を実行する。

【1644】

このループ処理では、CPU 1 0 3が、4 m sのウェイト（ステップS 2 1 T M 4 2 0 0）を行った後に、表示モニタ2 1 T M 0 2 9に「E」の文字を表示すること等により、「設定値が正規の値（0～5）ではない可能性があるにもかかわらず設定変更モードに制御するための移行条件（ステップS 2 1 T M 4 1 2 0～ステップS 2 1 T M 4 1 4 0で全てYESと判定されること）が成立しておらず設定変更モードに移行していないこと」を50

報知する（ステップS 2 1 T M 4 2 1 0）。そして、セキュリティ信号線の一端が接続されている出力端子（端子番号1 0）からセキュリティ信号を出力する（ステップS 2 1 T M 4 2 2 0）。セキュリティ信号はセキュリティ信号線他端が接続されている外部装置（例えば、複数の遊技機の情報を管理するホールコンピュータ、当該遊技機に対応して設けられるカードユニット又は呼出ランプ装置等）に入力される。

【1 6 4 5】

ループ処理の期間は、表示モニタ2 1 T M 0 2 9が備える7セグメント表示器に、4 m s 毎に「E」の文字が表示されることになる。4 m s のウェイトを設けることで7セグメント表示器に過度の熱が滞留して表示器にダメージを及ぼすことを防止するようにしている。また、ループ処理の期間はセキュリティ信号が継続して出力されている。セキュリティ信号を外部出力することで、ホールコンピュータ等の外部装置において、セキュリティ信号が入力されたことに基づいて当該パチンコ遊技機1で所定事象（本例では、設定値が正規の値（0～5）ではない可能性があるにもかかわらず設定変更モードに制御するための移行条件が成立しておらず設定変更モードに移行していないこと）が発生した可能性を特定可能となる。

10

【1 6 4 6】

ステップS 2 1 T M 4 2 0 0～ステップS 2 1 T M 4 2 2 0のループ処理は、電力供給が停止するまで（電源スイッチ2 1 T M 0 5 5がOFFとされるまで）継続されることになる。

【1 6 4 7】

20

即ち、バックアップRAM領域のデータチェック結果が異常である場合（ステップS 2 1 T M 4 0 1 0でNO）、設定値が正規の値ではない場合（ステップS 2 1 T M 4 0 2 0でNO）、及び、設定変更中に電源断が発生した場合（即ち、電源投入時に設定変更中フラグがセットされていた場合であり、ステップS 2 1 T M 4 0 3 0でYESと判定される場合）、のいずれかに該当する場合には、この状態で遊技を行わせるべきではなく、通常遊技処理（例えば、図1 0－1 4に示す賞球処理や特別図柄プロセス処理等を含む遊技制御用タイマ割込処理）に移行する前に、設定値格納領域の設定値を正規の値に確定させる必要がある。そのため、RAMクリアフラグをセットして設定変更モードに移行させるようにしている。

【1 6 4 8】

30

この実施形態では、設定値の変更が可能な状態（設定変更モード）とするためには、（1）遊技機用枠3が開放状態であり、（2）錠スイッチ2 1 T M 0 5 1がON状態であり、（3）クリアスイッチ（設定切替スイッチ）2 1 T M 0 5 2がON状態である、という3つの条件が必要となっている。CPU 1 0 3は、ステップS 2 1 T M 4 1 2 0、ステップS 2 1 T M 4 1 3 0、及びステップS 2 1 T M 4 1 4 0の判定処理によって、これら（1）～（3）の条件が何れも成立していることを確認したときに、設定値の変更が可能な状態（設定変更モード）に移行可能としている。

【1 6 4 9】

仮に、（1）～（3）の条件のうち何れかの条件が成立していなければ、設定値の変更が許可されないため、設定値格納領域の設定値を正規の値に確定させることができず、通常遊技処理に移行させることができない。そのため、ステップS 2 1 T M 4 1 2 0、ステップS 2 1 T M 4 1 3 0、及びステップS 2 1 T M 4 1 4 0の判定処理のうち、何れかでNOと判定された場合には、前述したループ処理（ステップS 2 1 T M 4 2 0 0～ステップS 2 1 T M 4 2 2 0）に移行する。

40

【1 6 5 0】

ループ処理（ステップS 2 1 T M 4 2 0 0～ステップS 2 1 T M 4 2 2 0）に移行してしまうと通常遊技処理に移行することができなくなるため、遊技場の店員等は、一旦パチンコ遊技機1を電源断として再度電源を投入しなければならない。このように、設定変更モードに移行するための条件が成立していない場合には、一旦は電源断を行わせて、次の電源投入時に（1）～（3）の条件を全て成立させるようにして、設定変更モードに移行

50

させ、設定値格納領域の設定値を正規の値に確定させるようにしている。

【1651】

なお、CPU103は、(1)～(3)の条件のうち何れかの条件が成立していない場合には、第1特別図柄表示装置4Aや第2特別図柄表示装置4Bを、予め定められた電源断指示態様で発光させることにより、電源をOFF状態とするように促すようにしても良い。

【1652】

この実施形態では、設定変更中フラグがセットされていない場合（ステップS21TM4030でNO）、設定値の変更を許可しないものの、設定値を確認することが可能な状態（設定確認モード）とするために、(1)遊技機用枠3が開放状態であり（ステップS21TM4060でYES）、(2)錠スイッチ21TM051がON状態である（ステップS21TM4070でYES）、という2つの条件が必要となっている。

10

【1653】

しかしながら、設定変更中フラグがセットされている場合には（ステップS21TM4030でYES）、(1)遊技機用枠3が開放状態であり（ステップS21TM4120でYES）、(2)錠スイッチ21TM051がON状態である（ステップS21TM4130でYES）、という2つの条件が成立している場合であっても、設定確認モードに制御されることはない。これら(1)及び(2)の条件が成立している場合であっても、(3)ステップS21TM4140でクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052がON状態でない（NO）と判定された場合には、設定変更モード及び設定確認モードの何れのモードにも制御されることなく遊技停止状態（ステップS21TM4200～ステップS21TM4220のループ処理）に制御されることになる。

20

【1654】

次に、設定変更モード及び設定確認モードに関連する処理について、図13-2及び図13-3を用いて説明する。図13-2の処理において、CPU103は、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値が、正規の値（本例では0～5の何れか）に合致するか否かを確認する（ステップS21TM4510）。設定値格納領域に正規の値（0～5）が格納されている場合には（ステップS21TM4510でYES）、ステップS21TM4530に移行する。設定値格納領域に正規の値（0～5）が格納されていない場合には（ステップS21TM4510でNO）、CPU103は、設定値格納領域に、正規の値として、最も大当り確率が低い「0」を格納する（ステップS21TM4520）。そして、ステップS21TM4530に移行する。

30

【1655】

次いで、CPU103は、4msのウェイト（ステップS21TM4530）を行った後に、電源断用処理を実行する（ステップS21TM4540）。電源断用処理において、CPU103は、不測の停電等を含む電源断に基づく電源断信号が入力されているか否かを確認して、電源断信号が入力されている場合には、当該電力供給の停止によって動作できなくなる直前に、電源供給停止時処理を実行する。この電源供給停止時処理では、RAM102にデータをバックアップすることを示すバックアップフラグをオンする処理、RAM102のデータ保護処理等が実行される。データ保護処理には、誤り検出符号（チェックサム、パリティビット等）の付加、各種データをバックアップする処理が含まれる。バックアップされるデータには、遊技を進行するための各種データ（各種フラグ、各種タイマの状態等を含む）の他、前記バックアップフラグの状態や誤り検出符号も含まれる。即ち、電源断用処理では所定のバックアップ領域にチェックデータを格納する。

40

【1656】

これにより、設定変更モード又は設定確認モードに制御されているときに（ステップS21TM4530～ステップS21TM4620の繰返し処理、又は、ステップS21TM4530～ステップS21TM4570及びステップS21TM4650の繰返し処理が行われているときに）、電源断が発生した場合、電源復旧後のステップS21TM4010で適切にデータチェックが実行されることになる。

50

【1657】

次いで、CPU103は、設定値格納領域に格納されている設定値（本例では0～5）に対応した値を、表示モニタ21TM029に表示させる（ステップS21TM4550）。ここで、表示モニタ21TM029に表示される値は、設定値格納領域に格納されている値（0～5）に1を加算した値（1～6）である。遊技場の店員は通常、設定値の範囲を1～6と認識しているため、設定値格納領域に格納されている値をそのまま表示モニタ21TM029に表示させてしまうと、遊技場の店員が実際の設定値を誤って認識してしまうおそれがある。従って、本例では「設定値格納領域に格納されている値+1」を、設定値として表示モニタ21TM029に表示させるようにしている。次いで、CPU103は、セキュリティ信号を出力する（ステップS21TM4560）。 10

【1658】

次いで、CPU103は、RAMクリアフラグが0であるか否かを確認する（ステップS21TM4570）。RAMクリアフラグが0であれば（ステップS21TM4570でYES）、即ち、モード（ここでは設定確認モード）終了後にRAMクリアが実行されない場合には、CPU103は、設定確認モードに制御されたことを指定する設定確認モードコマンドを送信し（ステップS21TM4650）、ステップS21TM4680に移行する。演出制御用CPU120は、設定確認モードコマンドを受信したことに基づいて、遊技制御用マイクロコンピュータ100が設定確認モードに移行したことを特定可能である。従って、画像表示装置5やスピーカ8L、8Rにより、当該遊技機が設定確認モードに制御されていることを報知することが可能となる。 20

【1659】

一方、RAMクリアフラグが1であれば（ステップS21TM4570でNO）、即ち、モード（ここでは設定変更モード）終了後にRAMクリアが実行される場合には、CPU103は、設定値の変更が行われている可能性があることを示す設定変更中フラグをセットする（ステップS21TM4580）。設定変更中フラグの値が格納される領域は、バックアップRAM領域に含まれるため、電源断の状態となっても、設定変更中フラグの値は保持される。そのため設定変更モードに制御されているときに電源断が発生した場合には、次の電源投入時に設定変更中フラグの値が1の状態（セット状態）となっている。

【1660】

次いで、CPU103は、設定変更モードに制御されたことを指定する設定変更モードコマンドを送信する（ステップS21TM4590）。演出制御用CPU120は、設定変更モードコマンドを受信したことに基づいて、遊技制御用マイクロコンピュータ100が設定変更モードに移行したことを特定可能である。従って、画像表示装置5やスピーカ8L、8Rにより、当該遊技機が設定変更モードに制御されていることを報知することが可能となる。 30

【1661】

次いで、CPU103は、設定切替スイッチ（クリアスイッチ）21TM052が操作されたか否かを示す設定切替スイッチ情報を入力し（ステップS21TM4600）、設定切替スイッチ（クリアスイッチ）21TM052が操作されたか否かを確認する（ステップS21TM4610）。 40

【1662】

設定切替スイッチ（クリアスイッチ）21TM052が操作されていなければ（ステップS21TM4610でNO）、CPU103は、ステップS21TM4680に移行する。設定切替スイッチ（クリアスイッチ）21TM052が操作された場合には（ステップS21TM4610でYES）、CPU103は、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値を更新して（ステップS21TM4620）、ステップS21TM4680に移行する。更新された設定値は次のステップS21TM4550で表示モニタ21TM029に表示される。

【1663】

遊技場の店員が、設定切替スイッチ（クリアスイッチ）21TM052を操作する（ステップS21TM4610でYES）毎に、設定値格納領域に格納されている設定値が更新される（ステップS21TM4620）。例えば、正規の設定値が0～5の範囲であり、設定変更モードに制御されたとき（電源投入時、前回の電源断発生時）に設定値格納領域に格納されていた設定値が3であったとすると、設定変更操作毎に、設定値格納領域に格納される設定値が、3→4→5→0→1→2→3の順序で更新され、これに応じて、表示モニタ21TM029に表示される情報が、4→5→6→1→2→3→4の順序で更新されることになる。

【1664】

ここで、現在の設定値の表示（ステップS21TM4550）及びセキュリティ信号の出力（ステップS21TM4560）、並びに設定確認モードコマンドの送信（ステップS21TM4650）を実行可能であるが、設定変更モードコマンドの送信（ステップS21TM4590）及び設定値の更新（ステップS21TM4620）を実行できない状態は、設定値の確認は可能であるか設定値の変更はできない設定確認モードに相当する。設定確認モードに制御されている期間は、ステップS21TM4530～ステップS21TM4570及びステップS21TM4650の処理が繰り返し実行されることになる。

【1665】

設定確認モードには、錠スイッチ21TM051がON状態であり（ステップS21TM4070でYESと判定され）、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052がOFF状態であること（ステップS21TM4040でNOと判定されてRAMクリアフラグが0のままであること）に基づいて制御される。

【1666】

また、現在の設定値の表示（ステップS21TM4550）及びセキュリティ信号の出力（ステップS21TM4560）を実行可能であると共に、設定変更モードコマンドの送信（ステップS21TM4590）及び設定値の更新（ステップS21TM4620）を実行可能な状態は、設定値の確認及び変更が可能な設定変更モードに相当する。

【1667】

設定変更モードには、錠スイッチ21TM051がON状態であり（ステップS21TM4070又はステップS21TM4130でYESと判定され）、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052がON状態であること（ステップS21TM4040又はステップS21TM4140でYESと判定されて、ステップS21TM4050又はステップS21TM4150でRAMクリアフラグが1に設定されていること）に基づいて制御される。

【1668】

なお、設定確認モードコマンドに関しては、設定確認モード制御時に1回のみ送信されるコマンドである。そのため、CPU103は、設定確認モードコマンドを送信したときに、設定確認モードコマンドを送信したことを特定可能であり電源断時のバックアップ記憶が不要な設定確認モードコマンド送信フラグをセットするようしておき、設定変更中フラグがクリアされたとき（ステップS21TM4720）に、設定確認モードコマンド送信フラグをクリアするようにしても良い。そして、設定確認モードコマンド送信フラグがセットされていない場合にのみ、設定確認モードコマンドを送信可能としても良い。同様に、設定変更モードコマンドに関しては、設定変更モード制御時に1回のみ送信されるコマンドである。そのため、CPU103は、設定変更モードコマンドを送信したときに、設定変更モードコマンドを送信したことを特定可能であり電源断時のバックアップ記憶が不要な設定変更モードコマンド送信フラグをセットするようしておき、設定変更中フラグがクリアされたとき（ステップS21TM4720）に、設定変更モードコマンド送信フラグをクリアするようにしても良い。そして、設定変更モードコマンド送信フラグがセットされていない場合にのみ、設定変更モードコマンドを送信可能としても良い。

【1669】

CPU103は、ステップS21TM4680において、錠スイッチ21TM051が

10

20

30

40

50

OFF状態であるか否かを確認する。そして、錠スイッチ21TM051がON状態であれば（ステップS21TM4680でNO）、再び4msのウェイト（ステップS21TM4530）を行った後にステップS21TM4540以降の処理を繰り返す。即ち、RAMクリアフラグの値が0であれば設定確認モードの制御を継続し、RAMクリアフラグの値が1であれば設定変更モードの制御を継続する。

【1670】

ステップS21TM4680において、錠スイッチ21TM051がOFF状態であれば（ステップS21TM4680でYES）、CPU103は、設定変更モード又は設定確認モードを終了させて、セキュリティ信号タイマの値として1000msを設定する（ステップS21TM4710）。セキュリティ信号タイマの値として所定時間が設定されることで、その後、通常遊技処理に移行した際の情報出力処理（図10-14のステップS21TM1670）において、セキュリティ信号タイマの値が所定時間から0msになるまでセキュリティ信号が継続して出力されることになる。例えば、遊技制御用タイマ割込処理が2ms毎に実行される場合には、セキュリティ信号タイマの値が2msずつ減算され、0msになった時点でセキュリティ信号の出力が停止される。従って、ステップS21TM4710の時点では、設定変更モードが終了したのか、あるいは、設定確認モードが終了したのかにかかわらず、セキュリティ信号の残り出力期間が1000msに設定されていることになる。

10

【1671】

即ち、図13-4（1）に示すように、設定変更モード及び設定確認モードの何れかの制御の開始に対応してセキュリティ信号の出力を開始し（ステップS21TM4560）、設定変更モード及び設定確認モードの何れかの制御の終了に対応して、設定変更モード及び設定確認モードの何れかの制御の終了から少なくとも1secが経過するまでセキュリティ信号を継続して出力するようにセキュリティ信号タイマの値をセットする（ステップS21TM4710）。

20

【1672】

ここで、ステップS21TM4560でセキュリティ信号の出力を開始する処理は、設定変更モードに制御されるか、あるいは設定確認モードに制御されるかにかかわらず（何れのモードに制御されるかの判定を行うことなく）共通の処理として実行されている。また、ステップS21TM4710においてセキュリティ信号の残り出力期間をセットする処理も、設定変更モードに制御されたのか、あるいは設定確認モードに制御されたのかにかかわらず（何れのモードに制御されたかの判定を行うことなく）共通の処理として実行されている。このように、設定変更モードに制御される場合と、設定確認モードに制御される場合とで、セキュリティ信号の出力開始制御及び出力終了制御を共通化することにより、セキュリティ信号の出力制御を簡素化し、制御負担を軽減させることができる。

30

【1673】

また、設定変更モード及び設定確認モードの何れかの制御の開始に対応してセキュリティ信号の出力を開始し、設定変更モード及び設定確認モードの何れかの制御の終了に対応してセキュリティ信号の出力を停止することにより、ホールコンピュータ等の外部装置に対して、当該遊技機が設定変更モード又は設定確認モードに制御された可能性があることを適切に通知することができる。

40

【1674】

ここで、設定変更モード又は設定確認モードの制御が終了した直後のステップS21TM4710では、設定変更モードに制御された場合と、設定確認モードに制御された場合とで共通の値（1000ms）をセキュリティ信号タイマにセットしている。しかしながら、設定変更モードに制御された場合と、設定変更モードに制御された場合とで、セキュリティ信号の出力開始制御及び出力終了制御を両方とも共通化してしまうと、外部装置側で何れのモードに制御されたのかを把握することが困難となってしまう。

【1675】

そこで、この実施形態では、図13-4（2）に示すように、設定変更モードに制御さ

50

れた場合、即ちRAMクリアフラグが1にセットされている場合には、一旦はステップS21TM4710でセキュリティ信号タイマの値として1000msをセットした後に、後述するステップS21TM4770でNOと判定されたことに基づいて、RAMクリア後のステップS21TM1465でセキュリティ信号タイマの値として30000msを再セットする（上書きする）ようにしている。即ち、セキュリティ信号の残り出力期間を一旦は1secにセットした後に、セキュリティ信号の残り出力期間を30secに再セットする（上書きする）ようにしている。

【1676】

以上に示した信号出力制御を行った場合、セキュリティ信号の最終的な出力停止タイミングは、図13-4（2）に示すように、設定確認モードに制御されていた場合には設定確認モード終了から1secが経過したタイミングとなり、設定変更モードに制御されていた場合には設定変更モード終了から30secが経過したタイミングとなる。

10

【1677】

具体的には、設定確認モードに制御されていた場合（RAMクリアが行われず、セキュリティ信号タイマの値が1秒から変更されなかった場合）には、割込許可後の遊技制御用タイマ割込処理（例えば、図10-14に示したステップS21TM1670の情報出力処理）において、セキュリティ信号タイマの値が1000msから0msになるまでセキュリティ信号の出力を継続し、設定変更モードに制御されていた場合（RAMクリアが行われた場合であり、セキュリティ信号タイマの値が1秒から30秒に変更された場合）には、割込許可後の遊技制御用タイマ割込処理（例えば、図10-14に示したステップS21TM1670の情報出力処理）において、セキュリティ信号タイマの値が30000msから0msになるまでセキュリティ信号の出力を継続することになる。なお、設定確認モードに制御されていた場合、設定変更モードに制御されていた場合に、遊技制御用タイマ割込処理に移行する前のタイミングで、セキュリティ信号タイマの値が所定時間（1000ms又は30000ms）から0msになるまでセキュリティ信号の出力を継続するようにして、セキュリティ信号の出力終了後に遊技制御用タイマ割込処理に移行するようにしても良い。

20

【1678】

このように、設定確認モードの制御が終了した場合と、設定変更モードの制御が終了した場合とで、少なくとも1secはセキュリティ信号が継続して出力されることになり、設定変更モードに制御された場合には、設定変更モードの制御が終了してから30secが経過するまでセキュリティ信号が継続して出力されることになる。このような構成により、セキュリティ信号の出力制御を共通化しつつ、設定確認モードに制御された場合と、設定変更モードに制御された場合とで、セキュリティ信号の出力期間を異ならせることができる。

30

【1679】

その結果、外部装置においては、初期化処理が実行されずに設定確認モードに制御されたのか、又は、初期化処理が実行されて設定変更モードに制御されたのかを把握することも可能となる。例えば、セキュリティ信号の出力期間が30秒未満であれば初期化処理が実行されることなく設定確認モードに制御されたことを特定可能であり、セキュリティ信号の出力期間が30秒以上であれば初期化処理が実行されて設定変更モードに制御された可能性があることを推定可能となる。

40

【1680】

なお、磁気異常等の遊技停止対象エラーが異常検出センサにより検出された場合にも、セキュリティ信号が出力されることになる。この場合のセキュリティ信号は、遊技機の電源がOFFとなるまで継続して出力される。また、CPU103は、異常検出センサにより異常が検出されたことに基づいてRAM102のバックアップ領域（ただし初期化処理によりクリアされる領域）に異常検出フラグをセットする。そして、電源復旧時に異常検出フラグがセットされていることに基づいて、セキュリティ信号を4分間出力するものとする。

50

【1681】

ここで、電源復旧時に設定確認モードに制御された場合には、RAMクリアが実行されない（例えば、図10-13に示すステップS21TM1410が実行されない）ため、信号出力処理において異常検出フラグの値が初期化されずにセットされたままの状態となっており、セキュリティ信号を電源ONから4分間継続して出力することが可能である。即ち、セキュリティ信号の出力期間を、設定確認モードの制御終了から1秒が経過するまでの期間に限定させないことが可能となる。一方で、電源復旧時に設定変更モードに制御された場合には、RAMクリアが実行される（例えば、図10-13に示すステップS21TM1410が実行される）ことになるため、その後の信号出力処理において異常検出フラグがクリアされた状態となっており（電源断発生時に異常が検出されていたか否かが不明な状態となっており）、結果として、セキュリティ信号の出力期間は、設定変更モードの終了から30秒が経過するまでの期間（RAMクリアの実行に応じた期間）となる。

10

【1682】

なお、図13-2のステップS21TM4710に示す例では、セキュリティ信号タイマの値として1秒を設定するようにしているが、このような形態に限らず、設定変更モード又は設定確認モードの終了後に最初に設定するセキュリティ信号タイマの値は、少なくともセキュリティ信号が出力されたことを外部装置側で認識可能な期間であれば良く、例えば50ms以上であれば良い。即ち、設定変更モードが終了した場合と設定確認モードが終了した場合とで、共通の50msをセキュリティ信号タイマの値として設定しても良い。

20

【1683】

ステップS21TM4710の処理の後、CPU103は、設定変更中フラグをクリアする（ステップS21TM4720）。ここで、設定変更中フラグがクリアされたことにより、これ以降に電源断が発生した場合には、電源復旧時に設定変更中フラグがセットされていない（ステップS21TM4030でNO）と判定されることになる。

【1684】

次いで、CPU103は、表示モニタ21TM029に表示している設定値を消去する（ステップS21TM4730）。そして、設定値格納領域に格納されている設定値（0～5の何れか）を設定コマンドにセットして、その設定コマンドを送信する（ステップS21TM4760）。なお、電源投入時に設定変更モード及び設定確認モードの何れのモードにも制御されない場合であっても、ステップS21TM4760の処理は実行されることになり、設定コマンドが送信される。

30

【1685】

ここで、遊技者は通常、設定値の範囲を1～6と認識しており、演出制御用CPU120側で、設定コマンドが指定する値（設定値格納領域に格納されている値）をそのまま画像表示装置5に表示してしまうと、遊技者が設定値を誤って理解してしまうおそれがある。そこで、この実施形態では、演出制御用CPU120側で、設定コマンドにより指定される値（0～5）に1を加算した値を設定値（1～6）として認識し、設定値1～6の範囲で、設定値を示唆する演出を実行するようにしている。

【1686】

なお、このような形態に限らず、CPU103が、設定値格納領域に格納されている設定値（0～5）に1を加算した値（1～6）を設定コマンドにセットして、演出制御用CPU120に送信するようにしても良い。これにより、設定コマンドが指定する設定値の範囲は1～6となり、遊技者が通常認識している範囲と合致することになる。演出制御用CPU120側では、設定コマンドが指定する設定値（1～6）をそのまま画像表示装置5に表示したり、あるいは、設定コマンドが指定する設定値（1～6）を示唆する演出を実行することで、適切に設定値を報知又は示唆することができる。また、演出制御用CPU120側で、受信した設定コマンドが指定する設定値に対して加算処理を行うことも不要となり、演出制御用CPU120側の制御負担を軽減できる。

40

【1687】

50

前述したように、演出制御用CPU120は、設定コマンドの受信により、設定確認モード又は設定変更モードが終了したことを特定可能である。また、設定コマンドが指定する設定値に応じた演出を実行することにより、設定値を示唆することが可能である。例えば、大当り遊技状態が終了したときに実行されるエンディング演出の態様を、指定された設定値に応じて異ならせることで、遊技者に設定値を示唆することが可能である。

【1688】

次いで、CPU103は、RAMクリアフラグの値が0であるか否かを確認する（ステップS21TM4770）。

【1689】

ここで、RAMクリアフラグの値が0である（ステップS21TM4770でYES）ということは、バックアップRAM領域のデータチェック結果が正常であり（ステップS21TM4010でYES）、設定値が正規の値である（ステップS21TM4020でYES）、と判定され、且つ、設定変更中に電源断が発生しておらず（ステップS21TM4030でNO）、さらに、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052がOFF状態である（ステップS21TM4040でNO）ということであるから、RAMクリアを伴わない電源断復旧時の処理を実行すれば良い。

【1690】

CPU103は、RAMクリアフラグの値が0である場合、図10-13に示したステップS21TM1340以降と同様の処理を実行する。具体的には、ステップS21TM1340～ステップS21TM1370及びステップS21TM1480～ステップS21TM1540の処理、即ち電源投入時にバックアップRAM領域のデータチェック結果が正常であった場合の処理を実行して、割込許可後に図10-14に示した遊技制御用タイマ割込処理（特別図柄プロセス処理等を含む）に移行すれば良い。即ち、設定変更モード及び設定確認モードの何れにも制御されなかった場合、又は、設定確認モードの制御が終了した場合には、CPU103は、RAMクリアフラグの値が0であることに基づいてRAMクリアを実行することなく、電源断復旧時のコマンドとしてバックアップコマンドを送信して（ステップS21TM1370）、通常遊技処理に移行することになる。

【1691】

演出制御用CPU120では、このバックアップコマンド（復旧時のコマンド）を受信したことに基づいて、電力供給停止時のデータに基づいて電源断からの復旧が行われたこと（RAMクリアは行われてないこと）を認識する。演出制御用CPU120は、バックアップコマンドを受信すると、例えば画像表示装置5、スピーカ8L、8R、遊技効果ランプ9等の演出装置において、電力供給停止時のデータに基づいて電源断からの復旧が行われたこと（RAMクリアは行われてないこと）を報知することが可能である。

【1692】

一方、RAMクリアフラグの値が1である（ステップS21TM4770でNO）ということは、ステップS21TM4050又はステップS21TM4150で、RAMクリアが1に設定されており、RAMクリアを実行することに決定されているということであるから、RAMクリアを伴う電源投入時の処理を実行すれば良い。

【1693】

CPU103は、RAMクリアフラグの値が1である場合、図10-13に示したステップS21TM1410（RAMクリア処理）以降と同様の処理を実行する。具体的には、ステップS21TM1410（RAMクリア処理）～ステップS21TM1460、前述したセキュリティ信号タイマの値として30秒を設定する処理（ステップS21TM1465）、及びステップS21TM1480～ステップS21TM1540の処理、即ち電源投入時にバックアップRAM領域のデータチェック結果が異常であった場合の処理を実行して、割込許可後に図10-14に示した遊技制御用タイマ割込処理（特別図柄プロセス処理等を含む）に移行すれば良い。

【1694】

図13-3に示すように、CPU103は、RAMクリアフラグが1であることに基づ

10

20

30

40

50

いてRAMクリア処理を行う（ステップS21TM1410）。RAMクリア処理では、RAM102の遊技状態情報格納領域に格納されている電力供給停止前の遊技状態を示すデータ（特別図柄プロセスフラグ、確変フラグ、時短フラグ、保留記憶等）はクリアされて、初期値が設定されるが、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値はクリアされず、RAMクリア処理の前から変更されない。また、設定値毎に、連比、役比、及びベース等の各集計値（表示モニタ21TM029に表示可能な遊技情報）が記憶されている領域も、クリアされず、これら設定値毎の各集計値は、RAMクリア処理の前から変更されない。そして、表示モニタ21TM029に「C」の文字を表示すること等により、遊技状態が初期化されたことを報知する（ステップS21TM1420）。なお、RAMクリア処理によって、所定のデータ（例えば、普通図柄当り判定用乱数を生成するためのカウンタのカウント値のデータ）は0に初期化されるが、任意の値またはあらかじめ決められている値に初期化するようにしてもよい。また、RAM102の全領域を初期化せず、所定のデータ（例えば、普通図柄当り判定用乱数を生成するためのカウンタのカウント値のデータ）をそのままにしてもよい。

10

【1695】

このRAMクリア処理において設定値格納領域に格納されている設定値をクリアさせない理由は、（a）設定変更モードに制御されなかった場合には、電源投入時に設定値格納領域には正規の値が格納されていたことになり（ステップS21TM4020でYES）、（b）設定変更モードに制御された場合には、設定値格納領域の値が0に設定されたか（ステップS21TM4520）又は設定変更モード中の操作によって正規の値が格納されている（ステップS21TM4610及びステップS21TM4620）ためである。さらに、RAMクリア処理以降は、設定変更モードに制御することができず、設定値格納領域に格納されている値を変更する機会がないためである。

20

【1696】

次いで、CPU103は、ROM101に格納されている初期化時設定テーブルの先頭アドレスをポインタに設定し（ステップS21TM1430）、初期化時設定テーブルの内容を順次作業領域に設定する（ステップS21TM1440）。ステップS21TM1430およびステップS21TM1440の処理によって、例えば、普通図柄当り判定用乱数カウンタ、特別図柄バッファ、総賞球数格納バッファ、特別図柄プロセスフラグなど制御状態に応じて選択的に処理を行うためのフラグに初期値が設定される。

30

【1697】

ステップS21TM1430、ステップS21TM1440の実行後、CPU103は、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値を読み出す（ステップS21TM1450）。後述する遊技制御用タイマ割込処理では、ここで読み出された設定値に基づいて特別図柄プロセス処理（ステップS21TM1690）における大当り判定が実行される。次いで、CPU103は、電源投入時（あるいは設定変更モードの終了時）に初期化処理が行われたことを指定する初期化コマンドを送信する（ステップS21TM1460）。演出制御用CPU120では、この初期化コマンドを受信したことに基づいて、初期化処理が行われたこと（電力供給停止時のデータに基づいて電源断からの復旧が行われずに、RAMクリアが行われたこと）を認識する。演出制御用CPU120は、初期化コマンドを受信すると、例えば画像表示装置5、スピーカ8L、8R、遊技効果ランプ9等の演出装置において、遊技状態等の初期化が行われたこと（電力供給停止時のデータに基づいて電源断からの復旧が行われずに、RAMクリアが行われたこと）を報知することが可能である。

40

【1698】

次いで、CPU103は、セキュリティ信号タイマの値として30秒を設定する（ステップS21TM1465）。これにより、設定変更モード終了後のステップS21TM4710で設定されていたセキュリティ信号タイマの値（1秒）が、RAMクリアが実行されたことに対応した値（30秒）に変更（上書き）されることになる。また、設定変更モード及び設定確認モードの何れのモードにも制御されることなくRAMクリアが実行され

50

た場合には、ステップS 2 1 T M 4 7 1 0が実行されることなく（セキュリティ信号タイマの値として1秒が設定されることなく）、セキュリティ信号タイマの値が、R A Mクリアが実行されたことに対応した3 0秒に設定される。一方、R A Mクリアが実行されなかった場合（設定確認モードに制御された場合を含む）には、このステップS 2 1 T M 1 4 6 5の処理は実行されないの、セキュリティ信号タイマの値はステップS 2 1 T M 4 7 1 0で設定された1秒のままである。

【1 6 9 9】

このステップS 2 1 T M 1 4 6 5又は前述したステップS 2 1 T M 4 7 1 0で、セキュリティ信号タイマの値が設定されたことにより、割込許可後の遊技制御用タイマ割込処理においてセキュリティ信号が出力されることになり（図1 0－1 4に示すステップS 2 1 T M 1 6 7 0の情報出力処理）、その後、割込許可により遊技制御用タイマ割込処理が実行される毎に、セキュリティ信号タイマの値が2 m s ずつ減算され、セキュリティ信号タイマの値が0となったタイミングでセキュリティ信号の出力が停止されることになる。

10

【1 7 0 0】

そして、C P U 1 0 3は、シリアル通信回路2 1 T M 5 0 5の設定処理を実行する（ステップS 2 1 T M 1 4 8 0）。この設定処理では、主基板1 1の出力回路2 1 T M 0 6 7から払出制御基板2 1 T M 0 3 7の入力回路2 1 T M 3 7 3 Aに接続確認信号が出力される（前述した図1 0－1 9及び図1 0－2 1を参照）。また、遊技制御用マイクロコンピュータ1 0 0のシリアル通信回路2 1 T M 5 0 5と、払出制御用マイクロコンピュータ2 1 T M 3 7 0のシリアル通信回路2 1 T M 3 8 0との通信を実行可能な状態に設定する。

20

【1 7 0 1】

次に、C P U 1 0 3は、乱数回路1 0 4を初期設定する乱数回路設定処理を実行する（ステップS 2 1 T M 1 4 9 0）。C P U 1 0 3は、例えば、乱数回路設定プログラムに従って処理を実行することによって、乱数回路1 0 4に特図表示結果判定用の乱数値M R 1の値を更新させるための設定を行う。

【1 7 0 2】

そして、ステップS 2 1 T M 1 5 0 0において、C P U 1 0 3は、所定時間（例えば2 m s）毎に定期的にタイマ割込がかかるように遊技制御用マイクロコンピュータ1 0 0に内蔵されているC T Cのレジスタの設定を行う。すなわち、初期値として例えば2 m sに相当する値が所定のレジスタ（時間定数レジスタ）に設定される。この実施例では、2 m s 毎に定期的にタイマ割込がかかるとする。

30

【1 7 0 3】

次いで、C P U 1 0 3は、表示用乱数更新処理（ステップS 2 1 T M 1 5 2 0）および初期値用乱数更新処理（ステップS 2 1 T M 1 5 3 0）を繰返し実行する。表示用乱数更新処理および初期値用乱数更新処理を実行するときには割込禁止状態に設定し（ステップS 2 1 T M 1 5 1 0）、表示用乱数更新処理および初期値用乱数更新処理の実行が終了すると割込許可状態に設定する（ステップS 2 1 T M 1 5 4 0）。これにより、遊技制御用タイマ割込み処理（図1 0－1 4）を実行可能な通常遊技処理に移行する。この実施例では、表示用乱数とは、大当たりとしない場合の特別図柄の停止図柄を決定するための乱数や大当たりとしない場合にリーチとするか否かを決定するための乱数であり、表示用乱数更新処理とは、表示用乱数を発生するためのカウンタのカウント値を更新する処理である。また、初期値用乱数更新処理とは、初期値用乱数を発生するためのカウンタのカウント値を更新する処理である。この実施例では、初期値用乱数とは、普通図柄に関して当りとするか否かを決定するための乱数を発生するためのカウンタ（普通図柄当り判定用乱数発生カウンタ）のカウント値の初期値を決定するための乱数である。後述する遊技の進行を制御する遊技制御処理（遊技制御用マイクロコンピュータ1 0 0が、遊技機に設けられている演出表示装置、可変入賞球装置、球払出装置等の遊技用の装置を、自身で制御する処理、または他のマイクロコンピュータに制御させるために指令信号を送信する処理、遊技装置制御処理ともいう）において、普通図柄当り判定用乱数のカウント値が1周（普通図柄当り判定用乱数の取りうる値の最小値から最大値までの間の数値の個数分歩進したこと）する

40

50

と、そのカウンタに初期値が設定される。

【1704】

なお、本例では、CPU103は、ステップS21TM4770でRAMクリアフラグが0である（YES）と判定された場合、遊技機用枠3及びガラス扉枠3aが何れも閉鎖状態となっているか否かを確認することなく（遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの状態によらず）、電源断復旧時の処理（ステップS21TM1340以降の処理）に移行しているが、このような形態に限らず、ステップS21TM4770でRAMクリアフラグが0である（YES）と判定された場合、遊技機用枠3及びガラス扉枠3aが何れも閉鎖状態となっていることを条件として（遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの状態に応じて）、電源断復旧時の処理（ステップS21TM1340以降の処理）に移行しても良い。

10

【1705】

また、本例では、CPU103は、ステップS21TM4770でRAMクリアフラグが1である（NO）と判定された場合、遊技機用枠3及びガラス扉枠3aが何れも閉鎖状態となっているか否かを確認することなく（遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの状態によらず）、電源投入時の処理（ステップS21TM1410（RAMクリア）以降の処理）に移行しているが、このような形態に限らず、ステップS21TM4770でRAMクリアフラグが1である（NO）と判定された場合、遊技機用枠3及びガラス扉枠3aが何れも閉鎖状態となっていることを条件として（遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの状態に応じて）、電源投入時の処理（ステップS21TM1410（RAMクリア）以降の処理）に移行しても良い。

20

【1706】

以上に示したように、遊技場の店員等は、電源投入時に錠スイッチ21TM051をON状態とし、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052をON状態とすることで、パチンコ遊技機1を設定変更モードに制御させることが可能であると共に、遊技状態等を初期化させること（RAMクリアを実行させること）ことが可能となる。また、電源投入時に錠スイッチ21TM051をON状態とし、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052をOFF状態とすることで、パチンコ遊技機1を設定確認モードに制御させることが可能であると共に、遊技状態等を初期化させない（ステップS21TM4040又はステップS21TM4140でNOと判定させてRAMクリアフラグを1に設定させないこと）ことが可能となる。このように、遊技場の店員は、パチンコ遊技機1を設定変更モード及び設定確認モードの何れに制御させるのかを選択可能であると共に、遊技状態等を初期化させるか否かも選択可能となっている。

30

【1707】

前述したように、電源投入時に設定変更中フラグがセットされている場合には、電源断発生時に設定変更モードに制御されていたことになるため、設定値が不安定な状態となっており、遊技場側で確定させようとしている設定値が設定値格納領域に格納されていない可能性がある。図13-1～図13-3に示した例では、CPU103は、設定変更中フラグがセットされていること（ステップS21TM4030でYES）に基づいて、通常遊技処理に移行させず遊技停止状態（ステップS21TM4200～ステップS21TM4220のループ処理）に制御可能なようにしており、遊技停止状態への制御に対応してセキュリティ信号を出力するようにしている（ステップS21TM4220）。

40

【1708】

このような構成とすることにより、設定値が不安定な状態で遊技が開始される（遊技制御用タイマ割込処理が実行される）ことを防止するとともに、電源が投入されたときに、電源断発生時に設定変更モードに制御されていたことを外部装置に通知可能としている。

【1709】

また、図13-1～図13-3に示した例では、CPU103は、設定変更中フラグがセットされていること（ステップS21TM4030でYES）に基づいて、設定変更モードに移行するための条件（ステップS21TM4120～ステップS21TM4140が全てYESであること）が成立していない場合に、設定値異常エラーコマンドを送信す

50

る（ステップS 2 1 T M 4 1 9 0）とともに、遊技停止状態（ステップS 2 1 T M 4 2 0 0～ステップS 2 1 T M 4 2 2 0のループ処理）において表示モニタ2 1 T M 0 2 9に「E」の文字を表示するエラー表示を行う（ステップS 2 1 T M 4 2 1 0）。

【1 7 1 0】

図1 3－5に示す例では、表示モニタ2 1 T M 0 2 9を構成する各7セグメント表示器2 1 T M 0 2 9 A～2 1 T M 0 2 9 Dに、それぞれ「E」の文字を表示することで、遊技場の店員に異常の発生（設定変更モードに制御されていた状態で電源断が発生した可能性があること）を明確に報知するようにしている。また、設定値異常エラーコマンドを受信した演出制御用C P U 1 2 0は、画像表示装置5に「電源断後に電源を再投入して設定変更モードに移行させて下さい」というメッセージを表示することにより、遊技場の店員等に、一旦は電源断の状態（電源スイッチ2 1 T M 0 5 5をO F F）にした後、電源再投入時（電源スイッチ2 1 T M 0 5 5をO N時）に設定変更モードに移行させて設定値を変更するための操作を行う（設定値を確定させる）ように促す報知を行う。

10

【1 7 1 1】

本例では、（a）電源投入時に設定変更中フラグがセットされていた場合において、設定変更モードに制御するための移行条件が成立している場合、即ち、（i）遊技機用枠3が開放状態であり（ステップS 2 1 T M 4 1 2 0でY E S）、（i i）錠スイッチ2 1 T M 0 5 1がO N状態であり（ステップS 2 1 T M 4 1 3 0でY E S）、且つ、（i i i）クリアスイッチ（設定切替スイッチ）2 1 T M 0 5 2がO N状態である（ステップS 2 1 T M 4 1 4 0でY E S）、と判定された場合には、設定変更モードに制御される。その結果、主基板1 1側でのエラー表示（ステップS 2 1 T M 4 2 1 0：表示モニタ2 1 T M 0 2 9における「E」の表示）は実行されず、演出制御基板1 2側でのメッセージ表示（「電源断後に電源を再投入して設定変更モードに移行させて下さい」）も行われないことになる。

20

【1 7 1 2】

ここで、設定変更モードコマンド（ステップS 2 1 T M 4 5 9 0）を受信した演出制御用C P U 1 2 0では、画像表示装置5に設定変更モードに制御されたこと、即ち、設定変更操作（設定切替スイッチ（クリアスイッチ）2 1 T M 0 5 2の操作）に応じて設定値の変更が可能であることを報知できる。例えば、「設定変更モード中です」というメッセージや、「設定変更操作を行って設定値を変更して下さい」というメッセージを画像表示装置5に表示させることができる。これにより、遊技場の店員等は、設定変更モードに制御されていることを把握可能であり、設定切替スイッチ（クリアスイッチ）2 1 T M 0 5 2を操作することで、設定値格納領域に格納されている設定値を、予定していた設定値に変更した後に、錠スイッチ2 1 T M 0 5 1をO F F状態に切り替えることで、設定値を確定させてパチンコ遊技機1を通常遊技処理に移行させることができる。

30

【1 7 1 3】

一方で、（b）電源投入時に設定変更中フラグがセットされていた場合において、設定変更モードに制御するための移行条件が成立していない場合、即ち、上記（i）～（i i i）のうちの何れかの条件が不成立の場合には、設定変更モードに制御されることなく、設定値異常エラーコマンド送信（ステップS 2 1 T M 4 1 9 0）後に遊技停止状態（ステップS 2 1 T M 4 2 0 0～ステップS 2 1 T M 4 2 2 0のループ処理）に制御される。その結果、主基板1 1側でのエラー表示（ステップS 2 1 T M 4 2 1 0：表示モニタ2 1 T M 0 2 9における「E」の表示）が実行されるとともに、演出制御基板1 2側でのメッセージ表示（「電源断後に電源を再投入して設定変更モードに移行させて下さい」）も行われることになる。

40

【1 7 1 4】

このように、主基板1 1側でのエラー表示（ステップS 2 1 T M 4 2 1 0：表示モニタ2 1 T M 0 2 9における「E」の表示）が実行されるとともに、演出制御基板1 2側でのメッセージ表示（「電源断後に電源を再投入して設定変更モードに移行させて下さい」）も行われる場合には、遊技機の状態として、設定変更モード中に電源断が発生したにもか

50

かわらず電源復旧後に設定変更モードへの移行条件が成立していない状態であることが報知されることになる。この場合には、遊技場の店員等は、設定変更モードに制御されておらず、遊技停止状態となっていること（電源を再投入して設定変更モードに制御させる必要があること）を把握可能である。従って、一端電源をOFFにした後に、設定変更モードへの移行条件（i）～（iii）が全て成立するように操作して電源を再投入する。そして、設定変更モードにおいて、設定切替スイッチ（クリアスイッチ）21TM052を操作することで、設定値格納領域に格納されている設定値を、予定していた設定値に変更した後に、錠スイッチ21TM051をOFF状態に切り替えることで、設定値を確定させてパチンコ遊技機1を通常遊技処理に移行させることができる。

【1715】

10

このように、設定変更モードにおいて電源断が発生した場合には、電源復旧時に遊技機の状態を適切に報知することができる。

【1716】

ここで、電源復旧時に設定変更モードへの移行条件が成立している（a）の場合には、主基板11側でのエラー表示（ステップS21TM4210：表示モニタ21TM029における「E」の表示）が行われることなく自動的に設定変更モードに移行されることになり、不要なエラー表示を回避して適切に設定値の変更を促すことができる。

【1717】

一方で、電源復旧時に設定変更モードへの移行条件が成立していない（b）の場合には、設定変更モード中に電源断が発生したにもかかわらず、電源復旧時に設定変更モードに移行できない状態となっているため、強制的に遊技停止状態（ステップS21TM4200～ステップS21TM4220のループ処理）に制御され、主基板11側でのエラー表示（ステップS21TM4210：表示モニタ21TM029における「E」の表示）が行われることになる。これにより、設定値が確定していない不安定な状態での遊技の進行を制限することができ、適切な遊技制御を実現できる。

20

【1718】

なお、設定変更中フラグがセットされている場合に（ステップS21TM4030でYES）、設定変更モードに移行するための移行条件（i）～（iii）が全て成立している場合と、移行条件（i）～（iii）の何れかが成立していない場合とで、設定値が異常である可能性があることを示すコマンドとして異なるコマンドを送信するようにしても

30

【1719】

例えば、移行条件が成立している場合には、設定値が異常である可能性があることを示すコマンドであり且つ設定変更モードに移行されたこと（あるいは移行する条件が成立していること）を示すコマンドを送信し、このコマンドを受信した演出制御用CPU120では、「設定値が異常である可能性があります」というメッセージ及び「自動的に設定変更モードに制御されます」というメッセージを画像表示装置5に表示させるようにすると良い。一方、移行条件が成立していない場合には、前述したようにステップS21TM4190の設定値異常エラーコマンドを送信すると良い。

【1720】

40

設定変更モード又は設定確認モードが終了して通常遊技処理へ移行した後は、遊技機用枠3及びガラス扉枠3aが何れも閉鎖状態となっているときに、（1）錠スイッチ21TM051が操作されたこと（OFF状態からON状態となったこと）に応じて、遊技制御用マイクロコンピュータ100から演出制御用CPU120に対して、錠スイッチ操作コマンドが送信され、（2）設定切替スイッチ（クリアスイッチ）21TM052が操作されたこと（OFF状態からON状態となったこと）に応じて、遊技制御用マイクロコンピュータ100から演出制御用CPU120に対して、設定切替スイッチ操作コマンドが送信されることになる。

【1721】

そして、図10-38（2）に示したように、演出制御基板12（演出制御用CPU1

50

20)は、錠スイッチ操作コマンド、及び／又は、設定切替スイッチ操作コマンドを受信したことに基づいて、設定変更モード及び設定確認モードの何れにも制御されていないにもかかわらず、設定値を変更させるための操作が行われたことを特定して、その旨を報知可能である。例えば、錠スイッチ操作コマンドを受信したことに基づいて、画像表示装置5において「錠スイッチの操作を検出しました。」の文字を表示する異常操作警告報知を実行する。また、設定切替スイッチ操作コマンドを受信したことに基づいて、「設定切替スイッチの操作を検出しました。」の文字を表示する異常操作警告報知を実行する。これにより、遊技場の店員等は、設定変更モード及び設定確認モードの何れにも制御されていないにもかかわらず設定値を変更させるための操作が行われたことを明確に把握して、不正が行われていないか等を確認することができる。

10

【1722】

なお、このような形態に限らず、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、設定変更モード又は設定確認モードが終了して通常遊技処理へ移行した後は、錠スイッチ21TM051が操作されたか否か、及び、設定切替スイッチ（クリアスイッチ）21TM052が操作されたか否か、を確認することなく、錠スイッチ操作コマンド及び設定切替スイッチ操作コマンドを送信しないようにしても良い。このように、通常遊技処理（遊技制御用タイマ割込処理）が実行されている期間は、設定値を変更するための操作及び設定値を確認するための操作の実行状況を確認しないようにすることで、遊技制御用マイクロコンピュータ100の制御負担を軽減することが可能になる。

【1723】

20

（電源投入時処理の変形例）

図13-1に示した例では、電源投入時に設定変更中フラグがセットされていた場合には（ステップS21TM4030でYES）、（i）遊技機用枠3が開放状態であり（ステップS21TM4120でYES）、（ii）錠スイッチ21TM051がON状態であり（ステップS21TM4130でYES）、且つ、（iii）クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052がON状態である（ステップS21TM4140でYES）、という3条件が成立していることを確認した場合にのみ、RAMクリアフラグを1に設定して（ステップS21TM4150）、設定変更モードに移行した（ステップS21TM4570でNO）。

【1724】

30

このような形態に限らず、図13-6に示すように、電源投入時に設定変更中フラグがセットされていた場合には（ステップS21TM4030でYES）、（i）～（iii）の3条件が成立しているか否かを確認することなく、RAMクリアフラグを1に設定して（ステップS21TM4150）、設定変更モードに移行する（ステップS21TM4570でNO）ようにしても良い。

【1725】

図13-6に示す処理では、バックアップRAM領域のデータチェック結果が異常である場合（ステップS21TM4010でNO）、設定値が正規の値ではない場合（ステップS21TM4020でNO）、設定変更中フラグがセットされている場合（ステップS21TM4030でYES）に、（i）～（iii）の条件が成立しているか否かを判定することなく、RAMクリアフラグを1に設定して（ステップS21TM4150）、設定変更モードに制御され（ステップS21TM4570でNO）、遊技停止状態（ステップS21TM4200～ステップS21TM4220のループ処理に相当する処理）には制御されない部分が、図13-1に示した処理と異なる。それ以外の部分は、図13-1～図13-3に示した処理と同様である。

40

【1726】

このような形態とした場合であっても、電源投入時に設定変更中フラグがセットされていることに基づいて、RAMクリアフラグが1に設定されて設定変更モードに移行されることになり、設定変更中に電源断が発生した場合の遊技機の状態を適切に定めることができる。

50

【1727】

図13-6に示す例では、設定変更中フラグがセットされていない場合には（ステップS21TM4030でNO）、（i）遊技機用枠3が開放状態であり、（ii）錠スイッチ21TM051がON状態であり、且つ、（iii）クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052がON状態である、という3条件が成立していることに基づいて、設定変更モードに制御される（ステップS21TM4570でNOと判定されて、設定値格納領域の設定値を変更可能な状態となる）のに対して、設定変更中フラグがセットされている場合（ステップS21TM4030でYES）には、（i）～（iii）の3条件が成立しているか否かにかかわらず、強制的に設定変更モードに制御されることになる。

【1728】

このように、設定変更モードに制御されているときに電源断が発生した場合には、電源復旧時に設定変更中フラグが設定されていることに基づいて、（i）～（iii）の3条件が成立しているか否かにかかわらず自動的に設定変更モードに制御されることにより、設定値を確定させるための作業性を向上させることができる。

【1729】

ここで、設定変更中フラグがセットされている場合（ステップS21TM4030でYES）には、（ii）錠スイッチ21TM051がON状態である（ステップS21TM4130でYES）という条件が成立していない場合でも、設定変更モードに制御されることになる。その結果、設定変更モードにおいては、錠スイッチ21TM051がOFF状態のままで、設定切替スイッチ（クリアスイッチ）21TM052を操作することで、設定値格納領域に格納されている設定値が変更されることになる（図13-2のステップS21TM4610～ステップS21TM4620）。

【1730】

前述したように、設定変更モードを終了させる条件は、錠スイッチ21TM051をON状態からOFF状態に切り替えることである（ステップS21TM4680でYESと判定させることである）。そのため、設定値の変更操作を行った遊技場の店員は、設定値を確定して設定変更モードを終了させるために、錠スイッチ21TM051がOFF状態であれば、一旦、錠スイッチ21TM051をOFF状態からON状態に切り替えた後に、錠スイッチ21TM051をON状態からOFF状態に切り替える（ステップS21TM4680でYESと判定させる）ことになる。

【1731】

このように、設定変更中フラグがセットされていない場合と（ステップS21TM4030でNO）、設定変更中フラグがセットされている場合とで（ステップS21TM4030でYES）、設定変更モードの制御を開始させる条件を異ならせる一方で、設定変更モードの制御を終了させる条件（錠スイッチ21TM051をON状態からOFF状態に切り替える操作）は共通化することで、設定変更モードの制御を終了させる条件を明確にして、適切に通常遊技処理に移行させるようにしている。

【1732】

ここで、設定変更中フラグがセットされている（ステップS21TM4030でYES）ことに基づいて設定変更モードに制御された場合に、錠スイッチ21TM051をON状態にするように促す報知を行うようにしても良い。例えば、CPU103は、設定変更中フラグがセットされている場合に（ステップS21TM4030でYES）、ステップS21TM4150でRAMクリアフラグを1に設定するとともに、設定値異常エラーコマンドを送信する（前述したステップS21TM4190に相当する処理を実行する）ようにしておき、設定値異常エラーコマンド（ステップS21TM4110）を受信した演出制御用CPU120が、「錠スイッチを一旦ONにして、設定値変更後にOFFに切り替えて下さい」というメッセージを画像表示装置5に表示するようにしても良い。

【1733】

なお、図13-1～図13-3、並びに図13-6に示した処理においては、設定変更中フラグがセットされている状態では通常遊技処理に移行できないようになっている。そ

10

20

30

40

50

のため、遊技機メーカーが、パチンコ遊技機1を出荷する際（遊技場への設置前）に、予め設定変更中フラグをセットしておくことで、その後、遊技場側では、設定変更モードを経て設定値を変更し、設定変更モードを終了させなければ、当該パチンコ遊技機1での遊技を行わせることができなくなる。これにより、遊技場でパチンコ遊技機1を設置する際に、確実に設定変更モードに制御させて設定変更操作を行わせ、設定値を確定させる措置をとるようにすることができる。

【1734】

（設定値変更中に電源断が発生した場合の設定値記憶制御）

次に、設定値変更中に電源断が発生した場合の設定値記憶制御に関して、図13-7を用いて説明する。図13-2、及び、前述した図11-2に示した例では、設定変更モードにおいて、設定切替スイッチ（クリアスイッチ）21TM052が操作されることで、設定値格納領域に格納されている設定値自体が変更されることになる。

10

【1735】

まず、設定変更モード中に設定値の変更操作が行われて、錠スイッチ21TM051がON状態からOFF状態に切り替えられる前（設定変更モード終了前）に電源断が発生した場合の制御に関して、図13-7（1）を用いて説明する。

【1736】

順番1に示すように、電源投入時に錠スイッチ21TM051をON状態として（クリアスイッチ21TM052もON状態として）設定変更モードに制御させるものとする。本例では、この電源投入時において、RAM102の設定値格納領域に設定値として「0」が格納されている。次いで、順番2に示すように、設定変更モードが開始されたことに伴い、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値「0」が読み出されて、読み出された設定値に1を加算した「1」が表示モニタ21TM029に表示されることになる。この時点で錠スイッチ21TM051はON状態のままである。

20

【1737】

次いで、順番3に示すように、設定変更モードにおいて、1回目の設定切替スイッチ（クリアスイッチ）21TM052の操作が行われたことに基づいて、設定値格納領域に格納される設定値が「0」から「1」に変更され、変更後の設定値に1を加算した「2」が表示モニタ21TM029に表示されることになる。この時点で錠スイッチ21TM051はON状態のままである。さらに、順番4に示すように、設定変更モードにおいて、2回目の設定切替スイッチ（クリアスイッチ）21TM052の操作が行われたことに基づいて、設定値格納領域に格納される設定値が「1」から「2」に変更され、変更後の設定値に1を加算した「3」が表示モニタ21TM029に表示されることになる。この時点で錠スイッチ21TM051はON状態のままである。

30

【1738】

次いで、順番5に示すように、設定変更モードにおいて、錠スイッチ21TM051がON状態のまま、即ち、設定変更モードを終了させる操作が行われる前に、電源断が発生したものとする。このとき、設定値格納領域には、2回目の設定切替スイッチ（クリアスイッチ）21TM052の操作が行われた後の設定値「2」が格納された状態である。電源断の状態では、RAM102のバックアップ領域に形成された設定値格納領域に格納されている設定値「2」がそのまま保持されることになる。

40

【1739】

次いで、順番6に示すように、電源投入時に錠スイッチ21TM051をON状態として（クリアスイッチ21TM052もON状態として）設定変更モードに制御させるものとする。この電源投入時において、RAM102の設定値格納領域に設定値として「2」が格納されている。この設定値「2」は、前回の設定変更モード中の電源断発生時に設定値格納領域に格納されていた値である。

【1740】

次いで、順番7に示すように、設定変更モードが開始されたことに伴い、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値「2」が読み出されて、読み出された設定値に

50

1を加算した「3」が表示モニタ21TM029に表示されることになる。この時点で錠スイッチ21TM051はON状態のままである。

【1741】

なお、順番6の電源投入時には、設定変更中フラグがセットされた状態であるため、前述した図13-6に示した制御を適用する場合、錠スイッチ21TM051がOFF状態であっても（又はクリアスイッチ21TM052がOFF状態であっても）、自動的に設定変更モードに制御されることになる。そのため、順番6及び順番7における錠スイッチ21TM051の状態は、OFF状態である場合がある。

【1742】

このように、設定変更モードにおいて設定値の変更が行われて、錠スイッチ21TM051がOFF状態とされることなく（設定変更モードを終了させることなく）電源断が発生した場合には、電源復旧時に、前回の設定変更モードにおける変更後の設定値が設定値格納領域に保持された状態となっている。従って、電源復旧時には、既に予定していた設定値が設定されている場合もあり、この場合には、遊技場の店員は改めて設定値を変更する操作を行わずとも、設定変更モードを終了させて遊技機を通常遊技処理に移行させれば良いため、作業性を向上させることができる。

【1743】

次に、設定変更モード中に設定値の変更操作が行われて、錠スイッチ21TM051がON状態からOFF状態に切り替えられた後（設定変更モード終了後）に電源断が発生した場合の制御に関して、図13-7（2）を用いて説明する。

【1744】

順番1～順番4に関しては、図13-7（1）に示した例と同様であり、説明を省略する。次いで、順番5に示すように、設定変更モードにおいて、錠スイッチ21TM051がON状態からOFF状態に切り替えられたことにより、設定変更モードが終了する。これにより、2回目の設定切替スイッチ（クリアスイッチ）21TM052の操作が行われた後の設定値「2」が、最終的な設定値として確定する。このとき設定値格納領域には設定値として「2」が格納されており、表示モニタ21TM029には、確定した設定値に1を加算した「3」が表示されている。

【1745】

その後に、順番6に示すように、電源スイッチ21TM055をOFF状態とする操作が行われて、電力供給が停止された状態となったものとする。この電源断の状態では、RAM102のバックアップ領域に形成された設定値格納領域に格納されている設定値「2」がそのまま保持されることになる。

【1746】

次いで、順番7に示すように、電源投入時に錠スイッチ21TM051をON状態として（クリアスイッチ21TM052もON状態として）設定変更モードに制御させるものとする。この電源投入時において、RAM102の設定値格納領域に設定値として「2」が格納されている。この設定値「2」は、前回の設定変更モード終了時に最終的に設定値格納領域に格納されていた値である。

【1747】

次いで、順番8に示すように、設定変更モードが開始されたことに伴い、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値「2」が読み出されて、読み出された設定値に1を加算した「3」が表示モニタ21TM029に表示されることになる。この時点で錠スイッチ21TM051はON状態のままである。

【1748】

図13-7（1）及び（2）に示すように、設定変更モードに制御されているときに電源断が発生した場合と、設定変更モードの制御が終了した後に電力供給が停止された場合とで、何れの場合にも、電源復旧時には、前回の設定変更モードにおける設定変更操作に応じて変更された後の設定値、即ち電源断直前に設定値格納領域に格納されていた設定値が、有効な設定値（電源復旧時に設定格納領域に格納されている設定値）となっている。

10

20

30

40

50

【1749】

なお、図13-7に示した設定値の記憶制御に限らず、前述した図10-37に示した設定値の記憶制御を適用するようにしても良い。即ち、設定変更モードに制御されたときに設定値格納領域に格納されている設定値を設定情報一時記憶領域にコピーして、設定変更モードに制御されているときに設定切替スイッチ（クリアスイッチ）21TM052が操作された場合には、設定値格納領域の設定値を変更せずに設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値を変更し、設定変更モードを終了させる操作（錠スイッチ21TM051をON状態からOFF状態に切り替える操作）が行われたことに基づいて、設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値を設定値格納領域に格納して（上書きして）設定値を確定させるようにしても良い。なお、この場合に表示モニタ21TM029に表示させる設定値は、設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値（0～5）に1を加算した値（1～6）となり、設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値が変更されることに応じて、表示モニタ21TM029に表示される設定値も変化することになる。

10

【1750】

このような構成とすることで、電源投入に伴い設定変更モードに制御され、設定変更操作が行われた場合（表示モニタ21TM029に表示される設定値が変更された場合）であっても、設定変更モードを終了させる操作が完了することなく（錠スイッチ21TM051がOFF状態に切り替えられることなく）、電源断が発生した場合には、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値は、電源投入時（設定変更モードにおいて設定変更操作が行われる前）から変更されていないことになる。即ち、電力供給停止状態では、前回の電源投入時に設定値格納領域に格納されていた設定値が引き続き保持されていることになる。従って、電源復旧後に設定変更モード又は設定確認モードに制御されたときに表示モニタ21TM029（第1表示部21TM029A）に表示される設定値は、前回の電源投入時にRAM102の設定値格納領域に格納されていた設定値に応じた値となる。

20

【1751】

このように、設定変更モードに制御されているときに電源断が発生した場合の設定値を適切に定めることができる。また、設定変更モードが終了していない不安定な状態において電力供給が停止された場合に、設定値の変更を制限することができる。

【1752】

30

上記の実施形態に示した設定変更モード及び設定確認モードに関連した制御は、複数の設定値（例えば0～5）が設けられており、設定値に応じて大当たり確率が異なる遊技機に対して適用可能であるが、これに限らず、複数の設定値（例えば0～5）が設けられているものの、設定値によらず大当たり確率は共通である（例えば、設定値0～5の全てに関して大当たり確率が300分の1である）遊技機に対しても適用可能である。

【符号の説明】

【1753】

- 1 … パチンコ遊技機
- 2 … 遊技盤
- 3 … 遊技機用枠
- 4 A、4 B … 特別図柄表示装置
- 5 … 画像表示装置
- 6 A … 入賞球装置
- 6 B … 可変入賞球装置
- 7 … 特別可変入賞球装置
- 8 L、8 R … スピーカ
- 9 … 遊技効果ランプ
- 10 … 一般入賞口
- 11 … 主基板
- 12 … 演出制御基板

40

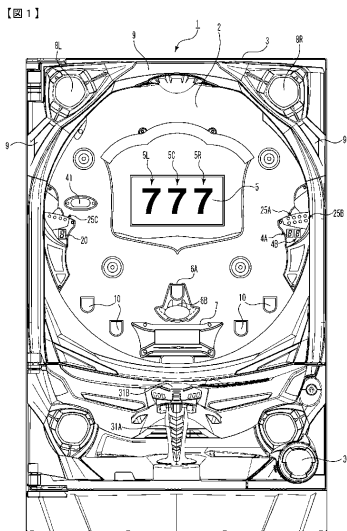
50

- 13 … 音声制御基板
- 14 … ランプ制御基板
- 15 … 中継基板
- 17 … 特殊可変入賞球装置
- 20 … 普通図柄表示器
- 21 … ゲートスイッチ
- 22 A、22 B … 始動口スイッチ
- 23 … 第1カウントスイッチ
- 24 … 第2カウントスイッチ
- 30 … 打球操作ハンドル
- 31 A … スティックコントローラ
- 31 B … プッシュボタン
- 32 … 可動体
- 41 … 通過ゲート
- 100 … 遊技制御用マイクロコンピュータ
- 101、121 … ROM
- 102、122 … RAM
- 103 … CPU
- 104、124 … 乱数回路
- 105、125 … I/O
- 120 … 演出制御用CPU
- 123 … 表示制御部

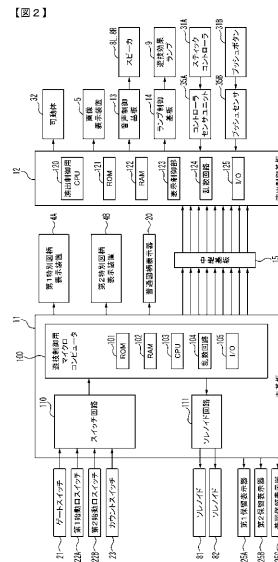
10

20

【図1】

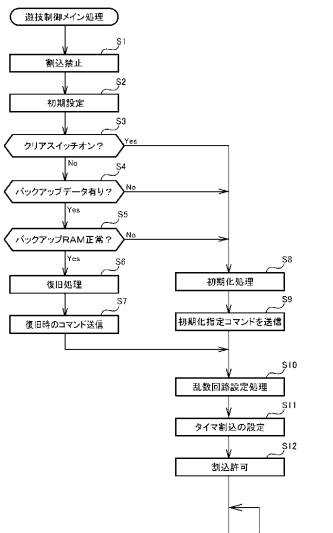


【図2】



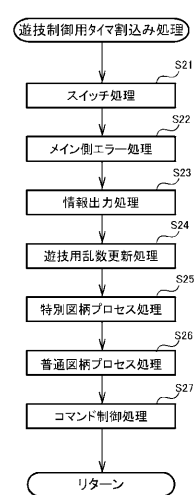
【図 3】

【図 3】



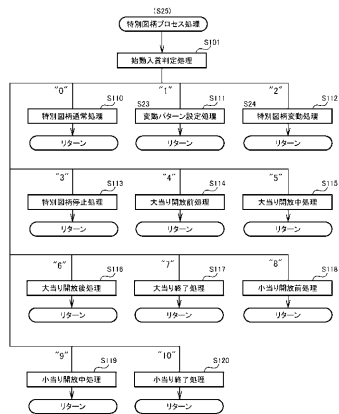
【図 4】

【図 4】



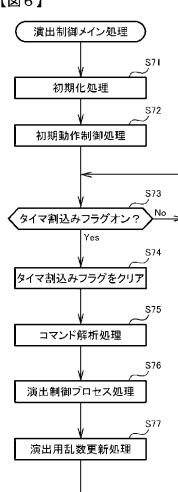
【図 5】

【図 5】

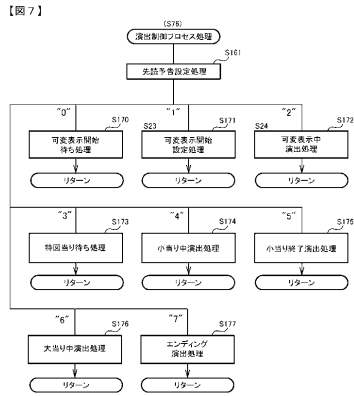


【図 6】

【図 6】



【図 7】



【図 8 - 1】

【図 8 - 1】

(A) 大当り判定テーブル

大当り判定値 (大当り判定用乱数 [0~65535] と比較される)	1381W130a
非確実状態 (低確率状態)	0~224
確実状態 (高確率状態)	0~2249

(B) 小当り判定テーブル (第 1 特別図柄用)

小当り判定値 (大当り判定用乱数 [0~65535] と比較される)	1381W130b
非確実状態 (低確率状態)	特定値なし
確実状態 (高確率状態)	特定値なし

(C) 小当り判定テーブル (第 2 特別図柄用)

小当り判定値 (大当り判定用乱数 [0~65535] と比較される)	1381W130c
非確実状態 (低確率状態)	225~65535
確実状態 (高確率状態)	2250~65535

(D) 大当り種別判定テーブル (第 1 特別図柄用)

大当り種別判定値 (大当り種別判定用乱数 [0~99] と比較される)	1381W131a
16 R 確実大当り	0~8
6 R 確実大当り	9~64
6 R 通常大当り	65~99

(E) 大当り種別判定テーブル (第 2 特別図柄用)

大当り種別判定値 (大当り種別判定用乱数 [0~99] と比較される)	1381W131b
16 R 確実大当り	0~9
9 R 確実大当り	10~59
2 R 確実大当り	60~64
2 R 通常大当り	65~99

【図 8 - 2】

【図 8 - 2】

(A) 第 1 特別図柄用変動パターンテーブル [非 K T 時]

EX T	変動パターン名	変動内容	変動時間
01	第 1 変動パターン # 01	はずれ	15 秒
02	第 1 変動パターン # 02	リーチ A はずれ	30 秒
03	第 1 変動パターン # 03	リーチ B はずれ	40 秒
04	第 1 変動パターン # 04	リーチ A 大当り	30 秒
05	第 1 変動パターン # 05	リーチ B 大当り	40 秒

(B) 第 1 特別図柄用変動パターンテーブル [K T 時]

EX T	変動パターン名	変動内容	変動時間
06	第 1 変動パターン # 06	はずれ	2 秒
07	第 1 変動パターン # 07	大当り	10 秒

【図 8 - 3】

【図 8 - 3】

(C) 第 2 特別図柄用変動パターンテーブル [非 K T 時]

EX T	変動パターン名	変動内容	変動時間
11	第 2 変動パターン # 01	はずれ	15 秒
12	第 2 変動パターン # 02	小当り	15 秒
13	第 2 変動パターン # 03	大当り	5 秒

(D) 第 2 特別図柄用変動パターンテーブル [低確率 / 第 1 K T 時 / 1 変動目]

EX T	変動パターン名	変動内容	変動時間
14	第 2 変動パターン # 04	はずれ [短縮変動]	5 秒
15	第 2 変動パターン # 05	小当り [第 2 始動入賞口開放準備]	7 秒
16	第 2 変動パターン # 06	大当り	2 分

(E) 第 2 特別図柄用変動パターンテーブル [高確率 / 第 1 K T 時 / 2 ~ 4 9 変動目]

EX T	変動パターン名	変動内容	変動時間
17	第 2 変動パターン # 07	はずれ [短縮変動] [第 2 保留記憶数 = 0]	5 秒
18	第 2 変動パターン # 08	はずれ [短縮変動] [第 2 保留記憶数 = 1]	1 秒
19	第 2 変動パターン # 09	はずれ [リーチ変動]	2 分
1A	第 2 変動パターン # 10	小当り [短縮変動] [第 2 保留記憶数 = 0]	5 秒
1B	第 2 変動パターン # 11	小当り [短縮変動] [第 2 保留記憶数 = 1]	1 秒
1C	第 2 変動パターン # 12	小当り [リーチ変動]	2 分
1D	第 2 変動パターン # 13	大当り [リーチ変動]	2 分

(F) 第 2 特別図柄用変動パターンテーブル [高確率 / 第 1 K T 時 / 50 変動目]

EX T	変動パターン名	変動内容	変動時間
1E	第 2 変動パターン # 14	はずれ [終了表示]	10 秒
1F	第 2 変動パターン # 15	小当り [終了表示]	10 秒
20	第 2 変動パターン # 16	大当り [終了表示 + 復活表示]	15 秒

【図 8 - 4】

【図 8 - 4】

(G) 第 2 特別図柄用変動パターンテーブル [高確率 / 第 1 K T 時 / 1 変動目]

EX T	変動パターン名	変動内容	変動時間
21	第 2 変動パターン # 17	はずれ [短縮変動]	5 秒
22	第 2 変動パターン # 18	はずれ [リーチ変動]	2 分
23	第 2 変動パターン # 19	小当り [第 2 始動入賞口開放準備]	7 秒
24	第 2 変動パターン # 20	小当り [リーチ変動]	2 分
25	第 2 変動パターン # 21	大当り [リーチ変動]	2 分

(H) 第 2 特別図柄用変動パターンテーブル [高確率 / 第 1 K T 時 / 2 変動目以降]

EX T	変動パターン名	変動内容	変動時間
26	第 2 変動パターン # 22	はずれ [短縮変動] [第 2 保留記憶数 = 0]	5 秒
27	第 2 変動パターン # 23	はずれ [短縮変動] [第 2 保留記憶数 = 1]	1 秒
28	第 2 変動パターン # 24	はずれ [リーチ変動]	2 分
29	第 2 変動パターン # 25	小当り [短縮変動] [第 2 保留記憶数 = 0]	5 秒
2A	第 2 変動パターン # 26	小当り [短縮変動] [第 2 保留記憶数 = 1]	1 秒
2B	第 2 変動パターン # 27	小当り [リーチ変動]	2 分
2C	第 2 変動パターン # 28	大当り [リーチ変動]	2 分

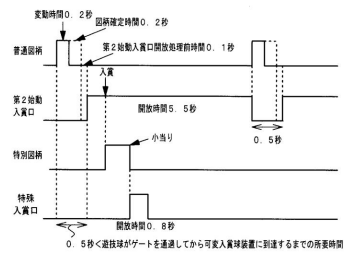
(I) 第 2 特別図柄用変動パターンテーブル [高確率 / 第 2 K T 時]

EX T	変動パターン名	変動内容	変動時間
2D	第 2 変動パターン # 29	はずれ [短縮変動]	1. 5 秒
2E	第 2 変動パターン # 30	はずれ [リーチ変動]	20 秒
2F	第 2 変動パターン # 31	小当り [短縮変動]	1. 5 秒
30	第 2 変動パターン # 32	大当り [リーチ変動]	2 分

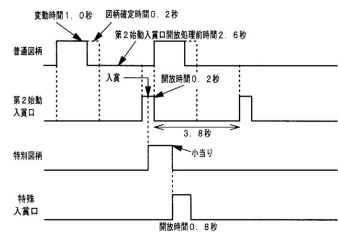
【図 8-5】

【図 8-5】

(1) 第 1 K T 状態



(2) 第 2 K T 状態



【図 8-6】

【図 8-6】

MODE	EXT	名称	内容
8 0	0 1	第 1 変動パターン#0 1 指定	第 1 飾り図柄変動パターン#0 1 の指定
8 0	0 7	第 1 変動パターン#0 7 指定	第 1 飾り図柄変動パターン#0 7 の指定
8 0	1 1	第 2 変動パターン#0 1 指定	第 2 飾り図柄変動パターン#0 1 の指定
8 0	3 0	第 2 変動パターン#3 2 指定	第 2 飾り図柄変動パターン#3 2 の指定
9 0	0 1	表示結果 1 指定	可変表示結果をはずれとすることの指定
9 0	0 2	表示結果 2 指定	可変表示結果を 1 6 R 確率大当りとするの指定
9 0	0 3	表示結果 3 指定	可変表示結果を 8 R 確率大当りとするの指定
9 0	0 4	表示結果 4 指定	可変表示結果を 6 R 確率大当りとするの指定
9 0	0 5	表示結果 5 指定	可変表示結果を 6 R 通常大当りとするの指定
9 0	0 6	表示結果 6 指定	可変表示結果を 2 R 確率大当りとするの指定
9 0	0 7	表示結果 7 指定	可変表示結果を 2 R 通常大当りとするの指定
9 0	0 8	表示結果 8 指定	可変表示結果を小当りとするの指定
A 0	0 0	第 1 図柄確定指定	第 1 図柄の変動を終了することを指定
A 0	0 1	第 2 図柄確定指定	第 2 図柄の変動を終了することを指定

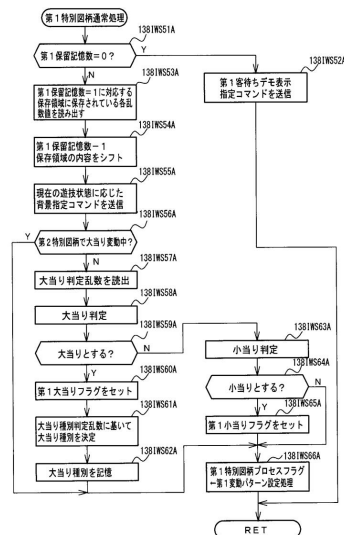
【図 8-7】

【図 8-7】

MODE	EXT	名称	内容
B 0	0 0	第 1 大当り開始指定 (ファンファール指定)	第 1 大当り遊技の開始を指定
B 0	0 1	第 1 大当り終了指定 (エンディング指定)	第 1 大当り遊技の終了を指定
B 0	0 2	第 2 大当り開始指定 (ファンファール指定)	第 2 大当り遊技の開始を指定
B 0	0 3	第 2 大当り終了指定 (エンディング指定)	第 2 大当り遊技の終了を指定
B 0	0 4	小当り開始指定	小当り遊技の開始を指定
B 0	0 5	小当り終了指定	小当り遊技の終了を指定
B 1	X X	大入賞口開放中指示	XXで示すラウンド中の表示指定
B 2	X X	大入賞口開放後指示	XXで示すラウンド後の表示指定
B 4	0 0	大入賞口入賞指定	大入賞口に入賞したことの指定
B 4	0 1	特殊入賞口入賞指定	特殊入賞口に入賞したことの指定
C 0	0 0	第 1 有効給動入賞指定	第 1 有効給動入賞口に遊技球が入賞 (有効入賞) したことを指定
C 0	0 1	第 2 有効給動入賞指定	第 2 有効給動入賞口に遊技球が入賞 (有効入賞) したことを指定
C 8	0 1	ゲート通過指定	ゲートを選択球が通過したことを指定
D 0	0 0	第 1 客待ちデモ表示指定	第 1 客待ちデモンストレーション時の表示指定
D 0	0 1	第 2 客待ちデモ表示指定	第 2 客待ちデモンストレーション時の表示指定
E 0	0 0	低確率/第 1 K T 背景指定	選択状態が低確率/第 1 K T 状態であるときの表示指定
E 0	0 1	低確率/第 1 K T 背景指定	選択状態が低確率/第 1 K T 状態であるときの表示指定
E 0	0 2	高確率/第 1 K T 背景指定	選択状態が高確率/第 1 K T 状態であるときの表示指定
E 0	0 3	高確率/第 2 K T 背景指定	選択状態が高確率/第 2 K T 状態であるときの表示指定

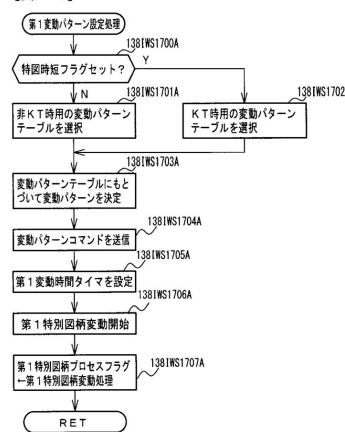
【図 8-8】

【図 8-8】



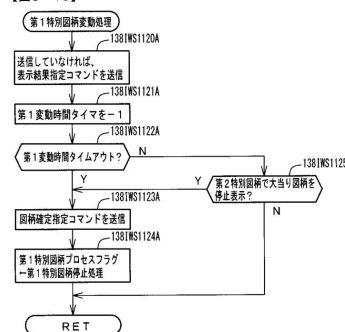
【図 8-9】

【図 8-9】



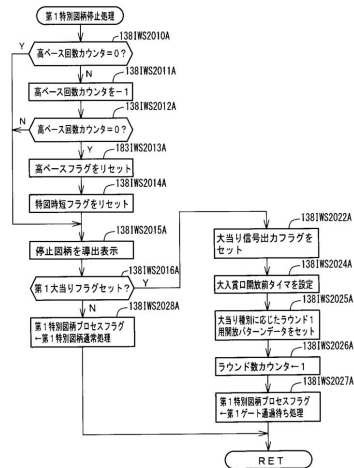
【図 8-10】

【図 8-10】



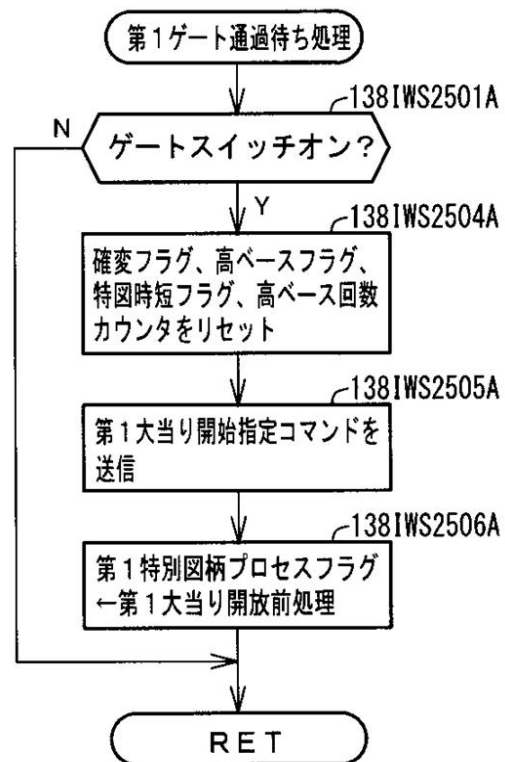
【図 8-11】

【图8-11】



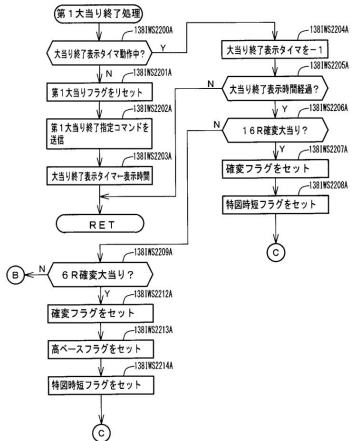
【图 8-12】

【图8-12】



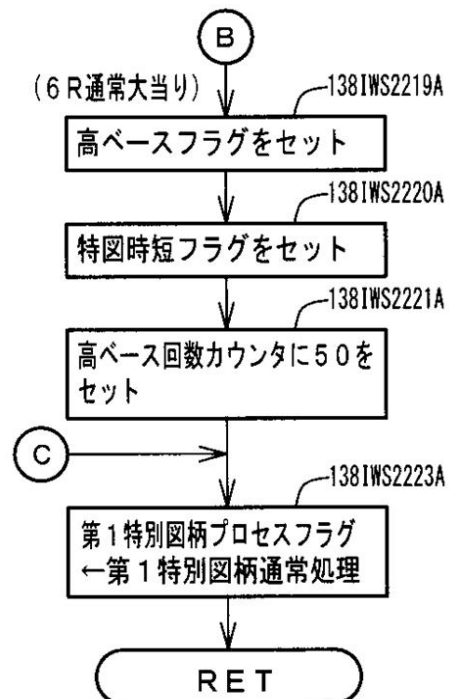
【図 8-13】

【图8-13】



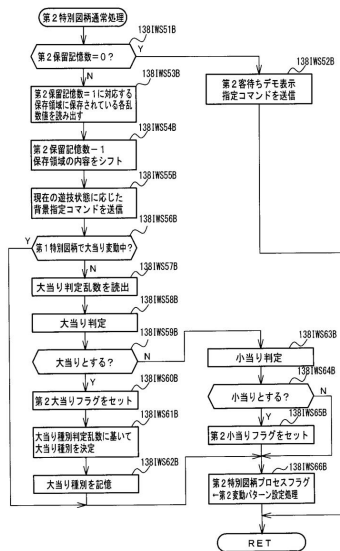
【図 8-14】

【図8-14】



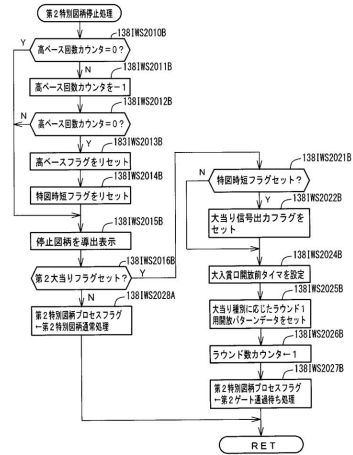
【図 8-15】

【图8-15】



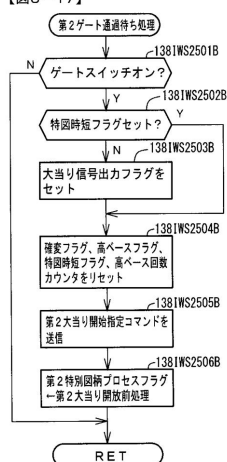
【図 8-16】

【图8-16】



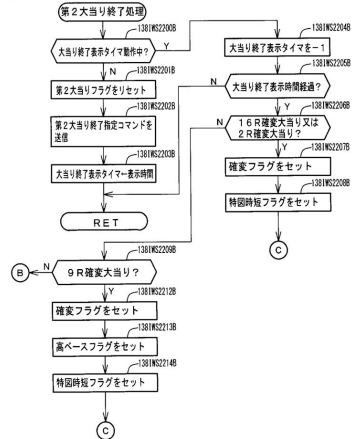
【図 8-17】

【图8-17】



【図 8-18】

【图8-18】



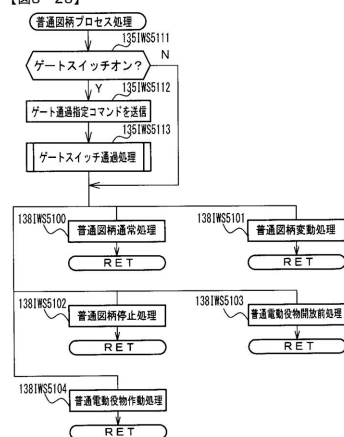
【图8-19】

【例8-22】

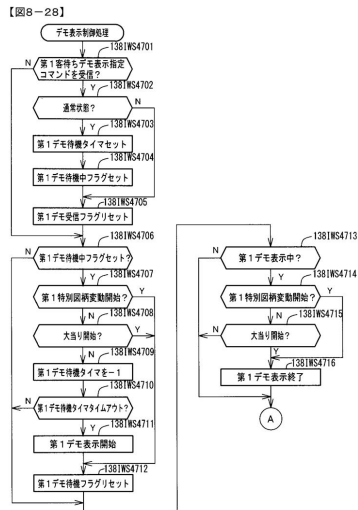
(1) 通常状態



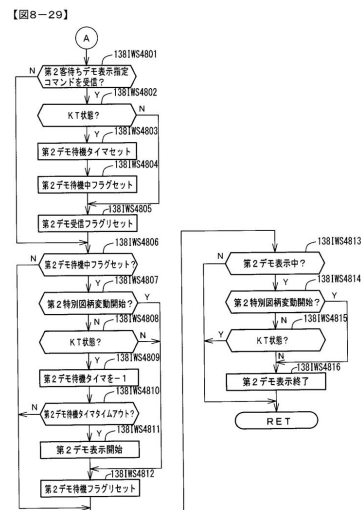
【图8-23】



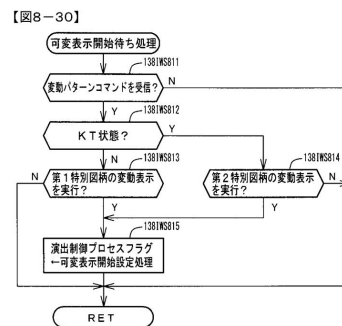
【図 8 - 2 8】



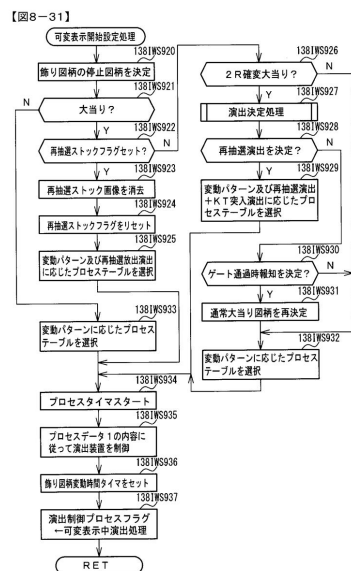
【図 8 - 2 9】



【図 8 - 3 0】



【図 8 - 3 1】



【図 8 - 3 2】

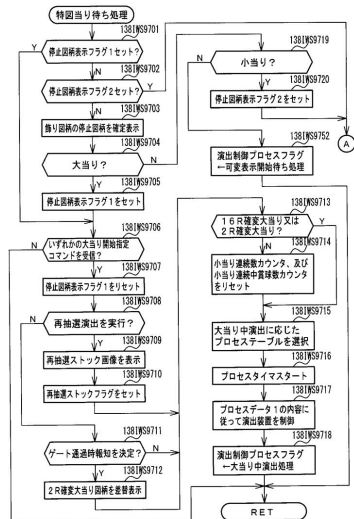
【図8-32】

演出決定テーブル

演出の有無・種類	割り振り
演出なし	4 0 %
再抽選演出を実行	3 0 %
ゲート通過時報知を実行	3 0 %

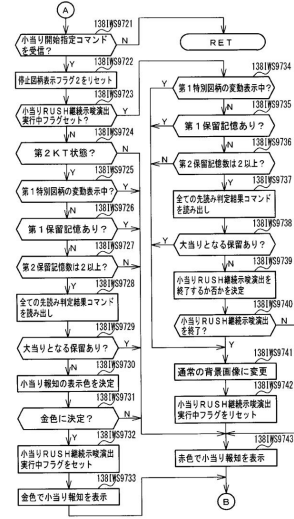
【図 8-33】

【图8-33】



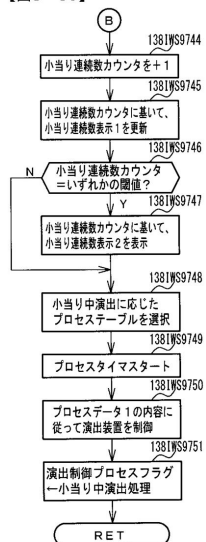
【図 8-34】

【图8-34】



【図 8-35】

【图8-35】



【図 8-36】

【图8-36】

小当り報知表示色決定テーブル

表示色の種類	割り振り
赤色	90%
金色	10%

【図 8-37】

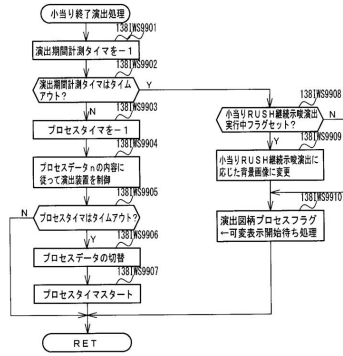
【图8-37】

小当りRUSH継続示唆演出終了決定テーブル

小当りRUSH継続後演出終了の可否	割り振り
継続	90%
終了	10%

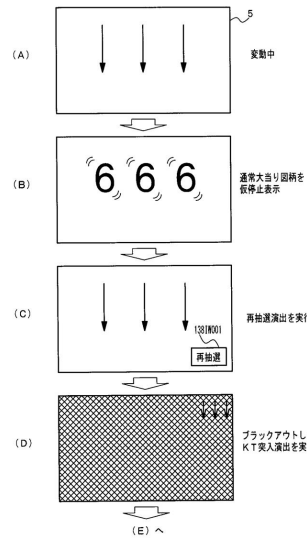
【図 8 - 3 8】

【図8-38】



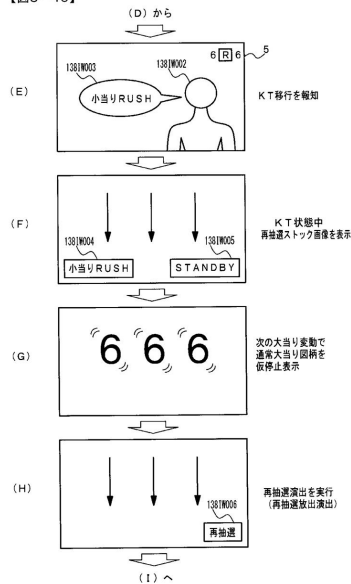
【図 8 - 3 9】

【図8-39】



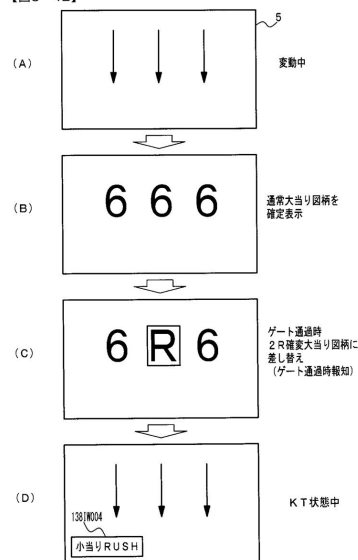
【図 8 - 4 0】

【図8-40】



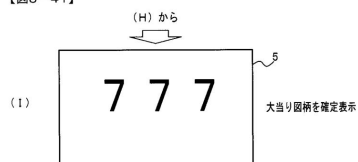
【図 8 - 4 2】

【図8-42】



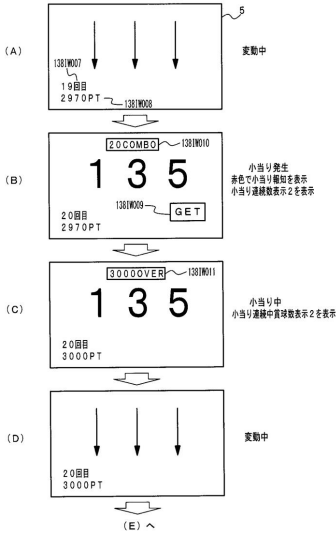
【図 8 - 4 1】

【図8-41】



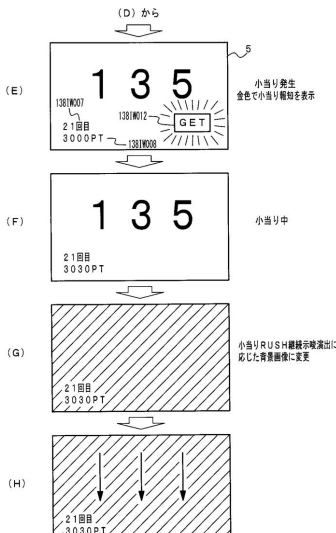
【図 8 - 4 3】

【図8-43】



【図 8 - 4 4】

【図8-44】



【図 8 - 4 5】

【図8-45】

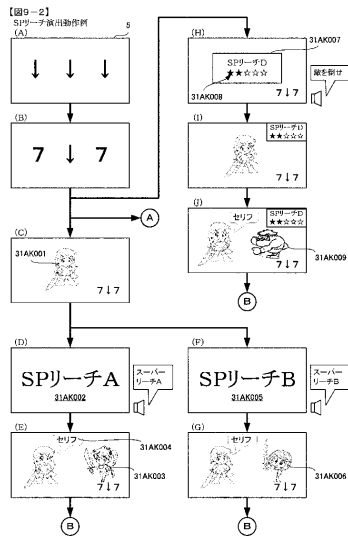
(A) 非確定状態 (総当り状態)			
設定値	設定値「1」	設定値「2」	設定値「3」
大当り確率	205/65536	215/65536	225/65536
小当り確率	62986/65536	62986/65536	62986/65536
はずれ確率	2345/65536	2335/65536	2325/65536
(B) 確定状態 (高確率状態)			
設定値	設定値「1」	設定値「2」	設定値「3」
大当り確率	2050/65536	2150/65536	2250/65536
小当り確率	62986/65536	62986/65536	62986/65536
はずれ確率	500/65536	400/65536	300/65536

【図 9 - 1】

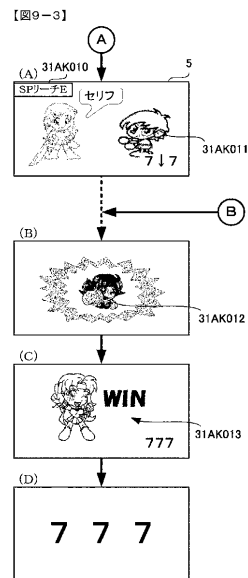
【図9-1】

(A)	
変動パターン	内容
PA1-1	非リーチハズレ
PA1-2	非リーチハズレ (短縮用)
PA2-1	ノーマルリーチハズレ
PA2-2	スーパーリーチEハズレ
PA2-3	スーパーリーチDハズレ
PA2-4	スーパーリーチCハズレ
PA2-5	スーパーリーチBハズレ
PA2-6	スーパーリーチAハズレ
PA3-1	スーパーリーチE→Dハズレ
PA3-2	スーパーリーチD→Cハズレ
PA3-3	スーパーリーチC→Bハズレ
PA3-4	スーパーリーチB→Aハズレ
...	...
PB2-1	ノーマルリーチ大当り
PB2-2	スーパーリーチE大当り
PB2-3	スーパーリーチD大当り
PB2-4	スーパーリーチC大当り
PB2-5	スーパーリーチB大当り
PB2-6	スーパーリーチA大当り
PB3-1	スーパーリーチE→D大当り
PB3-2	スーパーリーチD→C大当り
PB3-3	スーパーリーチC→B大当り
PB3-4	スーパーリーチB→A大当り
...	...
(B)	
リーチ種類	信頼度
ノーマルリーチ	☆☆☆☆☆
スーパーリーチE	☆☆☆☆☆
スーパーリーチD	☆☆☆☆☆
スーパーリーチC	☆☆☆☆☆
スーパーリーチB	☆☆☆☆☆
スーパーリーチA	☆☆☆☆☆

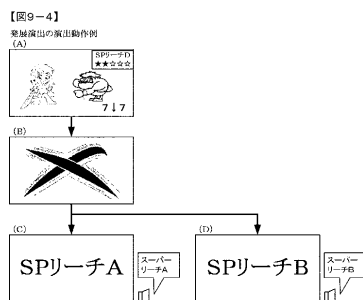
【図 9 - 2】



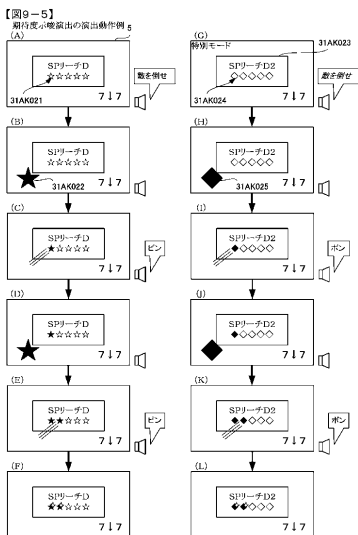
【図 9 - 3】



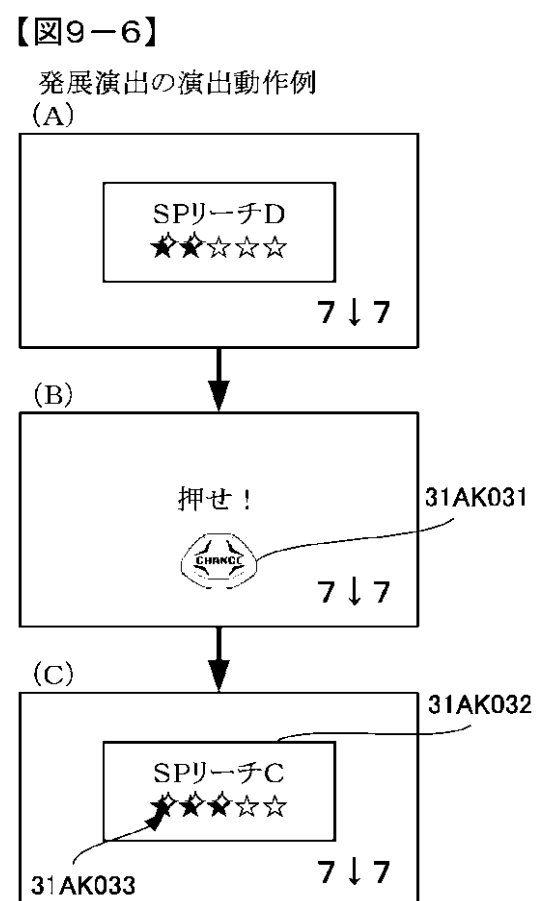
【図 9 - 4】



【図 9 - 5】



【図 9 - 6】

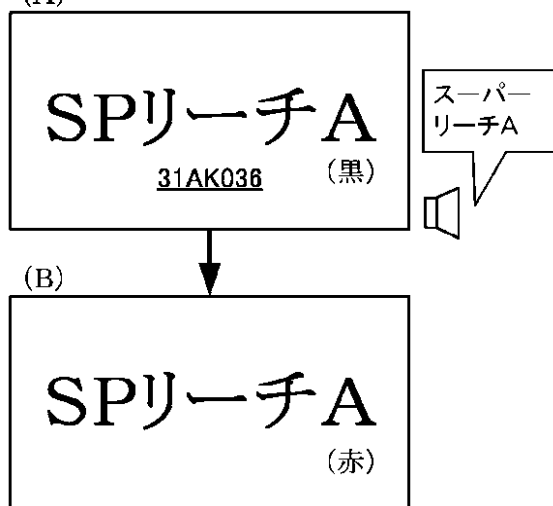


【图 9-7】

【图9-7】

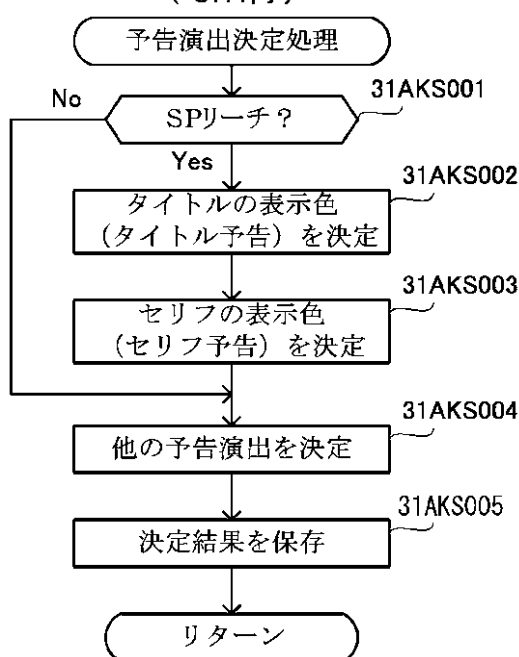
タイトル予告の演出動作例

(A)



【图 9-8】

【図9-8】 (S171内)



【图 9-9】

【图9-9】

(A)31AKS002における決定割合

タイトル 表示色	決定割合		信頼度
	大当たり時	ハズレ時	
黒	10%	80%	最低
赤	15%	10%	低
黒→赤	20%	9%	中
黒→フルーツ柄	35%	1%	高
赤→フルーツ柄	20%	0%	最高

(B)31AKS002における決定割合(特別モード)

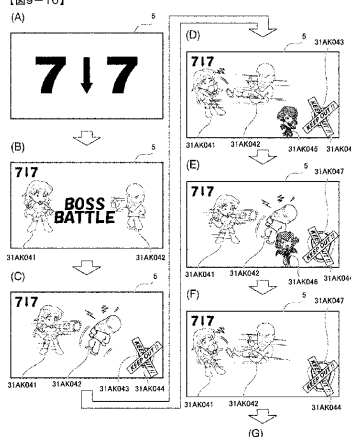
タイトル 表示色	決定割合		信頼度
	大当たり時	ハズレ時	
黒	5%	70%	最低
赤	10%	16%	低
黒→赤	25%	12%	中
黒→フルーツ柄	40%	2%	高
赤→フルーツ柄	20%	0%	最高

(C)31AKS003における決定割合

台詞 表示色	決定割合		信頼度
	大当たり時	ハズレ時	
白	10%	90%	低
赤	30%	9%	中
白→赤	60%	1%	高

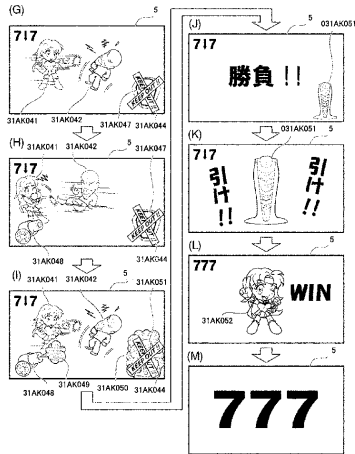
【图 9-10】

【图9-10】



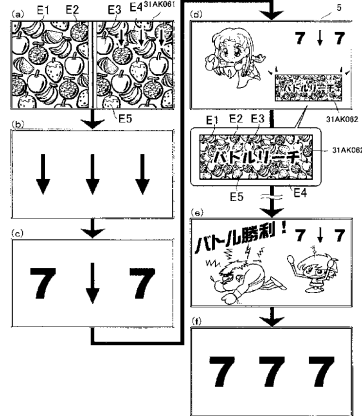
【図 9-11】

【图9-11】



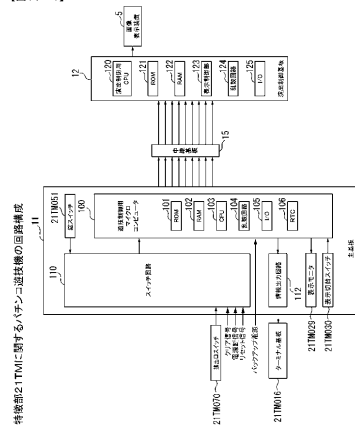
【图 9-12】

【图9-12】



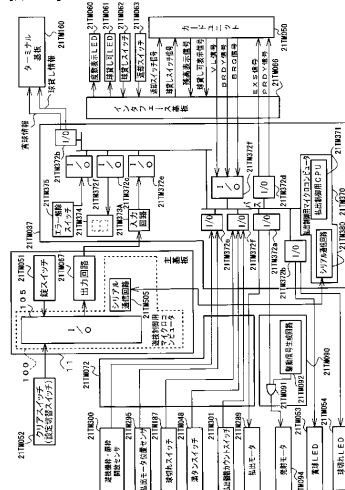
【図 10-1】

【图10-1】

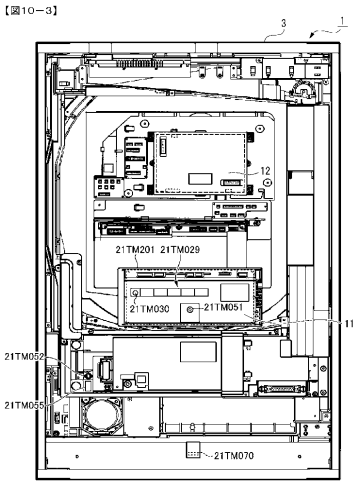


【図 10-2】

【圖10-2】



【図10-3】

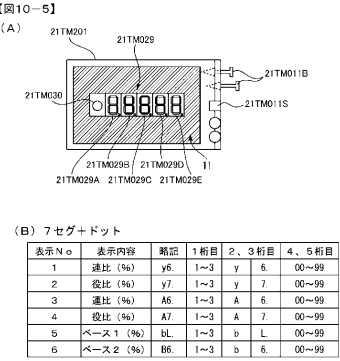


【図10-4】

【図10-4】

(A)表示結果判定テーブル(図定値1)			
表示判定基準(MRK1[0~85535]と比較される)			
変動特異判定ハフファ=第1 (第1特異図柄)	大当り	1020~1078, 13320~13477(確率: 1/300)	
変動特異判定ハフファ=第2 (第2特異図柄)	大当り	1020~1078, 13320~13477(確率: 1/300)	
(B)表示結果判定テーブル(図定値2)			
表示判定基準(MRK1[0~85535]と比較される)			
変動特異判定ハフファ=第1 (第1特異図柄)	大当り	1020~1078, 13320~13493(確率: 1/280)	
変動特異判定ハフファ=第2 (第2特異図柄)	大当り	1020~1078, 13320~13493(確率: 1/280)	
(C)表示結果判定テーブル(図定値3)			
表示判定基準(MRK1[0~85535]と比較される)			
変動特異判定ハフファ=第1 (第1特異図柄)	大当り	1020~1078, 13320~13506(確率: 1/265)	
変動特異判定ハフファ=第2 (第2特異図柄)	大当り	1020~1078, 13320~13506(確率: 1/265)	
(D)表示結果判定テーブル(図定値4)			
表示判定基準(MRK1[0~85535]と比較される)			
変動特異判定ハフファ=第1 (第1特異図柄)	大当り	1020~1078, 13320~13521(確率: 1/250)	
変動特異判定ハフファ=第2 (第2特異図柄)	大当り	1020~1078, 13320~13521(確率: 1/250)	
(E)表示結果判定テーブル(図定値5)			
表示判定基準(MRK1[0~85535]と比較される)			
変動特異判定ハフファ=第1 (第1特異図柄)	大当り	1020~1078, 13320~13538(確率: 1/235)	
変動特異判定ハフファ=第2 (第2特異図柄)	大当り	1020~1078, 13320~13538(確率: 1/235)	
(F)表示結果判定テーブル(図定値6)			
表示判定基準(MRK1[0~85535]と比較される)			
変動特異判定ハフファ=第1 (第1特異図柄)	大当り	1020~1078, 13320~13557(確率: 1/220)	
変動特異判定ハフファ=第2 (第2特異図柄)	大当り	1020~1078, 13320~13557(確率: 1/220)	

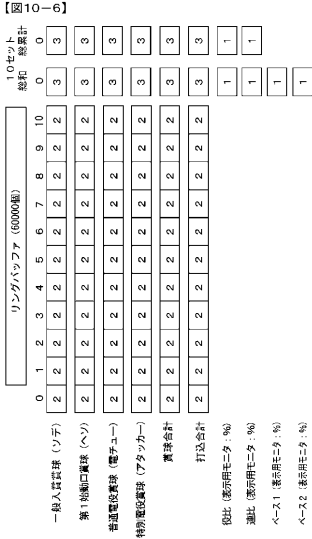
【図10-5】



(B) 7セグナドット

表示No.	表示内容	略記	1桁目	2、3桁目	4、5桁目
1	連比 (%)	y6	1~3	y	6 00~99
2	役比 (%)	y7	1~3	y	7 00~99
3	連比 (%)	A6	1~3	A	6 00~99
4	役比 (%)	A7	1~3	A	7 00~99
5	ベース 1 (%)	bL	1~3	b	L 00~99
6	ベース 2 (%)	B6	1~3	b	6 00~99

【図10-6】



【図10-7】

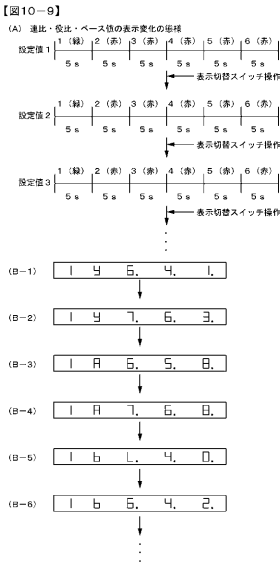


【図 1 0－8】

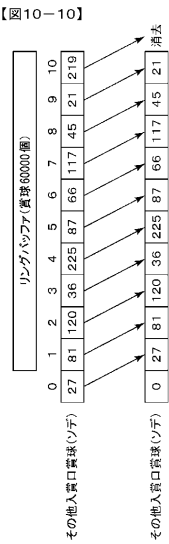
【図10-8】



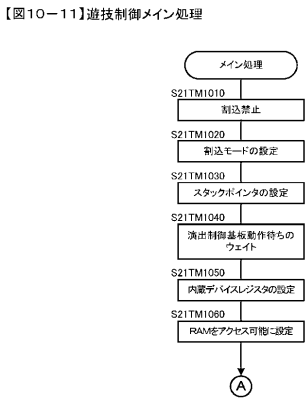
【図 1 0－9】



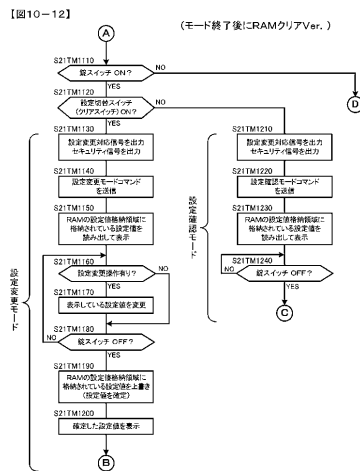
【図 1 0－1 0】



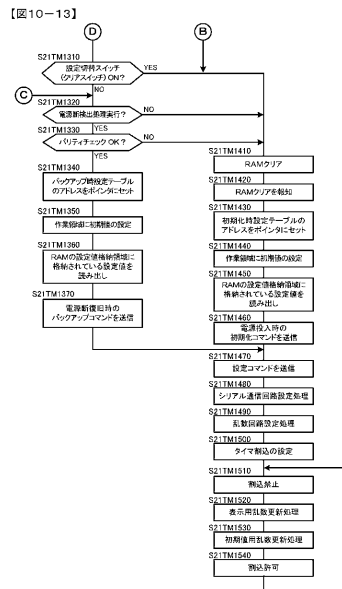
【図 1 0－1 1】



【図 10-12】

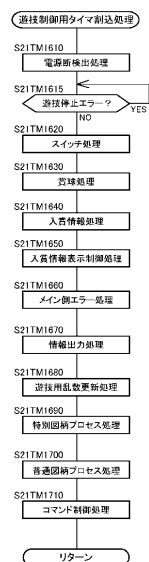


【図 10-13】



【図 10-14】

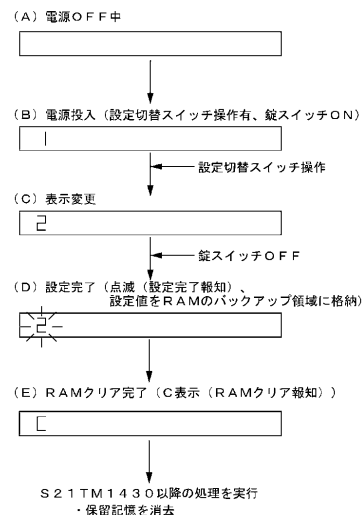
【図10-14】遊技制御用タイマ割込処理



【図 10-15】

【図10-15】

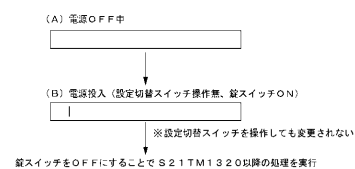
設定変更モードにおける表示モニタの表示態様



【図 10-16】

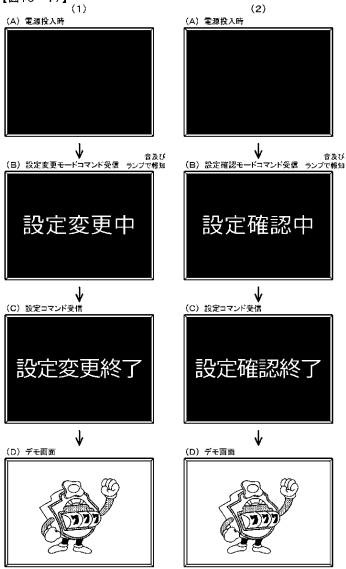
【図10-16】

設定確認モードにおける表示モニタの表示態様



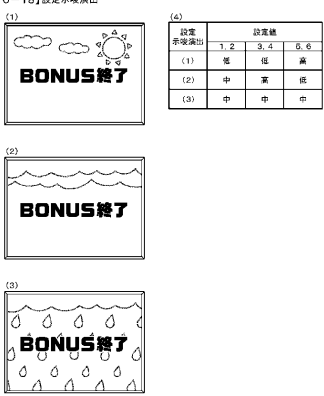
【図 10 - 17】

【図10-17】



【図 10 - 18】

【図10-18】設定音鳴演出



【図 10 - 19】

【図10-19】

名称	内容
接続確認番号	オン 遊技制御用マイクロコンピュータが立上っている (制御可能な) 状態 オフ 遊技制御用マイクロコンピュータが制御可能でない状態

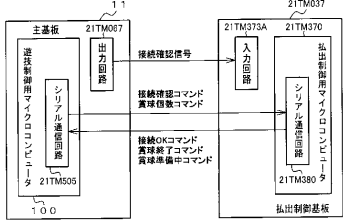
【図 10 - 20】

【図10-20】

コマンド	名称	内容
A 0	接続確認コマンド	接続状態が正常であるか否かを確認 (1 s 毎)
B x	接続OKコマンド	接続状態が正常であることを通知
S x	賞球数コマンド	賞球数を通知
E 0	賞球終了コマンド	賞球動作の終了を通知
4 x	賞球準備中コマンド	エラーが発生し賞球動作が終了していないことを通知 (1 s 毎)

【図 10 - 21】

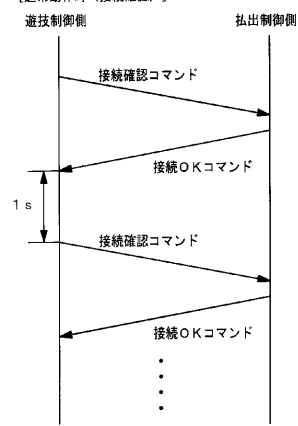
【図10-21】



【図 10 - 22】

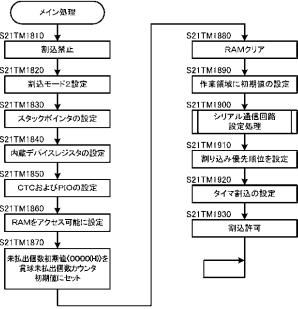
【図10-22】

〔通常動作時 (接続確認)〕



【図 10 - 23】

【図10-23】払出制御メイン処理



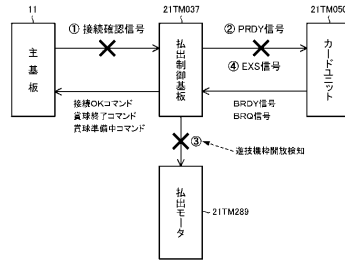
【図 10-24】

【図10-24】払出制御タイマ割込処理



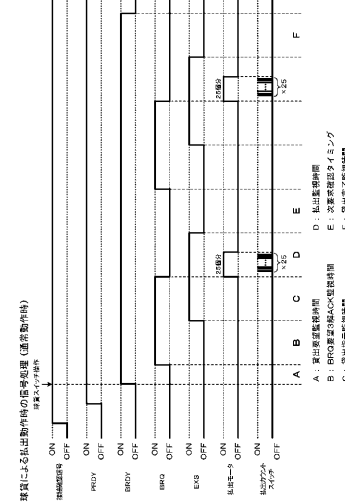
【図 10-25】

【图10-25】



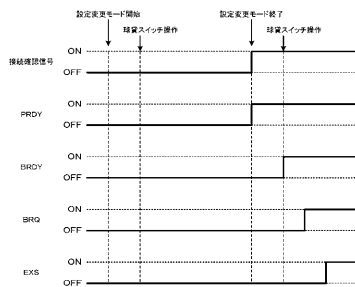
【図 10-26】

【图10-26】



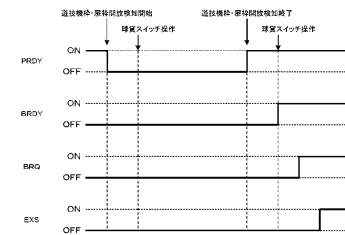
【図 10-27】

【図10-27】第1の球質制限方法



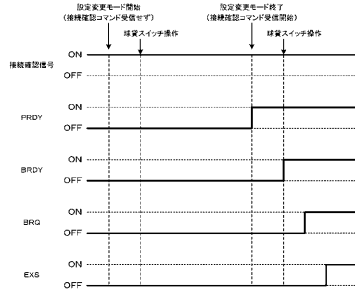
【図 10-29】

【図10-29】第3の球貸制限方法



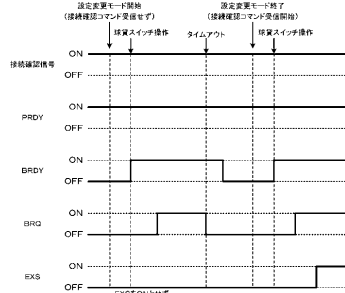
【図 10-28】

【図10-28】第2の球貸制限方法



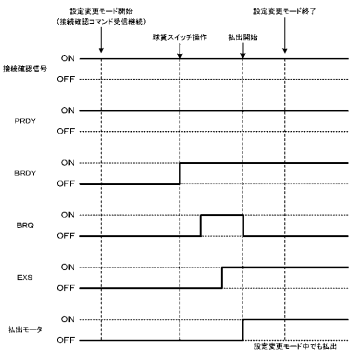
【図 10-30】

【図10-30】第4の球貸制限方法



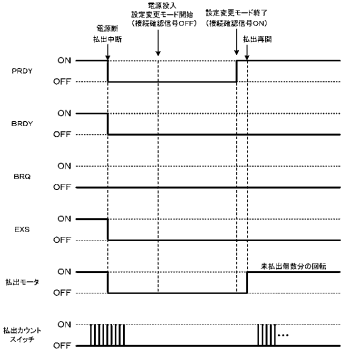
【図10-31】

【図10-31】設定変更モード中に球質制限せず



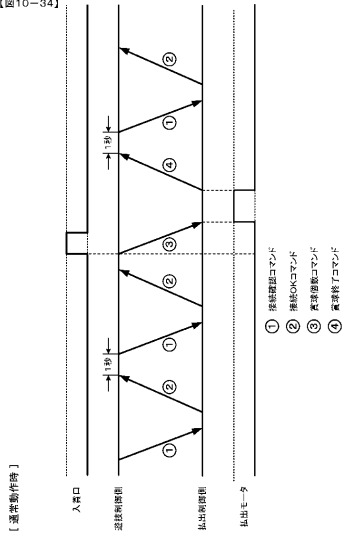
【図10-32】

【図10-32】設定変更モード終了後に払出を再開



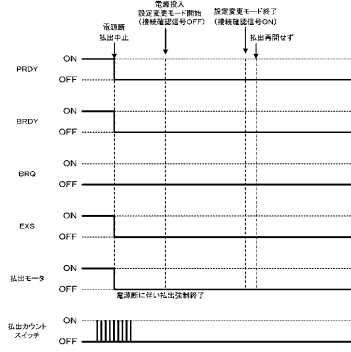
【図10-34】

【図10-34】



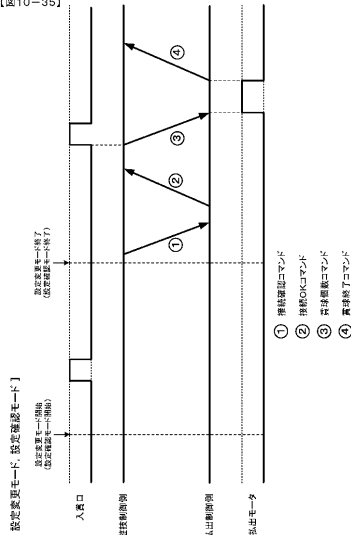
【図10-33】

【図10-33】電源断に伴い払出を強制終了

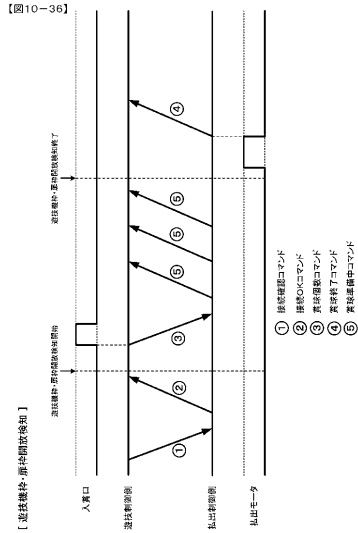


【図10-35】

【図10-35】



【図10-36】



【図10-37】

【図10-37】

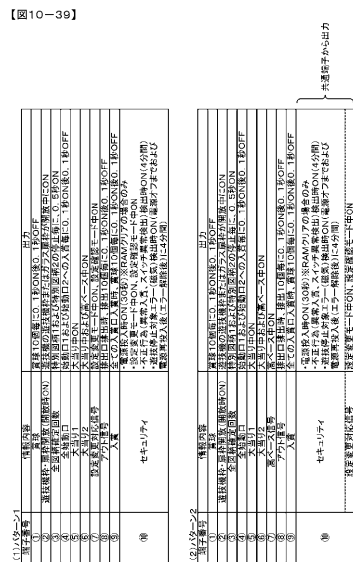
(1) 設定変更モード中の設定値確定前に電源断した場合

順	状況	設定値	設定値表示
1	電源投入	ON	1
2	設定変更モード開始	ON	1
3	設定値変更中	ON	2
4	設定値確定中	ON	3
5	電源断	ON	3
6	電源投入	ON	1
7	設定変更モード開始	ON	1

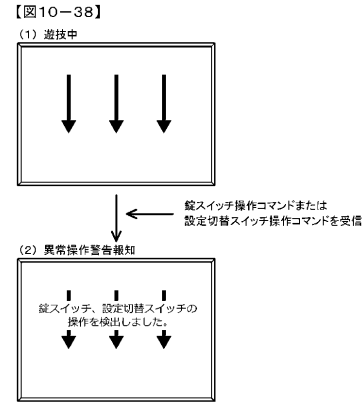
(2) 設定変更モード中の設定値確定後に電源断した場合

順	状況	設定値	設定値表示
1	電源投入	ON	1
2	設定変更モード開始	ON	1
3	設定値変更中	ON	2
4	設定値確定中	ON	3
5	設定値確定	OFF	3
6	電源断	OFF	3
7	電源投入	ON	3
8	設定変更モード開始	ON	3

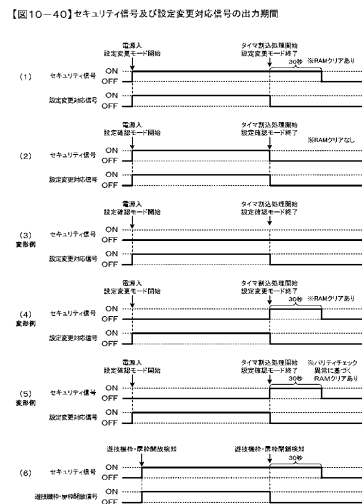
【図10-39】



【図10-38】

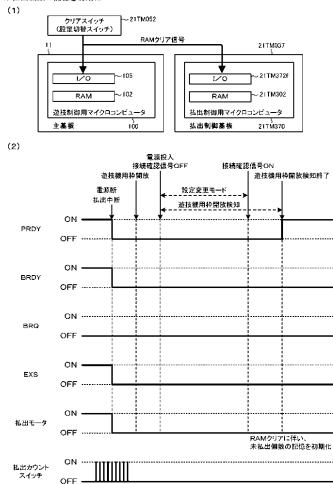


【図10-40】



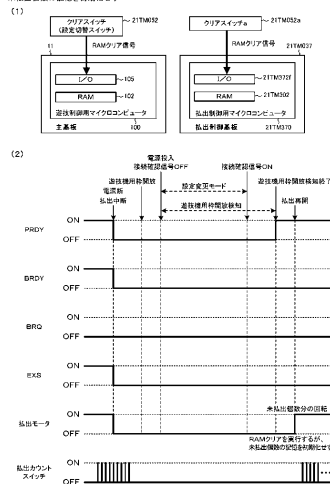
【図 11-7】

【図11-7】
〔電源発生時の障害処理(設定変更モードに移行)〕
未払出警数の記憶を初期化



【図 11-8】

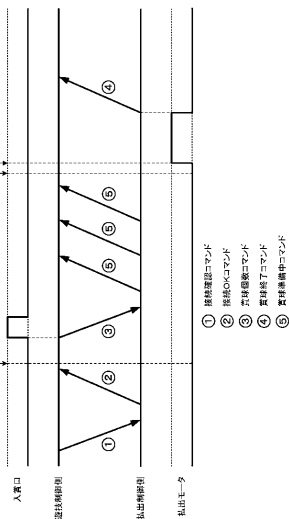
【図11-8】
〔電源発生時の障害処理(設定変更モードに移行)に関する変形例〕
未払出警数の記憶を初期化せず



【図 11-9】

【図11-9】

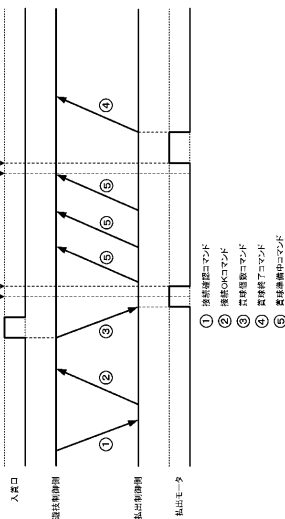
〔送受信装置又はガス発生時の開放状態検知に基づく警報制限〕



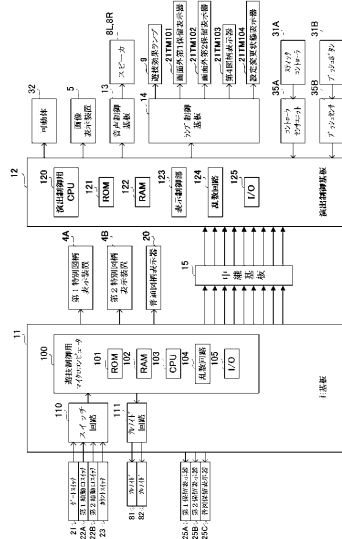
【図 11-10】

【図11-10】

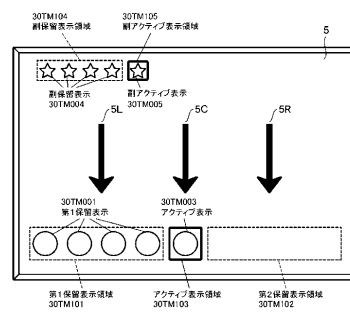
〔開放状態検知終了後の警報制限〕



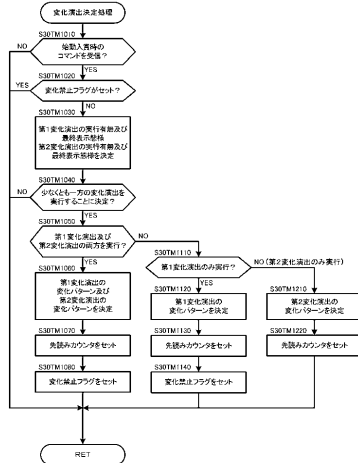
【图11-16】



【圖12-1】



【图12-2】



【图12-3】

A)最終表示用標準決定テーブル
「7/27アビ」表示用値に「0」における最終表示用標準、第1変化出力決定用]

最終表示怎樣	割り振り	
	はずれ	当たり
通常怎樣	31%	2%
待機怎樣	4%	3%
青色怎樣	18%	15%
緑色怎樣	21%	20%
赤色怎樣	16%	25%
金色怎樣	10%	35%

B)最終表示用標準決定テーブル
「7/27アビ」表示用値における最終表示用標準、第2変化出力決定用]

最終表示怎樣	割り振り	
	はずれ	当たり
表示なし	70%	40%
通常怎樣	25%	25%
青色怎樣	4%	10%
赤色怎樣	1%	25%

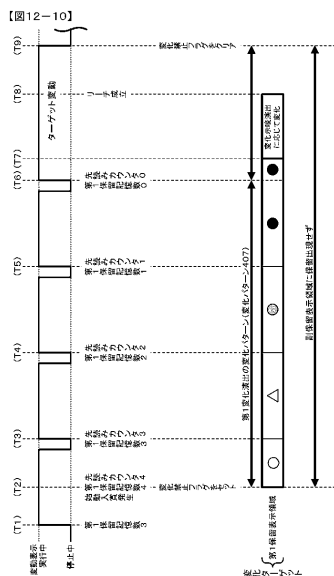
【例12-5】

[illegible]

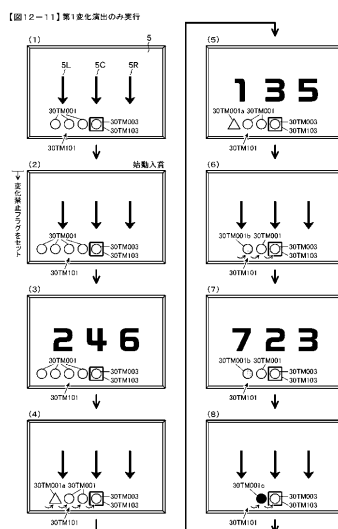
【图12-4】

[illegible]

【図 12-10】

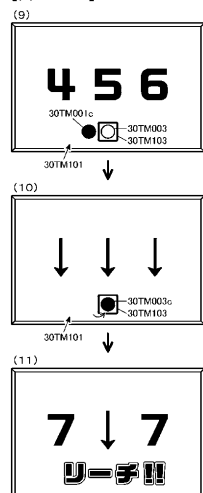


【図 12-11】



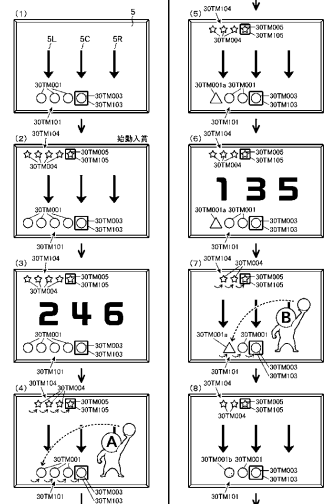
【図 12-12】

【圖12-12】

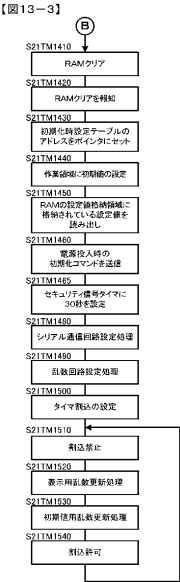


【図 1 2 - 1 3】

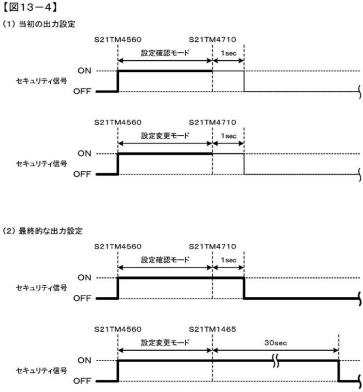
【图12-13】虚形例



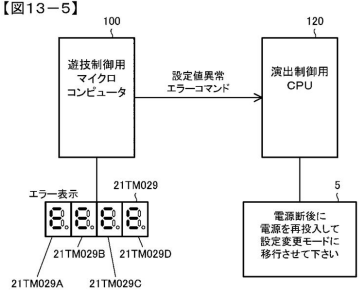
【図 1 3－3】



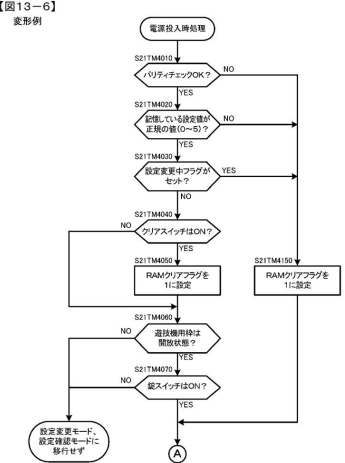
【図 1 3－4】



【図 1 3－5】



【図 1 3－6】



【図 1 3－7】

【図 13-7】

(1) 設定変更モード中の設定値確定前に電源断した場合

順	状況	銀スイッチ	設定値	設定値表示
1	電源投入	ON	0	0
2	設定変更モード開始	ON	0	1
3	設定値変更中	ON	1	2
4	設定値確定中	ON	2	3
5	電源断	ON	2	3
6	電源投入	ON	2	3
7	設定変更モード開始	ON	2	3

(2) 設定変更モード中の設定値確定後に電源断した場合

順	状況	銀スイッチ	設定値	設定値表示
1	電源投入	ON	0	0
2	設定変更モード開始	ON	0	1
3	設定値変更中	ON	1	2
4	設定値確定中	ON	2	3
5	設定値確定	OFF	2	3
6	電源断	OFF	2	3
7	電源投入	ON	2	3
8	設定変更モード開始	ON	2	3

フロントページの続き

- (56)参考文献 特開2018-047306 (JP, A)
特開2017-104296 (JP, A)
特開2016-202287 (JP, A)
特開2018-121901 (JP, A)
特開2014-226379 (JP, A)
特開2016-087198 (JP, A)
特開2015-150194 (JP, A)
特許第6856561 (JP, B2)
特許第6817232 (JP, B2)

- (58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
A63F 7/02